

練馬区自然環境調査 報告書

平成 24 年 3 月

練 馬 区

はじめに

近年、地球温暖化をはじめとした環境問題についての関心が高まるなか、平成 22 (2010) 年、愛知県で生物多様性条約第 10 回締約国会議 (COP10) が開催されたことを契機に、生物多様性への関心も高まってきています。また、日々の生活の中でも、身近な自然を見直すことや、まちづくりなどへ市民が参加することも特別なことではなくなってきました。

そのような背景の中、区民の意見も取り入れながら、練馬区全体を対象とした自然環境調査を実施しました。事業の中では、様々な分類群を対象にした専門家による調査に加え、区民の方々と協働で実施した市民参加型の調査「ねりまの生きものさがし」も行いました。

本調査の結果は、練馬区が大切にすべき「自然財産の目録」とも言えるものです。今後、区民の方々と生きもの達とが共生するため、みどり豊かなまちづくりや地域の生物多様性について学び・考える活動に活かしたいと考えております。

最後になりましたが、本調査を実施するにあたり、ご協力を頂きました区民ならびに関係者の方々に、深くお礼申し上げます。

平成 24 年 3 月

練馬区 環境まちづくり事業本部
環境部 みどり推進課

目次

はじめに

第I章 調査の目的および概要

調査目的および概要	1
-----------	---

第II章 練馬区の自然の概要

1. 位置と面積	3
2. 地形と地質	4
3. 水系	5
4. 気候	6
5. 植生	9
6. みどりの変遷	10
7. 天然記念物	11

第III章 調査の内容

1. 生物実態調査	12
(1) 基本方針	12
(2) 現地踏査	12
(3) 調査地の選定結果	13
(4) 調査対象	22
(5) 重要種・外来種について	22
2. 区民アンケート調査	26
(1) 基本方針	26
(2) 区民アンケート調査の概要	26

第IV章 生物実態調査

1. 植物・植生	27
(1) 調査方法	27
(2) 調査結果	31
2. 昆虫類	85
(1) 調査方法	85
(2) 調査結果	88
3. クモ類	153
(1) 調査方法	153
(2) 調査結果	154
4. 鳥類	174
(1) 調査方法	174
(2) 調査結果	177
5. 哺乳類	210
(1) 調査方法	210
(2) 調査結果	211

6. 爬虫類	213
(1) 調査方法	213
(2) 調査結果	213
7. 両生類	222
(1) 調査方法	222
(2) 調査結果	222
8. 陸産貝類	227
(1) 調査方法	227
(2) 調査結果	227

第V章 区民アンケート調査

1. 実施方法	232
(1) 調査対象者	232
(2) 調査時期	232
(3) 調査対象種	232
(4) 募集方法	232
(5) 応募方法	232
(6) アンケート調査の流れ	235
2. アンケート調査の結果	236
(1) 一般区民向け	236
(2) 小学校向け	282
3. 事後アンケートの実施および結果	294
(1) 調査方法	294
(2) 調査結果	294

第VI章 総合考察

1. 確認種および重要種・外来種	301
(1) 確認種	301
(2) 重要種	303
(3) 外来種	308
2. 環境類型ごとのまとめ	309
(1) 大規模樹林（保護区型）	311
(2) 大規模樹林（都市公園型）	312
(3) 小規模夏緑広葉樹林	313
(4) 社寺林	314
(5) 屋敷林	315
(6) 草地	316
(7) 農地	317
(8) 水辺（止水域）	318
(9) 水辺（流水域）	319
(10) 市街地	320

第VII章 調査結果からの提案

1. 注目したい種や地点の検討	321
(1) 注目したい種	321
(2) 調査地の利活用に向けて	321

2. 各環境類型の管理・保全についての検討	322
(1) 基本的な考え方	322
(2) 環境類型ごとの管理・保全方針	322
(3) その他の管理・保全方針	324
3. 動植物の保全に関する取り組みとの関係	325
(1) エコロジカル・ネットワークの検討	325
(2) 生物多様性地域戦略の基礎情報としての役割	325
4. 自然環境調査の今後の展開に向けて	326
(1) 練馬区自然環境調査の目的の確認 ～地域の基礎情報としての位置づけ～	326
(2) 内容の検討	326

資料編

資料－1 練馬区自然環境調査検討会	329
資料－2 自然観察会・写真展	331
資料－3 植物確認種一覧	334
資料－4 代表的な植生の類型化	364
資料－5 昆虫類確認種一覧	370
資料－6 用語集	381
資料－7 参考・引用文献等	385

第 I 章 調査の目的および概要

1. 調査の背景および目的

練馬区は東京 23 区内の中でも数多くの自然を有する区のひとつである。かつては、区内各地でも雑木林、農地、屋敷林など武蔵野の面影を残した風景が見られたが、段々と都市化の波が押し寄せている。それにともない生息する生物種も刻々と変化していると予想され、生息する生物種だけでなく、それらを構成する生態系全体を把握する必要がある。

また、この調査で現状の自然の実態を把握するだけでなく、区民が自主的に自然に対する学習の啓発を行い、今後、区民と協働で進める自然環境および環境保全施策の基礎を構築するものである。

以上のことを踏まえ、本調査の目的を以下にまとめる

- (1) 練馬区における各地域の生態系の実態を明らかにし、練馬区における自然度を表す「環境指標」としていく。
- (2) 調査結果およびその成果としての「環境指標」を環境施策の策定および河川整備などの事業の実施に活用する。
- (3) 調査結果の普及および調査への区民参加により、生態系や自然への区民の関心を高め、自然環境の保全等に係わる意識啓発を図る。

2. 調査の全体像

本調査は、平成 18～19 年度で専門家や区民委員を含めて計画を行い、平成 20～22 年度で調査の実施、平成 21～23 年度にかけて区民への啓発活動として自然観察会を行った。平成 21 年度には区民アンケート調査実施前に専門家や区民委員による検討会を行った。本事業全体の実施状況を表 I-1-1 に示した。検討会および自然観察会については巻末の資料-1～2 に示した。

調査は、前述までのように、専門家による「生物実態調査（第IV章）」と、区民による「区民アンケート調査（第V章）」の二つの調査により構成されている。

この2つの調査の結果から、「種」および「環境類型」での評価を行い、今後、区内の生物に関わる基礎的資料として活用されることを目的とする。

表 I-1-1 事業全体のスケジュール

	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
事前検討会		■■■■■				
生物実態調査			■■■■■ 調査地選定	■■■■■ 調査		
区民アンケート調査				■■■■■ 検討会	■■■■■ 調査	
自然観察会				■■■■■	■■■■■	■■■■■
調査結果集計、まとめ						■■■■■

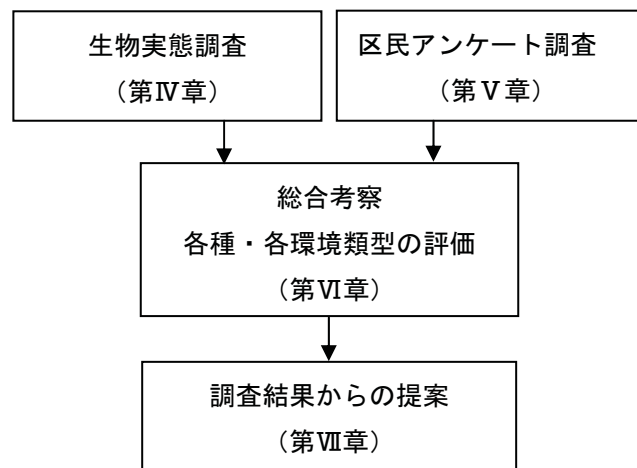


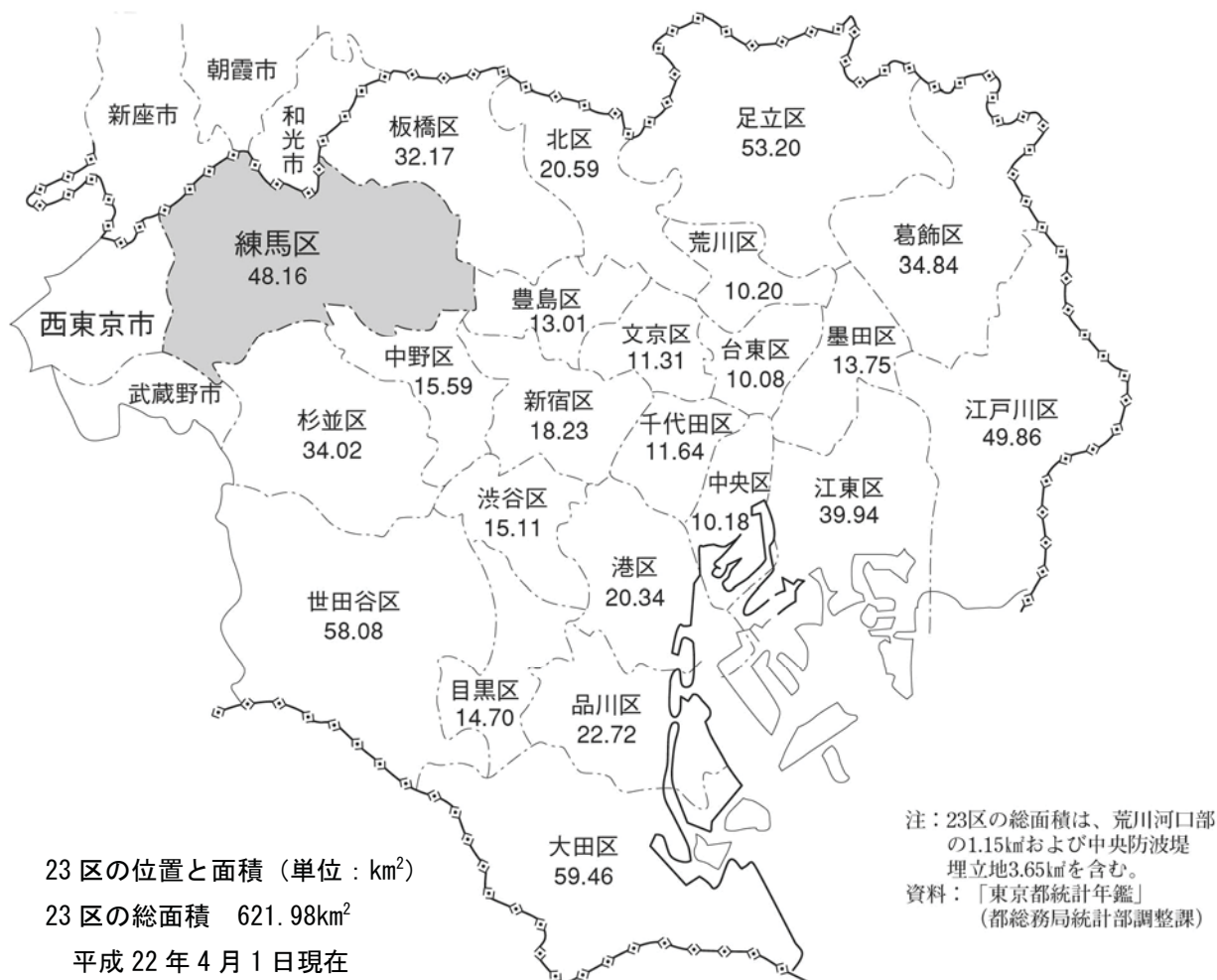
図 I - 1 - 1 調査の全体像

第二章 練馬区の自然の概要

1. 位置と面積

練馬区は、東京都 23 区の北西部に位置し、北東から南にかけて板橋区、豊島区、中野区、杉並区に接し、西から南西にかけて西東京市、武蔵野市、北には埼玉県新座市、朝霞市、和光市と接している（図Ⅱ－1－1）。

区の形は東西に約 10km、南北に約 4～7km と東西に長く、面積は 48.16km²である。区の面積は、東京都総面積の約 2.2%、23 区総面積の約 7.7%に当たり、23 区の中では大田区、世田谷区、足立区、江戸川区に次いで 5 番目の大きさである。



図Ⅱ－1－1 練馬区の位置
 （練馬区勢概要 平成 23 年度版より）

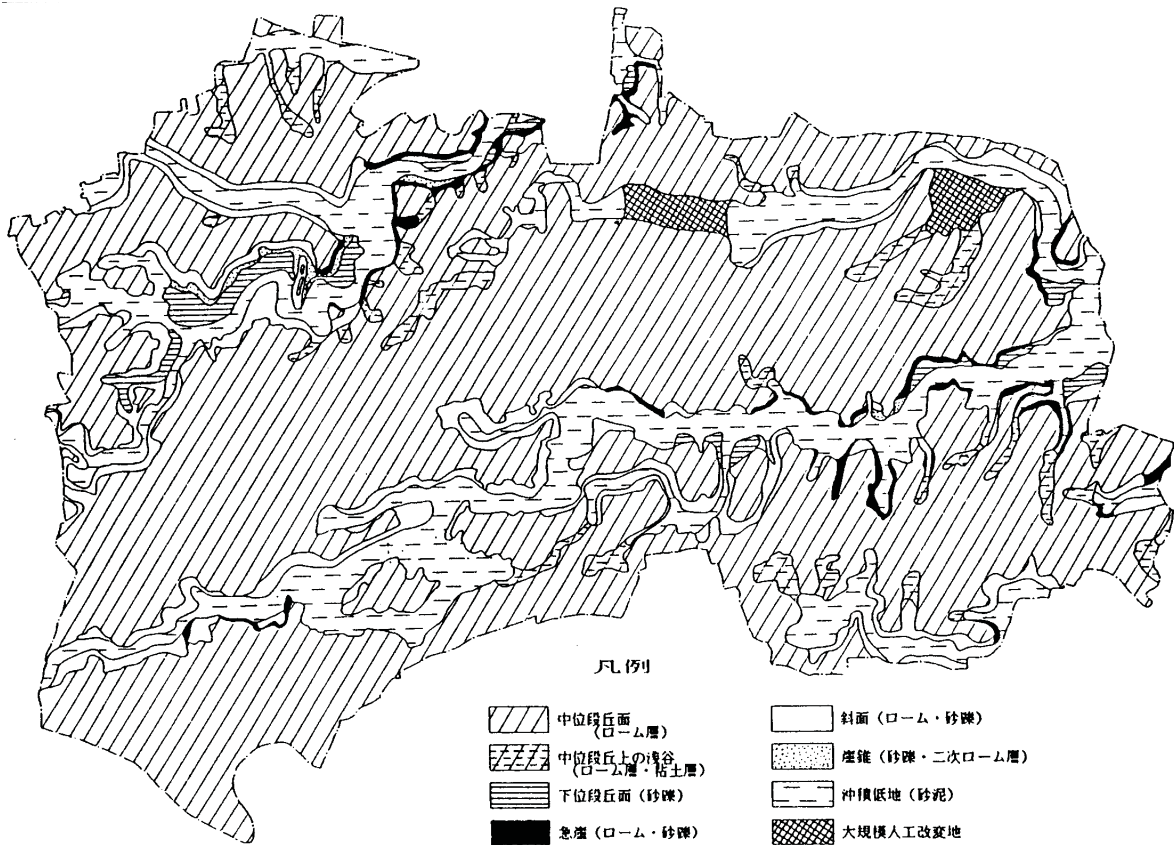
2. 地形と地質

練馬区は、武蔵野台地に位置し、西側から東側に徐々に低くなっている。水準基標によると、石神井高校（関町北 4 丁目）で海拔 54.04m、開進第四中学校（羽沢 3 丁目）で海拔 26.07m となり、平均すると 30～50m 程度の起伏の少ない台地状となっている。

区内を流れる石神井川と白子川その他の旧河川（次項参照）により、台地に樹状の谷が刻まれ、沖積低地となっている（図Ⅱ-2-1）。

練馬区の地質は、地質年代からみると、比較的新しい時代に形成された地層で、台地は洪積層、低地は沖積層からなっている。洪積層は、上部の関東ローム層、中部の粘土砂の互層、下部の砂礫層から構成されている。武蔵野台地の表面は、ローム層で厚く覆われていて水を得ることが困難だが、ローム層の下には粘土と礫の累層があり、水を含んでいる。そうした地層が谷の底、谷の側壁、段丘の崖などに露出して湧水となる。

三宝寺池や富士見池は、こうした湧水からできた池である。



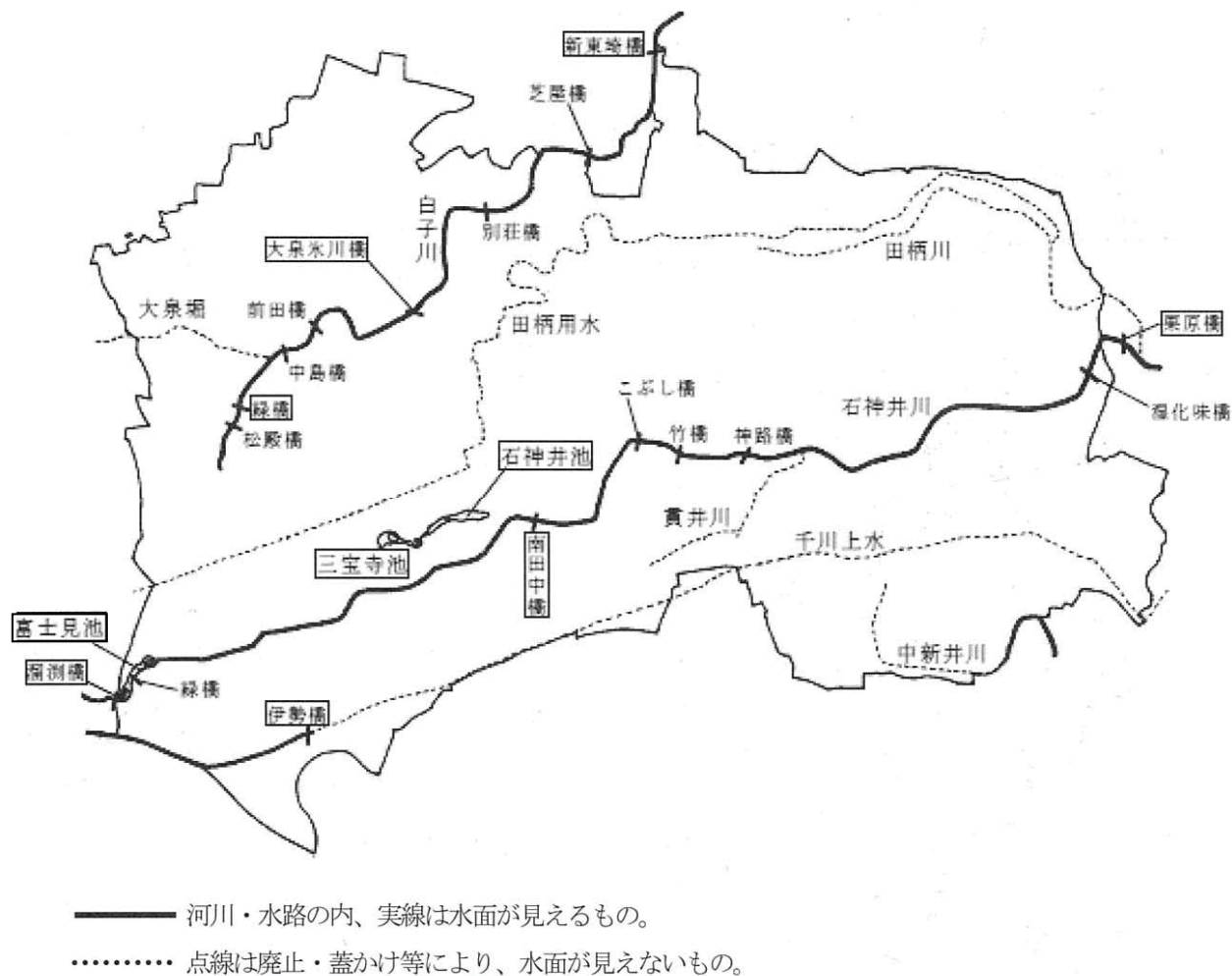
図Ⅱ-2-1 練馬区の土地条件図

（練馬区水辺ふれあい計画 2001-2010（改定計画） 平成 20 年 1 月より）

3. 水系

現在、練馬区内には、石神井川と白子川の2つの河川が流れているが、かつてはその他に貫井川、中新井川、田柄川も流れていた。また、千川上水、田柄用水等の主要な水路をはじめとして、多くの分水路や用水路が分布していた。しかし、現在ではそのほとんどが暗渠化され、緑道や水路敷としてわずかにその面影を残すのみとなっている。

また、かつて区内には多数の池があったが、現在では都立石神井公園内の石神井池や三宝寺池、区立武蔵関公園内の富士見池をはじめ、数ヶ所を残すのみとなっている。



図Ⅱ-3-1 練馬区の河川と池

(練馬区水辺ふれあい計画 2001-2010 (改定計画) 平成 20 年 1 月より)

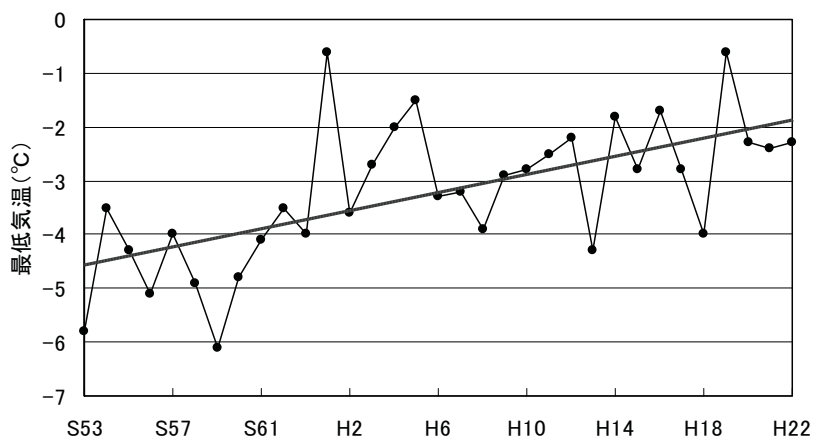
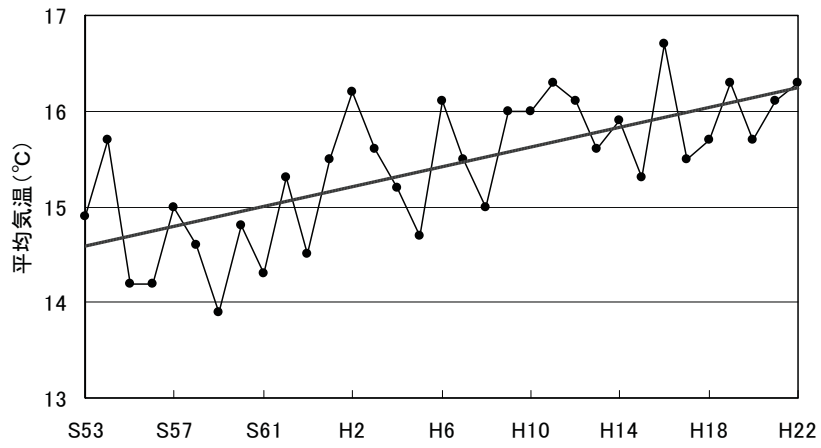
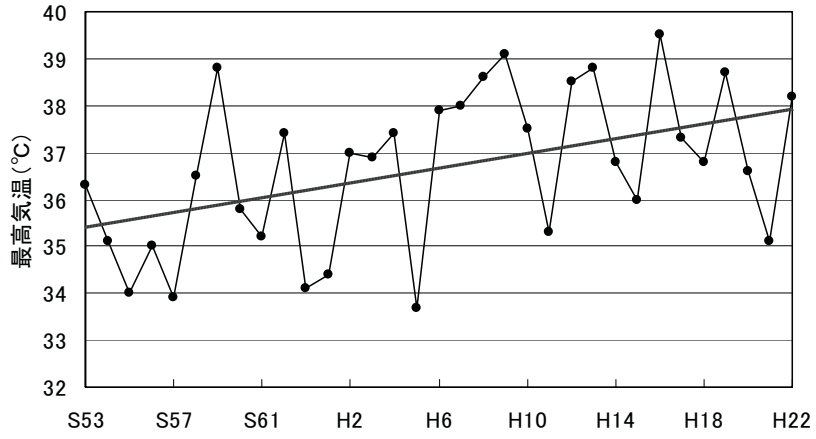
4. 気候

気象庁の地域気象観測システム アメダス (AMeDAS : Automated Meteorological Data Acquisition System) の練馬観測所 (豊玉上) の観測データを元に降水量と気温についてまとめた。期間はデータ数の十分な昭和 53 年から平成 22 年までとした。

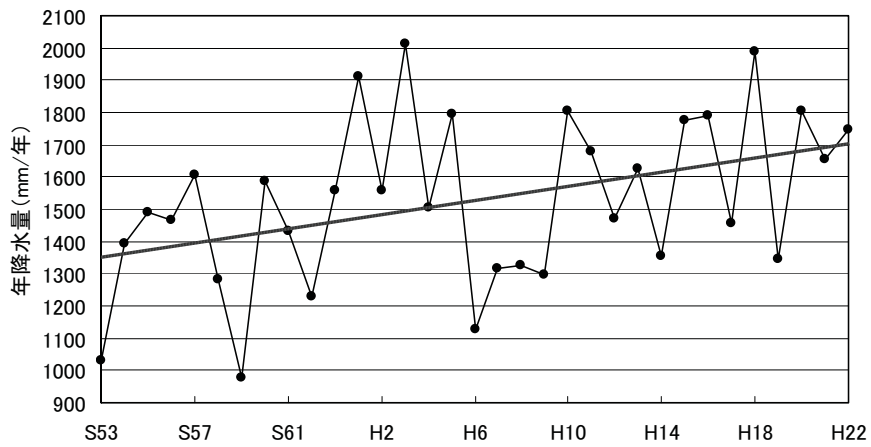
近年東京都では、熱帯夜日数が 30 日を超える状況が続いており、2 つの温暖化 (地球温暖化とヒートアイランド現象) の進行が顕著となっている。「ヒートアイランド対策ガイドライン 平成 17 年 7 月 東京都環境局」によると、東京では過去 100 年に約 3℃気温が上昇しており、国内の大都市平均が 2.5℃、中小規模の都市平均が 1.0℃の気温上昇であるのと比較して、東京におけるヒートアイランド現象は顕著になっている。

練馬区は、東京都 23 区の熱環境マップによると、23 区内では「裸地、緑の比較的多い地域」に類型化され、23 区の中心部よりはヒートアイランド現象の対策が急がれる地域ではないが、練馬観測所でも気温は上昇傾向にあり、対策は必要である (図Ⅱ-4-1)。

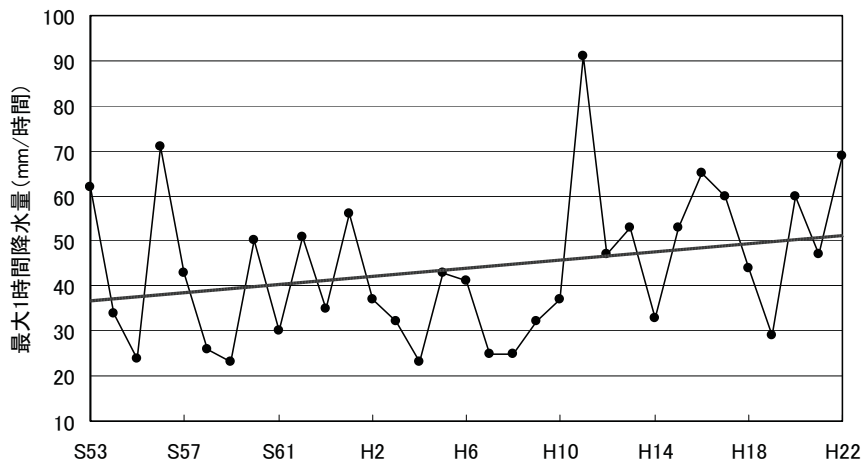
年降水量は、1,500mm 前後で増加傾向を示している (図Ⅱ-4-2)。近年、ヒートアイランド現象と関連のあると思われる都市型集中豪雨が観測されるようになり、練馬観測所における最大 1 時間降水量も増加傾向を示している (図Ⅱ-4-3)。



図Ⅱ-4-1 最高気温・年平均気温・最低気温の推移
(AMeDAS 練馬観測所 (豊玉) データより)



図Ⅱ-4-2 年降水量の推移
(AMeDAS 練馬観測所 (豊玉) データより)



図Ⅱ-4-3 最大1時間降水量の推移
(AMeDAS 練馬観測所 (豊玉) データより)

5. 植生^{※1}

練馬区は暖温帯^{※2}に位置し、広域的な植生分布ではヤブツバキクラス域とよばれる照葉樹林(常緑広葉樹林^{※3})帯となっている。

奥富ほか(1987)による東京都の植生調査によると、練馬区の潜在自然植生^{※4}は、大部分がシラカン群集^{※5}と推定されている。主な止水域である三宝寺池、石神井池、富士見池の水面はヒツジグサ・ジュンサイ群集、三宝寺池の外周の水辺はハンノキーオニスゲ群集、三宝寺池の中の島はカサスゲ群集と推定されている。

一方、現存植生^{※6}は、人為的干渉をうけた代償植生^{※7}となっており、自然植生^{※8}はほとんど残されていない。環境省による第6回および第7回自然環境保全基礎調査(一般に緑の国勢調査と呼ばれる)の植生図で練馬区の現存植生を確認し、概要を下記に示す。第6回は平成11~16年度、第7回は平成17~21年度に行われたものである。練馬区の植生図は北部が平成15年度、南部が平成21年度に作成されている。

上記の植生図によると練馬区はほとんどが市街地で、まとまった緑地は、都立光が丘公園、都立石神井公園のような公園で、公園内の個々の植生は規模が小さいため「残存・植栽樹群をもった公園・墓地等」、「ゴルフ場・芝地」の区分にまとめられている。「みどりの多い住宅地」が点在しているが、社寺林、屋敷林、憩いの森なども規模が小さいため、ほとんどが、この区分にまとめられている。「コナラ群落」は清水山・稲荷山憩いの森および都立石神井公園の野鳥誘致林、高稲荷公園などがわずかに残るのみである。農地は、「畑雑草群落」、「果樹園」に区分され、点在している。「果樹園」は「畑雑草群落」よりもわずかである。

以上は代償植生についてであるが、自然植生は都立石神井公園にわずかに残されている。三宝寺池の外周部のハンノキーオニスゲ群集、三宝寺池の中の島のカサスゲ群集は都内でも数少ない自然植生である。なお、自然植生の区分は奥富ほか(1987)を参照した。環境省による第6回および第7回自然環境保全基礎調査では、ハンノキーオニスゲ群集はハンノキ群集、カサスゲ群集はヨシクラスとして区分されている。ハンノキ群落は自然植生で、ヨシクラスにはカサスゲ群集も含まれ、現在まで群落が存続していることが東京都東部公園緑地事務所ほか(2009、2010、2011)などにより確認できるため、自然植生が現存しているといえる。

※1 植生：ある場所に生育する植物の集団。

※2 暖温帯：温帯を二分したときに、亜熱帯に近い比較的暖かな気候帯のこと。もう一方は冷温帯という。

※3 常緑広葉樹林：一年中葉をつけた広葉樹で構成される樹林。

※4 潜在自然植生：人為的干渉が排除されたとき、現在の立地に成立すると推定される遷移の最も進んだ段階の植生。

※5 群集：植物社会学的手法で、ある群落が、そこに強く結びつく特定の種群を持つことによって他から独立した単位と認められる場合、これを群集として定義づける。

※6 現存植生：現時点で、そこに実在している植生のこと。

※7 代償植生：自然植生に人間の様々な影響が加わり、自然植生の代償として成立するようになった植生。

※8 自然植生：過去から現在に至るまで、人間活動の影響を受けていない植生。

6. みどりの変遷

大正から昭和初期の練馬区は、田や畑が 8 割を占め、純農村として発展をしていた。その後、宅地化が進行していき、高度経済成長期に入ると、その勢いを増し、昭和 40 年代後半には宅地と農地が半々になり、水田は昭和 49 年には完全に姿を消した。

現在の練馬区のみどりは、かつての農村の風景を今に伝える農地、屋敷林、公園や憩いの森などの一角に残された雑木林と光が丘地区のような新たなみどりにより成り立っている。

「練馬区みどりの実態調査報告書 平成 19 年 3 月」によると、練馬区の緑被率は、昭和 46 年には 40.2%であったが、平成 18 年には 26.1%まで減少した。平成 18 年に行った調査では、測定精度の変更により、緑被率は前回調査にあたる平成 13 年の調査結果と比較し、大きく増加しているが、今後も減少していくことが懸念される。

樹木被覆率は樹木の生長等の影響により減少がとどまっているのに対し、草地率は年々減少している。これは草地の大半を占める農地が著しく減少してきたためであるが、近年は農地の減少率がやや少なくなった一方で、雑草地は減少を続けている。

みどり豊かな環境の実現のため、学校や公共施設の緑化、公園や街路樹の整備等により、新たなみどりを増やす一方で、農地等の既存のみどりをしっかりと守ることが求められている。

7. 天然記念物

文化財保護法^{※9}により国指定の天然記念物^{※10}として指定されているものに、「練馬白山神社の大ケヤキ」、「三宝寺池沼沢植物群落^{※11}」がある。

「練馬白山神社の大ケヤキ」は、2株が指定されている。うち1株は、昭和15年に国指定となり、昭和63年には練馬区登録の天然記念物となった。もう1株は平成7年度に国の天然記念物に追加指定された。

「三宝寺池沼沢植物群落」は都立石神井公園の三宝寺池にある。昭和10年の指定当時の三宝寺池は、湧水により水が供給され、シャクジイタヌキモ、カキツバタ、ミツガシワ、ヒルムシロ、ミクリなど水温が低く水のきれいな場所に生育する水生植物が生育していた。現在は湧水の減少により深井戸などより地下水を汲み上げ、水の循環を促している。また、植物の遷移^{※12}が進み、ハンノキ、ヨシ、キショウブなどが繁茂し、植物相が変化している。これに対し、東京都では石神井公園三宝寺池沼沢植物群落復元事業を行っている。現在もカキツバタ、コウホネ、ミツガシワ、ヒメミクリなどの希少な植物が生育している。

その他、区指定、区登録の天然記念物として、樹木、屋敷林、社寺林^{※13}（社叢）、植物群落、湧き水などが挙げられる。表Ⅱ-7-1に天然記念物一覧を示した。

表Ⅱ-7-1 天然記念物一覧

名称	所在	指定区分	備考
練馬白山神社の大ケヤキ	練馬4-2	国指定／区登録	ケヤキ2株
三宝寺池沼沢植物群落	石神井台1-27	国指定	都立石神井公園内
練馬東小学校のフジ	春日町1-30	区指定	
井頭のヤナギ	東大泉7-34	区指定	大泉井頭公園内 マルバヤナギ2株
内田家の屋敷林	早宮3	区指定	ケヤキ、シラカシを中心とした屋敷林
カタクリ群落	大泉町1-6	区登録	清水山憩いの森内
八の釜の湧き水	東大泉2-27	区登録	八の釜憩いの森内
光伝寺のコウヤマキ	氷川台3-24	区登録	
開進第一小学校のクスノキ	早宮2-1	区登録	
土支田八幡宮の社叢	土支田4-28	区登録	スギ、ヒノキを中心とした樹林
井口家の屋敷林	立野町	区登録	ケヤキを中心とした屋敷林

※9 文化財保護法：文化財の保存・活用と国民の文化的向上、世界文化の進歩に貢献することを目的とする法律。

※10 天然記念物：記念物とは文化財の種類のひとつで、動物、植物、地質・鉱物などの自然物に関する記念物を天然記念物という。

※11 群落：植生に単位性を持たせて呼ぶときに使う言葉。外から見た様子（相観）や種類組成などを単位の基準にする。

※12 遷移：ある群落が、他の群落に移り変わっていく過程。

※13 社寺林：神社や寺院の境内に、宗教的な意味から残されている林。

第三章 調査の内容

1. 生物実態調査

(1) 基本方針

調査地の選定に際しては、練馬区自然環境調査検討会での結果などを踏まえ、以下の考え方を基本方針とした。

できる限り区内全体を網羅するため、区内を以下の4つのエリアに区分し、同程度の調査箇所数を設定する方針とした。

- | |
|---------------------|
| I 北町・田柄エリア（区北東部） |
| II 豊玉・中村エリア（区南東部） |
| III 石神井・関町エリア（区南西部） |
| IV 大泉・土支田エリア（区北西部） |

練馬区内における調査地のエリア区分

ついで、調査対象地の環境区分（樹林地、草地、畑地など）についても、平成18～19年度に行った検討会での結果などを踏まえ、以下の要素を含めることとした。

- | |
|-------------------|
| ・ 樹林地（落葉樹優勢林） |
| ・ 樹林地（針葉樹優勢林） |
| ・ 樹林地（屋敷林） |
| ・ 草地（雑草地） |
| ・ 農地（畑地・体験農園） |
| ・ 水辺（止水域） |
| ・ ルート（市街地・住宅地・河川） |

調査地の環境区分

(2) 現地踏査

上記の基本方針および資料文献調査を踏まえた上で抽出した調査候補地を対象に、調査地を最終選定するための現地踏査を行った。調査時期は平成20年7～9月に行った。現地踏査の際には、環境概要の把握や所有者や管理担当者などへのヒアリング、入手できる資料の収集のほか、その時点で確認した種についても極力記録した。

(3) 調査地の選定結果

最終的に選定された調査地（32箇所7ルート）について環境区分ごとに記述した。調査地一覧を表Ⅲ-1-1に、調査地の概要を表Ⅲ-1-2に示した。調査地位置図を図Ⅲ-1-1に示した。

1) 樹林地

①樹林地（落葉樹優勢林）

4エリアの合計で12箇所を設定した。各エリアでは、主に面積をもとに以下の条件の樹林地を選定した。

- ・各エリアを代表する大規模緑地（＝コア緑地）
- ・大規模緑地（＝コア緑地）に順ずる面積の緑地（＝サブコア緑地）
- ・ある程度のもたまりのある小規模緑地（0.1ha以上）

②樹林地（針葉樹優勢林）

各エリアに1箇所ずつ、計4箇所を設定した。

③樹林地（屋敷林）

各エリアに1箇所ずつ、計4箇所を設定した。

各エリアで代表的・典型的な屋敷林を選定することとした。具体的には、ヒアリングや現地踏査により生物相が豊かと予想されること、周囲を畑地などで囲まれていること、また、所有者の方が自然環境調査への理解を示していることなどを条件に選定した。

2) 草地（雑草地）

区内全域から5箇所を設定した。

各エリアからの選定を試みたが、比較的市街化が進んだ区南部では、まとまった草地を見出すことができなかった。

なお、区内の草地には、公園内の管理された低茎草地から、やや放置された高茎草地、林縁の草地などがある。これらを個々に調査することは調査箇所数との関係から難しいため、これらの組み合わせさせた移行帯（エコトーン^{※14}）のような場所も選定し、調査を行う方針とした。

3) 農地（畑地・体験農園）

豊玉・中村エリアを除く、各エリアから1箇所ずつを選定した。

豊玉・中村エリアは区内では市街化が進んだ地域であり、まとまった農地を見出すことができなかった。

なお、農地そのものについては、植物相^{※15}は非常に貧弱であることが予想されるが、農地周辺の環境や、そこに生息する動物相^{※16}は特徴的であると考えられるため、対象地として設定した。

4) 水辺（止水域）

区内にある大規模公園内の水辺4箇所を対象とした。

5) ルート（市街地・住宅地・河川）

区内の市街地・住宅地を対象に、以下の条件に当てはまる5ルートを設定した。また、区内を流れる石神井川、白子川沿いに、それぞれ1ルートを設定した。調査の距離は各ルート1km程度とした。

- ・市街化が進んだ、まとまった植生に乏しい地域。他の地域との比較もできる地域。
（練馬駅周辺ルート）
- ・市街地ではあるが、緑化に成功している地域。いわゆる「緑の多い住宅地」にあたる地域。
（城南住宅ルート）
- ・市街地ではあるが、緑道としての整備がされた地域。（田柄川緑道ルート）
- ・農地と住宅地がモザイク状になっている地域。（立野町ルート）
- ・農地から新興住宅地へと変化している地域。（土支田・谷原ルート）

表Ⅲ－1－1 調査地一覧（32箇所7ルート）

類型	I 北町・田柄エリア	II 豊玉・中村エリア	III 石神井・関町エリア	IV 大泉・土支田エリア
樹林地 （落葉樹優勢林）	●都立光が丘公園 ◎都立城北中央公園 ○どんぐり山憩いの森	●武蔵学園 ◎豊島園 ○廣徳寺・区立高稲荷公園	●都立石神井公園 ◎区立武蔵関公園 ○東京カトリック神学院	●都立大泉中央公園 ◎稲荷山・清水山憩いの森 ○ハの釜憩いの森
樹林地 （針葉樹優勢林）	八幡神社	氷川神社	天祖若宮八幡宮	土支田八幡宮
樹林地 （屋敷林）	U氏邸	N氏邸	MO氏邸	MU氏邸
草地 （雑草地）	都立光が丘公園 （昆虫原っぱ） 都立城北中央公園	—	—	小作原広場 井頭こぶし憩いの森 区立びくに公園
農地 （畑地・体験農園）	高松市民農園	—	石泉愛らんど	○氏畑
水辺 （止水域）	都立光が丘公園BS*	—	石神井池 三宝寺池 富士見池	—
ルート （市街地・住宅地・河川）	田柄川緑道ルート	城南住宅ルート 練馬駅周辺ルート	立野町ルート 石神井川流域	土支田・谷原ルート 白子川流域

●：コア緑地 ◎：サブコア緑地 ○：小規模緑地
※BS：バードサンクチュアリ（以下、表中ではBSとする）

※14 エコトーン：異なる環境が連続的に変化する場所を指し、移行帯または推移帯と訳される。海岸、川辺、湖岸などの水陸の境界や森林と草地の境界は典型的なエコトーンである。多様な生物の生息場所となっているため重要視されている。

※15 植物相：ある地域に生育している植物の全種類。フロラ（flora）ともいう。

※16 動物相：ある地域に分布している動物の全種類。ファウナ（fauna）ともいう。

表Ⅲ－１－２ 調査地概要（その１）

エリア	名称および所在地	No.	類型	特記事項
Ⅰ 北町・田柄 エリア	都立光が丘公園 (光が丘4-1)	I①	落葉樹 優勢林	開園は昭和56年。面積60.8ha。園内には、バードサンクチュアリ や自然観察ゾーン、自然保全ゾーン、草地保全ゾーン、水生昆虫 誘致池、屋敷森のほかに、野球場、陸上競技場、テニスコート、 バーベキュー広場などがある。バードサンクチュアリでは、土日祝 日にスタッフが常駐している。
		I⑥	草地	
	都立城北中央公園 (氷川台1-3)	I②	落葉樹 優勢林	開園は昭和32年。面積25.5ha。園内には、都民の森のほか、野 球場やテニスコート、遺跡などがある。
		I⑦	草地	
	どんぐり山憩いの森 (北町7-12)	I③	落葉樹 優勢林	面積は0.12ha。主な樹種はクスギ、イヌシデ、コナラ。
	八幡神社 (高松1-16)	I④	針葉樹 優勢林	敷地内のムクノキ、イヌシデは「ねりまの名木100選」に選定され ている。猛禽類のものらしき巣がある。
	U氏邸 (早宮)	I⑤	屋敷林	昭和55年に調査をしているため、比較ができる。敷地内のケヤキ は、「ねりまの名木百選」に選定されている。
	高松市民農園 (高松1-35)	I⑧	農地	屋敷林や畑地が隣接している。区が所有者から借りた生産緑地を 整備して、区民に有料で貸し出している市民農園である。



I ① 都立光が丘公園
自然保全ゾーン



I ⑥ 都立光が丘公園
草地（昆虫原っぱ）



I ② 都立城北中央公園
都民の森



I ⑦ 都立城北中央公園
草地



I ③ どんぐり山憩いの森



I ④ 八幡神社



I ⑤ U氏邸



I ⑧ 高松市民農園

表Ⅲ－１－２ 調査地概要（その２）

エリア	名称および所在地	No.	類型	特記事項
Ⅱ 豊玉・中村 エリア	武蔵学園 (豊玉上1-26)	Ⅱ①	落葉樹 優勢林	豊玉・中村エリアでは、拠点となる緑地と考えられる。敷地内には、大ケヤキ(ねりまの名木100選)があり、濯川が流れている。野球グラウンドや陸上競技場もある。面積は7.1ha。
	豊島園 (向山3-25)	Ⅱ②	落葉樹 優勢林	明治後期に練馬城跡が豊島公園となり、その後、大正15年9月に一部開園。面積約30ha。遊園地ではあるが、豊玉・中村エリアでは、拠点となる緑地と考えられる。園内を石神井川が流れている。
	廣徳寺 (桜台6-20) 区立高稲荷公園 (桜台6-40)	Ⅱ③	落葉樹 優勢林	廣徳寺は、大正12年の関東大震災を受け、台東区東上野から移転してきた寺院。面積約6.6ha(2万坪)。隣接して石神井川が流れている。高稲荷公園は、イヌシデの斜面林がある。
	氷川神社 (豊玉南2-15)	Ⅱ④	針葉樹 優勢林	昭和55年に調査をしているため、比較ができる。敷地内のカヤは「ねりまの名木百選」に選定されている。
	N氏邸 (中村)	Ⅱ⑤	屋敷林	豊玉・中村エリアでは、貴重な屋敷林。



Ⅱ① 武蔵学園 濯川



Ⅱ② 豊島園
石神井川沿い斜面林



Ⅱ③ 廣徳寺 樹林



Ⅱ③ 区立高稲荷公園 斜面林



Ⅱ④ 氷川神社



Ⅱ⑤ N氏邸

表Ⅲ－１－２ 調査地概要（その３）

エリア	名称および所在地	No.	類型	特記事項
Ⅲ 石神井・関町エリア	都立石神井公園 (石神井台1-26)	Ⅲ①	落葉樹優勢林	開園は昭和34年3月。開園面積は20.1ha(三宝寺池を除く)。園内には、三宝寺池、石神井池の2つの池、野鳥誘致林、水辺観察園のほか、野球場、野外ステージなどがある。石神井城跡は立ち入りが制限された区域となっている。また、園内は都設の石神井鳥獣保護区に指定されている。地元市民団体が定期的に観察会を実施している。
	区立武蔵関公園 (関町北3-45)	Ⅲ②	落葉樹優勢林	開園は昭和13年10月。開園面積は4.6ha。園内には、富士見池がある。昔は関の溜め井と呼ばれた池があった場所で、大正時代頃に地元住民が中心となって遊具、ボート場などが整備された(若宮遊園)。
	東京カトリック神学院 (関町東2-7)	Ⅲ③	落葉樹優勢林	昭和4年(1929年)、石神井村字関の現在地に「聖フランシスコ・ザベリオ大神学校」として確立。石神井川の南斜面に隣接している。敷地内には、グラウンドやクスギ林などがある。
	天祖若宮八幡宮 (関町北3-34)	Ⅲ④	針葉樹優勢林	奈良時代、関塞守護神として奉斎されていた。昭和49年に若宮八幡と天祖神社が合わされ、天祖若宮八幡宮となった。面積約0.8ha。ヒノキ林が優占している。敷地奥の林床には、ホウチャクソウやヒトリシズカの群落がある。敷地内のアカマツは「ねりまの名木100選」に選定されている。
	MO氏邸 (石神井台)	Ⅲ⑤	屋敷林	シラカシを中心とした屋敷林。ケヤキの大木もある。
	石泉愛らんど (石神井台6-5地内)	Ⅲ⑥	農地	屋敷林も隣接している。農家の指導により、区民が農業を体験できる農業体験農園。



Ⅲ① 都立石神井公園 野鳥誘致林



Ⅲ② 区立武蔵関公園



Ⅲ③ 東京カトリック神学院



Ⅲ④ 天祖若宮八幡宮



Ⅲ⑤ MO氏邸



Ⅲ⑥ 石泉愛らんど

表Ⅲ－１－２ 調査地概要（その４）

エリア	名称および所在地	No.	類型	特記事項
IV 大泉・土支田エリア	都立大泉中央公園 (大泉学園町9-4)	IV①	落葉樹優勢林	開園は平成2年6月。開園面積は10.3ha。園内には、野鳥の森のほか、野球場や競技場などがある。隣接して、北には和光樹林公園(埼玉県営 20.2ha)が、東には、区立大泉さくら運動公園がある。
	稲荷山憩いの森 (土支田4-14) 清水山憩いの森 (大泉町1-6)	IV②	落葉樹優勢林	隣接した憩いの森。稲荷山憩いの森は面積2.2ha。主な樹種はエゴノキ、イヌシデ、ヒノキ。 清水山憩いの森は、面積0.76ha。主な樹種はエゴノキ、クヌギ、コナラ。区内有数の湧水地であり、東京の名湧水57選にも選定されている。両憩いの森ともにカタクリの自生地として有名。
	八の釜憩いの森 (東大泉2-27)	IV③	落葉樹優勢林	面積0.4ha。園内には水路がある。区立びくに公園と隣接している。
	土支田八幡宮 (土支田4-28)	IV④	針葉樹優勢林	口碑で鎌倉時代末の創祀と伝わる。針葉樹が優占する樹林となっており、「土支田八幡神社スギ樹群」として、ねりまの名木100選に選定されている。
	MU氏邸 (大泉町)	IV⑤	屋敷林	畑地が隣接。敷地内に竹林を含む。
	小作原広場 (西大泉5-27)	IV⑥	草地	草丈の管理がされている草地。
	井頭こぶし憩いの森 (東大泉7-26)	IV⑦		面積0.15ha。井頭憩いの森に隣接した屋敷跡地。
	区立びくに公園 (東大泉2-28)	IV⑧		面積2.2ha。白子川の調節池として整備。八の釜憩いの森と隣接している。敷地内には、多目的グラウンドやテニスコートがある。
	〇氏畑 (大泉学園町)	IV⑨	農地	大規模な生産緑地。東京都エコファーマーに認定されており、農薬の低減化も図っている。



IV① 都立大泉中央公園



IV② 清水山憩いの森



IV③ 八の釜憩いの森



IV④ 土支田八幡宮



IV⑤ MU氏邸



IV⑥ 小作原広場



IV⑦ 井頭こぶし憩いの森



IV⑧ 区立びくに公園



IV⑨ 〇氏畑

表Ⅲ－１－２ 調査地概要（その５）

区分	名称および所在地	No.	類型	特記事項
	都立石神井公園内 石神井池	W①	水辺	池の東端にボート乗り場があり、周年利用できる。
	都立石神井公園内 三宝寺池	W②		三宝寺池沼沢植物群落は国の天然記念物に指定。現在は深井戸から水を汲み上げている。
	区立武蔵関公園内 富士見池	W③		池の北側はボート乗り場になっている。南側の葦の島では、カワセミの営巣用の土壁も設置されている。
	都立光が丘公園内BS	W④		昭和59年に保全区域として造成された。面積2.7ha、淡水池は0.7ha。一般の立ち入りは禁止されているが、開園日には観察窓から観察することができる。隣接して鑑賞池もある。



W① 石神井池



W② 三宝寺池



W③ 富士見池



W④ 光が丘公園BS

表Ⅲ－１－２ 調査地概要（その６）

区分	名称および所在地	No.	類型	特記事項
	練馬駅周辺ルート	R①	ルート	緑の少ない市街地としてのルート。練馬駅北側のロータリーの植栽や区役所敷地周辺の植栽を含む。
	城南住宅ルート	R②		緑の多い計画された住宅地のモデル地域。コース内には、向山庭園(昭和55年5月開園 0.26ha)も含まれている。
	田柄川緑道ルート	R③		市街地ではあるが、緑道としての整備がされた地域。水路敷の緑地モデル。
	立野町ルート	R④		農地と住宅地がモザイク状になっている地域。武蔵野市との境に位置している。屋敷林や畑地のほか、千川上水や区立立野公園(平成8年開園 2.2ha)も含まれている。
	土支田・谷原ルート	R⑤		昔ながらの農地から新興住宅地へと変化している地域。田柄川緑地の水路敷跡もルートに含まれる。
	石神井川流域	R⑥		茜歩道橋から平成みあい橋までの約1kmの範囲。
	白子川流域	R⑦		白子川の源流部である大泉井頭公園から緑橋までの約1kmの範囲。ホトケドジョウやミズキンバイなどの重要種も生息している。



R① 練馬駅周辺ルート



R② 城南住宅ルート



R③ 田柄川緑道ルート



R④ 立野町ルート



R⑤ 土支田・谷原ルート



R⑥ 石神井川流域



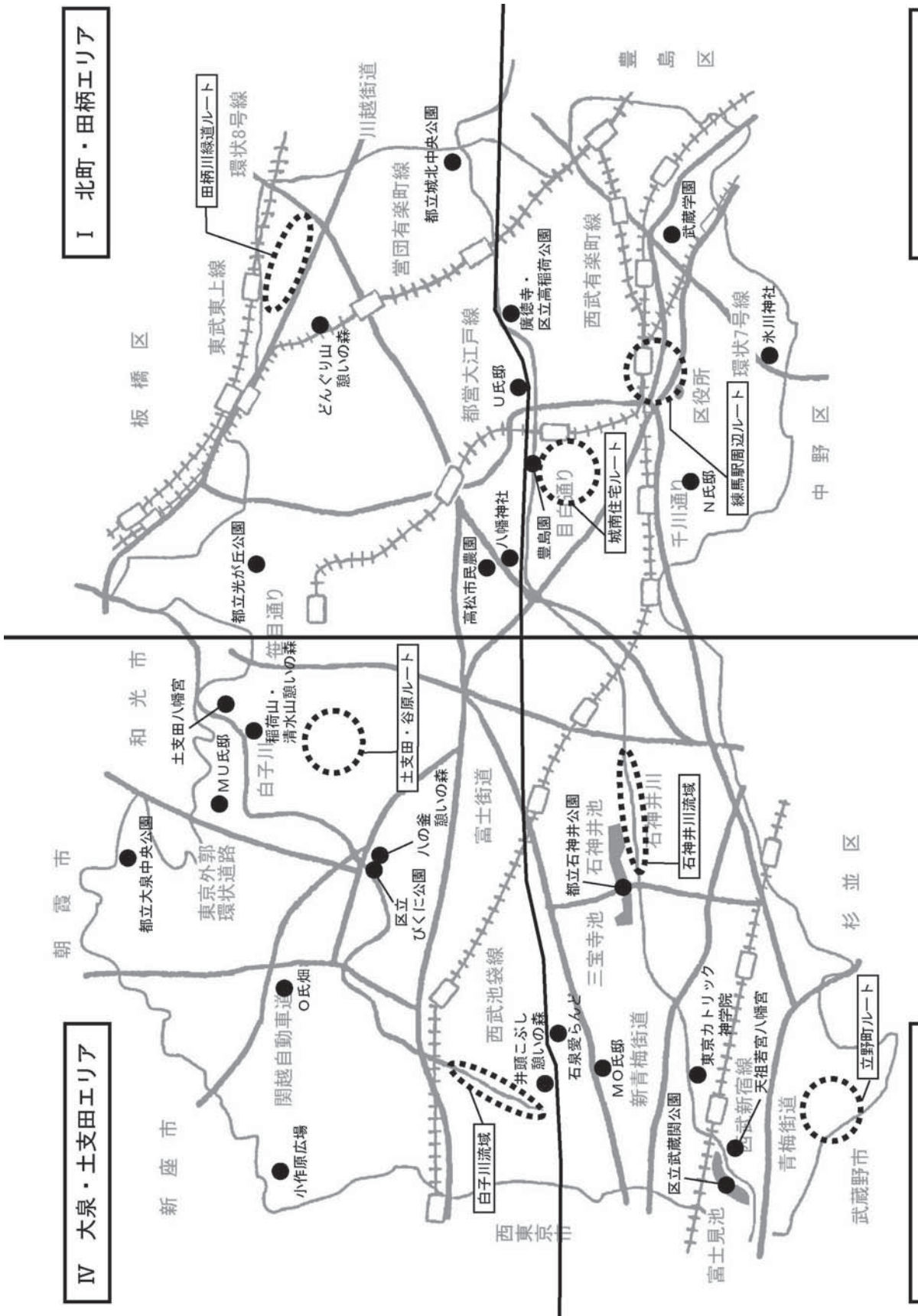
R⑦ 白子川流域

I 北町・田柄エリア

II 豊玉・中村エリア

III 石神井・関町エリア

IV 大泉・土支田エリア



図Ⅲ-1-1 調査地位置図

(4) 調査対象

調査対象とした分類群は、植物・植生、昆虫類・クモ類、鳥類、ほ乳類、爬虫類、両生類、陸産貝類である。

各分類群の調査時期は、表Ⅲ－１－３の通りである。それぞれの詳細については、第Ⅳ章で述べる。

表Ⅲ－１－３ 調査対象の分類群とその調査時期

分類群	平成20年度						平成21年度						平成22年度										
	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
植物・植生	秋期						春期		夏期														
昆虫類	大規模緑地						春～秋期																
	小規模緑地						春期		夏期		秋期												
クモ類	大規模緑地								夏期		秋期												
	小規模緑地						春期		夏期		秋期												
鳥類							冬期		春期		秋期												
ほ乳類・爬虫類・ 両生類・陸産貝類							冬期		春期		夏期		秋期										

(5) 重要種・外来種について

1) 重要種

本調査では、「文化財保護法」、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律※17」（以下、種の保存法）、環境省レッドリスト※18（以下、国RL）、東京都レッドリスト※19（以下、都RL）、のいずれかの選定基準で指定されている種を「重要種」とした。

種の保存法の指定種選定基準を表Ⅲ－１－４、国および都RLの各カテゴリーの基本概念を表Ⅲ－１－５に示した。

表Ⅲ－１－４ 種の保存法 指定種選定基準

カテゴリー名称	表示	選定基準
国内希少野生動植物種	国内	国RDBや国RLで絶滅のおそれのある種（絶滅危惧Ⅰ類、Ⅱ類）とされたもののうち、人為の影響により生息・生育状況に支障を来す事情が生じているものの中から、指定。
国際希少野生動植物種	国際	以下の種・亜種・分類群について、国際希少野生動植物種に指定。 ・ワシントン条約 付属書Ⅰ 掲載種 ・二国間渡り鳥等保護条約・協定 通報種 （条約・協定は、日米、日豪、日露で締結されている）

※RDB:レッドデータブック※²⁰ RL:レッドリスト※²¹

表Ⅲ－１－５ 国および都RLのカテゴリーの基本概念

カテゴリー名称	表示	基本概念
絶滅	EX	当該地域において、過去に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下を含めすでに絶滅したと考えられるもの
野生絶滅	EW	当該地域において、過去に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられるもの
絶滅危惧Ⅰ類	CR+EN	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの
絶滅危惧ⅠA類	CR	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧ⅠB類	EN	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧Ⅱ類	VU	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
準絶滅危惧	NT	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
情報不足	DD	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの
留意種	*	現時点では絶滅のおそれはないと判断されるため、上記カテゴリーには該当しないものの、次の①～⑧の選定理由のいずれかに該当し、留意が必要と考えられるもの <選定理由> ①準絶滅危惧(NT)に準ずる ②過去の環境変化により、生息地が限定されていたり、孤立個体群がある ③人為的な環境配慮により個体群が維持されている ④外来種の影響に注意する必要がある ⑤生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている ⑥自然の回復状況をあらわしている ⑦良好な環境の指標となる ⑧タイプロカリティ(基準産地、模式産地)
ランク外 (都RLのみ)	○	当該地域で生育・生息が確認されているが、上記カテゴリーに該当しないもの
データ無し (都RLのみ)	—	当該地域において生育・生息している(していた)可能性があるが、確実な記録や情報が得られなかったもの
非分布 (都RLのみ)	・	生態的、地史的な理由から、もともと当該地域には分布しないと考えられるもの。但し、鳥類では、確認記録があっても当該地域が主たる生息域でないと判断される場合は、非分布として扱った。

2) 外来種^{※22}

本調査では、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律^{※23}」（以下、外来生物法）で特定外来生物^{※24}、要注意外来生物^{※25}と指定された種を外来種に含めた。さらに、「外来種ハンドブック」（日本生態学会編 2002）の記述をもとに外来種か否かを判断した。

植物の場合は、外国産の植栽種が多数あるため、前記に加えて図鑑等を参考に原産地を確認し外来種か否かを判断した。

また、在来種でも練馬区外から人為的に意識的または無意識的に持ち込まれたと考えられるものは、国内外来種^{※26}とした。区内にかつて自生していても植栽したものは、国内外来種とした。また、ヒムロ、ソメイヨシノ、ウンシュウミカンなどの栽培種も国内外来種に含めた。

※17 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律：

国内外の絶滅のおそれのある野生動植物を保護することにより、自然環境を保全し、現在及び将来の国民の健康で文化的な生活の確保に寄与することを目的とした法律。捕獲、譲渡等の規制、及び生息地等保護のための規制から保護増殖事業の実施まで多岐にわたる内容を含む。

※18 環境省レッドリスト：国内の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト。下記の環境省報道発表資料を参照した。

・平成18年12月22日 鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて

・平成19年8月3日 哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて

※19 東京都レッドリスト：東京都内の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト。下記の資料を参照した。

「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～2010年版」
東京都環境局。

※20 レッドデータブック：絶滅のおそれのある野生生物の種についてそれらの生息状況等を取りまとめたもの。国や都道府県でまとめられたものがある。

※21 レッドリスト：絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト。国や都道府県でまとめられたものがある。

※22 外来種：過去あるいは現在の自然分布域外に導入された種、亜種、それ以下の分類群であり、生存し、繁殖することができるあらゆる器官、配偶子、種子、卵、無性的繁殖子を含む（日本生態学会、2002）。

※23 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律：

特定外来生物の飼養、輸入等について必要な規制を行うとともに、野外等に存する特定外来生物の防除を行うこと等により、特定外来生物による生態系、人の生命若しくは身体又は農林水産業に係る被害を防止することを目的とした法律。

※24 特定外来生物：外来生物（海外起源の外来種）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から指定される。生きているものに限られ、個体だけではなく、卵、種子、器官なども含まれる。

※25 要注意外来生物：外来生物法に基づく飼養等の規制が課されるものではないが、これらの外来生物が生態系に悪影響を及ぼしうることから、利用に関わる個人や事業者等に対し、適切な取扱いについて理解と協力をお願いするもの。

※26 国内外来種：国内起源で本来の自生地でない場所に、他の地域から人為的に意識的または無意識的に持ち込まれた種。

2. 区民アンケート調査（「ねりまの生きものさがし」）

（1）基本方針

この調査では、専門家による調査では把握できない、より広域的で詳細な分布調査を行うとともに、参加する区民が自然環境への興味や関心を持つ様に環境学習的効果も目的とした。

区民アンケート調査の内容と実施方法については、平成 21 年度に区民や専門コンサルタント、NPO 等で構成された検討委員会を結成し、計 6 回の検討会により、検討を行った。検討会の概要については、巻末の資料－1 に記載した。

（2）区民アンケート調査の概要

区民アンケート調査は、専門調査である生物実態調査の結果から環境指標となる生物を検討会で選定し、平成 22 年 3 月～平成 23 年 2 月にかけて、春夏秋冬の各季節に分けて実施した。その際、より広範囲な区民に参加してもらうため、「一般区民向けアンケート」と「小学校向けアンケート」に分けて実施した。

内容の詳細については、第 V 章で述べる。

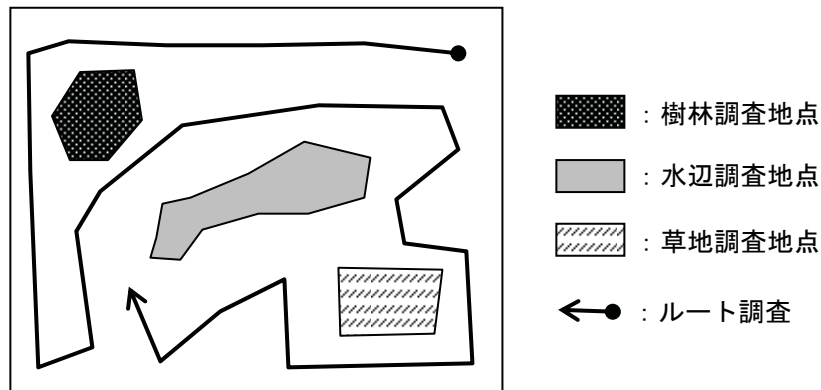
第IV章 生物実態調査

1. 植物・植生

(1) 調査方法

1) 調査対象地

第III章に示した 32 箇所 7 ルートを対象とした。ルート調査地に含まれる石神井川流域、白子川流域は、川岸より下の部分を調査し、川沿いの歩道から上は含めなかった。また、都立公園のような大規模な緑地は、公園全体としての植物相の評価ができるように調査地点以外の場所のルート調査（図IV-1-1）を行い、データの補足を行った。このルート調査は、データの補足が目的であるため、公園内の調査地点と重複する植物は一部省略している。結果は巻末の資料-3、表IV-1-3に示したように「その他」という区分にした。



図IV-1-1 植物相把握のためのルート調査イメージ

2) 調査時期

植物相調査は、平成 20 年秋期、平成 21 年春期に行い、平成 21 年夏期に補足調査を行った。また、植生を把握するためのコドラート^{※27}調査は、平成 21 年夏期に植物相の補足調査と併せて行った。調査地と調査日は表IV-1-1のとおりである。

調査終了後、平成 22 年度までに動物調査や自然観察会実施時に追加確認したのものも植物相リストに追加した。なお、都立石神井公園三宝寺池は東京都により調査が実施されているため文献調査とし、平成 20～22 年度の出現種をまとめた。

※27 コドラート：方形区ともいう。植生などを調査するときに使用する調査区。基本的な形は正方形あるが、地形や群落の広がりに応じて長方形、円形、不定形が用いられる。

表Ⅳ－１－１ 植物調査 実施日

調査地			調査実施日		
エリア	記号	調査地名	平成20年秋期	平成21年春季	平成21年夏期
Ⅰ 北町・田柄 エリア	Ⅰ①	都立光が丘公園	10月24日	4月17日 4月28日	7月14日
			10月29日		
			10月31日		
			11月13日		
	Ⅰ②	都立城北中央公園	10月15日	4月21日	7月23日
	Ⅰ③	どんぐり山憩いの森	11月11日	5月4日	7月23日
	Ⅰ④	八幡神社	10月28日	5月4日	7月22日
	Ⅰ⑤	U氏邸	10月23日	5月12日	7月31日
Ⅰ⑥	都立光が丘公園 昆虫原っぱ	10月31日	4月28日	7月14日	
Ⅰ⑦	都立城北中央公園 草地	10月15日	4月21日	7月23日	
Ⅰ⑧	高松市民農園	10月28日	5月12日	8月4日	
Ⅱ 豊玉・中村 エリア	Ⅱ①	武蔵学園	10月27日	4月27日	7月13日
	Ⅱ②	豊島園	11月6日	4月16日	7月13日
			11月13日		
	Ⅱ③	廣徳寺・区立高稲荷公園	10月15日	4月20日	7月20日
	Ⅱ④	氷川神社	10月17日	5月6日	7月20日
Ⅱ⑤	N氏邸	10月17日	5月8日	7月22日	
Ⅲ 石神井・関町 エリア	Ⅲ①	都立石神井公園	10月30日	4月24日 4月30日	7月17日
			11月6日		
			11月12日		
	Ⅲ②	区立武蔵関公園	10月29日	4月23日	7月15日
	Ⅲ③	東京カトリック神学院	10月20日	4月27日	7月15日
	Ⅲ④	天祖若宮八幡宮	10月29日	5月1日	7月21日
Ⅲ⑤	MO氏邸	10月20日	5月11日	7月27日	
Ⅲ⑥	石泉愛らんど	11月5日	5月11日	8月4日	
Ⅳ 大泉・土支田 エリア	Ⅳ①	都立大泉中央公園	10月16日	4月21日	7月23日
	Ⅳ②	稲荷山・清水山憩いの森	10月22日	4月22日	7月16日
			10月23日		
			10月25日		
	Ⅳ③	八の釜憩いの森	11月4日	4月23日	7月24日
	Ⅳ④	土支田八幡宮	10月23日	5月9日	7月16日
	Ⅳ⑤	MU氏邸	10月16日	5月7日	7月21日
	Ⅳ⑥	小作原広場	11月11日	5月13日	7月29日
	Ⅳ⑦	井頭こぶし憩いの森	11月4日	5月11日	7月28日
Ⅳ⑧	区立びくに公園	11月4日	4月23日	7月24日	
Ⅳ⑨	O氏畑	10月10日	5月13日	7月29日	
水辺	W①	石神井池	11月6日	4月30日	7月17日
	W②	三宝寺池(文献調査)	—	—	—
	W③	富士見池	10月29日	4月23日	7月15日
	W④	都立光が丘公園内BS	10月24日	4月28日	7月14日
ルート	R①	練馬駅周辺ルート	10月28日	5月13日	7月30日
	R②	城南住宅ルート	11月6日	5月12日	7月31日
			11月13日		
	R③	田柄川緑道ルート	11月11日	5月4日	7月23日
	R④	立野町ルート	11月5日	5月1日	7月28日
	R⑤	土支田・谷原ルート	10月27日	5月7日	7月30日
				5月9日	
R⑥	石神井川流域	10月21日	4月13日	7月15日	
		10月23日		7月16日	
R⑦	白子川流域	10月21日	4月15日	7月16日 7月17日	

3) 調査手法

①植物相調査

調査地を踏査し、目視による生育種の確認を行った。調査対象は、維管束植物（シダ植物、裸子植物、被子植物）とした。なお、対象とした種は、自生種^{※28}と植栽種^{※29}とした。自生種は、在来種^{※32}の他、帰化種^{※30}、逸出種^{※31}を含む。植栽種は木本の場合、生育年数が長いことから、外来種も対象とした。草本の植栽種は栽培品種を除く在来種^{※32}のみを対象とした。植栽種であるかの判断は、調査地の立地条件、栽培品種・外来種であるか否か、花壇や植栽地に列になって生育しているかなど植栽と思われる状況や文献による植栽記録などをもとに行った。自生または自生の可能性のある種は植栽されている調査地があっても在来種の場合は植栽種から除外した。例えば、在来種のシラカシは、区内では植栽が多いが、自生しているシラカシもあるため、植栽種からは除外している。

三宝寺池は、東京都により「石神井公園三宝寺池沼沢植物群落復元追跡調査」（東京都東部公園緑地事務所ほか 2009、2010、2011）が行われているため、この事業の報告書による文献調査とした。

※28 自生種：人の保護や影響を受けずに繁殖している種。野生種ともいう。

※29 植栽種：植栽された種。

※30 帰化種：意識的または無意識的に人為により移入された外来種が野生化した種。本報告書では、江戸時代末期から現代にかけて帰化したと考えられる新帰化種を対象としている。

※31 逸出種：人間の飼育下または栽培下にある生物種が、逃げ出し野生化したもの。

※32 在来種：その土地に、古来より自生している種。

②コドラート調査

調査地の代表的な植物群落組成を把握するために、コドラート調査を行った。コドラート（方形区）の大きさは樹林で10m×10m、草地で2m×2mを目安とし、地形や植生の状態により範囲を決定した。ブラウン-ブランケ（Braun-Blanquet）の植物社会学^{※33}的手法により、階層^{※34}毎の被度^{※35}と群度^{※36}を記録した。調査は、ルート、農地、水辺は除外した。

コドラート調査地点一覧を表IV-1-2に示した。コドラート調査地点は、各調査地の代表的な植物群落とした。廣徳寺はケヤキ群落が見られたため、落葉樹優勢林の調査地として選定されたが、敷地境界に植えられたケヤキが大木になっているものの、群落の幅が狭く下層植生も発達していなかったため、落葉樹優勢林のコドラート調査地点からは除外した。また、廣徳寺および都立石神井公園の針葉樹優勢林、廣徳寺およびMU氏邸の竹林、都立光が丘公園バードサンクチュアリの草地は、代表的な植物群落といえるため、コドラート調査地点として追加した。

表IV-1-2 コドラート調査地点一覧

類型	I 北町・田柄エリア	II 豊玉・中村エリア	III 石神井・関町エリア	IV 大泉・土支田エリア
落葉樹優勢林	都立光が丘公園 ・自然保全ゾーン ・BS樹林 都立城北中央公園 ・都民の森 どんぐり山憩いの森	武蔵学園 ・理科棟脇樹林 豊島園 ・庭の湯周辺林 ・石神井川沿い斜面林 廣徳寺・区立高稲荷公園 ・高稲荷公園 斜面林	都立石神井公園 ・野鳥誘致林 区立武蔵関公園 ・葦の島 東京カトリック神学院 ・雑木林	都立大泉中央公園 ・野鳥の森 稲荷山・清水山憩いの森 ・稲荷山 クヌギ群落 ・清水山 イヌシデ群落(2箇所) 八の釜憩いの森 ・コナラ群落 ・ケヤキ群落
針葉樹優勢林	八幡神社	氷川神社 〔 廣徳寺 ・ヒノキ植林 〕	天祖若宮八幡宮 〔 都立石神井公園 ・石神井城址 〕	土支田八幡宮
屋敷林	U氏邸	N氏邸	MO氏邸	MU氏邸
竹林	—	廣徳寺 竹林	—	MU氏邸 竹林
草地	都立光が丘公園 ・昆虫原つば(低・中・高茎) 〔・BS草地〕 都立城北中央公園 ・カゼクサーオオバコ群落 ・シバ群落	—	—	小作原広場(低・中茎) 井頭こぶし憩いの森 ・イヌビエ群落 ・ヨモギ群落 区立びくに公園 ・グラウンド ・法面

() 追加調査地

※33 植物社会学：植物群落または植生を研究する植物生態学の一分野。

※34 階層：群落を葉層の垂直的位置に着目して区分したもの。例えば森林では上から第一層目が高木のときは高木層といい、低くなるにつれて亜高木層、低木層、草本層、コケ層などという。

※35 被度：調査区の面積に対する、その調査区に生育する植物の垂直投影面積の割合。百分率や被度階級などで表す。

※36 群度：一定面積内の植物群落において、ある種の植物がかたまって生活するか単独で生活するかを示す尺度。

(2) 調査結果

1) 確認種数

亜種^{※37}、変種^{※38}を含め、合計 158 科 1,093 種の植物を確認した。品種^{※39}については、その種が品種のみの確認である場合を除き、種数に含めなかった。

帰化種、逸出種を含めた自生状態のものが 706 種、植栽種は 387 種であった。分類群ごとの出現状況は、表IV-1-3の様になった。

出現種のリストは、巻末の資料-3に記載した。

表IV-1-3 植物の分類群別確認種数

分類群			科数	種数 [※]	
シダ植物			18	58	
種子植物	裸子植物		8	32	
	被子植物	双子葉植物	離弁花類	82	490
			合弁花類	31	267
		単子葉植物		19	246
計			158	1,093	

[※]種数には亜種、変種を含む

2) 重要種

①確認状況

重要種を、合計 37 科 48 種確認した。植栽を除く自生と考えられる種をまとめたが、一部自生かどうか不明のものも含まれる。国 RL 記載種は 8 種、都 RL (区部) 記載種は 46 種であった。文化財保護法、種の保存法における指定種の確認は無かった。重要種一覧を表IV-1-4に示した。区部で絶滅と評価されている種を 5 種、非分布とされている種を 5 種、データ無しとされている種を 2 種確認した。区内の詳細調査によりこれらが明らかにされたことは、生物多様性保全の観点から大いに意義のあることである。

自生状態の重要種が多く生育している調査地点は、三宝寺池 (19 種)、都立石神井公園 (その他) (9 種)、清水山憩いの森 (8 種)、稲荷山憩いの森 (5 種)、白子川流域 (5 種) であった。三宝寺池は、管理作業および調査以外での人の立ち入りがなく、貴重な水生植物^{※40}の保全のために外来種や他の植物を被圧する植物を刈り取っている。また、水生植物の移植、埋土種子^{※41}発芽実験、土留め柵の設置なども行われているため、重要種の確認が最も多くなった。都立石神井公園は保護区域とされていない場所でも園路以外は柵がされて踏圧がかからず、林床^{※42}の湿り気も保たれているため、他の調査地で生育できない種が残る環境が整っている。清水山憩いの森、稲荷山憩いの森も園路以外は柵がされて踏圧がかからず、林床の下刈り^{※43}作業も定期的に行われ、昔ながらの雑木林 (落葉広葉樹林^{※44}の二次林^{※45}) の環境が残されているため、重要種が多く残されている。白子川はコンクリート護岸が多いものの、水辺に生育する重要種を確認した。また、都立石神井公園全体では、27 種もの重要種を確認し、全調査地の中で最多の確認となった。

表IV-1-5に各重要種の確認状況を記載した。

- ※37 亜種：多くの個体については同じ種と区別できるが、わずかな中間形によって連続するような場合に用いられる。はっきりと分布地域が異なるような変種を亜種とすることもある。現在、植物分類学では亜種の定義は学者によって異なり、亜種を認めない立場もある。ssp. (subspecies) と記す。
- ※38 変種：種の基準標本との形態的差異があり、地理的に分布の異なる場合変種とする。植物で用い、種名または亜種名の次に var. (varietas) と記す。
- ※39 品種：花の色の違いなどごく一部のみの違いがある個体を品種という。普通は独自の分布域をもたず、同じ種のお他個体の中に混生していることもある。f. (forma) と記す。農業や園芸利用のためにつくられた栽培品種は、学名の後に ‘ ’ (一重引用符) で囲って示す。
- ※40 水生植物：水中または水辺に生育し、植物体のすべてまたは大部分が水中にある大型の高等植物。湿地や湿原などに生育する湿生植物を含めることもある。
- ※41 埋土種子：土中に埋もれている生きた種子のこと。
- ※42 林床：森林内の地表面。
- ※43 下刈り：利用する目的のある樹木の生長を促すために、生長を妨げる草本や低木を刈り払う作業。下草刈りともいうが、農林業では下刈りという。
- ※44 落葉広葉樹林：夏期には広葉をつけ、冬には落葉する樹林のこと。夏緑広葉樹林。
- ※45 二次林：自然林の伐採後や、風水害・山火事による破壊後に再生した森林。

表Ⅳ-1-4 植物の重要種一覧（自生種※） ※一部自生種かどうか不明のものも含む

科名	種名	国 R L	都 R L (区 部)	Ⅰ 北町・田柄エリア			Ⅱ 豊玉・中村エリア				
				Ⅰ ① 都立光が丘公園			Ⅱ ① 武蔵学園	Ⅱ ② 豊島園	Ⅱ ③ 廣徳寺	Ⅱ ④ 氷川神社	
				自然 保全 ゾ ーン	B S 樹 林	そ の 他	そ の 他	庭 の 湯 周 辺 林	石 神 井 川 沿 い 斜 面 林		
アカバナ	ミスキンバイ	VU	EX								
ミクリ	ヒメミクリ	VU	DD								
ラン	キンラン	VU	VU		●						
マツバラ	マツバラ	NT	-								
ゴマノハグサ	カワヂシャ	NT									
アヤメ	カキツバタ	NT	EN								
ミクリ	ナガエミクリ	NT	NT								
ラン	タシロラン	NT		●							
オトギリソウ	ミスオトギリ		EX								
ミゾハコベ	ミゾハコベ		EX								
アカネ	フタバムグラ		EX								
アワゴケ	ミスハコベ		EX								
イワヒバ	タチクラマゴケ		CR							●	
ハナヤスリ	ナツノハナワラビ		CR						●		
ヒメシダ	ハリガネワラビ		CR								●
ドクダミ	ハンゲショウ		CR								
ケシ	ヤマブキソウ		CR								
ミツガシワ	ミツガシワ		CR								
オシダ	ホソバナライシダ		EN								
メギ	イカリソウ		EN								
オシダ	アスカイノデ		VU		●			●			
カバノキ	ハンノキ		VU					●			
スイレン	コウホネ		VU								
ウマノスズクサ	ウマノスズクサ		VU								
マメ	タンキリマメ		VU			●					
ウリ	ゴキヅル		VU								
シソ	シロネ		VU								
ユリ	カタクリ		VU								
ユリ	ワニグチソウ		VU								
ヒガンバナ	キツネノカミソリ		VU								
サトイモ	ショウブ		VU								
カヤツリグサ	コマツカサススキ		VU								
ラン	ギンラン		VU								
ヤナギ	オノエヤナギ		NT								
キンボウゲ	ニリンソウ		NT								
オモダカ	ヘラオモダカ		NT								
イネ	マコモ		NT								
カヤツリグサ	ヤガミスゲ		NT								
カヤツリグサ	アオガヤツリ		NT								
カヤツリグサ	ウキヤガラ		NT								
コバノイシカグマ	イワヒメワラビ		DD					●			●
チャセンシダ	クモノスシダ		DD								
シシガシラ	コモチシダ		DD		●						
ヒメシダ	ハシゴシダ		DD						●		
カヤツリグサ	セイタカハリイ		-			●					
ウラジロ	コシダ		.						●		
イグサ	ハリコウガイゼキショウ		.								
イネ	ヌマガヤ		.								
37	48	8	46	1	3	2	1	2	3	1	1
				6				5			

Ⅲ 石神井・関町エリア					Ⅳ 大泉・土支田エリア				ルート							
Ⅲ ①					Ⅲ ③		Ⅲ ⑤	Ⅳ ①	Ⅳ ②		Ⅳ ④	Ⅳ ⑨	R ②	R ⑤	R ⑥	R ⑦
都立石神井公園					カトリック神学院		MO氏邸	都立大泉中央公園	稲荷山・清水山憩いの森		土支田八幡宮	○氏畑	城南住宅ルート	土支田・谷原ルート	石神井川流域	白子川流域
石神井城址	水辺観察園	その他	石神井池	三宝寺池(文献調査)	雑木林	その他	その他	稲荷山憩いの森	清水山憩いの森							
																●
				●												
	●					●			●							
				●											●	●
				●											●	●
				●												
				●												
				●								●				
				●									●			
●		●			●			●	●	●						
				●				●	●							
		●							●	●						
		●	●	●	●			●	●							
	●	●	●	●		●										
				●	●											
				●	●											
●		●			●			●	●	●						
			●	●												
	●	●		●												
	●	●		●												
				●	●					●						
				●	●											●
				●												●
		●									●					
				●												
				●												
2	3	9	5	19	1	1	1	5	8	2	1	1	1	3	5	
27				2				8								

【国RLおよび都RL】
EX: 絶滅
CR: 絶滅危惧ⅠA類
EN: 絶滅危惧ⅠB類
VU: 絶滅危惧Ⅱ類
NT: 準絶滅危惧
DD: 情報不足
○: ランク外
-: データ無し(都RLのみ)
・: 非分布(都RLのみ)
(詳細は第三章を参照)



表Ⅳ－１－５ 植物の重要種確認状況 (1/10)

<p>ミズキンバイ(アカバナ科) 国RL: 絶滅危惧Ⅱ類(VU) 都RL(区部): 絶滅(EX)</p>	
	<p>確認地点: 白子川流域</p> <p>確認状況: 都RL(区部)で絶滅という評価だが、自生していた。特定外来生物のオオフサモに囲まれるように生育しているため、生育環境は良い状態ではない。</p>
<p>ヒメミクリ(ミクリ科) 国RL: 絶滅危惧Ⅱ類(VU) 都RL(区部): 情報不足(DD)</p>	
	<p>確認地点: 三宝寺池(文献調査)</p> <p>確認状況: 三宝寺池の中の島に生育していた。</p> <p>※写真: 東京都東部公園緑地事務所 提供</p>
<p>キンラン(ラン科) 国RL: 絶滅危惧Ⅱ類(VU) 都RL(区部): 絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点: 都立光が丘公園、都立石神井公園、MO氏邸、清水山憩いの森</p> <p>確認状況: いずれの調査地でも樹林の林床に生育していた。</p>
<p>マツバラン(マツバラン科) 国RL: 準絶滅危惧(NT) 都RL(区部): データ無し(-)</p>	
	<p>確認地点: 三宝寺池(文献調査)</p> <p>確認状況: 水位を下げた平成16年度より、池内のハンノキの根元で確認されている。生育地の水没を防ぐため、現状程度の水位の維持していくことが必要である。</p> <p>※写真: 東京都東部公園緑地事務所</p>
<p>カワヂシャ(ゴマノハグサ科) 国RL: 準絶滅危惧(NT)</p>	
	<p>確認地点: 石神井川流域、白子川流域</p> <p>確認状況: 両河川の川岸付近や浅瀬に生育していた。</p>

表Ⅳ－１－５ 植物の重要種確認状況 (2/10)

<p>カキツバタ(アヤメ科) 国RL: 準絶滅危惧 (NT) 都RL(区部): 絶滅危惧 I B類 (EN)</p>	
	<p>確認地点: 三宝寺池(文献調査) 確認状況: 三宝寺池の中の島と池畔に生育していた。</p>
<p>ナガエミクリ(ミクリ科) 国RL: 準絶滅危惧 (NT) 都RL(区部): 準絶滅危惧 (NT)</p>	
	<p>確認地点: 石神井川流域、白子川流域 確認状況: 両河川の浅瀬に生育していた。比較的広範囲に分布していた。</p>
<p>タシロラン(ラン科) 国RL: 準絶滅危惧 (NT)</p>	
	<p>確認地点: 都立光が丘公園 確認状況: 落ち葉の多く積もった樹林の林床に生育していた。</p>
<p>ミズオトギリ(オトギリソウ科) 都RL(区部): 絶滅 (EX)</p>	
	<p>確認地点: 三宝寺池(文献調査) 確認状況: 都RL(区部)で絶滅という評価であるが、三宝寺池の中の島で自生していた。 ※写真: 東京都東部公園緑地事務所 提供</p>
<p>ミゾハコベ(ミゾハコベ科) 都RL(区部): 絶滅 (EX)</p>	
<p>写真無し</p>	<p>確認地点: 石神井川流域 確認状況: 調査当時、東京都RL2010年版発行前でレッドデータブック記載種ではなかった。都RL(区部)では、絶滅という評価だが、自生していた。</p>

表Ⅳ－１－５ 植物の重要種確認状況 (3/10)

フタバムグラ(アカネ科) 都RL(区部):絶滅(EX)	
	確認地点:O氏畑 確認状況:都RL(区部)で絶滅という評価だが、畑で生育していた。
ミズハコベ(アワゴケ科) 都RL(区部):絶滅(EX)	
	確認地点:三宝寺池(文献調査) 確認状況:都RL(区部)で絶滅という評価だが、三宝寺池の中の島で生育していた。 ※写真:東京都東部公園緑地事務所 提供
タチクラマゴケ(イワヒバ科) 都RL(区部):絶滅危惧 I A類(CR)	
	確認地点:廣徳寺、城南住宅ルート 確認状況:植え込みの下など湿った環境に生育していた。区内では湿り気が多い土壌環境が少ないため、生育地が限られている。造成時に土とともに移入された可能性があるが、生育環境が存在することが貴重である。
ナツノハナワラビ(ハナヤスリ科) 都RL(区部):絶滅危惧 I A類(CR)	
	確認地点:豊島園 確認状況:樹林の林床に生育していた。
ハリガネワラビ(ヒメシダ科) 都RL(区部):絶滅危惧 I A類(CR)	
	確認地点:都立石神井公園、稻荷山憩いの森、清水山憩いの森、土支田八幡宮 確認状況:いずれの調査地でも樹林の林床に生育していた。

表Ⅳ－１－５ 植物の重要種確認状況 (4/10)

<p>ハンゲシヨウ(ドクダミ科) 都RL(区部):絶滅危惧 I A類(CR)</p>	
	<p>確認地点:三宝寺池(文献調査) 確認状況:三宝寺池の中の島と池畔に生育していた。</p>
<p>ヤマブキソウ(ケシ科) 都RL(区部):絶滅危惧 I A類(CR)</p>	
	<p>確認地点:稲荷山憩いの森、清水山憩いの森 確認状況:樹林の林床に生育していた。</p>
<p>ミツガシワ(ミツガシワ科) 都RL(区部):絶滅危惧 I A類(CR)</p>	
	<p>確認地点:三宝寺池(文献調査) 確認状況:三宝寺池の池畔と中の島に生育していた。</p>
<p>ホソバナライシダ(オシダ科) 都RL(区部):絶滅危惧 I B類(EN)</p>	
	<p>確認地点:都立石神井公園 確認状況:樹林の林床に生育していた。</p>
<p>イカリソウ(メギ科) 都RL(区部):絶滅危惧 I B(EN)</p>	
	<p>確認地点:稲荷山憩いの森、清水山憩いの森 確認状況:樹林の林床に生育していた。</p>

表Ⅳ－１－５ 植物の重要種確認状況 (5/10)

<p>アスカイノデ(オシダ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点:都立光が丘公園、豊島園、都立石神井公園</p> <p>確認状況:いずれの調査地でも樹林の林床に生育していた。</p>
<p>ハンノキ(カバノキ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点:豊島園、都立石神井公園、石神井池、三宝寺池(文献調査)</p> <p>確認状況:豊島園の樹林、石神井池の周囲、三宝寺池の周囲および中の島に多く見られた。三宝寺池の調査記録は池の周囲部分を含むため、石神井公園の陸側の記録と重複している。</p>
<p>コウホネ(スイレン科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点:三宝寺池(文献調査)</p> <p>確認状況:三宝寺池内と中の島に生育していた。</p>
<p>ウマノスズクサ(ウマノスズクサ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点:東京カトリック神学院、都立大泉中央公園</p> <p>確認状況:調査当時、東京都RL2010年版発行前でレッドデータブック記載種ではなかった。そのため、詳細な確認状況は記録しておらず、植栽かどうか不明な確認地点のみを記載した。</p>
<p>タンキリマメ(マメ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点:都立光が丘公園</p> <p>確認状況:樹林の林縁に生育していた。</p>


表Ⅳ－１－５ 植物の重要種確認状況 (6/10)

<p>ゴキヅル(ウリ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点:石神井池、三宝寺池(文献調査) 確認状況:石神井池畔、三宝寺池の中の島で生育していた。</p>
<p>シロネ(シソ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点:三宝寺池(文献調査) 確認状況:三宝寺池の中の島で生育していた。</p>
<p>カタクリ(ユリ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点:稲荷山憩いの森、清水山憩いの森 確認状況:樹林の林床に群生していた。清水山憩いの森の方が群落の規模が大きい。</p>
<p>ワニグチソウ(ユリ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点:都立石神井公園、稲荷山憩いの森、清水山憩いの森 確認状況:いずれの調査地でも樹林の林床に生育していた。</p>
<p>キツネノカミソリ(ヒガンバナ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点:東京カトリック神学院、清水山憩いの森 確認状況:いずれの調査地でも樹林の林床に生育していた。</p>

表Ⅳ－１－５ 植物の重要種確認状況 (7/10)

<p>ショウブ(サトイモ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点:石神井池、三宝寺池(文献調査)、白子川流域 確認状況:石神井池の池畔、三宝寺池の池畔に生育していた。</p>
<p>コマツカサスキ(カヤツリグサ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点:三宝寺池(文献調査) 確認状況:三宝寺池の中の島の平成18年度底泥撒き出し地に生育していた。</p>
<p>ギンラン(ラン科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点:都立石神井公園 確認状況:樹林の林床に生育していた。</p>
<p>オノエヤナギ(ヤナギ科) 都RL(区部):準絶滅危惧(NT)</p>	
	<p>確認地点:都立石神井公園、三宝寺池(文献調査) 確認状況:三宝寺池の周囲に見られた。三宝寺池の調査記録は池の周囲部分を含むため、石神井公園の陸側の記録と重複している。</p>
<p>ニリンソウ(キンポウゲ科) 都RL(区部):準絶滅危惧(NT)</p>	
	<p>確認地点:清水山憩いの森 確認状況:樹林の林床に生育していた。</p>

表Ⅳ－１－５ 植物の重要種確認状況 (8/10)

<p>ヘラオモダカ(オモダカ科) 都RL(区部): 準絶滅危惧(NT)</p>	
	<p>確認地点: 三宝寺池(文献調査)</p> <p>確認状況: 三宝寺池の中の島で生育していた。</p> <p>※写真: 東京都東部公園緑地事務所 提供</p>
<p>マコモ(イネ科) 都RL(区部): 準絶滅危惧(NT)</p>	
	<p>確認地点: 石神井池、三宝寺池(文献調査)、白子川流域</p> <p>確認状況: 石神井池の池畔、三宝寺池の中の島、中の島の保護柵内水域、白子川に生育していた。</p>
<p>ヤガミスゲ(カヤツリグサ科) 都RL(区部): 準絶滅危惧(NT)</p>	
	<p>確認地点: 石神井池</p> <p>確認状況: 石神井池の池畔に生育していた。</p>
<p>アオガヤツリ(カヤツリグサ科) 都RL(区部): 準絶滅危惧(NT)</p>	
	<p>確認地点: 土支田・谷原ルート</p> <p>確認状況: 畑に生育していた。</p>
<p>ウキヤガラ(カヤツリグサ科) 都RL(区部): 準絶滅危惧(NT)</p>	
	<p>確認地点: 三宝寺池(文献調査)、白子川流域</p> <p>確認状況: 三宝寺池の中の島、白子川に生育していた。</p> <p>※写真: 東京都東部公園緑地事務所 提供</p>

表Ⅳ－１－５ 植物の重要種確認状況 (9/10)

イワヒメワラビ(コバノイシカゲマ科) 都RL(区部):情報不足(DD)	
	確認地点: 武蔵学園、氷川神社 確認状況: 武蔵学園では、植え込みの下、氷川神社では樹林の林床に生育していた。
クモノスダ(チャセンシダ科) 都RL(区部):情報不足(DD)	
	確認地点: 都立石神井公園、土支田八幡宮 確認状況: どちらの調査地点でも石碑の設置された岩の隙間に生育していた。石碑設置時に岩とともに運ばれた可能性がある。石神井公園のものは、石碑の設置前には生育していなかったという記録がある(東京都西部公園緑地事務所ほか 1988)。
コモチシダ(シンガシラ科) 都RL(区部):情報不足(DD)	
	確認地点: 都立光が丘公園 確認状況: 樹林の林床に生育していた。
ハシゴシダ(ヒメシダ科) 都RL(区部):情報不足(DD)	
	確認地点: 豊島園 確認状況: 樹林の林床に生育していた。同じ科のハリガネワラビより確認地点は少ない。
セイタカハリイ(カヤツリグサ科) 都RL(区部):データ無し(-)	
写真無し	確認地点: 都立光が丘公園 確認状況: 湿った草地に生育していた。

表Ⅳ－１－５ 植物の重要種確認状況 (10/10)

コシダ(ウラボシ科) 都RL(区部): 非分布(・)	
	確認地点: 豊島園 確認状況: 樹林の林床の斜面部に生育していた。非分布とされているが、移入の可能性の低い場所にあった。
ハリコウガイゼキショウ(イグサ科) 都RL(区部): 非分布(・)	
	確認地点: 三宝寺池(文献調査) 確認状況: 都RL(区部)では非分布とされているが、三宝寺池の中の島に生育していた。 ※写真: 東京都東部公園緑地事務所 提供
ヌマガヤ(イネ科) 都RL(区部): 非分布(・)	
	確認地点: 三宝寺池(文献調査) 確認状況: 三宝寺池内と中の島に生育していた。ハンノキの根元に限定的に分布し、生育は概ね安定していた。 ※写真: 東京都東部公園緑地事務所 提供

②重要種の保全について

重要種の確認状況から、重要種が多く生育している環境として次のような環境が抽出される。括弧内はその環境を持つ重要種の生育している調査地点例である。

- ・ 外来種や重要種を被圧する植物の除去など適切な管理のされた水生植物、湿生植物^{※46}が生育できる止水域 (三宝寺池)
- ・ 林床の湿り気を維持できる規模の樹林 (都立石神井公園樹林全体)
- ・ 踏圧の不高くない林床を持つ適切な管理がされた落葉広葉樹の二次林 (稲荷山・清水山憩いの森)
- ・ 水生植物、湿生植物が生育できる河川 (白子川流域、石神井川流域)

上記のような環境を維持することが、重要種の保全に繋がる。東京都による植物群落復元追跡調査の行われている三宝寺池のように、環境を維持するための適切な管理とモニタリングを継続的に行うことが望ましい。

※46 湿生植物: 湿地や湿原など湿った環境に生育する植物。

3) 外来種

①特定外来生物・要注意外来生物

外来生物法（特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律）により特定外来生物と指定されている種は、4科6種であった（表Ⅳ-1-6）。オオカワヂシャは、石神井川流域および豊島園の園内を流れる石神井川沿いで確認した。オオキンケイギクは植栽されているものもあった。分布範囲の広いものとして、石神井川のオオカワヂシャ、白子川のみズヒマワリが挙げられた。


表Ⅳ-1-7に特定外来生物の確認状況をまとめた。

要注意外来生物は、トウネズミモチ、ハルジオン、セイタカアワダチソウなど36種を確認した。要注意外来生物は巻末の資料-3で確認できるようにした。

表Ⅳ-1-6 植物の特定外来生物一覧

科名	種名	Ⅱ 豊玉・中村 エリア	Ⅲ 石神井・関町 エリア		Ⅳ 大泉・土支田 エリア	ルート	
		Ⅱ ②	Ⅲ ②	Ⅲ ③	Ⅳ ⑧	R ⑥	R ⑦
		豊島園	武蔵関公園	東京カトリック神学院	区立びくに公園	石神井川流域	白子川流域
		その他	葦の島	その他	その他		
ウリ	アレチウリ		●			●	
アリノトウグサ	オオフサモ						●
ゴマノハグサ	オオカワヂシャ	●				●	
キク	オオキンケイギク	●		●			
	みズヒマワリ						●
	オオハンゴンソウ				●		
合計種数		2	1	1	1	2	2
全確認種数	4科6種						

表Ⅳ-1-7 植物の特定外来生物確認状況 (1/2)

アレチウリ(ウリ科)	
	<p>確認地点: 区立武蔵関公園、石神井川流域</p> <p>確認状況: 葦の島の日当たりのよい水辺の草地、石神井川の土手に生育していた。それぞれの調査地点での分布範囲はまだ小さいが早めの除草が望まれる。</p>

表Ⅳ－１－７ 植物の特定外来生物確認状況（2/2）

オオフサモ(アリトウグサ科)	
	<p>確認地点：白子川流域</p> <p>確認状況：白子川源流を中心に分布しており、植栽由来と考えられる。</p>
オオカワヂシャ(ゴマノハグサ科)	
	<p>確認地点：豊島園、石神井川流域</p> <p>確認状況：石神井川流域および豊島園内を流れる石神井川で生育していた。石神井川流域の調査範囲全域に分布していた。環境省RLの準絶滅危惧種である近縁種のカワヂシャの生育地を奪うとともに雑種を作り、遺伝子汚染の可能性もある。</p>
オオキンケイギク(キク科)	
	<p>確認地点：豊島園、区立武蔵関公園、東京カトリック神学院</p> <p>確認状況：植え込みの下やフェンスの隙間などに生育していた。花壇に植栽された調査地もあったが、逸出はしていなかった。</p>
ミズヒマワリ(キク科)	
	<p>確認地点：白子川流域</p> <p>確認状況：白子川流域の調査範囲ほぼ全域に分布していた。絶滅危惧種のカワヂシャ、ナガエミクリが近くに生育しており、被圧されるおそれがある。</p>
オオハンゴンソウ(キク科)	
	<p>確認地点：区立びくに公園</p> <p>確認状況：フェンス沿いの幅の狭い土の部分に生育していた。</p>

②その他の外来種

特定外来生物、要注意外来生物を含む国外外来種を 313 種、国内外来種を 266 種確認した。国外、国内の別は、巻末の資料－3 に明記した。

特定外来生物、要注意外来生物以外の国外外来種には、ヒメツルソバ、ナガバギシギシ、オランダミミナグサなどの帰化種、イチヨウ、ヒマラヤスギなどの外国原産の植栽種、パンジー、シュウカイドウ、トマトなどの逸出種が挙げられた。次項で述べたが、逸出種と帰化種の区別は難しいため、参考文献等を参考に整理した。

国内外来種には、ソテツ、スギ、ヒノキなどの植栽種、イヌカタヒバ、ホウライシダ、アシタバなどの逸出種が挙げられた。ヒムロ、ソメイヨシノ、ウンシュウミカンなどの栽培種も国内外来種に含めた。

③帰化種

外来種のうち、江戸時代末期から現代にかけて帰化したと考えられる新帰化種を帰化種とした。但し、江戸時代に帰化し江戸時代末期かどうか不明の種も帰化種に含めている。外来の植栽種が逸出し、定着して帰化種となる場合も多いため、種によっては逸出種と帰化種の区別が難しいものもある。本報告書では下記の文献を参考に帰化種、逸出種、植栽種の区別を行った。区内の調査地での生育状況も参考にした。帰化種、逸出種、植栽種の別は、巻末の資料－3 に明記した。

【帰化植物に関する参考文献等】

- ・植村ほか (2010) : 日本帰化植物写真図鑑 第 2 巻, 全国農村教育協会.
- ・岡山大学資源植物科学研究所 野生植物グループ「日本の帰化植物一覧表」
URL : http://www.rib.okayama-u.ac.jp/wild/kika_table.htm
- ・長田 (1976) : 原色日本帰化植物図鑑, 保育社.
- ・清水ほか (2001) : 日本帰化植物写真図鑑 第 1 巻, 全国農村教育協会.
- ・杉並区環境清掃部環境課 (2008) : 杉並区自然環境調査報告書 (第 5 次), 杉並区.
- ・日本生態学会編 (2002) : 外来種ハンドブック, 地人書館.
- ・港区 (2010) : 港区生物現況調査 (第 2 次) 報告書, 港区.

A. 調査地全体の帰化率

植栽種、逸出種を除く自生種 671 種のうち、帰化種は、合計 155 種であった。なお、植栽されて逸出したと見られる帰化種は除外した。調査地全体の帰化率は 23.1%であった。同じような計算方法で算出された港区の第 2 次生物現況調査の帰化率は 28.1%であった。港区は臨海部にあり、外来種の侵入の機会が多く、練馬区よりも都市化の進んでいることが帰化率が高い原因と推定される。一方、杉並区の第 5 次自然環境調査の帰化率 18.8%であった。植物の品種を集計するなど、計算方法が異なるため、単純な比較はできないが、参考値として示した。

B. 各調査地点の帰化率

各調査地点の環境ごとの帰化率を表Ⅳ－1－8 に、また全調査地点のエリアごとの帰化率を表Ⅳ－1－9 に示した。環境ごとの帰化率の平均値は、樹林地 (11.5%)、社寺林 (16.1%)、屋敷林 (11.4%) の帰化率は、全調査地の平均値 23.1%よりも低かった。水

辺（止水域）も帰化率が低く、平均値は 16.1%であった。しかし、29 ページで述べたように、自生している調査地のある種は植栽種とせず、調査地点ごとの個別の植栽種については考慮しなかったため、区内で自生する在来種の植栽が多い都立石神井公園 水辺観察園での帰化率（8.7%）は特に低くなっている。一方、農地は平均 33.3%、ルートは 19.0%の城南住宅ルート以外は帰化率が高く、平均 31.1%であった。草地は外来種の選択的除去などの管理がされている都立光が丘公園のバードサンクチュアリ草地（13.5%）と昆虫原っぱ（23.6%）では低めで、その他は 28.6~42.1%と高かった。この結果は、帰化植物が人為的な攪乱が行われる場所に多く生育することを反映している。

各調査地の環境ごとに詳細に見ると、樹林地では、高稲荷公園（斜面林のみ）、都立石神井公園の石神井城址、野鳥誘致林、都立光が丘公園のバードサンクチュアリ樹林、自然保全ゾーンで帰化率が低い。これらの樹林は保護柵がされ、立ち入り制限がされている場所である。樹林地の中でも帰化率の高かった都立城北中央公園の都民の森は、人の出入りが多く、林床が踏み固められていた。また、種数自体が少なく分母が小さいため、帰化率が高かった。

社寺林は、帰化率が 10%台とどの調査地も似かよった値となった。

屋敷林は畑や花壇のような開けた裸地を含む明るい場所が多くある調査地ほど帰化率が高かった。

草地は、人の立ち入りが制限されている都立光が丘公園のバードサンクチュアリの草地で最も帰化率が低かった。バードサンクチュアリの草地は定期的な刈り取り、外来種の除去など生物多様性に配慮した植生管理が行われていることも帰化率の低さに反映されている。人の立ち入りが一部制限され、バードサンクチュアリ同様、生物多様性に配慮した植生管理の行われている都立光が丘公園の昆虫原っぱも草地の中では帰化率が低かった。これら植生管理のされた場所は外来種を選択的除去も行われている。

農地は、除草管理がされているため、農作物以外の植物の種数と分布する面積は少ないものの、多くの帰化植物の侵入しやすい裸地ができるため、どの調査地も帰化率が 30%台と高い値となった。

水辺（止水域）は、富士見池の帰化率が他の調査地よりも高かった。富士見池は全体がコンクリート護岸で植物の種数が少なく、分母が小さいため、帰化率が高くなった。

ルートは、河川である石神井川流域、白子川流域と市街地である練馬駅周辺ルートで帰化率が高かった。河川は流れがあるため、上流から種子が運ばれる条件にあることや、土手の草刈りにより多くの帰化植物が侵入しやすい裸地を含む開けた場所があるため、帰化率が高いと言える。ルートの中で帰化植物種数が 30 種と比較的少ない城南住宅ルートは路傍に草本の生える場所がほとんどないため、帰化植物が少ないと考えられる。またルート上に向山庭園と向山谷戸緑地を含むため、種数自体も多く、帰化率が低くなった。同じく帰化植物種数が 31 種と比較的少なかった田柄川緑道ルートは、ルート沿いの花壇の除草が行われ、街路樹により木陰が作られているため、多くの帰化植物が侵入しやすい日当たりのよい裸地のある開けた場所が比較的少ないと考えられる。一方、ルート上に農地を含む立野町ルート、土支田・谷原ルート、一部空き地のあった練馬駅周辺ルートの帰化植物の種数は 40 種を超える結果となった。また、草本の生える場所の少ない練馬駅周辺ルートは全体の種数が少ないため、帰化率が河川に次いで高くなった。

表Ⅳ－１－８ 環境ごとの帰化率

集計項目	樹林地																							
	Ⅰ ①		Ⅰ ②		Ⅰ ③		Ⅱ ①		Ⅱ ②		Ⅱ ③		Ⅲ ①		Ⅲ ②		Ⅲ ③		Ⅳ ①		Ⅳ ②		Ⅳ ③	
	都立光が丘公園		都立城北中央公園		どんぐり山憩いの森		武蔵学園		豊島園		区立高稲荷公園		都立石神井公園		区立武蔵関公園		東京カトリック神学院		都立大泉中央公園		清荷山憩いの森		八の釜憩いの森	
	自然保全ゾーン	B S 樹林	都民の森		理科棟脇樹林	庭の湯周辺林	石神井川沿い斜面林	廣徳寺	区立高稲荷公園	野鳥誘致林	石神井城址	葦の島	雑木林	野鳥の森	稲荷山憩いの森	清水山憩いの森								
合計種数※	107	138	58	102	80	148	108	169	58	93	115	87	117	117	230	206	154							
帰化植物の種数	10	9	13	16	6	17	16	25	0	4	2	13	18	19	38	25	17							
帰化率(%)	9.3	6.5	22.4	15.7	7.5	11.5	14.8	14.8	0.0	4.3	1.7	14.9	15.4	16.2	16.5	12.1	11.0							
帰化率平均値(%)	11.5																							
全体の帰化率(%)	23.2																							

集計項目	社寺林				屋敷林				草地					
	Ⅰ ④	Ⅱ ④	Ⅲ ④	Ⅳ ④	Ⅰ ⑤	Ⅱ ⑤	Ⅲ ⑤	Ⅳ ⑤	Ⅰ ①	Ⅰ ⑥	Ⅰ ⑦	Ⅳ ⑥	Ⅳ ⑦	Ⅳ ⑧
	八幡神社	氷川神社	天祖若宮八幡宮	土支田八幡宮	U氏邸	N氏邸	M O氏邸	M U氏邸	都立光が丘公園	都立光が丘公園	都立城北中央公園	小作原広場	井頭こぶし憩いの森	区立びくに公園
合計種数※	128	93	139	157	67	130	64	103	141	127	49	76	45	112
帰化植物の種数	24	11	23	27	2	15	5	24	19	30	14	26	12	47
帰化率(%)	18.8	11.8	16.5	17.2	3.0	11.5	7.8	23.3	13.5	23.6	28.6	34.2	26.7	42.0
帰化率平均値(%)	16.1				11.4				28.1					

集計項目	農地			水辺(止水域)					ルート						
	Ⅰ ⑧	Ⅲ ⑥	Ⅳ ⑨	W ①	W ②	W ③	W ④	Ⅲ ①	R ①	R ②	R ③	R ④	R ⑤	R ⑥	R ⑦
	高松市民農園	石泉愛らんど	O氏畑	石神井池	三宝寺池	富士見池	都立光が丘公園	都立石神井公園	練馬駅周辺ルート	城南住宅ルート	田柄川緑道ルート	立野町ルート	土支田・谷原ルート	石神井川流域	白子川流域
合計種数※	83	52	57	97	111	60	32	263	114	158	117	162	154	173	125
帰化植物の種数	28	17	19	19	18	14	4	23	45	30	31	42	43	74	45
帰化率(%)	33.7	32.7	33.3	19.6	16.2	23.3	12.5	8.7	39.5	19.0	26.5	25.9	27.9	42.8	36.0
帰化率平均値(%)	33.3			16.1					31.1						

※合計種数は植栽種、逸出種を除く

表Ⅳ-1-9 エリアごとの帰化率（全調査地点）

集計項目	Ⅰ 北町・田柄エリア										Ⅱ 豊玉・中村エリア																				
	Ⅰ①					Ⅰ⑥		Ⅰ④		Ⅰ②	Ⅰ⑦		Ⅰ③	Ⅰ④	Ⅰ⑤	Ⅰ⑧	Ⅱ①		Ⅱ②			Ⅱ③		Ⅱ④	Ⅱ⑤						
	都立光が丘公園					昆虫原っぱ		BS水辺		都民の森	その他		草地		どんぐり山憩いの森	八幡神社	U氏邸	高松市民農園	武蔵学園		豊島園			区立高稲荷公園		水川神社	N氏邸				
	自然保全ゾーン	BS樹林	BS草地	その他	昆虫原っぱ	BS水辺	都民の森	その他	草地								理科棟脇樹林	その他	庭の湯周辺林	石神井川沿い斜面林	その他	廣徳寺	区立高稲荷公園								
合計種数*	107	138	141	238	127	32	58	118	49	102	128	67	83	80	159	148	108	141	169	58	93	130									
	352					158					16		24		2		28		210		254			185							
帰化植物の種類	10	9	19	35	30	4	13	31	14	16		24		2		28		6	28	17	16	31	25	0	11	15					
	59					45					36		48		25		6		28			17		16		31		25		0	
帰化率(%)	9.3	6.5	13.5	14.7	23.6	12.5	22.4	26.3	28.6	15.7	18.8	3.0	33.7	7.5	17.6	11.5	14.8	22.0	14.8	0.0	11.8	11.5									
	16.8					28.5					17.1		18.9		13.5		11.8		11.5												
全体の帰化率(%)	23.2																														

集計項目	Ⅲ 石神井・関町エリア																				
	Ⅲ①				W①		W②		Ⅲ②		W③		Ⅲ③	Ⅲ④	Ⅲ⑤	Ⅲ⑥					
	都立石神井公園				石神井池		三宝寺池		葦の島		その他		富士見池		雑木林	その他	カトリック神学院	東京	天祖若宮八幡宮	M O氏邸	石泉愛らんど
	野鳥誘致林	石神井城址	水辺観察園	その他	石神井池	三宝寺池	葦の島	その他	富士見池	雑木林	その他										
合計種数*	93	115	263	266	97	111	87	123	60	117	110	139	64	52							
	432				178				185				139	64	52						
帰化植物の種類	4	2	23	30	19	18	13	22	14	18	35	23	5	17							
	56				36				43				23	5	17						
帰化率(%)	4.3	1.7	8.7	11.3	19.6	16.2	14.9	17.6	23.3	15.4	31.8	16.5	7.8	32.7							
	13.0				20.2				23.2				16.5	7.8	32.7						

集計項目	Ⅳ 大泉・土支田エリア										ルート							
	Ⅳ①		Ⅳ②		Ⅳ③	Ⅳ④	Ⅳ⑤	Ⅳ⑥	Ⅳ⑦	Ⅳ⑧	Ⅳ⑨	R①	R②	R③	R④	R⑤	R⑥	R⑦
	都立大泉中央公園		清水山憩いの森		八の釜憩いの森	土支田八幡宮	MU氏邸	小作原広場	井頭こぶし憩いの森	区立びくに公園	O氏畑	練馬駅周辺ルート	城南住宅ルート	田柄川緑道ルート	立野町ルート	土支田・谷原ルート	石神井川流域	白子川流域
	野鳥の森	その他	稲荷山憩いの森	清水山憩いの森														
合計種数*	117	107	230	206	154	157	103	76	45	112	57	114	158	117	162	154	173	125
	187		282		154	157	103	76	45	112	57	114	158	117	162	154	173	125
帰化植物の種類	19	27	38	25	17	27	24	26	12	47	19	45	30	31	42	43	74	45
	39		41		17	27	24	26	12	47	19	45	30	31	42	43	74	45
帰化率(%)	16.2	25.2	16.5	12.1	11.0	17.2	23.3	34.2	26.7	42.0	33.3	39.5	19.0	26.5	25.9	27.9	42.8	36.0
	20.9		14.5		11.0	17.2	23.3	34.2	26.7	42.0	33.3	39.5	19.0	26.5	25.9	27.9	42.8	36.0

※合計種数は植栽種、逸出種を除く

4) 出現頻度の高い植物

出現頻度の高い植物として、出現頻度 70%以上の種を抽出した。出現頻度は下記のように計算を行った。調査地点は、同じ公園に複数調査地点がある場合は公園ごとにまとめた。具体的には都立光が丘公園 昆虫原っぱ、都立城北中央公園 草地、石神井池、三宝寺池、富士見池、都立光が丘公園バードサンクチュアリ水辺をそれぞれの位置する公園にまとめ、26箇所7ルート、計33地点とした。

$$\text{出現頻度 (\%)} = \text{確認した地点数} / \text{全調査地点数 (33 地点)} \times 100$$

該当する植物は、55種であった(表IV-1-10)。草本類は、日陰になる路傍や人家の庭、公園などの樹林の林床などに生育する種として、ドクダミ、イヌワラビ、ツユクサ、イヌタデなどが挙げられた。日当たりのよい路傍、公園の園路などに多い種は、在来種ではオニタビラコ、カタバミ、ヤブガラシ、ノゲシなど、帰化植物ではハルジオン、ヒメジョオン、ハキダメギク、セイヨウタンポポ、オランダミミナグサなどが挙げられた。木本類では、鳥糞の糞によって種子が散布されるエノキ、ヤマグワ、アカメガシワ、トウネズミモチ、ムクノキ、シュロなどが多く見られた。トウネズミモチは植栽も多い。よく植栽されている種としては、サツキ、アジサイ、ソメイヨシノ、イチョウ、シラカシなどが挙げられた。

表IV-1-10 出現頻度の高い植物(出現頻度70%以上のもの)

種名	出現頻度 (%)	種名	出現頻度 (%)
ドクダミ	100.0	アズマネザサ	81.8
オニタビラコ	100.0	スズメノカタビラ	81.8
カタバミ	97.0	ムクノキ	78.8
イヌワラビ	93.9	サツキ	78.8
ハルジオン	93.9	タチイヌノフグリ	78.8
エノキ	90.9	ハハコグサ	78.8
ヤブガラシ	90.9	ジャノヒゲ	78.8
オオバコ	90.9	ナズナ	75.8
ノゲシ	90.9	アジサイ	75.8
ケヤキ	87.9	ソメイヨシノ	75.8
ヤマグワ	87.9	ツタ	75.8
ツメクサ	87.9	カラスウリ	75.8
アカメガシワ	87.9	ヤエムグラ	75.8
ヘクソカズラ	87.9	ヨモギ	75.8
トキワハゼ	87.9	オオアレチノギク	75.8
ヒメジョオン	87.9	エノコログサ	75.8
ツユクサ	87.9	シュロ	75.8
イヌタデ	84.8	イチョウ	72.7
ミドリハコベ	84.8	シラカシ	72.7
ヒナタイノコズチ	84.8	アオキ	72.7
ハキダメギク	84.8	ヤツデ	72.7
ウラジロチチヨグサ	84.8	キツタ	72.7
セイヨウタンポポ	84.8	チドメグサ	72.7
ヨウシュヤマゴボウ	81.8	オオムラサキ	72.7
オランダミミナグサ	81.8	マンリョウ	72.7
ヘビイチゴ	81.8	セイタカアワダチソウ	72.7
トウネズミモチ	81.8	ケチヂミザサ	72.7
メヒシバ	81.8		

5) 出現頻度の低い植物

重要種以外の区内で少なくなっている在来の植物を抽出するため、出現頻度の低い植物（1～3箇所での確認種）のうち、重要種、帰化種、逸出種、植栽種を除いた在来の自生種を抽出した。該当する植物は192種であった（表IV-1-11）。なお、在来種でも植栽と思われるものは除外して集計した。また、都立石神井公園水辺観察園は以前に釣り堀だった場所を整備したため、植栽種あるいは植栽種に付いた土に種子または孢子が混入していた可能性があり、区内で出現頻度が低い植物が分布していても、在来のものがどの程度あるのか判断が難しいため、集計から除外した。

出現頻度の低い植物の確認が多い調査地点は、都立石神井公園 81 種、都立光が丘公園 60 種、稲荷山・清水山憩いの森 55 種、豊島園 23 種、都立大泉中央公園 11 種、石神井川流域 11 種であった。

生育環境別に見ると、クマワラビ、ヤワラシダ、ヤマイタチシダなど、ある程度湿り気を要する樹林生のシダ植物、落葉広葉樹の二次林に特徴的なトネアザミ、シラヤマギク、ヤマユリ、サイハイランなど、草地生のススキに寄生するナンバンギセル、同じく草地生のノアザミ、トダシバ、湿生植物のオニスゲ、コアゼガヤツリ、カワラスガナなどのカヤツリグサ類などが出現頻度の低い植物として挙げられる。

以上から、出現頻度の低い植物の生育環境として、林床の湿り気を維持できる規模の樹林、踏圧の高くない林床を持つ適切な管理がされた二次林、ある程度の規模を持った踏圧の高くない低茎^{※47}から高茎^{※48}の草地、湿生植物の生えられる水辺や湿り気のある草地などの環境が抽出される。

例えば、都立石神井公園、都立光が丘公園、稲荷山・清水山憩いの森などの大規模緑地、止水域である石神井池、三宝寺池、流水域である石神井川流域がこれらの種の数少ない生育地として主に寄与しているといえる。これらの調査地では、重要種も多く確認しており、同じく重要種を多く確認した豊島園、白子川流域などと併せて、植物の生育地として重要な場所といえる。

また、かつて水田の畦などに生育していたコオニタビラコ、ノミノフスマ、カントウヨメナなどが少なくなっている。さらに、かつては路傍に普通に見られたユウガギク、ミチヤナギ、ノミノツヅリなどの出現頻度が少ないのも特徴的であり、土壌の露出した路傍が少ないことが原因と考えられる。

※47 低茎：茎の高さが低いこと。

※48 高茎：茎の高さが高いこと。

重要種の多く生育する環境と出現頻度の低い植物の生育環境をまとめると以下のような環境が抽出され、区内の植物を保全するに当たって着目すべき環境といえる。

- ・ 林床の湿り気を維持できる規模の樹林
- ・ 踏圧の高くない林床を持つ適切な管理がされた落葉広葉樹の二次林
- ・ ある程度の規模を持つ踏圧の高くない低茎から高茎の草地
- ・ 水生植物、湿生植物が生育できる河川
- ・ 水生植物、湿生植物の生育できる水辺や湿り気のある草地
- ・ 土壌の露出している路傍

これらの樹林、水辺、草地などの環境は適切な管理により維持されているところが多く、維持管理と植物保全をするための維持管理を同時に考えていく必要がある。

表IV-1-1 出現頻度の低い植物（出現箇所が3箇所以下のもの）

種名	出現頻度 (%)	種名	出現頻度 (%)	種名	出現頻度 (%)
クラマゴケ	3.0	コナギ	3.0	ノコンギク	6.1
ワラビ	3.0	コウガイゼキショウ	3.0	トネアザミ	6.1
コバノヒノキシダ	3.0	イボクサ	3.0	コウゾリナ	6.1
クマワラビ	3.0	トダシバ	3.0	ヤブレガサ	6.1
アイノコクマワラビ	3.0	カラスムギ	3.0	シロバナタンポポ	6.1
イヌケホシダ	3.0	ノガリヤス	3.0	ヤマユリ	6.1
ヤワラシダ	3.0	ヒメノガリヤス	3.0	タチシオデ	6.1
ヒメシダ	3.0	アキメヒシバ	3.0	カエデコロ	6.1
ヘビノネゴザ	3.0	ケイヌビエ	3.0	ヤマカモジグサ	6.1
イヌガヤ	3.0	ウシノシツペイ	3.0	キツネガヤ	6.1
アカメヤナギ	3.0	ツルヨシ	3.0	ジュズダマ	6.1
メヤブマオ	3.0	イヌアワ	3.0	タイヌビエ	6.1
ミゾバ	3.0	アオウキクサ	3.0	ドジョウツナギ	6.1
ミチヤナギ	3.0	ウキクサ	3.0	サヤヌカグサ	6.1
ヤブツクエイ	3.0	オニスゲ	3.0	イチゴツナギ	6.1
イヌシヨウマ	3.0	カサスゲ	3.0	コツブキンエノコロ	6.1
ハンショウヅル	3.0	ジュズスゲ	3.0	オオエノコロ	6.1
キツネノボタン	3.0	ミヤマカンスゲ	3.0	コガマ	6.1
マルバウツギ	3.0	ミコシガヤ	3.0	オオアオスゲ	6.1
ヤブハギ	3.0	コジュズスゲ	3.0	ヒメカンスゲ	6.1
ネコハギ	3.0	アゼスゲ	3.0	アゼナルコ	6.1
ヤブツルアズキ	3.0	モエギスゲ	3.0	シラスゲ	6.1
トウダイグサ	3.0	チャガヤツリ	3.0	カワラスゲ	6.1
ヒメミカンソウ	3.0	コアゼガヤツリ	3.0	ゴウソ	6.1
ツタウルシ	3.0	カワラスガナ	3.0	オオイトスゲ	6.1
アオハダ	3.0	ミズガヤツリ	3.0	タガネソウ	6.1
ツルマサキ	3.0	テンツキ	3.0	ヤワラスゲ	6.1
クマヤナギ	3.0	ヤマイ	3.0	タマガヤツリ	6.1
ツルグミ	3.0	イヌホタルイ	3.0	アゼガヤツリ	6.1
ナツグミ	3.0	フトイ	3.0	カンガレイ	6.1
アリアケスミレ	3.0	サイハイラン	3.0	サンカクイ	6.1
エイザンスミレ	3.0	フユノハナワラビ	6.1	タチシノブ	9.1
フモトスミレ	3.0	イヌシダ	6.1	トラノオシダ	9.1
ノジスミレ	3.0	ゲジゲジシダ	6.1	オオイタチシダ	9.1
アカバナ	3.0	モミ	6.1	ヤマイタチシダ	9.1
チョウジタデ	3.0	タチヤナギ	6.1	イタビカズラ	9.1
オカウコギ	3.0	トウゴクヤブマオ	6.1	イシミカワ	9.1
ヤマウコギ	3.0	アカソ	6.1	ノミノツツリ	9.1
ツボクサ	3.0	ノミノフスマ	6.1	コボタンヅル	9.1
ハナウド	3.0	イチリンソウ	6.1	ウツギ	9.1
イワダレソウ	3.0	カンアオイ	6.1	イヌザクラ	9.1
オドリコソウ	3.0	クサノオウ	6.1	クマイチゴ	9.1
アキノタムラソウ	3.0	ダイコンソウ	6.1	モミジイチゴ	9.1
ニガクサ	3.0	ミツバツチグリ	6.1	ヌスビトハギ	9.1
ツルニガクサ	3.0	カマツカ	6.1	カラスザンショウ	9.1
ナンバンギセル	3.0	ウワミズザクラ	6.1	ニガキ	9.1
ヤマウグイスカグラ	3.0	ニガイチゴ	6.1	メダラ	9.1
オトコエシ	3.0	ワレモコウ	6.1	オヤブヅラミ	9.1
シラヤマギク	3.0	フジカンゾウ	6.1	ハシカグサ	9.1
ガンクビソウ	3.0	ツルマメ	6.1	アカネ	9.1
ノアザミ	3.0	メドハギ	6.1	アワゴケ	9.1
ノハラアザミ	3.0	スズメノエンドウ	6.1	アゼナ	9.1
ヒヨドリバナ	3.0	カラスノゴマ	6.1	ツリガネニンジン	9.1
ヨツバヒヨドリ	3.0	ケマルバスミレ	6.1	ニガナ	9.1
ユウガギク	3.0	スズメウリ	6.1	チゴユリ	9.1
コオニタビラコ	3.0	ノダケ	6.1	ウバユリ	9.1
ヤクシソウ	3.0	ヤブニンジン	6.1	シオデ	9.1
オモダカ	3.0	ウマノミツバ	6.1	チゴザサ	9.1
アイノコイトモ	3.0	ヤブヅラミ	6.1	ヒエガエリ	9.1
ノカンゾウ	3.0	ナギナタコウジュ	6.1	キンエノコロ	9.1
ヒメヤブラン	3.0	ハッカ	6.1	ネズミノオ	9.1
ナルコユリ	3.0	ヒメジソ	6.1	ムラサキマムシグサ	9.1
ツルボ	3.0	ウグイスカグラ	6.1	ヒカゲスゲ	9.1
ヤマホトギス	3.0	シロヨメナ	6.1	シュンラン	9.1

6) 各調査地点の植物確認状況

I 北町・田柄エリア

I ① 都立光が丘公園

- ・ **確認種** : 529 種 (自然保全ゾーン 159 種、BS 樹林 184 種、BS 草地 157 種、昆虫原っぱ 142 種、BS 水辺 38 種、その他 389 種)
- ・ **重要種** : 6 種 国 RL : キンラン (VU)、タシロラン (NT)
都 RL : コモチシダ (DD)、アスカイノデ (VU)、タンキリマメ (VU)、セイタカハリイ (—)、キンラン (VU)
- ・ **帰化種** : 59 種 (自然保全ゾーン 10 種、BS 樹林 9 種、BS 草地 19 種、昆虫原っぱ 30 種、BS 水辺 4 種、その他 35 種)
- ・ **帰化率** : 16.8% (自然保全ゾーン 9.5%、BS 樹林 6.6%、BS 草地 13.6%、昆虫原っぱ 23.8%、BS 水辺 12.5%、その他 14.8%)

緑地部分には、樹林地、草地、水辺のあるバードサンクチュアリ (BS) などがある。樹林には、林床へ立ち入りできる樹林、立ち入り制限のある自然保全ゾーン、バードサンクチュアリ内の樹林がある。草地には、芝生広場以外に草本をある程度繁茂させながら管理を行っている、こども虫あそび広場、昆虫原っぱ、バードサンクチュアリ内の草地などがある。水辺には、コンクリート護岸の観賞池、自然を模したエコトーンのある護岸のバードサンクチュアリ内の人工池、水生昆虫誘致池などがある。

都立光が丘公園内には、屋敷森と呼ばれる住居跡があり、庭も含め保全されている。庭の跡地なので、植栽と考えられる種が多いが、在来種が多く生育している場所である。

◆自然保全ゾーン

都立光が丘公園北東部の平坦地に位置する。柵を設けて、公園利用者の立ち入りを制限し、植生の保全を図っている区域である。

自然保全ゾーンの主な植生は、エノキやオオシマザクラなどの植栽林である。高木層は 20m 程度で、もともと公園施工時に植栽したと考えられるエノキやオオシマザクラが優占^{*49}している。亜高木層は 14m 程度で、ミズキ、シラカシなども出現している。下刈りの頻度が低いため、下層植生が繁茂している。低木層は 2.5m 程度で植被率^{*50}は 70% と高く、アズマネザサやシュロが多く生育しているほか、タブノキ、アラカシ、アオキなどの常緑樹が入り込み、常緑広葉樹林への遷移が進んでいる。草本層は 0.5m 程度で低木層で常緑の種が繁茂して、林床に届く光が少ないため、林床が暗く湿った状態で保たれ、ドクダミ、ミズヒキなどのやや湿性を好む種も見られる。また、腐植^{*51}の堆積が進んでいることから、腐生植物^{*52}のタシロランも出現している。

都立光が丘公園では、下草を強度に刈り込んでいる樹林地が大部分を占めるため、自然保全ゾーンの繁茂したアズマネザサが動物の隠れ場になり、動物の生息地としての役割も期待できる。その反面、アズマネザサが繁茂しすぎると、草本類を被圧して、植物相の多様性が低下する可能性もある。

◆バードサンクチュアリ樹林

都立光が丘公園南西部のバードサンクチュアリの池周辺の盛土上に位置する。野鳥保護のためにフェンスで囲み、公園利用者を制限している区域である。

バードサンクチュアリ樹林の植生は、シラカシ、マテバシイ、ムクノキなどの植栽林である。コドラート調査地点では、高木層は15m程度でムクノキが優占しており、亜高木層は8m程度で、ミズキ、コナラ、ムクノキなどの武蔵野台地の二次林を構成する樹木が見られた。低木層は3.5m程度で、ヤツデ、シュロなど、暖地生の常緑樹が出現している。コドラート調査地は下刈りの頻度が低く、草本層は0.8m程度で、アズマネザサの植被率が90%程度と高く、その他の種は、マンリョウ、アマチャヅルなどがわずかに見られる程度であった。樹林全体で見ると、下刈りの頻度が場所によって異なり、下層植生の草丈も異なるため、環境の多様性を高めている。

この区域は、フェンスで人の侵入を禁止し、バードサンクチュアリ内に樹林地、草地、水辺が揃っていることから、野鳥や動物の生息地としての役割も担っている。調査中にハトが食べられた跡が見られ、猛禽類によるものと考えられる。

◆バードサンクチュアリ草地

バードサンクチュアリの池周辺の傾斜地に位置している。野鳥の保護のためにフェンスで囲み、公園利用者を制限している。

バードサンクチュアリ草地の植生は、低茎から高茎の草地である。コドラート調査地点では、オギが優占し、アズマネザサ、セイタカアワダチソウなど高茎草本が多く生育していた。草地に出現するメハジキ、ウマノスズクサ、スズメウリ、アキノエノコログサなどが混在している。草刈りの頻度やタイミングによって、草地の草丈や優占種に違いが見られる。オギがパッチ状^{※53}に刈り残され、草丈に多様性を持たせ、動物の生息地としても多様性を保つように管理がされている。

この草地は、バードサンクチュアリ内の樹林地と水辺に、植生のエコトーンを形成し、バードサンクチュアリ全体の生態系の多様性を高めている。水辺から樹林地にかけて、湿性を好む種から乾性を好む種までが生育することができ、樹林や水辺だけでなく草地も必要とする昆虫類や鳥類の生息地としても機能している。

◆昆虫原っぱ（I⑥）

バードサンクチュアリ南側に隣接する草地に位置している。バッタ類やチョウ類の生息地となるように草刈りの頻度を変えて低茎から高茎草地として管理されている。

昆虫原っぱの植生は、草刈りの頻度により異なっている。草刈りの頻度が、低い場所から高い場所に向かって、優占種は、草丈2mのススキ群落、草丈0.5mのカモジグサ群落、草丈0.3mオオバコ・カゼクサ群落と移行している。ススキ群落では、ススキが高被度で優占するほか、ヤブガラシ、エビヅルなどのつる植物も見られる。カモジグサ群落では、カモジグサ、アキノエノコログサなどのイネ科植物が多く見られる。オオバコ・カゼクサ群落では、草丈が低く、公園利用者の出入りも多いことから、オオバコ、カゼクサなどの踏跡雑草が見られる。

この区域は、昆虫の隠れ場や、吸蜜の場として機能している。特に、高茎のススキ群落は、昆虫の隠れ場となっているほか、吸蜜できる花が咲くヤブガラシ、セイタカアワダチソウ、マツヨイグサなどの植物も混生しており、昆虫の餌場としても機能していると考えられる。

◆バードサンクチュアリ水辺 (W④)

バードサンクチュアリ内に位置する。野鳥の保護のためにフェンスで囲み、公園利用者を制限している区域である。

主な植生は、スイレンの浮葉植物^{※54}群落、高茎の抽水植物^{※55}群落である。ヒメガマ群落、ヨシ群落、ショウブ群落、フトイ群落などの抽水植物群落が見られ、優占種が、場所により異なっている。

この水辺は、水辺から草地、樹林へ移行するエコトーンとなっていることで、生物が生息するバードサンクチュアリの機能を高めている。池に開放水域、水深の深い場所、浮葉植物群落、抽水植物群落があることで水鳥の隠れ場、餌場といった生息地としても機能している。バードサンクチュアリの池は、公園内に整備された池であり環境として安定しているが、放置すると遷移して一面がヨシ群落になって生態系としては、単調になる可能性もある。

※49 優占：ある群落で特に多く、その群落を量的に代表していること。

※50 植被率：調査区の面積に対する、その調査区に生育する植物の垂直投影面積の割合。百分率で表す。
被度のように種ごとでなく、階層ごとに表す。

※51 腐植：土壌中に含まれる有機物のこと。狭義には、植物遺体の分解過程で生ずるフルボ酸、腐植酸、フミン酸などからなる複雑な組成を持つ黒褐色の物質で土壌を肥沃にするといわれている。

※52 腐生植物：光合成による有機物合成で自活することができず、菌類と共生することで有機物を得ている植物。菌類と共生して腐植などから栄養を得ていると考えられていたため、腐生とされたが、実際には腐植を分解する菌類以外の菌との共生も見られる。菌従属栄養植物。

※53 パッチ状：斑状。まとまりのあるものが点在している状態。

※54 浮葉植物：根が水底に固着し、水面に浮く葉（浮葉）を展開する生活形をとる植物。

※55 抽水植物：根が水底に固着し、植物体の一部が水面を突き抜けて空気中に出る生活形をとる植物。

I ② 都立城北中央公園

- ・ 確認種：238種（都民の森 75種、草地 56種、その他 187種）
- ・ 重要種：なし
- ・ 帰化種：45種（都民の森 13種、草地 14種、その他 31種）
- ・ 帰化率：28.5%（都民の森 22.4%、草地 29.2%、その他 26.5%）

緑地部分には、樹林地、草地などがある。樹林は林床への立ち入り制限はない。

◆都民の森

都民の森は、都立城北中央公園南部の平坦部に位置する。公園利用者に開放されており、人の出入りがしやすいようにされている。

主な植生は、ケヤキやクスノキの植栽林である。高木層は15m程度で、ケヤキやクスノキの植栽密度が低いために、樹冠^{※56}が大きく広がり植被率は90%であった。亜高木層は7m程度で植被率は20%であった。低木層は、ほとんど見られず、1m程度のヤブツバキ、クスノキなどがわずかに植栽されているのみである。林床に光は差し込むが、人の往来が多いために、土壌が踏み固められて、草本層には、オオバコ、スズメノカタビラなどの踏跡雑草がわずかに見られる程度である。

都民の森は、人の利用を中心となっている樹林である。高木層、亜高木層は、よく生長しているが、視界をさえぎる低木や、藪をつくる草本は、ほとんど見られない。もともと、高頻度で間伐^{※57}や下刈りをしてきたと考えられるが、現在では、多くの人を利用するため、土壌が踏み固められて、踏跡雑草しか入り込めない状態になっている。

◆都立城北中央公園 草地（I ⑦）

調査対象とした草地は、城北中央公園の南西部の平坦地に位置している。公園利用者が自由に利用できる芝生として維持するように高頻度で草刈りをして管理されている。シバを養生している場所については、フェンスで囲まれていた。

草地の植生は、植栽された草丈0.3m程度のシバ群落が大部分を占めていた。シバのほかに、シロツメクサ、メヒシバなどが出現していた。シバが踏みつけによって、弱ってしまった部分には、カゼクサ、オオバコなどの踏跡雑草が優占している群落も見られた。

※56 樹冠：樹木の枝や葉が茂っている部分のこと。なお森林では、枝葉の茂っている上部の層を林冠という。

※57 間伐：利用する目的のある樹木の生長を促すために、樹木を間引く作業。

I ③ どんぐり山憩いの森

- ・ 確認種：144 種
- ・ 重要種：なし
- ・ 帰化種：16 種
- ・ 帰化率：15.7%

どんぐり山憩いの森は、樹林がロープ柵で仕切られ来園者は通路のみを歩く様になっている。西側の樹林は、クリの植栽林で、高木層はクリ、亜高木層、低木層は無く、草刈りが頻繁にされているためか、草本層の植被率は低い。東側の樹林の高木層は 16m 程度でイヌシデ、クヌギ、ムクノキ、ケヤキなどが見られた。亜高木層は 10m 程度でシラカシなどが見られ、低木層は 2m 程度でアオキなどが見られた。林床は暗く、草本層には、アズマネザサ、ケチヂミザサなどが見られたが、種数は少なかった。この樹林は、二次林だった場所に遷移過程でシラカシが入り込み、常緑広葉樹林化している状態といえる。現在はロープ柵で立ち入りを制限されているものの柵内の林床も踏み固められており、全体に林床の植物は少なかった。

I ④ 八幡神社

- ・ 確認種：166 種
- ・ 重要種：なし
- ・ 帰化種：24 種
- ・ 帰化率：18.8%

八幡神社は、平坦地に樹木が植栽されている。境内は開放され一般の参拝者が自由に入出りできる。

主な植生は、ヒノキ植栽林である。高木層に樹高 18m 程度のヒノキが優占しており、ケヤキ、シラカシなども生育している。参拝者が歩きやすいように間伐、下刈りなどの管理が強度に行われており、亜高木層、低木層は、樹木が見られない。草本層も植被率 5% 程度であり、ドクダミなどが見られるほか、オオバコ、ハルジオン、カタバミなどがわずかに見られる程度である。

八幡神社は、境内にあたり、参拝者が利用できるように管理がよくされている。高木層のヒノキやシラカシはよく生長しているが、間伐や下草刈りが強度に行われているため、亜高木層、低木層には、樹木が見られない。草本層も踏み固めの影響が大きくわずかに見られる程度である。

区内では少ないウラシマソウが見られた。常緑広葉樹林帯の低地の湿った林に見られるウラシマソウの生育地として神社に残された樹林が寄与していると考えられる。しかし、八幡神社でも個体数は少ない状態である。

I ⑤ U氏邸

- ・ 確認種 : 105 種
- ・ 重要種 : なし
- ・ 帰化種 : 2 種
- ・ 帰化率 : 3.0%

U氏邸は、敷地境界にケヤキが多く植えられ、樹齢400年とも言われる大径木が多い。敷地内の樹林の高木層は26m程度で高木層の高さとしては、調査地の中で最も高くなった。高木層はムクノキ、シラカシが優占し、亜高木層は15m程度でシラカシなどが見られた。低木層は樹林内の一角で発達しており、5m程度でトウネズミモチが優占していた。低木層の発達した場所の草本層は高さ0.6m程度で、キツタ、アズマネザサが見られた。低木層の発達していない場所では、草本層にケチヂミザサ、ジャノヒゲなどが見られた。草本層に帰化植物のノハカタカラクサが増え始めていたが、草刈り管理が定期的にされているため、優占はしていなかった。

I ⑧ 高松市民農園

- ・ 確認種 : 99 種
- ・ 重要種 : なし
- ・ 帰化種 : 28 種
- ・ 帰化率 : 33.7%

高松市民農園は、比較的粗放管理で、敷地の一角に草丈が高くなった場所も見られ、メヒシバ、アキノエノコログサなどの群落も見られた。畑で草花を育てる人もおり、チョウ類など吸蜜にくる昆虫が見られた。

畑は除草されているため、草本の被度は少ないが、ニワホコリ、スベリヒユなどが比較的多く見られ、区内の他の場所ではあまり見られなかったアゼナが比較的多く確認された。また、栽培されていたカミツレが逸出し、群落を作っていた。

II 豊玉・中村エリア

II① 武蔵学園 (7.1ha)

- ・ **確認種** : 311 種 (理科棟脇 104 種、その他 245 種)
- ・ **重要種** : 1 種 都 RL : イワヒメワラビ (DD)
- ・ **帰化種** : 36 種 (理科棟脇樹林 6 種、その他 28 種)
- ・ **帰化率** : 17.1% (理科棟脇樹林 7.6%、その他 17.7%)

武蔵学園には、敷地境界に植栽されたケヤキの巨木が多く、ねりまの名木百選に選定されているものもある。構内には、濯（すすぎ）川と呼ばれる小川が流れている。濯川は千川上水の分水の一部が復元されたもので、現在は水を循環させている。

◆理科棟脇樹林

理科棟脇樹林は、武蔵学園南東部に位置している。学園の敷地の端にあり、管理がゆるやかなため、林の階層構造が見られる。

高木層には、樹高 15m 程度のミズキが優占し、スダジイも多く見られた。亜高木層では、高さ 6m 程度のトウネズミモチが優占しているほか、アオキ、シラカシなどが出現している。低木層は、高さ 1.5m 程度であり、アオキ、ヤツデなどの常緑樹やアズマネザサが目立っている。草本層は、部分的に人の往来によって踏み固められた部分もあることから、植被率 10% 程度と低く、ムクノキの実生^{※58}やナガバジャノヒゲなどが見られた。校舎の陰で暗くなる部分では、ドクダミなども見られた。

この樹林は、もともと植栽された樹木と植栽後に入り込んできた樹木が混在している。高木層では、植栽されたと考えられるスダジイ、ミズキなどが見られたが、低木層～亜高木層にかけては、もともと植栽されていたトウネズミモチ、カキノキの間に、陽樹^{※59}のアカメガシワ、ムクノキや、常緑広葉樹林の林床に見られるアオキ、ヒサカキなどが入り込んでいると考えられる。

※58 実生：種子から発芽して生じた植物。

※59 陽樹：よく日が当たる場所でないと生長できない樹木。

II② 豊島園 (30ha)

- ・ **確認種** : 363 種 (庭の湯周辺林 224 種、石神井川沿い斜面林 125 種、その他 198 種)
- ・ **重要種** : 5 種 都 RL : ナツノハナワラビ (CR)、コシダ (・)、アスカイノデ (VU)、ハシゴシダ (DD)、ハンノキ (VU)
- ・ **帰化種** : 48 種 (庭の湯周辺林 17 種、石神井川沿い斜面林 16 種、その他 31 種)
- ・ **帰化率** : 18.9% (庭の湯周辺林 11.5%、石神井川沿い斜面林 15.0%、その他 22.3%)
- ・ **特定外来生物** : 2 種 オオカワヂシャ、オオキンケイギク

豊島園は、練馬城跡が明治後期に豊島公園となり、大正 15 年 9 月に一部開園した。現在は遊園地として利用されている。ある程度まとまった樹林があり、園内を石神井川が流れている。

◆豊島園 庭の湯周辺林

庭の湯は、豊島園南東部に位置している。温泉施設の景観をよくする庭園として整備され、もともと社寺林だった林の間に池があり、池の周辺は観賞用の植物が植栽されている。

庭の湯周辺林の高木層は 14m 程度でクスノキ、ハンノキ、イヌシデが生育し、亜高木層は 8m 程度でマテバシイ、キンモクセイ、ヒサカキなどが生育していた。ハンノキは、水辺に生育する樹木であり、庭の湯が社寺林として利用されていた頃に植栽されたと考えられる。低木層は 3.5m 程度で植被率は、10%程度と低く、ヒサカキ、ヒメコウゾ、ヤマグワなどの木本が出現していた。草本層は 0.5m 程度でケチヂミザサが優占していたほか、ヤブミョウガ、ジャノヒゲなど樹林に見られる草本と、ヨウシュヤマゴボウ、ヒメスミレなど草地に見られる草本が混在していた。また、オニマトタビ、ヘクソカズラといったつる植物も出現していた。

◆石神井川沿い斜面林

石神井川沿いの斜面林は、豊島園内を流れる石神井川沿いの南側の斜面に位置している。斜面部のため、園地として利用されず、樹林が残されている。

石神井川沿い斜面林の高木層には、樹高 15m 程度のスダジイが優占しているほか、イイギリも見られた。亜高木層は 6m 程度で、スダジイ、モチノキなどが見られた。低木層は 1.5m 程度で、アズマネザサが優占しており、アオキ、シュロ、スダジイなどの常緑樹が出現していた。上層をスダジイやアズマネザサが覆っているため、草本層の植被率 10%程度と低く、ベニシダ、ナガバジャノヒゲ、ヤツデなどがわずかに生育していた。

この区域は、面積は狭いが、利用しにくい斜面部にあるため、伐採されずに残ったスダジイ群落が見られる。スダジイ群落は、関東地方では、自然林を構成する樹林であり、自然植生が残存したものと考えられる。自然植生が残存している場所は区内では少なく、調査地の中では三宝寺池と本調査地点のみであり、貴重な植生であるといえる。

II③ 廣徳寺・区立高稲荷公園

- | | |
|------------|------------------------|
| ・確認種：304種 | (廣徳寺 281種、区立高稲荷公園 73種) |
| ・重要種：1種 | 都 RL：タチクラマゴケ (CR) |
| ・帰化種：25種 | (廣徳寺 25種、区立高稲荷公園なし) |
| ・帰化率：13.5% | (廣徳寺 15.0%、区立高稲荷公園 0%) |

廣徳寺と区立高稲荷公園は樹林として一体と見なしたが、タイプの違う樹林が隣接しているため、両方を調査地とした。区立高稲荷公園は、イヌシデの斜面林のみを調査対象とした。

◆廣徳寺

廣徳寺は、石神井川沿いの河岸段丘の平坦地にあり、墓地の周辺に樹木が植栽されている。参拝者が利用しやすいように、よく管理されている。

主な植生は、モウソウチクやヒノキの植林である。敷地境界にケヤキが列状に植林された一角もあった。モウソウチク植栽林では、高木層に、樹高 10m 程度のモウソウチクが優占している。間伐、下草刈りなど、管理が徹底されており、亜高木層、低木層には、植物が見られず、見通しがよくされている。草本層は、高さ 0.4m 程度であり、ドクダミ、ツユクサ、ヤブミョウガなどのやや湿性を好む種が目立っていた。ヒノキ植栽林では、高木層に樹高 16m 程度のヒノキが優占していた。ヒノキ植栽林は、廣徳寺の縁にあるため、周辺からの視界を遮断するため、管理の程度を低くしている。そのため、亜高木層、低木層は、植被率 20～30% 程度に維持され、ヒサカキ、ヤブツバキ、モチノキなどの常緑広葉樹が目立っていた。草本層は、林内が暗く、歩道になって踏み固めの影響も見られることから、植被率 3% 程度と、ほとんど植物が見られず、シュロの実生がわずかに見られる程度であった。ヒノキ植栽林は、廣徳寺の境内に当たり、景観や安全の観点から管理がよくされている。管理により、樹林の生育環境が維持されている反面、出現種数が少ない傾向が見られた。

◆区立高稲荷公園

区立高稲荷公園の樹林は、公園南部の斜面部に位置している。フェンスを設置して、樹林が保護されている。

主な植生は、イヌシデ群落である。高木層に樹高 15m 程度のイヌシデが高被度で優占しており、亜高木層は 6m 程度で、ムクノキ、ミズキがわずかに見られる程度であった。低木層は 0.5m 程度で、アオキ、シュロ、トウネズミモチなどの常緑樹や、ムクノキ、ムラサキシキブなどの落葉樹が出現していた。樹林はフェンスで囲まれているが、土壌の踏み固めが見られた。そのため、草本層は萌芽力の強いアズマネザサを除くと、イヌワラビ、ヤブコウジなどがわずかに見られる程度であった。

この樹林は、石神井川沿いの斜面林が二次林として残った場所である。現在は、フェンスで囲まれて、保護されている。神社と公園にはさまれた人の集まる場所で、土壌の踏み固めがあることから、以前は、人の利用があったことが推定される。踏み固めの影響から、植物種の出現種数は限られるが、石神井川沿いに哺乳類や鳥類が移動する拠点の樹林としての機能は期待できる。

II④ 氷川神社

- ・確認種：149種
- ・重要種：1種 都RL：イワヒメワラビ（DD）
- ・帰化種：11種
- ・帰化率：11.8%

氷川神社は、平坦地に樹木が植栽されている。境内は開放され一般の参拝者が自由に入出りできる。

主な植生は、シラカシ群落である。サワラ、ヒノキ、スギの植栽林もあるが、規模は小さい。シラカシ群落の高木層は12m程度でシラカシが高被度で優占しているほか、ミズキ、ソメイヨシノ、ヒノキの植栽木が見られた。亜高木層は8m程度で、植栽されたヒサカキが生長し高被度で優占しているほか、タブノキ、シロダモなどの常緑の陰樹^{※60}も入りこんでいた。低木層は2m程度で、シュロ、アオキ、ネズモチなどの常緑樹が目立っていた。草本層は、植被率10%程度であり、シュロ、クマザサ、アズマネザサなどが見られた。

氷川神社の樹林は、植栽されたシラカシやソメイヨシノが生長してできたと考えられる。植栽地であるが、潜在自然植生の構成種であるシラカシが生育し、常緑広葉樹林へと遷移が進み、林内にシロダモ、タブノキなども入り込んでいる。

公園ではあまり見られないコスミレ、スマレが通路沿いや木の根元に生育していた。いずれも踏み固められた土壤に生育していた。

II⑤ N氏邸

- ・確認種：191種
- ・重要種：なし
- ・帰化種：15種
- ・帰化率：11.5%

N氏邸は、個人宅の庭の平坦地に樹木が植栽されている。住人が庭園の景観を楽しむように、剪定、落ち葉かきなどの管理がされている。

主な植生は、ムクロジ植栽林である。高木層には、樹高12m程度のムクロジが優占していたほか、ケヤキ、コブシ、シロダモなどが植栽されていた。亜高木層は8m程度で、ヒサカキ、ウメ、モッコクなど、様々な観賞用の樹木が植栽されていた。庭園内を歩けるように管理してあるため、草本層の植被率は、5%程度と低く、花壇のようにして植栽されたハランを除くと、わずかに芽を出した実生の植物が見られる程度であった。

公園ではあまり見られないコスミレが軒下の土壤が踏み固められた場所に生育していた。雨だれで窪んだところに列になって生育していた。

N氏邸の樹林は、庭木が植えられた場所である。自然状態の樹林とは異なるが、花や実が目立つ樹種が植えられており、鳥類や昆虫類の餌場としての役割は担っていると考えられる。

※60 陰樹：耐陰性が強く日陰や暗い林床でも生長できる樹木。

Ⅲ 石神井・関町エリア

Ⅲ① 都立石神井公園 (20.1ha)

- ・ **確認種** : 614 種 (野鳥誘致林 142 種、石神井城址 157 種、水辺観察園 343 種、石神井池 120 種、三宝寺池 122 種、その他 379 種)
- ・ **重要種** : 27 種 国 RL : マツバラシ (NT)、カキツバタ (NT)、ヒメミクリ (VU)、キンラン (VU)
都 RL : マツバラシ (―)、クモノスシダ (DD)、ホソバナライシダ (EN)、アスカイノデ (VU)、ハリガネワラビ (CR)、オノエヤナギ (NT)、ハンノキ (VU)、コウホネ (VU)、ハンゲシヨウ (CR)、ミズオトギリ (EX)、ゴキヅル (VU)、ミツガシワ (CR)、ミズハコベ (EX)、シロネ (VU)、ヘラオモダカ (NT)、ワニグチソウ (VU)、カキツバタ (EN)、ハリコウガイゼキシヨウ (・)、ヌマガヤ (・)、マコモ (NT)、シヨウブ (VU)、ヒメミクリ (DD)、ヤガミスゲ (NT)、コマツカサススキ (VU)、ウキヤガラ (NT)、ギンラン (VU)、キンラン (VU、)
- ・ **帰化種** : 56 種 (野鳥誘致林 4 種、石神井城址 2 種、水辺観察園 23 種、石神井池 19 種、三宝寺池 18 種、その他 30 種)
- ・ **帰化率** : 13.0% (野鳥誘致林 4.4%、石神井城址 1.8%、水辺観察園 8.7%、石神井池 19.6%、三宝寺池 16.2%、その他 11.4%)

石神井公園は、道路を挟んで石神井池、三宝寺池があり、それを取り囲むように樹林がある。樹林は園路以外は柵により立ち入り制限が行われている。

◆野鳥誘致林

野鳥誘致林は、石神井公園西側の平坦地に位置する。野鳥を誘致する目的で、フェンスで囲まれ保護された樹林である。

主な植生は、コナラ群落である。高木層に樹高 15m 程度のコナラが高被度で優占しているほか、ムクノキ、イイギリなどの落葉樹が生育している。亜高木層は 10m 程度で、ヒサカキ、ヒノキが出現していた。低木層は 4m 程度で、イヌツゲ、ユズリハ、ネズミモチなどの常緑樹が目立っていた。フェンスで人の出入りを制限しているため、草本層の植被率は、60%程度と高く、ジャノヒゲ、ヤブランなどの草本類、ハウチャクソウ、ウバユリなどのやや湿性を好む種、キヅタ、サネカズラなどのつる植物も出現していた。

野鳥誘致林は、ヒノキ、イイギリなどの植栽種とコナラ、ムクノキなどの二次林の構成種が混在している。元々、公園の植栽地だった場所を、野鳥誘致林として、管理の頻度を低くしたため、二次林の構成種が増えていると考えられる。

◆石神井城址

石神井城址は、石神井公園三宝寺南側の微高地に位置している。城跡に残った樹林をフェンスで囲い公園利用者が進入できないようにされている。

主な植生は、植栽されたヒノキとシラカシが混在した樹林であった。高木層は 20m 程度で

ヒノキが優占し、シラカシも混在していた。垂高木層は 10m 程度で、シラカシ、ムクノキ、イロハモミジなどが生育していた。低木層は高さ 4m 程度であり、アオキ、シュロ、ヒサカキなどの常緑樹が目立っていた。草本層は、草丈 0.7m 程度でアズマネザサが優占しているほか、ヤブミョウガ、ナガバジャノヒゲなどが生育していた。

石神井城址には、城の周辺の植栽された樹林が残っている。もともと人為的に植栽された樹林ではあるが、植栽されたヒノキやシラカシが 20m 程度の大木に生長して、風格をもっている。城址としての文化的な価値のほか、動物の生息地としての役割も期待できる。高い樹林は、野鳥の生息地になり、林内は、タヌキなどの動物の隠れ場になると考えられる。

◆水辺観察園

水辺観察園は、石神井公園三宝寺池の北東側にある湿地で、維持管理がされている。釣り堀だった場所に造成されたものである。

水辺観察園は、様々な湿生植物が生育している。湿地生の植物が生育できるように、水位や草刈りの頻度を変えて管理されており、水位の高い部分では、アサザ、ヒツジグサなどの浮葉植物、水位の低い部分では、ミツガシワ、コウホネなどの抽水植物、湿った部分では、ハンゲショウ、ヌマトラノオ、チョウジソウなどの湿地生の種、その周辺では、フジバカマ、などの草地生の種といった様々な種が植栽されている。湿生植物が生育しやすい環境をつくっていることで、ミズニラなど、新たな湿生植物も入りこんでいる。

外部から持ち込まれた植栽種がほとんどであるが、ハンノキは三宝寺池周辺からの飛来種子由来と考えられる。また、カキツバタは三宝寺池の中の島から移植されたものである。

この区域は、人為的に管理して植物種の多様性を高めている。一般に湿地の植生は、水の流れが安定すると、高茎のヨシやヤナギ類が繁茂する傾向がある。水辺観察園も放置するとヨシが繁茂すると考えられる。管理することで、近年、生育地が失われて少なくなっている湿生植物の保存の場として機能している。

◆石神井池 (W①)

石神井池は、石神井公園の東側にある池である。ボート乗り場があり、公園利用者がボートに乗ることができる。

池の西端と東側の木道沿いを中心にヨシやマコモなどの抽水植物群落が成立している。また、池の周辺には、公園整備の際に残されたと思われる湿地生のハンノキの高木が点在している。

石神井池は、公園の西側にある三宝寺池と比較すると、人の利用に重点がおかれている。ボートの利用のため、池の水面の植物はほとんどなく、水際に抽水植物群落が帯状に見られる程度である。

◆三宝寺池 (W②)

調査がすでに行われているため、文献調査とした。文献は、「石神井公園三宝寺池植物群落復元追跡調査報告書 平成 21 年 2 月」、「同 平成 22 年 2 月」、「同 平成 23 年 2 月」に記載された平成 20～22 年度の調査データをまとめた。なお、陸側から三宝寺池まわりを調査した際に確認した種（メリケンガヤツリ）を 1 種追加した。

三宝寺池沼沢植物群落は、文化財保護法により国指定の天然記念物として指定されている。三宝寺池の外周部にはハンノキオニスゲ群集、三宝寺池の中の島にはカサスゲ群集があり、都内でも数少ない自然植生が残存している。

カキツバタ、コウホネ、ミツガシワなどの群落が見られるほか、重要種を 19 種確認し、全調査地点の中で最多である。他の調査地点で確認していないマツバラシ、ヘラオモダカ、ヒメミクリなどの重要種は 13 種にものぼった。

Ⅲ② 区立武蔵関公園

- ・ **確認種**：261 種 （葦の島 107 種、富士見池 65 種、その他 201 種）
- ・ **重要種**：なし
- ・ **帰化種**：36 種 （葦の島 13 種、富士見池 14 種、その他 22 種）
- ・ **帰化率**：20.2% （葦の島 14.9%、富士見池 23.3%、その他 17.6%）
- ・ **特定外来生物**：2 種 アレチウリ、オオキンケイギク

区立武蔵関公園は、富士見池のまわりに樹林地が整備され、池を一周できる園路が整備されている。富士見池には、北端に松の島、南端に葦の島という 2 つの島がある。富士見池を囲む樹林地は幅が狭く、園路を中心としているため踏圧が高く、草本層は発達していない。よって、階層構造の発達した葦の島をコドラート調査地とした。

◆区立武蔵関公園 葦の島

葦の島は、区立武蔵関公園の南西部に位置している。公園内の富士見池の中にあるため、人が進入できない状況になっている。

葦の島の主な植生は、メタセコイア植栽林である。高木層に樹高 25m 程度のメタセコイアが植栽されている。亜高木層は、6m 程度でタブノキ、ヒサカキなどの常緑広葉樹が目立っていた。低木層は 3m 程度で植被率は 70% 程度と高く、シュロ、アオキ、シロダモなどの常緑広葉樹が目立っていた。草本層は 0.3m 程度で、スイカズラ、サネカズラなどのつる植物や、ドクダミ、オオバジャノヒゲなどの草本類が見られた。

葦の島では、植栽されたメタセコイアが大きく生長してランドマークとなるような樹林を形成している。池があるため、人が島に進入できず、林内で遷移が進んでいる。落葉針葉樹のメタセコイアの下層が、落葉広葉樹の二次林と似た環境になっているため、落葉広葉樹の下層で生長する陰樹であるタブノキなどが入りこんでいる。

◆富士見池 (W③)

富士見池は、区立武蔵関公園にある池で、市民がボートを利用できるようになっている。富士見池の水際は、コンクリート護岸がされており、水際の植生はほとんど見られない。葦の島にヨシ群落が見られる程度であった。護岸の隙間にはホウライシダ、ヤブソテツ、オニヤブソテツ、イノモトソウなどが見られた。

Ⅲ③ 東京カトリック神学院

- ・ 確認種：267種（雑木林種148種、その他173種）
- ・ 重要種：2種 都RL：ウマノスズクサ（VU）、キツネノカミソリ（VU）
- ・ 帰化種：43種（雑木林18種、その他34種）
- ・ 帰化率：23.2%（雑木林15.4%、その他31.8%）
- ・ 特定外来生物：1種 オオキンケイギク

東京カトリック神学院は、石神井川の南側に面し、クヌギの雑木林、ヒマラヤスギなどの針葉樹を中心とした植栽地、シバ草地、花壇、畑、グラウンドなどがある。

◆雑木林

雑木林は、東京カトリック神学院の西部の平坦部～斜面部に位置している。東京カトリック神学院が建設される前にあった樹林が残されたと考えられる。

主な植生は、クヌギ群落である。高木層には、樹高20m程度もあるクヌギが優占しており、イヌシデ、イロハモミジなども生育していた。亜高木層は8m程度でシラカシ、エゴノキなどが出現していた。低木層は3m程度で、アオキ、シュロ、シロダモなどの常緑樹が生育していた。草本層は0.5m程度で、アズマネザサが優占しており、ハエドクソウ、ケチヂミザサなどの草本類が生育していた。

この雑木林は、面積は広くないが、下刈りが行われており、里山^{※61}の二次林の環境が維持されている。学院内で人の侵入も少なく、踏み固めの影響も限られていた。クヌギから樹液が出ていたため、調査時にも、樹液に集まる生きたカブトムシや鳥に食べられたカブトムシの死骸も確認し、動物の生息地、餌場として利用されていると推測される。

※61 里山：薪や炭を生産する薪炭林、堆肥をつくるための落葉落枝、草などを集めるための農用林など集落に隣接した人が生活のために利用する林のこと。周辺の集落、農地、ため池、採草地なども含む場合もある。

Ⅲ④ 天祖若宮八幡宮

- ・確認種：183種
- ・重要種：なし
- ・帰化種：23種
- ・帰化率：16.5%

天祖若宮八幡宮は、平坦地に樹木が植栽されている。ロープを張って、参拝者が立ち入れる場所とを区分けしている。

主な植生は、ヒノキ植栽林が大部分を占めている。高木層には、樹高20m程度のヒノキが高被度で優占している。神社の境内にあり、下刈りが定期的に行われているため、亜高木層は見られず、低木層にも樹高5m程度のヒサカキがわずかに残される程度である。草本層は0.5m程度で、ドクダミが優占しているほか、ホウチャクソウ、ヒトリシズカ、ハエドクソウといった種が見られた。

ヒノキ植林地は、下刈りなどの管理がおこなわれ、人の進入が規制されている。そのため、土壌が踏み固められずに、軟らかい状態で保たれていた。同じヒノキ林でも、八幡神社では、人の出入りが自由で踏み固めの影響が強いため、林床には、ドクダミなどがわずかに見られる程度であった。天祖若宮八幡宮のヒノキ植林地は、進入規制があるため土壌がやわらかく、亜高木層を欠き低木層の植被率が低いことで林床がある程度明るく、落葉広葉樹の二次林に出現するようなホウチャクソウ、ハエドクソウなどやや湿性を好む種が生育できる環境として維持されていた。このような林床の植物が多く生育できる環境は区内では貴重である。

帰化植物であるヒメヒオウギズイセンが林縁部を中心に分布を広げていた。在来の林床植物が被圧されないように選択的に抜き取りが必要と考えられる。

Ⅲ⑤ MO氏邸

- ・確認種：105種
- ・重要種：1種 国RL：キンラン (VU)
都RL：キンラン (VU)
- ・帰化種：5種
- ・帰化率：7.8%

MO氏邸の高木層は23m程度のシラカシが多く、東側の敷地境界にはケヤキが一行植栽され、大木になっていた。10m程度の亜高木層もシラカシが優占し、ネズミモチ、シュロなども多く見られた。低木層は2.5m程度で、ヒサカシが多く、アオキなども見られた。草本層は0.8m程度で高木層由来のシラカシの実生が多く、アズマネザサ、シュロなども見られた。

敷地境界に植栽されたケヤキの根元にキンランを一株確認したが、林床が暗く、近くに剪定枝などが積まれ、落ち葉かきがされていないため、生育には不適と考えられる。キンランが存在しているということは、かつては、里山の二次林のように林床が明るく保たれ、落ち葉かきがされていたと考えられる。建物と敷地境界の狭い場所にあるため、明るい林にするのは難しいが、ケヤキの枝落としや積まれた剪定枝の撤去、落ち葉かきなどの管理を行えば、キンランの埋土種子が発芽する可能性もある。

Ⅲ⑥ 石泉愛らんど

- ・確認種：54種
- ・重要種：なし
- ・帰化種：17種
- ・帰化率：32.7%

屋敷林と隣接した畑だが、植物調査は畑のみを対象とした。畑は除草管理がされているため、作物以外の草本は少ないが、ハキダメギク、ゴウシュウアリタソウ、スベリヒユなどを確認した。

畑という場所柄、土や肥料、種子と一緒に草本の種が運び込まれる機会が多いと考えられるが、本来南西諸島から沖縄に生育するヤンバルミチヤナギを確認した。

IV 大泉・土支田エリア

IV① 都立大泉中央公園

- ・ **確認種**：273種（野鳥の森 151種、その他 172種）
- ・ **重要種**：1種 都 RL：ウマノスズクサ（VU）
- ・ **帰化種**：39種（野鳥の森 19種、その他 27種）
- ・ **帰化率**：20.9%（野鳥の森 16.7%、その他 25.5%）

園内には、野鳥の森、樹木の植栽地、シバ草地、チョウの食草^{※62}を植えたチョウの里、野球場、競技場などがある。

園内でアリアケスミレを確認しており、調査地の中では唯一の確認地点となったが、植栽の可能性が高い。シバ草地の日当たりの良い法面などにカントウタンポポの群落が見られた。

◆野鳥の森

大泉中央公園の南西部の平坦地に位置している。樹林の中に遊歩道があるが、歩道以外も比較的踏圧が高い。林内にカントウタンポポの群落があり、ロープ柵で立ち入りが制限されていた。

主な植生は、オオシマザクラの植栽林である。高木層は、樹高 12m程度であり、オオシマザクラが優占しているほか、ミズキ、ウワミズザクラ、ケヤキなどの落葉広葉樹が多く生育している。林内は、間伐や下刈りが行われており、亜高木層、低木層は、植被率 10～15%程度と低く保たれていた。亜高木層にはヤブツバキ、アラカシなど、低木層にはアオキ、ヒサカキなどが生育していた。草本層は、ケチヂミザサが優占し、ヤブラン、ジャノヒゲなどの草本類が見られるほか、オオバコなどの踏跡雑草も出現している。

林床の一角に区内では少ないアオイスミレの群落が見られたが、草刈り頻度が非常に高く、群落が縮小傾向にあった。

※62 食草：食植性の昆虫が食べる植物。例えば、モンシロチョウはアブラナ科植物を食べるなど、特定の食草を持つ種がいる。

IV② 稲荷山憩いの森・清水山憩いの森

- | | |
|------------|---|
| ・確認種：366種 | (稲荷山憩いの森 289種、清水山憩いの森 254種) |
| ・重要種：8種 | 国 RL：キンラン (VU)
都 RL：ハリガネワラビ (CR)、ニリンソウ (NT)、イカリソウ (EN)、ヤマブキソウ (CR)、カタクリ (VU)、ワニグチソウ (VU)、キツネノカミソリ (VU)、キンラン (VU) |
| ・帰化種：41種 | (稲荷山憩いの森 38種、清水山憩いの森 25種) |
| ・帰化率：14.5% | (稲荷山憩いの森 16.5%、清水山憩いの森 12.3%) |

2つの憩いの森は隣接しており、白子川沿いの斜面部に残された樹林に位置している。カタクリの自生地として有名である。清水山憩いの森の湧水は東京の名湧水 57 選に選定されている。

◆稲荷山憩いの森

稲荷山憩いの森は、利用者が通行する場所がロープで分けられている。

主な植生は、クヌギ群落などの二次林である。スギ、ヒノキの植栽林、シラカシ群落、ムクノキ群落、アカマツ群落などもあった。クヌギ林の高木層には、16m程度のクヌギが優占しており、亜高木層は 10m 程度で、ミズキ、ケヤキ、シラカシ、コブシなどが生育していた。低木層は 1.5m 程度で、下刈りのときに残されたクサギなどがわずかに見られる程度である。草本層には、アズマネザサが優占するが、下刈りが行われており、草丈が 0.4m 程度で抑えられていた。アズマネザサのほかに、タチツボスミレ、ドクダミ、ハエドクソウ、ワニグチソウなどの草本が見られた。

稲荷山憩いの森は、里山の二次林の状態に維持されている。ロープで人の進入を規制することで、土壌の踏み固めを避けている。また、下刈りを行うことで、林床にアズマネザサが繁茂することを防いでおり、林床に光が差し込むため、様々な草本類が生育できるようになり、植物相の多様性を高めている。清水山憩いの森よりも規模は小さいが、カタクリの群生地がある。

◆清水山憩いの森

清水山憩いの森は、稲荷山憩いの森と同様に、利用者が通行する場がロープで制限されている。

主な植生は、イヌシデ群落である。高木層には、16～20m程度のイヌシデが優占しており、亜高木層には 8m 程度のイヌシデが生育していた。低木層は 3m 程度で、下刈りの際に、選択して残された樹木のみが生育しているため、植被率は 10%以下で、サワフタギ、イヌツゲ、エゴノキなどがわずかに残っていた。草本層は、アズマネザサが優占しているが、下刈りを行っているため、草丈が 0.5m以下で抑えられている。アズマネザサのほかに、タチツボスミレ、ハエドクソウ、コチヂミザサなどの草本が見られた。また、ヤマブキソウ、キンランなどの重要種も確認した。

清水山憩いの森は、良好な里山の二次林の状態に維持されている。ロープによる進入制限や下刈りの管理により、柴刈りが定期的に行われていた里山の二次林の環境に近い状態をつくりだしている。清水山憩いの森は、カタクリが群生する場所としても知られており、植物相の多様性が高い環境といえる。

IV③ 八の釜憩いの森

- ・確認種：213種
- ・重要種：なし
- ・帰化種：17種
- ・帰化率：11.0%

八の釜憩いの森は、水路沿いの斜面に残った樹林である。遊歩道が設置され樹林内に入れるようになっている。

主な植生は、コナラやケヤキが優占する二次林である。北側では、高木層にコナラが優占する植分^{※63}があり、南側では、高木層にケヤキが優占する植分が見られ、間伐や下刈りなどの管理は、どちらの植分でも同様におこなわれており、亜高木層～草本層には、大きな違いは見られない。亜高木層では、コナラ、ケヤキのほか、ミズキ、エゴノキなどの落葉樹が見られた。低木層の植被率は40%程度であり、ヤマブキが優占しているほか、シュロ、ムラサキシキブ、トウネズミモチなどが見られた。草本層は、アズマネザサが高被度で優占しているが、下刈りなどの管理が行われており、タチツボスミレ、ヤブランなどの草本、イヌワラビ、ベニシダなどのシダ植物、ツタ、ヘクソカズラなどのつる植物も出現していた。

樹林内は、柵で遊歩道が設置されているが、水路が子どもの遊び場になっており、林内にも立ち入ることから、踏み固めの影響が見られる。

※63 植分：種組成や群落構造がほぼ均質な群落のまとまりのことを指す。

IV④ 土支田八幡宮

- ・ 確認種 : 182 種
- ・ 重要種 : 2 種 都 RL : クモノスシダ (DD)、ハリガネワラビ (CR)
- ・ 帰化種 : 27 種
- ・ 帰化率 : 17.2%

土支田八幡宮は、ゆるやかな傾斜地にあり、樹木が植栽されている。境内は開放され、一般の人も利用できる場所である。

主な植生は、スギ植栽林である。境内は、全般的に利用者による踏み固めの影響が見られた。高木層の被度が高い林床の暗い林と間伐により、スギの植栽密度が低いため、林内が明るく、様々な草本類が生育する林が見られた。コドラート調査では後者を対象とした。

コドラート調査地点は、境内の端にあり、周辺の道路から段差がある入りにくい場所のため、踏み固めの影響が限られている林であった。高木層に樹高 15m 程度のスギが植栽されており、間伐により植被率は 70% 程度である。亜高木層、低木層も間伐されており、植被率は 10% に限られており、亜高木層にシラカシ、ヒサカキ、低木層にアオキが見られる程度である。高木層～低木層が間伐されて、林床に光が入りやすいため、草本層の植被率は、80% と高い。草本層は、下刈りが行われているため、草丈は 0.2m 程度と低く、ケチヂミザサ、ハエドクソウ、ドクダミなどのやや湿性を好む種、ジャノヒゲ、ナガバジャノヒゲ、アズマネザサなど常緑性の植物、イヌワラビ、ヒメワラビなどのシダ植物などが生育していた。

他には、八幡神社と同様に区内では少ないウラシマソウが見られた。しかし、ここでも個体数は少ない状態である。また、樹林の一角に区内で少ないヒメウズの 4m×5m ほどの大きな群落が見られた。

IV⑤ MU 氏邸

- ・ 確認種 : 136 種
- ・ 重要種 : なし
- ・ 帰化種 : 24 種
- ・ 帰化率 : 23.3%

MU 氏邸は、個人宅の平坦地に植栽された屋敷林である。MU 氏邸は古くから続く農家であり、この屋敷林は、防風のために植栽されたと考えられる。

主な植生は、ケヤキ群落、モウソウチク植栽林である。モウソウチク植栽林では、高木層に 16m 程度のモウソウチクが優占しており、その間から、生長したシラカシが抜きでていた。亜高木層は欠いていた。管理の程度が低く、折れ竹も残っており、林内が暗く、低木層には、1.5m 程度のシュロ、アオキ、シロダモなどの常緑の陰樹が見られた。草本層は、シラカシの実生などがわずかに見られる程度である。

一方、ケヤキ群落では、高木層に樹高 16m 程度のケヤキが優占しているほか、シラカシが見られた。亜高木層は 12m 程度で、ヒサカキが優占しており、シュロ、モッコクなどの常緑樹が目立っていた。低木層は 2m 程度でシュロが優占していた。草本層は、植被率 10% 程度であり、アズマネザサが優占していた。

MU 氏邸の樹林は、農家の代表的な屋敷林といえる。この屋敷林は、農地の中にあり、動物が移動するための踏石ビオトープとして、飛行する鳥類が休んだり、哺乳類が隠れたりする役

割も期待できる。

IV⑥ 小作原広場

- ・確認種：78種
- ・重要種：なし
- ・帰化種：26種
- ・帰化率：34.2%

小作原広場は、草地の広がった広場で、カイツカイブキ、エノキなどが敷地境界に植栽されている。草地は、パッチ状に刈り残して管理されており、刈り残された部分には、カゼクサ、チカラシバが優占していた。低く刈られた場所は、オヒシバ、メヒシバが優占し、オオバコ、シロツメクサが混在していた。全体に踏圧が高いため、踏跡雑草が多い。

植栽の可能性もあるが、草地の植物として近年あまり見られなくなっているカントウヨメナを確認した。

IV⑦ 井頭こぶし憩いの森

- ・確認種：45種
- ・重要種：なし
- ・帰化種：12種
- ・帰化率：26.7%

井頭こぶし憩いの森は、井頭憩いの森に隣接した屋敷跡地である。中央には庭木として植えられた樹木が残っている。周辺部は植栽木が植えられているが、まだ葉が茂っていないため、草地が広がっている。そのため、区内では少なくなった草地の調査地として選定し、草地部分の調査を行った。周辺部は柵で囲われ、ヨモギ、ハルジオンなどが優占していた。中央部の草地にはイヌビエ、メヒシバ、オヒシバなどが優占していた。

IV⑧ 区立びくに公園

- ・確認種：120種
- ・重要種：なし
- ・帰化種：47種
- ・帰化率：42.0%
- ・特定外来生物：1種　オオハンゴンソウ

区立びくに公園は、平坦地を、野球やサッカーのグラウンドとして利用できるように維持された草地である。そのため、定期的に草刈りなどの管理が行われている。

主な植生は、グラウンド周囲の法面のシロツメクサ群落とグラウンドのギョウギシバ群落であった。法面では、シロツメクサが優占しているほか、オオバコ、シマスズメノヒエ、イヌビエなどの草本も出現していた。グラウンドはギョウギシバ群落であるものの、水が溜まりやすい、わずかな窪地にコゴメガヤツリが優占し、タマガヤツリ、イヌビエなどの湿生の種が多く生育していた。

この区域は、人の利用が前提で維持されている草地であるが、野球の外野にあたる部分など

は、湿った場所や踏み固めの影響の少ない場所もあり、生育する植物種に変化が見られ、草党性昆虫類の生息の場となっている。

IV⑨ ○氏畑

- ・ 確認種： 68 種
- ・ 重要種： 1 種 都 RL：フタバムグラ (EX)
- ・ 帰化種： 19 種
- ・ 帰化率： 33.3%

畑は除草管理がされているため、作物以外の草本は少ないが、スベリヒユ、ニワホコリ、ゴウシュウアリタソウなどを確認した。

東京都 RL (区部) で絶滅と評価されているフタバムグラを確認した。

ルート調査

R① 練馬駅周辺ルート

- ・確認種：166種
- ・重要種：なし
- ・帰化種：45種
- ・帰化率：39.5%

舗装されているところがほとんどで、植物の生えている場所は、駅前のフェンスで囲まれた空き地、街路樹の植栽部、街路沿いの植え込み、コンクリートの隙間などであった。街路樹は、プラタナス、セイヨウトチノキ、サツキなどであった。街路樹のない道路もあり、植被率の低いルートであった。駅前ロータリーの花壇に要注意外来生物のワルナスビが繁茂していた。

R② 城南住宅ルート

- ・確認種：273種
- ・重要種：1種 都RL：タチクラマゴケ（CR）
- ・帰化種：30種
- ・帰化率：19.0%

住宅の庭木以外の植物は、アスファルトの隙間、空き地、向山庭園、向山ヶ谷戸緑地などに生育していた。庭園や緑地が含まれることで、ルート調査で2番目に確認種数が多かった。公園ではあまり見られないコスミレ、スマレ、ヒメスマレが路傍のコンクリートの隙間などに生育していた。

重要種は、タチクラマゴケを確認した。

R③ 田柄川緑道ルート

- ・確認種：190種
- ・重要種：なし
- ・帰化種：31種
- ・帰化率：26.5%

植栽された植物が中心だが、植え込みの面積が大きく確保されている緑道のため、自生している種も確認した。自生種は、日当たりのよい路傍にはユウゲショウ、ツボミオオバコなどの帰化植物が見られ、日陰にはドクダミ、イヌワラビなどが見られた。高木の根元の舗装していない部分には樹林の林縁などに生育するケチヂミザサが見られたが、踏圧が高いため、点在する程度であった。

R④ 立野町ルート

- ・確認種：284 種
- ・重要種：なし
- ・帰化種：42 種
- ・帰化率：25.9%

ルート上に住宅、農地、千川上水、区立立野公園など、多様な環境があるため、ルート調査では最も確認種数が多かった。公園ではあまり見られないコスミレ、スマレが路傍のコンクリートの隙間などに生育していた。

R⑤ 土支田・谷原ルート

- ・確認種：240 種
- ・重要種：1 種 都 RL：アオガヤツリ (NT)
- ・帰化種：43 種
- ・帰化率：27.9%

ルート上には土支田農業公園、屋敷林、農地など、多様な環境があるため、ルート調査で3番目に確認種数が多かった。公園ではあまり見られないコスミレ、ヒメスマレが路傍のコンクリートの隙間などに生育していた。

R⑥ 石神井川流域

- ・確認種：192 種
- ・重要種：3 種 国 RL：ナガエミクリ (NT)
都 RL：ミズハコベ (EX)、カワヂシャ (NT)、ナガエミクリ (NT)
- ・帰化種：74 種
- ・帰化率：42.8%
- ・特定外来生物：2 種 アレチウリ、オオカワヂシャ

茜歩道橋から平成みあい橋までの範囲を調査ルートとした。平成 20 年秋期は調査対象区間を調査することができたが、平成 21 年初頭より半年間、長光寺橋から上流に向けて豊島橋までの河床掘削工事が始まったため、平成 21 年春期は茜歩道橋から山下橋を調査範囲とした。平成 21 年夏期は、長光寺橋から豊島橋の工事は終了していたが、憩い橋と豊島橋間で栈橋を架けるための川の拡張工事が行われていた。よって、豊島橋から下流は非常に植物が少ない状態であった。

調査対象地はコンクリート三面張り護岸で、土砂の溜まった部分に植物が生育している状態であった。しかし、茜歩道橋付近は川幅を広くとって、兩岸に草地が残されていた。

特定外来生物であるオオカワヂシャは、調査対象範囲内全域に断続的に繁茂していた。特定外来生物のアレチウリも確認した。重要種は、3 種確認した。重要種のカワヂシャと雑種を作り、遺伝子汚染を引き起こすおそれのある特定外来生物のオオカワヂシャが繁茂しているため、オオカワヂシャの駆除作業などの対策が望まれる。後述する白子川では、カワヂシャのみでオオカワヂシャの確認はなかった。イネ科ドジョウツナギ属の一種を確認したが、結実が確認できなかったため、種の同定に至らなかった。重要種のムツオレグサ (都 VU) である可能性も

ある。

R⑦ 白子川流域

- ・ **確認種** : 141 種
- ・ **重要種** : 5 種 国 RL : ミズキンバイ (VU)、カワヂシャ (NT)、ナガエミクリ (NT)
都 RL : ミズキンバイ (EX)、マコモ (NT)、ナガエミクリ (NT)、
ウキヤガラ (NT)
- ・ **帰化種** : 45 種
- ・ **帰化率** : 36.0%
- ・ **特定外来生物** : 2 種 オオフサモ、ミズヒマワリ

源流の七福橋から緑橋までの範囲を調査ルートとした。源流部に木道で水辺に近づくことのできる親水施設が作られ、水生植物が植栽されている。しかし、調査対象地はコンクリートの三面張り護岸で土砂の溜まった部分に植物が生育している状態であった。

特定外来生物であるオオフサモとミズヒマワリを確認した。大泉井頭公園周辺にオオフサモ、井頭橋周辺から緑橋周辺にかけてミズヒマワリの繁茂が見られた。

重要種は、5 種と比較的多く、水辺に生育する種を確認している。イネ科ドジョウツナギ属の一種を確認したが、結実が確認できなかったため、種の同定に至らなかった。重要種のムツオレグサ（都 VU）である可能性もある。

特定外来生物が重要種を被圧してしまう状況も起こっており、今後、外来種の駆除などの対策が必要になると考えられる。

調査地外

区立武蔵関公園に隣接する西武新宿線の法面に調査地での確認がなかったコウヤワラビが生育していたため、確認種のリストに加えた（資料-3）。

7) 環境類型ごとの植生

植物相、植生調査結果をもとに、調査地選定時の環境区分（第Ⅲ章 表Ⅲ－１－１参照）を再区分し、環境類型ごとの植生についてまとめた。植生情報を動物の生息情報を整理し、把握する上での基礎データとし、今後の保全、管理方針の策定などに役立てるための整理である。

樹林地の区分には管理作業頻度、林内の明るさ、人の利用頻度（踏圧）、林床の植被率の4項目を評価し、表Ⅳ－１－１２のように整理した。その結果、落葉樹優勢林は規模と管理状況により大規模樹林（保護区型）、大規模樹林（都市公園型）、小規模落葉広葉樹林の3つの型に区分された。廣徳寺の樹林は針葉樹林の規模が大きかったため、社寺林に含めた。ルート調査地については、河川を水辺（流水域）、その他の調査地を市街地に区分した。調査地全体を環境類型に分け、その特徴を表Ⅳ－１－１３にまとめた。

第Ⅵ章では、この環境類型にさらに動物調査結果を加え、環境類型とそこに生息・生育する動植物の特徴をまとめた。さらに第Ⅶ章では、それぞれの類型ごとの管理・保全方針の提案をまとめた。

表Ⅳ－１－１２ 樹林地の類型化と特徴

類型	管理作業頻度	林内の明るさ	人の利用頻度 (踏圧)	林床の植被率
大規模樹林(保護区型)	△～○	△～○	△	◎
大規模樹林(都市公園型)	◎	○	◎	△
小規模落葉広葉樹林	○	○	△～○	○～◎
社寺林	○	△	○～◎	△～○
屋敷林	△～○	△	○	△

※評価項目の程度・頻度が高い◎、中程度○、低い△

表Ⅳ－１－１３ 環境類型ごとの植生の特徴

類型	モデルとなる場所	特徴
大規模樹林 (保護区型)	都立光が丘公園 都立石神井公園 稲荷山・清水山憩いの森 豊島園	定期的に管理作業がされ、保護区域として立ち入り制限がされている場所が多い。管理の頻度により亜高木層、低木層があまり無い林床の明るい林から、これらの層が発達した比較的林床が暗い林までがある。林内は踏圧が低く、植被率が高い。動植物相が豊かな樹林。
大規模樹林 (都市公園型)	都立城北中央公園 都立大泉中央公園 区立武蔵関公園 武蔵学園	人の利用が優先されている樹林で、植栽由来の樹木が多い。亜高木層、低木層があまり無い林床が明るい林。林床は踏圧が高く、草刈り頻度も高く、植被率が低い。動植物相は保護区域を設けている大規模樹林よりは貧弱になっている。
小規模 落葉広葉樹林	どんぐり山憩いの森 区立高稲荷公園 東京カトリック神学院 八の釜憩いの森	高木層にクヌギ、コナラ、イヌシデなどが優占する。亜高木層、低木層があまり無い林床が明るい林。林床の踏圧は比較的低く、アズマネザサなどが生育している。
社寺林	八幡神社 氷川神社 天祖若宮八幡宮 土支田八幡宮 廣徳寺	ヒノキ、シラカシ等の植栽由来の林。高木層が常緑であるため、林床は暗く、被度が低い。シュロなどの鳥類が運んだ種子由来の植物が林床に生育している。
屋敷林	U氏邸 N氏邸 MO氏邸 MU氏邸	敷地境界にケヤキが植えられており、ケヤキの大木も多い。高木～亜高木層にシラカシ、亜高木～低木層にヒサカキも生育している。木陰のある樹林地と玄関先などの明るい開けた環境が両方存在する。
草地	都立光が丘公園昆虫原っぱ 都立城北中央公園草地 小作原広場 井頭こぶし憩いの森 区立びくに公園	低茎から高茎の草地。草刈り頻度により、草丈が異なる。区内では公園などにある踏圧の高い低茎草地が多い。中茎から高茎の草地は区内では少ない。
農地	高松市民農園 石泉愛らんど O氏畑	植物は農作物が中心で植物の自生種は少ないがスベリヒユ、コニシキソウ、ハキダメギクなどが見られた。
水辺 (止水域)	都立光が丘公園BS 都立石神井公園石神井池 都立石神井公園三宝寺池 区立武蔵関公園富士見池	林縁から草地、湿生植物帯、抽水植物帯、浮葉植物帯と、止水域をとりまくエコトーンが形成されている。
水辺 (流水域)	石神井川流域 白子川流域	河川の淵から瀬、抽水植物帯、湿生植物帯、草地と幅は狭いがエコトーンを形成する環境であった。
市街地	田柄川緑道ルート 城南住宅ルート 練馬駅周辺ルート 立野町ルート 土支田・谷原ルート	市街化が進んだ地域、緑化が進められている地域、緑が多く残る地域などがある。路傍、木陰、干川上水沿い、畑地、公園の草地など、それぞれの環境に適応した様々な植物が見られた。

8) 練馬区の植生の主な特徴 ()内は参照章番号(第IV章以外)

①潜在自然植生は、シラカシ群集である。(第II章5)

区内の樹林の現在の潜在自然植生は、シラカシ群集である(奥富ほか(1987))。

②樹木地は増加しているが、雑草地は減少している。(第II章6)

「練馬区みどりの実態調査報告書 平成19年3月」によると、樹木地は増加傾向にあるが、雑草地は減少している。

③植栽種が多い。

本調査では、全確認種数1,093種中、植栽種は387種であった。これは全体の35%にあたる。

また、産地不明の在来種の植栽も多く、重要種とされる植物の植栽も多い。植栽する場合には地域の遺伝子を保護するために、なるべく近くの産地からとし、植栽記録を残していく方法が望ましい。

④大規模樹林や水辺に重要種が多い。

調査地点ごとの重要種の確認は、都立石神井公園三宝寺池で9種と最も多く、次いで都立石神井公園(その他)(9種)、落葉広葉樹の二次林のある清水山憩いの森(8種)、稲荷山憩いの森(5種)、河川では白子川流域(5種)となった。規模が大きく踏圧があまりかからない樹林や三宝寺池のような止水域、白子川のような流水域で重要種が多いことが分かった。

上記のような要件を備えた樹林と水辺のある都立石神井公園全体では、27種もの重要種を確認し、全調査地の中で最多の確認となった。

⑤河川で分布範囲の広い特定外来生物が見られた。

4科6種の特定外来生物を確認した。分布範囲の広いものとして、石神井川のオオカワヂシャ、白子川のみズヒマワリが挙げられた。

⑥帰化率は、樹林地で低く、草地、農地、ルート調査地で高い傾向にあった。

帰化率は、23.2%であった。区内の帰化率は樹林地(屋敷林、社寺林を含む平均12.2%)で低い傾向にあり、草地(平均28.1%)、農地(平均33.3%)、ルート調査地(31.3%)で高い傾向にあった。この結果は、帰化植物が人為的な攪乱が行われる場所に多く生育することを反映している。

⑦市街地などに見られる植物が多い。

出現頻度の高い植物として、路傍、人家の庭、公園など、市街化された場所で見られる在来種(ドクダミ、オニタビラコ、カタバミなど)または帰化種(ハルジオン、ハキダメギク、セイヨウタンポポなど)、鳥類により種子散布される木本類(エノキ、トウネズミモチ、シユロなど)、よく植えられる木本類(サツキ、ソメイヨシノ、シラカシなど)が抽出された。

⑧雑木林、草地、湿地などに見られる植物が少ない。

出現頻度の低い植物として、樹林生のシダ植物(クマワラビ、ヤワラシダ、ヤマイタチシダなど)、落葉広葉樹の二次林(雑木林)の植物(トネアザミ、シラヤマギク、ヤマユリな

ど)、草地生の植物（ナンバンギセル、ノアザミ、トダシバなど）、湿生植物（オニスゲ、コアゼガヤツリ、カワラスガナなど）、かつて水田の畦に生育していた植物（コオニタビラコ、ノミノフスマ、カントウヨメナ）、土壌の露出した路傍などに見られる植物（ユウガギク、ミチヤナギ、ノミノツヅリなど）が少ないことが分かった。

⑨柵で保護されていない樹林は踏圧が高く、林床の植生があまり発達していない。

公園や憩いの森などの人が自由に出入りできる樹林は踏圧が高く、林床にあまり植物が見られなかった。また、そのような人がよく利用する樹林では、踏圧だけでなく、草刈りの頻度も高く、林床に植物があまり生育できない原因となっていた。

⑩草地は、シバ草地、踏圧の高い低茎草地が多く見られた。

区内で最も身近に見られる草地は、公園などのシバ草地で、次いで同様に公園などにある踏圧の高い低茎草地であった。中茎～高茎草地は、意図的に草刈りを制限している都立光が丘公園の昆虫原っぱ、同バードサンクチュアリ、小作原広場、井頭こぶし憩いの森のような場所に限られた。

⑪植物調査により抽出した着目すべき環境

重要種の多く生育する環境と出現頻度の低い植物の生育環境をまとめると以下のような環境が抽出され、区内の植物を保全するに当たって着目すべき環境といえる。

- ・ 林床の湿り気を維持できる規模の樹林
- ・ 踏圧の高くない林床を持つ適切な管理がされた落葉広葉樹の二次林
- ・ ある程度の規模を持つ踏圧の高くない低茎から高茎の草地
- ・ 水生植物、湿生植物が生育できる河川
- ・ 水生植物、湿生植物の生育できる水辺や湿り気のある草地
- ・ 土壌の露出している路傍

2. 昆虫類

(1) 調査方法

1) 調査対象地

第Ⅲ章に示した 32 箇所 7 ルートを対象とした。但し、都立公園のような大規模な緑地は、公園全体としての昆虫類相の評価ができるように調査地点以外での調査も行い、データの補足を行った。その結果、26 箇所 7 ルートとして集計した。草地 2 箇所（都立光が丘公園 昆虫原っぱ、都立城北中央公園 草地）、水辺 4 箇所（石神井池、三宝寺池、富士見池、都立光が丘公園バードサンクチュアリ水辺）はそれぞれの位置する公園にまとめた。

上記のうち、特に面積が大きく、生息種の把握に十分な調査時間が必要と考えられる 8 箇所の樹林地と、区内で比較的大規模な草地である区立びくに公園、それに隣接している八の釜憩いの森については可能な限り全種を対象とした現地調査を行った。以下、これらの 10 箇所の調査地を「大規模緑地」とする。（表Ⅳ－2－1）。

残りの 16 箇所 7 ルートの調査地については、大型のために調査効率が良く、生態的な知見の豊富なチョウ類、トンボ類、バッタ類などの主要種群の確認（大型種調査）を中心に行った。以下これらを「小規模緑地」とする。

表Ⅳ－2－1 全種調査を行った調査地・大規模緑地 10 箇所

エリア	調査地名	面積
Ⅰ 北町・田柄エリア	都立光が丘公園	60.8ha
	都立城北中央公園	25.5ha（区外含む）
Ⅱ 豊玉・中村エリア	武蔵学園	7.1ha
	豊島園	30ha
Ⅳ 石神井・関町エリア	都立石神井公園	20.1ha
	区立武蔵関公園	4.6ha
Ⅳ 大泉・土支田エリア	都立大泉中央公園	10.3ha
	稻荷山・清水山憩いの森	2.9ha
	八の釜憩いの森	0.4ha
	区立びくに公園	1.2ha（遊歩道含む）

2) 調査時期および時間

①調査時期

現地調査は、全種調査を行った 10 箇所については、平成 21 年 4 月に下見を兼ねた補足調査を行い、その後 5 月から 10 月にかけて現地調査を行った。一方、大型種調査は、4～5 月に「春期調査」、7 月に「夏期調査」、9～10 月に「秋期調査」を行った。

各調査地の実施状況を表Ⅳ－2－2 に示した。

②調査時間

調査実施時間は、気温の上がる 9 時前後から開始し、16 時頃には終了するように実施した。この他、都立光が丘公園および都立石神井公園については、夏期にコオロギ・キリギリス類の夜間調査も行った。

③補足調査

上記のほかに、補足として、平成 20 年度に行った下見時の記録や、平成 20～22 年度に行った他の分類群の調査時の記録、平成 21～23 年度に実施した自然観察会などで確認した種も含めた。このほか、都立光が丘公園バードサンクチュアリの開園日の記録も含めた。

さらに、移動の途中など、大規模緑地・小規模緑地ではない場所での記録については、これらの緑地では確認していない種についてのみ取り上げた。

3) 調査方法

目視およびいわゆる「鳴き声」などにより、個体の確認を行った。捕虫網や 8～10 倍程度の双眼鏡を補助的に用いた。なお、その場で同定できないものについては、捕獲し、後日、種の同定を試みた。

この他、特に大型の樹林を有する都立光が丘公園および都立石神井公園と、通常では調査が困難である屋敷林 4 箇所については、ベイトトラップ^{※64}により地表徘徊性昆虫類^{※65}の捕獲も行った。

※64 ベイトトラップ：ベイティッドピットホールトラップとも言う。糖蜜や腐肉等の誘引餌（ベイト）を入れたトラップ（プラスチックコップ等）を、口が地表面と同じになるように埋設して、落ち込んだ昆虫を採集する方法。

※65 地表徘徊性昆虫類：オサムシ類やゴミムシ類、アリ類などの主に地表を徘徊して生活する昆虫のこと。

表Ⅳ－２－２ 昆虫調査 実施日（平成 21 年度）

調査地			調査実施日			
エリア	記号	調査地名	春期調査	夏期調査	秋期調査	
Ⅰ 北町・田柄 エリア	Ⅰ①	都立光が丘公園	4月28日 6月9日	7月7日	8月17日	9月8日
			5月12日 6月15日	7月14日	8月18日	10月5日
			5月18日			
	Ⅰ②	都立城北中央公園	5月20日 6月17日	7月8日	8月19日	9月15日
	Ⅰ③	どんぐり山憩いの森	5月18日	7月14日		9月15日
	Ⅰ④	八幡神社	5月14日	7月28日		9月16日
Ⅱ 豊玉・中村 エリア	Ⅱ①	武蔵学園	4月27日 6月22日	7月13日	8月24日	9月28日
			5月25日			
	Ⅱ②	豊島園	5月25日 6月22日	7月13日	8月24日	9月28日
	Ⅱ③	廣徳寺・区立高稲荷公園	5月12日	7月31日		9月28日
	Ⅱ④	氷川神社	5月8日	7月22日		9月30日
	Ⅱ⑤	N氏邸	5月8日	7月22日		9月15日
Ⅲ 石神井・関町 エリア	Ⅲ①	都立石神井公園	4月27日 6月8日	7月6日	8月10日	9月1日
			5月11日 6月16日	7月27日	8月11日	10月13日
			5月19日			
	Ⅲ②	区立武蔵関公園	5月27日 6月24日	7月15日	8月26日	9月29日
	Ⅲ③	東京カトリック神学院	4月23日	7月15日		9月26日
	Ⅲ④	天祖若宮八幡宮	5月15日	7月15日		9月29日
Ⅳ 大泉・土支田 エリア	Ⅳ①	都立大泉中央公園	5月20日 6月17日	7月8日	8月19日	9月15日
			4月22日 6月10日	7月22日	8月12日	10月6日
	Ⅳ②	稲荷山・清水山憩いの森	5月13日			
	Ⅳ③	ハの釜憩いの森	5月26日 6月23日	7月21日	8月25日	9月14日
	Ⅳ④	土支田八幡宮	5月7日	7月21日		9月18日
	Ⅳ⑤	MU氏邸	5月7日	7月21日		9月18日
ルート	Ⅳ⑥	小作原広場	5月21日	7月29日		9月11日
	Ⅳ⑦	井頭こぶし憩いの森	5月20日	7月29日		9月11日
	Ⅳ⑧	区立びくに公園	5月26日 6月23日	7月21日	8月25日	9月14日
	Ⅳ⑨	O氏畑	5月21日	7月29日		9月11日
	R①	練馬駅周辺ルート	5月27日	7月28日		9月22日
	R②	城南住宅ルート	5月12日	7月31日		9月28日
	R③	田柄川緑道ルート	5月18日	7月14日		9月15日
R④	立野町ルート	5月15日	7月15日		9月29日	
R⑤	土支田・谷原ルート	4月22日	7月21日		9月18日	
R⑥	石神井川流域	4月24日	7月27日		9月19日	
R⑦	白子川流域	5月20日	7月29日		9月11日	

(2) 調査結果

1) 確認種および重要種・外来種

①確認種

平成 20 年度に行った下見などの調査結果に、平成 21 年度の調査結果、他の分類群の調査や任意調査（平成 22 年度分も含む）、都立光が丘公園バードサンクチュアリの観察記録を合わせ、とりまとめた結果を表Ⅳ-2-3に示した。

全種調査を行った 10 箇所については、表Ⅳ-2-4（89 ページ以降）に、その他の調査地等については表Ⅳ-2-5（98 ページ以降）、表Ⅳ-2-6（88 ページ）に示した。

現在までに、全数調査を行った 10 箇所で 13 目 161 科 698 種を確認した。その他の調査地では 11 目 81 科 198 種を確認し、このうち 3 科 22 種が全数調査地では確認していない種であった。このほか、任意の調査地でのみ確認した 7 種を含めると、合計 13 目 164 科 727 種を確認したことになる（外来種を含む）。

目別では、コウチュウ目が 36 科 215 種と最も多く、次いでチョウ目が 28 科 149 種、カメムシ目が 36 科 118 種となっている。

表Ⅳ-2-3 昆虫類の目・科別確認種数

No.	目名	大規模緑地		小規模緑地での加算		その他の場所での加算	合計	
		科数	種数	科数	種数	種数	科数	種数
1	トンボ	9	34				9	34
2	ゴキブリ	2	2				2	2
3	カマキリ	1	3				1	3
4	シロアリ	1	1				1	1
5	バッタ	12	44			1	12	45
6	ナナフシ	1	1				1	1
7	ハサミムシ	2	4				2	4
8	カメムシ	36	114		4		36	118
9	アミメカゲロウ	4	6				4	6
10	コウチュウ	35	204	1	9	2	36	215
11	ハチ	15	85		2		15	87
12	ハエ	16	61	1	1		17	62
13	チョウ	27	139	1	6	4	28	149
	合計	161	698	3	22	7	164	727

表Ⅳ-2-6 大規模緑地・小規模緑地以外での確認種一覧

目名	科名	種名	確認場所	備考
バッタ	キリギリス	ヤブキリ	石神井図書館周辺	
コウチュウ	コガネムシ	クロカナブン	南田中憩いの森	都RL:EN
	カミキリムシ	タケトラカミキリ	南田中	都RL:NT
チョウ	スズメガ	ホシヒメホウジャク	下石神井6丁目	
		コスズメ	石神井台	
	シャチホコガ	シャチホコガ	石神井台	
	ヤガ	ナカグロクチバ	石神井台	
3	6	7		

表Ⅳ-2-4 昆虫類の確認種一覧（大規模緑地）（1/9）

目名	科名	種名	I		II		III		IV				確認箇所数	重要種		外来種	
			①	②	①	②	①	②	①	②	③	④		国	都		
			都立光が丘公園	都立城北中央公園	武蔵学園	豊島園	都立石神井公園	区立武蔵関公園	都立大泉中央公園	稲荷山・清水山憩いの森	八の釜憩いの森	区立びくに公園		R	R・区部		
トンボ	イトトンボ	クロイトトンボ	**				●	●			●	4					
		キイトトンボ	○									1		EN			
		アジアイトンボ	●				●				●	3					
		アオモンイトトンボ					●					1					
	アオイトトンボ	アオイトトンボ	●									1					
		オオアオイトトンボ	●				●	○				3					
	モノサシトンボ	モノサシトンボ					●	●				2					
	カワトンボ	ハグロトンボ				●					○	2		VU			
	オニヤンマ	オニヤンマ	●							○		2		NT			
	ヤンマ	アオヤンマ					●					1		EN			
		マルタンヤンマ					●					1					
		クロスジギンヤンマ	●	●			●					3					
		ギンヤンマ	●				●	●				3					
	サナエトンボ	ヤブヤンマ	**				●					2					
		ウチフヤンマ	**				●	●				3					
	エソトンボ	オオヤマトンボ	**				●	●				3					
	トンボ	ショウジョウトンボ	●				●					2					
		コフキトンボ	**				●					2					
		ヨツボシトンボ	●									1		EN			
		シオカラトンボ	●	●			●	●	●	●	●	7					
		シオヤトンボ					●					1		VU			
		オオシオカラトンボ	●		●	●	●	●		●	●	7					
		ウスバキトンボ	●	●	●		●	●	●	●	●	7					
		コシアキトンボ	●		●		●	●	○		●	6					
		チョウトンボ	●			●	●					3		NT			
		コノシメトンボ	**	●			●		●			5					
		ナツアカネ	●	●	●	●	●			●	●	7					
		マユタテアカネ	●				●					2					
		アキアカネ	●				●	●			●	5					
		ノシメトンボ	●	●		●	●			●		5					
		マイコアカネ	●				●			●	●	4		NT			
		ミヤマアカネ	**									1		VU			
		リスアカネ	**									1		NT			
		ネキトンボ	○									1					
		ゴキブリ	クロゴキブリ						●				1				◆
			チャバネゴキブリ								●		1				
	カマキリ	ハラビロカマキリ	●		●		●	●		●	●	6					
		コカマキリ					●	●		●	●	5					
	シロアリ	オオカマキリ	●			●	●	●	●	●		6					
		ヤマトシロアリ	●		●	●	●			●		5					
	バッタ	カマドウマ	マダラカマドウマ	●								1					
			クラズミウマ				○	●				2					
		キリギリス	ヒメギス	●			●						2				
			ヒメクサキリ					●					1				
			シブイロカヤキリ	●									1		DD		
			クビキリギス	●	○	●	●	●	○			●	7				
			ホシササキリ	●									1				
ウスイロササキリ			●	●	●						●	4					
ササキリ							●					1					
ハヤシノウマオイ			●				●					2					
ツユムシ			ツユムシ		●							●	2				
		セスジツユムシ	●		●		●	●		●		5					
		ヒメクダマキモドキ	○									1					
		サトクダマキモドキ	●		●	●				●		4					
コオロギ		エンマコオロギ	●	●			●				●	4					
		タンボコオロギ					●					1		DD			
		モリオカメコオロギ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9					
		ハラオカメコオロギ	●								●	2					
		ツツレサセコオロギ	●		●	●	●	●	●	●	●	8					
マツムシ		アオマツムシ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9				◆	
		スズムシ	●				●					2					
		カンタン	●	●			●					3					
ヒバリモドキ		ヒゲシロズズ	●			●				●		3		DD			
		シバズズ	●	●	●		●		●		●	6					
		マダラズズ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9					
		ヤチズズ	●				●					2		DD			
		キンヒバリ	●				●					2		DD			
		ヤマトヒバリ	●				●	●				3					
		クサヒバリ	●			●						2					
		ウスグモズズ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	8					
カナタタキ		カナタタキ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9					
		アリツカコオロギ				●			●			2					
		ノミバッタ					●	●	●			3					
ヒシバッタ	トゲヒシバッタ	●									1						
	ハラヒシバッタ	●	●	●		●	●	●	●	●	8						
オンブバッタ	オンブバッタ	●	●	●	●	●	●	●	●	10							
バッタ	ツチイナゴ	●				●					1						
	コバネイナゴ	●				●	●		●	●	5						

表IV-2-4 昆虫類の確認種一覧（大規模緑地）（2/9）

目名	科名	種名	I		II		III		IV				確認箇所数	重要種		外来種
			①	②	①	②	①	②	①	②	③	④		国	都	
			都立光が丘公園	都立城北中央公園	武蔵学園	豊島園	都立石神井公園	区立武蔵関公園	都立大泉中央公園	稲荷山・清水山憩いの森	八の釜憩いの森	区立びくに公園		R	R・区部	
バッタ	バッタ	ショウリョウバッタ	●	●	●		●		●	●	●	●	8			
		ショウリョウバッタモドキ	●									●	2		VU	
		ツマグロバッタ	○										1		DD	
		トノサマバッタ									○		1			
		クルマバッタモドキ		●			●						2			
ナナフシ	ナナフシ	イボバッタ	●	○							●	3				
		ナナフシモドキ	●		●		●					4				
ハサミムシ	ハサミムシ	ハマベハサミムシ		●					●		●	3				
		キアシハサミムシ	●	●							●	3				
		ヒゲジロハサミムシ	●	●	●	●	●	●	●			8				
カメムシ	クロハサミムシ	ミジンハサミムシ									●	1				
		ウンカ	ホソドリウンカ					●					1			
			テラウチウンカ						●				1			
	タケウンカ						●					1				
	コブウンカ		●									●	2			
	シマウンカ	シマウンカ	●									1				
	ハネナガウンカ	アカハネナガウンカ	●									1				
	テングスケバ	ツマグロスケバ						●				1				
	ゲンバイウンカ	タテスジゲンバイウンカ	●										1			
		ミドリゲンバイウンカ		●			●	●	●		●		5			
	アオバハゴロモ	アオバハゴロモ	●		●	●	●	●	●	●	●	8				
	ハゴロモ	スケバハゴロモ	●				●	●	●		●		4			
		ベッコウハゴロモ	●		●	●	●	●	●				7			
		アミガサハゴロモ	●		●					●			3			
	セミ	クマゼミ	●				●		●	●	●		4			
		アブラゼミ	●	●	●	●	●	●	●	●	●		9			
		ツクツクボウシ	●	●	●	●	●	●	●	●	●		9			
		ミンミンゼミ	●	●	●	●	●	●	●	●	●		9			
		ニイニゼミ	●	●	●	●	●	●	●	●	●		9			
		ヒグラシ					●				●		2		NT	
	トゲアワフキムシ	ムネアカアワフキ								●		1				
	アワフキムシ	シロオビアワフキ					●						1			
		ハマベアワフキ	●									●	2			
	ミミズク	ミミズク			●								1			
		コミミズク					●				●		2			
	クロヒラタヨコバイ	クロヒラタヨコバイ	●			●	●		●			4				
	オオヨコバイ	ツマグロオオヨコバイ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	10			
		オオヨコバイ	●				●				●		3			
		マエジロオオヨコバイ	●				●		●				3			
	ヒメヨコバイ	キウヒメヨコバイ					●					1				
ヨコバイ	ベニスジガリヨコバイ	●										1				
キジラミ	クワキジラミ					●	●		●	●		4				
	ヤツデキジラミ	●		●	●	●		●	●	●		7				
	シマアメンボ								●	●		2		NT		
アメンボ	コセアカアメンボ									●		1				
	ヤスマツアメンボ									●		1				
	ヒメアメンボ	●		●		●	●		●	●		6				
	オオアメンボ			●		●			●	●		3		CR		
	アメンボ	●		●	●	●	●		●	●		6				
	エサキアメンボ					●						1		NT DD		
カスミカメムシ	ナカグロカスミカメ	●								●		2				
	ズアカシダカスミカメ	●						●		●		3				
	ゲンバイカスミカメ							●				1				
	アカヒゲホソドリカスミカメムシ	●	●							●		3				
マキバサシガメ	ハネナガマキバサシガメ	●	●							●		3				
	アシブトマキバサシガメ								●			1				
ゲンバイムシ	ヤブガラシゲンバイ		●			●	●			●		4				
	ナシゲンバイ		●							●		2				
	ツツジゲンバイ	●	●			●	●		●	●		7				
	トサカゲンバイ				●							1				
	ヒメゲンバイ									●		1				
	ブラタナスゲンバイ	●	●					●				3			◆	
	アワダチソウゲンバイ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	10			◆	
サシガメ	ヨコツナサシガメ		●	○		●	●	●	●			5			◆	
	シマサシガメ					●						1				
	ヤニサシガメ					●	●					2				
	アカシマサシガメ					●						1				
イトカメムシ	ヒメイトカメムシ		●			●						2				
	イトカメムシ	●		●		●	●	●	●			6				
ナガカメムシ	ジュウジナガカメムシ	●										1				
	ヒメナガカメムシ	●	●	●	●	●				●		7				
	ヒメコバネナガカメムシ									●		1				
	コバネナガカメムシ					●	●					2				
	ホソコバネナガカメムシ					●						1				
	ヒメオオメカメムシ	●	●							●		3				
	オオメカメムシ	●		●				●				3				
	ヒゲナガカメムシ	●	●	●	●	●	●	●	●	●		9				
	ヨツボシヒョウタンナガカメムシ	●	●	●	●	●	●	●	●	●		6				

表Ⅳ-2-4 昆虫類の確認種一覧（大規模緑地）（3/9）

目名	科名	種名	I		II		III		IV				確認箇所数	重要種			
			①	②	①	②	①	②	①	②	③	④		国 R L	都 R L・ 区部	外来種	
			都立光が丘公園	都立城北中央公園	武蔵学園	豊島園	都立石神井公園	区立武蔵関公園	都立大泉中央公園	稲荷山・清水山憩いの森	八の釜憩いの森	区立びくに公園					
カメムシ	ナガカメムシ	オオモンシロナガカメムシ	●		●	●							3				
		モンシロナガカメムシ		●									1				
		シロヘリナガカメムシ	●										1				
		コバネヒョウタンナガカメムシ	●	●							●		3				
カメムシ	メダカナガカメムシ	メダカナガカメムシ	●			●	●	●		●		5					
	ホシカメムシ	クロホシカメムシ									●	1					
	オオホシカメムシ	オオホシカメムシ	●		●	●				●	○	5					
	ホソヘリカメムシ	クモヘリカメムシ	●	●	●								3				
		ホソヘリカメムシ	●	●	●	●							6				
		ヘリカメムシ	ホオズキカメムシ	●				●	●			●	4				
	ヘリカメムシ	オオクモヘリカメムシ	●				●	●				●	3				
		ホソハリカメムシ	●	●	●		●				●	●	7				
		ハリカメムシ	●	●	●	●	●	●			●	●	8				
		ホシハラビロヘリカメムシ	●		●	●	●				●		5				
		ツマキヘリカメムシ	●			●	●						4				
		ミナミトゲヘリカメムシ			●	●							2				
		キバラヘリカメムシ										●	1				
		ヒメヘリカメムシ	スカシヒメヘリカメムシ	●	●	●								3			
			アカヒメヘリカメムシ	●	●	●			●					5			
			フチヒゲヘリカメムシ	●									●	2			
	マルカメムシ	マルカメムシ	●		●	●	●	●			●	6					
	ツチカメムシ	ヨコツナツチカメムシ	●										1				
		マルツチカメムシ	●									●	3				
		ヒメツヤツチカメムシ										●	1				
		ヒメツチカメムシ		●									1				
		ツチカメムシ	●	●							●	●	4				
		ミツボシツチカメムシ	●								●		2				
	キンカメムシ	アカスジキンカメムシ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	8					
	ノコギリカメムシ	ノコギリカメムシ	●				●	●				3					
	カメムシ	アカスジカメムシ	●								●		1				
		オオクロカメムシ					●	●					2				
		ヒメクロカメムシ										●	1				
		ウズラカメムシ	●	●			●	●					5				
		ウシカメムシ				●					●		2				
		フチヒゲカメムシ	●	●									2				
		ナガメ	●	●		●		●					4				
トゲシラホシカメムシ		●									●	2					
ムラサキシラホシカメムシ		●			●	●	●	●	●	●	●	7					
クサギカメムシ		●				●	●	●				4					
ミヤマカメムシ										●		1					
ナカボシカメムシ							●					1					
アオクサカメムシ											●	1					
チャバネアオカメムシ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9					
ツヤアオカメムシ								○				1					
エビイロカメムシ		●										1					
ツノカメムシ		セアカツノカメムシ	●	●		●	●	●	●	●			4				
		エサキモンキツノカメムシ	●		●	●	●	●	●	●	●		8				
アミメカゲロウ		ラクダムシ											1				
		ヒメカゲロウ	●					●				●	3				
	クサカゲロウ	●										1					
	アミメクサカゲロウ	●										1					
	ウスバカゲロウ	●						○				1					
コウチュウ	ナガヒラタムシ	●										3					
	ハンミョウ	トウキョウヒメハンミョウ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9					
		コハンミョウ		●									1		NT		
	オサムシ	アオオサムシ	●				●	●	●	●			5				
		チビヒョウタンゴミムシ	●	●									1				
		メダカチビカワゴミムシ	●	●						●	●		5				
		オオゴミムシ	●										1				
		セアカヒラタゴミムシ	●										1				
		マルガタゴミムシ	●	●					●	●	●	●	6				
		ナガマルガタゴミムシ	●										1				
		ヒメゴミムシ	●								●		2				
		ヒメケゴモクムシ		●							●		2				
		アカアシマルガタゴモクムシ								●			1				
		ミドリマメゴモクムシ								●			1				
		イツホシマメゴモクムシ		●									1				
		マルヒメゴモクムシ					●			●			2				
		アトワアオゴミムシ									●		1				
		トゲアトクリゴミムシ	●										1				
		ハギキノコゴミムシ			●								1				
		ジュウジアトクリゴミムシ					●						1				
		コルリアトクリゴミムシ	●	●									2			◆	
	ミズギワアトクリゴミムシ		●									1					
	ゲンゴロウ	チビゲンゴロウ										●	1				
		ハイイロゲンゴロウ										●	1				
	エンママシ	コエンママシ	●				●		●	●		4					

表IV-2-4 昆虫類の確認種一覧（大規模緑地）（4/9）

目名	科名	種名	I		II		III		IV				確認箇所数	重要種		外来種	
			①	②	①	②	①	②	①	②	③	④		国	都		
			都立光が丘公園	都立城北中央公園	武蔵学園	豊島園	都立石神井公園	区立武蔵関公園	都立大泉中央公園	稲荷山・清水山憩いの森	八の釜憩いの森	区立びくに公園			R		L・区部
コウチュウ	タマキノコムシ	セマルタマキノコムシ											1				
	シテムシ	オオヒラタシテムシ	●	●			●		●	●	●		6				
	ハネカクシ	アカニセセミソハネカクシ									●			1			
		キンボシハネカクシ	●											1		VU	
		ヨコモトガリハネカクシ	●											1			
		アオバアリガタハネカクシ											●	1			
	ハネカクシ	クロヒメカワベハネカクシ		●									1				
	マルハナノミ	キムネマルハナノミ					●						1				
	クワガタムシ	コクワガタ	●		●	●	●				●	●		6			
		ヒラタクワガタ	●			●						●	●	3		VU	
センチョコガネ	センチョコガネ	●				●				●	●	4					
コガネムシ	ツヤエンマコガネ		●								●		2				
	ナガチャコガネ	●											1				
	クロコガネ	●		●									2				
	コフキコガネ	●	●	●		●	●			●	●		7				
	ピロウドコガネ	●											1				
	コイチャコガネ					●							1				
	アオドウガネ		●		●	●			●		●		5				
	ドウガネフイフイ	●				●	●	●					4				
	ヤマトアオドウガネ												1				
	セマダラコガネ	●	●			●				●			4				
	マメコガネ	●	●			●	●	●	●	●	●	●	8				
	ヒラタハナムグリ	●							●	●			4				
	ヒメトラハナムグリ				●			●		●			3		EN		
	コアオハナムグリ	●	●			●	●	●	●	●			6				
	シロテンハナムグリ	●				●	●	●	●	●			6				
	カナブン	●		●	●	●	●	●	●	●	●		8				
	カブトムシ	●		●		●				●	●		5				
	タマムシ	ウバタマムシ							○							CR	
ムツボシタマムシ				●									1				
ヤマトタマムシ		●				●				●		3		NT			
ヒシモンナガタマムシ										●		1					
クズノチビタマムシ		●		●	●		●			●		5					
コウゾチビタマムシ		●										1					
ドウイロチビタマムシ		●										1					
ナミガタチビタマムシ				●						●			2				
マルガタチビタマムシ		●											1				
ヤノナミガタチビタマムシ										●			1				
コメツクムシ	ヒゲコメツク					●						1					
	マダラチビコメツク		●							●	●	3					
	サビキコリ	●	●		●	●			●	●	●	8					
	トラフコメツク									●		1					
	ヒゲトコメツク	ナガヒゲトコメツク					●					1					
カツオブシムシ	ヒメマルカツオブシムシ	●	●	●	●				●		5						
ジョウカイモドキ	ツマキアオジョウカイモドキ	●										1					
ヒョウホムシ	ケジロヒョウホムシ								●			1					
ケンキスイ	クロハナケンキスイ	●										1					
	カタベニオキスイ									●		1					
	ナガコゲチャケンキスイ						●					1					
	ナミモンケンキスイ						●					1					
	ヨツボシケンキスイ	●				●				●	●	4					
ホソヒラタムシ	ミツモンセマルヒラタムシ	●	●									2					
	テントウムシ	●		●							●	3					
	テントウムシ	オシマヒメテントウ									●		1				
		アトホシヒメテントウ									●		1				
		コクロヒメテントウ									●	●	3				
		ヒメアカホシテントウ	●		●			●					3				
		ヨツボシテントウ									●		1				
		カメノコテントウ						○				○	2				
		シロジュウシホシテントウ						●					1				
		ムーアシロホシテントウ	●		●	●	●	●	●	●	●	●	8				
ナナホシテントウ		●		●		●					●	4					
ナミテントウ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9					
テントウムシ	ジュウサンホシテントウ										●	1					
	キイロテントウ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9					
	ダンダラテントウ	●	●	●		●	●	●	●	●	●	8					
	ウスキホシテントウ					●				●		2					
	ヒメカメノコテントウ	●	●			●	●	●	●	●	●	8					
	クモガタテントウ			●	●					●		3				◆	
	トホシテントウ	●	●		●	●	●	●	●	●	●	7					
	オオニジュウヤホシテントウ									●	●	2					
	ヒメマキムシ	クロオビケシマキムシ	●									1					
	ホソカタムシ	ベニモンヒメヒラタホソカタムシ								●		1					
コキノコムシ	ヒレルコキノコムシ					●					1						
ナガクチキムシ	クロホソナガクチキ					●					1						
カミキリモドキ	モモトカミキリモドキ	●										1					
	カトウカミキリモドキ					●						1					
アリモドキ	アカホソアリモドキ					●				●	2						

表Ⅳ－２－４ 昆虫類の確認種一覧（大規模緑地）（5/9）

目名	科名	種名	I		II		III		IV				確認箇所数	重要種		
			①	②	①	②	①	②	①	②	③	④		国 R L	都 R L・区部	外来種
			都立光が丘公園	都立城北中央公園	武蔵学園	豊島園	都立石神井公園	区立武蔵関公園	都立大泉中央公園	稲荷山・清水山憩いの森	八の釜憩いの森	区立びくに公園				
コウチュウ	アリモドキ	ホソクビアリモドキ						●				●	2			
		ヨツボシホソアリモドキ	●									●	2			
ゴミムシダマシ	ゴミムシダマシ	ハムシダマシ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	8			
		ヒゲブトゴミムシダマシ										●	1			
		オオクチキムシ						●					1			
		モンキゴミムシダマシ	●					●					2			
		エグリゴミムシダマシ	●									●	2			
		キマワリ						●				●	2			
	ゴミムシダマシ	セスジナガキマワリ		●								●	2			
		カミキリムシ				●							1			
	カミキリムシ	キマダラカミキリ				●							1			
		フタオビミドリトラカミキリ								●			1			
		キスジトラカミキリ	●										1			VU
		ヒメクロトラカミキリ							●				1			
		カタシロゴマフカミキリ	●	●							●		4			
		ナガゴマフカミキリ	●			●	●	●	●	●	●	●	6			
		カノコサビカミキリ									●		1			
		シナノクロフカミキリ	●										1			
		ヒシカミキリ										●	1			
		ニイジマチビカミキリ									●		1			
		アトモンサビカミキリ										●	1			
		アトジロサビカミキリ	●										1			
		センノカミキリ				●						●	2			VU
		クワカミキリ	●									●	2			
		シラオビゴマフケシカミキリ	●										1			
		ラミーカミキリ	●										1			
		キクスイカミキリ	●			●	●	●				●	5			
		ハムシ	アズキマゾウムシ	●										1		
ケバクビボソハムシ			●				●	●		●		4				
キバラリクビボソハムシ			●	●			●	●	●	●	●	6				
アカクビボソハムシ			●						●	●		3				
キイロクビナガハムシ								●		●		2				
ムナキルリハムシ			●									1				
タテスジキツツハムシ								●				1				
カシワツツハムシ						●						1				
クロボシツツハムシ			●										1			
アオバネサルハムシ	●		●									3				
イモサルハムシ	●		●									3				
コフキサルハムシ									●			1				
ニホンケブカサルハムシ	●							●			●	3				
ヒメキバネサルハムシ	●											2				
ドウガネサルハムシ	●		●			●					●	6				
トビサルハムシ								●				1				
ヨモギハムシ			●									1				
ハッカハムシ									●			1			DD	
コガタルリハムシ			●					●	●			3				
トホシハムシ											●	1				
ヤツボシハムシ											●	1				
フジハムシ										●		1				
ダイコンハムシ									●			1				
ハンノキハムシ									●			1				
ウリハムシモドキ	●		●						●			5				
ウリハムシ	●		●						●	●	●	6				
クロウリハムシ	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	10				
クワハムシ	●									●		3				
ホタルハムシ			●									1				
アトボシハムシ	●											1				
サンゴジュハムシ					●	●						2				
エノキハムシ					●		●		●	●		4				
アヤメツブノミハムシ									●			1				
テントウノミハムシ			●	●	●			●	●	●		7				
オオアカマルノミハムシ								●				1				
コマルノミハムシ						●		●		●		4				
チャバネツヤハムシ	●											1				
クロトゲハムシ	●											1				
イノコヅチカメノコハムシ	●						●	●	●			5				
カメノコハムシ			●									1				
ヒメカメノコハムシ			●									1				
イチモンジカメノコハムシ								●				1				
フタクサハムシ	●			●					●		●	4			◆	
ヒゲナガゾウムシ	カオジロヒゲナガゾウムシ					●		●			●	3				
	ヒメクロオトシブミ								●			1				
オトシブミ	カシルリオトシブミ		●									1				
	クロケシツブチョッキリ		●									1				
	ブドウハマキチョッキリ	●									1					
	ファウストハマキチョッキリ						●				1					
	クチナガチョッキリ								●		1					
	ハイイロチョッキリ											1				
ゾウムシ		ツチイロヒゲボソゾウムシ	●								1					

表IV-2-4 昆虫類の確認種一覧（大規模緑地）（6/9）

目名	科名	種名	I		II		III		IV				確認箇所数	重要種		
			①	②	①	②	①	②	①	②	③	④		国	R	L
			都立光が丘公園	都立城北中央公園	武蔵学園	豊島園	都立石神井公園	区立武蔵関公園	都立大泉中央公園	福荷山・清水山憩いの森	八の釜憩いの森	区立びくに公園				
コウチュウ	ゾウムシ	カシワクチフトゾウムシ									●		1			
		クロホシクチフトゾウムシ									●		1			
		ツンフトクチフトゾウムシ			●		●				●		3			
		チビヒョウタンゾウムシ	●								●		2			
		ヒレルクチフトゾウムシ									●		1			
		ホソヒメカタゾウムシ			●								1			
		スグリゾウムシ	●	●	●		●	●	●		●		7			
		サビヒョウタンゾウムシ	●										1			
		コフキゾウムシ	●					●					2			
		ヤサイゾウムシ	●						●				2			
		カツオゾウムシ					●						1			
		オジロアシナガゾウムシ						●			●		2			
		イネミズゾウムシ	●										1			
		カシワノミゾウムシ									●		1			
		イチゴハナゾウムシ	●										1			
		ジュウジチビシギゾウムシ									●		1			
		ヤノシギゾウムシ									●		1			
		サメハダヒメゾウムシ									●		1			
	マルメサルゾウムシ										●	1				
	ツツジゲムネサルゾウムシ									●		1				
ダイコンサルゾウムシ									●		1					
オサゾウムシ	トホシオサゾウムシ	●					●				2					
	コクゾウムシ										1					
ハチ	ミフシハバチ	ニホンチュウレンジ			●							1				
		チュウレンジハチ	●									1				
		ルリチュウレンジ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9				
	コンボウハバチ	ホシアシフトハバチ									●	1				
		ハバチ	ハグロハバチ									●	1			
	セグロカブラハバチ						●				●	2				
	ニホンカブラハバチ										●	1				
	ヒゲナガハバチ		●									1				
	チャイロハバチ						●					1				
	シモツケマルハバチ										○	1				
	アシフトコバチ	キアシフトコバチ								●	1					
	アリバチ	トゲムネアリバチ				●						1				
	ツチバチ	キオビツチバチ	●	●		●	●			●	●	●	7			
		ヒメハラナガツチバチ	●	●	●	●	●			●	●	●	8			
	アリ	キンケハラナガツチバチ	●			●				●		3				
		オオハリアリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	10				
		テラニシリアゲアリ				●	●	●		●		4				
		ハリフトシリアゲアリ	●		●	●	●	●	●	●	●	7				
		キイロシリアゲアリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9				
		ムネボソアリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9				
		クロナガアリ	●	●			●			●	●	5				
		ヒメアリ			●							2				
		キイロヒメアリ									●	1				
		コソノアリ									●	1				
		ヒラタウロコアリ	●									1				
		アズマオオズアリ	●		●	●	●			●	●	6				
		アミアリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	10			
		イガウロコアリ									●	1				
		ウロコアリ	●			●	●			●	●	5				
		トビイロシワアリ	●	●	●	●	●			●	●	8				
		トカラウロコアリ		●								1				
		ウメマツアリ			●		●	●	●		●	5				
		ルリアリ						●				1				
		ヒラフシアリ									●	1				
		クロオオアリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	10				
		ヒラズオオアリ	●									1				
		イトウオオアリ					●					1				
		ウメマツオオアリ	●			●		●				3				
		ヨツボシオオアリ	●		●	●	●	●	●	●	●	8				
		クロヤマアリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	10				
		ハヤシクロヤマアリ					●					1				
		クロクサアリ				●	●	●		●	●	5				
		トビイロケアリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	10				
		アメイロアリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	10				
		サクラアリ	●	●	●	●	●			●	●	8				
		サムライアリ		●								1				
		ベッコウバチ	オオモンクロベッコウ	●				●	●		●		4			
			オオシロフベッコウ		●								1			
		ドロバチ	オオフトオビドロバチ	●	●			●	●		●	●	6			
			ミカドトックリバチ	●				●	●		●		4			
ムモントックリバチ			●									1				
スズバチ			●			●	●				●	4				
スズメバチ		ムモンソアシナガバチ	●							●	●	3				
		セグロアシナガバチ	●	●			●					3				
	キボシアシナガバチ	●							●		2					

表IV-2-4 昆虫類の確認種一覧（大規模緑地）（7/9）

目名	科名	種名	I		II		III		IV			確認箇所数	重要種			
			①	②	①	②	①	②	①	②	③		④	国 R L	都 R L・区部	外来種
			都立光が丘公園	都立城北中央公園	武蔵学園	豊島園	都立石神井公園	区立武蔵関公園	都立大泉中央公園	稲荷山・清水山憩いの森	八の釜憩いの森		区立びくに公園			
ハチ	スズメバチ	キアシナガバチ						●				2				
		コアシナガバチ	●	●			●					3				
		コガタスズメバチ	●	●	●		●	●	●	●	●	9				
		モンズズメバチ					●	●				2				
		オオスズメバチ	●			●	●	●	●	●		7				
		キロスズメバチ					●					1				
		ヒメスズメバチ	●		●	●	●	●		●		6				
		クロスズメバチ	●		●	●	●	●		●		6				
		アナバチ	セナガアナバチ			●							1			
	コクロアナバチ		●				●		●		3					
	クロアナバチ		●	●			●		●		●	6				
	アナバチ	サトジガバチ	●									1				
		ミカドジガバチ								●		1				
		シロスジキングチ	●									1				
	コハナバチ	アカガネコハナバチ	●	●			●		●		●	6				
		アオスジハナバチ		●								1				
	ハキリバチ	オオハキリバチ	●									1				
		ヤトガリハナバチ	●					●	●			3				
		クズハキリバチ								●		1				
		ムナカタハキリバチ		●		●	●				●	4				
	コシブトハナバチ	ギンランキマダラハナバチ									●	1				
		ダイミョウキマダラハナバチ	●								●	2				
		ニッポンヒゲナガハナバチ	●		●							2				
		ルリモンハナバチ	●									1				
		クマバチ	●		●	●	●	●	●	●	●	9				
	ミツバチ	トラマルハナバチ							●			2				
		コマルハナバチ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	8				
		ニホンミツバチ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9				
		セイヨウミツバチ	●	●	●		●		●	●	●	8			◆	
	ハエ	ガガンボ	ベッコウガガンボ					●	●			2				
			エゾホソガガンボ	●	●			●	●		●	6				
			<i>Nephrotoma flavonota</i>	●				●	●			3				
			キイロホソガガンボ		●					●			2			
			マエキガガンボ					●			●		2			
			ヤチガガンボ		●	●	●	●	●		●		6			
			キリウジガガンボ	●			●		●				3			
			マドガガンボ				●		●				2			
			ケバエ	ハグロケバエ	●		●		●			●	4			
		ミズアブ	キアシソルリミズアブ						●			●	2			
			ハラキンミズアブ	●	●				●				3			
			アメリカミズアブ	●			●	●	●			●	5			◆
			ネグロミズアブ	●		●			●			●	4			
		ムシヒキアブ	アオメアブ	●	●				●	●			5			
			シオヤアブ	●	●		●	●	●	●			6			
	マガリケムシヒキ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	9				
	アシナガバエ ハナアブ	マダラアシナガバエ	●					●	●	●	●	5				
		ホソヒヒラタアブ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	10				
キタヒヒラタアブ		●	●	●	●	●			●	●	6					
クロヒヒラタアブ		●	●	●	●						4					
ハリヒヒラタアブ		●									1					
ヨコジマオヒヒラタアブ				●		●			●		3					
ホソヒヒラタアブ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	9					
ナミホシヒヒラタアブ		●		●					●		3					
ツマグロコシボソハナアブ				●							1					
マダラコシボソハナアブ				●	●	●	●	●	●	●	4					
キアシマヒヒラタアブ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	9					
スズキフタモンハナアブ									●		1					
クロベッコウハナアブ				●					●		3					
スイセンハナアブ		●	●			●			●		4			◆		
キゴシハナアブ			●	●							2					
シマハナアブ			●		●			●			4					
ナミハナアブ										●	●	2				
キヒゲアシフトハナアブ							●				1					
アシフトハナアブ	●		●	●	●	●	●	●		6						
タカサゴハラフトハナアブ				●	●					2						
シマアシフトハナアブ	●				●					2						
オオハナアブ		●								1						
ツヤホソバエ	ヒトテンツヤホソバエ	●							●		2					
	オスアカツヤホソバエ		●								1					
	クロフトモモソバエ	●									1					
フトモモソバエ ミバエ	ミスジミバエ	●	●	●		●	●	●	●	●	7					
	タンポポハマダラミバエ						●	●	●	●	4					
	イヌビウハマダラミバエ						●		●		2					
	フチモンハマダラミバエ	●					●				2					
	ハルササハマダラミバエ	●					●				3					
	フトホヒゲハマダラミバエ								●		1					
	ノゲシケバカミバエ	●									1					

表Ⅳ-2-4 昆虫類の確認種一覧 (大規模緑地) (8/9)

目名	科名	種名	I		II		III		IV				確認箇所数	重要種		外来種
			①	②	①	②	①	②	①	②	③	④		国 R L	都 R L・区部	
			都立光が丘公園	都立城北中央公園	武蔵学園	豊島園	都立石神井公園	区立武蔵関公園	都立大泉中央公園	稲荷山・清水山憩いの森	八の釜憩いの森	区立びくに公園				
ハエ	ミバエ	ツマホシケブカミバエ	●										1			
		ヒロクチバエ	●										1			
		ヤチバエ	●	●	●		●					●	5			
		ベッコウバエ	●				●				●		3			
		フンバエ	●		●		●						3			
		イエバエ	●		●	●	●	●	●	●	●		7			
		クロバエ	●				●				●		1			
			キンバエ	●				●					2			
			ミヤマキンバエ					●					1			
			ホホグロオビキンバエ					●					1			
			ツマグロキンバエ	●	●	●		●		●	●	●	8			
		ニクバエ	シリグロニクバエ	●		●							2			
			ゲンクニクバエ			●		●					2			
チョウ	マ加里ガ	クロハネシロヒゲナガ	●										1			
		ホソオビヒゲナガ	●		●	●	●	●		●	●		7			
	ハマキガ	アトキハマキ						●			●		1			
		ピロードハマキ						●					1			
	ミノガ	オオミノガ					○					1				
	ヒロズコガ	マダラマルハヒロズコガ			○		○					2				
	スカシバガ	コスカシバ					○					1				
	マダラガ	ホタルガ					●			●	●		3			
		タケノホソクロバ	●										1			
		ミノウスバ						○					1			
	マドガ	マダラマドガ	●									1				
	メイガ	シロツトガ	●										1			
		シロスジツトガ		●	●								2			
		オオキノメイガ	●										1			
		アカウスグロノメイガ					●						1			
		モンウスグロノメイガ								●			1			
		コブノメイガ	●										1			
		キアヤヒメノメイガ	●										1			
		アヤナミノメイガ						●					1			
		ツゲノメイガ			●								1			
		スカシノメイガ			●								1			
		ヨツボシノメイガ	●					●		●			3			
		シロマダラノメイガ						●					1			
		モンキクノメイガ	●			●				●	●		3			
		マエキノメイガ					●	●					2			
		シロオビノメイガ	●	●	●		●	●	●	●	●		8			
		ミツテンノメイガ								●			1			
		マメノメイガ	●					●					2			
		ワタノメイガ	●	●									2			
		フキノメイガ	●					●					2			
		ヨスジノメイガ								●			1			
		マエアカスカシノメイガ	●					●	●				3			
		キムジノメイガ						●					1			
		タテシマノメイガ	●									1				
	セセリチョウ	ダイミョウセセリ	●					●	●	●	●		5			
		チャバネセセリ	●	●	●		●	●	●	●	●		5			
		キマダラセセリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●		8			
		イチモンジセセリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●		9			
			ジャコウアゲハ	○				●		●	●		3			
	アゲハチョウ	アオスジアゲハ	●	●	●	●	●	●	●	●	●		10			
		カラスアゲハ	●			●			●	●			5			
		キアゲハ	●	●	●	●	●	●	●	●			6			
		オナガアゲハ					●						1	CR		
			ナガサキアゲハ	●	●	●		●	●	●	●	●	9			
			クロアゲハ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9			
	シロチョウ	ナミアゲハ	●	●	●		●	●	○	●	●	9				
		ツマキチョウ	○							●			2			
		モンキチョウ	●	●			●		●	●	●		5			
		キチョウ	●	●		●	●	●	●	●	●		8			
		スジグロシロチョウ	●	●		●	●	●	●	●	●		9			
		モンシロチョウ	●	●	●	●	●	●	●	●	●		10			
	シジミチョウ	ミスイロオナガシジミ						●					1		*	
		ルリシジミ				●			●				2			
		ツバメシジミ	●	●							●		3			
		ウラナミシジミ	●	●			●						2			
		ベニシジミ	●	●			●		●		●	●	6			
		ムラサキツバメ						●					2			
		ムラサキシジミ	●		○	●	●	●	○	●	●		8			
		ミドリシジミ					●		●				1		DD	
		ヤマトシジミ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	10			
		ウラギンシジミ	●		●	●	●	●	○	●		●	8			
	テングチョウ	テングチョウ					●					1				
	マダラチョウ	アサギマダラ	●									1				
	タテハチョウ	コムラサキ	●				●	●				3		*		
		ミドリヒョウモン					○					1				

表Ⅳ-2-4 昆虫類の確認種一覧 (大規模緑地) (9/9)

目名	科名	種名	Ⅰ		Ⅱ		Ⅲ		Ⅳ				確認箇所数	重要種			
			①	②	①	②	①	②	①	②	③	④		国	都	外	
			都立光が丘公園	都立城北中央公園	武蔵学園	豊島園	都立石神井公園	区立武蔵関公園	都立大泉中央公園	稲荷山・清水山憩いの森	八の釜憩いの森	区立びく公園		R	R	来	
チョウ	タテハチョウ	ツマグロヒョウモン	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	10				
		ヒメアカタテハ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	4				
		アカボシゴマダラ	●	●		●	●	●		●	●		7			注	
		ゴマダラチョウ	●			○	●	○	○	●			6				
		ルリタテハ	●				●			●	●		4				
		イチモンジチョウ					●						1			DD	
		コムシジ	●	○	●	●	●	●	●	●	●		9				
		キタテハ	○				●						2				
		ジャノメチョウ	ヒカゲチョウ	●				●	●		●	●		5			
			クロノマチョウ	●		○		○						3			
	ヒメジャノメ		●	●	●	●	●	●	●	●	●		9				
	サトキマダラヒカゲ		●	○	●	●	●	●	●	●	●		9				
	カギバガ シャクガ	ヤマトカギバ									●		1				
		ナミスジコアオシャク					●						1				
		フトベニスジヒメシャク	●										1				
		ウスベニスジヒメシャク				●							1				
		ベニスジヒメシャク	●										1				
		オオハガタナミシャク	●										1				
		アトスジクロナミシャク					●						1				
		ウスミドリナミシャク		●									1				
		ネグロウスベニナミシャク								●			1				
		ユウマダラエダシャク					○						1				
		フタテンオエダシャク									●		1				
		ウメエダシャク					●	●		●	●		4				
		ヒロオビトンボエダシャク				●							1				
		オオトビスジエダシャク								●			1				
		ウスバミスジエダシャク					●						1				
		ハミスジエダシャク									●		1				
		シャンハイオエダシャク					●						1				
		マエキトビエダシャク					●						1				
		ウスキツバメエダシャク					●						1				
		ウスアオエダシャク					●						1				
		ツマキリウスキエダシャク								●			1				
		クロハグルマエダシャク	●										1				
	ツバメガ	ギンツバメガ								●			1				
	カバネガ	クワコ							●				1				
	ヤマユガ スズメガ	オオミズアオ	●				●	●					3			VU	
		ウンモンズズメ	●										1				
		サザナミズズメ	●										1				
		クチバズズメ	●										1				
		シモフリスズメ			○		○						2				
		オオスカシバ	●	●	●	●	●					●	6				
ホシホウジャク					●	●			●			3					
キイロスズメ						○						1					
シャチホコガ		ツマキシャチホコ					○	●					2				
		モンクロシャチホコ					●			●	○		3				
ヒトリガ	ハガタキコケガ							●				1					
	スジベニコケガ							●				1					
カノコガ ヤガ	キハラゴマダラヒトリ	●		●		●	●					4					
	カノコガ		●	●		●				●		4					
	リンゴケンモン					●						1					
	ツメクサガ	●										1					
	オオカブラヤガ	●										1					
	コキマエヤガ					●						1					
	オオシマカラスヨトウ								●			1					
	ネスジシラクモヨトウ	●										1					
	チャオビヨトウ	●										1					
	シロスジアオヨトウ					●						1					
	キノカワガ								●			1					
	シマフコヤガ	●										1					
ヒメネジロコヤガ								●			1						
ウスシロフコヤガ	●					●			●		3						
フタガリコヤガ			○								1						
ウリキシウワバ								●			1						
キクキシウワバ								●			1						
フクラスズメ	●										1						
コンロシタバ					●				●		2						
オオウモンクチバ	●										1						
オオアカキリバ			●	●							2						
リンゴツマキリアツバ					●						1						
ミツボシツマキリアツバ	●					○					2						
タイワンキシタアツバ							●				1						
ソトウスグロアツバ						●			●		2						
トラガ	トビイロトラガ							●			1						

種名および並びは日本産野生動物目録-本邦産野生動物種の現状-環境省編 無脊椎動物編Ⅱなどに準拠している。

●: 通常調査での確認 ○: 補足調査での確認 **: 光が丘公園バードサンクチュアリでの記録

外来種欄 注: 要注意外来生物

表Ⅳ－２－５ 昆虫類の確認種一覧（小規模緑地など）（1/4）

目名	科名	種名	Ⅰ 北町・田柄 エリア				Ⅱ 豊玉・中村 エリア		
			Ⅰ ③	Ⅰ ④	Ⅰ ⑤	Ⅰ ⑧	Ⅱ ③	Ⅱ ④	Ⅱ ⑤
			どんぐり山憩いの森	八幡神社	U氏邸	高松市民農園	廣徳寺・区立高稲荷公園	氷川神社	N氏邸
トンボ	アオイトトンボ	アオイトトンボ							
		カワトンボ							
		ヤンマ							
		トンボ	シオカラトンボ				●		
			オオシオカラトンボ					●	
			ウスバキトンボ		●		●		
			コシアキトンボ						
			コノシメトンボ	●				●	
			ナツアカネ	●	●	●		●	
			アキアカネ				●	●	
			ノシメトンボ			●			
			マイコアカネ					●	
			ミヤマアカネ						
リスアカネ	●								
カマキリ	カマキリ	ハラビロカマキリ				●	●		
		コカマキリ						●	
		オオカマキリ				●			
バッタ	キリギリス	クビキリギリス		●		●			
		ホシササキリ							
		ウスイロササキリ							
	ツユムシ	ツユムシ							
		サトクダマキモドキ							
	コオロギ	エンマコオロギ				●			
		モリオカメコオロギ							
		ツツレサセコオロギ				●			
	マツムシ	アオマツムシ	●		●		●		
	ヒバリモドキ	クサヒバリ							
		ウスグモスズ							
		マダラスズ				●		●	
		シバズ							
	カネタタキ	カネタタキ	●	●	●	●	●	●	
	ノミバッタ	ノミバッタ				●			
	ヒシバッタ	ハラヒシバッタ				●	●		
	オンブバッタ	オンブバッタ	●	●		●		●	
	バッタ	コバネイナゴ							
		ショウリョウバッタ		●		●			
		トノサマバッタ				●			
クルマバッタモドキ					●				
イボバッタ			●			●			
ナナフシ	ナナフシ					●			
ハサミムシ	ハサミムシ		●			●			
カメムシ	テングスケバ	テングスケバ							
	アオバハゴロモ	アオバハゴロモ			●	●	●	●	
		スケバハゴロモ							
		ベッコウハゴロモ				●			
		アミガサハゴロモ							
	セミ	クマゼミ					●		
		アブラゼミ	●	●	●	●	●	●	
		ツクツクボウシ	●	●	●	●	●	●	
ミンミンゼミ		●	●	●	●	●	●		

Ⅲ 石神井・関町エリア				Ⅳ 大泉・土支田エリア					ルート							確認箇所数	重要種		外来種
Ⅲ③	Ⅲ④	Ⅲ⑤	Ⅲ⑥	Ⅳ④	Ⅳ⑤	Ⅳ⑥	Ⅳ⑦	Ⅳ⑨	R①	R②	R③	R④	R⑤	R⑥	R⑦		国R L	都R L・区部	
															●	1			
															●	2	VU		
															●	1			
									●	●		●			●	5			
			●				●	●	●	●		●			●	6			
●	●		●			●	●	●	●	●		●			●	11			
	●						●					●			●	3			
		●										●				5			
		●	●									●				6			
●			●									●	●	●		7			
		●											●			3			
													●			2	NT		
															○	1	VU		
																1	NT		
		●			●		●					●	●			7			
		●														3			
●				●	●								●			4			
			●		●	●						●				6			
					●	●										1			
					●	●										2			
					●	●										1			
●					●	●										1			
●					●			●	●	●		●	●	●		9			
										●						1			
		●	●	●	●	●		●	●			●				3			
	●	●	●	●	●			●	●			●				11		◆	
					●										●	1			
					●											1			
●					●	●	●	●		●		●	●			10			
●					●	●										2			
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	23			
			●		●		●					●	●			1			
●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			7			
			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			17			
●					●	●	●				●		●			1			
●					●	●	●				●		●			8			
						●										2			
							●						●			3			
●														●		4			
								●								1			
					●			●								4			
												●				1			
	●	●		●	●								●			9			
							●									1			
				●									●			2			
																1			
												○				2			
●	●	●	●	●	●		●	●	●	●		●	●	●	●	21			
●	●	●	●	●	●		●		●	●		●	●	●	●	14			
●	●	●	●		●		●		●	●		○	●	●	●	19			

表Ⅳ－２－５ 昆虫類の確認種一覧（小規模緑地など）（2/4）

目名	科名	種名	Ⅰ 北町・田柄 エリア				Ⅱ 豊玉・中村 エリア		
			Ⅰ ③	Ⅰ ④	Ⅰ ⑤	Ⅰ ⑧	Ⅱ ③	Ⅱ ④	Ⅱ ⑤
			どんぐり山憩いの森	八幡神社	U氏邸	高松市民農園	廣徳寺・区立高稲荷公園	氷川神社	N氏邸
カメムシ	セミ	ニイニイゼミ	●	●	●		●	●	●
		ヒグラシ		●	●		●		
	オオヨコバイ	ツマグロオオヨコバイ	●		●	●		●	●
	キジラミ	ヤツデキジラミ					●	●	
	アメンボ	アメンボ							
	ゲンバイムシ	ツツジゲンバイ					●		
		プラタナスゲンバイ							
		アワダチソウゲンバイ							
	サシガメ	ヨコヅナサシガメ							
	イトカメムシ	ヒメイトカメムシ						●	
		イトカメムシ		●					
	ナガカメムシ	ヒメナガカメムシ							
		ヒゲナガカメムシ							
		モンシロナガカメムシ							
		オオモンシロナガカメムシ			●				
	コバネヒョウタンナガカメムシ		●						
	メダカナガカメムシ	メダカナガカメムシ							
	オオホシカメムシ	オオホシカメムシ					●		
		ヒメホシカメムシ							
	ホソヘリカメムシ	ホソヘリカメムシ				●			
	ヘリカメムシ	ホオズキカメムシ							
		ホソハリカメムシ							
		ハリカメムシ				●			●
	ヒメヘリカメムシ	アカヒメヘリカメムシ				●			
	キンカメムシ	アカスジキンカメムシ					●	●	
	カメムシ	ウズラカメムシ		●					
		ブチヒゲカメムシ				●			
		キマダラカメムシ							
		ナガメ		●		●			
		ムラサキシラホシカメムシ				●			●
		クサギカメムシ	●					●	●
		チャバネアオカメムシ					●	●	●
ツノカメムシ		セアカツノカメムシ		●			●	●	
ヒメツノカメムシ									
エサキモンキツノカメムシ							●		
アミメカゲロウ	ウスバカゲロウ					●			
コウチュウ	ハンミョウ	トウキョウヒメハンミョウ			●	●	●		
		コハンミョウ				●			
	オサムシ	アオオサムシ							
	シテムシ	オオヒラタシテムシ			●				
	クワガタムシ	クワガタ			●				
		ノコギリクワガタ							
	センチコガネ	センチコガネ							
	コガネムシ	コフキコガネ			●	●		●	
		アオドウガネ							
		ドウガネブイブイ				●		●	
		ヒメコガネ					●		
		セマダラコガネ		●				●	
		マメコガネ	●			●	●		
コアオハナムグリ				●					

Ⅲ 石神井・関町エリア				Ⅳ 大泉・土支田エリア					ルート							確認箇所数	重要種		外来種
Ⅲ③	Ⅲ④	Ⅲ⑤	Ⅲ⑥	Ⅳ④	Ⅳ⑤	Ⅳ⑥	Ⅳ⑦	Ⅳ⑨	R①	R②	R③	R④	R⑤	R⑥	R⑦		国R L	都R L・区部	
●		●		●	●		●	●	●	●		●				15			
●	●	●					●									7	NT		
	●	●	●			●	●	●		●	●	●	●		●	16			
															●	2			
						●			●	●	●					2			
									●							5			
									●							1		◆	
								●								1		◆	
	●								●		●					2		◆	
											●				●	4			
																1			
●			●													1			
							●									1			
	●															2			
																1			
														●		1			
																1			
○																1			
								●								2			
					●									●		2			
					●											1			
									●							2			
													●			2			
							●									3			
						●								●		2			
											●					3			
												●				3		◆	
							●									1			
																3			
																2			
●	●	●														3			
																5			
																3			
													●			1			
													●			2			
													●			2			
														●		8			
																2	NT		
																1			
●													●			5			
																1			
●																1	NT		
																1			
	●	●								●	●	●	●	●	●	11			
										●			●	●	●	2			
													●	●	●	8			
																1			
																3			
	●															8			
																3			
														●					

表Ⅳ－２－５ 昆虫類の確認種一覧（小規模緑地など）(3/4)

目名	科名	種名	Ⅰ 北町・田柄 エリア				Ⅱ 豊玉・中村 エリア		
			Ⅰ ③	Ⅰ ④	Ⅰ ⑤	Ⅰ ⑧	Ⅱ ③	Ⅱ ④	Ⅱ ⑤
			どんぐり山憩いの森	八幡神社	U氏邸	高松市民農園	廣徳寺・区立高稲荷公園	氷川神社	N氏邸
コウチュウ	コガネムシ	シロテンハナムグリ	●	●				●	
		カナブン		●	●				
		カブトムシ	●	●	●		●		
	タマムシ	ヤマトタマムシ							
	カツオブシムシ	ヒメマルカツオブシムシ							
	ケシキスイ	ヨツボシケシキスイ							
	オオキノコムシ	カタモンオオキノコ							
		アカハバビロオオキノコ							
		ヒメオビオオキノコ							
	テントウムシ	ムーアシロホシテントウ					●	●	
		ナナホシテントウ				●			
		ナミテントウ				○	●		
		キイロテントウ			●	●		●	
		ダンダラテントウ				●		●	
		トホシテントウ					●	●	
		オオニジュウヤホシテントウ				●			
	ハムシダマシ	ハムシダマシ							
	ゴミムシダマシ	キマワリ							
	カミキリムシ	ノコギリカミキリ							
		ゴマダラカミキリ							
キボシカミキリ									
ハムシ	アズキマメゾウムシ								
	クロウリハムシ					●	●		
	イタドリハムシ						●		
ゾウムシ	スグリゾウムシ				●	●			
ハチ	ミフシハバチ	ルリチュウレンジ	●					●	
		ヒゲナガハバチ							
	ツチバチ	アカスジツチバチ	●						
		キンケハラナガツチバチ	●						
	ドロバチ	スズバチ							
	スズメバチ	コアシナガバチ							
		コガタスズメバチ						●	
		クロスズメバチ							
	アナバチ	クロアナバチ				●			
		キスジツチスガリ							
コシブトハナバチ	クマバチ		●		●	●			
ミツバチ	コマルハナバチ								
	ニホンミツバチ		●			●			
ハエ	ガガンボ	キイロホソガガンボ							
	ミズアブ	アメリカミズアブ	●			●			
	ツリアブ	ピロウドツリアブ							
	ムシヒキアブ	アオメアブ		●					
		シオヤアブ				●	●	●	
		マガリケムシヒキ		●	●	●			
	ハナアブ	アシブトハナアブ		●					
	ベッコウバエ	ベッコウバエ							
クロバエ	ツマグロキンバエ								
チョウ	ニセマイコガ	カキノヘタムシガ							
	マダラガ	ホタルガ			●		●		
	メイガ	シロオビノメイガ			●		●		

Ⅲ 石神井・関町エリア				Ⅳ 大泉・土支田エリア					ルート							確認箇所数	重要種		外来種
Ⅲ③	Ⅲ④	Ⅲ⑤	Ⅲ⑥	Ⅳ④	Ⅳ⑤	Ⅳ⑥	Ⅳ⑦	Ⅳ⑨	R①	R②	R③	R④	R⑤	R⑥	R⑦		国R	都R・区部	
東京カトリック神学院	天祖若宮八幡宮	M O 氏邸	石泉愛らんど	土支田八幡宮	M U 氏邸	小作原広場	井頭こぶし憩いの森	O 氏畑	練馬駅周辺ルート	城南住宅ルート	田柄川緑道ルート	立野町ルート	土支田・谷原ルート	石神井川流域	白子川流域				
			●			●							●		●	6			
●			●				●			●				●		7			
●				●										●		7			
					●											1	NT		
						●		●								2			
●																1			
		●														1			
		●														1			
		●														1			
																2			
●	○		●			●	●	●				●	●		●	6			
			●			○		●				●	●	●		9			
						●		●				●	●	●		8			
									●							3			
			○			●						●				5			
							●		●							3			
				●	●						●					1			
					●											2			
													●			1	NT		
													●			1			
						●							●			1			
		●					●				●	●				6			
																1			
●	●															2			
●	●										●			●	●	7			
																1			
																1			
●							●									1			
													●			1			
		●										●				2			
																1			
								●								1			
●	●	●	●			●	●	●		●	●	●	●			11			
	●			○		●			●		●	●				6			
				○												2			
				○												1			
		●	●	●			●						●			8	◆		
													○			1			
●			●			●				●		●			●	7			
●		●	●				●	●				●				9			
										●						4			
		●	●													2			
	●															2			
													●			1			
								●								1			
				●	●	●	●									5			
			●		●	●	●					●				7			

表IV-2-5 昆虫類の確認種一覧（小規模緑地など）（4/4）

目名	科名	種名	I 北町・田柄エリア				II 豊玉・中村エリア		
			I ③	I ④	I ⑤	I ⑧	II ③	II ④	II ⑤
			どんぐり山憩いの森	八幡神社	U氏邸	高松市民農園	廣徳寺・区立高稲荷公園	氷川神社	N氏邸
	セセリチョウ	ダイミョウセセリ	●	●					
		イチモンジセセリ	●			●	●		
		チャバナセセリ							
		キマダラセセリ		●					
	アゲハチョウ	ジャコウアゲハ			●		●		
		アオスジアゲハ	●	●			●	●	●
		カラスアゲハ							
		モンキアゲハ							
		キアゲハ		●					
		ナガサキアゲハ		●			●		●
		クロアゲハ	●	●	●	●	●		●
	ナミアゲハ	●	●	●	●	●		●	
	シロチョウ	ツマキチョウ					○		
		モンキチョウ							
		キチョウ	●	●			●		●
		スジグロシロチョウ					●		●
		モンシロチョウ	●			●	●		
	シジミチョウ	ルリシジミ							
		ツバメシジミ							
		ウラナミシジミ							
		ベニシジミ		●					
		ムラサキツバメ							
		ムラサキシジミ					●		
		ヤマトシジミ	●	●	●	●	●	●	●
		ウラギンシジミ					●		●
	マダラチョウ	アサギマダラ							
	タテハチョウ	コムラサキ							
ミドリヒョウモン									
ツマグロヒョウモン		●	●		●	●			
ヒメアカタテハ					●				
アカボシゴマダラ		●	●			●			
ゴマダラチョウ		●						●	
ルリタテハ									
コムスジ		●	●		●	●		●	
キタテハ									
アカタテハ									
ジャノメチョウ	ヒカゲチョウ								
	クロコノマチョウ								
	ヒメジャノメ	●	●	●	●	●		●	
	サトキマダラヒカゲ		●	●					
ヤマユガ	オオミズアオ			●					
	オオスカシバ				●				
	ホシホウジャク								
	シモフリスズメ								
	セスジスズメ								
ヒトリガ	キシタホソバ					●			
	スジベニコケガ					●			
ヤガ	ナカジロシタバ								
11	81	198	32	42	28	55	52	22	40

種名および並びは日本産野生生物目録-本邦産野生動物植物の種の現状- 環境省編 無脊椎動物編Ⅱなどに準拠している。

●:通常調査での確認 ○:補足調査での確認

■:小規模緑地のみで確認した種

Ⅲ 石神井・関町エリア				Ⅳ 大泉・土支田エリア					ルート							確認箇所数	重要種		外来種
Ⅲ③	Ⅲ④	Ⅲ⑤	Ⅲ⑥	Ⅳ④	Ⅳ⑤	Ⅳ⑥	Ⅳ⑦	Ⅳ⑨	R①	R②	R③	R④	R⑤	R⑥	R⑦		国RL	都RL・区部	
東京カトリック神学院	天祖若宮八幡宮	M O 氏邸	石泉愛らんど	土支田八幡宮	M U 氏邸	小作原広場	井頭こぶし憩いの森	O 氏畑	練馬駅周辺ルート	城南住宅ルート	田柄川緑道ルート	立野町ルート	土支田・谷原ルート	石神井川流域	白子川流域				
		●	●											●		5			
●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	17			
					●	●			●		●					4			
														●		2			
																2			
	●	●	●						●	●	●	●	●		●	14			
●								●					●			3			
		●														1			
●			●				●	●					●			6			
		●	●						●			●			●	8			
●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●		●	20			
●	●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	19			
●							●	●				●	●			4			
●							●	●				●	●			4			
●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	15			
●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	12			
●	●		●		●	●		●	●	●	●	●	●		●	14			
													●	●	●	3			
			●					●				●				1			
									●			●		●		4			
●						●			●	●			●			6			
		●														1			
		●		●									●			4			
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	23			
	●															3			
														●		1		*	
												●				1			
●			●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	16			
●			●		●	●	●	●			●		●		●	10			
	●		●									●				6		要注意外来生物	
●												●	●			3			
●	●	●	●	●			●				●	●	●	●	●	16			
								●								1			
															○	1			
●		●	●	●	●		●					●				7			
	●															1			
●	●	●		●		●	●			●			●			13			
●	●					●	●				●		●			7			
						●										2		VU	
					●				●		●	●	●			6			
											●	●				2			
		○														1			
							●									1			
																1			
														○		1			
49	33	43	43	27	35	37	46	32	28	31	32	62	56	17	36		0	11	

②重要種

文化財保護法、種の保存法における指定種の確認は無かった。

国 RL の記載種は、エサキアメンボ（準絶滅危惧）の 1 種であった。都 RL の記載種は 39 種であった。

表IV-2-7に重要種一覧、表IV-2-8に重要種の確認状況を示した。

表IV-2-7 昆虫類の重要種一覧

科名	種名	重要種		I 北町・田柄 エリア						II 豊玉・中村 エリア		
				I ①	I ②	I ③	I ④	I ⑤	I ⑧	II ①	II ②	II ③
		国 R L	都 R L ・ 区 部	都 立 光 が 丘 公 園	都 立 城 北 中 央 公 園	ど ん ぐ り 山 憩 い の 森	八 幡 神 社	U 氏 邸	高 松 市 民 農 園	武 蔵 学 園	豊 島 園	廣 徳 寺 ・ 区 立 高 稲 荷 公 園
アメンボ	エサキアメンボ	NT	DD									
アゲハチョウ	オナガアゲハ		CR +EN									
アメンボ	オオアメンボ		CR						●			
タマムシ	ウバタマムシ		CR									
イトトンボ	キイトンボ		EN	○								
ヤンマ	アオヤンマ		EN									
トンボ	ヨツボシトンボ		EN	●								
コガネムシ	ヒメトラハナムグリ		EN							●		
コガネムシ	クロカナブン		EN									
カワトンボ	ハグロトンボ		VU							●		
トンボ	シオヤトンボ		VU									
トンボ	ミヤマアカネ		VU	○								
バッタ	ショウリヨウバッタモドキ		VU	●								
ハネカクシ	キンボシハネカクシ		VU	●								
クワガタムシ	ヒラタクワガタ		VU	●						●		
カミキリムシ	キスジトラカミキリ		VU	●								
カミキリムシ	センノカミキリ		VU							●		
ヤママユガ	オオミズアオ		VU	●				●				
オニヤンマ	オニヤンマ		NT	●								
トンボ	チョウトンボ		NT	●						●		
トンボ	マイコアカネ		NT	●							●	
トンボ	リスアカネ		NT	○		●						
アメンボ	シマアメンボ		NT									
セミ	ヒグラシ		NT	○			●	●		○	●	
ハンミョウ	コハンミョウ		NT		●				●			
クワガタムシ	ノコギリクワガタ		NT									
タマムシ	ヤマトタマムシ		NT	●								
カミキリムシ	ノコギリカミキリ		NT									
カミキリムシ	タケトラカミキリ		NT									
キリギリス	シブイロカヤキリ		DD	●								
コオロギ	タンボコオロギ		DD									
ヒバリモドキ	ヒゲシロスズ		DD	●						●		
ヒバリモドキ	ヤチスズ		DD	●								
ヒバリモドキ	キンヒバリ		DD	●								
バッタ	ツマグロバッタ		DD	○								
ハムシ	ハッカハムシ		DD									
シジミチョウ	ミドリシジミ		DD									
タテハチョウ	イチモンジチョウ		DD									
シジミチョウ	ミズイロオナガシジミ		*									
タテハチョウ	コムラサキ		*	●								
		1	40	20	1	1	1	2	1	1	7	2
			40				21				9	

重要種凡例

【国RLおよび都RL】

EX: 絶滅

CR+EN: 絶滅危惧I類

CR: 絶滅危惧 I A類

EN: 絶滅危惧 I B類

VU: 絶滅危惧 II 類





NT: 準絶滅危惧

DD: 情報不足

*: 留意種

Ⅲ 石神井・関町 エリア						Ⅳ 大泉・土支田 エリア						ルート			確認箇所数	備考
Ⅲ①	Ⅲ②	Ⅲ③	Ⅲ④	Ⅲ⑤	Ⅲ⑥	Ⅳ②	Ⅳ③	Ⅳ⑤	Ⅳ⑥	Ⅳ⑦	Ⅳ⑧	R④	R⑥	R⑦		
都立石神井公園	区立武蔵関公園	東京カトリック神学院	天祖若宮八幡宮	M O 氏邸	石泉愛らんど	稲荷山・清水山憩いの森	八の釜憩いの森	M U 氏邸	小作原広場	井頭こぶし憩いの森	区立びくに公園	立野町ルート	石神井川流域	白子川流域		
●															1	
●															1	
●							●								3	
○															1	
															1	
●															1	
															1	
	●					●									3	
													●	●	0	南田中憩いの森での記録
●							○								4	
														●	1	
														●	2	
											●				2	
															1	
							●								3	
															1	
●	●					●			●						2	
							○								5	
●															2	
●						●	●								3	
															5	
							●	●							2	
●	○	●	●	●		●	●			●					2	
					●										12	
															3	
●		●				●			●						1	
									●						4	
									●						1	
															0	南田中での記録
															1	
●															1	
						●									3	
●															2	
●															2	
															1	
●															1	
●															1	
●															1	
●															1	
●	●											●			1	
															4	
19	4	2	1	1	1	8	5	2	1	1	1	1	1	2		
22						13						1	1	2		

表Ⅳ－２－８ 昆虫類の重要種確認状況 (1/8)

<p>エサキアメンボ(アメンボ科) 国RL:準絶滅危惧(NT) 都RL(区部):情報不足(DD)</p>	
	<p>確認地点:都立石神井公園 確認状況:石神井池南岸の浅い水溜り状の場所で5月に確認した。</p>
<p>オナガアゲハ(アゲハチョウ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)</p>	
<p>写真無し</p>	<p>確認地点:都立石神井公園 確認状況:8月に、サービスセンター南の茶屋付近で、飛翔中の1個体を確認した。</p>
<p>オオアメンボ(アメンボ科) 都RL(区部):絶滅危惧ⅠA類(CR)</p>	
	<p>確認地点:武蔵学園、都立石神井公園、八の釜憩いの森 確認状況:武蔵学園では4~9月、石神井公園では三宝寺池側水路で5、8月に、八の釜憩いの森では、5~6月、8~9月に確認した。いずれの調査地でも、樹林などに囲まれた止水域で確認された。武蔵学園では多数確認された。</p>
<p>ウバタマムシ(タマムシ科) 都RL(区部):絶滅危惧ⅠA類(CR)</p>	
	<p>確認地点:都立石神井公園 確認状況:任意調査中(平成21年5月)に、石神井池側の園路上で1個体を確認した。</p>
<p>キイトンボ(イトンボ科) 都RL(区部):絶滅危惧ⅠB類(EN)</p>	
	<p>確認地点:都立光が丘公園 確認状況:平成20年7月の下見時に交尾中の個体を、平成22年7月のクモ類調査時に1個体を確認した。いずれもバードサンクチュアリ内の池の、水際の抽水植物群落の中にいた。</p>

表IV-2-8 昆虫類の重要種確認状況 (2/8)

アオヤンマ(ヤンマ科) 都RL(区部):絶滅危惧 I B類(EN)	
写真無し	確認地点:都立石神井公園 確認状況:6月に水辺観察園で確認した。
ヨツボシトンボ(トンボ科) 都RL(区部):絶滅危惧 I B類(EN)	
	確認地点:都立光が丘公園 確認状況:5月にバードサンクチュアリで確認した。
ヒメトラハナムグリ(コガネムシ科) 都RL(区部):絶滅危惧 I B類(EN)	
	確認地点:豊島園、区立武蔵関公園、清水山憩いの森 確認状況:豊島園では5月にアジサイ園で、区立武蔵関公園では5月に池の周囲で、清水山憩いの森では6月に確認した。
クロカナブン(コガネムシ科) 都RL(区部):絶滅危惧 I B類(EN)	
	確認地点:南田中憩いの森 (調査地外) 確認状況:平成21年7月、任意調査中に確認した。
ハグロトンボ(カワトンボ科) 都RL(区部):絶滅危惧 II 類(VU)	
	確認地点:豊島園、八の釜憩いの森、石神井川流域、白子川流域 確認状況:豊島園では6~7月に石神井川沿いの樹林などで、石神井川流域や白子川流域では多数確認した。

表Ⅳ－２－８ 昆虫類の重要種確認状況 (3/8)

シオヤトンボ(トンボ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)	
	確認地点:都立石神井公園 確認状況:三宝寺池側の水辺観察園で5月に確認した。
ミヤマアカネ(トンボ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)	
	確認地点:都立光が丘公園、白子川流域 確認状況:光が丘公園では、平成22年9月にバードサンクチュアリ内の池で、白子川流域では、平成22年10月、任意調査中に1個体を確認した。
ショウリョウバッタモドキ(バッタ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)	
	確認地点:都立光が丘公園、区立びくに公園 確認状況:光が丘公園・びくに公園ともに、7月から9月まで確認した。いずれの地点でも定着していると考えられる。
キンボシハネカクシ(ハネカクシ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)	
	確認地点:都立光が丘公園 確認状況:6月に、園内を任意調査中に確認した。
ヒラタクワガタ(クワガタムシ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)	
	確認地点:都立光が丘公園、豊島園、区立びくに公園 確認状況:光が丘公園のバードサンクチュアリ内と、びくに公園では7月に確認した。豊島園では、5月にアジサイ園で確認した。


表Ⅳ－２－８ 昆虫類の重要種確認状況（4/8）

キスジトラカミキリ(カミキリムシ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)	
	確認地点:都立光が丘公園 確認状況:5月に屋敷森で確認した。
センノカミキリ(カミキリムシ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)	
	確認地点:豊島園、稲荷山憩いの森 確認状況:豊島園では、8月に石神井川沿いの樹林地で交尾中の個体を確認した。稲荷山憩いの森では、7月に確認した。
オオミズアオ(ヤママユガ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)	
	確認地点:都立光が丘公園、都立石神井公園、区立武蔵関公園、U氏邸、小作原広場 確認状況:U氏邸と小作原広場では5月に、石神井公園では6月に、光が丘公園と武蔵関公園では8月に、1個体ずつ確認した。
オニヤンマ(オニヤンマ科) 都RL(区部):準絶滅危惧(NT)	
	確認地点:都立光が丘公園、清水山憩いの森 確認状況:光が丘公園では、8月にバードサンクチュアリで成虫を、清水山憩いの森では、平成22年6月に湧水で幼虫を確認した。
チョウトンボ(トンボ科) 都RL(区部):準絶滅危惧(NT)	
	確認地点:都立光が丘公園、豊島園、都立石神井公園 確認状況:光が丘公園では7～8月にバードサンクチュアリや屋敷森で、豊島園では7月に庭の湯周辺林で、石神井公園では9月に石神井池で確認した。

表Ⅳ－２－８ 昆虫類の重要種確認状況 (5/8)

マイコアカネ(トンボ科) 都RL(区部):準絶滅危惧(NT)	
	確認地点: 都立光が丘公園、都立石神井公園、稲荷山憩いの森、八の釜憩いの森、土支田八幡宮、廣徳寺、立野町ルート 確認状況: 光が丘公園では8月にバードサンクチュアリや屋敷森で、石神井公園では7～9月に三宝寺池側や石神井池側で確認された。また、土支田八幡宮と廣徳寺では7月に、稲荷山憩いの森では8月に、八の釜憩いの森と立野ルート(立野公園)では9月に確認された。
リスアカネ(トンボ科) 都RL(区部):準絶滅危惧(NT)	
	確認地点: 都立光が丘公園、どんぐり山憩いの森 確認状況: 光が丘公園では平成22年8月にバードサンクチュアリで、どんぐり山憩いの森では、平成20年8月の下見時に1個体を樹林内で確認した。
シマアメンボ(アメンボ科) 都RL(区部):準絶滅危惧(NT)	
	確認地点: 清水山憩いの森、八の釜憩いの森 確認状況: 清水山憩いの森では、4～8月および10月(9月は調査せず)、八の釜憩いの森では5～9月に、それぞれ湧水で確認した。
ヒグラシ(セミ科) 都RL(区部):準絶滅危惧(NT)	
	確認地点: 都立光が丘公園、八幡神社、U氏邸、豊島園、廣徳寺・区立高稲荷神社、都立石神井公園、区立武蔵関公園、東京カトリック神学院、天祖若宮八幡宮、MO氏邸、稲荷山憩いの森・清水山憩いの森、井頭こぶし憩いの森 確認状況: 全ての調査地で、7～8月に確認した。なお、光が丘公園、豊島園、武蔵関公園、東京カトリック神学院、天祖若宮八幡宮、井頭こぶし憩いの森は、下見時に確認した。
コハンミョウ(ハンミョウ科) 都RL(区部):準絶滅危惧(NT)	
	確認地点: 都立城北中央公園、高松市民農園、石泉愛らんど 確認状況: 都立城北中央公園では8月に「都民の森」で確認した。高松市民農園、石泉愛らんどでは7月に確認した。

表Ⅳ－２－８ 昆虫類の重要種確認状況 (6/8)

ノギリクワガタ(クワガタムシ科) 都RL(区部):準絶滅危惧(NT)	
	確認地点:東京カトリック神学院 確認状況:東京カトリック神学院内の雑木林で、7月に1個体を確認した。
ヤマトタマムシ(タマムシ科) 都RL(区部):準絶滅危惧(NT)	
	確認地点:都立光が丘公園、都立石神井公園、稲荷山・清水山憩いの森、MU氏邸 確認状況:光が丘公園、石神井公園、稲荷山・清水山憩いの森ではいずれも8月に、MU氏邸では7月に確認した。なお、稲荷山憩いの森、MU氏邸では平成20年7月の下見時にも確認した。
ノギリカミキリ(カミキリムシ科) 都RL(区部):準絶滅危惧(NT)	
	確認地点:MU氏邸 確認状況:MU氏邸の樹林地内で、7月に確認した。
タケトラカミキリ(カミキリムシ科) 都RL(区部):準絶滅危惧(NT)	
写真無し	確認地点:南田中 確認状況:南田中で7月に確認した(任意調査)。
シブイロカヤキリ(キリギリス科) 都RL(区部):情報不足(DD)	
	確認地点:都立光が丘公園 確認状況:4月、光が丘公園のバードサンクチュアリ内の高茎草地で成虫1個体を確認した。

表Ⅳ－２－８ 昆虫類の重要種確認状況 (7/8)

タンボコオロギ(コオロギ科) 都RL(区部):情報不足(DD)	
写真無し	確認地点:都立石神井公園 確認状況:8月の夜間調査中に、隣接した畑地で「鳴き声」を確認した。
ヒゲシロスズ(ヒバリモドキ科) 都RL(区部):情報不足(DD)	
写真無し	確認地点:都立光が丘公園、豊島園、稲荷山憩いの森 確認状況:光が丘公園ではバードサンクチュアリで9月に、豊島園では庭の湯周辺林で8月に、稲荷山憩いの森では10月に確認した。
ヤチスズ(ヒバリモドキ科) 都RL(区部):情報不足(DD)	
	確認地点:都立光が丘公園、都立石神井公園 確認状況:光が丘公園では、バードサンクチュアリで7月に、石神井公園では、水辺観察園で6月に終齢幼虫を、三宝寺池畔で10月に声を確認した。
キンヒバリ(ヒバリモドキ科) 都RL(区部):情報不足(DD)	
	確認地点:都立光が丘公園、都立石神井公園 確認状況:石神井公園では、三宝寺池畔、水辺観察園、石神井池、サービスセンター西のトイレ付近などで5～7月に、光が丘公園ではバードサンクチュアリの水辺の草地で、6～7月に「鳴き声」を確認した。
ツマグロバッタ(バッタ科) 都RL(区部):情報不足(DD)	
	確認地点:都立光が丘公園 確認状況:光が丘公園のバードサンクチュアリ内の草地で平成22年4月に幼虫1個体を確認した。なお、平成20年9月に、光が丘公園バードサンクチュアリで確認した。(光が丘公園バードサンクチュアリ記録)

表Ⅳ－２－８ 昆虫類の重要種確認状況 (8/8)

ハッカムシ(ハムシ科) 都RL(区部):情報不足(DD)	
	確認地点:都立石神井公園 確認状況:6月に、水辺観察園で確認した。
ミドリシジミ(シジミチョウ科) 都RL(区部):情報不足(DD)	
	確認地点:都立石神井公園 確認状況:水辺観察園周辺のハンノキ林で、6月に確認した。
イチモンジチョウ(タテハチョウ科) 都RL(区部):情報不足(DD)	
	確認地点:都立石神井公園 確認状況:6月に水辺観察園付近で、7月に野鳥誘致林付近で確認した。また、平成20年8月の下見時にも確認した。
ミズイロオナガシジミ(シジミチョウ科) 都RL(区部):留意種(*)	
	確認地点:都立石神井公園 確認状況:6月に、野鳥誘致林の周辺で確認した。
コムラサキ(タテハチョウ科) 都RL(区部):留意種(*)	
	確認地点:都立光が丘公園、都立石神井公園、区立武蔵関公園、立野町ルート 確認状況:光が丘公園では、5月に屋敷森とバードサンクチュアリで、石神井公園では、5月に水辺観察園で、7月に石神井池で、武蔵関公園では7月に池周辺の任意調査中に確認した。立野町ルートでは、区立立野公園内の池周辺で、5、7、9月のすべての調査時期で確認した。


※特に年の記載がない場合は平成21年の確認

③外来種

確認種のうち、環境省が指定する特定外来生物はいなかったが、要注意外来生物を1種確認した。この確認状況を表Ⅳ-2-9に、種の特徴について表Ⅳ-2-10に示した。

これ以外に外来種（※定義については第三章参照）にあたるのは、表Ⅳ-2-11に示した9種であった。ただし、外来種については諸説あり、今後該当種が増える可能性があることに注意が必要である。

表Ⅳ-2-9 昆虫類の要注意外来生物 確認状況

アカボシゴマダラ(タテハチョウ科) 環境省 要注意外来生物	
	<p>確認地点：都立光が丘公園、都立城北中央公園、どんぐり山憩いの森、八幡神社、豊島園、廣徳寺・高稲荷公園、都立石神井公園、区立武蔵関公園、稲荷山憩いの森・清水山憩いの森、八の釜憩いの森、天祖若宮八幡宮、石泉愛らんど、立野町ルート(計13箇所)</p> <p>確認状況：各調査地で、1～数個体を確認した。</p>

表Ⅳ-2-10 要注意外来生物・アカボシゴマダラについて

和名および学名	文献等で指摘されている影響の内容	摘要
アカボシゴマダラ <i>Hestina assimilis</i> (在来 <i>H. a. shirakii</i> を除く)	生態系 (競合)	<p>ゴマダラチョウとの競合が懸念されている。 <i>Hestina assimilis shirakii</i> が奄美大島に在来で分布するが、神奈川県などで分布を拡大中の種は国外産の亜種である。</p> <p>植物防疫法に基づく検疫有害動物として輸入が禁止されている種であり、国内で意図的に放蝶して野外への定着を試みる行為は、被害の予防の観点からも、厳に慎むべきである。</p>

※環境省ウェブサイト (<http://www.env.go.jp/nature/intro/index.html>) より

表Ⅳ－２－１１ 確認した昆虫類の外来種一覧（要注意外来生物を除く）

目名	科名	種名	確認場所
ゴキブリ	ゴキブリ	クロゴキブリ	区立武蔵関公園
バッタ	マツムシ	アオマツムシ	都立光が丘公園、都立城北中央公園、武蔵学園、豊島園、どんぐり山憩いの森、U氏邸、廣徳寺・区立高稲荷公園、都立石神井公園、区立武蔵関公園、都立大泉中央公園、稲荷山憩いの森・清水山憩いの森、八の釜憩いの森、天祖若宮八幡宮、M O氏邸、石泉愛らんど、土支田八幡宮、MU氏邸、O氏畑、城南住宅ルート、立野町ルート（計20箇所）
カメムシ	ゲンバウムシ	プラタナスゲンバイ	都立光が丘公園、都立城北中央公園、区立武蔵関公園、練馬駅周辺ルート（計4箇所）
		アワダチソウゲンバイ	都立光が丘公園、都立城北中央公園、武蔵学園、豊島園、都立石神井公園、区立武蔵関公園、都立大泉中央公園、清水山憩いの森、八の釜憩いの森、区立びくに公園、O氏畑（計11箇所）
	サシガメ	ヨコヅナサシガメ	都立城北中央公園、武蔵学園、都立石神井公園、都立大泉中央公園、稲荷山憩いの森、練馬駅周辺ルート、田柄川緑道ルート（計7箇所）
	カメムシ	キマダラカメムシ	田柄川緑道ルート
コウチュウ	オサムシ	コルリアトキリゴミムシ	都立光が丘公園、都立城北中央公園
	テントウムシ	クモガタテントウ	武蔵学園、豊島園、清水山憩いの森
	カミキリムシ	ラミーカミキリ	都立光が丘公園
	ゾウムシ	ヤサイゾウムシ	都立光が丘公園、都立大泉中央公園
ハチ	ミツバチ	セイヨウミツバチ	都立光が丘公園、都立城北中央公園、武蔵学園、都立石神井公園、都立大泉中央公園、稲荷山憩いの森、八の釜憩いの森、区立びくに公園（計8箇所）
ハエ	ミズアブ	アメリカミズアブ	都立光が丘公園、豊島園、都立石神井公園、武蔵関公園、八の釜憩いの森、どんぐり山憩いの森、高松市民農園、廣徳寺・区立高稲荷公園、MO氏邸、石泉愛らんど、土支田八幡宮、井頭こぶし憩いの森、土支田・谷原ルート（計13箇所）
	ハナアブ	スイセンハナアブ	都立光が丘公園、都立城北中央公園、都立石神井公園、稲荷山憩いの森・清水山憩いの森（計4箇所）
6目	12科	13種	

2) 主要種群のまとめ

①トンボ類

A. 科別出現傾向

トンボ類は、9科34種を確認した。以下に、科ごとの出現傾向をまとめる。

a. イトトンボ科

4種を確認したが、いずれも大規模緑地だけの記録であり、確認箇所も1~3地点と少ない。特にキイトンボは都立光が丘公園のバードサンクチュアリ、アオモンイトンボは、都立石神井公園の三宝寺池でのみ確認され、区内でも孤立した状態にあると考えられる。

b. アオイトトンボ科

2種を確認した。アオイトトンボは都立光が丘公園と白子川流域の2箇所、オオアオイトンボは都立光が丘公園のバードサンクチュアリと都立石神井公園の城址と三宝寺池、区立武蔵関公園の「葦の島」の3箇所と、区内でも大規模な水域を有する場所でのみ確認されている。

c. モノサシトンボ科

モノサシトンボ1種を、都立石神井公園の全域と区立武蔵関公園の「松の島」で確認した。

d. カワトンボ科

ハグロトンボ1種を、豊島園、石神井川流域、白子川流域で確認した。区内を流れる2つの水系で、いずれも繁殖しているものと考えられる。

e. オニヤンマ科

オニヤンマ1種を、都立光が丘公園と清水山憩いの森で確認した。都立光が丘公園では成虫を確認したが、バードサンクチュアリ内の流れで、羽化した可能性がある。清水山憩いの森では、湧水で幼虫を確認しており、繁殖していると考えられる。

f. ヤンマ科

5種を確認した。市街地でも比較的普通種のギンヤンマやクロスジギンヤンマの他に、抽水植物が繁茂する池沼を選好するアオヤンマ、マルタンヤンマ、ヤブヤンマを確認した。なお、都立石神井公園では5種すべてを確認した。

g. サナエトンボ科

ウチワヤンマ1種を、都立光が丘公園、都立石神井公園、区立武蔵関公園で確認した。都立光が丘公園の記録は、補足調査でのものであり、周辺から飛来したと考えられる。

h. エゾトンボ科

オオヤマトンボ1種を、都立石神井公園の2つの石神井池・三宝寺池と区立武蔵関公園で確認した。区立武蔵関公園では、成虫だけでなく、羽化殻も確認した。

i. トンボ科

18 種を確認した。ウスバキトンボが 18 箇所、オオシオカラトンボとナツアカネが 14 箇所、シオカラトンボとアキアカネを 12 箇所を確認し、それぞれ区内に広く分布することが把握された。

一方、ヨツボシトンボとネキトンボは都立光が丘公園で、シオヤトンボは都立石神井公園でのみ確認した。

B. 生息環境別にみた生息傾向

「生きもののすむ環境づくりトンボ編」(1991)による生息環境の区分を参考に、本調査で確認した種を区分した。これを表IV-2-12に示した。

表IV-2-12 確認したトンボ類の生息環境別区分

	生息環境	種数	主な該当種
流水性	小川	3 種	ハグロトンボ、オニヤンマ、ミヤマアカネ
止水性	水生植物が豊富で木陰の多い池沼	6 種	クロイトトンボ、ヤブヤンマ、クロスジギンヤンマ、モノサシトンボ、アオイトトンボ、オオアオイトトンボ
	水生植物が豊富で開放的な池沼	10 種	アジアイトトンボ、アオヤンマ、マルタンヤンマ、ショウジョウトンボ、シオヤトンボ、ナツアカネ、アキアカネ、ノシメトンボ、コノシメトンボ、マイコアカネ
	プールのような人工的な池	4 種	ギンヤンマ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ウスバキトンボ
	合計	23 種	

a. 流水域を愛好する種

3 種を確認した。ハグロトンボについては、石神井川、白子川という区内を流れる 2 つの小河川でたびたび確認し、既存の調査でも幼虫を確認していることから、安定して生息していると考えられる。オニヤンマについては、清水山憩いの森の湧水で幼虫を確認したほか、都立光が丘公園バードサンクチュアリ内の人工的な流れでの発生が示唆された。ミヤマアカネは、都立光が丘公園バードサンクチュアリと白子川流域で 1~2 個体を確認した。

b. 水生植物が豊富で木陰の多い池沼を愛好する種

6 種が確認された。沼沢植物群落のある都立石神井公園では 5 種、都立光が丘公園で 4 種、区立武蔵関公園でも 3 種を確認している。

c. 水生植物が豊富で開放的な池沼を愛好する種

10 種を確認した。都立光が丘公園と都立石神井公園で多くの種が確認されたほか、池のある区立武蔵関公園でも確認した。一方で、樹林地のみである調査地点でも確認したが、これは未成熟個体が採食のために発生場所から一時的に移動してくるためである。

確認場所の少ない種としては、アオヤンマ、マルタンヤンマの 2 種を、都立石神井公園の

三宝寺池で確認した。天然記念物にもなっている沼沢植物群落の存在が、これらの種の生息を確保していると考えられる。シオヤトンボについては、都立石神井公園の水辺観察園内のゆるやかな流れで、1 個体を確認した。

d. プールのような人工的な池でも生息可能な種

市街環境に普通に生息する 4 種を確認した。前述のようにウスバキトンボを 18 箇所、オオシオカラトンボを 14 箇所、シオカラトンボを 12 箇所を確認し、区内全体に広く生息していた。これは、人工的な池として小中学校内のプールや池などが利用されているためと考えられる。一方、ギンヤンマは 4 箇所のみであったが、他の種と比較して産卵するために抽水植物を必要とするためと考えられる。

②バッタ類

A. 科別出現傾向

バッタ類は、12科45種を確認した。以下に、科ごとの出現傾向をまとめる。

a. カマドウマ科

マダラカマドウマ、クラズミウマの2種を確認した。これらは夜行性であるため、偶発的な記録と考えられる。今後、夜間の調査などを実施することで、確認場所や種数の増加が見込まれる。

b. キリギリス科

9種を確認した。

クビキリギスを13箇所と最も多くの調査地で確認した。ついでウスイロササキリを6箇所で確認した。

一方、ササキリ、シブイロカヤキリは1箇所のみの記録であり、区内での分布が孤立している可能性が高い。また、調査対象地ではないが、ヤブキリを石神井図書館周辺で確認した。

c. ツユムシ科

4種を確認した。

セスジツユムシとサトクダマキモドキを5箇所で確認したが、ほとんどが大規模緑地であった。ツユムシは、3箇所で確認した。

d. コオロギ科

5種を確認した。

市街地にも一般的な、エンマコオロギが13箇所、モリオカメコオロギやツツレサセコオロギを11箇所で確認し、区内に広く分布していることが把握された。

一方、湿地性のタンボコオロギが都立石神井公園の周辺で確認した。

e. マツムシ科

3種を確認した。

スズムシを、都立光が丘公園と都立石神井公園で、カンタンを、都立光が丘公園、都立城北中央公園、都立石神井公園の3箇所で確認した。両種は、鳴き声が好まれることから、移入された可能性が高い。ただし、本種が生息することは、クズなどを含む高茎草本地が存在することであり、区内では希少な環境の指標になると考えられる。

アオマツムシを、23箇所で確認した。草地を除く区内全域に広く分布していることが把握された。

f. ヒバリモドキ科

8種を確認した。

市街地にも一般的な、マダラスズを19箇所、シバズズを8箇所で確認した。

樹林性のウスグモズズは、大規模樹林8箇所を含む9箇所で確認し、一定規模以上の樹林地に定着している状況が伺える。

一方、湿地性のキンヒバリやヤチズズは、都立光が丘公園と都立石神井公園で、クズなど

の茂みを好むクサヒバリは都立光が丘公園、豊島園、石神井川流域の 3 箇所を確認した。ヤマトヒバリ、ヒゲシロスズも 3 箇所のみ記録であり、これらの種は分布が非常に限定されていることが伺える。

g. カネタタキ科

カネタタキ 1 種を、33 箇所を確認した。ルートの調査地すべてでも確認したことから、住宅地なども含め、区内全域に広く分布していることが把握された。

h. アリツカコオロギ科

テラニシアリツカコオロギ 1 種を、豊島園と都立大泉中央公園の 2 箇所を確認した。本種はケアリ亜属のアリの巣から見つかること、体長が 2.1~2.6mm と小さいことなどから、発見効率が悪いと考えられる。そのため、特に本種を対象とした調査を行うことで、他の調査地でも生息している可能性がある。

i. ノミバッタ科

ノミバッタ 1 種を、4 箇所を確認した。大規模緑地以外に、高松市民農園でも確認した。

j. ヒシバッタ科

トゲヒシバッタ、ハラヒシバッタの 2 種を確認した。トゲヒシバッタは、都立光が丘公園のバードサンクチュアリのみで確認した。ハラヒシバッタは、大規模緑地を中心に、裸地の混じる草地のある 15 箇所を確認した。

k. オンブバッタ科

オンブバッタ 1 種を、28 箇所を確認した。住宅地なども含め、区内全域に広く分布していることが把握された。

l. バッタ科

8 種を確認した。

ショウリョウバッタを 16 箇所を確認し、区内の草地に広く分布していることが把握された。一方で、ツマグロイナゴとツチイナゴは都立光が丘公園のみで、ショウリョウバッタモドキは、都立光が丘公園と区立びくに公園の 2 箇所を確認した。いずれも、それぞれの場所で孤立していると考えられる。

※上記には含まれていないが、調査地でのヒアリングから、ケラ（ケラ科）が生息している可能性が高い。

B. 生息環境別にみた生息傾向

「日本バッタ大図鑑」(2005)による生息環境の区分を参考に、本調査で確認した種を区分した。これを表IV-2-13に示した。

表IV-2-13 確認したバッタ類の生息環境別区分

生息環境	種数	主な該当種
樹林	10種	マダラカマドウマ、クラズミウマ、アオマツムシ、ヤマトヒバリ、ウスグモズ、ヒメクダマキモドキ、サトクダマキモドキ、モリオカメコオロギ、テラニシアリツカコオロギ、カネタタキ
林縁	7種	クサヒバリ、セスジツユムシ、ササキリ、ハヤシノウマオイ、ヤブキリ
高茎草地 (クズ群落含む)	5種	クビキリギス、シブイロカヤキリモドキ、スズムシ、カンタン、ツチイナゴ
中茎草地	8種	トノサマバッタ、ツユムシ、ウスイロササキリ、ホシササキリ、ショウリョウバッタ、ショウリョウバッタモドキ、ヒメクサキリ、ヒゲシロスズ
低茎草地・裸地	10種	ハラオカメコオロギ、ツツレサセコオロギ、エンマコオロギ、オンブバッタ、シバスズ、マダラスズ、クルマバッタモドキ、イボバッタ、ハラヒシバッタ、ノミバッタ
湿性草地	7種	キンヒバリ、ヒメギス、コバネイナゴ、トゲヒシバッタ、ツマグロイナゴ、タンボコオロギ、ヤチスズ
合計	45種	

a. 樹林

9種が該当した。市街環境に適応したアオマツムシやカネタタキを除き、いずれの種もほぼ大規模樹林にのみ生息していた。

なお、テラニシアリツカコオロギについては、生態に関して十分な知見がないことから、確認した場所(豊島園、都立大泉中央公園)からここに分類した。

b. 林縁

7種が該当した。調査地以外で確認したヤブキリを除き、全てが大規模樹林でのみ確認した。これは、林縁環境やマント群落のような植生構造が、小さな樹林では管理が行き届くことなどから成立しにくく、大きな樹林の一部にしか見出せなかったためと考える。

c. 高茎草地

この環境にはクズ群落も含めた。

5種が該当した。クビキリギスが、比較的区内に広く分布するが、シブイロカヤキリモドキとツチイナゴは都立光が丘公園のバードサンクチュアリ内でのみ確認した。スズムシやカンタンについては、人為的な導入の可能性が高い。

d. 中茎草地

8種が該当した。16調査地で確認したショウリョウバッタを除くと、大規模公園内などのまとまった草地でのみ確認した種が多い。ただし、小作原広場では、ツユムシやホシササキを小規模緑地では唯一確認し、ショウリョウバッタ、ウスイロササキ、トノサマバッタなども確認した。面積は小さいものの、良好な中茎の草地環境が成立していると考えられる。

e. 低茎草地・裸地

10種が該当した。区内のほぼ全てで確認したカネタタキやオンブバッタなどが含まれている。芝地のような低茎草地を好むマダラスズ、シバズも確認箇所数が多いためにここに含めた。

裸地を好む種としては、ハラヒシバッタは15調査地で確認しており、比較的区内に広く分布していることから上記の「市街地」にも含められると考える。一方、ノミバッタは4箇所のみでの確認であった。

f. 湿った草地

7種が該当した。ほとんどが都立光が丘公園か都立石神井公園でのみ確認した種であり、分布が限られている。

③チョウ類

A. 科別出現傾向

チョウ類は、9科45種を確認した。以下に、科ごとの出現傾向をまとめる。

a. セセリチョウ科

4種を確認した。

市街地にも見られるイチモンジセセリを26箇所を確認した、区内にも広く分布することが把握された。その他の種も9～11箇所を確認した。このうち、キマダラセセリは、大規模緑地では9箇所中7箇所を確認したが、小規模では2箇所（八幡神社、土支田・谷原ルート）のみであった。

b. アゲハチョウ科

9種を確認した。

市街地にも見られるナミアゲハは29箇所、クロアゲハは30箇所、アオスジアゲハは25箇所を確認し、区内にも広く分布することが把握された。

一方で、近年分布を広げているナガサキアゲハを17箇所、ジャコウアゲハを5箇所を確認した。今後も拡大する可能性がある。

c. シロチョウ科

5種を確認した。

キチョウ、スジグロシロチョウ、モンシロチョウは市街地に適応した種であり、それぞれ23箇所、21箇所、23箇所を確認したが、草地性であるモンキチョウは9箇所、ツマキチョウは3箇所のみ記録であった。ツマキチョウについては、調査時期が5月以降の地点が多かったことから、確認が困難であったと考えられる。

d. シジミチョウ科

10種を確認した。

ヤマトシジミを全ての調査地で確認し、区内全域に分布していることが把握された。次いで、ベニシジミを12箇所、ムラサキシジミを11箇所を確認した。

雑木林に生息するゼフィルス^{※3}の一種であるミズイロオナガシジミは、都立石神井公園で確認したほか、豊島園でもヒアリングにより生息情報を得た。同じくゼフィルス^{※66}の一種であるアカシジミについては、都立石神井公園でのヒアリングで生息情報を得たが、調査員による確認は出来なかった。ハンノキ林に生息するミドリシジミは、都立石神井公園の水辺観察園などで確認した。

林縁環境に生息するウラギンシジミ1種を10箇所を確認したが、多くが「大規模樹林」での確認であった。

近年分布を広げているムラサキツバメも都立光が丘公園、区立武蔵関公園、MO氏邸の3箇所を確認した。今後、区内でも分布を広げる可能性がある。

※66 ゼフィルス：zephyrus。シジミチョウ科ミドリシジミ亜科ミドリシジミ族に含まれるチョウ類の総称。日本には25種が生息する。

e. テングチョウ科

テングチョウ 1 種を都立石神井公園で確認した。6 月に 1 回のみの記録である。

f. マダラチョウ科

アサギマダラ 1 種を、都立光が丘公園と白子川流域の 2 箇所を確認した。白子川流域では、ミズヒマワリに多数飛来していた。

g. タテハチョウ科

11 種を確認した。

林縁環境を好むコムスジを 26 箇所を確認し、区内に広く分布していることが把握された。これは区内に点在する雑木林などが生息環境として維持されているためと考えられる。

都 RL（区部）の記載種であるイチモンジチョウを、都立石神井公園でのみ確認した。本種は平成 20～21 年の両年で確認しており、個体数は少ないものの公園内で繁殖していると考えられる。

要注意外来生物であるアカボシゴマダラを、14 箇所を確認した。今後も分布が広がる恐れがあり、引き続いてのモニタリングが必要と考える。また、近年分布を広げているツマグロヒョウモンは、26 箇所を確認した。すでに区内でも広く分布していることが把握された。

h. ジャノメチョウ科

4 種を確認した。

ヒメジャノメを 22 箇所、サトキマダラヒカゲを 16 箇所を確認し、両種ともに区内の樹林地を中心に広く分布していることが把握された。

近年分布を広げているクロコノマチョウは、4 箇所を確認した。今後も区内でも分布を広げる可能性がある。

一方で、杉並区の第 5 次自然環境調査で記録のあるジャノメチョウやヒメウラナミジャノメは確認できなかった。両種ともに明るい草地を好むことから、区内においてそのような草地環境が減少していることが示唆される。

B. 生息環境別にみた生息傾向

「日本のチョウ」(1981)による生息環境の区分を参考に、本調査で確認した種を区分した。これを表IV-2-14~15に示した。

表IV-2-14 確認したチョウ類の生息環境別区分

生息環境	種数	主な該当種
市街地内の草地など 開けた環境に生息	14種	イチモンジセセリ、ベニシジミ、ヤマトシジミ、キアゲハ、ツマグロヒョウモン、ヒメアカタテハ、ウラナミシジミなど
市街地内の樹林環境 に生息	19種	ナミアゲハ、キチョウ、ルリシジミ、コムスジ、ヒカゲチョウ、サトキマダラヒカゲ、ヒメジャノメなど
雑木林やその周辺な どに生息	9種	キマダラセセリ、カラスアゲハ、ツマキチョウ、ミズイロオナガシジミ、ミドリシジミ、ウラギンシジミ、イチモンジチョウなど
常緑のうす暗い樹林 に生息	3種	ムラサキシジミ、ムラサキツバメ、クロコノマチョウ
合計	45種	

a. 市街地内の草地などの開けた環境

14種が該当した。市街地にも生息する種のうち、特に草地性の種をまとめた。

ヤマトシジミやツマグロヒョウモン、イチモンジセセリ、モンシロチョウなど、区内に広く生息する種がいる一方で、キタテハやツバメシジミのように確認箇所数が少ない種も含まれる。キタテハについては、食草であるカナムグラの生育する草地が区内で減少していることが示唆される。

b. 市街地内の樹林環境

19種が該当し、区分の中ではもっとも多く種を含んでいる。アゲハチョウ類やコムスジのような林縁を好む種と、ジャノメチョウ類のように林内を好む種が含まれていた。多くの種が区内に広く分布している状況が伺えた。

c. 雑木林やその周辺など

9種が該当した。区内では比較的良好な環境に生息する種が含まれる。キマダラセセリやカラスアゲハ、ツマキチョウは市街地内でも確認したが、ゼフィルス類、イチモンジチョウについては、都立石神井公園や豊島園など区内の分布が非常に限定されていた。クズの群落などの林縁環境を好むウラギンシジミはここに含めた。

d. 常緑のうす暗い樹林

3種が該当した。いずれも近年分布を広げている種である。これは、区内の樹林の遷移が進み、コナラやクヌギが中心の落葉広葉樹林(いわゆる雑木林)からシラカシやアラカシなどが中心の常緑広葉樹林に変わっていることも要因と考えられる。

表Ⅳ-2-15 確認したチョウ類の生息環境による区分

生息環境の区分	生息環境						種名	I 北町・田柄エリア						II 豊玉・中村エリア					
	草原	林道や谷筋	林床	林内上部・日だまり	雑木林などの林縁部	集落周辺と耕作地		①	②	③	④	⑤	⑧	①	②	③	④	⑤	
								都立光が丘公園	都立城北中央公園	どんぐり山憩いの森	八幡神社	U氏邸	高松市民農園	武蔵学園	豊島園	廣徳寺・区立高稲荷公園	氷川神社	N氏邸	
市街地内の草地など開けた環境に生息							チャバナセセリ	●	●					●					
		■					イチモンジセセリ	●	●	●			●	●	●	●			
							ツバメシジミ	●	●										
							ベニシジミ	●	●		●								
							ヤマトシジミ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		■					ミドリヒョウモン												
			■				ジャコウアゲハ					●			●	●			
							キアゲハ	●	●		●			●					
							モンキチョウ	●	●										
							ツマグロヒョウモン	●	●	●	●		●	●	●	●			
							ヒメアカタテハ		●				●						
							キタテハ												
市街地内の樹林環境に生息		■					ウラナミシジミ		●										
							モンシロチョウ	●	●	●			●	●	●	●			
		■		■			ダイミョウセセリ	●		●	●								
							クロアゲハ	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●
							ナミアゲハ	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●
		■					モンキアゲハ												
		■					キチョウ	●	●	●	●			●	●				●
		■					ルリシジミ							●					
		■					テングチョウ												
		■					コムラサキ	●											
		■					アカタテハ												
		■					アカボシゴマダラ	●	●	●	●			●	●				
		■					ゴマダラチョウ	●		●				○					●
		■					ルリタテハ	●											
		■					コムスジ	●	○	●	●		●	●	●	●			●
		■		■			ヒカゲチョウ	●											
		■					サトキマダラヒカゲ	●	○		●	●		●	●				
			■				ヒメジャノメ	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●
	■					アオスジアゲハ	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	
	■					ナガサキアゲハ	●	●		●			●	●	●			●	
	■					スジグロシロチョウ	●	●					●	●				●	
雑木林やその周辺などに生息		■					アサギマダラ	●											
		■					キマダラセセリ	●	●		●		●	●					
		■					カラスアゲハ	●						●					
		■					オナガアゲハ												
		■					ツマキチョウ												
		■					ウラギンシジミ	●					●	●	●			●	
				■			ミズイロオナガシジミ												
常緑のうす暗い樹林に生息		■					ミドリシジミ												
		■					イチモンジチョウ												
		■		■			ムラサキツバメ	●						○	●	●			
		■					ムラサキシジミ	●						○					
		■				クロノマチョウ	●						○						
	14	21	6	7	30	33	12	31	22	13	15	6	9	17	19	16	2	11	

Ⅲ 石神井・関町エリア						Ⅳ 大泉・土支田エリア									ルート							確認箇所数		
①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦			
都立石神井公園	区立武蔵関公園	東京カトリック神学院	天祖若宮八幡宮	M O 氏邸	石泉愛らんど	都立大泉中央公園	稲荷山・清水山憩いの森	八の釜憩いの森	土支田八幡宮	M U 氏邸	小作原広場	井頭こぶし憩いの森	区立びくに公園	○ 氏畑	練馬駅周辺ルート	城南住宅ルート	田柄川緑道ルート	立野町ルート	土支田・谷原ルート	石神井川流域	白子川流域			
●								●		●	●				●		●						9	
●	●	●			●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	26
													●				●						4	
●		●				●		●		●	●	●	●		●	●		●					12	
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	33
○																						●	2	
							●																4	
●		●			●	●	●					●		●					●				12	
●		●			●	●						●	●	●				●					9	
●	●	●			●	●	●				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	26	
●	●	●			●				●	●	●	●	●	●			●		●		●	●	14	
●														●									2	
●					●									●				●		●			6	
●	●	●	●		●	●	●		●	●		●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	24	
●				●	●	●	●		●	●	●								●				10	
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	29	
●	●	●	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	28	
				●																			1	
●	●	●		●		●	●	●				●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	23	
						●													●	●	●		5	
●																							1	
●	●																	●					4	
																						○	1	
●	●		●		●		●	●										●					13	
●	○						●												●				8	
●		●			●		●	●	●									●	●	●	●		8	
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●					●	●	●	●	●	●	25	
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●						●					12	
●	●	●	●			●	●	●	●	●		●					●		●				16	
●	●	●		●		●	●	●	●		●	●				●		●					22	
●	●		●	●	●	●	●	●				●			●	●	●	●	●			●	24	
●	●			●	●	●	●	●	●			●			●	●	●	●	●			●	17	
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●		●		●	●	●			●	21	
																						●	2	
●	●						●	●											●				10	
●		●				●	●						●						●				8	
●																							1	
		●					●										●	●					4	
●	●		●				●					●											10	
●																							1	
●																							1	
●																							1	
	●			●																			3	
●	●			●			●	●	●										●				11	
○			●																				4	
37	22	19	11	13	16	19	24	21	8	7	10	14	13	13	11	10	12	19	23	8	16			

●: 通常調査での確認 ○: 補足調査での確認

C. 既存資料との比較（「東京都の蝶」1991）

西多摩昆虫同好会による「東京都蝶類分布一覧表」では、都内の市区町村別の分布状況を、確認された年代別に分け、さらに定着種か偶産種かの区分もされている。

この情報をもとに、今回の自然環境調査で確認したチョウ類について、確認された年代から分類したものを表IV-2-16および17に示した。

表IV-2-16 確認したチョウ類の過去の確認状況（文献調査）

確認された年代	定着・偶産	種数	主な該当種
1940年以前に記録あり		1種	ムラサキシジミ
1960年代に記録あり その後記録なし	定着種	7種	アカタテハ、イチモンジチョウ、オナガアゲハ、ミドリシジミ、アサギマダラ、コムラサキ、ジャコウアゲハ
1970年代に記録あり その後記録なし	定着種	1種	チャバネセセリ
1980年以降に記録あり	偶産種	1種	ミドリヒョウモン
	定着種	30種	ミズイロオナガシジミ、カタテハ、ツマキチョウ、ルリタテハ、ダイミョウセセリ、キアゲハ、サトキマダラヒカゲ、スジグロシロチョウ、アオスジアゲハ、ヤマトシジミなど
記載なし		5種	ナガサキアゲハ、ムラサキツバメ、ツマグロヒョウモン、アカボシゴマダラ、クロコノマチョウ
合計			

a. 1940年以前に記録あり

ムラサキシジミ 1種が該当した。本種は区内の樹林地を中心に 11箇所を確認されており、一覧表との差異がある。しかし、「東京都の蝶」のムラサキシジミの記載の中には「80年代に入ってから復活してきた」とあることから、近年もその増加傾向が続いているものと考えられる。

b. 1960年代に記録ありその後記録なし

アカタテハやイチモンジチョウなど 7種が該当した。ここに該当する種には、減少傾向にあるものが多く、その動向には注意を要する。

イチモンジチョウやコムラサキは、23区内では希少であり、都 RL にも記載されている。生息環境の保全とともに、今後のモニタリングが望まれる種である。

オナガアゲハやジャコウアゲハについては、一部放蝶されている可能性がある。ミドリシジミについても、一度絶滅したのちに、放蝶されたとの指摘があり、地域の関係者へのヒアリングなどにより、移入経緯などを確認する必要がある。

アカタテハについては、それほど希少ではないが、数が少ないこと、アサギマダラについては、渡りの途中の個体を確認されるため、このような分布になっていると考えられる。

c. 1970 年代に記録あり その後記録なし

チャバネセセリ 1 種が該当した。本種は区内の樹林地など 11 箇所を確認されており、一覧表との差異がある。しかし、「東京都の蝶」のチャバネセセリの記載の中に「暖地性の種」であることが記載されており、ムラサキシジミと同様に近年その分布が変わってきた可能性が考えられる。

d. 1980 年以降に記録あり

定着種 30 種、偶産種 1 種が該当した。ここに該当する種は、1980 年代から生息が続いていると考えられる。

本調査でも多くの調査地で確認されている種が多く、一覧表の記載通りに生息が続いている種である。

一方で、テングチョウやミズイロオナガシジミ、モンキアゲハは、1 箇所のみでの確認であり、生息状況の悪化が懸念される。

e. 記載なし

ナガサキアゲハやムラサキツバメなど 5 種が該当した。これらはいずれも近年分布を拡大している種である。本調査でも、ツマグロヒョウモンは 26 箇所、ナガサキアゲハが 17 箇所、アカボシゴマダラが 14 箇所を確認されており、区内に定着していることが伺える。

表Ⅳ-2-17 過去に記録のあるチョウ類の確認状況

確認年代	種名	Ⅲ	I	Ⅳ	R	I	Ⅲ	Ⅳ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	R
		①	①	②	⑤	②	②	③	②	③	①	④
		都立石神井公園	都立光が丘公園	稲荷山・清水山憩いの森	土支田・谷原ルート	都立城北中央公園	区立武蔵関公園	八の釜憩いの森	豊島園	東京カトリック神学院	都立大泉中央公園	立野町ルート
1949年以前に記録あり	ムラサキシジミ	●	●	●	●		●	●	●			
1960年代に記録あり その後記録なし (定着種)	ジャコウアゲハ			●					●			
	コムラサキ	●	●				●					●
	アサギマダラ		●									
	アカタテハ											
	イチモンジチョウ	●										
	オナガアゲハ	●										
ミドリシジミ	●											
1970年代に記録あり (定着種)	チャバネセセリ	●	●			●		●				
1980年以降に記録あり (偶産種)	ミドリヒョウモン	○										
1980年以降に記録あり (定着種)	ヤマトシジミ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	クロアゲハ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	ナミアゲハ	●	●	●	●	●	●	●		●	○	●
	イチモンジセセリ	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●
	コムスジ	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●
	アオスジアゲハ	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●
	モンシロチョウ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	キチョウ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	ヒメジャノメ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	スジグロシロチョウ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	サトキマダラヒカゲ	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	
	ヒメアカタテハ	●			●	●	●			●	●	
	キアゲハ	●	●	●	●	●				●	●	
	ヒカゲチョウ	●	●	●			●	●		●		●
	ベニシジミ	●	●		●	●		●		●	●	
	ダイミョウセセリ	●	●	●	●			●			●	
	ウラギンシジミ	●	●	●			●		●			
	キマダラセセリ	●	●	●	●	●	●	●	●			
	カラスアゲハ	●	●	●	●				●	●	●	
	モンキチョウ	●	●			●				●	●	●
	ルリタテハ	●	●	●	●			●		●	●	●
	ゴマダラチョウ	●	●	●	●		○		○			
	ウラナミシジミ	●				●						●
	ルリシジミ				●				●		●	
	ツマキチョウ			●	●					●	●	●
	ツバメシジミ		●			●						●
	キタテハ	●										
テングチョウ	●											
ミズイロオナガシジミ	●											
モンキアゲハ												
記載なし	ツマグロヒョウモン	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	ナガサキアゲハ	●	●	●		●	●	●		●	●	●
	アカボシゴマダラ	●	●	●		●	●	●	●			●
	クロノマチョウ	○	●									
	ムラサキツバメ		●				●					
		45	37	31	24	23	22	22	21	19	19	19

※調査地の順番は、確認種数の多い順に左から並べ直した。

※種の順は、確認年代ごとに、確認箇所数の多い順に上から並べ直した。

III	II	R	I	IV	I	IV	IV	III	R	II	III	R	IV	R	I	IV	R	IV	I	II	確認箇所数	
⑥	③	⑦	④	⑦	③	⑧	⑨	⑤	③	⑤	④	①	⑥	②	⑧	④	⑥	⑤	⑤	④		
石泉愛らんど	廣徳寺・区立高稲荷公園	白子川流域	八幡神社	井頭こぶし憩いの森	どんぐり山憩いの森	区立びくに公園	○氏畑	MO氏邸	田柄川緑道ルート	N氏邸	天祖若宮八幡宮	練馬駅周辺ルート	小作原広場	城南住宅ルート	高松市民農園	土支田八幡宮	石神井川流域	MU氏邸	U氏邸	氷川神社		
	●							●								●					11	
	●																		●		4	
																				●	4	
		●																			2	
		○																			1	
																					1	
																					1	
									●			●	●						●		9	
		●																			2	
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	33
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	29
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	28
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	26
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	25
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	24
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	24
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	23
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	22
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	21
			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	16
●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	14
●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	12
●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	12
●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	12
●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	10
	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	10
		●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	10
				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	8
				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9
					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	8
					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	8
●					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	6
		●						●										●	●	●	●	5
																		●	●	●	●	4
						●																4
							●															2
								●														1
									●													1
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	26
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	17
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	13
											●											4
								●														3
16	16	16	15	14	13	13	13	13	12	11	11	11	10	10	9	8	8	7	6	2		

●:通常調査での確認 ○:補足調査での確認

3) 重要種の保全

都 RL の絶滅危惧 I 類以上であった 7 種を対象に考察した。

①オオアメンボ（絶滅危惧 I A 類 GR）

本種の生息環境はうす暗い止水域であり、選好環境である武蔵学園および八の釜憩いの森では、複数個体が生息していたことから、定着していたと考えられる。

一方、都立石神井公園では 5 月と 8 月に断片的に記録されているのみであり、定着はしていないと考えられた。しかし、このような水辺環境を点在化することで、飛翔能力を持つ本種が生息適地間を移動できる可能性が考えられる。

②ウバタマムシ（絶滅危惧 I A 類 GR）

本種の幼虫はアカマツの枯れ木を食樹とする。生息を確認した都立石神井公園において、アカマツの伐採などの際、その枝や幹などを敷地内に残置することが、本種の保全のひとつとなる。

③キイトンボ（絶滅危惧 I B 類 EN）

都立光が丘公園のバードサンクチュアリのみで確認した。複数年確認したことから、この地で繁殖していると考えられる。しかし、観察した個体数が少ないことから、現状の管理を維持するとともに、本種の選好する抽水植物の繁茂する空間をより拡大することが望まれる。

④アオヤンマ（絶滅危惧 I B 類 EN）

都立石神井公園の水辺観察園のみで確認した。本種の一般的な生息環境は、開放水面を持つ抽水植物の豊かな池沼であることから、水辺観察園とそれに隣接する沼沢植物群落の保全が望まれる。

⑤ヨツボシトンボ（絶滅危惧 I B 類 EN）

平成 21 年 5 月に都立光が丘公園バードサンクチュアリで確認した。都立光が丘公園バードサンクチュアリの記録によると、平成 20 年、同 23 年にも確認されていることから、池から毎年発生している可能性が高い。

本種の一般的な生息環境は、開放水面を持つ抽水植物の豊かな池沼であることから、バードサンクチュアリ内の現状の管理を維持するとともに、本種の選好する抽水植物の繁茂する空間をより拡大することが望まれる。

⑥ヒメトラハナムグリ（絶滅危惧 I B 類 EN）

豊島園、区立武蔵関公園、清水山憩いの森で確認した。本種の生態に関する一般的な知見は非常に乏しい。成虫は花の花粉を、幼虫は朽木を食べることから、草地や林縁のような開けた環境と、倒木などの残る林床環境を維持することが重要と予測される。

⑦クロカナブン（絶滅危惧 I B 類 EN）

本種は調査地外の南田中憩いの森でのみ確認した。都立石神井公園や都立光が丘公園のような大規模樹林で確認できなかった原因は不明であるが、区内の個体数は非常に少ないと推測される。

本種が好む雑木林の保全とともに、モニタリング調査によりその個体数の動向を把握することが望まれる。

4) 各調査地点のまとめ

I 北町・田柄エリア

I① 都立光が丘公園

- ・確認種：394種（トンボ類28種 バッタ類35種 チョウ類34種）
- ・重要種：都RL：キイトトンボ（EN）、オニヤンマ（NT）、ヨツボシトンボ（EN）、チョウトンボ（NT）、マイコアカネ（NT）、ミヤマアカネ（VU）、リスアカネ（NT）、シブイロカヤキリ（DD）、キンヒバリ（DD）、ヒゲシロスズ（DD）、ヤチスズ（DD）、ショウリョウバッタモドキ（VU）、ツマグロバッタ（DD）、ヒグラシ（NT）、ンボシハネカクシ（VU）、ヒラタクワガタ（VU）、ヤマトタムシ（NT）、キスジトラカミキリ（VU）、コムラサキ（*）、オオミズアオ（VU）
- ・外来種：要注意外来生物：アカボシゴマダラ
アオマツムシ、プラタナスグンバイ、アワダチソウグンバイ、コルリアトキリゴミムシ、ラミーカミキリ、ブタクサハムシ、セイヨウミツバチ、アメリカミズアブ、スイセンハナアブ

トンボ類では、区内で唯一キイトトンボ、オニヤンマ、ヨツボシトンボ、ネキトンボを確認した。いずれもバードサンクチュアリの中の池か、その周辺の草地であった。

バッタ類では、区内で34種と最も多く確認した。マダラカマドウマ、シブイロカヤキリモドキとツマグロイナゴ、ツチイナゴ、トゲヒシバッタは区内で唯一の記録である。バードサンクチュアリとその周辺の草地での記録が多いほか、樹林内や林縁部では、マダラカマドウマやセスジツユムシ、ハヤシノウマオイなどを確認した。

チョウ類では、ベニシジミやモンキチョウなどの草地性種、ヒカゲチョウやヒメジャノメ、サトキマダラヒカゲなどの樹林性類を確認した。

I② 都立城北中央公園

- ・確認種：182種（トンボ類6種 バッタ16種 チョウ類22種）
- ・重要種：都RL：コハンミョウ（NT）
- ・外来種：要注意外来生物：アカボシゴマダラ
アオマツムシ、プラタナスグンバイ、アワダチソウグンバイ、ヨコヅナサシガメ、コルリアトキリゴミムシ、セイヨウミツバチ、スイセンハナアブ

トンボ類は、水辺がサービスセンター裏の小規模な池に限られているため、種数は少なかった。クロスジギンヤンマは樹林の樹冠が開けた部分の上空で確認した。

バッタ類は、草地ではツユムシやウスイロササキリ、クビキリギスなど、樹林地では、ウスグモスズやアオマツムシを確認した。

チョウ類では、草地性の種が多く、キアゲハやモンキチョウ、ツバメシジミ、ウラナミシジミ、ベニシジミなどを確認した。一方、樹林性の種では、サトキマダラヒカゲを確認したが、ムラサキシジミやヒカゲチョウなどが確認できないなど、他の大規模樹林に比べるとやや多様性に欠けていた。

I ③ どんぐり山憩いの森

- ・確認種：32種（トンボ類3種、バッタ類3種、チョウ類13種）
- ・重要種：都 RL：リスアカネ（NT）
- ・外来種：要注意外来生物：アカボシゴマダラ
アオマツムシ、アメリカミズアブ

トンボ類は、水辺がないために種数は少ないが、リスアカネを確認した。
バッタ類は、樹林性のアオマツムシ、カネタタキと草地性のオンブバッタのみであった。
チョウ類は、樹林性および半樹林性の種と、普通種とで構成されていた。

I ④ 八幡神社

- ・確認種：42種（トンボ類2種、バッタ類5種、チョウ類15種）
- ・重要種：都 RL：ヒグラシ（NT）
- ・外来種：要注意外来生物：アカボシゴマダラ

トンボ類では、普通種であるウスバキトンボ、ナツアカネのみ確認した。
バッタ類では、普通種であるカネタタキやオンブバッタのほか、イボバッタを確認した。
チョウ類では、草地性のキアゲハやベニシジミ、樹林性のコムスジ、ヒメジャノメ、サトキマダラヒカゲなどを確認した。

I ⑤ U氏邸

- ・確認種：28種（トンボ類2種、バッタ類2種、チョウ類6種）
- ・重要種：都 RL：オオミズアオ（VU）、ヒグラシ（NT）
- ・外来種：アオマツムシ

トンボ類では、普通種であるナツアカネ、ノシメトンボのみを確認した。
バッタ類では、樹林に普遍的なカネタタキやアオマツムシのみを確認した。
チョウ類では、普通種のほか、樹林性のヒメジャノメ、サトキマダラヒカゲを確認した。

I ⑧ 高松市民農園

- ・確認種：55種（トンボ類3種、バッタ類11種、チョウ類9種）
- ・重要種：都 RL：コハンミョウ（NT）
- ・外来種：アメリカミズアブ

トンボ類は、普通種であるシオカラトンボ、ウスバキトンボ、ナツアカネを確認した。
バッタ類では、普通種が多いが、大型のトノサマバッタやクルマバッタモドキ、裸地を好むノミバッタなども確認した。
チョウ類では、開けた環境に普遍的に生息する種が多いが、樹林・林縁性のコムスジやヒメジャノメも確認した。

II 豊玉・中村エリア

II① 武蔵学園

- ・確認種：165種（トンボ類4種、バッタ類14種、チョウ類17種）
- ・重要種：都 RL：オオアメンボ（CR）
- ・外来種：アオマツムシ、アワダチソウグンバイ、ヨコヅナサシガメ、クモガタテントウ、ブタクサハムシ、セイヨウミツバチ

トンボ類は、普通種であるオオシオカラトンボやウスバキトンボなど4種を確認した。敷地内には流れや池などの水辺環境が存在するが種数は少なかった。

バッタ類では、普通種が多いが、樹林性のウスグモスズやサトクダマキモドキ、林縁性のセスジツコムシ、草地性のウスイロササキリやクビキリギスなどを確認した。

チョウ類では、普通種の他に、樹林性のムラサキシジミやサトキマダラヒカゲを確認した。一方、草地性のモンキチョウやベニシジミなどは確認できなかった。

II② 豊島園

- ・確認種：162種（トンボ類7種、バッタ類14種、チョウ類19種）
- ・重要種：都 RL：ハグロトンボ（VU）、チョウトンボ（NT）、ヒゲシロスズ（DD）、ヒグラシ（NT）、ヒラタクワガタ（VU）、ヒメトラハナムグリ（EN）、センノカミキリ（VU）
- ・外来種：要注意外来生物：アカボシゴマダラ
アオマツムシ、アワダチソウグンバイ、クモガタテントウ、アメリカミズアブ

トンボ類では、普通種のほか、石神井川沿いの樹林と庭の湯周辺林でハグロトンボが、庭の湯周辺林でチョウトンボを確認した。ハグロトンボは6～7月に確認し、石神井川で発生したと考えられる。チョウトンボは、区内では他には都立光が丘公園と都立石神井公園でのみ確認しており、いずれかの水辺から移動してきた可能性がある。

バッタ類では、樹林性のウスグモスズ、サトクダマキモドキを確認した。また、重要種ではないが、テラニシアリツカオオロギが石神井川沿い樹林の林床で、ヒゲシロスズが庭の湯周辺林で確認した。一方で、草地性のショウリョウバッタやコバネイナゴなどは確認できなかった。

チョウ類では、普通種の他に、樹林性のムラサキシジミやゴマダラチョウ、サトキマダラヒカゲを確認した。近年、分布を広げているクロコノマチョウも確認した。一方で、草地性のキアゲハやモンキチョウ、ベニシジミなどは確認できなかった。なお、現場の方によるとミズイロオナガシジミが生息しているとのことであった。

このほか、コウチュウ目では、ヒラタクワガタやヒメトラハナムグリをアジサイ園で、センノカミキリを石神井川沿いの樹林で確認した。

II③ 廣徳寺・区立高稲荷神社

- ・確認種：52種（トンボ類5種、バッタ類4種、チョウ類17種）
- ・重要種：都RL：マイコアカネ（NT）、ヒグラシ（NT）
- ・外来種：要注意外来生物：アカボシゴマダラ
アオマツムシ、アメリカミズアブ

トンボ類では、普通種のほか、マイコアカネを確認した。

バッタ類では、種数が少なかった。樹上に普通にいるアオマツムシ、カネタタキのほかは、イボバッタやハラヒシバッタのような裸地を好む種を確認した。

チョウ類では、普通種の他に、樹林性のムラサキシジミや林縁性のウラギンシジミを確認した。一方で、草地性のモンキチョウやベニシジミなどは確認できなかった。

このほか、セミ類ではヒグラシを廣徳寺と高稲荷公園の両地点で確認した。

II④ 氷川神社

- ・確認種：22種（トンボ類なし、バッタ類3種、チョウ類2種）
- ・重要種：なし
- ・外来種：なし

トンボ類は確認できなかった。

バッタ類、チョウ類も普通種のみ確認した。その他の種群でも全体的に種数は少なかったが、敷地内の樹洞にニホンミツバチの巣を確認した。

II⑤ N氏邸

- ・確認種：40種（トンボ類なし、バッタ類2種、チョウ類11種）
- ・重要種：なし
- ・外来種：なし

トンボ類は確認できず、バッタ類もカネタタキとオンブバッタのみと少なかった。

チョウ類は、普通種が多いが、樹林性のゴマダラチョウや、林縁性のウラギンシジミも確認した。

このほか、地上性のコカマキリを確認した。

Ⅲ 石神井・関町エリア

Ⅲ① 都立石神井公園

- ・確認種：355 種（トンボ類 25 種、バッタ類 26 種、チョウ類 37 種）
- ・重要種：国 RL：エサキアメンボ（NT）
都 RL：アオヤンマ（EN）、シオヤトンボ（VU）、チョウトンボ（NT）、マイコアカネ（NT）、キンヒバリ（DD）、ヤチスズ（DD）、タンボコオロギ（DD）、ヒグラシ（NT）、オオアメンボ（CR）、エサキアメンボ（DD）、ウバタマムシ（CR）、ヤマトタマムシ（NT）、ハッカムシ（DD）、オナガアゲハ（CR+EN）、ミズイロオナガシジミ（*）、ミドリシジミ（DD）、コムラサキ（*）、イチモンジチョウ、オオミズアオ（VU）
- ・外来種：要注意外来生物：アカボシゴマダラ
アオマツムシ、アワダチソウグンバイ、ヨコヅナサシガメ、セイヨウミツバチ、アメリカミズアブ、スイセンハナアブ

トンボ類では、区内では少ないイトトンボ類や、アオヤンマ、マルタンヤンマ、ヤブヤンマなどのヤンマ類を確認した。抽水植物の豊富な池と、その池が樹林と隣接していることがその要因になっていると考えられる。

バッタ類では、普通種の他に、水辺を好むヤチスズやキンヒバリ、樹林性のウスグモスズ、サトクダマキモドキを確認した。また、重要種ではないが、ヒメクサキリとササキリを区内で唯一、林床のササ藪で確認した。区内では 2 箇所でのみと少ないハヤシノウマオイも同様の場所で確認した。

チョウ類では、37 種を確認し、区内では最多であった。主に樹林性・林縁性の種が多いが、湿地性のコムラサキなども確認している。都 RL（区部）で情報不足（DD）と記載されているイチモンジチョウについては、今後のモニタリングが必要である。なお、都 RL（区部）に記載されているオナガアゲハは、移入の可能性が高い。三宝寺池のハンノキ林で確認したミドリシジミについても同様の可能性があり、今後の調査が必要である。

このほか、アメンボ科では国 RL 記載種のエサキアメンボや都 RL 記載種のアオアメンボを確認した。また、コウチュウ目ではタマムシ類 2 種が都 RL（区部）記載種であり、水辺環境・樹林環境ともに貴重な生息環境であるといえる。

Ⅲ② 区立武蔵関公園

- ・確認種：185 種（トンボ類 12 種、バッタ類 13 種、チョウ類 22 種）
- ・重要種：都 RL：ヒグラシ（NT）、ヒメトラハナムグリ（EN）、コムラサキ（*）、オオミズアオ（VU）
- ・外来種：要注意外来生物：アカボシゴマダラ
クロゴキブリ、アオマツムシ、プラタナスグンバイ、アワダチソウグンバイ、アメリカミズアブ

トンボ類では、都立石神井公園、都立光が丘公園に次いで区内で 3 番目の種数を確認した。重要種はいないものの、区内では 2～3 箇所でのみ確認しているクロイトトンボやモノサシトンボも見られ、区内の主要な生息空間になっているといえる。

バッタ類では、いわゆる普通種が多いものの、区内では3箇所でのみ確認しているヤマトヒバリが「松の島」で見られたほか、林縁性のセスジツユムシも「葦の島」で見られた。

チョウ類では、普通種のほか、樹林性のゴマダラチョウ、林縁性のウラギンシジミなども確認した。また、都 RL（区部）で留意種になっているコムラサキも確認した。

このほか、都 RL（区部）で絶滅危惧 IB 類になっているヒメトラハナムグリは、公園外周の任意調査中に確認した。

Ⅲ③ 東京カトリック神学院

- ・確認種：49種（トンボ類2種、バッタ類8種、チョウ類19種）
- ・重要種：都 RL：ヒグラシ（NT）、ノコギリクワガタ（NT）
- ・外来種：なし

トンボ類では、普通種であるウスバキトンボ、アキアカネのみを確認した。

バッタ類では、普通種が多いが、樹林性のサトクダマキモドキや、裸地を好むイボバッタも確認した。

チョウ類では、草地性のキアゲハ、ツマキチョウ、モンキチョウ、ベニシジミ、林縁性のカラスアゲハ、樹林性のヒカゲチョウやサトキマダラヒカゲなど多様な環境を好む種を確認した。上記の樹林性の種のほか、都 RL（区部）記載種のヒグラシやノコギリクワガタを確認していることから、敷地内の樹林地が貴重な生息空間になっていると考えられる。

Ⅲ④ 天祖若宮八幡宮

- ・確認種：33種（トンボ類2種、バッタ類2種、チョウ類11種）
- ・重要種：都 RL：ヒグラシ（NT）
- ・外来種：要注意外来生物：アカボシゴマダラ
アオマツムシ

トンボ類では、普通種であるウスバキトンボ、コシアキトンボのみ確認した。

バッタ類では、樹林地の普通種であるアオマツムシ、カネタタキのみ確認した。

チョウ類では、普通種のなかでも樹林性・林縁性の種が多く、ウラギンシジミやヒカゲチョウも確認した。また、近年分布を拡大しているクロコノマチョウも確認した。

上記のほか、都 RL（区部）記載種のヒグラシを確認した。敷地内の針葉樹林が本種の好む環境であり、貴重な生息空間になっていると考えられる。

Ⅲ⑤ MO氏邸

- ・確認種：43種（トンボ類4種、バッタ類2種、チョウ類13種）
- ・重要種：都 RL：ヒグラシ（NT）
- ・外来種：アオマツムシ、アメリカミズアブ

トンボ類では、樹林地などで普通種であるコシアキトンボ、コノシメトンボ、ノシメトンボなどを確認した。

バッタ類では、樹林地の普通種であるアオマツムシ、カネタタキのみ確認した。

チョウ類では、樹林性の種が多く、やや暗い樹林を好むムラサキシジミやムラサキツバメも

確認した。また、区内で唯一モンキアゲハを確認した。

古木で確認したオオキノコムシ科の3種はいずれも区内ではこの調査地のみで確認した。

Ⅲ⑥ 石泉愛らんど

- ・確認種：43種（トンボ類4種、バッタ類6種、チョウ類16種）
- ・重要種：都RL：コハンミョウ（NT）
- ・外来種：要注意外来生物：アカボシゴマダラ
アオマツムシ、アメリカミズアブ

トンボ類では、開けた環境での普通種であるウスバキトンボ、ナツアカネ、アキアカネなどを確認した。

バッタ類では、ほとんどが普通種であったが、草地性のクビキリギスも含まれていた。

チョウ類では、普通種が多くを占めたが、開けた環境を好むキアゲハやウラナミシジミ、樹林性のヒカゲチョウも確認した。キアゲハは畑地のニンジンに、ウラナミシジミは豆類に誘引されたと考えられる。

IV 大泉・土支田エリア

IV① 都立大泉中央公園

- ・確認種：161種（トンボ類4種、バッタ類11種、チョウ類22種）
- ・重要種：なし
- ・外来種：アオマツムシ、アワダチソウグンバイ、ヨコヅナサシガメ、ブタクサハムシ、セイヨウミツバチ

トンボ類では、区内で普通種であるシオカラトンボ、ウスバキトンボ、コシアキトンボ、ノシメトンボの4種を確認した。

バッタ類では、いわゆる普通種が多いが、樹林性のウスグモスズを確認した。また、重要種ではないが、区内では2箇所でのみ確認したテラニシアリツカコオロギを確認した。

チョウ類では、草地性のキアゲハやベニシジミ、樹林性のムラサキシジミやゴマダラチョウ、林縁性のウラギンシジミを確認し、多様性が伺える。

IV② 稲荷山憩いの森・清水山憩いの森

- ・確認種：264種（トンボ類6種、バッタ類11種、チョウ類24種）
- ・重要種：都 RL：オニヤンマ（NT）、マイコアカネ（NT）、ヒゲシロスズ（DD）、ヒグラシ（NT）、シマアメンボ（NT）、ヒメトラハナムグリ（EN）、ヤマトタマムシ（NT）、センノカミキリ（VU）
- ・外来種：要注意外来生物：アカボシゴマダラ
アオマツムシ、アワダチソウグンバイ、ヨコヅナサシガメ、クモガタテントウ、セイヨウミツバチ、スイセンハナアブ

確認種数では、200種を超え、区内の調査地点では3番目の種数である。

トンボ類では、普通種の他に、稲荷山憩いの森でマイコアカネを、清水山憩いの森の湧水でオニヤンマの幼虫を確認した。

バッタ類では、樹林性のウスグモスズを清水山憩いの森で、林縁性のセスジツユムシを稲荷山憩いの森で、裸地を好むノミバッタを清水山憩いの森で確認した。

チョウ類では、普通種が多いが、樹林性のムラサキシジミやゴマダラチョウ、ヒカゲチョウ、林縁性のウラギンシジミのほか、草地性のツマキチョウやベニシジミも確認した。本調査地はほとんどが樹林地であるが、敷地内の辺縁部にあるわずかな草地が利用されていた。

IV③ 八の釜憩いの森

- ・確認種：142種（トンボ類6種、バッタ類8種、チョウ類21種）
- ・重要種：都 RL：ハグロトンボ（VU）、マイコアカネ（NT）、シマアメンボ（NT）、オオアメンボ（CR）、ヒラタクワガタ（VU）
- ・外来種：要注意外来生物：アカボシゴマダラ
アオマツムシ、アワダチソウグンバイ、セイヨウミツバチ、アメリカミズアブ

トンボ類では、普通種のほかに、流水を好むハグロトンボを確認した。敷地内の水路の存在や、近くに白子川が流れているためと考えられる。

バッタ類では、普通種のほか、樹林性のサトクダマキモドキやイネ科植物を好むコバネイナゴを確認した。

チョウ類では、普通種のほか、樹林性のムラサキシジミやヒカゲチョウ、サトキマダラヒカゲを確認した。草地性のベニシジミも確認したが、これは隣接する区立びくに公園から飛来したものと考えられる。

その他の種群では、アメンボ類が6種と多く、区内でも特に多様なアメンボ相を形成している。

IV④ 土支田八幡宮

- ・確認種：27種（トンボ類なし、バッタ類3種、チョウ類8種）
- ・重要種：なし
- ・外来種：アオマツムシ、アメリカミズアブ

トンボ類は、確認できなかった。

バッタ類でも、アオマツムシ、カネタタキ、オンブバッタと普遍的な種のみ確認であった。チョウ類では、普通種がほとんどであったが、樹林性のムラサキシジミやヒカゲチョウを確認した。

その他の種群では、小規模緑地で唯一、アミガサハゴロモやアオオサムシを確認した。これは、大規模緑地である稲荷山憩いの森に隣接していることが要因と考えられる。

IV⑤ MU氏邸

- ・確認種：35種（トンボ類なし、バッタ類10種、チョウ類7種）
- ・重要種：都 RL：ヤマトタマムシ（NT）、ノコギリカミキリ（NT）
- ・外来種：アオマツムシ

トンボ類は、確認できなかった。

バッタ類では、竹林内で樹林性のウスグモズや、隣接した畑地で草地性のウスイロササキリやクビキリギスを確認した。

チョウ類では、普通種がほとんどであるが、林内でヒカゲチョウを確認した。

その他の種群では、都 RL（区部）の記載種であるヤマトタマムシやノコギリカミキリを確認した。特にノコギリカミキリは、区内では、区内で唯一の記録である。ただし、本調査地の環境を特に好んでいるよりは、本種は夜行性であることから、偶発的に確認したものと考えられる。

IV⑥ 小作原広場

- ・確認種：37種（トンボ類1種、バッタ類10種、チョウ類10種）
- ・重要種：都 RL：オオミズアオ（VU）
- ・外来種：なし

トンボ類では、開けた空間を好むウスバキトンボのみ確認した。

バッタ類では、ツユムシやウスイロササキリ、ホシササキリ、クビキリギス、トノサマバッタなど草地性の種を多く確認した。

チョウ類では、普通種のほかには、草地性のベニシジミを確認した。

IV⑦ 井頭こぶし憩いの森

- ・確認種：46種（トンボ類3種、バッタ類6種、チョウ類14種）
- ・重要種：都RL：ヒグラシ（NT）
- ・外来種：アメリカミズアブ

トンボ類では、普通種であるオオシオカラトンボ、ウスバキトンボ、コノシメトンボのみ確認した。

バッタ類では、カネタタキやオンブバッタのような普遍的のほか、やや裸地的な環境を好むクルマバッタモドキも確認した。

チョウ類では、普通種のほか、草地性のキアゲハやモンキチョウ、樹林性のヒカゲチョウなども確認し、比較的多様な種構成であった。

IV⑧ 区立びくに公園

- ・確認種：102種（トンボ類4種、バッタ類15種、チョウ類13種）
- ・重要種：都RL：ショウリョウバッタモドキ（VU）
- ・外来種：アワダチソウゲンバイ、ブタクサハムシ、セイヨウミツバチ

トンボ類では、アジアイトトンボを確認した。付近で発生したと考えられるが、明確な場所は特定できなかった。区内での確認場所は、都立光が丘公園、都立石神井公園のみであり、貴重な生息環境のひとつである。

バッタ類では、ツユムシやウスイロササキリ、クビキリギス、トノサマバッタ、ショウリョウバッタモドキなど草地性の種を多く確認した。

チョウ類では、普通種のほか、モンキチョウやツバメシジミ、ベニシジミといった草地性の種を確認した。

その他の種群では、チビゲンゴロウ、ハイイロゲンゴロウといったゲンゴロウ類を区内で唯一確認した。

IV⑨ ○氏畑

- ・確認種：32種（トンボ類1種、バッタ類5種、チョウ類13種）
- ・重要種：なし
- ・外来種：アオマツムシ、アワダチソウゲンバイ

トンボ類では、開けた空間を好むウスバキトンボを確認した。

バッタ類では、ツツレサセコオロギやカネタタキ、オンブバッタといった、普通種のみ確認した。

チョウ類では、開けた環境を好むキアゲハやモンキチョウ、ウラナミシジミ、キタテハなどのほか、林縁を好むカラスアゲハなども確認した。キアゲハについては、畑地のニンジンに、ウラナミシジミについては豆類に誘引されたと考えられる。

その他の種群では、カキノヘタムシガを区内で唯一記録した。

ルートおよび流域

R① 練馬駅周辺ルート

- ・確認種：28種（トンボ類2種、バッタ類3種、チョウ類11種）
- ・重要種：なし
- ・外来種：プラタナスグンバイ、ヨコヅナサシガメ

トンボ類では、普通種のシオカラトンボ、ウスバキトンボのみ確認した。

バッタ類では、普通種のエンマコオロギ、カネタタキ、オンブバッタのみ確認した。

チョウ類では、ナミアゲハやヤマトシジミなどの普通種がほとんどであるが、草地性のベニシジミも確認した。また、近年分布を拡大しているナガサキアゲハも確認した。

R② 城南住宅ルート

- ・確認種：31種（トンボ類2種、バッタ類6種、チョウ類10種）
- ・重要種：なし
- ・外来種：アオマツムシ

トンボ類では、普通種のシオカラトンボ、オオシオカラトンボのみ確認した。

バッタ類では、普通種のアオマツムシやカネタタキ、オンブバッタのほか、低茎草地を好むマダラスズも確認した。

チョウ類では、ナミアゲハやヤマトシジミなどの普通種がほとんどであるが、草地性のベニシジミも確認した。またうす暗い場所を好むヒメジャノメも確認した。

R③ 田柄川緑道ルート

- ・確認種：32種（トンボ類なし、バッタ類3種、チョウ類12種）
- ・重要種：なし
- ・外来種：ヨコヅナサシガメ、キマダラカメムシ

トンボ類は、確認できなかった。

バッタ類では、普通種のカネタタキ、オンブバッタのほか、草地を好むショウリョウバッタも確認した。

チョウ類では、ナミアゲハやヤマトシジミなどの普通種がほとんどであるが、樹林性のサトキマダラヒカゲも確認した。

このほか、キマダラカメムシは本調査地のみでの記録であった。「日本原色カメムシ図鑑(1993)」では、分布は九州までとなっており、近年分布を広げていると考えられる。

R④ 立野町ルート

- ・確認種：62種（トンボ類6種、バッタ類9種、チョウ類19種）
- ・重要種：都RL：マイコアカネ（NT）、コムラサキ（*）
- ・外来種：要注意外来生物：アカボシゴマダラ
アオマツムシ

確認種数は、ルート調査地の中では最大である。これは、ルート上に区立立野公園や屋敷林があるためと考えられる。

トンボ類では、普通種5種のほかに、マイコアカネを確認した。比較的種数が多いのは、区立立野公園内に池があり、トンボ類の発生場所になっているためと考えられる。

バッタ類では、市街地でも普通種のカネタタキ、オンブバッタなどのほか、高茎草地を好むクビキリギスも確認した。

チョウ類では、ナミアゲハやヤマトシジミなどの普通種のほか、草地性のツマキチョウやモンキチョウ、ツバメシジミ、ウラナミシジミ、樹林性のヒカゲチョウ、湿地性のコムラサキを確認し、多様な種構成であった。

その他の種群では、ゴマダラカミキリとビロウドツリアブは、区内で唯一の記録である。ただし、ビロウドツリアブについては、補足調査での記録であることと、今回設定した調査期では発生期にあたっていないことがその原因と考えられる。

R⑤ 土支田・谷原ルート

- ・確認種：56種（トンボ類2種、バッタ類7種、チョウ類23種）
- ・重要種：なし
- ・外来種：アメリカミズアブ

確認種数は、ルート調査地の中では立野町ルートに次いで、2番目に多い。

トンボ類では、アキアカネとノシメトンボの普通種のみ確認した。

バッタ類では、市街地でも普通種のカネタタキ、オンブバッタなどのほか、裸地的環境を好むクルマバッタモドキも確認した。

チョウ類は、確認種数も比較的多かった。これは普通種のほか、草地性のツマキチョウやベニシジミ、ルリシジミ、林縁性のカラスアゲハ、樹林性のムラサキシジミ、ゴマダラチョウやサトキマダラヒカゲなど、多様な選好性をもつ種を確認したためである。

R⑥ 石神井川流域

- ・確認種：17種（トンボ類3種、バッタ類3種、チョウ類8種）
- ・重要種：都RL：ハグロトンボ（VU）
- ・外来種：なし

トンボ類では、種数は少ないが、ハグロトンボを確認した。

バッタ類では、市街地でも普通種のエンマコオロギやオンブバッタのほか、区内では3箇所のみで確認しているクサヒバリを確認した。クサヒバリは、河川沿いのクズ群落から鳴き声を確認した。

チョウ類では、市街地での普通種の他に、河川沿いのクズ群落でウラナミシジミやルリシジ

ミを確認した。

R⑦ 白子川流域

- ・確認種：36種（トンボ類7種、バッタ類2種、チョウ類16種）
- ・重要種：都RL：ハグロトンボ（VU）、ミヤマアカネ（VU）
- ・外来種：なし

トンボ類では、流水を好むハグロトンボや、区内では2箇所のみ記録であるミヤマアカネを記録した。

バッタ類では、市街地でも普通種であるカネタタキのほか、裸地を好むイボバッタを確認した。

チョウ類では、普通種のほか、秋の移動時期にアサギマダラ、ミドリヒョウモン、アカタテハを確認した。これらの種は、河床のミズヒマワリの花に吸蜜に集まっていた。

5) 練馬区の昆虫相の特徴

①主要分類群

A. トンボ類

9科34種を確認した。

- ・流水性のハグロトンボを、石神井川・白子川の2つの河川で確認した。また、同じく流水を好むオニヤンマも幼虫・成虫ともに確認した。
- ・キイトンボやチョウトンボといった抽水植物の豊富な水域を選好する種を確認した。同じくアオヤンマ、マルタンヤンマ、ヤブヤンマといった抽水植物の豊富な水域を選好し、ややうす暗い樹林を選好する種も確認した。
- ・ウスバキトンボなど市街地に一般的な種は、区内のほぼ全域で確認した。
- ・以上のことから、様々な環境を選好する種を確認し、区内全域をみるとトンボ相が豊かであるといえる。止水性の種は、都立石神井公園と都立光が丘公園のバードサンクチュアリ、区立武蔵関公園と、公園内に分布しており、環境の大幅な改変の可能性は低いと考えられる。一方で、石神井川・白子川の両河川については、河床や河岸の維持や管理については流動的な部分が多いと考えられ、トンボ類の生息に配慮した管理が望まれる。

B. バッタ類

12科45種を確認した。

- ・都市・市街地に適応した種が多い。
- ・湿地性のヤチスズやキンヒバリ、ヒメギスなどを確認した。
- ・ヤブキリを確認したものの、設定した調査地ではなかった。区内では非常に数が少なくなっていると考えられる。
- ・シブイロカヤキリやツマグロバッタのように、23区内では希少な種を光が丘公園で確認した。貴重な記録であるが、今後も生息が継続されるか注意が必要である。
- ・草地性のクサキリを確認できなかった。同じく草地性のウスイロササキリやツユムシも少なかった。
- ・外来種のアオマツムシや、国内移入と考えられるスズムシも確認した。
- ・以上のことから、確認種数は比較的多く、区内全域をみるとバッタ相が豊かといえる。また、湿地性の種を複数種確認していることや、都 RL（区部）の記載種が多く確認していることも特徴的である。一方、分布は都立光が丘公園や都立石神井公園に集中しており、区内全域でみると、草地性の種が少ないことが懸念される。

C. チョウ類

9科45種を確認した。

- ・都市・市街地に適応した種が多い。
- ・樹林性のイチモンジチョウやミズイロオナガシジミなども確認した。
- ・湿地性のミドリシジミ、コムラサキも確認し、区内の池沼環境の豊かさが示唆される。
- ・草地性のヒメウラナミジャノメやジャノメチョウは確認できなかった。
- ・暖地性のツマグロヒョウモンやムラサキシジミ、ムラサキツバメ、クロコノマチョウ、ナガサキアゲハも確認した。
- ・外来種のアカボシゴマダラはすでに区内に分布していることが把握された。今後の分布の拡大に注意が必要である。

D. その他

- ・暖地性のクマゼミを、都立光が丘公園、都立石神井公園、都立大泉中央公園、稲荷山憩いの森、廣徳寺、区立立野公園で確認した。今後も分布を広げる可能性があり、注目される。
- ・他のカマキリ類と比べて草地を選好するチョウセンカマキリが確認できなかった。

②全体を通して

- ・環境別に見ると、乾性の草地に生息する種の確認種数が少なかった。区内の草地環境が減少していることが原因と考えられる。
- ・自然に分布を拡大していると考えられるが、暖地性の種の生息を確認した。
例) ムラサキシジミ、クロコノマチョウ、ナガサキアゲハ、クマゼミ
- ・国 RL レベルも含め、多くの重要種を確認したが、その中には、エサキアメンボ、ウバタマムシ、キイトトンボ、アオヤンマ、ヨツボシトンボなど、生息地が孤立化しており、個体の移動が困難になっていることが懸念される種がある。保全対策が必要な種については、関係部署と連携し、モニタリング調査により分布や個体数の動向に注目していくことや、対策を講じることが望ましい。
- ・今回は限られた調査日数の中で実施していること、調査年度が変わることで出現・確認種が変わる可能性が高いことと、隣接する杉並区の調査結果では 1,000 種を越える種を確認していることなどから、今後調査を継続していくことで、区内の生息状況をより詳細に把握することができると考えられる。

3. クモ類

(1) 調査方法

1) 調査対象地

第Ⅲ章に示した 32 箇所 7 ルートを対象とした。但し、都立公園のような大規模な緑地は、公園全体としてのクモ類を含めた昆虫類相の評価ができるように調査地点以外での調査も行い、データの補足を行った。その結果、26 箇所 7 ルートとして集計した。

調査地のうち、特に面積が大きく、生息種の把握に十分な調査時間が必要と考えられる 8 箇所の大規模緑地と、区内で比較的大規模な草地である区立びくに公園については可能な限り全種を対象とした現地調査を行った（以下、全種調査とする）。

残りの 17 箇所 7 ルートの調査地については、他の分類群の調査時に把握が可能な大型の種の確認を中心に行った（以下、大型種調査とする）。

2) 調査時期および時間

現地調査は、全種調査の対象である 9 箇所については、平成 21 年の夏期あるいは秋期（特に公園面積の大きな都立光が丘公園・都立石神井公園は両期）、平成 22 年の春期あるいは夏期に現地調査を行い、原則 2 期以上行うこととした。一方、大型種調査は、昆虫類の大型種調査と同時に平成 21 年に実施し、4～5 月に「春期調査」、7 月に「夏期調査」、9～10 月に「秋期調査」を行った。

全種調査の実施状況を表Ⅳ－3－1 に示した。

調査実施時間は、気温の上がる 9 時前後から開始し、16 時頃には終了した。

なお、上記の実施日以外でも任意の調査で確認した種は記録に加えた。

3) 調査方法

目視により個体の確認を行った。なお、その場で同定できないものについては、捕獲し持ち帰り、後日、種の同定を試みた。

表Ⅳ－3－1 クモ類調査（全種調査） 実施日

調査地			調査日			
			平成21年		平成22年	
エリア	記号	調査地名	夏期調査	秋期調査	春期調査	夏期調査
Ⅰ 北町・田柄エリア	Ⅰ①	都立光が丘公園	8月19日	11月9日	4月30日	7月14日
	Ⅰ②	都立城北中央公園	8月30日		6月11日	
Ⅱ 豊玉・中村エリア	Ⅱ①	武蔵学園		11月9日		6月21日
	Ⅱ②	豊島園				6月21日
Ⅲ 石神井・関町エリア	Ⅲ①	都立石神井公園	8月12日	11月8日	4月29日	
	Ⅲ②	区立武蔵関公園		11月8日		7月14日
Ⅳ 大泉・土支田エリア	Ⅳ①	都立大泉中央公園	8月30日		6月11日	
	Ⅳ②	稲荷山・清水山憩いの森		10月11日		6月28日
	Ⅳ⑧	区立びくに公園		10月11日		6月28日

(2) 調査結果

1) 確認種および重要種・外来種

①確認種

平成 20 年度に行った下見などの調査結果に、平成 21～22 年度の調査結果、任意調査の観察記録を合わせ、表Ⅳ－3－2に示した。

調査の結果、30 科 182 種を確認した。表Ⅳ－3－2には、種の特徴が確認できたものは幼体でも調査結果に含めた。また、属までの未確定種でも、他にその属の種が確認できなかった場合は、1 種としてカウントした。

表Ⅳ-3-2 クモ類の確認種一覧 (1/4)

科名	種名	学名	Ⅰ 北町・田柄エリア					Ⅱ 豊玉・中村エリア					
			Ⅰ①	Ⅰ②	Ⅰ③	Ⅰ④	Ⅰ⑤	Ⅰ⑧	Ⅱ①	Ⅱ②	Ⅱ③	Ⅱ④	Ⅱ⑤
			都立光が丘公園	都立城北中央公園	どんぐり山憩いの森	八幡神社	U氏邸	高松市民農園	武蔵学園	豊島園	廣徳寺・区立高稲荷公園	氷川神社	N氏邸
ジグモ	ジグモ	<i>Atypus karschi</i>	●	●	●			●	●				●
トタテグモ	キシノウエトタテグモ	<i>Latouchia typica</i>	●	●				●				●	
ユウレイグモ	ユウレイグモ	<i>Pholcus crypticolens</i>											●
	イエユウレイグモ	<i>Pholcus phalangioides</i>											
タマゴグモ	ダニグモ	<i>Gamasomorpha cataphracta</i>		●									
	ナルトミダニグモ	<i>Ischnothyreus narutomii</i>	●										
	キハネグモ	<i>Orchestina flava</i>							●				
センシヨウグモ	センシヨウグモ	<i>Ero japonica</i>							●				
チリグモ	チリグモ	<i>Oecobius navus</i>						●					
	ヒラタグモ	<i>Uroctea compactillis</i>						●	●				
ウズグモ	マネキグモ	<i>Miagrammopes orientalis</i>					●		●			●	
	カタハリウズグモ	<i>Octonoba sybotides</i>	●	●				●					
ホラヒメグモ	コホラヒメグモ	<i>Nesticella brevipes</i>						●	●				
ヒメグモ	シロカネイソウロウグモ	<i>Argyrodes bonadea</i>	●										
	チリイソウロウグモ	<i>Argyrodes kumadai</i>		●						●			
	オナガグモ	<i>Ariamnes cylindrogaster</i>	●										
	シモフリミジグモ	<i>Dipoena punctisparsa</i>	●										
	カレハヒメグモ	<i>Enoplognatha abrupta</i>											
	ヒシガタグモ	<i>Episinus affinis</i>	●										
	ムラクモヒシガタグモ	<i>Episinus nubilus</i>	●										
	ハイロヒメグモ	<i>Paidiscura subpallens</i>											
	ツリガネヒメグモ	<i>Parasteatoda angulithorax</i>	●	●					●		●		
	キヒメグモ	<i>Parasteatoda asiatica</i>							●				
	カグヤヒメグモ	<i>Parasteatoda culicivora</i>	●	●					●				
	ニホンヒメグモ	<i>Parasteatoda japonica</i>	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●
	キヨヒメグモ	<i>Parasteatoda oculiprominens</i>	●						●				
	オオヒメグモ	<i>Parasteatoda tepidariorum</i>	●	●					●		●	●	
	ハラダカツクネグモ	<i>Phoroncidia altiventris</i>	●										
	サトヒメグモ	<i>Platnickina adamsoni</i>											●
	ムナボシヒメグモ	<i>Platnickina sterninotata</i>	●						●	●			
	ヤリグモ	<i>Rhomphaea sagana</i>	●										
	クロマルイソウロウグモ	<i>Spheropistha melanosoma</i>											
	スネグロオチバヒメグモ	<i>Stemmops nipponicus</i>							●	●			
バラギヒメグモ	<i>Takayus chikunii</i>												
コアカクロミジグモ	<i>Yaginumena mutilata</i>								●				
コケヒメグモ	<i>Yunohamella subadulta</i>												
ヨリメグモ	ヨリメグモ	<i>Conculus lyugadinus</i>											
コツブグモ	ヤマトコツブグモ	<i>Mysmenella ogatai</i>											
サラグモ	ザラアカムネグモ	<i>Asperthorax communis</i>											
	デーニッツサラグモ	<i>Doenitzius peniculus</i>											
	コデーニッツサラグモ	<i>Doenitzius pruvus</i>											
	マルムネヒザグモ	<i>Erigone edentata</i>											
	ノギリヒザグモ	<i>Erigone prominens</i>											
	クボミケシグモ	<i>Lepthyphantes concavus</i>											
	クロケシグモ	<i>Meioneta nigra</i>											
	ナニワナンキングモ	<i>Mermessus naniwaensis</i>											
	タテヤマテナガグモ	<i>Microbathyphantes tateyamaensis</i>	●						●	●			
	ヘリジロサラグモ	<i>Neriene oidedicata</i>	●	●					●	●			

Ⅲ 石神井・関町エリア						Ⅳ 大泉・土支田エリア									ルート							重要種			備考	
Ⅲ①	Ⅲ②	Ⅲ③	Ⅲ④	Ⅲ⑤	Ⅲ⑥	Ⅳ①	Ⅳ②	Ⅳ③	Ⅳ④	Ⅳ⑤	Ⅳ⑥	Ⅳ⑦	Ⅳ⑧	Ⅳ⑨	R①	R②	R③	R④	R⑤	R⑥	R⑦	確認箇所	国	都		区
都立石神井公園	区立武蔵関公園	東京カトリック神学院	天祖若宮八幡宮	MO氏邸	石泉愛らんど	都立大泉中央公園	稲荷山・清水山憩いの森	八の釜憩いの森	土支田八幡宮	MU氏邸	小作原広場	井頭こぶし憩いの森	区立びくに公園	O氏畑	練馬駅周辺ルート	城南住宅ルート	田柄川緑道ルート	立野町ルート	土支田・谷原ルート	石神井川流域	白子川流域		RL	RL		区部
●	●		●			●	●	●					●									13				
●	●							●														7	NT	VU		
●																						2				
●								●														2				
●																						2				
																						1				
																						1			23区内初	
●							●															2				
																						2				
●	●						●	●	●													7				
●	●						●	●	●													7				
●	●						●	●	●													8				
●													●									4				
●					●		●															2				
●																						6				
●																						2				
																						1				
●																						1				
	●																					2				
●								●														3				
●																						1				
●	●						●	●														8				
	●							●														3				
																						4				
●	●				●	●	●	●		●						●	●	●				20				
●							●	●	●													3				
●					●		●	●	●				●									11				
																						1				
								●														2				
●							●															5				
●																						2				
	●																					1			練馬区のみ	
●																						3				
●																						1				
																						1				
●								●														2				
								●														1				
●								●														2			23区内初	
●																						1				
●																						1				
●																						1				
							●						●									1			練馬区のみ	
								●					●									1				
								●														2			23区内初	
								●														4				
●	●						●	●														8				

表Ⅳ-3-2 クモ類の確認種一覧 (2/4)

科名	種名	学名	Ⅰ 北町・田柄エリア						Ⅱ 豊玉・中村エリア					
			Ⅰ①	Ⅰ②	Ⅰ③	Ⅰ④	Ⅰ⑤	Ⅰ⑧	Ⅱ①	Ⅱ②	Ⅱ③	Ⅱ④	Ⅱ⑤	
			都立光が丘公園	都立城北中央公園	どんぐり山憩いの森	八幡神社	U氏邸	高松市民農園	武蔵学園	豊島園	廣徳寺・区立高稲荷公園	氷川神社	N氏邸	
サラグモ	カントウケシグモ	<i>Nippononeta kantonis</i>												
	ナナメケシグモ	<i>Nippononeta obliqua</i>		●										
	イマダテテングヌカグモ	<i>Oia imadatei</i>												
	テングヌカグモ	<i>Paikiniana mira</i>	●						●					
	オオイオリヒメサラグモ	<i>Syedra oii</i>							●					
	ヤマトウジヌカグモ	<i>Tojinium japonicum</i>												
	アトグロアカムネグモ	<i>Ummeliata feminea</i>	●						●	●				
	セスジアカムネグモ	<i>Ummeliata insecticeps</i>	●											
チョビヒゲヌカグモ	<i>Walckenaeria golovatchi</i>													
アシナガグモ	オオシロカネグモ	<i>Leucauge celebesiana</i>	●				●		●					
	コシロカネグモ	<i>Leucauge subblanda</i>							●					
	キララシロカネグモ	<i>Leucauge subgemmea</i>	●						●					
	メガネドヨウグモ	<i>Metleucauge yunohamensis</i>	●						●					
	ヒメアシナガグモ	<i>Pachygnatha tenera</i>												
	トガリアシナガグモ	<i>Tetragnatha caudicula</i>												
	ヤサガタアシナガグモ	<i>Tetragnatha maxillosa</i>	●	●					●	●				
	ヒカリアシナガグモ	<i>Tetragnatha nitens</i>	●											
	アシナガグモ	<i>Tetragnatha praedonia</i>	●	●						●				
	ウロコアシナガグモ	<i>Tetragnatha squamata</i>	●						●	●				
シコクアシナガグモ	<i>Tetragnatha vermiformis</i>	●												
ジョロウグモ	ジョロウグモ	<i>Nephila clavata</i>	●	●			●	●	●	●	●	●	●	
コガネグモ	ハツリグモ	<i>Acuilas coccineus</i>	●	●										
	ビジョオニグモ	<i>Araneus mitificus</i>	●											
	マルツメオニグモ	<i>Araneus semilunaris</i>												
	カラオニグモ	<i>Araneus tsurusakii</i>												
	オニグモ	<i>Araneus ventricosus</i>							●	●				
	ナガコガネグモ	<i>Argiope bruennichi</i>	●	●				●						
	コガタコガネグモ	<i>Argiope minuta</i>	●											●
	ギンメッキゴミグモ	<i>Cyclosa argenteoalba</i>	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●
	ゴミグモ	<i>Cyclosa octotuberculata</i>	●											
	ヨツデゴミグモ	<i>Cyclosa sedeculata</i>	●	●						●				
	マルゴミグモ	<i>Cyclosa vallata</i>		●										
	サガオニグモ	<i>Eriophora astridae</i>	●											
	カラフトオニグモ	<i>Eriophora sachalinensis</i>	●											●
	トゲグモ	<i>Gasteracantha kuhli</i>									●			
	シロスジジョウジョウグモ	<i>Hypsosinga sanguinea</i>												
	コガネグモダマシ	<i>Larinia argiopiformis</i>	●											
	ナカムラオニグモ	<i>Larinioides cornutus</i>	●											
	ゴマジロオニグモ	<i>Mangora herbeoides</i>	●											
	ドヨウオニグモ	<i>Neoscona adianta</i>	●											
	ワキグロサツマノミダマシ	<i>Neoscona melloteei</i>	●											
ヤマシロオニグモ	<i>Neoscona scylla</i>													
サツマノミダマシ	<i>Neoscona scylloides</i>													
ズグロオニグモ	<i>Yaginumia sia</i>													
コモリグモ	エビチャコモリグモ	<i>Arctosa ebicha</i>												
	フジコモリグモ	<i>Arctosa fujiii</i>	●											
	ヒノマルコモリグモ	<i>Arctosa ipsa</i>												
	シッチコモリグモ	<i>Hygrolycosa umidicola</i>	●											

Ⅲ 石神井・関町エリア						Ⅳ 大泉・土支田エリア								ルート							確認箇所	重要種		備考			
Ⅲ①	Ⅲ②	Ⅲ③	Ⅲ④	Ⅲ⑤	Ⅲ⑥	Ⅳ①	Ⅳ②	Ⅳ③	Ⅳ④	Ⅳ⑤	Ⅳ⑥	Ⅳ⑦	Ⅳ⑧	Ⅳ⑨	R①	R②	R③	R④	R⑤	R⑥		R⑦	国		都		
都立石神井公園	区立武蔵関公園	東京カトリック神学院	天祖若宮八幡宮	MO氏邸	石泉愛らんど	都立大泉中央公園	稲荷山・清水山憩いの森	八の釜憩いの森	土支田八幡宮	MU氏邸	小作原広場	井頭こぶし憩いの森	区立びくに公園	O氏畑	練馬駅周辺ルート	城南住宅ルート	田柄川緑道ルート	立野町ルート	土支田・谷原ルート	石神井川流域		白子川流域	R		R		
							●																	1			
●																									2		
●																									1		
																									2		
●							●																		3		練馬区のみ
●																									1		
●												●													5		
							●																		1		
							●																		1		
●	●			●	●		●									●									9		
																									1		
●							●																		4		
	●											●													2		
												●													1		
●							●	●																	7		
●	●																								1		都内初
●	●						●	●					●				●								5		
●							●	●					●				●								8		
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	29		
●							●																		4		
								●																	1		
							●																		1		
●							●																		2		
●								●					●												4		
●												●									●				6		
●				●									●												4		
●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●		●		●	●	●	●	●	●	●				26		
●							●																		3		
●							●	●	●	●	●									●					9		
					●		●						●												4		
●									●																3		
	●																								3		
								●																	1		23区内初
●							●																		2		
																									1		
																									1		23区内初
										●															1		23区内初
											●														2		
●	●					●																			3		
●																									1		
●	●																								1		
●	●																								1		
●	●																								3		
●	●																								1		
●	●																								2		23区内初

表Ⅳ-3-2 クモ類の確認種一覧 (3/4)

科名	種名	学名	Ⅰ 北町・田柄エリア						Ⅱ 豊玉・中村エリア				
			Ⅰ① 都立光が丘公園	Ⅰ② 都立城北中央公園	Ⅰ③ どんぐり山憩いの森	Ⅰ④ 八幡神社	Ⅰ⑤ U氏邸	Ⅰ⑧ 高松市民農園	Ⅱ① 武蔵学園	Ⅱ② 豊島園	Ⅱ③ 廣徳寺・区立高稲荷公園	Ⅱ④ 氷川神社	Ⅱ⑤ N氏邸
コモリグモ	イナダハリゲコモリグモ	<i>Pardosa agraria</i>	●										
	ウツキコモリグモ	<i>Pardosa astrigera</i>		●		●		●					
	カラコモリグモ	<i>Pardosa hedini</i>											
	ハリゲコモリグモ	<i>Pardosa laura</i>			●			●					●
	キクツキコモリグモ	<i>Pardosa pseudoannulata</i>	●										
	クラークコモリグモ	<i>Pirata clercki</i>						●	●				
	イモコモリグモ	<i>Pirata piratoides</i>											
	チビコモリグモ	<i>Pirata procurvus</i>						●					
キシダグモ	イオウイロハシリグモ	<i>Dolomedes sulfureus</i>	●						●				
	アズマキシダグモ	<i>Pisaura lama</i>	●										
ササグモ	ササグモ	<i>Oxyopes sertatus</i>	●	●				●	●	●		●	●
シボグモ	シボグモ	<i>Anahita fauna</i>	●										
タナグモ	クサグモ	<i>Agelena silvatica</i>	●	●					●	●	●		
	コクサグモ	<i>Allagelena opulenta</i>	●	●	●			●	●	●	●	●	
	シモフリヤチグモ	<i>Iwogomoa insidiosa</i>	●										
	メガネヤチグモ	<i>Pireneitega luctuosa</i>							●				
ナミハグモ	ナミハグモ属の一種	<i>Cybaeus sp.</i>											
ハグモ	ネコハグモ	<i>Dictyna felis</i>	●	●					●	●			
	ヤマトカレハグモ	<i>Lathys maculosa</i>											
ツチフクログモ	カバキコマチグモ	<i>Cheiracanthium japonicum</i>	●										
	ヤマトコマチグモ	<i>Cheiracanthium lascivum</i>	●										
	ヤサコマチグモ	<i>Cheiracanthium unicum</i>	●										
ウエムラグモ	イタチグモ	<i>Itatsina praticola</i>	●	●					●				
フクログモ	ハマキフクログモ	<i>Clubiona japonicola</i>											
	ヒメフクログモ	<i>Clubiona kurilensis</i>	●										
	トビイロフクログモ	<i>Clubiona lena</i>											
	カギフクログモ	<i>Clubiona pseudogermanica</i>											
	マイコフクログモ	<i>Clubiona rostrata</i>											
	ツルサキフクログモ	<i>Clubiona tsurusakii</i>											
	ムナアカフクログモ	<i>Clubiona vigil</i>											
ネコグモ	オトヒメグモ	<i>Orthobula crucifera</i>	●	●					●	●			
	コムラウラシマグモ	<i>Otacilia komurai</i>		●					●	●			
	キレオビウラシマグモ	<i>Phrurolithus coreanus</i>	●							●			
	ウラシマグモ	<i>Phrurolithus nipponicus</i>	●	●						●			
	ヤバネウラシマグモ	<i>Phrurolithus pennatus</i>	●							●			
ネコグモ	<i>Trachelas japonicus</i>							●	●				
ワシグモ	メクリグモ属の一種	<i>Gnaphosa sp.</i>	●										
	ヤマトフトバワシグモ	<i>Odontodrassus hondoensis</i>	●										
	クロチャケムリグモ	<i>Zelotes asiaticus</i>	●										
エビグモ	キンイロエビグモ	<i>Philodromus auricomus</i>	●										
	キハダエビグモ	<i>Philodromus spinatarsis</i>	●										
	アサヒエビグモ	<i>Philodromus subaureolus</i>	●	●					●	●			
	ヨシシャコグモ	<i>Tibellus fengi</i>	●										
	シャコグモ	<i>Tibellus japonicus</i>	●						●	●			
カニグモ	キハダカニグモ	<i>Bassaniana decorata</i>	●	●					●				
	コカニグモ	<i>Coriarachne fulvipes</i>		●									
	コハナグモ	<i>Diaea subdola</i>	●							●			

Ⅲ 石神井・関町エリア						Ⅳ 大泉・土支田エリア									ルート							確認箇所	重要種		備考
Ⅲ①	Ⅲ②	Ⅲ③	Ⅲ④	Ⅲ⑤	Ⅲ⑥	Ⅳ①	Ⅳ②	Ⅳ③	Ⅳ④	Ⅳ⑤	Ⅳ⑥	Ⅳ⑦	Ⅳ⑧	Ⅳ⑨	R①	R②	R③	R④	R⑤	R⑥	R⑦		国R L	都R L・区部	
																						1			
●					●	●				●	●	●	●	●						●		12			
						●																1		23区内初	
●							●	●														6			
																						1			
●														●								3			
																						1			
●																						2			
●																						2			
●	●						●	●														6			
●	●					●	●			●					●						●	2			
●	●					●	●															14			
●	●					●	●															4			
●	●					●	●															9			
●	●	●		●	●	●	●		●			●	●		●	●		●	●	●	●	24			
●						●																3			
																						1			
●																						1			
●	●												●									7			
●							●															2			
																						1			
																						1			
●	●					●	●															7			
●																						1			
●																						2		練馬区のみ	
●														●								1			
●							●															1			
						●																1		23区内初	
							●															1			
●	●					●																7			
●																						4			
●	●					●																5		23区内初	
●						●	●	●														7			
●																						3			
●						●																4			
																						1			
																						1		23区内初	
●				●		●																1			
●	●								●													4			
●	●					●				●												4			
●											●											7			
●	●					●	●	●														1		都内初	
●								●														8			
●								●														5			
●	●																					3			
●						●																4			

表IV-3-2 クモ類の確認種一覧 (4/4)

科名	種名	学名	I 北町・田柄エリア					II 豊玉・中村エリア					
			I①	I②	I③	I④	I⑤	I⑧	II①	II②	II③	II④	II⑤
			都立光が丘公園	都立城北中央公園	どんぐり山憩いの森	八幡神社	U氏邸	高松市民農園	武蔵学園	豊島園	廣徳寺・区立高稲荷公園	氷川神社	N氏邸
カニグモ	クマダハナグモ	<i>Ebelingia kumadai</i>											
	ハナグモ	<i>Ebrechtella tricuspida</i>	●	●					●				
	ワカバグモ	<i>Oxytate striatipes</i>	●					●	●			●	
	マツモトオチバカニグモ	<i>Ozyptila matsumotoi</i>		●					●				
	ニッポンオチバカニグモ	<i>Ozyptila nipponica</i>						●	●				
	アズチグモ	<i>Thomisus labefactus</i>	●					●	●				
	セマルトラフカニグモ	<i>Tmarus rimosus</i>		●									
	ヤミイロカニグモ	<i>Xysticus croceus</i>							●				
ソウシキカニグモ	<i>Xysticus saganus</i>	●					●						
ハエトリグモ	マツモトハエトリ	<i>Bristowia heterospinosa</i>		●				●					
	ネコハエトリ	<i>Carrhotus xanthogramma</i>	●	●				●	●	●		●	
	カタオカハエトリ	<i>Euophrys kataokai</i>	●										
	マミジロハエトリ	<i>Evarcha albaria</i>	●										
	ウデブトハエトリ	<i>Harmochirus insulanus</i>											
	アダンソンハエトリ	<i>Hasarius adansoni</i>					●					●	
	チクニハエトリ	<i>Helicium chikunii</i>	●										
	コジャバラハエトリ	<i>Helicium cylindratum</i>		●									
	エキスハエトリ	<i>Laufeia aenea</i>	●					●					
	オオハエトリ	<i>Marpissa milleri</i>											
	ヨダンハエトリ	<i>Marpissa pulla</i>	●	●					●				
	オスクロハエトリ	<i>Mendoza canestrinii</i>											
	ヤハズハエトリ	<i>Mendoza elongata</i>	●										
	シラヒゲハエトリ	<i>Menemerus fulvus</i>	●						●	●			
	ヤガタアリグモ	<i>Myrmarachne elongata</i>							●				
	タイリクアリグモ	<i>Myrmarachne formicaria</i>	●										
	ヤサアリグモ	<i>Myrmarachne inermichelis</i>		●									
	アリグモ	<i>Myrmarachne japonica</i>	●	●					●			●	
	チャイロアサヒハエトリ	<i>Phintella abnormis</i>	●	●					●	●			
	マガネアサヒハエトリ	<i>Phintella arenicolor</i>											
	メガネアサヒハエトリ	<i>Phintella linea</i>	●										
	メスジロハエトリ	<i>Phintella versicolor</i>							●				
	デーニツツハエトリ	<i>Plexippoides doenitzi</i>											
	ミスジハエトリ	<i>Plexippus setipes</i>	●										
	イナズマハエトリ	<i>Pseudicius vulpes</i>		●					●				
	カラスハエトリ	<i>Rhene atrata</i>	●										
	キレワハエトリ	<i>Sibianor pullus</i>		●									
アオオビハエトリ	<i>Siler cupreus</i>	●						●	●				
ヒトリコゲチャハエトリ	<i>Sitticus avocator</i>												
30	182		97	43	5	2	6	7	50	53	9	9	13
			113					79					

注1: 本リストは「(谷川明男)日本産クモ類目録Ver.2011R1」(<http://www.asahi-net.or.jp/~dp7a-tnkw/japan.pdf>)に準拠している。

注2: 種の特徴が確認できたものは幼体でも含めた。属までの未確定種でも、他に無い属の場合は載せた。

注3: 備考欄 都内初: 東京都内での初記録 23区内初: 23区内での初記録 練馬区のみ: 23区内で練馬区でのみ確認された種
 なお、初記録等は、「CD日本のクモver.2010(新海 明 安藤昭久 谷川明男 池田博明 桑田隆生)」から判断。

Ⅲ 石神井・関町エリア						Ⅳ 大泉・土支田エリア									ルート							確認箇所	重要種		備考				
Ⅲ①	Ⅲ②	Ⅲ③	Ⅲ④	Ⅲ⑤	Ⅲ⑥	Ⅳ①	Ⅳ②	Ⅳ③	Ⅳ④	Ⅳ⑤	Ⅳ⑥	Ⅳ⑦	Ⅳ⑧	Ⅳ⑨	R①	R②	R③	R④	R⑤	R⑥	R⑦		国R L	都R L・区部					
●																									1				
●							●													●						6			
●	●			●		●	●													●	●					11			
●						●																				4			
●																										3			
●		●												●												6			
						●																				2			
																										1			
	●						●																			3			
●						●																				4			
●					●							●		●												10			
																										1		23区内初	
●						●																				3			
●							●																			2			
																			●							3			
																										1		23区内初	
	●																									1			
●						●																				3			
●						●	●																			1			
●						●	●																			6			
●	●				●	●	●				●											●				10			
●	●			●		●	●																			9			
							●																			1			
●														●												2			
●						●																				2			
●	●			●		●	●																			3			
●	●			●		●	●																			5			
						●																				1			
																										3			
●			●																							2			
							●																			3			
							●																			4			
													●													1		練馬区のみ	
105	40	3	7	10	7	48	53	17	7	6	3	4	18	8	2	5	5	5	7	5	5	3							
119						100									14														

②重要種

文化財保護法、種の保存法における指定種の確認は無かった。

重要種の確認状況を表Ⅳ-3-3に示した。国 RL の記載種は、キシノウエトタテグモ（準絶滅危惧）の1種であった。都 RL（区部）の記載種は、キシノウエトタテグモが、絶滅危惧Ⅱ類（VU）であった。また、トゲグモ（廣徳寺で確認）、ゴマジロオニグモ（都立光が丘公園で確認）が「(-)：データ無し」として扱われており、今後、23区内での貴重な記録になると考えられる。

参考として、隣接した杉並区での注目動植物となっている種を抽出した（杉並区 2006）。その結果、表Ⅳ-3-4に示した7種が該当した。

表Ⅳ-3-3 クモ類の重要種確認状況

キシノウエトタテグモ(トタテグモ科) 国RL: 準絶滅危惧(NT) 都RL(区部): 絶滅危惧Ⅱ類(VU)	
	確認地点: 都立光が丘公園、都立城北中央公園、武蔵学園、氷川神社、都立石神井公園、区立武蔵関公園、八の釜憩いの森(7箇所) 確認状況: 氷川神社では平成21年9月に徘徊する1個体を確認した。それ以外の調査地では、全てで巣穴を確認したことから、定着していると考えられる。
トゲグモ(コガネグモ科) 都RL(区部): データなし(-)	
	確認地点: 廣徳寺・区立高稲荷公園 確認状況: 平成21年7月、廣徳寺の林縁で1個体を確認した。
ゴマジロオニグモ(コガネグモ科) 都RL(区部): データなし(-)	
	確認地点: 都立光が丘公園 確認状況: 平成21年11月、自然保全ゾーンの林縁で複数個体を確認した。

表IV-3-4 杉並区注目動植物にあたるクモ類の一覧

カテゴリー	該当種	確認した場所
Bランク (7種)	マネキグモ	U氏邸、豊島園、氷川神社、都立石神井公園、都立大泉中央公園、稲荷山・清水山憩いの森、八の釜憩いの森
	ナガコガネグモ	都立光が丘公園、都立城北中央公園、高松市民農園、都立石神井公園、区立びくに公園、石神井川流域
	コガタコガネグモ	都立光が丘公園、N氏邸、都立石神井公園、MO氏邸
	オナガグモ	都立光が丘公園、都立石神井公園
	コデーニッツサラグモ	都立石神井公園
	メスジロハエトリ	豊島園、稲荷山・清水山憩いの森、八の釜憩いの森
	コハナグモ	都立光が丘公園、豊島園、都立石神井公園、都立大泉中央公園、八幡神社

Bランク：元来、(杉並)区内の広い範囲に分布していたが、近年減少している種

③外来種

確認種のうち、外来種にあたるものはなかった。

④東京都および23区内初記録の種

クモ類については、練馬区内はもとより、東京都内でも十分な調査が行われていないため、23区内あるいは都内の初記録と考えられる種を確認した。なお、初記録の判断については、「CD 日本のクモ ver.2010 (新海 明 安藤昭久 谷川明男 池田博明 桑田隆生)」から判断した。これら初記録の種の一覧を表IV-3-5に、都内初記録の種の確認状況を表IV-3-6に示した。

確認した182種のうち、東京都内で新記録と考えられるのは、ヒカリアシナガグモ、ヨシシャコグモの2種であった。また、23区内での初記録として、14種を確認した。このほか、23区内では練馬区だけの記録として5種が抽出された。

都内および23区内初記録の16種については、十分な生息情報がないことから、今後のモニタリング調査が望まれるとともに、練馬の希少種リストを作る際には「情報不足」以上のカテゴリーとすることが望まれる。

表Ⅳ－３－５ 東京都内あるいは23区内初記録となったクモ類の一覧

カテゴリー	種名	確認場所	備考
東京都内 初記録	ヒカリアシナガグモ	都立光が丘公園	2種
	ヨシシャコグモ	都立光が丘公園	
23区内 初記録	キハネグモ	豊島園	14種
	ヤマトコツブグモ	都立石神井公園、稲荷山・清水山憩いの森	
	ナニワナンキングモ	稲荷山・清水山憩いの森、区立びくに公園	
	トゲグモ	廣徳寺	
	ナカムラオニグモ	都立光が丘公園	
	ゴマジロオニグモ	都立光が丘公園	
	シッチコモリグモ	都立光が丘公園、武蔵関公園	
	カラコモリグモ	都立大泉中央公園	
	ツルサキコモリグモ	都立大泉中央公園	
	キレオビウラシマグモ	都立光が丘公園、豊島園、都立石神井公園、 区立武蔵関公園、都立大泉中央公園	
	ヤマトフトバワシグモ	都立光が丘公園	
	カタオカハエトリ	都立光が丘公園	
	チクニハエトリ	都立光が丘公園	
ヤガタアリグモ	豊島園		
23区内で 練馬区のみ の記録	クロマルイソウロウグモ	区立武蔵関公園	5種
	クボミケシグモ	稲荷山・清水山憩いの森	
	オオイオリヒメサラグモ	武蔵学園、都立石神井公園、稲荷山・清水山憩いの森	
	ヒメフクログモ	都立光が丘公園、都立石神井公園	
	ヒトリコゲチャハエトリ	区立びくに公園	

表Ⅳ－３－６ 東京都内初記録であったクモ類

ヒカリアシナガグモ(アシナガグモ科)	
	<p>確認地点：都立光が丘公園</p> <p>確認状況：平成22年7月、バードサンクチュアリで確認した。</p>
ヨシシャコグモ(エビグモ科)	
	<p>確認地点：都立光が丘公園</p> <p>確認状況：平成22年7月、バードサンクチュアリで確認した。</p>

2) クモ類からみた環境評価

新海栄一（1998）による環境指標種を参考に、本調査で確認した種を区分した。これを表Ⅳ－3－7に示した。

合計 32 種が該当していた。このうち、A ランクが 2 種、B ランクが 3 種と少ないが、C ランクは 8 種、都市環境指標種は 19 種と比較的多い構成となっている。

表Ⅳ－3－7 環境指標種（新海栄一, 1998）の該当種

カテゴリー	該当種名	該当種数
自然環境指標種 Aランク(37種) 豊かな森林植生が存在する自然度の高い山地に生息する種群	ヨリメグモ マルヅメオニグモ	2種
自然環境指標種 Bランク(30種) 山地から里山にかけての良好な森林あるいは樹林地に生息する種群	(ヤマトコツブグモ) トゲグモ エビチャコモリグモ	3種
自然環境指標種 Cランク(31種) 山地から里山、さらに森林地が帯状または島状に存在する地域にまで広く生息する種群	ハラダカツクネグモ サガオニグモ ヤリグモ ゴマジロオニグモ コアカクロミジグモ フジイロコモリグモ デーニツツサラグモ エクスハエトリ	8種
都市環境指標種(38種) 都心部から郊外にかけての建築物、庭園、社寺林などに多く出現し、都市部の環境を表現している種群	ジグモ ズグロオニグモ キシノウエトタテグモ シモフリヤチグモ イエユウレイグモ メガネヤチグモ チリグモ ネコハグモ ヒラタグモ ヤバネウラシマグモ カレハヒメグモ キンイロエビグモ キヨヒメグモ アダンソンハエトリ オオヒメグモ シラヒゲハエトリ サトヒメグモ ミスジハエトリ オニグモ	19種

この種数を用いて下記のように環境指数（自然度）を算出することができる。

$$\text{環境指数} = \frac{\text{自然環境指標種合計} + 1}{\text{都市環境指標種合計} + 1} \times \text{採集種類数合計}$$

$$\text{練馬区全体の環境指数} = \frac{(2+3+8) + 1}{19+1} \times 182 = 127.4$$

この数値の評価基準について表Ⅳ－3－8に示した。練馬区の環境指数は、里山型の環境を評価する場合は、「悪化」であるが、都市型の環境を評価する場合は、「きわめて良好」とされる。

このことから、練馬区の環境を生息するクモ類の種組成から考えると、里山と位置づけると環境が良いとは言えないが、都市環境とみなせば、非常に良好な地域といえることができる。

表Ⅳ－3－8 環境指数（新海栄一, 1998）の評価基準

評価	環境指数	
	里山の環境	都市型の環境
きわめて悪化	100以下	20以下
悪化	100～200	20～40
平均的	200～400	40～60
良好	400～600	60～80
きわめて良好	600以上	80以上

※練馬区が該当する範囲を網掛けした。

3) 科別出現傾向

本調査では、30 科 182 種のクモ類を確認した。これらの出現傾向を科別にまとめた。分類・配列は「谷川明男（2012）日本産クモ類目録 2012R1」に準拠した。

①ジグモ科

1 種を確認した。ジグモは、13 箇所を確認した。乾燥が激しく極端に地盤の硬い所ではあまり見られないが、普通に土があり、エサとなるダンゴムシやその他の土壌動物が通る所であれば、生息できるので、区内の多くの場所に分布していると考えられる。

②トタテグモ科

1 種を確認した。キシノウエトタテグモは、国 RL では準絶滅危惧、都 RL では絶滅危惧Ⅱ類となっているが、7 箇所を確認した。土壌の湿度が適度に保たれていて、崖地や石積みの際間が土で埋まっている様な状態の環境があれば、生息している可能性がある。

③ユウレイグモ科

2 種を確認した。イエユウレイグモは 2 箇所の確認のみだが、人家の室内等にも多く生息している種なので、区内には広く分布していると考えられる。ユウレイグモは野外の崖地等にも多く生息している。シモングモは、過去に都立石神井公園で記録されており、室内性の普通種の為、区内の人家には数多く生息していると考えられる。

④タマゴグモ科

3 種を確認した。何れも微小種のため、見つかりにくい。特にキハネグモは、全国的にも極めて記録が少なく、区部でも初記録であった。豊島園の雑木林の林床（要確認）で確認した。ナルトミダニグモもキハネグモも乾燥に弱く、山地等の樹林地周辺の落ち葉層に生息する種である。ナルトミダニグモは、都立光が丘公園の雑木林（自然保全ゾーン）の林床で確認した。

⑤センショウグモ科

1 種を確認した。センショウグモは、クモ専門食のクモで山地から比較的人工的な環境にも生息している。今回は 2 箇所を確認した。

⑥チリグモ科

2 種を確認した。いずれも人工的な環境に生息している。ヒラタグモは 7 箇所を確認した。チリグモは微小なため、3 箇所でのみ確認したが、区内では他所にも生息していると考えられる。

⑦ウズグモ科

2 種を確認した。いずれも樹林地周辺などに多く、今回はマネキグモを 7 箇所、カタハリウズグモを 8 箇所を確認した。

⑧ホラヒメグモ科

1 種を確認した。洞窟種の多い科だが、コホラヒメグモは、落ち葉層や倒木下などにも生

息している。今回は 4 箇所を確認した。一見明るく開けた場所でも、湿り気が十分な環境であれば、確認される場合があり、区立びくに公園でも確認した。

⑨ヒメグモ科

23 種を確認した。ヒメグモは区内の多くに生息しており、20 箇所を確認した。オオヒメグモは人口構造物との結びつきが強い種で、11 箇所を確認した。何れも人工的な環境のある地点であった。ヒシガタグモやハラダカツクネグモは、比較的里山環境に生息する種だが、都立光が丘公園バードサンクチュアリの林内で確認した。暖地性のクロマルイソウロウグモは、近年北上して来た種でもあり、それほど多くはないが、区立武蔵関公園で確認した。過去に都立石神井公園でも記録されている。

⑩ヨリメグモ科

1 種を確認した。ヨリメグモは、溪流など源流に近い環境に多く生息している。そのため、都心、特に区部では生息する場所は非常に少ないと考えられる。清水山憩いの森で確認した。

⑪コツブグモ科

1 種を確認した。ヤマトコツブグモは、体長 1mm 前後の微小種であり、湿地等の地表近く、草の隙間や根元付近に球状円網を張る。平成 19 年に新種記載されたが、全国的にまだ記録が非常に少なく、区部での正式な記録としては初めてである。都立石神井公園と清水山憩いの森で確認した。

⑫サラグモ科

19 種を確認した。国内においては、280 種を超える最大の科である。一部の樹上大型種以外は、ほとんど地表やリター等に生息する微小種であるため、見付けにくく同定も困難な種が多い。しかしながら、それらの多様さは、土壤環境の多様性を示すとも考えられる。都立石神井公園で最多 18 種、次いで清水山憩いの森の 7 種を確認した。カントウケシグモ、イマダテテングヌカグモ、オオイオリヒメサラグモ、ヤマトトウジヌカグモなどは、ある程度の規模の樹林が必要と考えられるが、都立石神井公園、清水山憩いの森などで記録されている。

⑬アシナガグモ科

11 種を確認した。本科は水辺を好む種が多い。ヒカリアシナガグモは近年北上傾向の著しい種である。都立光が丘公園バードサンクチュアリの池のヨシ原で確認。当初は都初記録であった。

⑭ジョロウグモ科

1 種を確認した。本科の本土分布種はジョロウグモのみである。樹林・林縁を好む種であるが、低山帯から平地の都市部まで広く分布し、全国的にも個体数は多い。大型で派手であり、網も大きいため、区内でも最も目に付きやすい種の一つである。

⑮コガネグモ科

23 種を確認した。比較的サイズの大きい種が多いため、クモ類の中では比較的発見しや

すい。ギンメッキゴミグモが最も目につき、26 箇所を確認した。都 RL では情報不足 (DD) のトゲグモを廣徳寺で、ゴマジロオニグモを都立光が丘公園で確認した。都内ではいずれも個体数は少なく、区部では初記録である。マルヅメオニグモも、里山や山地の森林・林道等を好む種で、区部では極めて稀であるが、清水山憩いの森で確認した。マルゴミグモは、元々暖地性で、近年北上傾向の著しい種である。

⑩コモリグモ科

13 種を確認した。ウヅキコモリグモは、草丈のほとんどない乾燥した荒地に近い草地性の種で、12 箇所を確認し、区内で最も普通に生息していると考えられる。カラコモリグモは、全国的に非常に記録の少ない種であるが、都立大泉中央公園の陸上競技場内の芝生で確認した。シッチコモリグモは、谷戸の休耕田や湿地のような環境を好む種であるが、都立光が丘公園バードサンクチュアリ池の湿地、区立武蔵関公園の「葦の島」の湿地で確認した。いずれも区部では初記録である。

⑪キシダグモ科

2 種を確認した。特に大型種の多い科である。比較的都心の緑地でも適応しているイオウイロハシリグモは、6 箇所を確認した。成体は水辺近くでのみの確認であった。

⑫ササグモ科

1 種を確認した。ササグモは、草本上や樹木の葉先などにおり、14 箇所を確認した。区内で最も普通に見られる種の一つと考えられる。

⑬シボグモ科

1 種を確認した。本科の本土分布種はシボグモのみである。林床や草地のリター等、地表徘徊性の代表的な種の一つであるが、今回は 4 箇所でのみの確認であった。

⑭タナグモ科

4 種を確認した。棚網が極めて目につきやすいクサグモとコクサグモは、9 箇所と 24 箇所を確認した。シモフリヤチグモとメガネヤチグモは、3 箇所と 2 箇所の確認だが、比較的市街地でも適応できる種のため、区内の各所に分布している可能性が高い。

※「(谷川明男) 日本産クモ類目録 2000R1」より、従来までヤチグモ類は、ガケジグモ科に分類されていたが、「2011R1」では、本科に属している。

⑮ナミハグモ科

1 種を確認した。地域やサイズ等から、恐らくカチドキナミハグモではないかと推測される (種の確定には今後の成体採集が必要)。崖地等に生息する種だが、都立石神井公園の城蹟付近の岩場で住居も複数確認した。

⑯ハグモ科

2 種を確認した。都市環境にもよく適応しているネコハグモは、7 箇所を確認した。ヤマトカレハグモは、樹皮等に生息しているが、都心部でもある程度の樹林があれば生息できるようである。

㉓ ツチフクログモ科

3 種を確認した。ヨシやススキ等の葉を巻いて粽（ちまき）のような住居を造るが、いずれの種も、今回は、都立光が丘公園バードサンクチュアリのヨシ原でのみ確認した。なお、ヤマトコマチグモは、過去に都立石神井公園で記録がある。

㉔ ウエムラグモ科

1 種を確認した。イタチグモは、林床等、地表徘徊性の代表的な種の一つで、7 箇所を確認した。

㉕ フクログモ科

7 種を確認した。本科は外観で識別できない種が大半であるが、詳しく調べると、地域毎に種構成が大きく違う場合がある。区内には意外と多くの種が生息していることが分かり、特に都立石神井公園が 8 種と多かった。カギフクログモは区立びくに公園で、ムナアカフクログモは清水山憩いの森で確認した。都立大泉中央公園ではツルサキフクログモを確認しており、それぞれ微妙な棲み分けがなされていると考えられる。

㉖ ネコグモ科

6 種を確認した。林床等の地表徘徊性の代表的な種を多く含む科である。オトヒメグモとウラシマグモは、共に 7 箇所を確認し、区内の林床には普通に分布していると考えられる。キレオビウラシマグモは、区部では初記録で、記録自体も全国的にあまり多くないが、区内では 5 箇所を確認し、普通に生息していると考えられた。他種も、ある程度の樹林地があれば生息しているようである。

㉗ ワシグモ科

3 種を確認した。地表徘徊性の代表的な種を多く含む科である。メキリグモやクロチャケムリグモは全国的には普通種の類であるが、今回なかなか成体を得られなかったことから、区内での個体数は特別多くはないと考えられる。いずれも都立光が丘公園での確認である。ヤマトフトバワシグモも、区部での初記録であるが、河川敷等のリターには多いと考えられ、各地域での記録が今後増える可能性がある。

㉘ エビグモ科

5 種を確認した。草地等を好むシャコグモは、8 箇所と意外に多くの場所で確認した。次いで、樹木の葉上を好むアサヒエビグモを、7 箇所を確認した。ヨシシャコグモは、河川敷等のヨシやガマ等に多産する傾向があるが、それ以外の緑地（山など）では見かけないことと、2009 年に日本新記録種として初めて和名が付いた種のため、認知度が低いせいか、全国的にほとんど記録がない。今回、都立光が丘公園バードサンクチュアリ池のガマ等の群落で確認し、当初、都初記録であった。

㉙ カニグモ科

12 種を確認した。ワカバグモが 11 箇所と、区内最も普通に見られる種の一つと考えられた。その他の種も、都心（区部）でもある程度の緑地帯が有れば、皆、生息出来る種のようなものである。

㊦ ハエトリグモ科

29 種を確認した。区内の普通種としては、ネコハエトリ、アリグモを 10 箇所、チャイロアサヒハエトリを 9 箇所を確認した。アダソンハエトリ、シラヒゲハエトリ、ミスジハエトリ等は、今回の調査での確認は多くなかったが、これらは極端に人工的な環境に適応している種のため、区内全域の人家等には普通に生息していると考えられる。マツモトハエトリは、全国的に記録は少ないものの、都心の緑地でも生息している。区内でも、確認地点は 4 箇所と意外に多かった。カタオカハエトリは、都立光が丘公園バードサンクチュアリ内外の草地で複数の個体を確認し、過去の都立石神井公園の記録もあるが、区部での他所の記録はない。チクニハエトリも、都立光が丘公園バードサンクチュアリのヨシ原で確認した。全国的に記録は非常に少なく、区部での正式な記録は初である。ただ、河川敷等では多いと考えられ、今後各地の記録が増える可能性がある。ヒトリコゲチャハエトリも同様のことが言えそうである。本種は区立びくに公園と過去の都立石神井公園での記録がある。ヤガタアリグモは、豊島園で確認し、区部では初記録であった。暖地性で全国的にまだほとんど記録のない種だが、近年北上傾向が著しく、河川敷や比較的人工的な場所で多く確認されるようになって来ており、今後は各地の記録が増えると考えられる。

4) 練馬区のクモ類相の特徴

①種数が非常に多い

練馬区内のクモ類については、東京蜘蛛談話会の会誌「kishidaia No.97」に掲載されている「東京都石神井公園のクモ」という報告がある。これは、荘司康治郎氏による平成 16～20 年の間の調査記録である。今回の調査結果に、このデータも合わせると練馬区内での確認種数は 32 科 225 種となり、周辺の区などと比較して非常に多くの種が生息していることになる。

クモ類の調査・識別については、いまだ未発達な部分があるために専門の調査員が少なく、調査結果が担当者の能力に左右されることもある。また、現地調査にかける労力の違いも確認種数などに影響することから、数値の大きさや比較には注意が必要である。

しかし、それらを差し引いても、区内のクモ類相は豊かであるといえる。

②重要種が少ない

本調査で重要種と位置づけた種に該当したのは、3 種のみであり、そのうち 2 種は都 RL で「情報不足」のランクであった。

③知見の少ない種が多い

本調査で確認した種のうち、2 種が東京都初記録、14 種が 23 区内で初記録であった。これらについては、貴重な記録であるが、その評価が難しい。今後の継続調査や周辺自治体での類似の調査が待たれるところである。

④暖地性の種を確認した

トガリアシナガグモ、マルゴミグモ、クロマルイソウロウグモ、ヤガタアリグモなどの、暖地性の種を確認した。近年このような傾向が見られており、練馬区でも同様のことが確認されたといえる。

4. 鳥類

(1) 調査方法

1) 調査対象地

第Ⅲ章に示した 32 箇所 7 ルートを対象とした。但し、都立公園のような大規模な緑地は、公園全体としての鳥類相の評価ができるように調査地点以外の場所もふくめたラインセンサス法※67により実施した。そのため、集計は 26 箇所 7 ルートとした。

2) 調査時期・回数および時間

①調査時期

平成 20 年度に「越冬期」、平成 21 年度に「繁殖期・春の渡り期」および「秋の渡り期」の調査を行った。「繁殖期・春の渡り期」は、平成 21 年 4～5 月に、「秋の渡り期」は平成 21 年 9～10 月に行った。この実施状況を表Ⅳ－4－1 に示した。

②調査回数

調査地のうち、特に面積が大きく、生息種の把握に十分な調査時間が必要と考えられる 8 箇所の樹林地については各調査期で 2 回、それ以外の調査地については各調査期で 1 回の現地調査を行った（表Ⅳ－4－2）。

③調査時間

調査実施時間は、一般に繁殖期の小鳥類等については早朝の調査が有効であることから、早朝である 7:00 前後から開始し、午前中に終了するように実施した。

調査に要した時間は、面積の大きな樹林地の場合は 1～4 時間程度、神社や憩いの森程度の小規模な調査地の場合やルート調査の場合は 30 分程度とした。

④補足調査

上記のほかに、補足として、平成 20 年度に行った下見時の記録や、平成 20～22 年度に行った他の分類群の調査時の記録、平成 21～22 年度に実施した自然観察会などで確認した種も含めた。また、上記の実施日以外でも任意の調査で確認した種は記録に加えた。

このほか、都立光が丘公園バードサンクチュアリの開園日の記録も含めた。

※67 ラインセンサス法：あらかじめ設定しておいたセンサスルート上を歩いて、一定の範囲内に出現する鳥類を姿や鳴き声により識別して、種別個体数をカウントする方法。

表Ⅳ－４－１ 鳥類調査 実施日

調査地			調査実施日		
エリア	記号	調査地名	平成21年 越冬期調査	平成21年 繁殖期・春の 渡り期調査	平成21年 秋の渡り期調査
Ⅰ 北町・田柄 エリア	Ⅰ①	都立光が丘公園	1月27日	4月28日	9月16日
			2月10日	5月18日	10月20日
	Ⅰ②	都立城北中央公園	2月6日	4月21日	9月28日
			2月10日	5月12日	10月19日
	Ⅰ③	どんぐり山憩いの森	1月27日	5月18日	9月15日
	Ⅰ④	八幡神社	2月4日	5月14日	9月16日
Ⅰ⑤	U氏邸	1月29日	5月12日	9月17日	
	Ⅰ⑧	高松市民農園	2月4日	5月14日	9月16日
Ⅱ 豊玉・中村 エリア	Ⅱ①	武蔵学園	1月26日	4月27日	9月28日
			2月19日	5月8日	10月17日
	Ⅱ②	豊島園	1月29日	4月23日	9月28日
			2月19日	5月14日	10月19日
	Ⅱ③	廣徳寺・区立高稲荷公園	2月4日	5月12日	9月28日
Ⅱ④	氷川神社	1月26日	5月8日	9月30日	
	Ⅱ⑤	N氏邸	1月26日	5月8日	9月15日
Ⅲ 石神井・関町 エリア	Ⅲ①	都立石神井公園	1月21日	4月24日	9月17日
			2月5日	5月11日	10月15日
	Ⅲ②	区立武蔵関公園	1月20日	4月23日	9月29日
			2月5日	5月15日	10月9日
	Ⅲ③	東京カトリック神学院	1月20日	4月23日	9月26日
	Ⅲ④	天祖若宮八幡宮	1月20日	5月15日	9月29日
Ⅲ⑤	MO氏邸	1月21日	5月11日	9月30日	
	Ⅲ⑥	石泉愛らんど	1月21日	5月11日	9月17日
Ⅳ 大泉・土支田 エリア	Ⅳ①	都立大泉中央公園	1月30日	4月21日	9月15日
			2月17日	5月7日	10月12日
	Ⅳ②	稲荷山・清水山憩いの森	2月10日	4月22日	9月18日
			2月17日	5月12日	10月15日
	Ⅳ③	八の釜憩いの森	2月10日	5月26日	9月14日
	Ⅳ④	土支田八幡宮	1月30日	5月7日	9月18日
	Ⅳ⑤	MU氏邸	1月30日	5月7日	9月18日
	Ⅳ⑥	小作原広場	1月23日	5月21日	9月11日
	Ⅳ⑦	井頭こぶし憩いの森	1月23日	5月20日	9月11日
Ⅳ⑧	区立びくに公園	2月10日	5月26日	9月14日	
Ⅳ⑨	O氏畑	1月23日	5月21日	9月11日	
ルート	R①	練馬駅周辺ルート	2月6日	5月26日	9月22日
	R②	城南住宅ルート	1月29日	5月12日	9月28日
	R③	田柄川緑道ルート	1月27日	5月18日	9月15日
	R④	立野町ルート	1月20日	5月15日	9月29日
	R⑤	土支田・谷原ルート	2月11日	4月22日	9月18日
	R⑥	石神井川流域	1月21日	4月24日	9月19日
	R⑦	白子川流域	1月23日	5月20日	9月11日

表Ⅳ－４－２ 調査回数を２回とした調査地８箇所

エリア	調査地名	面積
Ⅰ 北町・田柄エリア	都立光が丘公園	60.8ha
	都立城北中央公園	25.5ha（区外部分含む）
Ⅱ 豊玉・中村エリア	武蔵学園	7.1ha
	豊島園	30ha
Ⅳ 石神井・関町エリア	都立石神井公園	20.1ha
	区立武蔵関公園	4.6ha
Ⅳ 大泉・土支田エリア	都立大泉中央公園	10.3ha
	稲荷山・清水山憩いの森	2.9ha

3) 調査手法

目視および鳴き声により、個体の確認を行った。8～10倍程度の双眼鏡を補助的に用いた。三宝寺池での水鳥調査も双眼鏡で十分に行えたことから、望遠鏡は使用しなかった。

調査対象地で確認される全ての個体について、その種類、個体数、行動（繁殖、休息、採食など）のほか、判別できる場合は雌雄や成鳥・幼鳥の区別も記録し、地図上にその位置をプロットした。

※調査地付近に石神井川・白子川などが流れている場合、その記録も含めた。

Ⅰ② 都立城北中央公園（石神井川） Ⅱ② 豊島園（石神井川）

Ⅳ② 区立武蔵関公園（石神井川） Ⅳ② 稲荷山・清水山憩いの森（白子川）

Ⅳ⑧ 区立びくに公園（白子川）

(2) 調査結果

1) 確認種および重要種・外来種

①確認種

14目34科99種を確認した(外来種4種を含む)。表IV-4-3に確認種を示した。

アヒル *Anas platyrhynchos var. domesticus* については、マガモを飼育して家禽化したものであるため、総種数には含めない。ただし、マガモが確認されていない調査地で確認した場合は、その調査地の確認種数に含めた。

②重要種

文化財保護法における指定種の確認は無かった。種の保存法における指定種は、オオタカ、ハヤブサ(以上、国内)、コアジサシ(国際)の3種であった。国RLの記載種は、サシバ、ハヤブサ、コアジサシ(以上、絶滅危惧Ⅱ類)、オオタカ、ハイタカ(ともに準絶滅危惧)、オシドリ(情報不足)の6種であった。都RLの記載種は、40種であった。

重要種一覧を表IV-4-4に、確認状況を表IV-4-5に示した。

③外来種

確認種のうち、外来種にあたるのは、ドバト、ワカケホンセイインコ、コクチョウ、インコ(種不明)の4種であった。いずれも環境省の定めた特定外来生物や要注意外来生物には該当していない。

表Ⅳ－４－３ 鳥類の確認種一覧 (1/2)

目名	科名	種名	学名	Ⅰ 北町・田柄エリア					Ⅱ 豊玉・中村エリア					
				Ⅰ①	Ⅰ②	Ⅰ③	Ⅰ④	Ⅰ⑤	Ⅰ⑧	Ⅱ①	Ⅱ②	Ⅱ③	Ⅱ④	Ⅱ⑤
				都立光が丘公園	都立城北中央公園	どんぐり山憩いの森	八幡神社	U氏邸	高松市民農園	武蔵学園	豊島園	廣徳寺・区立高稲荷公園	氷川神社	N氏邸
カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	○										
ペリカン	ウ	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	●										
コウノトリ	サギ	ゴイサギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>	●										
		ササゴイ	<i>Butorides striatus</i>	**										
		ダイサギ	<i>Ardea alba</i>	○										
		コサギ	<i>Egretta garzetta</i>	**										
		アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	●										
カモ	カモ	オオハクチョウ	<i>Cygnus cygnus</i>											
		オンドリ	<i>Aix galericulata</i>											
		マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>											
		カルガモ	<i>Anas poecilorhyncha</i>	●	●					●	●			
		コガモ	<i>Anas crecca</i>	**							●			
		オカヨシガモ	<i>Anas strepera</i>	○										
		ヒドリガモ	<i>Anas penelope</i>	**										
		オナガガモ	<i>Anas acuta</i>	●							●			
		ハシビロガモ	<i>Anas clypeata</i>											
		ホシハジロ	<i>Aythya ferina</i>											
		キンクロハジロ	<i>Aythya fuligula</i>	**										
		スズガモ	<i>Aythya marila</i>	**										
		タカ	タカ	ミコアイサ	<i>Mergellus albellus</i>	**								
トビ	<i>Milvus lineatus</i>			**								●	●	
オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>			●										
ツミ	<i>Accipiter gularis</i>			○	●					●	●			
ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>			**										
ノスリ	<i>Buteo buteo</i>			**										
サシバ	<i>Butastur indicus</i>			**										
ハヤブサ	チョウゲンボウ		<i>Falco tinnunculus</i>	**										
	ハヤブサ		<i>Falco peregrinus</i>	**										
ツル	クイナ		クイナ	<i>Rallus aquaticus</i>	**									
		バン	<i>Gallinula chloropus</i>	●										
		オオバン	<i>Fulica atra</i>	**										
チドリ	チドリ	コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>											
		シギ	<i>Tringa erythropus</i>	**										
	ヒレアシシギ	クサシギ	<i>Tringa ochropus</i>	●										
		イソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>	**										
		ヤマシギ	<i>Scolopax rusticola</i>	●										
カモメ	アカエリヒレアシシギ	<i>Phalaropus lobatus</i>												
ハト	ハト	コアジサシ	<i>Sterna albifrons</i>											
		キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
		アオバト	<i>Treron sieboldii</i>											
ドバト	<i>Columba livia</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
カッコウ	カッコウ	ツツドリ	<i>Cuculus saturatus</i>	**										
フクロウ	フクロウ	アオバズク	<i>Ninox scutulata</i>					○						
ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	●										
キツツキ	キツツキ	アリスイ	<i>Jynx torquilla</i>	**										
		アオゲラ	<i>Picus awokera</i>							●	○			
		コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
スズメ	ツバメ	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
		イワツバメ	<i>Delichon dasypus</i>	○	●									
	セキレイ	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	**							●			
		ハクセキレイ	<i>Motacilla lugens</i>	●	●				●	●	●	●		
		セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	**					●	●	●	●		

Ⅲ 石神井・関町エリア						Ⅳ 大泉・土支田エリア									ルート							重要種					
Ⅲ①	Ⅲ②	Ⅲ③	Ⅲ④	Ⅲ⑤	Ⅲ⑥	Ⅳ①	Ⅳ②	Ⅳ③	Ⅳ④	Ⅳ⑤	Ⅳ⑥	Ⅳ⑦	Ⅳ⑧	Ⅳ⑨	R①	R②	R③	R④	R⑤	R⑥	R⑦	確認箇所数	種の保存法	国R L	都R L・区部	外来種	
都立石神井公園	区立武蔵関公園	東京カトリック神学院	天祖若宮八幡宮	M O氏邸	石泉愛らんど	都立大泉中央公園	稲荷山・清水山憩いの森	八の釜憩いの森	土支田八幡宮	M U氏邸	小作原広場	井頭こぶし憩いの森	区立びくに公園	O氏畑	練馬駅周辺ルート	城南住宅ルート	田柄川緑道ルート	立野町ルート	土支田・谷原ルート	石神井川流域	白子川流域						
●	●																					3			NT		
●	●					●														●			5				
●	●																						3				
																							1			CR	
																							1			VU	
●	○																				●	●	5			VU	
●																						●	3				
○																							1				
○																							1		DD	EN	
●							●																2				
●	●					●	●	●								●			●		●	●	13				
●	●																				●	●	5				
																							1				
●	●						●														●	●	1				
●																							6				
●																					●	●	2				
●																							1				
●	●																						3				
																							1				
																							1			*	
																							1			EN	
																							3			NT	
●	●																						3	国内	NT	CR	
●			●				●														●		8			CR	
																							1		NT	EN	
																							1			EN	
					●																		1		VU	・	
						●									○			○					4			EN	
																							1	国内	VU	EN	
																							1			DD	
●																							2			VU	
●																							2			VU	
													●										1			VU	
																							1			CR	
																							1			EN	
																							1			VU	
○																							2			VU	
○																							1			NT	
●																							1	国際	VU	EN	
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	30				
							●																1				
●	●	●				●		●			●	●	●		●	●		●	●	●	●	●	24			◆	
●																							2				
	●																					●	2			CR	
●	●																						4			VU	
																							1				
●	●																						4			EN	
●	●	●	●	●	●	●	●	●				●		●		●		●	●	●	●	●	24				
●	●	●		●	●	●	●			●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	26				
																							3				
	●						●				●		●										8				
●	●	●				●	●			●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	23				
●													●										3			VU	

表Ⅳ－４－３ 鳥類の確認種一覧 (2/2)

目名	科名	種名	学名	Ⅰ 北町・田柄エリア					Ⅱ 豊玉・中村エリア						
				Ⅰ ①	Ⅰ ②	Ⅰ ③	Ⅰ ④	Ⅰ ⑤	Ⅰ ⑧	Ⅱ ①	Ⅱ ②	Ⅱ ③	Ⅱ ④	Ⅱ ⑤	
				都立 光が 丘公 園	都立 城北 中央 公園	どん ぐり 山憩 いの 森	八幡 神社	U氏 邸	高松 市民 農園	武蔵 学園	豊島 園	廣徳 寺・ 区立 高稲 荷公園	氷川 神社	N氏 邸	
スズメ	セキレイ	ピンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>	○											
		タヒバリ	<i>Anthus spinoletta</i>	**											
		ヒヨドリ	<i>Ixos amaurotis</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	●	●		●		●	●					
		レンジャク	ヒレンジャク	<i>Bombycilla japonica</i>	**										
		ミノサザイ	ミノサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	○										
		ツグミ	ルリビタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>	●						●				
			ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureus</i>	**						●	●	●		●
			ノビタキ	<i>Saxicola maura</i>	**										
			トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>	●				●						
			アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>	**		●						●		
			シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>	●		●	●	●		●	●		●	
			ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
		ウグイス	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	●	●	●		●		●	●	●	●	
			オオヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>	**										
			エゾムシクイ	<i>Phylloscopus borealoides</i>								●			
			センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	●						●	●			
			クキイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	●										
		ヒタキ	キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	●		●		●			●	●		
			オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	**				●		●				
			エゾビタキ	<i>Muscicapa griseictica</i>	**										
			コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	**	●									
		カササギヒタキ	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	●										
		エナガ	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	●										
		シジュウカラ	ヒガラ	<i>Parus ater</i>											
			ヤマガラ	<i>Parus varius</i>	●										
			シジュウカラ	<i>Parus major</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		メジロ	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●
		ホオジロ	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	○										
			アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>	●						●	●	●	●	
			クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>	●										
		アトリ	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	●	●					●	●	●		
			カワラヒワ	<i>Carduelis sinica</i>	●	●	●		●		●	●	●	●	●
			マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>	**										
			ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>	**										
			コイカル	<i>Eophona migratoria</i>	○										
			イカル	<i>Eophona personata</i>	●										
			シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●
		ハタオリドリ	スズメ	<i>Passer montanus</i>	●	●	●	●		●	●	●	●	●	
		ムクドリ	ムクドリ	<i>Sturnus cineraceus</i>	●	●	●	●		●	●	●		●	
		カラス	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>	**										
			オナガ	<i>Cyanopica cyana</i>	●	●	●	●	●		●				
			ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	**	●									
			ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	インコ	インコ	ワカケホンセイインコ	<i>Psittacula krameri manillensis</i>	**	●		●	●	●	●	●	●	●	
	逸出種		コクチョウ	<i>Cygnus atratus</i>											
			インコの種類												
			アヒル	<i>Anas platyrhynchos</i> var. <i>domesticus</i>							●				
	16	37	100		83	24	18	16	18	12	28	30	23	13	14
					84					36					

●:通常調査での確認 ○:補足調査での確認 **:光が丘公園バードサンクチュアリでの観察記録
 ※アヒルについては、マガモが確認されていない調査地で確認した場合は、その調査地の確認種数に含めた。

Ⅲ 石神井・関町エリア						Ⅳ 大泉・土支田エリア									ルート							確認箇所数	重要種			外来種
Ⅲ①	Ⅲ②	Ⅲ③	Ⅲ④	Ⅲ⑤	Ⅲ⑥	Ⅳ①	Ⅳ②	Ⅳ③	Ⅳ④	Ⅳ⑤	Ⅳ⑥	Ⅳ⑦	Ⅳ⑧	Ⅳ⑨	R①	R②	R③	R④	R⑤	R⑥	R⑦		種の保存法	国 R L	都 R L・区部	
都立石神井公園	区立武蔵関公園	東京カトリック神学院	天祖若宮八幡宮	M O 氏邸	石泉愛らんど	都立大泉中央公園	稲荷山・清水山憩いの森	八の釜憩いの森	土支田八幡宮	M U 氏邸	小作原広場	井頭こぶし憩いの森	区立びくに公園	O 氏畑	練馬駅周辺ルート	城南住宅ルート	田柄川緑道ルート	立野町ルート	土支田・谷原ルート	石神井川流域	白子川流域					
																						1				
																							1			
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	32				
●					●	●				●	●	●		●				●	●		●	16			VU	
																						1				
																						1			・	
●						●												●				4				
	●														●							8				
																						1				
																						2			VU	
																		●				4				
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				●				18				
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				●	●	●	●	26				
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●		●	●	●	17				
●																						2			VU	
																						1				
●	●					●												○	●			8				
●																						2				
		●			●																	7				
																						3				
																						1				
																						2			EX	
●	●					●	●	●				●						●				8			・	
	●																					1				
●	●	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	3			VU	
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	31				
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	31				
																						1				
●	●	●				●	●	●						●				●				13				
																						1			NT	
			●																			6				
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	26				
																						1				
																						1			VU	
																						1				
●	●	●		●		●	●					●					●	●	●			2			NT	
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	19				
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	31				
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	28				
																						1				
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	19				
	●			●	●	●	●		●								●	○	●	●		12				
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	33				
●	●				●	●						●		●			●					17			◆	
○																						1			◆	
																						1			◆	
●	●					●														●		5				
52	38	20	10	13	18	28	25	15	9	14	13	17	15	17	6	15	10	27	21	21	17	3	6	40	4	
60						36																				

表Ⅳ－４－４ 鳥類の重要種一覧

科名	種名	重要種			Ⅰ 北町・田柄 エリア					Ⅱ 豊玉・中村 エリア			
		種の 保存法	国 R L	都 R L ・ 区 部	I ①	I ②	I ④	I ⑤	I ⑧	Ⅱ ①	Ⅱ ②	Ⅱ ③	Ⅱ ⑤
					都立 光が 丘公 園	都立 城北 中央 公園	八幡 神社	U氏 邸	高松 市民 農園	武蔵 学園	豊島 園	廣徳 寺・ 区立 高稲 荷公 園	N氏 邸
カモメ	コアジサシ	国際	VU	EN									
タカ	オオタカ	国内	NT	CR	●								
ハヤブサ	ハヤブサ	国内	VU	EN	**								
タカ	サシバ		VU	・									
	ハイタカ		NT	EN	**								
カモ	オシドリ		DD	EN									
ヒタキ	コサメビタキ			EX		●							
カササギヒタキ	サンコウチョウ			EX	●								
サギ	ササゴイ			CR	**								
タカ	ツミ			CR	○	●				●	●		
シギ	ツルシギ			CR	**								
フクロウ	アオバズク			CR				○					
カモ	ミコアイサ			EN	**								
タカ	ノスリ			EN	**								
ハヤブサ	チョウゲンボウ			EN	**								
シギ	クサシギ			EN	●								
キツツキ	アオゲラ			EN						●	○		
サギ	ダイサギ			VU	○								
	コサギ			VU	**								
クイナ	バン			VU	●								
	オオバン			VU	**								
チドリ	コチドリ			VU									
シギ	イソシギ			VU	**								
	ヤマシギ			VU	●								
カワセミ	カワセミ			VU	●								
セキレイ	セグロセキレイ			VU									
モズ	モズ			VU	●	●	●		●	●	●		
ツグミ	トラツグミ			VU	●			●					
ウグイス	オオヨシキリ			VU	**								
シジュウカラ	ヤマガラ			VU	●								
アトリ	ベニマシコ			VU	**								
カイツブリ	カイツブリ			NT	○								
タカ	トビ			NT								●	●
ヒレアシシギ	アカエリヒレアシシギ			NT									
ホオジロ	クロジ			NT	●								
アトリ	イカル			NT	●								
クイナ	クイナ			DD	**								
カモ	スズガモ			*	**								
ミンサザイ	ミンサザイ			・	○								
エナガ	エナガ			・	●								
		3	6	40	30	3	1	2	1	3	3	1	1
		40			32					4			

●:通常調査での確認 ○:補足調査での確認 **:光が丘公園バードサンクチュアリでの観察記録

Ⅲ 石神井・関町 エリア				Ⅳ 大泉・土支田 エリア									ルート					確認箇 所数
Ⅲ ①	Ⅲ ②	Ⅲ ④	Ⅲ ⑥	Ⅳ ①	Ⅳ ②	Ⅳ ③	Ⅳ ⑤	Ⅳ ⑥	Ⅳ ⑦	Ⅳ ⑧	Ⅳ ⑨	R ①	R ④	R ⑤	R ⑥	R ⑦		
都立石神井公園	区立武蔵関公園	天祖若宮八幡宮	石泉愛らんど	都立大泉中央公園	稲荷山・清水山憩いの森	八の釜憩いの森	MU氏邸	小作原広場	井頭こぶし憩いの森	区立びくに公園	〇氏畑	練馬駅周辺ルート	立野町ルート	土支田・谷原ルート	石神井川流域	白子川流域		
●																	1	
●	●																3	
																	1	
			●														1	
	○																1	
																	1	
																	1	
●		●			●									●			8	
																	1	
	●																2	
																	1	
																	1	
				●								○	○				4	
																	1	
●	●																4	
																	1	
●	○														●	●	5	
●																	2	
●																	2	
										●							1	
																	1	
○																	2	
●	●									●						●	4	
●																	2	
●				●	●		●	●	●		●		●	●		●	16	
●																	2	
●				○													3	
																	1	
●	●																3	
																	2	
○																	1	
														●			1	
																	2	
																	1	
																	1	
																	1	
●	●			●	●	●			●				●				8	
16	8	1	2	4	2	1	1	1	1	2	2	1	1	4	2	1	3	
19				7									1	4	2	1	3	

重要種凡例

【種の保存法】

国際：国際希少野生動植物種

国内：国内希少野生動植物種

【国RLおよび都RL】

EX：絶滅

CR+EN：絶滅危惧I類

EN：絶滅危惧IB類

VU：絶滅危惧II類

NT：準絶滅危惧

DD：情報不足

*：留意種

・：非分布(都RLのみ)

(詳細は第三章を参照)

表Ⅳ－４－５ 鳥類の重要種確認状況 (1/8)

コアジサシ(カモメ科) 種の保存法:国際 国RL:絶滅危惧Ⅱ類(VU) 都RL(区部):絶滅危惧ⅠB類(EN)	
	確認地点:都立石神井公園 確認状況:昆虫類調査中(平成21年5月)に、ポート池側で1個体を確認した。
オオタカ(タカ科) 種の保存法:国内 国RL:準絶滅危惧(NT) 都RL(区部):絶滅危惧ⅠA類(CR)	
	確認地点:都立光が丘公園、都立石神井公園、区立武蔵関公園 確認状況:光が丘公園では、巣立ち直後の幼鳥を平成20年8月に確認した。石神井公園、武蔵関公園では、冬期に確認した。
ハヤブサ(ハヤブサ科) 種の保存法:国内 国RL:絶滅危惧Ⅱ類(VU) 都RL(区部):絶滅危惧ⅠB類(EN)	
	確認地点:都立光が丘公園 確認状況:公園に隣接した煙突にとまる個体を確認した。 (光が丘公園バードサンクチュアリ記録)
サシバ(タカ科) 国RL:絶滅危惧Ⅱ類(VU) 都RL(区部):非分布(・)	
	確認地点:石泉愛らんど 確認状況:渡り途中と考えられる飛翔中の1個体を確認した。
ハイタカ(タカ科) 国RL:準絶滅危惧(NT) 都RL(区部):絶滅危惧ⅠB類(EN)	
	確認地点:都立光が丘公園 確認状況:バードサンクチュアリに飛来した個体を平成23年1、3月に確認した。(光が丘公園バードサンクチュアリ記録)

表Ⅳ－４－５ 鳥類の重要種確認状況 (2/8)

<p>オシドリ(カモ科) 国RL:情報不足(DD) 都RL(区部):絶滅危惧 I B類(EN)</p>	
	<p>確認地点:都立石神井公園 確認状況:平成22年、石神井公園で1個体を確認した。</p>
<p>コサメビタキ(ヒタキ科) 都RL(区部):絶滅(EX)</p>	
	<p>確認地点:都立光が丘公園、都立城北中央公園 確認状況:両調査地ともに、平成21年9月に1個体を確認した。</p>
<p>サンコウチョウ(カササギヒタキ科) 都RL(区部):絶滅(EX)</p>	
	<p>確認地点:都立光が丘公園 確認状況:平成21年5月に1個体を確認した。</p>
<p>ササゴイ(サギ科) 都RL(区部):絶滅危惧 I A類(CR)</p>	
	<p>確認地点:都立光が丘公園 確認状況:平成21年8～9月、バードサンクチュアリ内の池で1個体を確認した。(光が丘公園バードサンクチュアリ記録)</p>
<p>ツミ(タカ科) 都RL(区部):絶滅危惧 I A類(CR)</p>	
	<p>確認地点:都立光が丘公園、都立城北中央公園、武蔵学園、豊島園、都立石神井公園、天祖若宮八幡宮、稻荷山憩いの森、土支田・谷原ルート 確認状況:各調査地点では1個体ずつの確認であったが、都立石神井公園では、営巣を確認した。土支田・谷原ルートでは、上空を飛翔中の個体であった。</p>

表Ⅳ－４－５ 鳥類の重要種確認状況 (3/8)

ツルシギ(シギ科) 都RL(区部):絶滅危惧ⅠA類(CR)	
	確認地点:都立光が丘公園 確認状況:平成21年9月、バードサンクチュアリ内の池で1個体を確認した。(光が丘公園バードサンクチュアリ記録)
アオバズク(フクロウ科) 都RL(区部):絶滅危惧ⅠA類(CR)	
	確認地点:U氏邸、都立石神井公園、区立武蔵関公園 確認状況:U氏邸では、平成22年に1羽の声のみの確認であった。石神井公園では、平成22、23年ともに、7月に声を確認した。武蔵関公園では、平成21年9月、「松の島」で1個体を確認した。
ミコアイサ(カモ科) 都RL(区部):絶滅危惧ⅠB類(EN)	
	確認地点:都立光が丘公園 確認状況:平成23年1月にバードサンクチュアリ内の池で1個体を確認した。(光が丘公園バードサンクチュアリ記録)
ノスリ(タカ科) 都RL(区部):絶滅危惧ⅠB類(EN)	
	確認地点:都立光が丘公園 確認状況:平成21年1月、バードサンクチュアリ内で1個体を確認した。(光が丘公園バードサンクチュアリ記録)
チョウゲンボウ(ハヤブサ科) 都RL(区部):絶滅危惧ⅠB類(EN)	
	確認地点:都立光が丘公園、都立大泉中央公園、練馬駅周辺ルート、立野町ルート 確認状況:各調査地点で1個体ずつを確認した。なお、光が丘公園での記録は、光が丘公園バードサンクチュアリの観察記録である。

表Ⅳ－４－５ 鳥類の重要種確認状況 (4/8)

クサシギ(シギ科) 都RL(区部):絶滅危惧ⅠB類(EN)	
	確認地点:都立光が丘公園 確認状況:平成21年9月、バードサンクチュアリ内の池で2個体を確認した。
アオゲラ(キツツキ科) 都RL(区部):絶滅危惧ⅠB類(EN)	
	確認地点:武蔵学園、豊島園、都立石神井公園、区立武蔵関公園 確認状況:武蔵関公園では平成20年8月の下見時に、武蔵学園では平成21年5月に、それぞれ1個体を確認した。石神井公園では、平成20年8月に確認した。なお、豊島園では、敷地内のスタッフの方からの情報である。
ダイサギ(サギ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)	
	確認地点:都立光が丘公園 確認状況:平成22年9月、光が丘公園バードサンクチュアリ脇の鑑賞池で1羽を確認した。
コサギ(サギ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)	
	確認地点:都立光が丘公園、都立石神井公園、区立武蔵関公園、石神井川流域、白子川流域 確認状況:いずれも1個体を確認した。
バン(クイナ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)	
	確認地点:都立石神井公園 確認状況:石神井公園では、三宝寺池・石神井池ともに確認した。石神井池では営巣し、幼鳥も確認した。

表Ⅳ－４－５ 鳥類の重要種確認状況 (5/8)

<p>オオバン(クイナ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点:都立光が丘公園、都立石神井公園</p> <p>確認状況:石神井公園では、石神井池で冬期に1個体を確認した。都立光が丘公園では平成20年10月に確認した。(光が丘公園バードサンクチュアリ記録)</p>
<p>コチドリ(チドリ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点:区立びくに公園</p> <p>確認状況:びくに公園では、飛翔中の個体や、隣接する白子川の河床にいる1個体を確認した。</p>
<p>イソシギ(シギ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点:都立光が丘公園</p> <p>確認状況:光が丘公園では平成22年9月にバードサンクチュアリで確認した。(光が丘公園バードサンクチュアリ記録)</p>
<p>ヤマシギ(シギ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点:都立光が丘公園、都立石神井公園</p> <p>確認状況:光が丘公園で平成21年1月にバードサンクチュアリ内の樹林で、石神井公園では平成21年3月に水辺観察園付近で確認された。</p>
<p>カワセミ(カワセミ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点:都立光が丘公園、都立石神井公園、区立武蔵関公園、白子川流域</p> <p>確認状況:光が丘公園や武蔵関公園では、周年観察され、平成21年には繁殖したと考えられる。石神井公園でもその可能性が示唆される。</p>

表Ⅳ－４－５ 鳥類の重要種確認状況 (6/8)

<p>セグロセキレイ(セキレイ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点:都立石神井公園、区立びくに公園</p> <p>確認状況:石神井公園では、冬期に、びくに公園では平成20年8月、平成21年2月に隣接する白子川河床で、それぞれ1羽ずつ確認した。</p>
<p>モズ(モズ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点:都立城北中央公園、高松市民農園など16箇所</p> <p>確認状況:主に冬期(平成21年1～2月)および秋期(平成21年10月)に確認し、繁殖期(平成21年4～5月)には確認しなかった。</p>
<p>トラツグミ(ツグミ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点:都立光が丘公園、U氏邸</p> <p>確認状況:両調査地ともに、平成21年1月に1羽を確認した。</p>
<p>オオヨシキリ(ウグイス科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点:都立光が丘公園、都立石神井公園</p> <p>確認状況:都立光が丘公園では平成21年4月に確認した。(光が丘公園バードサンクチュアリ記録) 都立石神井公園では、平成21年4月に、渡りの途中と考えられる1個体を、三宝寺池で確認した。</p>
<p>ヤマガラ(シジュウカラ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点:都立光が丘公園、都立石神井公園、都立大泉中央公園</p> <p>確認状況:光が丘公園、石神井公園では、平成21年1月に、大泉中央公園では、平成21年10月に確認した。</p>

表Ⅳ－４－５ 鳥類の重要種確認状況 (7/8)

ベニマシコ(アトリ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)	
	確認地点:都立光が丘公園 確認状況:光が丘公園バードサンクチュアリで平成22年11月に確認した。(光が丘公園バードサンクチュアリ記録)
カイツブリ(カイツブリ科) 都RL(区部):準絶滅危惧(NT)	
	確認地点:都立光が丘公園、都立石神井公園、区立武蔵関公園 確認状況:石神井公園、武蔵関公園では周年生息しており、繁殖も確認した。光が丘公園では、バードサンクチュアリで平成22年3月の任意調査時に確認した。
トビ(タカ科) 都RL(区部):準絶滅危惧(NT)	
	確認地点:廣徳寺、N氏邸 確認状況:N氏邸では、平成21年1月に廣徳寺では、平成21年5月に上空高く飛翔する1羽を確認した。
アカエリヒレアシシギ(ヒレアシシギ科) 都RL(区部):準絶滅危惧(NT)	
写真無し	確認地点:都立石神井公園 確認状況:平成21年9月、移動途中と考えられる1個体を確認した。
クロジ(ホオジロ科) 都RL(区部):準絶滅危惧(NT)	
	確認地点:都立光が丘公園 確認状況:平成21年4月、1個体を確認した。

表Ⅳ－４－５ 鳥類の重要種確認状況 (8/8)

イカル(アトリ科) 都RL(区部):準絶滅危惧(NT)	
	確認地点:都立光が丘公園、立野町ルート 確認状況:両調査地ともに、平成21年1月に確認した。
クイナ(クイナ科) 都RL(区部):情報不足(DD)	
	確認地点:都立光が丘公園 確認状況:平成21年1～2月に確認した。 (光が丘公園バードサンクチュアリ記録)
スズガモ(カモ科) 都RL(区部):留意種(*)	
	確認地点:都立光が丘公園 確認状況:平成22年10月、バードサンクチュアリの池で1個体を確認した。(光が丘公園バードサンクチュアリ記録)
ミソサザイ(ミソサザイ科) 都RL(区部):非分布(・)	
	確認地点:都立光が丘公園 確認状況:平成21年3月、1個体を確認した。
エナガ(エナガ科) 都RL(区部):非分布(・)	
	確認地点:都立光が丘公園、都立石神井公園など8箇所 確認状況:主に冬期に確認したが、稲荷山憩いの森では巣を確認し、光が丘公園では巣立ち雛を確認した。区立武蔵関公園、井頭憩いの森では、平成21年5月中旬に、都立大泉中央公園では平成22年6月に確認し、繁殖の可能性がある。

2) 各種の渡り区分

本調査で確認した 99 種について、その渡り区分（留鳥・夏鳥・冬鳥・旅鳥・迷鳥 ※68～※72 および情報不足の種）を整理した（表Ⅳ－4－6）。

冬鳥が全体の 4 割以上を占めており、ついで留鳥、旅鳥と続いた。冬鳥や旅鳥については、数の少ない種、稀な種なども含まれ年によって幅が大きい。そのため、種数の扱いには注意が必要である。一方で、留鳥については、年によっての変動は少ないが、もう少し長い期間（10～20 年程度）では、変化があると考えられる。

表Ⅳ－4－6 確認した鳥類の渡り区分

区分	該当種
留鳥 (25 種)	カイツブリ、カルガモ、カワウ、ゴイサギ、アオサギ、ツミ、バン、キジバト、ドバト、カワセミ、アオゲラ（少ない）、コゲラ、ハクセキレイ、セグロセキレイ（少ない）、ヒヨドリ、エナガ（少ない）、シジュウカラ、メジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、オナガ、ハシボソガラス（少ない）、ハシブトガラス、ワカケホンセイインコ
夏鳥 (3 種)	ツバメ、イワツバメ、アオバズク
冬鳥 (43 種)	コサギ、マガモ、コガモ、オカヨシガモ（少ない）、ヒドリガモ（少ない）、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ（少ない）、トビ（少ない）、オオタカ（一部留鳥）、ハイタカ（少ない）、ノスリ（少ない）、チョウゲンボウ、ハヤブサ（少ない）、クイナ（少ない）、オオバン（少ない）、ヤマシギ（少ない）、キセキレイ（一部留鳥か？）、ビンズイ（少ない）、タヒバリ（少ない）、モズ、ミソサザイ（少ない）、ヒレンジャク（稀）、ルリビタキ、ジョウビタキ、トラツグミ（少ない）、アカハラ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、キクイタダキ（少ない）、ヤマガラ、ホオジロ（少ない）、アオジ、クロジ（少ない）、アトリ（稀）、マヒワ（稀）、ベニマシコ（稀）、イカル、シメ、カケス（少ない）
旅鳥 (18 種)	ササゴイ、サシバ、コチドリ、イソシギ、ツルシギ、クサシギ、コアジサシ、ツツドリ、コマドリ、ノビタキ、オオヨシキリ、エゾムシクイ、センダイムシクイ、キビタキ、オオルリ、コサメビタキ、エゾビタキ、サンコウチョウ
迷鳥 (8 種)	オオハクチョウ、コクチョウ、オシドリ、スズガモ、アカエリヒレアシシギ、アオバト、ヒガラ、コイカル
情報不足 (2 種)	ダイサギ、アリスイ
計 99 種	

※68 留鳥：ある地域で 1 年中見られる鳥。

※69 夏鳥：春に南の地域から渡って来て繁殖し、秋には南の地域に飛去する鳥で、日本には春から秋までいる。

※70 冬鳥：春から夏にかけて北の地域で繁殖して、秋に日本に渡来して越冬し、春には北へ帰る鳥

※71 旅鳥：日本より北で繁殖し、日本より南で越冬する鳥。

※72 迷鳥：台風やほかの鳥の群れに入る等、何らかの事故で、本来の渡りのコースや分布域からはずれて渡来した鳥。

①留鳥（25種）

いわゆる都市鳥と呼ばれる種が多いが、いくつか注目される種が含まれる。ツミヤエナガは、近年生息範囲を拡大している種であると考えられる。一方で、セグロセキレイは、近年減少傾向にあると考えられる。アオゲラは、以前から区内の繁殖は確認されているが、23区内での繁殖は希少であり、今後も注目されるべき記録である。

②夏鳥（3種）

ツバメとイワツバメ、アオバズクが該当すると考えられる。

ツバメは、調査対象地に限らず、区内各所で生息している。イワツバメは、石神井川流域と城北中央公園周辺で確認されており、周辺のどこかで繁殖している可能性がある。

アオバズクは、石神井公園や U 氏邸で夏期に確認されており、個体数は少ないが夏鳥に該当すると考えられる。

③冬鳥（43種）

渡り区分ではもっとも多くを占める。これは、都市地域での一般的な特徴である。構成種については、飛来数の多い種、飛来数の少ない種、毎年飛来するわけではない種（「稀」と表示）、一部では繁殖している種など、より細かく分けることが出来る。

④旅鳥（18種）

一般的に春と秋の渡り時期にのみ飛来（通過）する種を抽出した。

ヒタキ科、ウグイス科の種が多く、シギ・チドリ類も3種、カッコウ目も含まれる。

⑤迷鳥（8種）

オオハクチョウやスズガモ、アカエリヒレアシシギなどのいわゆる水鳥が多いが、アオバトやヒガラ、コイカルなどの陸鳥も記録した。アオバトは飛翔力が強いことから、本来の生息地から離れた場所で確認されることがある。ヒガラは、数の少ない冬鳥として飛来している可能性がある。コイカルについては、平成 21～22 年の冬にイカルが大群で飛来した際に混じていた個体である。

⑥情報不足の種（2種）

ダイサギとアリスイの2種を選定した。

ダイサギは、冬鳥あるいは留鳥の可能性もあるが、確認件数が非常に少なく、生息数も少ないと考えられる。都市地域では、減少傾向にある可能性がある。

アリスイについても、渡り途中に立ち寄る「旅鳥」か、数の少ない「冬鳥」の可能性はあるが、今回の記録では十分に検討が出来なかった。

3) 繁殖状況

①繁殖を確認した種および繁殖の可能性があった種

現地調査中に繁殖が確認できた種および繁殖の可能性があった種について、日本野鳥の会(1978)による繁殖可能性の区分(a～b)を参考に判定した。

ランク a : 繁殖を確認した
 ランク b : 繁殖の確認はできなかったが、繁殖の可能性はある

判定の区分とその判定項目を表Ⅳ-4-7に、判定結果を表Ⅳ-4-8にまとめた。主に平成21年に確認できたものであるが、平成20年度に実施した下見時、平成22～23年度に実施した区民アンケート調査での記録も含めた。

表Ⅳ-4-7 繁殖可能性の区分およびその判定項目

ランク	観察対象	観察事項
a	成鳥について	成鳥が巣あるいは巣のあるらしい所にくりかえし出入りしている。
		成鳥が抱卵又は抱雛している。あるいははしているようだ。
		成鳥が巣のあるらしい所にとびこむと同時にヒナの乞餌声がきかれた。
		成鳥がヒナのフンを運搬している。
		擬傷をみた。
	巣について	巣立ち後の巣がある。
	卵について	卵のある巣をみた。
		成鳥がおちついてすわっている巣の近くで、その種の卵殻が見つかった。
	ヒナについて	ヒナのいる巣をみた。
		ヒナの声聞いた。
巣立ちヒナについて	巣からほとんど移動していないと思われる巣立ちヒナをみた。	
b	成鳥について	その種が営巣し得る環境で繁殖期に、その種の囀り(キツツキ類のドラミングを含める)を聞いた。ただし、その鳥が冬鳥、旅鳥かもしれない時は除く。
		求愛行動をみた。ただし、その鳥が、冬鳥、旅鳥かもしれない時は除く。
		交尾行動をみた。ただし、その鳥が、冬鳥、旅鳥かもしれない時は除く。
		威嚇行動、警戒行動により、付近に巣又はヒナの存在が考えられる。
		巣があると思われる所に成鳥が訪れた。ただし、そこが塹である場合は除く。
		造巣行動(巣穴掘りを含む)を見た。
		成鳥が巣材を運搬している。ただし、明らかに付近に巣を構えていると思われる場合に限る。
		成鳥がヒナへの餌を運搬しているが、巣が周辺にあるかどうかわからない。
	巣について	巣を発見したが、卵、ヒナともなく、成鳥がそこに来るのを認めなかった。
	巣立ちヒナについて	かなり移動可能と思われる巣立ちヒナを見た。家族群を見た。

表Ⅳ－４－８ 繁殖を確認した種 (a) およびその可能性があった種 (b)

No.	種名	確認概要	ランク
1	カイツブリ	幼鳥 (区立武蔵関公園 H21. 5. 15) 幼鳥 (都立石神井公園 H21. 5. 19)	a
2	カルガモ	巣立ち雛を確認 (石神井川流域 H21. 7. 27)	
3	オオタカ	巣、巣立ち雛を確認 (※本種は種の保存法でも指定されている種であるため、繁殖場所は示さずに、繁殖を確認したことのみ記載する)	
4	バン	営巣および成長した幼鳥を確認 (都立石神井公園 H22. 7)	
5	アオゲラ	営巣を確認 (大泉学園町 H22)	
6	ツバメ	巣を確認 (土支田・谷原ルート H21. 4. 22)	
7	エナガ	巣立ち雛連れ (都立光が丘公園 H21. 5. 18) 巣 (稲荷山憩いの森 H21. 4. 22)	
8	シジュウカラ	巣立ち雛 (白子川流域 H21. 5. 20) 巣立ち雛 (都立石神井公園 H21. 5. 11) 巣材をくわえる (城南住宅ルート H21. 5. 12) 巣立ち雛の声 (清水山憩いの森 H21. 5. 13) 巣立ち雛の声 (豊島園 H21. 5. 14) 利用している巣穴確認 (区立武蔵関公園 H21. 5. 15) 巣立ち雛の声 (都立光が丘公園 H21. 5. 18、H21. 6. 9) 巣立ち雛の声 (武蔵学園 H21. 5. 25) 巣立ち雛の声 (都立大泉中央公園 H21. 6. 17)	
9	ムクドリ	巣材をくわえる (武蔵学園 H21. 4. 27) 餌をくわえる (区立高稲荷公園 H21. 5. 12) 巣を確認 (立野町ルート H21. 5. 15)	
10	ハシブトガラス	巣材をくわえる (都立大泉中央公園 H21. 4. 21) 抱卵中 (八幡神社 H21. 5. 14)	
11	ツミ	巣を確認 (都立石神井公園 H21)	b
12	アオバズク	大木のある林内で囀りを確認 (都立石神井公園 H22. 7)	
13	カワセミ	求愛給餌を確認 (都立光が丘公園バードサンクチュアリ H22. 3)	
14	コゲラ	巣立ち雛に給餌 (区立武蔵関公園 H21. 5. 15) 巣立ち雛に給餌か? (立野町ルート H21. 5. 15)	
15	キセキレイ	巣材を運ぶ姿を確認 (豊島園の石神井川 H21. 5. 14)	
16	メジロ	巣立ち雛 (立野町ルート H21. 5. 15)	
17	ハシボソガラス	巣立ちピナ (区立武蔵関公園 H21. 5. 15)	
	17種		

※繁殖可能性の区分は、日本野鳥の会 (1978) によった。

a : 繁殖を確認した。 b : 繁殖の確認はできなかったが、繁殖の可能性はある

確認種のうち、繁殖を確認した種（ランク a）が 10 種、繁殖の確認はできなかったが、繁殖の可能性がある種（ランク b）が 7 種であった。

ランク a のアオゲラについては、「区民アンケート調査」で営巣が報告された。

ランク b のキセキレイについては、豊島園の石神井川河床で巣材を運ぶ姿を確認した。本種は、本来は河川のより上流部で繁殖すると考えられ、区内で繁殖していたとすれば貴重な記録となる。今後の動向が注目される。

なお、表には示さなかったが、キジバト、ドバト、イワツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ウグイス、カワラヒワ、オナガ、スズメ、ワカケホンセイインコの 7 種については、繁殖期に多くの個体の生息が確認されていることから、区内で繁殖したと考えられる。

ウグイスについては、本来冬期に観察されるが、平成 21 年に都立光が丘公園の水生昆虫誘致池周辺で 5 月下旬まで確認した。周辺には本種が好む藪状の環境もあり、繁殖した可能性があると考えた。

②今後の繁殖を注目すべき種

カワウについては、区内でほぼ周年観察された。都立石神井公園の三宝寺池では、ハンノキ林で休息する個体を確認されているが、これらがそのまま定着し、繁殖する可能性がある。その場合、糞により樹木が枯死する可能性があるため、天然記念物となっている植物群落への影響も懸念される。

繁殖を確認した鳥類の関連写真



カイツブリの巣(区立武蔵関公園)



カルガモの親子(石神井川流域)



オオタカの巣立ち直後の幼鳥(都立光が丘公園)



雛に給餌をするバン(都立石神井公園)



カワセミの人工営巣壁(区立武蔵関公園)



カワセミの求愛給餌(都立石神井公園)



巣立ち雛へ給餌するコゲラ(区立武蔵関公園)



巣材をくわえるキセキレイ(豊島園)

4) 重要種の保全

種の保存法に記載、あるいは都 RL の絶滅危惧 I 類以上であり、かつ、区内に生息し、繁殖していると考えられる 4 種を対象に考察する。

①オオタカ（国内希少野生動物種・絶滅危惧 I A 類 CR）

都立光が丘公園や都立石神井公園、区立武蔵関公園で冬期に観察した。確認した場所が、都立公園や区立公園であることから、生息する空間は確保されていると考えられる。しかし、繁殖するためのまとまった大径木（特に本種が好むアカマツ）が少ないことや、公園利用者との距離が十分に保てないことなどの問題はある。また、繁殖場所へカメラマンなどが集まることによる繁殖妨害については、今後、公園管理者や観察者との調整なども検討すべきと考える。

②アオゲラ（絶滅危惧 I B 類 EN）

都立石神井公園で繁殖の可能性があるほか、他の比較的大きな緑地でも観察した。確認した場所が、都立公園や区立公園、大学などであることから、生息する空間は確保されている。また、区内の他の地点でも繁殖している情報があることから、区内に定着している可能性がある。

③ツミ（絶滅危惧 I A 類 CR）

都立石神井公園で生息しているほか、他の比較的大きな緑地でも観察した。近年増加傾向にあると考えられることや、確認した場所の多くが、都立公園として確保されていることから、喫緊な保全対策の必要はないと考えられる。

④アオバズク（絶滅危惧 I A 類 CR）

U 氏邸で繁殖した可能性があるほか、都立石神井公園でも夏期の生息を確認した。本種の保全には、営巣するための「うろ」をもった巨木を含む樹林が必要である。また、その餌となる大型のガ類やコウチュウ類などが生息することも条件となる。

生息に適した屋敷林などがある場合には、巣箱の設置なども有効と考える。

5) 各調査地点のまとめ

I 北町・田柄エリア

I ① 都立光が丘公園

- ・確認種：83 種
- ・重要種：種の保存法：オオタカ（国内）、ハヤブサ（国内）
国 RL：オオタカ（NT）、ハイタカ（NT）、ハヤブサ（VU）
都 RL：カイツブリ（NT）、ササゴイ（CR）、ダイサギ（VU）、コサギ（VU）、スズガモ（*）、ミコアイサ（EN）、トビ（NT）、オオタカ（CR）、ツミ（CR）、ハイタカ（EN）、ノスリ（EN）、チョウゲンボウ（EN）、ハヤブサ（EN）、クイナ（DD）、バン（VU）、オオバン（VU）、ツルシギ（CR）、クサシギ（EN）、イソシギ（VU）、ヤマシギ（VU）、カワセミ（VU）、セグロセキレイ（VU）、モズ（VU）、ミソサザイ（・）、トラツグミ（VU）、オオヨシキリ（VU）、コサメビタキ（EX）、サンコウチョウ（EX）、エナガ（・）、ヤマガラ（VU）、クロジ（NT）、ベニマシコ（VU）、イカル（NT）
- ・外来種：ドバト、ワカケホンセイインコ

公園全体で 83 種を確認し、調査地の中では最大種数であった。このうち 34 種はバードサンクチュアリでの観察記録、9 種は補足調査での記録である。

自然保全ゾーンとそれに連続する樹林地では、オオタカを確認したほか、渡り途中の小鳥類も多く、センダイムシクイ、キビタキ、エゾビタキ、サンコウチョウなども確認した。冬期には、ミソサザイ、ルリビタキ、アトリ、クロジなどのまとまった樹林を好む種も確認した。

バードサンクチュアリでは、サギ類、カモ類、クイナ類、カワセミなどの水鳥のほか、淡水性のシギ類としてツルシギ、クサシギ、イソシギを確認した。これらのシギ類については、いずれも光が丘公園のみでの記録である。また、サンクチュアリ周辺の樹林内でもヤマシギやトラツグミなどの樹林性の種を確認した。

I ② 都立城北中央公園

- ・確認種：24 種
- ・重要種：都 RL：ツミ（CR）、モズ（VU）、コサメビタキ（EX）
- ・外来種：ドバト、ワカケホンセイインコ

いわゆる都市鳥が多いが、冬期にはウグイスのような、暗くややまとまった樹林を好む種を確認した。また、秋期には渡り途中のコサメビタキが、繁殖期にかかる 4 月下旬にはツミを確認している。いずれも樹林性の鳥類であり、草地性の種としては、林縁性のモズを確認した程度であった。

I ③ どんぐり山憩いの森

- ・確認種：18 種
- ・重要種：なし
- ・外来種：ドバト

いわゆる都市鳥が多いが、冬期にはアカハラやシロハラ、ウグイスのような、暗くややまとまった樹林を好む種を確認した。秋期には渡り途中のキビタキも確認した。

I ④ 八幡神社

- ・確認種：16 種
- ・重要種：都 RL：モズ (VU)
- ・外来種：ドバト、ワカケホンセイインコ

いわゆる都市鳥が多いが、林縁性のモズや、シロハラのような暗くややまとまった樹林を好む種を記録した。

I ⑤ U 氏邸

- ・確認種：18 種
- ・重要種：都 RL：アオバズク (CR)、トラツグミ (VU) の 2 種
- ・外来種：ドバト、ワカケホンセイインコ

いわゆる都市鳥が多いが、冬期には、トラツグミやシロハラのようなややまとまった樹林を好む種が記録されている。春期には渡り途中のキビタキやオオルリもヒアリングなどにより確認している。

なお、区民アンケートや平成 23 年度の任意調査で、アオバズクの生息を確認し、繁殖の可能性もある。

I ⑧ 高松市民農園

- ・確認種：12 種
- ・重要種：都 RL：モズ (VU)
- ・外来種：ドバト、ワカケホンセイインコ

いわゆる都市鳥が多いが、林縁性のモズが記録されている。

II 豊玉・中村エリア

II① 武蔵学園

- ・確認種：28 種
- ・重要種：都 RL：ツミ (CR)、アオゲラ (EN)、モズ (VU)
- ・外来種：ドバト

樹林環境としては、渡り途中のセンダイムシクイやオオルリを確認した。まとまった樹林を好むツミやアオゲラもそれぞれ 1 回のみの記録で、移動の途中と考えられるものの確認されている。冬期には、アオジやシロハラ、ルリビタキ、アトリなど、ややまとまった樹林を好む種が記録されている。鳥類にとっては区内で重要な生息空間のひとつになっていると考えられる。

II② 豊島園

- ・確認種：30 種
- ・重要種：都 RL：ツミ (CR)、アオゲラ (EN)、モズ (VU)
- ・外来種：ドバト、ワカケホンセイインコ

樹林環境としては、「庭の湯」および「石神井川沿い斜面林」を中心として渡り途中のエゾムシクイやセンダイムシクイ、キビタキを確認したほか、まとまった樹林を好むツミやアオゲラ（現地職員からのヒアリング）も確認されている。冬期には、アオジやシロハラなど、暗くややまとまった樹林を好む種が記録されている。以上のことから、鳥類にとっては区内で重要な生息空間のひとつになっていると考えられる。

水辺環境としては、石神井川でキセキレイの繁殖行動を確認したほか、カルガモ、コガモ、オナガガモも確認した。

II③ 廣徳寺・区立高稲荷神社

- ・確認種：23 種
- ・重要種：都 RL：トビ (NT)
- ・外来種：ドバト、ワカケホンセイインコ

いわゆる都市鳥が多いが、廣徳寺内では秋期に、渡り途中のキビタキを確認した。また、冬期にはアオジやアカハラ、アトリなど、ややまとまった樹林を好む種が記録されている。なお、上空でトビを確認したが、当敷地内の環境との結びつきはないものと考えられる。

II④ 氷川神社

- ・確認種：13 種
- ・重要種：なし
- ・外来種：ワカケホンセイインコ

いわゆる都市鳥が多いが、アオジやシロハラ、ウグイスなど、暗くややまとまった樹林を好む種が記録されている。

II⑤ N氏邸

- ・確認種：14種
- ・重要種：都 RL：トビ（NT）
- ・外来種：ドバト、ワカケホンセイインコ

いわゆる都市鳥が多いが、アオジやシロハラ、ウグイスなど、暗くややまとまった樹林を好む種が記録されている。

なお、上空でトビを確認したが、当敷地内の環境との直接の結びつきはないものと考えられる。

Ⅲ 石神井・関町エリア

Ⅲ① 都立石神井公園

- ・確認種：53 種
- ・重要種：種の保存法：オオタカ（国内）、コアジサシ（国際）
国 RL：オシドリ（DD）、オオタカ（NT）、コアジサシ（VU）
都 RL：カイツブリ（NT）、コサギ（VU）、オシドリ（EN）、オオタカ（CR）、ツミ（CR）、バン（VU）、オオバン（VU）、ヤマシギ（VU）、アカエリヒレアシシギ（NT）、コアジサシ（EN）、アオバズク（CR）、カワセミ（VU）、アオゲラ（EN）、セグロセキレイ（VU）、モズ（VU）、オオヨシキリ（VU）、エナガ（・）、ヤマガラ（VU）
- ・外来種：コクチョウ、ドバト、ワカケホンセイインコ

公園全体で 75 種が確認され、種数では都立光が丘公園に次ぐ 2 番目であった。

樹林環境としては、まとまった樹林を選好するオオタカ、ツミ、アオゲラが留鳥として、ルリビタキ、シロハラが冬鳥として生息し、春や秋の渡り時期には、ツツドリ、オオヨシキリ、センダイムシクイなどの小鳥類を確認した。また、平成 22～23 年の夏期にはアオバズクの声が確認され、生息・繁殖の可能性が示唆された。

水辺環境としては、サギ類、カモ類、クイナ類などを確認したほか、オオハクチョウ、コアジサシ、アカエリヒレアシシギといった移動途中の個体も区内で唯一確認した。また、カイツブリやバンについては、雛の姿を確認しており、繁殖していると考えられる。

Ⅲ② 区立武蔵関公園

- ・確認種：38 種
- ・重要種：種の保存法：オオタカ（国内）
国 RL：オオタカ（NT）
都 RL：カイツブリ（NT）、コサギ（VU）、オオタカ（CR）、アオバズク（CR）、カワセミ（VU）、アオゲラ（EN）、エナガ（・）
- ・外来種：ドバト、ワカケホンセイインコ

樹林環境としては、渡り途中のアオバズクやセンダイムシクイを確認したほか、冬期には葦の島でオオタカを、補足調査では、アオゲラも確認され、鳥類にとっては区内で重要な生息空間になっていると考えられる。特に、富士見池に設置された「松の島」「葦の島」は、人の立ち入りが出来ないことから、鳥類にとっての保護区（サンクチュアリ）になっていると考えられる。

水辺環境としては、カイツブリやカワウ、コサギ・ゴイサギといったサギ類、カワセミ、キセキレイなどのいわゆる水鳥を確認した。なお、カイツブリについては、営巣も確認した。

Ⅲ③ 東京カトリック神学院

- ・確認種：20 種
- ・重要種：なし
- ・外来種：ドバト

いわゆる都市鳥が多いが、春期に樹林内で渡り途中のキビタキを確認した。冬期には、アオジやシロハラ、アトリなど、ややまとまった樹林を好む種を記録した。

Ⅲ④ 天祖若宮八幡宮

- ・確認種：10 種
- ・重要種：都 RL：ツミ (CR)
- ・外来種：なし

いわゆる都市鳥が多く、確認種数も少ないが、冬期にツミを確認した。シロハラのような、ややまとまった暗い樹林を好む種も記録されている。

Ⅲ⑤ MO氏邸

- ・確認種：13 種
- ・重要種：なし
- ・外来種：なし

いわゆる都市鳥が多いが、シロハラやウグイスのような、ややまとまった暗い樹林を好む種を記録した。

Ⅲ⑥ 石泉愛らんど

- ・確認種：18 種
- ・重要種：国 RL：サシバ (VU)
都 RL：サシバ (・)、モズ (VU)
- ・外来種：ワカケホンセイインコ

やや種数が多いが、畑地と屋敷林という異なる環境が含まれているためと考えられる。

いわゆる都市鳥が多いが、平成 21 年 9 月に渡り途中のサシバを確認した。本種については、上空高くの通過であり、当地の環境との直接の関係はないものと考えられる。

冬期にはモズを、同年 9 月には渡り途中のキビタキを屋敷林部分で確認した。また、シロハラやウグイスのような、暗くややまとまった樹林を好む種も記録した。

IV 大泉・土支田エリア

IV① 都立大泉中央公園

- ・確認種：28 種
- ・重要種：都 RL：チョウゲンボウ (EN)、モズ (VU)、エナガ (・)、ヤマガラ (VU)
- ・外来種：ドバト、ワカケホンセイインコ

いわゆる都市鳥のほかに、チョウゲンボウやモズのようにやや開けた空間を好み、上位捕食者である種を確認した。また、ルリビタキやアオジのような、ややまとまった樹林を好む種を記録した。さらに、渡り途中のセンダイムシクイを確認した。

IV② 稲荷山・清水山憩いの森

- ・確認種：25 種
- ・重要種：都 RL：ツミ (CR)、エナガ (・)
- ・外来種：なし

いわゆる都市鳥が多いが、この中には樹林のわきを流れる白子川にいるマガモやオナガガモも含まれている。シロハラやアオジのような、ややまとまった樹林を好む種も記録されている。また、繁殖期にあたる 4 月下旬に、ツミを確認した。また、エナガの営巣を確認した。平成 21 年 6 月には、移動途中と考えられるアオバトも確認した。

IV③ 八の釜憩いの森

- ・確認種：15 種
- ・重要種：都 RL：エナガ (・)
- ・外来種：ドバト

いわゆる都市鳥が多いが、敷地内の池でカルガモを、樹林でエナガを確認した。

IV④ 土支田八幡宮

- ・確認種：9 種
- ・重要種：なし
- ・外来種：なし

いわゆる都市鳥が多い。シロハラのような、暗くややまとまった樹林を好む種を確認した。

IV⑤ MU 氏邸

- ・確認種：14 種
- ・重要種：都 RL：モズ (VU)
- ・外来種：なし

いわゆる都市鳥が多いが、周辺の畑地などの開けた空間で、モズやキセキレイを、樹林ではシロハラを確認した。

IV⑥ 小作原広場

- ・確認種：13種
- ・重要種：都 RL：モズ (VU)
- ・外来種：ドバト

いわゆる都市鳥が多く、開けた環境を好むツグミやムクドリ、カワラヒワなどを確認したほか、敷地周縁の樹木には、シジュウカラやメジロ、オナガなども飛来した。さらに、周辺の畑地などの開けた空間でモズも確認した。

IV⑦ 井頭こぶし憩いの森

- ・確認種：17種
- ・重要種：都 RL：モズ (VU)、エナガ (・)
- ・外来種：ドバト、ワカケホンセイインコ

やや種数が多いのは、主要な調査対象である草地部分と隣接する樹林部分という異なる二つの環境が隣接しているためと考えられる。

いわゆる都市鳥が多いが、やや開けた樹林内でモズを、樹林ではエナガを確認した。

IV⑧ 区立びくに公園

- ・確認種：15種
- ・重要種：都 RL：コチドリ (VU)、セグロセキレイ (VU)
- ・外来種：ドバト

区内で唯一コチドリを確認した。白子川の河床で確認したが、本種の生態から、公園内の開けた草地も含めた環境を利用していると考えられる。また、セグロセキレイも白子川で確認したが、区内の他の地点では石神井公園でのみの確認であり、白子川との組み合わせがこれら区内では希少な種にとっての生息環境になっていると考えられる。

IV⑨ O氏畑

- ・確認種：17種
- ・重要種：都 RL：モズ (VU)
- ・外来種：ワカケホンセイインコ

いわゆる都市鳥が多いが、開けた環境を好むモズやジョウビタキ、ツグミ、カワラヒワなどを確認したほか、藪を好むアオジも確認した。

R① 練馬駅周辺ルート

- ・確認種：6種
- ・重要種：都 RL：チョウゲンボウ (EN)
- ・外来種：ドバト

いわゆる都市鳥がほとんどであったが、チョウゲンボウを確認した。高層ビルが立ち並ぶ環境が、本種の休息場所として好まれたと考えられる。

R② 城南住宅ルート

- ・確認種：15種
- ・重要種：なし
- ・外来種：ドバト、ワカケホンセイインコ、インコ的一种

いわゆる都市鳥がほとんどであったが、コゲラやウグイスやシメが含まれていた。また、石神井川が近いことから、上空でカルガモを確認した。

R③ 田柄川緑道ルート

- ・確認種：10種
- ・重要種：なし
- ・外来種：なし

いわゆる都市鳥がほとんどであった。緑道の緑量(=ボリューム)が乏しいことが原因と考えられる。

R④ 立野町ルート

- ・確認種：27種
- ・重要種：都 RL：チョウゲンボウ (EN)、モズ (VU)、エナガ (・)、イカル (NT)
- ・外来種：ドバト、ワカケホンセイインコ

27種という確認種数は、武蔵学園や都立大泉中央公園など大規模な緑地と並ぶ種数である。コース途中にある区立立野公園や屋敷林などが鳥類の生息地として利用されていると考えられる。

いわゆる都市鳥のほかに、上位捕食者のチョウゲンボウやモズ、渡り途中のセンダイムシクイ、樹林性のシロハラ、エナガ、イカルなども確認した。

R⑤ 土支田・谷原ルート

- ・確認種：21 種
- ・重要種：都 RL：ツミ (CR)、モズ (VU)
- ・外来種：ドバト

カワウ、ツミが上空を通過した。ただし、両種ともに確認した高度が高く、地上部分との関係性は低いと考えられる。

渡り途中のセンダイムシクイや、ウグイスも確認した。

R⑥ 石神井川流域

- ・確認種：21 種
- ・重要種：都 RL：コサギ (VU)
- ・外来種：ドバト

コサギ、カルガモ、コガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、キセキレイを確認し、カルガモについては繁殖も確認した。また、上空ではイワツバメを確認した。イワツバメについては、周辺で繁殖している可能性がある。

R⑦ 白子川流域

- ・確認種：17 種
- ・重要種：都 RL：コサギ (VU)、カワセミ (VU)、モズ (VU)
- ・外来種：ドバト

コサギ、アオサギ、カルガモ、カワセミ、キセキレイを確認した。また、モズが河床内に降りて採餌をしていた。確認した各種は、河川沿いなどで一般的な種であるが、石神井川と比較して魚食性のアオサギやカワセミが確認されていることから、小型の魚類がより豊富に生息していると考えられる。

6) 練馬区の鳥類相の特徴

①樹林性の種が生息する

オオタカ、ツミ、アオバズクといったいわゆる猛禽類（＝上位捕食者）が生息・繁殖していることがひとつの特徴である。

ツミは 1980 年代以降、都市近郊に進出しており（植田 2005 など）、練馬区でも 1991 年に繁殖が確認（遠藤ら 1991）されるなど、今後の動向が注目される。アオバズクは、区内での生息場所が非常に限られているため、その保全が重要な課題になると考えられる。

アオゲラも区内の複数の大規模樹林で確認した。すべてで定着しているわけではないが、各地を一時的にも利用している様子が伺えた。

冬鳥のヤマシギもまとまった樹林環境を好む種であり、都立光が丘公園や都立石神井公園で確認した。

②冬鳥や旅鳥が多い

秋から翌年の春まで生息する冬鳥が多いのが特徴であり、今回の調査で確認した種の半数近くがこれにあたる。

これは市街地に共通の特徴であるが、ハイタカやノスリ、ハヤブサなど複数の猛禽類や、ヤマシギ、トラツグミといった、市街地では希少な種も含まれていることが練馬区の特徴といえる。都立光が丘公園や都立石神井公園に代表される大規模樹林が存在していることが、これらの冬鳥に越冬場所を提供していると考えられる。

春や秋に区内を通過していく、いわゆる旅鳥の割合も多いのが特徴である。これも市街地に共通の特徴であるが、その種類が多い。小規模の樹林でもキビタキやセンダイムシクイなどが確認されており、特に石神井川沿いの樹林地で確認した。区内全域でこれらの旅鳥が通過していると考えられる。

③水鳥や草地性の種が少ない

区内の池沼である都立石神井公園や都立光が丘公園には、サギ類やカモ類、クイナ類などが見られるが、種数や個体数は限定的である。コチドリやツルシギ、クサシギ、コアジサシといった種が記録されているが、渡り途中の限定的な記録である。

石神井川や白子川についても、コサギやカルガモ、コガモなど限られた種の利用に限られている。

オオヨシキリ、ホオジロといった高茎草地を選好する種は、渡り途中に立ち寄るか、極少数が生息しているだけであった。また、ヒバリやセッカといった種は、全く確認できなかった。

区内の草地が少なく、また現在も減少傾向にあることから、これら草地に多く見られる種の生息は難しい状況であると考えられる。

④外来種の存在

ワカケホンセイインコが区内に定着している様子が把握された。一部では屋敷林で繁殖している可能性がある。

なお、特定外来生物であるガビチョウやソウシチョウは確認されなかった。ソウシチョウは、隣接する武蔵野市では確認されていることから、今後の動向にも注意が必要である。

5. 哺乳類

(1) 調査方法

1) 調査対象地

第Ⅲ章に示した 32 箇所 7 ルートを対象とした。

このうち、個体の目視やフィールドサイン法^{※73}による調査は全ての調査地で行った。但し、都立公園のような大規模な緑地は、公園全体としての哺乳類相の評価ができるように調査地点以外の場所もふくめて踏査したため、集計は 26 箇所 7 ルートとした。

この他に主にネズミ類を対象とした捕獲罠による調査を、各エリアにある大規模樹林（コア緑地）および大規模緑地に順ずる面積の緑地（サブコア緑地）の計 8 箇所を対象として行った。

2) 調査時期および時間

現地調査は、平成 20 年度の冬期から平成 21 年度の秋期にかけて行われる鳥類調査や昆虫類調査の際に確認したものをまとめた。また、都立光が丘公園バードサンクチュアリにおける観察記録も含めた。

捕獲罠による調査は、平成 21 年 3 月に行った。

3) 調査手法

現地調査では、個体の目視およびフィールドサインの確認を行った。鳥類調査の際には 8～10 倍程度の双眼鏡を補助的に用いた。

捕獲罠による調査では、シャーマントラップ（写真参照）を林内に設置し、1 調査地につき連続した 2 晩実施した。

夜間のコウモリ類の調査では、補助的にバットディテクター^{※74}を用いた。



写真 ネズミ類調査に用いた調査に用いた
シャーマントラップ

※73 フィールドサイン法：調査対象地域を可能な限り詳細に踏査してフィールドサイン（糞や足跡、食痕、巣、爪痕、クマダナ、モグラ塚等の生息痕跡）を発見し、生息する動物種を確認する方法。

※74 バットディテクター：コウモリの超音波を可聴音（人間に聞こえる範囲の音）に変換する機械。

(2) 調査結果

1) 確認種および重要種・外来種


①確認種

上記の調査により、4目5科5種（不明種含む）を確認した。これを表IV-5-1に示した。

②重要種

文化財保護法、種の保存法における指定種の確認は無かった。国 RL の記載種の確認も無かった。都 RL の記載種は、アズマモグラ（留意種）が含まれていた。これを表IV-5-3に示した。

表IV-5-3 哺乳類の重要種確認状況

アズマモグラ(モグラ科) 都RL(区部):留意種(*)	
	確認地点:都立光が丘公園、八幡神社、都立石神井公園、東京カトリック神学院、MU氏邸、立野町ルート 確認状況:いずれもいわゆる「モグラ塚」を確認した。

③外来種

確認種のうち、外来種にあたるものは、ハクビシン1種であった。

2) 練馬区の哺乳類相の特徴

①貧弱な種構成

種の特定ができなかったネズミ類を含めて5種を確認した。この数値から市街地に典型的な貧弱な種構成であることが分かる。

②中型種の存在

中型の哺乳類であるタヌキとハクビシンを確認した。過去の調査結果がないために評価が難しいが、近年増加傾向にあると考えられる。今後、分布の拡大により、住宅地でのトラブルなどの発生が予想される。

③留意種・アズマモグラの存在

東京都 RL (区部) で「留意種」であるアズマモグラを大規模緑地や私有地、民有地などで確認した。留意種となった理由である生息地の孤立化が、区内でも起こっている可能性があることから、今後の分布について注目すべきと考える。

【参考文献】

- ・熊谷さとし (2001) : 哺乳類観察ブック 人類文化社.
- ・自然環境アセスメント研究会 編著 (1995) : 自然環境アセスメント技術マニュアル 財団法人自然環境研究センター.

表IV-5-1 哺乳類の確認種一覧 (1/2)

目名	科名	種名および学名	I 北町・田柄エリア						II 豊玉・中村エリア					III 石神井・関町エリア					
			I①	I②	I③	I④	I⑤	I⑧	II①	II②	II③	II④	II⑤	III①	III②	III③	III④	III⑤	III⑥
			都立光が丘公園	都立城北中央公園	どんぐり山憩いの森	八幡神社	U氏邸	高松市民農園	武蔵学園	豊島園	廣徳寺・区立高稲荷公園	氷川神社	N氏邸	都立石神井公園	区立武蔵関公園	東京カトリック神学院	天祖若宮八幡宮	MO氏邸	石泉愛らんど
モグラ	モグラ	アズマモグラ <i>Mogera imaizumii</i>	●			●								●		●			
コウモリ	ヒナコウモリ	アブラコウモリ <i>Pipistrellus abramus</i>	●											●					
ネズミ	ネズミ	ネズミの一種 <i>Rattus sp.</i>							●									●	
ネコ	イヌ	タヌキ <i>Nyctereutes procyonoides</i>	**							○									
	ジャコウネコ	ハクビシン <i>Paguma larvata</i>								○									
4	5	5	3	0	0	1	0	0	1	2	0	0	0	2	0	1	0	0	1
			3						3					3					

表IV-5-1 哺乳類の確認種一覧 (2/2)

種名および学名	IV 大泉・土支田エリア									ルート							重要種 国 R L 都 R L・区 部	備考	
	IV①	IV②	IV③	IV④	IV⑤	IV⑥	IV⑦	IV⑧	IV⑨	R①	R②	R③	R④	R⑤	R⑥	R⑦			
	都立大泉中央公園	稲荷山・清水山憩いの森	八の釜憩いの森	土支田八幡宮	M U氏邸	小作原広場	井頭こぶし憩いの森	区立びく公園	O氏畑	練馬駅周辺ルート	城南住宅ルート	田柄川緑道ルート	立野町ルート	土支田・谷原ルート	石神井川流域	白子川流域			
アズマモグラ <i>Mogera imaizumii</i>					●								●				6	*	
アブラコウモリ <i>Pipistrellus abramus</i>															●		3		
ネズミの一種 <i>Rattus sp.</i>																	2	ドブネズミ 又はクマネズミ	
タヌキ <i>Nyctereutes procyonoides</i>																	2		
ハクビシン <i>Paguma larvata</i>					●					○							3	外来種	
5	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1		0	1
2									3										

●: 通常調査での確認 ○: 現地でのヒアリングでの記録 **: 光が丘公園バードサンクチュアリでの観察記録

6. 爬虫類

(1) 調査方法

1) 調査対象地

第Ⅲ章に示した 32 箇所 7 ルートを対象とした。但し、都立公園のような大規模な緑地は、公園全体としての爬虫類相の評価ができるように調査地点以外の場所も含めて踏査したため、集計は 26 箇所 7 ルートとした。

2) 調査時期および時間

平成 20～22 年度に行われた各分類群の調査や、自然観察会の際に確認したものをまとめた。また、都立光が丘公園バードサンクチュアリにおける観察記録も含めた。

3) 調査手法

主に目視により、個体の確認を行った。鳥類調査の際には 8～10 倍程度の双眼鏡を補助的に用いた。なお、カメ類捕獲用の罟を区立武蔵関公園に設置した。

(2) 調査結果

1) 確認種および重要種・外来種

①確認種

上記の調査の結果、2 目 7 科 13 種を確認した。これを表Ⅳ－6－1 に示した。最も確認箇所が多かったのは、ニホンカナヘビの 14 箇所、ついで、ニホントカゲの 12 箇所、ニホンヤモリの 10 箇所、ミシシippアカミミガメの 8 箇所であった。

調査場所別の種数では、都立石神井公園の 10 種が最も多く、次いで都立光が丘公園の 9 種であった。

②重要種

文化財保護法、種の保存法における指定種の確認は無かった。国 RL の記載種の確認も無かった。

都 RL の記載種は、表Ⅳ－6－2 に示した 8 種が該当した。

③外来種

確認種のうち、外来種に該当する種は、ミシシippチズガメ、ニセチズガメ、ミシシippアカミミガメ、ワニガメの 4 種であった（表Ⅳ－6－3～4）。いずれの種も要注意外来生物であった。

表Ⅳ－６－１ 爬虫類の確認種一覧 (1/2)

目名	科名	種名および学名	Ⅰ 北町・田柄エリア					Ⅱ 豊玉・中村エリア					Ⅲ 石神井・関町エリア								
			Ⅰ①	Ⅰ②	Ⅰ③	Ⅰ④	Ⅰ⑤	Ⅰ⑧	Ⅱ①	Ⅱ②	Ⅱ③	Ⅱ④	Ⅱ⑤	Ⅲ①	Ⅲ②	Ⅲ③	Ⅲ④	Ⅲ⑤	Ⅲ⑥		
			都立光が丘公園	都立城北中央公園	どんぐり山憩いの森	八幡神社	U氏邸	高松市民農園	武蔵学園	豊島園	廣徳寺・区立高稲荷公園	氷川神社	N氏邸	都立石神井公園	区立武蔵関公園	東京カトリック神学院	天祖若宮八幡宮	M〇氏邸	石泉愛らんど		
カメ	ヌマガメ	クサガメ <i>Chinemys reevesii</i>	●											●							
		ミシシッピチズガメ <i>Graptemys kohnii</i>													○						
		ニセチズガメ <i>Graptemys pseudogeographica</i>													○						
		ニホンイシガメ <i>Mauremys japonica</i>	○												○						
		ミナミイシガメ <i>Mauremys mutica</i>													○						
		ミシシッピアカミミガメ <i>Trachemys scripta elegans</i>	●							●						●	●				
	カミツキガメ	ワニガメ <i>Macrochelys temminckii</i>														○					
	スッポン	ニホンスッポン <i>Pelodiscus sinensis</i>	**																		
トカゲ	ヤモリ	ニホンヤモリ <i>Gekko japonicus</i>	**	●	●	●		●	●				●	○							
	トカゲ	ニホントカゲ <i>Plestiodon japonicus</i>	●			●	●	●		●				●	○				●		
	カナヘビ	ニホンカナヘビ <i>Takydromus tachydromoides</i>	●				●			●	●			●		●		●			
	ナミヘビ	ヒバカリ <i>Amphiesma vibakari</i>	○											●	●						
		アオダイショウ <i>Elaphe climacophora</i>	●												○	●					
2	7	13	9	0	1	2	3	1	2	3	1	0	1	11	5	1	0	2	0		
			9					4					12								

表Ⅳ－6－1 爬虫類の確認種一覧 (2/2)




種名および学名	Ⅳ 大泉・土支田エリア									ルート							確認箇所数	重要種		備考
	Ⅳ①	Ⅳ②	Ⅳ③	Ⅳ④	Ⅳ⑤	Ⅳ⑥	Ⅳ⑦	Ⅳ⑧	Ⅳ⑨	Ｒ①	Ｒ②	Ｒ③	Ｒ④	Ｒ⑤	Ｒ⑥	Ｒ⑦		国	都	
	都立大泉中央公園	稲荷山・清水山憩いの森	八の釜憩いの森	土支田八幡宮	MU氏邸	小作原広場	井頭こぶし憩いの森	区立びくに公園	〇氏畑	練馬駅周辺ルート	城南住宅ルート	田柄川緑道ルート	立野町ルート	土支田・谷原ルート	石神井川流域	白子川流域		RL	RL・区部	
クサガメ <i>Chinemys reevesii</i>																	2	DD		
ミシシッピチズガメ <i>Gratemys kohnii</i>																	1		要注意 外来生物	
ニセチズガメ <i>Gratemys pseudogeographica</i>																	1		要注意 外来生物	
ニホンイシガメ <i>Mauremys japonica</i>																	2	CR		
ミナミイシガメ <i>Mauremys mutica</i>																	1		国内外来種	
ミシシッピアカミミガメ <i>Trachemys scripta elegans</i>	●		●												●	●	8		要注意 外来生物	
ワニガメ <i>Macrochelys temminckii</i>																	1		要注意 外来生物	
ニホンスッポン <i>Pelodiscus sinensis</i>																	1	CR +EN		
ニホンヤモリ <i>Gekko japonicus</i>	●	●		●													11	VU		
ニホントカゲ <i>Plestiodon japonicus</i>		●		●										○			11	CR +EN		
ニホンカナヘビ <i>Takydromus tachydromoides</i>	●	●		●				●			●	●			●		14	VU		
ヒバカリ <i>Amphiesma vibakari</i>		●															4	VU		
アオダイショウ <i>Elaphe climacophora</i>		○	●														5	NT		
13	3	5	2	3	0	0	0	1	0	0	1	1	1	1	1	1	-	0	8	
	6									3							-	8		

●:現地調査での確認 ○:補足調査での確認 **:光が丘公園バードサンクチュアリでの観察記録

表Ⅳ－6－2 爬虫類の重要種確認状況 (1/2)

<p>ニホンイシガメ(ヌマガメ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)</p>	
	<p>確認地点:都立光が丘公園 確認状況:光が丘公園では、平成21年11月にバードサンクチュアリに隣接する鑑賞池で確認した。</p>
<p>ニホンスッポン(スッポン科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)</p>	
	<p>確認地点:都立光が丘公園 確認状況:光が丘公園では、バードサンクチュアリ内の池で、平成22年5月に1個体を確認した。 (バードサンクチュアリの記録)</p>
<p>ニホントカゲ(トカゲ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)</p>	
	<p>確認地点:都立光が丘公園、八幡神社、U氏邸、高松市民農園、豊島園、都立石神井公園、区立武蔵関公園、MO氏邸、稲荷山・清水山憩いの森、土支田八幡宮、立野町ルート 確認状況:各調査地で、1～数個体を確認した。</p>
<p>ニホンヤモリ(ヤモリ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点:都立光が丘公園、どんぐり山憩いの森、八幡神社、U氏邸、武蔵学園、豊島園、N氏邸、都立石神井公園、都立大泉中央公園、稲荷山・清水山憩いの森、土支田八幡宮、立野町ルート 確認状況:各調査地で、1～数個体を確認した。</p>
<p>ニホンカナヘビ(カナヘビ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点:都立光が丘公園、U氏邸、豊島園、廣徳寺・区立高稲荷公園、都立石神井公園、東京カトリック神学院、MO氏邸、都立大泉中央公園、稲荷山・清水山憩いの森、土支田八幡宮、区立びくに公園、城南住宅ルート、田柄川緑道ルート、土支田・谷原ルート 確認状況:区内では、比較的広範囲に生息していると考えられる。</p>

表Ⅳ－６－２ 爬虫類の重要種確認状況 (2/2)

<p>ヒバカリ(ナミヘビ科) 都RL(区部):絶滅危惧Ⅱ類(VU)</p>	
	<p>確認地点:都立光が丘公園、都立石神井公園、区立武蔵関公園、清水山憩いの森</p> <p>確認状況:光が丘公園では平成22年7月にバードサンクチュアリ内の池で、武蔵関公園では平成21年5月に葦の島で、石神井公園では平成21年6月に三宝寺池北の斜面で、それぞれ1個体を確認した。</p>
<p>アオダイショウ(ナミヘビ科) 都RL(区部):準絶滅危惧(NT)</p>	
	<p>確認地点:都立光が丘公園、都立石神井公園、区立武蔵関公園、清水山憩いの森</p> <p>確認状況:石神井公園と清水山憩いの森では平成21年4月に、光が丘公園では保全樹林内で平成21年7月に1個体を確認した。武蔵関公園では、平成21年7月に、松の島で脱皮殻を確認した。</p>
<p>クサガメ(ヌマガメ科) 都RL(区部):情報不足(DD)</p>	
	<p>確認地点:都立光が丘公園、都立石神井公園</p> <p>確認状況:光が丘公園では、バードサンクチュアリの脇の鑑賞池で成体や幼体を、石神井公園では、平成21年5月に三宝寺池で成体を確認した。</p>

表Ⅳ－6－3 爬虫類の要注意外来生物 確認状況

ミシシッピチズガメ(ヌマガメ科) 環境省 要注意外来生物	
	確認地点: 都立石神井公園 確認状況: 平成22年5月に確認した。
ニセチズガメ(ヌマガメ科) 環境省 要注意外来生物	
	確認地点: 都立石神井公園 確認状況: 平成23年6月の自然観察会で捕獲・確認した。
ミシシッピアカミミガメ(ヌマガメ科) 環境省 要注意外来生物	
	確認地点: 都立光が丘公園、武蔵学園、都立石神井公園、区立武蔵関公園、都立大泉中央公園、八の釜憩いの森、石神井川流域、白子川流域 確認状況: 各調査地で、1～数個体を確認した。
ワニガメ(カミツキガメ科) 環境省 要注意外来生物	
	確認地点: 区立武蔵関公園 確認状況: 平成23年3月、公園内の池で成体1個体が捕獲された。

表Ⅳ－６－４ 要注意外来生物にあたる４種について（爬虫類）

種名および学名	特徴ならびに近縁種・類似種	被害の実態・被害のおそれ
<p>ミシシッピ チズガメ <i>Graptemys kohnii</i> および ニセチズガメ <i>Graptemis pseudogeogra phica</i></p>	<p>両種とも雄よりも雌の方がずっと大きくなる。雌の場合、最大背甲長 25cm 程度に成長する。頸部に細かい黄色の縦条があるものが多い。</p> <p>日本在来の類似種はいない。雑食性で、水草の他、魚類、両生類、甲殻類、貝類、水生昆虫などを広く摂食する。</p>	<p>生態系に係る被害</p> <p>定着して高密度に生息するようになった場合、在来のカメ類と資源（例えば日光浴の場所や食物等）が重複し、またさまざまな動植物を摂食することから、定着地域では在来のカメ類や水生植物、魚類、両生類、甲殻類等に影響を及ぼす可能性がある。</p>
<p>ミシシッピ アカミミガメ <i>Trachemys scripta elegans</i></p>	<p>雄より雌の方が大型になる。雄は背甲長 20cm、雌は 28cm、2.5kg 程度まで成長し、在来のイシガメ（1kg 前後）やクサガメ（2kg 弱）に比して大型である。</p> <p>頭部の両脇に目立つ赤い斑が見られる。雄成体では不明瞭になることもある。日本在来の類似種はいない。</p>	<p>生態系に係る被害</p> <p>高密度に生息し、在来のカメ類と資源（例えば日光浴の場所や食物等）が重複し、またさまざまな動植物を摂食することから、定着地域では在来のカメ類や水生植物、魚類、両生類、甲殻類等に大きな影響を及ぼしていると想定される。</p> <p>最も大量に（年間数十万匹から 100 万匹）輸入されている爬虫類である。消耗品扱いされ、多数の個体が遺棄され、逸出しており、わが国で最も普通に見られるカメとなっている。</p>
<p>ワニガメ <i>Macrolemys temmincki</i></p>	<p>淡水産のカメ類としてはきわめて大きくなり、最大で背甲長 66cm、体重 80kg に達する。</p> <p>類似の種はないが、カミツキガメがやや似ている。</p>	<p>生態系に係る被害</p> <p>大型に成長し、魚類を中心にさまざまなものを捕食することから、もし定着すると魚類等に大きな影響が及ぶと想定される。</p> <p>人の生命又は身体に係る被害</p> <p>咬みつかれると大怪我をする可能性はあるが、カミツキガメと異なり待ち受け型の捕食行動をとるため、危険に遭遇する機会は少ないと考えられる。</p>

※環境省ウェブサイト (<http://www.env.go.jp/nature/intro/index.html>) より

2) 重要種の保全

都 RL の絶滅危惧Ⅰ類以上である 3 種と、絶滅危惧Ⅱ類ではあるが確認箇所数が 4 箇所と少ないヒバカリを対象に考察する。

①ニホンイシガメ及びニホンスッポン（両種とも絶滅危惧Ⅰ類 CR+EN）

ニホンイシガメは都立光が丘公園と都立石神井公園で、ニホンスッポンは都立光が丘公園でのみ観察された。両種ともに個体数が少なく、同じ水域にはミシシippアカミミガメをはじめとした外来のカメ類が多数定着している。

個体数については、本調査では十分把握されていないため、今後の詳細な調査が望まれる。外来のカメ類との関係については、環境省によれば、一般的な外来のカメ類は、在来のカメ類と「日光浴の場所や食物等の資源が重複」することが懸念されており、この 2 種についても同様の問題が起こると考えられる。

一方で、これらの個体は人為的な放逐により生息・定着している可能性もある。

したがって、生息水域における外来カメ類の駆除が、最も効果的な保全対策であると考えられるが、現在の個体群そのものが人為的な起源である可能性にも留意する必要がある。

②ニホントカゲ（絶滅危惧Ⅰ類 CR+EN）

都 RL のカテゴリーは高いが、区内の 11 箇所で生息を確認した。本種には帰巢性があり、崖地のくぼみなどが長期間維持されている空間が必要となる。本調査で生息を確認した場所については、巣が作られる崖地を中心に、地表面の改変を控えることが望ましい。

③ヒバカリ（絶滅危惧Ⅱ類）

前述のニホントカゲとは逆に、都 RL のカテゴリーは低いですが、区内の 4 箇所でのみ生息を確認した。

本種は水辺を選好することから、区内でも生息する場所は限られる。また、それぞれの確認場所が離れていることから、個体の行き来も困難と考えられる。

したがって、本種の保全には、現在の生息空間の維持・保全が望まれる。具体的には、水辺空間をその後背の樹林地をセットで保全することが望ましい。

3) 練馬区の爬虫類相の特徴

①市街環境に典型的な種構成

調査により 13 種の爬虫類を確認した。構成種としては、ニホンヤモリやニホンカナヘビのような、市街環境にも適応している種や、外来種を含めたカメ類が多く、市街地に典型的な種構成であった。

②ヘビ類の存在

その中で比較的良好な自然環境を示す種として、アオダイショウやヒバカリのようなヘビ類も確認した。特にヒバカリは、水辺を好む小型のヘビ類であるが、区内 4 箇所で確認した。しかし、その他の種は確認できなかったことから、区内の爬虫類相は貧弱であるといわざるを得ない。

③外来カメ類の存在

今後注目される点としては、今回外来のカメ類を 4 種確認した。既存の文献（片岡ら 2007）では、カミツキガメをはじめ、その他にも複数の外来のカメ類が区内で確認されている。区内には都立石神井公園や区立武蔵関公園、都立光が丘公園などの池沼や石神井川や白子川などの河川が存在し、これらのカメ類が、種数・個体数ともに増加することが予想される。したがって、引き続きのモニタリングが重要と考える。

7. 両生類

(1) 調査方法

1) 調査対象地

第Ⅲ章に示した 32 箇所 7 ルートを対象とした。但し、都立公園のような大規模な緑地は、公園全体としての両生類相の評価ができるように調査地点以外の場所もふくめて踏査したため、集計は 26 箇所 7 ルートとした。

2) 調査時期および時間

平成 20～22 年度に行われた各分類群の調査や、自然観察会の際に確認したものをまとめた。また、都立光が丘公園バードサンクチュアリにおける観察記録も含めた。

3) 調査手法

目視および鳴き声により、個体および卵塊の確認を行った。鳥類調査の際には 8～10 倍程度の双眼鏡を補助的に用いた。

(2) 調査結果

1) 確認種および重要種・外来種

①確認種

上記の調査の結果、1 目 4 科 7 種を確認した。これを表Ⅳ－7－1 に示した。

②重要種

文化財保護法、種の保存法における指定種の確認は無かった。国 RL の記載種の確認も無かった。

都 RL の記載種は、表Ⅳ－7－2 に示した 6 種が該当した。

ただし、ヤマアカガエル、トウキョウダルマガエル、シュレーゲルアオガエルについては、人為的に移入された可能性が高い（国内外来種）と考えられる。

表IV-7-1 両生類の確認種一覧 (1/2)

目名	科名	種名および学名	I 北町・田柄エリア						II 豊玉・中村エリア					III 石神井・閑町エリア						
			I①	I②	I③	I④	I⑤	I⑧	II①	II②	II③	II④	II⑤	III①	III②	III③	III④	III⑤	III⑥	
			●							●	●	●			●	●				
カエル	ヒキガエル	アズマヒキガエル <i>Bufo japonicus formosus</i>													●					
	アマガエル	ニホンアマガエル <i>Hyla japonica</i>													●					
	アカガエル	ウシガエル <i>Rana catesbeiana</i>	●												●					
		ニホンアカガエル <i>Rana japonica</i>	●																	
		ヤマアカガエル <i>Rana ornativentris</i>														●				
		トウキョウダルマガエル <i>Rana porosa porosa</i>	●																	
	アオガエル	シュレーゲルアオガエル <i>Rhacophorus schlegelii</i>	●												●					
1	4	7	5	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	5	1	0	0	0	0
			5						1					5						

表IV-7-1 両生類の確認種一覧 (2/2)


種名および学名	IV 大泉・土支田エリア									ルート							重要種 国 R L	都 R L・区部	備考	
	IV①	IV②	IV③	IV④	IV⑤	IV⑥	IV⑦	IV⑧	IV⑨	R①	R②	R③	R④	R⑤	R⑥	R⑦				確認箇所数
アズマヒキガエル <i>Bufo japonicus formosus</i>			●														9	NT		
ニホンアマガエル <i>Hyla japonica</i>	●		●		●			●									5	EN		
ウシガエル <i>Rana catesbeiana</i>																	2		特定外来生物	
ニホンアカガエル <i>Rana japonica</i>														●		●	3	EN		
ヤマアカガエル <i>Rana ornativentris</i>								●									2	—	国内外来種 と考えられる	
トウキョウダルマガエル <i>Rana porosa porosa</i>														○			2	CR	国内外来種 と考えられる	
シュレーゲルアオガエル <i>Rhacophorus schlegelii</i>																	2	CR	国内外来種 と考えられる	
7	1	0	2	0	1	0	1	1	0	0	0	0	2	0	1	1	—	0	6	
			3						—							—		6		

●: 通常調査での確認 ○: 補足調査での確認

表Ⅳ－7－2 両生類の重要種確認状況 (1/2)

ニホンアマガエル(アマガエル科) 都RL(区部):絶滅危惧IB類(EN)	
	確認地点:都立石神井公園、都立大泉中央公園、八の釜憩いの森、MU氏邸、区立びくに公園 確認状況:石神井公園では5月にひょうたん池周辺で、大泉中央公園では8月に、八の釜憩いの森では5～6月、八の釜憩いの森では5～7月、MU氏邸では7月に、いずれも鳴き声により確認した。
トウキョウダルマガエル(アカガエル科) 都RL(区部):絶滅危惧I類(CR+EN)	
	確認地点:都立光が丘公園、立野町ルート 確認状況:バードサンクチュアリ内の池で平成21年4～7月に鳴き声を確認した。来園者に放された個体と考えられる。任意調査では平成22年の初夏に立野町ルート内の区立立野公園の池で声を確認した。
ニホンアカガエル(アカガエル科) 都RL(区部):絶滅危惧IB類(EN)	
	確認地点:都立光が丘公園、立野町ルート、石神井川流域 確認状況:光が丘公園では、水生昆虫誘致池で平成21年2月に卵塊を、立野町ルートでは、区立立野公園内の池で平成20年9月および平成21年5月に成体を、平成21年4月に幼生を確認した。
ヤマアカガエル(アカガエル科) 都RL(区部):非分布(-)	
	確認地点:都立石神井公園 確認状況:平成20年8月、野鳥誘致林内で確認した。人為的移入の可能性が高い。
シュレーゲルアオガエル(アオガエル科) 都RL(区部):絶滅危惧I類(CR+EN)	
	確認地点:都立光が丘公園、都立石神井公園 確認状況:光が丘公園ではバードサンクチュアリ内の池で、平成21年5月に、石神井公園では水辺観察園で、5～6月に声を確認した。人為的移入の可能性が高い。


表Ⅳ－7－2 両生類の重要種確認状況 (2/2)

アズマヒキガエル(ヒキガエル科) 都RL(区部):準絶滅危惧(NT)	
	確認地点:都立光が丘公園、武蔵学園、豊島園、廣徳寺、都立石神井公園、区立武蔵関公園、八の釜憩いの森、立野町ルート、白子川流域 確認状況:光が丘公園、石神井公園、武蔵関公園、立野町ルートの区立立野公園では卵塊や幼生を確認した。武蔵学園や廣徳寺では幼体や成体を林内で確認した。

③外来種

確認種のうち、外来種にあたるものは、ウシガエルが含まれていた。本種は特定外来生物である。

表Ⅳ－7－3 両生類の特定外来生物 確認状況

ウシガエル(アカガエル科) 環境省 特定外来生物	
	確認地点:都立光が丘公園、都立石神井公園 確認状況:光が丘公園ではバードサンクチュアリ内の池で、平成21年4～6月に姿と声を確認した。石神井公園では三宝寺池で5～6月に、石神井池で8月に鳴き声を確認した。

表Ⅳ－7－4 特定外来生物 ウシガエルについて

種名および学名	特徴	備考
ウシガエル <i>Rana catesbeiana</i>	大型で極めて捕食性が強く、口に入る大きさであれば、ほとんどの動物が餌となる。日本のみならずアメリカ合衆国でも最大のカエルで、頭胴長 183mm に達する。水生傾向が強く、後肢の水かきはよく発達する。幼生も大型で、全長 150mm になる。貪欲な捕食者で、昆虫やザリガニの他、小型の哺乳類や鳥類、爬虫類、魚類までも捕食する。	食用として世界各地に導入され定着している(アメリカ合衆国西部、ヨーロッパ、西インド諸島、韓国など)。ヨーロッパ諸国、韓国などでは輸入が禁止されている。 年間に数万匹が実験目的に理学系、医療系などの大学、研究所を中心に利用されている。 IUCNの「世界の侵略的外来種ワースト 100」及び日本生態学会の「日本の侵略的外来種ワースト 100」に選定されている。

※環境省ウェブサイト (<http://www.env.go.jp/nature/intro/index.html>) より

2) 繁殖状況

現地調査中に、卵塊や幼生を確認した種を以下にまとめる。

①アズマヒキガエル

- ・都立光が丘公園（バードサンクチュアリ、水生昆虫誘致池）
- ・都立石神井公園（三宝寺池）
- ・区立武蔵関公園（葦の島付近）
- ・立野町ルート（区立立野公園内の池）



アズマヒキガエルの卵塊
(都立光が丘公園水生昆虫誘致池
平成 21 年 2 月 21 日)

②ニホンアカガエル

- ・都立光が丘公園（水生昆虫誘致池）
- ・立野町ルート（区立立野公園内の池）

3) 重要種の保全

都 RL の絶滅危惧 I 類以上である 4 種のうち、人為的な放逐ではないと考えられるニホンアカガエルについて考察する。

①ニホンアマガエル（絶滅危惧 IB 類）

かつては区内全域に生息していたと考えられるが、本調査では 5 箇所のみ確認であった。個体数も各地点で 1 個体であり、区内では非常に孤立していることが伺える。

本種の生息には産卵場所となる浅い水域と、その周辺に樹林地や草地が必要であり、餌となる昆虫類などの小動物が豊富に生息することも必要である。これらの環境を維持しつつ、個体数の回復に注意していくことが望ましい。

4) 練馬区の両生類相の特徴

①国内移入種を含むが貧弱な種構成

今回の調査では 7 種を確認したが、このうち 3 種が国内移入と考えられた。また、1 種が特定外来生物であり、本来の生息種は 3 種のみであった。さらに、その本来の生息種のうちニホンアマガエルやニホンアカガエルは、生息箇所が非常に限られており、区内に広く生息しているのはアズマヒキガエル 1 種のみであった。

これらのことから、練馬区内の両生類相は非常に貧弱と言わざるを得ない。

8. 陸産貝類

(1) 調査方法

1) 調査対象地

第Ⅲ章に示した 32 箇所 7 ルートを対象とした。但し、都立公園のような大規模な緑地は、公園全体としての陸産貝類相の評価ができるように調査地点以外の場所もふくめて踏査したため、集計は 26 箇所 7 ルートとした。

2) 調査時期および時間

平成 20～22 年度に行われた各分類群の調査の際に確認したものをまとめた。

3) 調査手法

目視および落葉層などの探査により個体の確認を行った。その場で同定できないものについては、持ち帰り、同定を行った。同定は、千葉県立中央博物館の黒住耐二氏に協力いただいた。

(2) 調査結果

1) 確認種および重要種・外来種

①確認種

上記の調査の結果、2 目 10 科 25 種（この他に不明種あり）を確認した。これを表Ⅳ－8－1 に示した。

②重要種

文化財保護法、種の保存法における指定種の確認は無かった。国 RL の記載種の確認も無かった。

都 RL の記載種は、表Ⅳ－8－2 に示した 2 種が該当した。



表Ⅳ－８－１ 陸産貝類の確認種一覧 (1/2)

目名	科名	種名および学名	Ⅰ 北町・田柄エリア						Ⅱ 豊玉・中村エリア					Ⅲ 石神井・関町エリア					
			Ⅰ①	Ⅰ②	Ⅰ③	Ⅰ④	Ⅰ⑤	Ⅰ⑧	Ⅱ①	Ⅱ②	Ⅱ③	Ⅱ④	Ⅱ⑤	Ⅲ①	Ⅲ②	Ⅲ③	Ⅲ④	Ⅲ⑤	Ⅲ⑥
原始紐舌	アズキガイ	アズキガイ <i>Pupinella rufa</i>	●																
柄眼	スナガイ	スナガイ <i>Gastrocopta armigerella</i>											●						
	キセルガイ	ナミコギセル <i>Euphaedusa tau</i>																●	
	オカチョウジガイ (オカクチキレガイ)	オカチョウジガイ <i>Allopeas clavulinum</i>		●			●			●			●						●
		ホソオカチョウジ <i>Allopeas pyrgula</i>		●									●						
		サツマオカチョウジ <i>Allopeas satsumense</i>											●						
		トクサオカチョウジ <i>Paropeas achatinaceum</i>				●				●									●
		チョウジガイの一種		●					●										
	ナタネガイ	ナタネガイの一種 <i>Punctum sp. cf. amblygonum</i>																	
	コハクガイ	コハクガイ <i>Zonitoides arboreus</i>		●	●								●	●					
	ナメクジ	ナメクジ <i>Meghimatium bilineatum</i>											●	●					
	コウラナメクジ	チャコウラナメクジ <i>Lehmannia valentiana</i>		●					●	●		●		●					
		ノハラナメクジ <i>Deroceas laeve</i>																	
		コウラナメクジの一種		●															
	ベッコウマイマイ	カサキビ <i>Trochochlamys crenulata</i>												●	●				
		マルシタラガイ <i>Parasitala reinhardtii</i>	●											●					
マルシタラ類																		●	
ハリマキビ <i>Parakaliella harimensis</i>										●									
ウラジロベッコウ <i>Urazirochlamys doenitzii</i>										●			●						
オナジマイマイ	ウスカワマイマイ <i>Acusta despecta</i>		●	●			●						●						
	オナジマイマイ <i>Bradybaena similaris</i>													●					
	ヒダリマキマイマイ <i>Euhadra quaestia</i>	●				●			●	●		●	●						
	ミスジマイマイ <i>Euhadra peliomphala</i>	●											●						
	エンスイマイマイ <i>Trishoplita conospira</i>												●						
	コオオベソマイマイ類の一種 <i>Aegista sp.</i>												●	●					
	—	不明貝類																	
2	11	25	6	6	2	0	2	1	2	6	1	1	1	10	11	0	0	4	0
			12						7					19					

表Ⅳ－８－１ 陸産貝類の確認種一覧 (2/2)

Ⅳ 大泉・土支田エリア									ルート							確認箇所数	重要種		備考
Ⅳ①	Ⅳ②	Ⅳ③	Ⅳ④	Ⅳ⑤	Ⅳ⑥	Ⅳ⑦	Ⅳ⑧	Ⅳ⑨	R①	R②	R③	R④	R⑤	R⑥	R⑦		国R	都R・区部	
都立大泉中央公園	稲荷山・清水山憩いの森	八の釜憩いの森	土支田八幡宮	MU氏邸	小作原広場	井頭こぶし憩いの森	区立びくに公園	O氏畑	練馬駅周辺ルート	城南住宅ルート	田柄川緑道ルート	立野町ルート	土支田・谷原ルート	石神井川流域	白子川流域				
																1		国内外来種	
●																2	*		
	●															2			
																5			
									●							3			
																1			
																3		外来種	
																2			
●																1			
●									●							6		外来種	
●	●		●			●							●			7			
●																6		外来種	
								●								1		外来種	
													●			2			
																2			
																2			
																1			
																1			
																2			
●							●	●								7			
●																2		外来種	
			●	●												9			
				●									●			4			
																1			
																2	NT		
			●								●					2			
7	2	0	3	2	0	1	1	2	2	0	1	1	2	0	0		0	2	
12									6							2			

表IV-8-2 重要種確認状況（陸産貝類）

コオオベソマイマイ類の一種(オナジマイマイ科) 都RL(区部): 準絶滅危惧(NT)	
	確認地点: 都立石神井公園、区立武蔵関公園 確認状況: 石神井公園では三宝寺池側の樹林で、武蔵関公園では「松の島」で採集した。 ※写真は下の個体
スナガイ(スナガイ科) 都RL(区部): データ無し ※本土部では留意種(*)	
	確認地点: 区立武蔵関公園、都立大泉中央公園 確認状況: 武蔵関公園では、松の島でコハクガイなどと一緒に多数採集された。大泉中央公園では、野鳥の森の枯れ木で多数確認した。

③外来種

確認種のうち、外来種にあたるのは、表IV-8-3に示した6種であった。このうち5種は国外外来種であるが、国外から侵入したのち、国内移動により区内に侵入したと考えられる。また、1種が国内移動によるもの（国内外来種）であった。

表IV-8-3 確認した外来種一覧（陸産貝類）

移動状況	科名	種名	確認場所
国外 外来種	オカチョウジガイ	トクサオカチョウジ	どんぐり山憩いの森、豊島園、MO氏邸
	コハクガイ	コハクガイ	都立城北中央公園、どんぐり山憩いの森、都立石神井公園、区立武蔵関公園、都立大泉中央公園、練馬駅周辺ルート
	ナメクジ	チャコウラナメクジ	都立城北中央公園、武蔵学園、豊島園、氷川神社、区立武蔵関公園、都立大泉中央公園
		ノハラナメクジ	土支田・谷原ルート
	オナジマイマイ	オナジマイマイ	区立武蔵関公園、都立大泉中央公園
国内 外来種	アズキガイ	アズキガイ	都立光が丘公園

2) 練馬区の陸産貝類相の特徴

限られた調査結果であるが、以下のような特徴があると考えられた。

- ・確認種の構成からは、市街地などに生息する種が多かった。
- ・ヒダリマキマイマイやミスジマイマイなど大型の種を確認した場所は注目される。
- ・いわゆる「里山」のような環境に生息する種は少なかったが、カサキビ、ウラジロベッコウなどを確認した。
- ・今回の陸産貝類の調査は、他の分類群の調査時に補足的に行ったため、十分に種の把握ができたとは言いがたい。また、一般的に、陸産貝類は小面積であっても、人為的な攪乱がなければ生息し続けることが可能だと考えられる。本調査の対象地以外でも、人の立ち入りのできない斜面林の下などには、希少な種が生息している可能性があり、今後の調査・研究が望まれる。

第V章 区民アンケート調査の実施

区民アンケート調査の内容と実施方法については、平成 21 年度に区民、専門コンサルタント、NPO 等の人員で構成された検討委員会を結成し、6 回の検討会により、検討を行った。検討会の概要は巻末の資料-1 に示した。調査の全体の流れを図V-1-1 に示した。

1. 実施方法

(1) 調査対象者

区内に在住・在勤・在学している方を調査対象者とした。一般区民の募集と平行して、より多くの参加者を得るため、予め小学校に依頼をし、13 校の協力を得た。

(2) 調査時期

調査時期は、以下に示す 4 期とした。

春期：平成 22 年 3～6 月

夏期：平成 22 年 7～8 月

秋期：平成 22 年 9～11 月

冬期：平成 22 年 12 月～平成 23 年 2 月

上記の一般区民の調査に加えて、夏期および秋期に小学校の協力により、小学校児童等による団体調査も行った。

(3) 調査対象種

調査対象種は、表V-1-1 に示す 40 種群とした。1 種群の中に複数の種が含まれる場合がある。

例) カタツムリ類、ツユクサ類

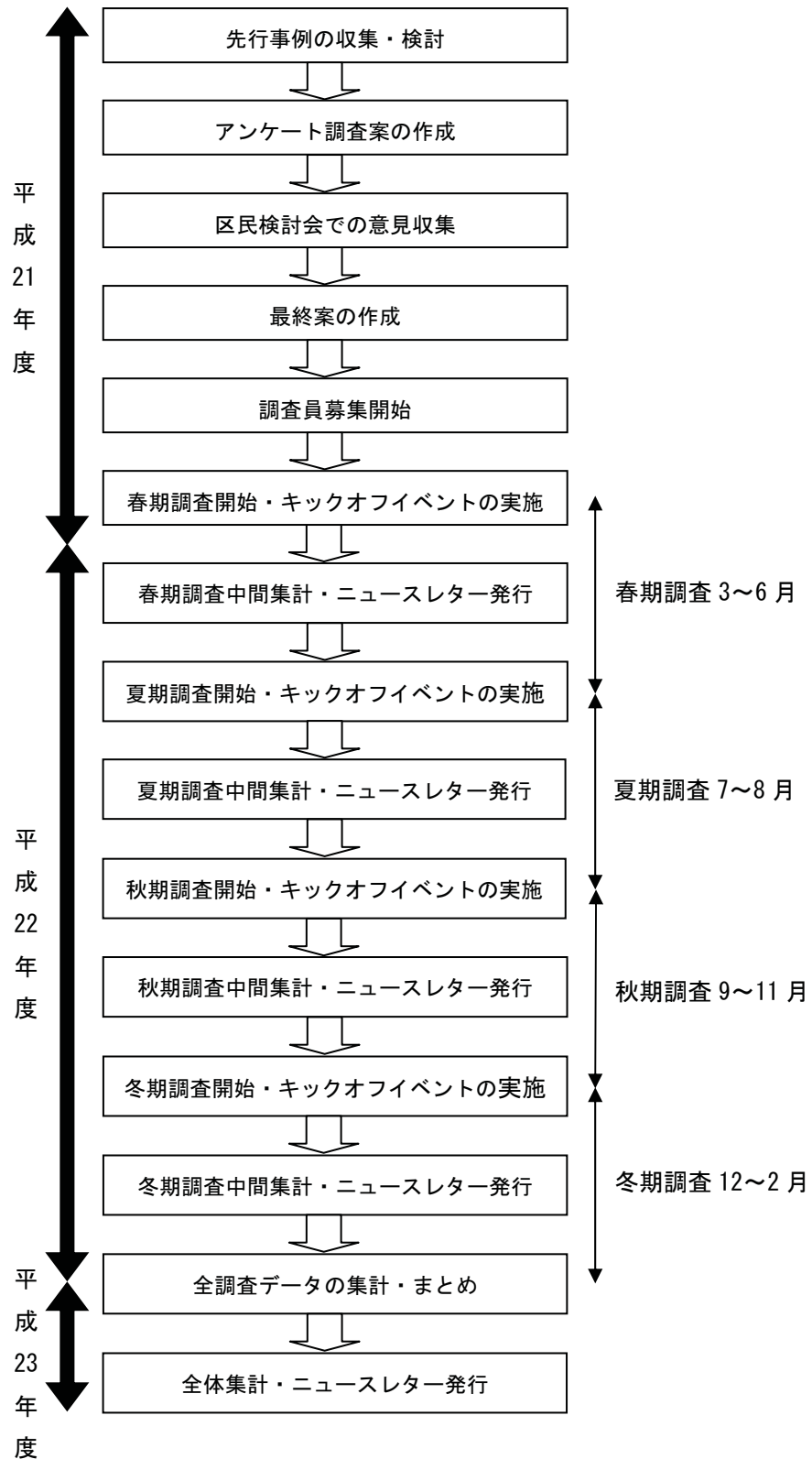
(4) 募集方法

「ねりま区報」により、各調査時期の約 1 ヶ月前に告知を行った。図書館などの人の集まる拠点に裏面が応募用紙になったチラシの配布も行った。同時に区のホームページでも告知を行い、チラシ、応募用紙、調査用紙、ハンドブックをダウンロードできるようにした。

自然観察会の参加者にチラシやニュースレターを配布し、参加を呼びかけた。各調査時期の始めにキックオフイベントとして、自然観察会や写真展を開催し、事業の普及を図った。「ねりまの生きものさがし」のハンドブック、ニュースレターでも告知を行った。

(5) 応募方法

調査員の応募は、応募用紙を区担当部署に FAX または郵送により行った。



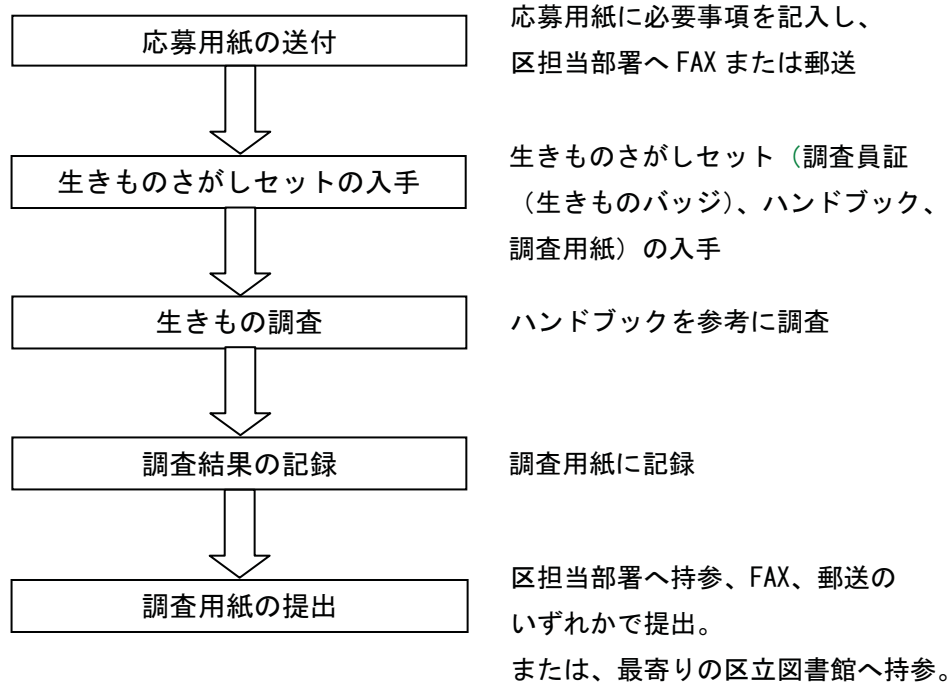
図V-1-1 区民アンケート調査全体の流れ
(一般区民対象)

表V-1-1 区民アンケート調査対象種の一覧

		調査時期				
		春期(3~6月)	夏期(7~8月)	秋期(9~11月)	冬期(12~2月)	
哺乳類	タヌキ・ハクビシン		タヌキ・ハクビシン アブラコウモリ	タヌキ・ハクビシン	タヌキ・ハクビシン アズマモグラ(モグラ塚)	3種群
	ツバメの巣(使用中の巣) ウグイス カルガモの親子			モズ	オナガ コゲラ カワセミ メジロ カモ類 (コガモ・ハンビロガモ等) ジョウビタキ	
鳥類	(アオバズク)		アオバズク			11種群
爬虫類			ヤモリ			2種群
			トカゲ (比較でカナヘビ、ヘビ)			
両生類	ヒキガエルの卵 (オタマジャクシも)		アマガエル			2種
昆虫類	クビキリギス		ヒグラシ (比較で他のセミ類も)	キチヨウ	ルリタテハ	13種群
	アゲハチョウ類の幼虫		カブトムシ	シヨウリョウバツタ (比較でオンプバツタ)	テントウムシ類	
			タマムシ	カマキリ類(オオカマキリ・チヨウ センカマキリ・ハラビロカマキリ・ コカマキリ) ※卵のうちも紹介	オオミノガ(ミノムシ)	
			ベニシジミ	アサギマダラ		
				ジグモの巣		
クモ類				ジョロウグモ		3種
陸産貝類			カタツムリ類	ナガコガネグモ		1種群
	コブシ		ツユクサ類	クスギのどんぐり		5種群
植物	ムラサキケマン ネジバナ					
合計		11	12	10	11	40種群

(6) アンケート調査の流れ

区民アンケート調査の応募から調査用紙提出までの流れを以下に示した。



図V-1-2 区民アンケート調査の応募から調査用紙提出までの流れ
(一般区民対象)



募集チラシ・応募用紙



調査員証のバッジ

(左・中央：一般用、右：小学校団体用)



ハンドブック (4期発行)



ニュースレター (5回発行)

2. アンケート調査の結果

(1) 一般区民向け

1) 結果概要

平成 22 年 3 月 1 日から、平成 23 年 2 月 28 日までを受付期間として区民向けアンケートを実施した。その結果の概要は以下の通りである。

表 V-2-1 一般区民向けのアンケート調査の結果概要

項目		数値
登録	チーム数	313チーム
	人数	959名
参加	チーム数	126チーム
収集された調査票		299枚
集計された報告件数		2,014件
対象種の報告件数		1,385件(68.8%)
位置情報を伴った対象種の報告件数		1,293件(64.2%)

登録されたチームは 313 あり、そのうち 126 チームが 1 枚以上の調査票を提出した。約 40%の割合で参加したことになる。

調査票は 299 枚が提出され、参加された 1 チームあたり約 2.4 枚を提出したこととなる。

報告件数は、2,014 件であり、調査票 1 枚あたり約 6.7 件が記入されていたこととなる。そのうち対象種・種群は 1,385 件 (68.8%)、さらに位置情報 (町名まで) を伴っていたものは 1,293 件 (64.2%) であった。

比較対象がないために評価が難しいが、登録されたチーム数と実際に調査票を提出したチームとの間に開きがあった。区内各所での広報や、調査員証としてのバッジなどの人気により参加された方がいる一方で、調査に参加することに対して何らかの「ハードル」があったと考えられる。

表 V-2-2 各期の報告件数の比較

期	通期	春期	夏期	秋期	冬期	合計
調査件数	24	421	344	231	365	1,385
割合	1.7%	30.4%	24.8%	16.7%	26.4%	

※春期および夏期対象種のアオバズクは春期に含めた

報告件数では、春期が最も多く 421 件 (30.4%) であった。次いで、冬期の 365 件 (26.4%)、夏期の 344 件 (24.8%)、秋期の 231 件 (16.7%) となっていた。

春期が最も多いのは、事業の最初にあたり、参加意欲が高い時期であったためと考えられる。秋期まで次第に件数が減少しているが、冬期に件数が増加していることから、時間とともに関心が薄れているわけではないと考えられる。冬期については、観察しやすいカモ類が調査対象になっていたことも原因と考えられる。

2) チーム別の集計

前述のように、126 チームが 1 枚以上の調査票を提出した。各チームの報告件数の集計について、表 V-2-3 に上位 10 チームを、表 V-2-4 に全チームの結果を示す。

表V-2-3 チーム別の報告件数（上位10チーム）

順位	登録番号	報告件数	割合
1	20	159	11.5%
2	30	130	9.4%
3	63	83	6.0%
4	25	57	4.1%
5	75	49	3.5%
6	50	38	2.7%
7	48	31	2.2%
8	74	31	2.2%
9	268	28	2.0%
10	47	27	1.9%
合計		633	45.7%

最も報告件数が多かったのは登録番号20の159件（11.5%）で、全体の1割以上を占めていた。次いで登録番号30の130件（9.4%）、登録番号63の83件（6.0%）などとなっていた。

上位10チーム（7.9%）の件数は633件（45.7%）となっており、半数近くがこのような熱心な方による情報で占められていた。

3) 各期の集計

・通期対象種

タヌキ・ハクビシンについて、24件が得られた。

・春期対象種

夏期対象種でもあるアオバズクを含め、421件が得られた。このうち、コブシが110件と最も多く、ウグイスが81件、ムラサキケマンが75件と続いた。一方、アオバズクが7件と最も少なく、クビキリギスが13件、アゲハチョウの幼虫とカルガモの親子が17件と続いた。

・夏期対象種

春期対象種との共通であるアオバズクを除き、344件が得られた。このうち、ツヨクサ類が112件と最も多く、トカゲ40件、アブラコウモリとヒグラシ37件と続いた。一方、アマガエルが4件と最も少なく、タマムシが7件、ベニシジミが22件と続いた。

・秋期対象種

231件が得られた。このうち、カマキリ類が65件と最も多く、キチョウが61件、ジョロウグモとショウリョウバッタがともに24件と続いた。一方、アサギマダラが2件と最も少なく、ナガコガネグモが7件、モズとジグモの巣が14件と続いた。

・冬期対象種

365件が得られた。このうち、カモ類が138件と最も多く、メジロが83件、オナガが44件と続いた。一方、オオミノガが3件と最も少なく、テントウムシ類が4件、アズマモグラ

とルリタテハが 8 件と続いた。

秋期を除く 3 期で 100 件を越える報告数のあった対象種があり、60 件以上の報告数のあった対象種も、春期・秋期で 2 種、冬期で 1 種あり、年間を通じてバランスよく調査が行われたと考えられる。種群についても、鳥類のカモ類 138 件（冬期）やメジロ 83 件（秋期）、植物のツユクサ類 112 件（夏期）やコブシ 110 件（春期）、昆虫類のカマキリ類やキチョウ（ともに秋期）と種群の偏りもなかったと考えられる。

一方、一桁の件数の対象種も各期でみられた。種の選定段階で報告数が少ないことを想定した種もあるが、今後も調査を継続する場合は関心を高める工夫も必要と考えられる。

表V-2-4 区民アンケート調査の結果① 全チームの結果一覧（報告件数順）（1/3）

No.	登録番号	通期		春期										夏期																
		H 1	H 2	H 3 (N 3)	H 4	H 5	H 6	H 7	H 8	H 9	H 10	H 11	N 2	N 4	N 5	N 6	N 7	N 8	N 9	N 10	N 11	N 12								
		タヌキ	ハクビシン	ハクビシン or タヌキ	カルガモの親子	アオバズク	ツバメの巣	ウグイス	ヒキガエルの卵	ヒキガエルの幼生	アゲハチョウの幼虫	クビキリギス	コブシ	ネジバナ	ムラサキケマン	アブラコウモリ	ヤモリ	トカゲ	アマガエル	ヒゲラシ	カブトムシ	タマムシ	ベニシジミ	ヒダリマキマイマイ	ミスジマイマイ	カタツムリ類	ツユクサ	トキワツユクサ	ムラサキツユクサ	ツユクサ類
1	20				2		2	1					1	2	1	1				1	1		1				1			
2	30				3		1		1	1	2		27	20	12	9	2			3				4		1	10	4		
3	63		1		1		1	4				5	3	3	6		2	6		2	3	2	12				11	1		
4	25						1	3	1				6	1		1	2			8	1				1	3				
5	75				2			3	1					9	3	2	1	1			5		1	2	2		2	1		
6	50	1	8					3					3		1	1											7	1	2	
7	48						1	13	1				2		1	1	1			1	2		1				2			
8	74							2		2			7			1		3							1	2	1	2		
9	268																											6		
10	47							4					9	3	6															
11	86		2					2					2		1	1				2							2		1	
12	96							10					1		6	1														
13	92	1							1				4			2				1								5		
14	103	1						1	1			2		1	1	1					1	1	1	1			1	1		
15	137							1						1		1	1			1				1	1		1	1	1	
16	88				1			3	1				3	1													3	2		
17	62							1					1	1	1															
18	73												1	3																
19	171																1									1	1			
20	64						1						1				1			1							1			
21	117		1					1					1	1	1			1		1							1		1	
22	182				1			1					1	1	1	1	2	3		3				1				1		
23	60	1					1	1					1	1			3	2						1				2	2	
24	149												1	1	1		1								2	3				
25	125																1													
26	285																													
27	8							2					2	1	1		1										1			
28	35						1	1					1		1	1														
29	95												5	1	2		1										2		1	
30	246																				2									
31	13	1						1								2		1								2				
32	59						1				1							1		1										
33	191	1						1						1		2		1	1		1	1								
34	304																													
35	94							1						1	1															
36	115							2					1	2				1		1							1			
37	5							1							1			1		1		1	1			1	1			
38	163														10															
39	190							1					1	1		2														
40	206	1			1			1	1									1									1			
41	28							1								1												1	1	
42	58												5	2				1												
43	168															1	1	1		1		1					1			
44	72												4			3														
45	118							1						2	1		1										2			
46	172				5																1									
47	14																2	1		1	1	1								
48	18						1	2						1		1		1					1							
49	260																													
50	269															1	1						2							
51	82							1						1		1	1										1			
52	130				1			1																						

※H3のアオバズクは夏期にも調査対象としたが、記録は春期にまとめた。

秋期										冬期																						
A 2	A 3	A 4			A 5	A 6	A 7	A 8	A 9	A 10	W 2	W 3						W 4	W 5	W 6	W 7	W 8	W 9	W 10	W 11							
モズ	シヨウリヨウバツタ	ハラビロカマキリ	コカマキリ	チヨウセンカマキリ	オオカマキリ	カマキリ類	キチヨウ	アサギマダラ	ジグモの巣	ナガコガネグモ	ジヨロウグモ	クヌギ	アズマモグラ	マガモ	コガモ	オカヨシガモ	ヒドリガモ	オナガガモ	ハシビロガモ	ホシハジロ	キンクロハジロ	ミコアイサ	カモ類	カワセミ	コゲラ	ジヨウビタキ	メジロ	オナガ	ルリタテハ	テントウムシ類	オオミノガ	集計
3		3	1	1			3	2	1	4	1	1	8	20	1	1	22	5	2	5	2		7	11	9	25	5			1	159	
1			1								6				9			6						1	1	4	1				130	
	11			1			4			2															2						83	
	1						4	1		4	2	1	3	1			1	2		1				1	1	4	1		1		57	
		1				2				2	3	1														1	3	1			49	
		1						2							1			1								3	1	2			38	
	1		1				2		1																						31	
						2	4	2		1																	1				31	
						13				1			4				2		1					1							28	
																									1	1	3				27	
1						3		1	2	1		1											1	1	1						25	
							2	2			1															1	1	1	2	1		25
						2	2																				2	2			23	
1	1					1	1	1	1	1																					20	
1			1		1		1	1				1															1		1	1	19	
										2	2																				18	
		2	1		1		2	2		1	2															1			1		17	
1		1	1			1	1	1		1		1							1		1						2				17	
	1				1	3	1			1													2	1	1	2	1				17	
1			1		1		1			1		1		1												1	2	1	1		16	
		2								1							1									1	2	1			16	
																																16
							1							3											2					1		15
	1																									1		3			15	
2	2			1																			1		2	1	1	3		1	14	
	1					2																									13	
						1	2																2				3				13	
						1																									13	
1			1	3			2				1															1	1			1	13	
	1						1																		1	1		1			12	
1							2																			4			1		12	
														1	1			1	1	1				1	1	1	2	2		1	12	
	1	1					1				1															2	2				11	
						1																		1							11	
																										1					10	
																															10	
	1						1		1															1			1				10	
			1		1		2		1										1	1		1									10	
		1																													9	
		1																													9	
			1				2																								9	
																								1							8	
																															8	
								1																		1		1			7	
																															7	
																			1							2	1	1	2		7	
	1						1	1																							7	
																											1				6	
							2						1														1				6	

表V-2-4 区民アンケート調査の結果① 全チームの結果一覧（報告件数順）(2/3)

No.	登録番号	通期		春期										夏期																
		H 1	H 2	H 3 (N 3)	H 4	H 5	H 6	H 7	H 8	H 9	H 10	H 11	N 2	N 4	N 5	N 6	N 7	N 8	N 9	N 10	N 11		N 12							
		タヌキ	ハクビシン	ハクビシン or タヌキ	カルガモの親子	アオバズク	ツバメの巣	ウグイス	ヒキガエルの卵	ヒキガエルの幼生	アゲハチヨウの幼虫	クビキリギス	コブシ	ネジバナ	ムラサキケマン	アブラコウモリ	ヤモリ	トカゲ	アマガエル	ヒグラシ	カブトムシ	タマムシ	ベニシジミ	ヒダリマキマイマイ	ミスジマイマイ	カタツムリ類	ツユクサ	トキワツユクサ	ムラサキツユクサ	ツユクサ類
53	141											1				1					1									
54	142		1							1						1	1									1	1			
55	231																													
56	11						1							1				1		2										
57	33				1								3	1																
58	34															1					2									
59	38	1					1					2																		
60	54						1	2				1	1																	
61	76				1			1				2	1																	
62	78							1					1	1																
63	89							1									2		1	1										
64	93	1					2					1	1																	
65	99							1	1			1	1					1												
66	154				1			1									1					1								
67	196				1												1													
68	215					2	1						1					1								1				
69	220							1	1									1												
70	276									1							1	1												
71	297							1																						
72	307																													
73	44																													
74	123																						1	1						
75	165							1				1	1	1																
76	259																2			1										
77	283																													
78	23													2															1	
79	52																1										1	1		
80	68																													
81	133									1																	1	1		
82	138												2																	
83	151																													
84	183				1		1																							
85	209									1			1																	
86	222							1		1							1													
87	224							1																						
88	256																1													
89	270																	1		1								1		
90	310																													
91	19									1		1																		
92	21									1						1														
93	24									1						1														
94	27									1							1													
95	109							1						1																
96	127							1					1																	
97	152																						1					1		
98	236																													
99	243									2																				
100	245									1			1																	
101	306																													
102	1		1																											
103	7											1																		
104	31							1																						

※H3のアオバズクは夏期にも調査対象としたが、記録は春期にまとめた。

表V-2-4 区民アンケート調査の結果① 全チームの結果一覧（報告件数順）(3/3)

No.	登録番号	通期		春期											夏期															
		H1	H2	H3 (N3)	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	N2	N4	N5	N6	N7	N8	N9	N10	N11			N12						
		タヌキ	ハクビシン	ハクビシンの親子	カルガモの親子	アオバズク	ツバメの巣	ウグイス	ヒキガエルの卵	ヒキガエルの幼生	アゲハチョウの幼虫	クビキリギス	コブシ	ネジバナ	ムラサキケマン	アブラコウモリ	ヤモリ	トカゲ	アマガエル	ヒグラシ	カブトムシ	タマムシ	ベニシジミ	ヒダリマキマイマイ	ミスジマイマイ	カタツムリ類	ツユクサ	トキワツユクサ	ムラサキツユクサ	ツユクサ類
105	37																						1							
106	46																													
107	49								1																					
108	111																													
109	114		1																											
110	121												1																	
111	175																													
112	181																										1			
113	193								1																					
114	194																				1									
115	201						1																							
116	205												1																	
117	218																1													
118	232																													
119	241																													
120	249																											1		
121	298																													
122	84																													
123	134																													
124	135																													
125	156																													
126	216																													
127	-								1						1						1		1	1			2			
件数合計		5	18	1	17	7	18	81	20	2	17	13	110	61	75	37	36	40	4	37	24	7	22	9	5	11	84	16	10	2
各期総計		24			421											344														

※H3のアオバズクは夏期にも調査対象としたが、記録は春期にまとめた。

※No.127に登録番号不明のデータを全部まとめた。

※各期の合計の網掛けは、上位3種群

秋期											冬期																					
A 2	A 3	A 4			A 5	A 6	A 7	A 8	A 9	A 10	W 2	W 3						W 4	W 5	W 6	W 7	W 8	W 9	W 10	W 11							
モズ	ショウリョウバッタ	ハラビロカマキリ	コカマキリ	チヨウセンカマキリ	オオカマキリ	カマキリ類	キチヨウ	アサギマダラ	ジグモの巣	ナガコガネグモ	ジヨロウグモ	クヌギ	アズマモグラ	マガモ	コガモ	オカヨシガモ	ヒドリガモ	オナガガモ	ハシビロガモ	ホシハジロ	キンクロハジロ	ミコアイサ	カモ類	カワセミ	コゲラ	ジョウビタキ	メジロ	オナガ	ルリタテハ	テナントウムシ類	オオミノガ	集計
							1																									1
																									1							1
																																1
																																1
																								1								1
																																1
																																1
																																1
							1																									1
																																1
																																1
																																0
																																0
																																0
																																0
																																0
																																0
																																0
																																0
																																0
																																0
																																0
																																0
																																0
																																0
																																0
																																0
																																0
																																0
																																0
																																0
																																0
																																0
																																0
																																0
																																0
																																0
																																0
																																0
14	24	16	12	4	11	22	61	2	14	7	24	20	8	21	35	1	1	44	10	3	11	2	10	22	26	29	83	44	8	4	3	1,385
231													365																			

※各期の合計の網掛けは、上位3種群

4) 町名による集計

町名別による報告件数の一覧を表V-2-5および図V-2-1に示す。また、町名別による各対象種の報告件数を表V-2-6に示す。

区内の47町のうち、栄町と西大泉町を除く45町からデータの提出があった。ほぼ全ての町からデータを得ることができ、市民参加型の調査として広いエリアをカバーすることができたと考えられる。なお、西大泉町については、特に面積も小さく人口も少ないことから、本調査に係る可能性は低かったと考えられる。

最も多かった町は、石神井台の144件であり、次いで上石神井の125件、光が丘の93件と続いた。石神井台は都立石神井公園が、光が丘は都立光が丘公園という大規模緑地が分布しているためと考えられる。また、上石神井については、本事業に熱心な方がいたためと考えられる。

表V-2-5 町名別の報告件数一覧（件数順）

町名	報告件数	割合
石神井台	149	10.8%
上石神井	135	9.7%
石神井町	99	7.1%
光が丘	98	7.1%
貫井	68	4.9%
関町北	65	4.7%
大泉町	53	3.8%
下石神井	51	3.7%
桜台	44	3.2%
向山	43	3.1%
東大泉	42	3.0%
羽沢	40	2.9%
南田中	40	2.9%
高野台	35	2.5%
旭町	32	2.3%
富士見台	30	2.2%
早宮	27	1.9%
土支田	26	1.9%
高松	22	1.6%
大泉学園町	22	1.6%
南大泉	18	1.3%
西大泉	17	1.2%
小竹町	16	1.2%
練馬	16	1.2%
春日町	15	1.1%
豊玉中	10	0.7%
豊玉北	8	0.6%
中村	8	0.6%
氷川台	8	0.6%
谷原	7	0.5%
田柄	6	0.4%
関町東	6	0.4%
錦	5	0.4%
三原台	5	0.4%
豊玉南	4	0.3%
中村北	4	0.3%
豊玉上	3	0.2%
北町	3	0.2%
上石神井南町	3	0.2%
立野町	3	0.2%
関町南	3	0.2%
中村南	2	0.1%
旭丘	1	0.1%
平和台	1	0.1%
都立石神井公園*	24	1.7%
区内	2	0.1%
不明	66	4.8%
合計	1,385	

*：都立石神井公園は住所が複数の町にまたがるため、参考として記載

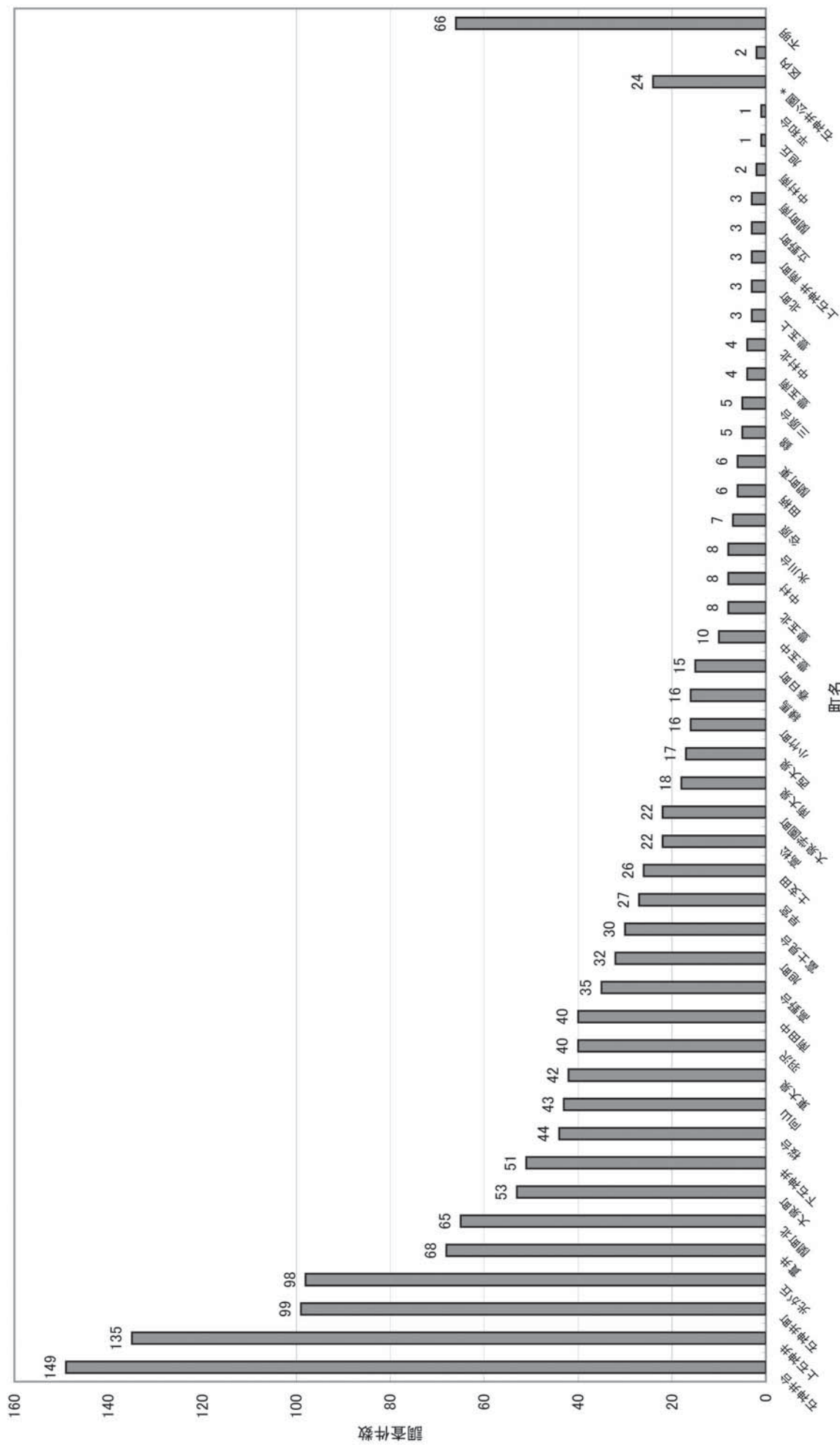


図 V-2-1 町名別の報告件数
 (都立石神井公園は町が複数含まれるため、参考として記載)

表V-2-6 区民アンケート調査の結果② 町名別にみた各対象種の報告件数(1/4)

町名	丁目	通期		春期											夏期																
		H1	H2	H3※	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	N2	N4	N5	N6	N7	N8	N9	N10	N11		N12								
		タヌキ	ハクビシン	ハクビシン or タヌキ	カルガモの親子	アオバズク	ツバメの巣	ウグイス	ヒキガエルの幼生	ヒキガエルの卵	アゲハチョウの幼虫	クビキリギス	コブシ	ネジバナ	ムラサキケマン	アブラコウモリ	ヤモリ	トカゲ	アマガエル	ヒグラシ	カブトムシ	タマムシ	ベニシジミ	ヒダリマキマイマイ	ミスジマイマイ	カタツムリ類	ツユクサ	トキワツユクサ	ムラサキツユクサ	ツユクサ類	
旭丘	一丁目													1																	
小竹町	一丁目													2																	
	二丁目						1					5																	1		
羽沢	一丁目							1		2						1		3							1	2	1	1			
	二丁目																														
	三丁目							5						2													5				
豊玉上	一丁目															1										1					
	二丁目																														
豊玉中	一丁目																									1					
	二丁目															1									1						
	三丁目																										1				
	四丁目																														
豊玉南	三丁目							1		1				1																	
豊玉北	四丁目							1		1					1																
	五丁目																														
	六丁目							1								1															
中村	一丁目							1																							
	二丁目																														
	三丁目							1					1			1											2				
中村南	二丁目															1															
中村北	二丁目														1																
	三丁目																														
	四丁目									1			1																		
桜台	一丁目																						1								
	二丁目												1																		
	三丁目	1	8					1					3			1										1	1	1	2		
	四丁目																							1							
	五丁目	1						1																							
	六丁目							2						1		1	1	1		1											
練馬	一丁目																													2	
	二丁目														1																
	三丁目												3		1																
	四丁目									1		1	1																		
向山	一丁目															1															
	二丁目							4				3	2	2																1	
	三丁目							3				2	1	2	2															1	
	四丁目				1					1			1	1												1	1				
貫井	一丁目										2	3	1														1	2			
	二丁目											1	1			1														2	
	三丁目						1					3																1	1		
	四丁目						3			3		7	5	3	1	2							4		1	3	1				
	五丁目												1	1	3																
錦	一丁目																														
	二丁目														1																
氷川台	一丁目																													1	
	三丁目																														
	四丁目							1						1																	

※H3のアオバズクは夏期にも調査対象としたが、記録は春期にまとめた。

秋期											冬期											町名別合計	丁目別合計									
A2	A3	A4			A5	A6	A7	A8	A9	A10	W2	W3						W4	W5	W6	W7			W8	W9	W10	W11					
モズ	シヨウリヨウバツタ	ハラビロカマキリ	コカマキリ	チヨウセンカマキリ	オオカマキリ	カマキリ類	キチヨウ	アサギマダラ	ジグモの巣	ナガコガネグモ	ジョロウグモ	クヌギ	アズマモグラ	マガモ	コガモ	オカヨシガモ	ヒドリガモ	オナガガモ	ハシビロガモ	ホシハジロ	キンクロハジロ	ミコアイサ	カモ類	カワセミ	コゲラ	ジョウビタキ	メジロ	オナガ	ルリタテハ	テントウムシ類	オオミノガ	
																															1	1
																															5	16
																															11	
																															4	
																															15	40
																															5	
																															16	
																															1	3
																															2	
																															1	
																															4	10
																															2	
																															3	
																															4	4
																															5	
																															1	8
																															2	
																															2	8
																															5	
																															2	2
																															1	
																															1	4
																															2	
																															4	
																															1	44
																															1	
																															2	
																															2	
																															2	9
																															9	
																															3	16
																															2	
																															1	16
																															4	
																															6	
																															4	
																															1	43
																															17	
																															13	
																															8	
																															2	
																															9	68
																															5	
																															6	
																															6	
																															40	
																															6	
																															4	5
																															1	
																															1	8
																															3	
																															3	
																															1	
																															1	

表V-2-6 区民アンケート調査の結果② 町名別にみた各対象種の報告件数(2/4)

町名	丁目	通期		春期										夏期																
		H1	H2	H3 (N3)	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	N2	N4	N5	N6	N7	N8	N9	N10	N11	N12								
		タヌキ	ハクビシン	ハクビシン or タヌキ	カルガモの 親子	ツバメの 巣	ウグイス	ヒキガエル の幼生	ヒキガエル の卵	アゲハチ ヨウの幼虫	クビキリ ギス	コブシ	ネジバナ	ムラサキ ケマン	アブラコ ウモリ	ヤモリ	トカゲ	アマガ エル	ヒグラシ	カブトム シ	タマムシ	ベニシジ ミ	ヒダリマ キマイマイ	ミスジマ イマイ	カタツム リ類	ツユクサ	トキワツ ユクサ	ムラサキ ツユクサ	ツユクサ 類	
早宮	一丁目																													
	二丁目											2	1																	
	三丁目	1			5						1			2					1							1				
	四丁目	1					1				2	1																		
平和台	三丁目										1																			
春日町	一丁目								1																					
	二丁目												2														1			
	三丁目																													
	五丁目												2	3																1
	六丁目																													
高松	一丁目														1															
	二丁目											1															3			
	三丁目													1												1				
	四丁目											1																		
	五丁目												2																	
	六丁目	1										1																		
北町	一丁目													1																
	二丁目													1																
	六丁目											1																		
田柄	二丁目																										1			
	四丁目												1	1		1														
	五丁目																										1			
光が丘	一丁目																				1									
	二丁目												1																	
	三丁目											1	3				1			1										
	四丁目	1					4	1	8		3	1	4	4	6				1	1	1	1		1		1	1	1		
	五丁目											1	3			2														
	六丁目											1																		
	七丁目																			1										
	七丁目				1																									
旭町	一丁目												1	1	1									1			2	1		
	二丁目				1		2	1				2	1			1			5		1	1	1							
土支田	一丁目																										1			
	二丁目													1	1													1		
	三丁目						1																					1	1	
	四丁目						1					3	5		1	1				1	1									
富士見台	一丁目									1																				
	二丁目													1	1															
	三丁目												1	2																
	四丁目											2	3															1		
南田中	一丁目		1												1													2	2	
	二丁目															3														
	三丁目																											1		
	四丁目											2																		
	五丁目							4									1											3		
高野台	一丁目						1																							
	二丁目						1								1															
	三丁目																						2			1	1			
谷原	二丁目									1														1						
	三丁目																													
	五丁目													2																
	六丁目																													

※H3のアオバズクは夏期にも調査対象としたが、記録は春期にまとめた。

秋期										冬期										丁目別合計	町名別合計											
A2	A3	A4			A5	A6	A7	A8	A9	A10	W2	W3							W4			W5	W6	W7	W8	W9	W10	W11				
モズ	シヨウリヨウバツタ	ハラビロカマキリ	コカマキリ	チヨウセンカマキリ	オオカマキリ	カマキリ類	キテヨウ	アサギマダラ	ジグモの巣	ナガコガネグモ	ジヨロウグモ	クヌギ	アズマモグラ	マガモ	コガモ	オカヨシガモ	ヒドリガモ	オナガガモ	ハシビロガモ	ホシハジロ	キンクロハジロ	ミコアイサ	カモ類	カワセミ	コゲラ	ジョウビタキ	メジロ	オナガ	ルリタテハ	テントウムシ類	オオミノガ	
					1										1		1									1						3
																																4
																									1			1				13
					2																											7
																																1
															1													1				2
																																1
																																2
	1											1																				7
																																1
																1			1													2
																																1
		1																														10
																																2
																																1
																																4
																																2
																																1
																																1
																																3
																																1
																																1
																																3
																																6
																																2
																												1				1
																																3
																																2
																																14
																												2	4			14
	2	2																														66
																																7
																																4
																																1
																																2
																																9
																																23
																																1
																																1
																																10
																																14
																																3
																																1
																																10
																																5
																																11
																																10
																																10
																																5
																																2
																																13
																																8
																																1
																																2
																																24
																																2
																																4
																																7
																																1

表V-2-6 区民アンケート調査の結果② 町名別にみた各対象種の報告件数(3/4)

町名	丁目	通期			春期										夏期																	
		H1	H2	H3(N3)	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	N2	N4	N5	N6	N7	N8	N9	N10	N11	N12										
		タヌキ	ハクビシン	ハクビシンorタヌキ	カルガモの親子	アオバズク	ツバメの巣	ウグイス	ヒキガエルの幼生	ヒキガエルの卵	アゲハチヨウの幼虫	クビキリギス	コブシ	ネジバナ	ムラサキケマン	アブラコウモリ	ヤモリ	トカゲ	アマガエル	ヒグラシ	カブトムシ	タマムシ	ベニシジミ	ヒダリマキマイマイ	ミスジマイマイ	カタツムリ類	ツユクサ	トキワツユクサ	ムラサキツユクサ	ツユクサ類		
三原台	二丁目														1								1									
	三丁目									1							1															
	一丁目															1																
石神井町	二丁目							1				1									1							1				
	三丁目						2					1														1						
	四丁目							1		1		3		1		1																
	五丁目				1							1	1					3						2					1			
	八丁目							4				3	2	2					2													
	一丁目																		1													
石神井台	一丁目				5	2		9	2	3	9	2	8		1	6		14	5	2			1				3					
	二丁目					1						1	1														1					
	三丁目										1	1															1					
	四丁目												1																			
	六丁目	1																														
	七丁目	1					1																									
	八丁目							1														1										
	一丁目						1													1												
上石神井	一丁目					1	1				2	2	2	1	1	2	3		2	1	6						5	1				
	二丁目																															
	三丁目	1	1	1			1		1			5	1		2		3		1		1		1				2			2		
	四丁目	3					1				2	1		4		1	2		1	1	1		4				1					
上石神井南町	一丁目																															
	二丁目																															
	五丁目																															
	一丁目						1							2		1												1			1	
下石神井	四丁目					1	2					3	1							1							1	1				
	五丁目						1								1		1	1		1					1	1		1	1	1		
	六丁目						1									1																
立野町	一丁目						1									1																
関町東	一丁目	1																														
関町南	四丁目									1		1																				
	五丁目									1																						
関町北	一丁目																															2
	二丁目											2	1							2							1					
	三丁目						2													2						1						
	四丁目											1	1							2			1			1	3					
	五丁目	1					1			1		1				1										1	2					
東大泉	一丁目																															
	二丁目																		1													2
	四丁目											1												2								
	五丁目																				1											
	六丁目					1	1					1	1																			
	七丁目								1	3			8		1		1															2

※H3のアオバズクは夏期にも調査対象としたが、記録は春期にまとめた。

秋期										冬期											丁目別合計	町名別合計												
A 2	A 3	A 4			A 5	A 6	A 7	A 8	A 9	A 10	W 2	W 3					W 4	W 5	W 6	W 7			W 8	W 9	W 10	W 11								
モズ	シヨウリヨウバツタ	ハラビロカマキリ	コカマキリ	チヨウセンカマキリ	オオカマキリ	カマキリ類	キチヨウ	アサギマダラ	ジグモの巣	ナガコガネグモ	ジヨロウグモ	クヌギ	アズマモグラ	マガモ	コガモ	オカヨシガモ	ヒドリガモ	オナガガモ	ハシビロガモ	ホシハジロ	キンクロハジロ	ミコアイサ	カモ類	カワセミ	コゲラ	ジョウビタキ	メジロ	オナガ	ルリタテハ	テントウムシ類	オオミノガ			
																																2		
																											1						3	5
													1	1					1	1		1			1	1	1	1				10		
																																	1	
	1	1		1	3		3																		1		3	2		2		21		
			1																													5	99	
																																7		
	1		1				1		1		1		3	2	1		4	2		3	1		1	1	1	1				2	36			
							1																			1	2	2				19		
		1	2	1	1	1	5	1	3	2	13	2	1	4	1		1	2	2	1	2	1	1	4	1	1	1	2			129			
																																4		
											1																					4	149	
																																1		
	1																															2		
			1																													3		
																																2		
																																3		
	1						14				1														1		4			1	25			
		2					4		1																		2				39	135		
			2								1															1	2				28			
	1	8				1	1																1	1	1	1	3			1	40			
																																1		
																																1	3	
														1	1		1	1		1				1	1	1	1				9			
						1																										7		
																																10	51	
	1		1		1		1		1			1															1		1		19			
	1						1																			1	1				6			
							1																									3	3	
																											1					2	6	
																																4		
																																1	3	
																											1					1		
							1																									3		
																																7		
												1	4						1	1	2	2		1	7	2	1	1	2		31	65		
																																13		
							1				1																					10		
													1	1			1											1				4		
																																3		
		1					1																									5	42	
																																1		
																																1		
																																4		
	1		1		1																				1	1	1					24		

表V-2-6 区民アンケート調査の結果② 町名別にみた各対象種の報告件数(4/4)

町名	丁目	通期			春期										夏期															
		H1	H2	H3 (N3)	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	N2	N4	N5	N6	N7	N8	N9	N10	N11	N12								
		タヌキ	ハクビシン	ハクビシン or タヌキ	カルガモの親子	ツバメの巣	ウグイス	ヒキガエルの幼生	ヒキガエルの卵	アゲハチヨウの幼虫	クビキリギス	コブシ	ネジバナ	ムラサキケマン	アブラコウモリ	ヤモリ	トカゲ	アマガエル	ヒグラシ	カブトムシ	タマムシ	ベニシジミ	ヒダリマキマイマイ	ミスジマイマイ	カタツムリ類	ツユクサ	トキワツユクサ	ムラサキツユクサ	ツユクサ類	
西大泉	一丁目						1										1									1				
	三丁目				1																									
	四丁目													1																
	六丁目													1			1		2											
	空白																													
南大泉	二丁目																													
	三丁目																													
	四丁目					1				1	1		2				1	1			1				1	1				
	五丁目																1													
	空白																													
大泉町	一丁目				1		2					2	1	6	1	2				1	1									
	二丁目						1	1				1		2			3			1	1		1					1		
	三丁目																													
	四丁目				1																									
	空白																													
大泉学園町	一丁目												1																	
	二丁目				1																1									
	六丁目																													
	七丁目										1	1																		
	九丁目																					1								
石神井公園	三宝寺池																													
	石神井池																													
	石神井公園																													
区内	関町																													
	大泉																													
空白					4		1			2		1	2	1	2	1	1	1		2							1			
件数合計		5	18	1	17	7	18	81	2	20	17	13	110	61	75	37	36	40	4	37	24	7	22	9	5	11	84	16	10	2
各期総計		24			421										344															

※H3のアオバズクは夏期にも調査対象としたが、記録は春期にまとめた。
 ※各期の合計の網掛けは、上位3種群

秋期										冬期										丁目別合計	町名別合計											
A2	A3	A4			A5	A6	A7	A8	A9	A10	W2	W3					W4	W5	W6			W7	W8	W9	W10	W11						
モズ	シヨウリヨウバツタ	ハラビロカマキリ	コカマキリ	チヨウセンカマキリ	オオカマキリ	カマキリ類	キチヨウ	アサギマダラ	ジグモの巣	ナガコガネグモ	ジヨロウグモ	クヌギ	アズマモグラ	マガモ	コガモ	オカヨシガモ	ヒドリガモ	オナガガモ	ハシビロガモ	ホシハジロ	キンクロハジロ	ミコアイサ	カモ類	カワセミ	コゲラ	ジョウビタキ	メジロ	オナガ	ルリタテハ	テントウムシ類	オオミノガ	
															1																	1
																								1								4
																																17
						1	2																				3				7	
																															4	
														1													1				2	
						1																									1	
																											1				11	
	1													1													1				3	
															1			1													8	
	1		2			1				1	3																		1		24	
			1			1					1																		1		16	
																											1				2	
						1																		1							3	
														1			1										1				1	
															1																3	
			1																								1				11	
											1																1	1			3	
		1																									1	1			16	
													2	3				1	3		2		1	2	1	1				1	24	
															1																7	
																								2	1	1	2				1	2
																															1	2
																															1	1
2	2	3			2	4	3			1	1	1		1	5			10								3	2	4	3		66	
14	24	16	12	4	11	22	61	2	14	7	24	20	8	21	35	1	1	44	10	3	11	2	10	22	26	29	83	44	8	4	3	66
		65					231						138										365					1,385				

※各期の合計の網掛けは、上位3種群

5) 各種の確認状況（町名単位）

①通期対象種

・タヌキ・ハクビシン（H1）

タヌキで5件、ハクビシンで18件、どちらか不明な種（ハクビシンかタヌキは区別がつかなかったもの）が1件の合計24件が得られた。

タヌキでは桜台、早宮、光が丘の3町から報告された。都立光が丘公園や豊島園、廣徳寺などに近いことから確認されたと考えられる。

ハクビシンは桜台、高松、南田中、石神井台、上石神井、関町東、関町北の7町から報告された。都立石神井公園や区立武蔵関公園などに近いことから確認された町が多いと考えられる。

どちらか不明な種は、上石神井から報告された。



図V-2-2 タヌキのアンケート結果（一般）



図V-2-3 ハクビシンのアンケート結果（一般）

②春期対象種

・カルガモの親子（H2）

17件が、向山、光が丘、旭町、石神井町、石神井台、上石神井、大泉町、大泉学園町の8町から得られた。

主に石神井川や白子川が流れる町での記録である。

・アオバズク（H3（N3））

7件が、早宮と石神井台の2町から得られた。

早宮は個人の屋敷林、石神井台は都立石神井公園での記録である。生物実態調査でもほとんど確認されておらず、早宮では録音された鳴き声を確認したことから、貴重な記録となる。

・ツバメの巣（H4）

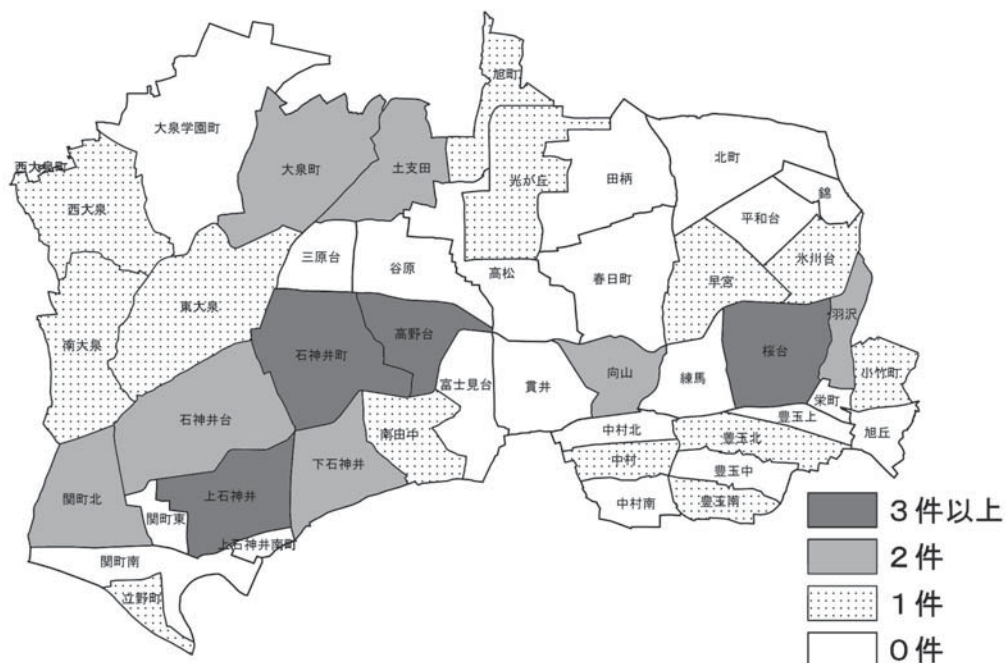
18件が、豊玉北、中村、貫井、高野台、石神井町、石神井台、上石神井、下石神井、東大泉、西大泉の10町から得られた。

※この中には、ツバメのみの記録は含んでいない。

・ウグイス（H5）

81件が、小竹町、羽沢、豊玉南、豊玉北、中村、桜台、向山、氷川台、早宮、光が丘、旭町、土支田、南田中、高野台、石神井町、石神井台、上石神井、下石神井、立野町、関町北、東大泉、西大泉、南大泉、大泉町の24町から得られた。

特徴的な声による確認が容易なこともあるが、区内の広い範囲に生息していることが把握された。



図V-2-4 ウグイスのアンケート結果（一般）

・ヒキガエルの卵（H6）

22 件が、豊玉北、中村北、春日町、光が丘、旭町、谷原、石神井台、上石神井、東大泉、大泉町の 10 町から得られた。なお、この中には幼生（いわゆるオタマジヤクシ）の記録も含めている。

大規模緑地である都立石神井公園や都立光が丘公園に含まれない町からも情報が得られているが、個人の庭などでの確認と考えられる。

・アゲハチョウ類の幼虫（H7）

17 件が、羽沢、練馬、向山、貫井、富士見台、三原台、石神井町、関町南、関町北の 9 町から得られた。なお、この中にはナミアゲハ、キアゲハなどアゲハチョウ類の幼虫についてはすべて含めている。

・クビキリギス（H8）

13 件が、中村北、光が丘、石神井台、上石神井、南大泉、大泉学園町の 6 町から得られた。

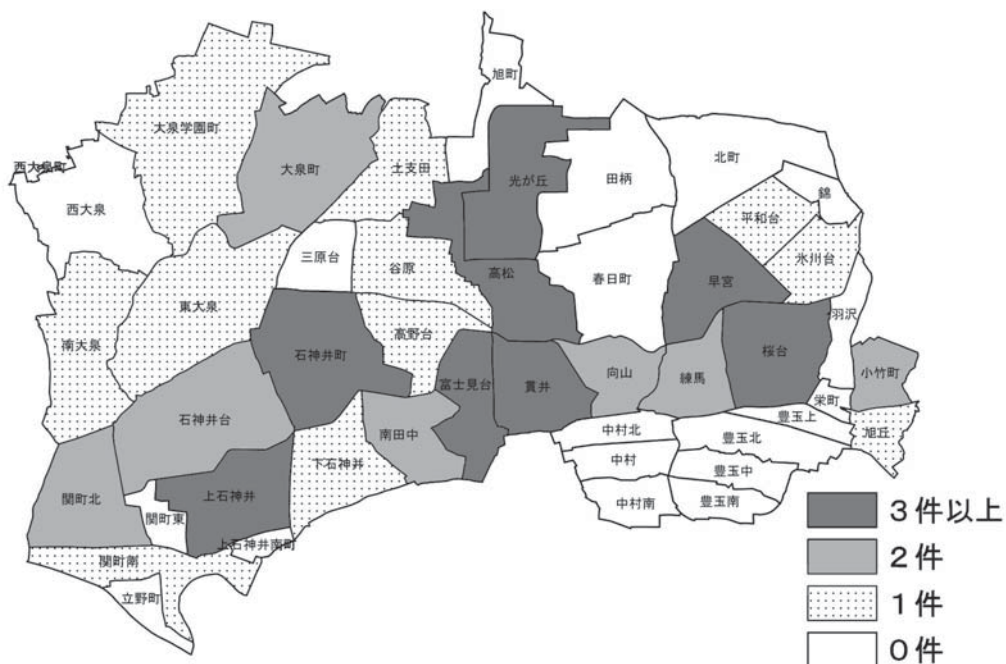
大規模緑地がある光が丘や石神井台のほか、畑地などの残っている大泉方面から確認された。

・コブシ（H9）

110 件が、旭丘、小竹町、桜台、練馬、向山、貫井、冰川台、平和台、早宮、高松、光が丘、土支田、富士見台、南田中、高野台、谷原、石神井町、石神井台、上石神井、下石神井、関町南、関町北、東大泉、南大泉、大泉町、大泉学園町の 26 町から得られた。

分布状況でも、区内の多くの地点、特に西側で確認されていた。

春期対象種では最も多くの情報が得られた種であるが、本種は「区の木」にも指定されており、多くの区民になじみが深かったことも一因と考えられる。



図V-2-5 コブシのアンケート結果（一般）

・ネジバナ（H10）

61 件が、中村、中村北、練馬、向山、貫井、早宮、春日町、高松、北町、田柄、光が丘、旭町、富士見台、高野台、石神井町、石神井台、上石神井、下石神井、関町北、東大泉、大泉町の 21 町から得られた。

分布状況では、区内の中央部にあたる大泉や石神井などの石泉地区、光が丘や向山周辺から報告が寄せられた。生物実態調査では、調査時期の関係から十分に分布を把握できなかったことから、貴重な記録となった。

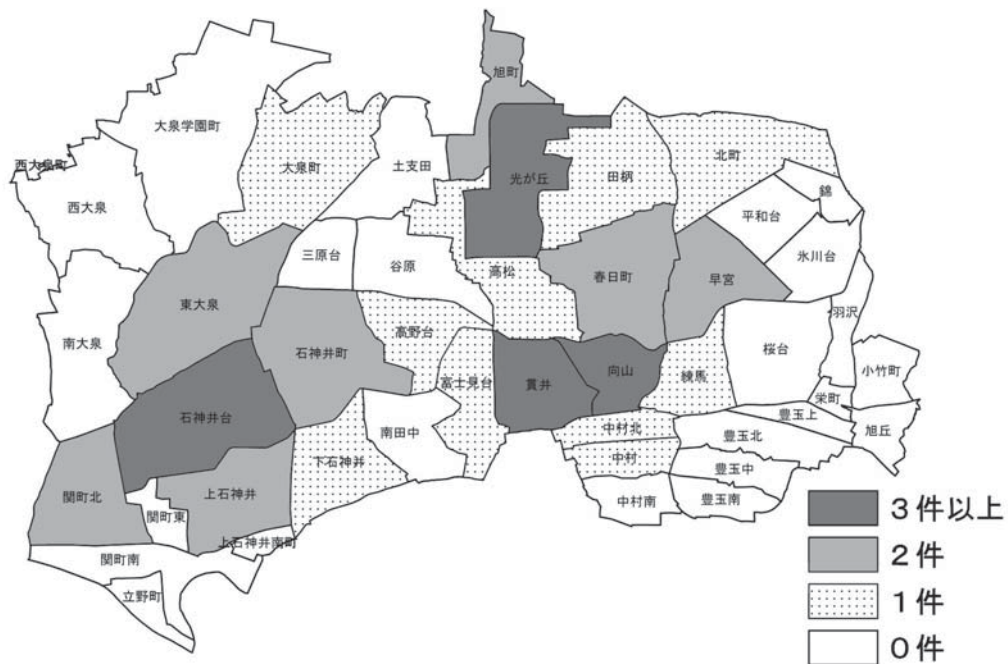


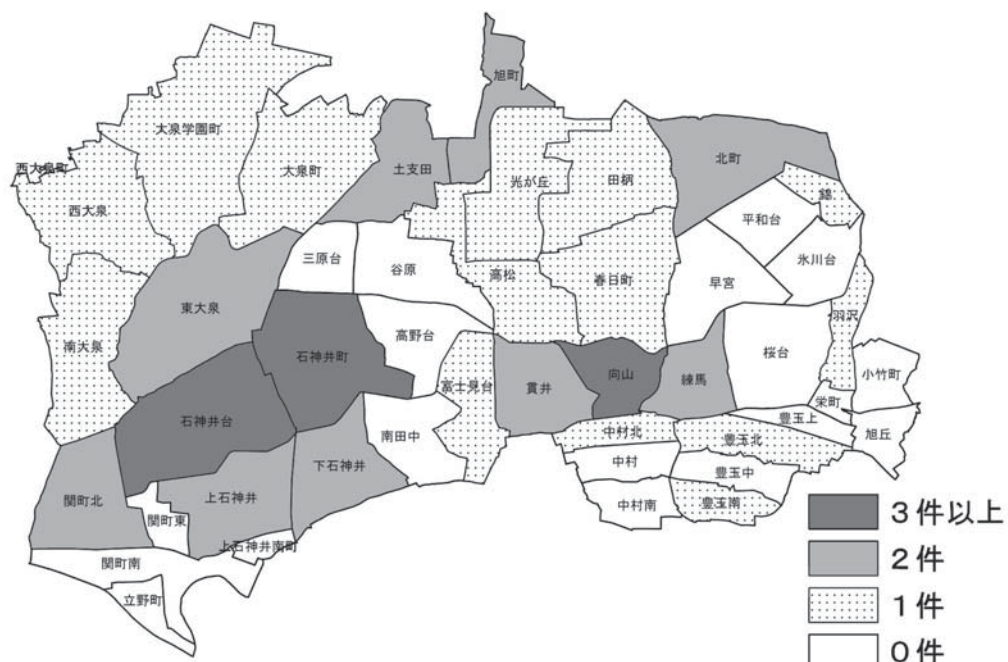
図 V-2-6 ネジバナのアンケート結果（一般）

・ムラサキケマン (H11)

75 件が、羽沢、豊玉南、豊玉北、中村北、練馬、向山、貫井、錦、春日町、高松、北町、田柄、光が丘、旭町、土支田、富士見台、石神井町、石神井台、上石神井、下石神井、関町北、東大泉、西大泉、南大泉、大泉町、大泉学園町の 26 町から得られた。

分布状況では、区の東部や中央部を除くほぼ全域から報告が得られた。

報告のあった町数はコブシと同じく最大であり、区内に広く分布していると考えられた。



図V-2-7 ムラサキケマンのアンケート結果 (一般)

写真 参加者から報告された種の写真（春期対象種）



カルガモの親子（H2） 5月19日



ツバメの巣（H4） 6月21日



ヒキガエルの卵（H6）



コブシ（H9） 3月13日



ムラサキケマン（H11）
とツマキチョウ 4月18日



ネジバナ（H10） 6月25日

③夏期対象種

・アブラコウモリ (N2)

37 件が、中村南、桜台、向山、貫井、早宮、高松、光が丘、旭町、土支田、富士見台、南田中、高野台、三原台、石神井町、上石神井、下石神井、立野町、西大泉、大泉町の 19 町から得られた。

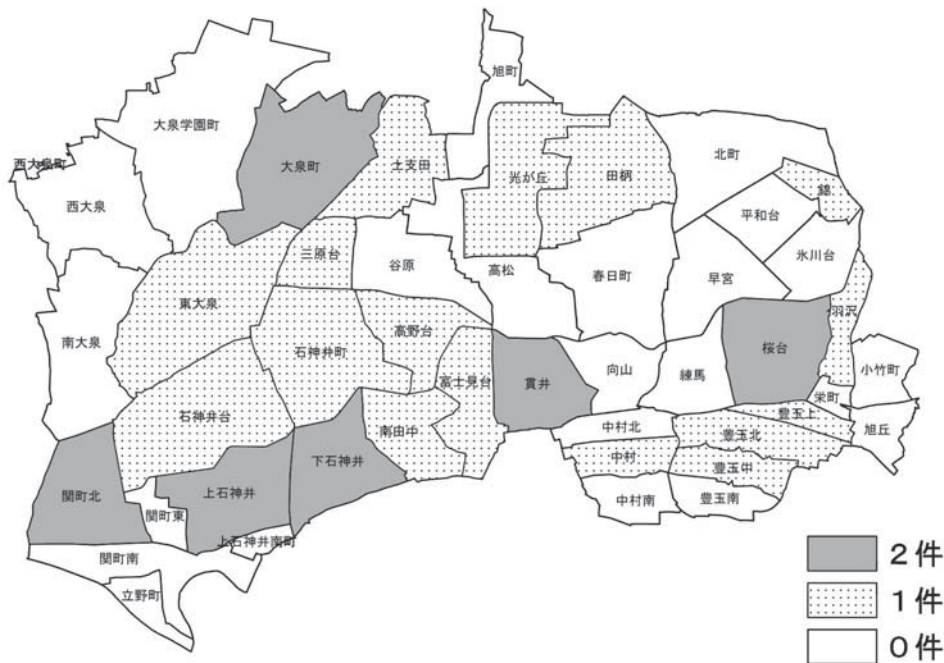
報告件数は少ないものの、報告のあった町数は多く、区内に広く分布していることが伺える。

・ヤモリ (N4)

36 件が、羽沢、豊玉上、豊玉中、豊玉北、中村、桜台、貫井、錦、田柄、光が丘、土支田、富士見台、南田中、高野台、三原台、石神井町、石神井台、上石神井、下石神井、関町北、東大泉、大泉町の 22 町から得られた。

分布状況では、豊玉周辺や石神井、大泉周辺から報告が寄せられた。

報告件数は少ないものの、報告のあった町数は多く、区内に広く分布していることが伺える。



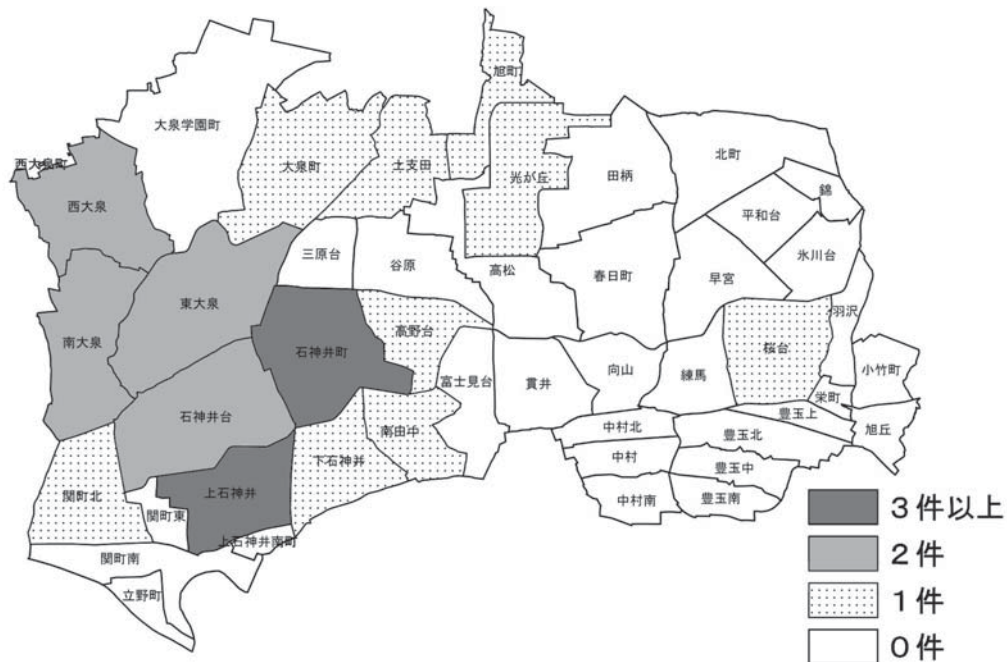
図V-2-8 ヤモリのアンケート結果（一般）

・トカゲ (N5)

40 件が、桜台、光が丘、旭町、土支田、南田中、高野台、石神井町、石神井台、上石神井、下石神井、関町北、東大泉、西大泉、南大泉、大泉町の 15 町から得られた。

分布状況では、ほとんどが区内の西部から報告が寄せられた。

カナヘビとの誤認の可能性があるが、写真などで確認されたものも多く、区内に点在していることが伺える。



図V-2-9 トカゲのアンケート結果 (一般)

・アマガエル (N6)

4件が、町名が分かったのは羽沢のみであった。
生物実態調査での確認数も少なく、区内の分布は非常に限られていると考えられる。

・ヒグラシ (N7)

37件が、桜台、氷川台、早宮、光が丘、石神井町、石神井台、上石神井、下石神井、関町北、東大泉、西大泉、南大泉、大泉町、大泉学園町の13町から得られた。
報告件数に比べ、報告のあった町数が少ない。都立石神井公園や光が丘公園、武蔵関公園などの大規模緑地とその周辺にのみ分布しているためと考えられる。

・カブトムシ (N8)

24件が、光が丘、旭町、土支田、高野台、石神井町、石神井台、上石神井、関町北、大泉町、大泉学園町の10町から得られた。

・タマムシ (N9)

7件が、光が丘、土支田、石神井台、東大泉、大泉町の5町から得られた。
大規模緑地である都立石神井公園や都立光が丘公園と、比較的緑地が残る大泉地域での確認に限られた。

・ベニシジミ (N10)

22件が、桜台、光が丘、旭町、谷原、三原台、石神井町、上石神井、東大泉、南大泉、大泉学園町の10町から得られた。

・カタツムリ類 (N11)

ヒダリマキマイマイが9件、ミズジマイマイが5件、カタツムリ類としての報告が11件

の、合計 25 件が得られた。全てを総合して確認された町名では、羽沢、豊玉中、桜台、向山、貫井、光が丘、旭町、南田中、高野台、石神井町、石神井台、下石神井、関町北、南大泉、大泉町の 15 町である。

・ツユクサ類 (N12)

ツユクサが 84 件、トキワツユクサが 16 件、ムラサキツユクサが 10 件、ツユクサ類が 2 件の合計 112 件が得られた。

ツユクサでは、羽沢、豊玉上、豊玉中、中村、桜台、練馬、向山、貫井、早宮、春日町、高松、田柄、光が丘、旭町、土支田、富士見台、南田中、高野台、石神井町、石神井台、上石神井、上石神井南町、下石神井、関町東、関町北、東大泉、西大泉、南大泉の 28 町から得られた。報告件数も多いが、報告のあった町数も多く、区内に広く分布していることが伺える。

トキワツユクサでは、羽沢、桜台、貫井、春日町、光が丘、旭町、土支田、富士見台、南田中、上石神井、下石神井の 11 町から得られた。

ムラサキツユクサでは、小竹町、羽沢、桜台、土支田、上石神井、下石神井、大泉町の 7 町から得られた。



図 V-2-10 ツユクサ類のアンケート結果 (一般)

写真 参加者から報告された種の写真（夏期対象種）



アブラコウモリ（N2） 8月17日



トカゲ（N5） 8月23日



アマガエル（N6） 8月20日



ベニシジミ（N10） 7月22日



カタツムリ類（ヒダリマキマイマイ）（N11）
7月8日



ツククサ類（ツククサ）（N12）
7月26日

④秋期対象種

・モズ（A2）

14 件が、春日町、光が丘、石神井町、石神井台、上石神井、下石神井、東大泉、大泉町の 8 町から得られた。

分布状況では、大規模緑地である都立石神井公園や都立光が丘公園と、比較的緑地が残る大泉地域での確認に限られた。

アンケート調査の結果ではあるが、分布がやや偏っている可能性が示唆された。



図V-2-11 モズのアンケート結果（一般）

・ショウリョウバッタ（A3）

24 件が、豊玉上、豊玉中、高松、光が丘、富士見台、南田中、高野台、石神井町、石神井台、上石神井、東大泉、南大泉の 12 町から得られた。

・カマキリ類 (A4)

ハラビロカマキリが 16 件、コカマキリが 12 件、オオカマキリが 11 件、チョウセンカマキリが 4 件、カマキリ類が 22 件の合計 65 件が得られ、秋期では最大の報告件数であった。

ハラビロカマキリでは、桜台、旭町、富士見台、石神井町、石神井台、上石神井、大泉町、大泉学園町の 8 町から得られた。

コカマキリでは、羽沢、豊玉中、桜台、貫井、土支田、高野台、石神井町、石神井台、下石神井、東大泉、大泉学園町の 11 町から得られた。

オオカマキリでは、豊玉中、桜台、土支田、石神井台、上石神井、下石神井、東大泉、南大泉、大泉学園町の 9 町から得られた。

チョウセンカマキリでは、石神井町、石神井台の 2 町から得られた。本種は生物実態調査では確認されていないため、注目される報告である。

種名が分からないものは、カマキリ類として扱い、羽沢、錦、早宮、高松、光が丘、旭町、土支田、谷原、下石神井、関町北、西大泉、大泉町の 12 町から得られた。

上記すべてをカマキリ類とすると、羽沢、豊玉中、桜台、貫井、錦、早宮、高松、光が丘、旭町、土支田、富士見台、高野台、谷原、石神井町、石神井台、上石神井、下石神井、関町北、東大泉、西大泉、南大泉、大泉町、大泉学園町 23 町から得られた。

すべてを総合した分布状況では、区の中央部から西部にかけて、特に石神井や大泉周辺での報告が多い。アンケート調査ではあるが、分布がやや西に偏っている可能性が示唆される。

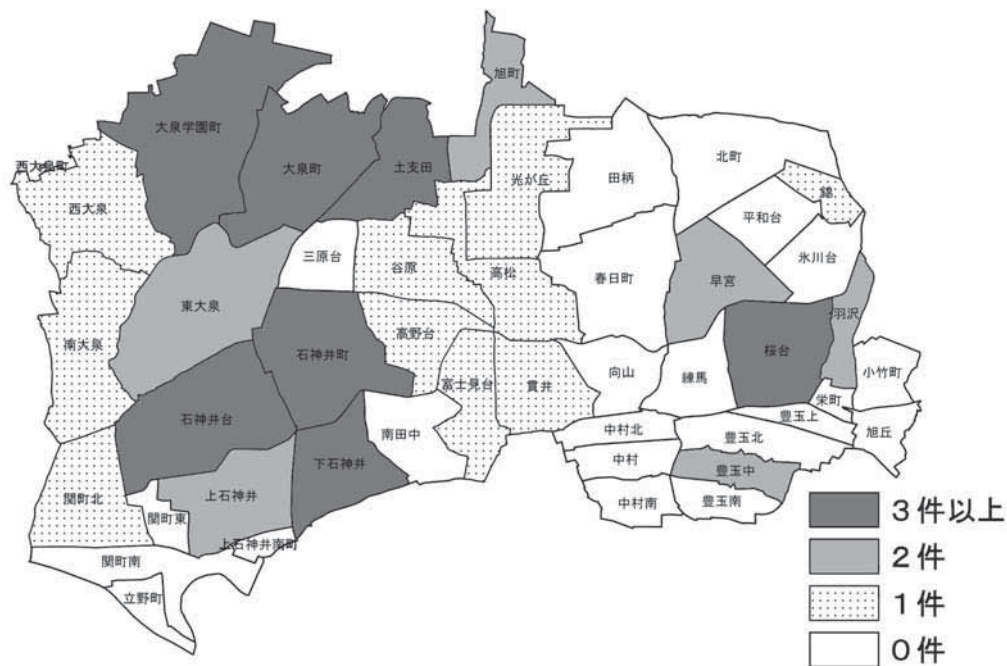
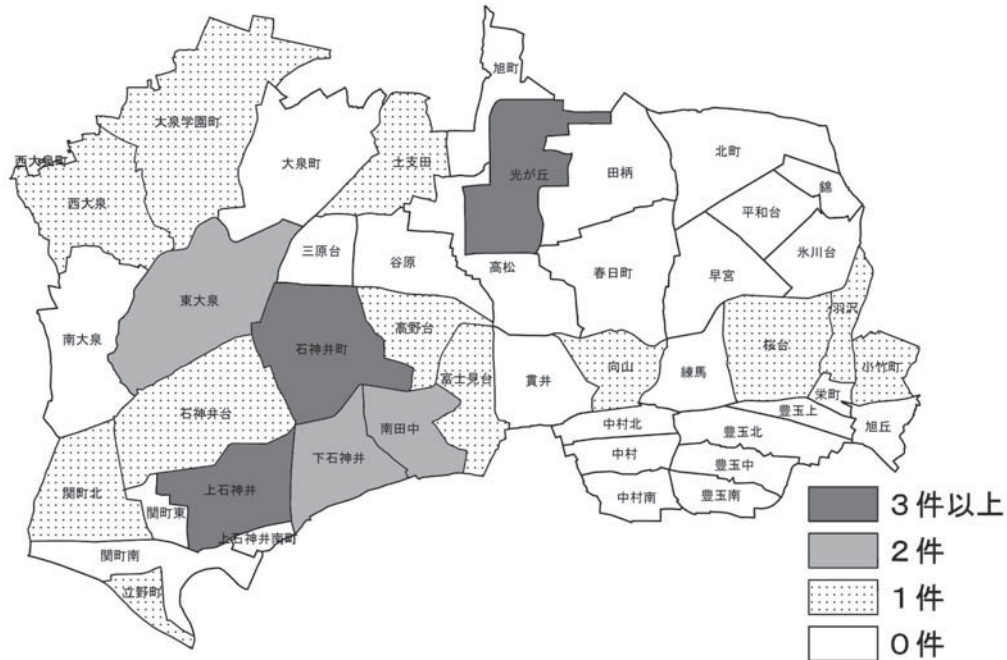


図 V-2-12 カマキリ類のアンケート結果

・キチヨウ（A5）

61 件が、小竹町、羽沢、桜台、向山、光が丘、土支田、富士見台、南田中、高野台、石神井町、石神井台、上石神井、下石神井、立野町、関町北、東大泉、西大泉、大泉学園町の 18 町から得られた。秋期では 2 番目に報告件数の多い種であった。

分布状況では、区内の西半分、特に石神井や大泉周辺からの報告が多かった。報告件数とともに、報告のあった町数も比較的多いものの、区内の分布にやや偏りがあることが示唆された。



図V-2-13 キチヨウのアンケート結果

・アサギマダラ（A6）

2 件が、石神井台から得られた（1 件は区内であることのみ把握された）。

本種は主に秋の渡りの時に通過すると考えられている。限られた時期に見られる種であることから、報告件数が少なかったと考えられる。

・ジグモの巣（A7）

14 件が、小竹町、羽沢、桜台、光が丘、土支田、石神井町、石神井台、上石神井、下石神井、大泉学園町の 10 町から得られた。報告件数は少ないが、比較的多くの町から報告されていると考えられる。

・ナガコガネグモ（A8）

7 件が、光が丘、石神井台の 2 町から得られた。

大規模緑地である都立石神井公園や都立光が丘公園での確認に限られたと考えられる。

・ジョロウグモ（A9）

24 件が、小竹町、高松、光が丘、旭町、石神井町、石神井台、上石神井、関町北、大泉町、大泉学園町の 10 町から得られた。

本種の成体のメスは目立つ形態をしていることを考慮すると、やや報告件数が少なかったと考えられる。

・クヌギ (A10)

20 件が、春日町、高松、光が丘、旭町、富士見台、谷原、石神井台、大泉町の 8 町から得られた。

本種は区内に点在するいわゆる「武蔵野の雑木林」の構成種でもあることを考慮すると、やや報告件数が少ないと考えられる。

写真 参加者から報告された種の写真（秋期対象種）



モズ（A2） 10月27日



カマキリ類（コカマキリ）（A4）10月24日



キチョウ（A5）



アサギマダラ（A6）



ジグモの巣（A7） 11月24日



ナガコガネグモ（A8） 9月20日

⑤冬期対象種

・アズマモグラ (W2)

8 件が、光が丘、石神井台、下石神井、関町北の 4 町と石神井公園から得られた。
本種の確認は、いわゆる「モグラ塚」で行うが、非常に報告件数が少なかったと考えられる。

・カモ類 (W3)

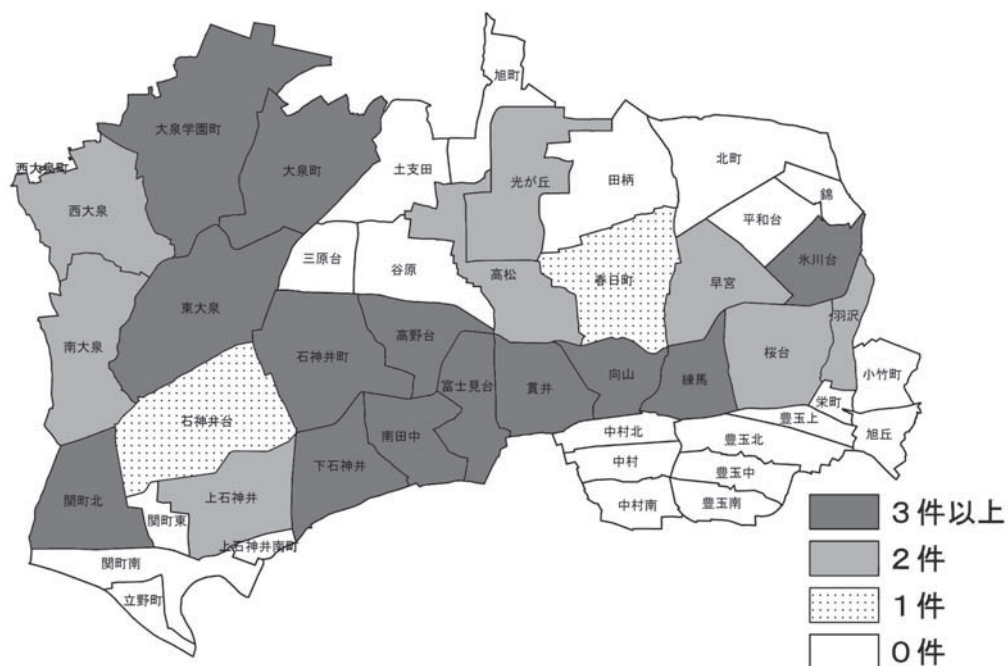
全てのカモ類を含めると 138 件が得られ、冬期では最も多い報告件数である。種類では、マガモ、コガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサの 9 種が含まれている。

羽沢、桜台、練馬、向山、貫井、氷川台、早宮、春日町、高松、光が丘、富士見台、南田中、高野台、石神井町、石神井台、上石神井、下石神井、関町北、東大泉、西大泉、南大泉、大泉町、大泉学園町の 23 町から得られた。

マガモの報告については、アヒルの可能性もあると考えられる。

ヒドリガモは石神井台で、ミコアイサは石神井町と石神井台から報告されているが、生物実態調査では確認されておらず、貴重な記録である。

分布状況では、区内の 3 箇所の池のほか、石神井川や白子川の流域周辺にあたる町からも報告があった。



図V-2-14 カモ類のアンケート結果 (一般)

・カワセミ (W4)

22 件が、光が丘、高野台、石神井町、石神井台、下石神井、関町北の 6 町および石神井公園から得られた。

本種は池沼で魚やエビ類などの水生生物を食べることから、都立石神井公園、都立光が丘公園、区立武蔵関公園のような水辺のある町で確認されたと考えられる。

・コゲラ (W5)

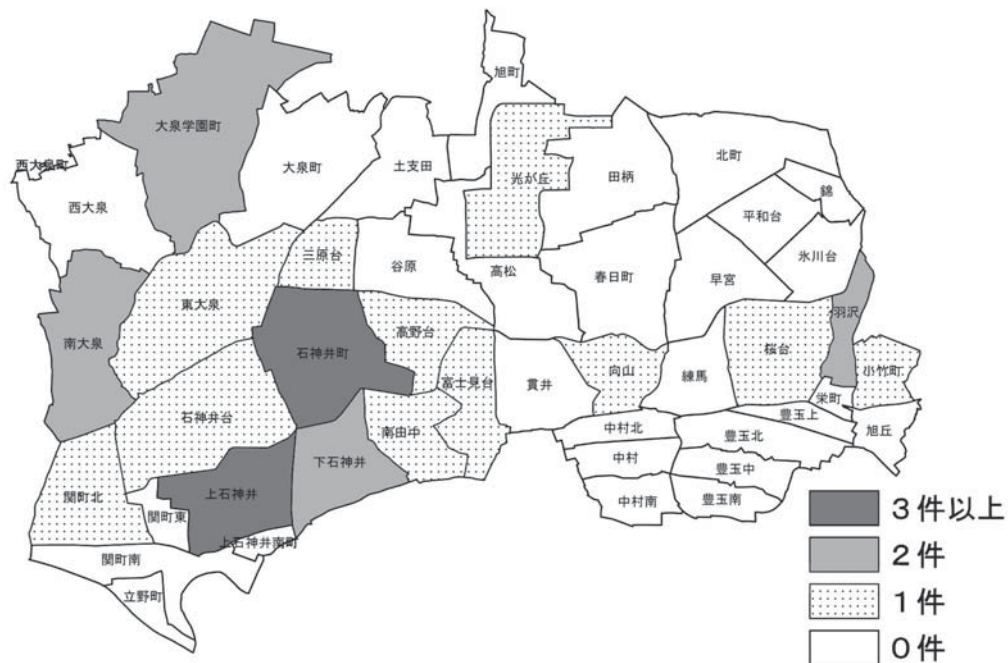
26 件が、羽沢、豊玉南、向山、氷川台、早宮、光が丘、南田中、高野台、谷原、石神井町、石神井台、上石神井、下石神井、関町北、東大泉の 14 町および石神井公園から得られた。

本種は近年市街地に適応している種であり、今後も引き続き調査を行うことで、適応状況の推移が把握できると考えられる。

・ジョウビタキ (W6)

29 件が、小竹町、羽沢、桜台、向山、光が丘、富士見台、南田中、高野台、三原台、石神井町、石神井台、上石神井、下石神井、関町北、東大泉、南大泉、大泉学園町の 17 町から得られた。

本種は樹林の林縁と草地や畑などの開けた空間を好む種であり、大規模緑地の他に、大泉地区や石神井地区からの記録が得られたと考えられる。また、向山や羽沢などからも報告があり、これらの地域にも比較的開けた空間が広がっていることが伺える。



図V-2-15 ジョウビタキのアンケート結果 (一般)

・メジロ (W7)

83 件が、小竹町、羽沢、豊玉中、豊玉北、中村南、桜台、練馬、向山、貫井、錦、氷川台、早宮、春日町、高松、田柄、光が丘、旭町、土支田、富士見台、南田中、高野台、石神井町、石神井台、上石神井、下石神井、関町東、関町北、東大泉、西大泉、南大泉、大泉町、大泉学園町の 32 町から得られた。冬期ではカモ類について 2 番目に多い報告件数である。

分布状況では、区の南東部を除いてほぼ全域から報告されていた。

報告件数が多いだけでなく、報告のあった町数も多く、区内に広く分布している状況が伺える。



図V-2-16 メジロのアンケート結果 (一般)

・オナガ (W8)

44 件が、小竹町、羽沢、豊玉中、豊玉南、中村、桜台、向山、貫井、早宮、光が丘、旭町、富士見台、南田中、高野台、石神井町、石神井台、上石神井、関町北の 18 町から得られた。

分布状況では、区内の南部からの報告が多かった。本種の選好する開けた空間と樹林地の組み合わせは、区の北部に多いと考えられるため、意外な結果となった。実際には、より住宅地に入り込んでいる可能性もあり、生物実態調査も含めた今後の調査が注目される種である。



図V-2-17 オナガのアンケート結果 (一般)

・ルリタテハ (W9)

8 件が、向山、旭町、下石神井、関町北、大泉町の 5 町から得られた。

本種は成虫の姿で越冬する種であることから冬期の対象種としたが、4、6、8 月の記録も得られた。

・テントウムシ類 (W10)

4 件が、石神井町、上石神井、下石神井の 3 町から得られた。

ここでは越冬中の個体を対象としているため、夏期などの記録は除外している。

報告件数が少なかった原因として、冬期の本种群の確認にはある程度の探索努力や越冬場所についての知識が必要であったことが可能性として考えられる。

・オオミノガ (W11)

3 件が、石神井町、上石神井の 2 町から得られた。

冬期の本種は大型で動かないことから報告されやすいと考えたが、4 期を通じて最も報告件数が少なかった。

写真 参加者から報告された種の写真（冬期対象種）



アズマモグラ (W2) 12月29日



カモ類 (オカヨシガモ) (W3) 12月1日



カモ類 (ミコアイサ) (W3) 12月3日



カワセミ (W4) 12月29日



テントウムシ類 (ナナホシテントウ)
(W10) 1月17日



オオミノガ (W11) 12月31日

6) 対象種外の集計

対象種外の集計について、表V-2-7に示した。

表V-2-7 アンケート調査対象種外の集計（その1）

分類群	項目数	報告件数
鳥類	39	230 (36.9%)
昆虫類	75	194 (31.1%)
植物・菌類	87	129 (20.7%)
哺乳類	1	2 (0.3%)
爬虫類	6	17 (2.7%)
両生類	5	38 (6.1%)
貝類	2	2 (0.3%)
その他	9	12 (1.9%)
合計	224	624

※項目とは、種名が明らかなものと不明であったものを含めたもの

表V-2-7より、224項目624件の報告があった。

項目数については、植物が87項目と最も多く、昆虫類の75項目、鳥類の39項目などと続いた。

件数については、鳥類が230件(36.9%)と最も多く、昆虫類の194件(31.1%)、植物・菌類の129件(20.7%)と続いた。項目数では少なかった両生類は、ヒキガエルの報告件数が多かったため、38件(6.1%)と分類群では4番目に多くなった。

鳥類については、昆虫類や植物と比較して区内に生息する種数は少ないものの、区民の興味関心が高く、件数が多かったものと考えられる。

昆虫類については、項目数、報告件数ともに高く、鳥類と同様に区民の興味・関心が高いことが分かる。

植物については、項目数は一番多いものの、報告件数では鳥類・昆虫類と比較するとやや少なかった。身の回りに多くの種が見られることから、対象としての絞り込みが難しかった可能性がある。

その他の分類群については、両生類ではヒキガエル、爬虫類ではカナヘビの報告件数が多かった。

表V-2-8 対象種外のうち5件以上の報告があった種

No.	集計用種名	対象種分類	報告件数	備考
1	カルガモ	鳥類	69	
2	ツバメ	鳥類	38	
3	ヒキガエル	両生類	27	「ガマガエル」含む
4	シジュウカラ	鳥類	18	
5	ヒヨドリ	鳥類	12	
6	ツクツクボウシ	昆虫類	12	
7	カイツブリ	鳥類	12	卵や雛の報告含む
8	ムクドリ	鳥類	11	
9	アブラゼミ	昆虫類	11	抜け殻の報告含む
10	モンシロチョウ	昆虫類	10	
11	カナヘビ	爬虫類	9	
12	オンブバッタ	昆虫類	9	
13	コナラ	植物	8	
14	ドクダミ	植物	7	
15	シラカシ	植物	7	
16	アゲハチョウ	昆虫類	7	
17	バン	鳥類	6	
18	ハクセキレイ	鳥類	6	
19	クロアゲハ	昆虫類	6	
20	オタマジャクシ	両生類	6	
21	カナブン	昆虫類	6	
22	バッタ類	昆虫類	5	
23	ニイニイゼミ	昆虫類	5	抜け殻の報告含む
24	ナミアゲハ	昆虫類	5	
25	ツマグロヒョウモン	昆虫類	5	幼虫の報告含む
26	スタジイ	植物	5	
27	シオカラトンボ	昆虫類	5	
28	ゴイサギ	鳥類	5	
29	アメンボ	昆虫類	5	
		合計	337	

5件以上の報告があったのは、表V-2-8に示す29項目であった。

このうち、上位の3種は、調査対象種ではあるが、特定の行動や形態などに該当しなかったものが占めていた。

同様に、対象種の類似種など、関係した種の報告件数も多かった。

一方で、上記のような関係性が見出しにくい種であるシジュウカラやヒヨドリ、カイツブリ、バン、ドクダミなどは、区民にとってなじみのある種と考えられる。

対象種外のうち、注目される種の一覧を表V-2-9に示す。

表V-2-9 対象種外のうち注目される種の一覧

分類群	集計用種名	報告件数	報告場所	備考
鳥類	オオタカ	1	関町北	国RL記載種
	ツミ	1	大泉学園町	都RL(区部)記載種
	カッコウ	1	石神井台	専門調査未確認種
	カモメ	1	不明	ユリカモメか? 専門調査未確認種
	アオゲラ	2	石神井台 大泉学園町	都RL(区部)記載種 区内の生息数が少ない
	マミチャジナイ	1	南田中	専門調査未確認種
	レンジャク類	1	下石神井	区内の生息数が少ない
	ホオジロ	2	富士見台、谷原	区内の生息数が少ない
昆虫類	ハグロトンボ	3	貫井	都RL(区部)記載種
	カンタン	4	上石神井	区内の生息数が少ない
	アカボシゴマダラ	4	錦、旭町、土支田	環境省 要注意外来生物
爬虫類	アオダイショウ	3	早宮、光が丘、 石神井台	都RL(区部)記載種
植物	キンラン	1	関町北	都RL(区部)記載種
	合計	25		

<鳥類>

国 RL 記載種であるオオタカや都 RL (区部) 記載種のツミ、アオゲラが確認された。すべて生物実態調査でも確認されているが、ツミの場合は大泉学園町での記録であり、新たな記録の可能性はある。大泉学園町でのアオゲラの報告についても、繁殖していた記録であり写真もあることから貴重な記録である。

カッコウやマミチャジナイについては、生物実態調査では未確認の種である。両種ともに渡りの際に通過する可能性は十分にあることから、今後の調査の際の参考になると考えられる。レンジャク類、ホオジロについては、区内での生息数が少なく、貴重な記録である。

<昆虫類>

都 RL (区部) 記載種のハグロトンボが確認された。住所が分かるのは貫井であるが、石神井川の記録と考えられる。生物実態調査の対象エリアではないため、貴重な記録である。

カンタンについては、上石神井で確認されているが、区内の生息数が少ない種であり、貴重な記録である。

アカボシゴマダラについては、環境省の要注意外来生物に指定されている。生物実態調査でも確認されているが、錦、旭町、土支田で確認された。生物実態調査の記録と合わせ、今後注目していくべき種と考える。

<爬虫類>

都 RL (区部) 記載種のアオダイショウが確認された。生物実態調査でも確認されているが、確認数が少なく貴重な記録と考えられる。また、表には記載していないが、「ヘビ」としての記録が2件(石神井町・大泉町)報告された。生物実態調査により区内で生息が確認されたヘビ類は、アオダイショウとヒバカリの2種であり、そのいずれもが都 RL (区部) 記載種である。トカゲ類などとの混同も少ないと考えられ、貴重な記録と考えられる。

<植物>

都 RL (区部) 記載種のキンランが確認された (関町北)。生物実態調査でも確認されているが、確認数が少なく貴重な記録と考えられる。

※種の同定については、調査者個人の能力に負うところが多いため、正式な記録としての扱いは難しいことに注意が必要である。

(2) 小学校向け

1) 結果概要

夏期に 11 校、秋期に 2 校の計 13 校が参加した。この概要を表 V-2-10 に示す。

参加学年は 3~6 年生であったが、3 年生が 8 校と最も多かった。

クラス数では、13 校で合計 38 クラスが参加した。1 校あたりでは、1~5 クラスと幅があった。

参加児童数では、13 校で合計 1,113 人が参加した。1 校あたりでは、31 人（豊玉第二小）~169 人（中村小学校）と幅があった。なお、早宮小学校では、教師により調査票が集計されていたため、参加予定人数（104 人）で算出している。

報告件数では、合計 4,549 件が得られた。このうち対象種は 1,947 件（42.8%）、位置情報（町名まで）も伴っていたものは 1,291 件（28.4%）であった。対象種については、誤認の可能性が高いものも散見されたが、確認することはできないため、そのまま扱った。

2) 対象種

各対象種の報告件数を表 V-2-11 に示す。

夏期対象種である 11 種・種群、秋期対象種である 9 種・種群、通期対象種である 1 種のすべてについて、報告があった。これらについての報告件数は前述のように 1,947 件である。

このうち、夏期の対象種のものが 1,615 件（春期の対象種でもあるアオバズク含む）、秋期のものが 272 件、通期のハクビシン・タヌキが 35 件であったが、対象期ではない春期のものが 4 種・種群 26 件（アオバズク除く）、冬期のものが 4 種 12 件含まれていた。

①夏期対象種

夏期の対象種では、アブラコウモリが 253 件で最も多く、トカゲの 237 件、ヤモリの 219 件と続き、その他にもヒグラシが 206 件、ツユクサ類が 197 件、ベニシジミが 182 件と多くの情報が得られた。

トカゲについては、カナヘビとの誤認の可能性が考えられるが、アブラコウモリ、ヤモリについては、形態やその行動（夜行性であること、壁などに張り付くことなど）から誤認の可能性は少ないと考えられる。一方、同封された写真からベニシジミはツマグロヒョウモンなどとの誤認が多く、その扱いに注意が必要である。同じくアオバズクについても、調査票への記載事項や、生物実態調査でもほとんど確認されていないことから、ほとんどが誤認であると考えられる。

②秋期対象種

秋期の対象種では、カマキリ類が 146 件と最も多く、ショウリョウバッタの 78 件、キチョウの 27 件と続いた。

カマキリ類については、その独特の形態（前脚が鎌状になっていること）から、誤認の可能性は少ないと考えられる。一方、ショウリョウバッタについては、オンブバッタとの誤認の可能性があり、その扱いには注意が必要である。

報告件数では、前述の 3 種・種群以外はいずれも 1 桁であり、参加小学校が少ないことを考慮しても児童の興味の対象とならなかった可能性がある。今後、種の選定の際の検討課題になると考えられる。

表V-2-10 小学校向けアンケートの集計結果① 結果概要

調査期	No.	小学校名	参加 学年	クラス 数	参加 児童数	全調査 件数	対象種件数 (下段:全調査件数に占める割合)	
							全対象種 件数	位置情報 あり
夏期	1	光が丘春の風小学校	4年生	3	83	280	180 64.3%	146 52.1%
	2	石神井東小学校	6年生	2	47	214	43 20.1%	28 13.1%
	3	大泉第二小学校	3年生	4	111	522	136 26.1%	61 11.7%
	4	大泉学園緑小学校	4年生	4	130	719	149 20.7%	71 9.9%
	5	中村小学校	3年生	5	169	675	332 49.2%	227 33.6%
	6	中村西小学校	3年生	2	49	148	103 69.6%	68 45.9%
	7	関町小学校	4年生	3	98	421	237 56.3%	156 37.1%
	8	早宮小学校 ※	5年生	3	104	100	98 98.0%	81 81.0%
	9	春日小学校	3年生	2	46	348	99 28.4%	38 10.9%
	10	南田中小学校	3年生	2	36	203	65 32.0%	36 17.7%
	11	光和小学校	3年生	4	141	641	415 64.7%	327 51.0%
秋期	12	谷原小学校	3年生	3	68	171	76 44.4%	46 26.9%
	13	豊玉第二小学校	3年生	1	31	107	14 13.1%	6 5.6%
合計			-	38	1,113	4,549 100.0%	1,947 42.8%	1,291 28.4%

※早宮小学校の調査票は、一度教師により集計されているため、参加児童数は予定の数値を記載。
 ※明らかな区外・調査期外などの記録は除外している。

表V-2-11 小学校向けアンケートの集計結果② 各対象種の報告件数

参加時期			夏期											秋期		種別 合計	季節別 合計	
各種 整理 時期	種記号	種名	No.															
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13			
			光が丘春の風小学校	石神井東小学校	大泉第二小学校	大泉学園緑小学校	中村小学校	中村西小学校	関町小学校	早宮小学校	春日小学校	南田中小学校	光和小学校	谷原小学校	豊玉第二小学校			
春期	H1	タヌキ					5	1	4	2	7			4		23	61	
		ハクビシン	2		2	1	1			2		2	2			12		35
	H2	カルガモの親子	1													1		
	H3(N3)	アオバズク				2	2		6				3			13		
	H7	アゲハチョウの幼虫	1		3	2						1	1			8		
	H8	クビキリギス							1					1		2		
	H10	ネジバナ										2			2			
夏期	N2	アブラコウモリ	29	4	7	12	66	15	18	22	30	2	48			253	1,602	
		N4	ヤモリ	30	5	19	9	34	16	22	17	5	8	50	4			219
		N5	トカゲ	11	13	28	24	18	6	33	19	10	14	59	2			237
		N6	アマガエル	5	1	2	5	9		7	1	2		8				40
		N7	ヒグラシ	27	2	5	3	35	15	47	7	1	4	60				206
		N8	カブトムシ	14	7	15	20	29	5	19	12	5	8	35				169
		N9	タマムシ	9	1	2	11	5			2		4	8	1			43
		N10	ベニシジミ	26	5	8	6	39	10	35				53				182
		N11	ウスカワマイマイ											1				1
			ヒダリマキマイマイ			1	1	1	2	1				2				8
	ミスジマイマイ		1				1						2			4		
	カタツムリ類		2		4	1	8		7	1	3	1	5		11	43		
	N12	ツユクサ	9				40	27	20	12		3	56			167		
		トキワツユクサ	2			1	3	1	2				4			13		
ムラサキツユクサ				1		3		3	1			7			15			
ツユクサ類												2			2			
秋期	A2	モズ							1					1		2	272	
	A3	シヨウリョウバツタ	5	2	11	18	8	1	3		13	4	2	8	3	78		
	A4	オオカマキリ	1		2	3						1		11		18		
		コカマキリ				3					1	1		1		6		
		チョウセンカマキリ												1		1		
		ハラビロカマキリ	2			1	2	1	1					2		9		
		カマキリ	2		26	20		1	5		1	9	1	15		80		
	カマキリ類		3			18					11				32			
	A5	キチョウ	1			4	1	1	1		4	1	1	13		27		
	A6	アサギマダラ												1		1		
A7	ジグモの巣									1	1		3		5			
A8	ナガコガネグモ					1					1	1			3			
A9	ジョロウグモ					1		2				1	3		7			
A10	クヌギ												3		3			
冬期	W2	アズマモグラ											2		2	12		
	W4	カワセミ				1					5		1		7			
	W7	メジロ					1								1			
	W9	ルリタテハ				1	1								2			
合計			180	43	136	149	332	103	237	98	99	65	415	76	14	1,947		
			1,857											90				

※明らかな区外・調査期外などの記録は除外している。

※夏期調査対象種の網掛けは上位5種群、秋期調査対象種の網掛けは上位3種群

表V-2-12 小学校向けアンケートの集計結果③ 町名別にみた各対象種の調報告件数 (1/3)

町名	丁目	春期					夏期																
		H1	H3 (N3)	H7	H8	H10	N2	N4	N5	N6	N7	N8	N9	N10	N11			N12					
		タヌキ	ハクビシン	アオバズク	アゲハチヨウの幼虫	クビキリギス	ネジバナ	アブラコウモリ	ヤモリ	トカゲ	アマガエル	ヒグラシ	カブトムシ	タマムシ	ベニシジミ	ウスカワマイマイ	ヒダリマキマイマイ	ミスジマイマイ	カタツムリ類	ツユクサ	トキワツユクサ	ムラサキツユクサ	ツユクサ類
豊玉上	一丁目																						
	二丁目																		5				
豊玉中	四丁目																			1			
豊玉南	二丁目																			1			
	三丁目							3				2	1		1					1	1		
	四丁目																			1			
豊玉北	三丁目														1								
	六丁目							1	1										1	1			
中村	一丁目	1						5	1	4	1	10	8		2				1	6		1	
	二丁目							20	6	2	2	2	1		4				3			1	
	三丁目							3	6			1			3		1			2	1		
中村南	一丁目											1							1				
	二丁目	2						6	2		1	3	5		2					2			
	三丁目							1	3		1	2	1		4					5			
	三丁目	1						2	3		1				1		1			3			
中村北	一丁目							1				1											
	二丁目	1		1				5	3			1			1					2			
	三丁目											1			1								
	四丁目							3	2			4			2					19			
関町南	一丁目											1											
	四丁目							3	3	2	1	9			2					4			
関町北	一丁目											1										1	
	二丁目			1				1			1	2	1		1					1			
	三丁目	1						2	9	7		5	1		6				3	1			
	四丁目			1				1		1		1			1					1			
	五丁目	1																					
	武蔵関公園 (三丁目)							1	1	4	1	7	11		4					4			
桜台	六丁目		1				1				1								1				
練馬	一丁目						1																
	三丁目											1											
	四丁目									1		1											
	五丁目									1													
向山	三丁目								1			1	3		1								
	豊島園 (三丁目)							7		1	1		2		2								
貫井	一丁目						1																
	二丁目						1				1		2										
	三丁目																			1			
	三丁目	1																					
平和台	三丁目																						
早宮	一丁目							2	2	2		1							1	2		1	
	二丁目		1					1	3	1			1										
	三丁目	1						5	8	8	1	2	6										
	四丁目							5	2	3		1								1			

※H3のアオバズクは夏期にも調査対象としたが、記録は春期にまとめた。

秋期										冬期			丁目別合計	町名別合計				
A 2	A 3	A 4				A 5	A 6	A 7	A 8	A 9	A 10	W 4			W 7	W 9		
モズ	シヨウリヨウバツタ	オオカマキリ	コカマキリ	チヨウセンカマキリ	ハラビロカマキリ	カマキリ	カマキリ類	キチヨウ	アサギマダラ	ジグモの巣	ナガコガネグモ	ジヨロウグモ	クヌギ	カワセミ	メジロ	ルリタテハ		
					1												1	6
																	5	
																	1	11
																	1	
																	9	
																	1	6
						1											1	
								1	1								42	103
								1							1		43	
	1																18	
																	2	63
	1						1										25	
	2						4				1						24	
																	12	50
																	3	
																	14	
																	2	
							1										31	26
	1																1	
																	25	89
																	2	
																	1	
					1												8	
																	35	
																	6	
																	1	
							1					1					36	
																	4	6
																	1	
																	1	
							1										2	
																	2	20
																	6	
																	14	6
								1									1	
																	1	
																	3	
																	1	61
																	1	
																	11	
																	7	
																	31	
																	12	

表V-2-12 小学校向けアンケートの集計結果③ 町名別にみた各対象種の報告件数 (2/3)

町名	丁目	春期					夏期																
		H1	H3 (N3)	H7	H8	H10	N2	N4	N5	N6	N7	N8	N9	N10	N11			N12					
		タヌキ	ハクビシン	アオバズク	アゲハチヨウの幼虫	クビキリギス	ネジバナ	アブラコウモリ	ヤモリ	トカゲ	アマガエル	ヒグラシ	カブトムシ	タマムシ	ベニシジミ	ウスカワマイマイ	ヒダリマキマイマイ	ミスジマイマイ	カタツムリ類	ツユクサ	トキワツユクサ	ムラサキツユクサ	ツユクサ類
春日町	一丁目																			1			
	三丁目									2													
	五丁目	1						2	1	3	1	1											
	六丁目																			1			
高松	一丁目											1											
	二丁目							1												4			
	三丁目							1			1												
	四丁目							1	3							1				1			
	六丁目																			1			
北町	六丁目										1												
田柄	五丁目											1	1										
光が丘	一丁目							1															
	二丁目							2				1											
	三丁目								4			3								1			
	四丁目										1									1			
	五丁目											1											
	六丁目										1	1											
	七丁目							6	5	1	1	2	2		5					2			
	秋の陽公園							1															
	春の風公園		1					2			1	1	1		7					1			
夏の雲公園							1	7				3	1	3				2					
光が丘団地											2												
旭町	一丁目							1	1														
土支田	二丁目							1	1														
	三丁目							1															
富士見台	一丁目							1	2			1											
	二丁目							3	1	1		2		1									
	三丁目									1	2												
南田中	二丁目								1	1													
	三丁目								2	1				1									
	四丁目								1	3													
	五丁目		1					1	2	3		1	1	2	1				1				
高野台	一丁目																						
	二丁目							1															
	三丁目							1	2	1			2										
	四丁目		1																				
	五丁目		1																				
谷原	一丁目							1		1		1	1		1								
	二丁目								2														
	四丁目															1							
	五丁目									1			1										
	六丁目								1	1													
三原台	一丁目							1												1		1	
	二丁目																						
	三丁目														1								

※H3のアオバズクは夏期にも調査対象としたが、記録は春期にまとめた。

秋期										冬期			丁目別合計	町名別合計				
A 2	A 3	A 4			A 5	A 6	A 7	A 8	A 9	A 10	W 4	W 7			W 9			
モズ	シヨウリヨウバツタ	オオカマキリ	コカマキリ	チヨウセンカマキリ	ハラビロカマキリ	カマキリ	カマキリ類	キチヨウ	アサギマダラ	ジグモの巣	ナガコガネグモ	ジヨロウグモ	クヌギ	カワセミ	メジロ	ルリタテハ		
	1																2	23
																	2	
	3						2	4									18	
																	1	16
							1										2	
																	5	
																	2	
																	6	
																	1	1
																	2	2
																	1	79
																	3	
																	8	
	1																3	
																	1	
																	2	
	1					1											26	
																	1	
																	14	
																	17	
	1																3	2
																	2	3
																	1	
																	4	16
	1																9	
																	3	33
																	2	
																	4	
	2		1			1		1									9	18
	1	2				2											18	
													1				1	18
																	2	
					1	1					1	1					10	
		1		1		1											1	32
																	4	
																	5	5
	2	2				2		5	1	1							15	
	1	1				2		1		1		1					9	
																	2	32
																	3	
																	1	
																	1	5
																	1	
																	1	

表V-2-12 小学校向けアンケートの集計結果③ 町名別にみた各対象種の報告件数 (3/3)

町名	丁目	春期					夏期																
		H1	H3 (N3)	H7	H8	H10	N2	N4	N5	N6	N7	N8	N9	N10	N11			N12					
		タヌキ	ハクビシン	アオバズク	アゲハチヨウの幼虫	クビキリギス	ネジバナ	アブラコウモリ	ヤモリ	トカゲ	アマガエル	ヒグラシ	カブトムシ	タマムシ	ベニシジミ	ウスカワマイマイ	ヒダリマキマイマイ	ミスジマイマイ	カタツムリ類	ツユクサ	トキワツユクサ	ムラサキツユクサ	ツユクサ類
石神井町	ー																						
	一丁目							1	1	2		2			2								
	二丁目							5	4	9	2	5			14					5			1
	三丁目								2	2		1								2			
	四丁目							5	6	5		2	3		5		1		1	6	1		
	五丁目									2					1					1			
	六丁目									1		1	1		1					1			
	七丁目					1		4	7	3		1		1	1					1			
八丁目			2				12	9	14		6			6				1	5	1	3		
下石神井	三丁目										1												
立野町	ー	1		1			4	1	2	1	2			5									
東大泉	二丁目							1				1											
	三丁目														1								
	四丁目				1														1				
	五丁目																						
	六丁目													1									
	七丁目							1			1		1		1								
	びくに公園 (二丁目)												2	2	1								
西大泉	六丁目								1														
南大泉	ー										1												
	一丁目																						
	二丁目							6	2			2											
	三丁目	1		1				1	4		1	2											
四丁目				1			1	1	2			1											
大泉町	一丁目											2											
	五丁目																			1		1	
大泉学園町	ー							1															
	三丁目							1				1											
	四丁目											1											
	五丁目	1	1	1			3	2	8	2		1	1	2					1				
	六丁目			1			2	2	3			2	6				1						
	七丁目								3														
	九丁目 大泉中央公園 (九丁目)							1				2	1		1							1	
大規模公園	光が丘公園	1	1		2		13	1	6		7	4	8	8			2		5	1			
	城北中央公園						1					2							2				
	石神井公園	1					6	8	18	3	38	23	2	10	1	2	1	2	25	1		1	
河川等	石神井川						7								2								
	千川上水							1	3	1	4				1				1	4			
件数合計		14	8	8	4	2	1	177	144	153	25	159	108	26	121	1	6	3	25	133	7	9	2
各期合計		37					1,099																

※H3のアオバズクは夏期にも調査対象としたが、記録は春期にまとめた。

秋期										冬期			丁目別合計	町名別合計				
A2	A3	A4					A5	A6	A7	A8	A9	A10			W4	W7	W9	
モズ	シヨウリヨウバツタ	オオカマキリ	コカマキリ	チヨウセンカマキリ	ハラビロカマキリ	カマキリ	カマキリ類	キチヨウ	アサギマダラ	ジグモの巣	ナガコガネグモ	ジヨロウグモ	クヌギ	カワセミ	メジロ	ルリタテハ		
																	1	183
																	8	
																	45	
																	7	
																	35	
																	4	
																	5	
																	19	
																	59	
																	1	
																	17	
																	2	17
																	1	
																	1	
																	1	
																	1	
																	4	
																	7	
						1		1									1	
																	2	45
																	2	
																	15	
		1															19	
		5															7	
																	3	5
																	2	
																	1	71
																	2	
																	1	
																	27	
			1					2		1							24	
		1						5		1							7	
		2	2														2	
																	7	
																	71	
		5	3					2		1		1					5	
																	157	
		2						1		1			4		6	1	9	
																	16	
		1																
2	37	10	2	1	5	37	11	18	1	3	1	6	3	6	1	1	1,281	
137										8								

写真 小学校児童から報告された種の写真（夏期対象種）



ヤモリ（N4） 光が丘春の風小学校



ヤモリ（N2） 大泉第二小学校



トカゲ（N5） 大泉第二小学校



ヒグラシ（N7） 光和小学校



カブトムシ（N8） 光和小学校



ヒダリマキマイマイ（N11） 光和小学校



ツクサ (N 1 2) 光和小学校



トキワツクサ 中村西小学校

写真 小学校児童から報告された種の写真 (秋期対象種)



ショウリョウバッタ (A 3) 光和小学校



ハラビロカマキリ (A 4) 大泉学園緑小学校



ジグモの巣 (A 7) 谷原小学校



ジョロウグモ (A 9) 谷原小学校

3. 事後アンケートの実施および結果

(1) 調査方法

1) 調査対象

「ねりまの生きものさがし」に登録された 313 チームを対象とした。

2) 調査時期

平成 23 年 7 月 4 日にアンケート票を送付し、平成 23 年 8 月 22 日までの間に fax や郵送で回収した。

(2) 調査結果

1) 回収率

「ねりまの生きものさがし」事業について、参加者へのアンケートを行い、計 64 件（回収率 20.4%）の回答を頂いた。以下にその結果を示す。

2) 回答結果

Q 1. 参加したきっかけは？（複数回答可）

きっかけで最も多かったのは「チラシ」の 46 件（72%）、ついで「友人」の 7 件（11%）、観察会の 6 件（9%）と続き、HP は 2 件のみであった。

「チラシ」の効果が非常に高いことが把握された。チラシには印刷経費などの課題があるが、次回以降も重要な広報媒体になると考えられる。

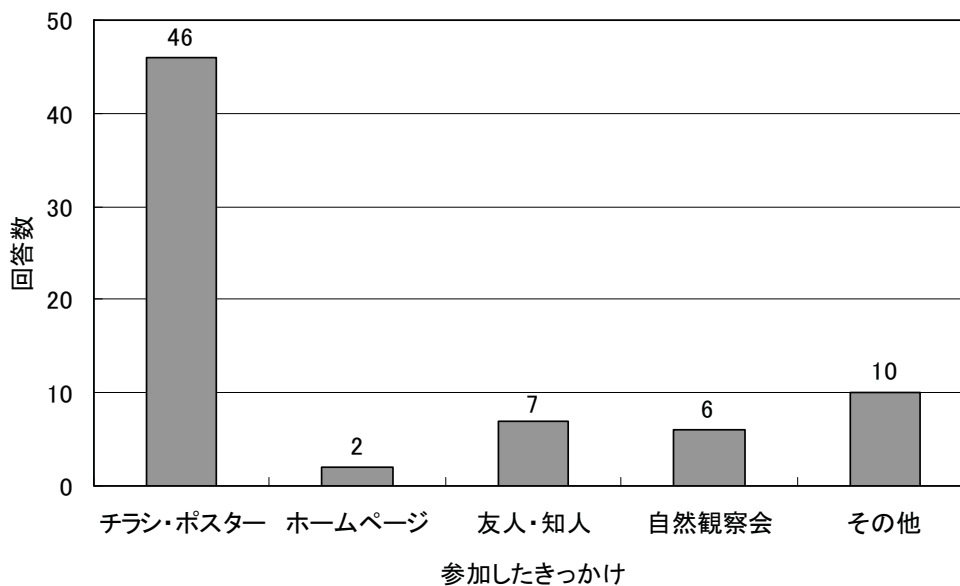
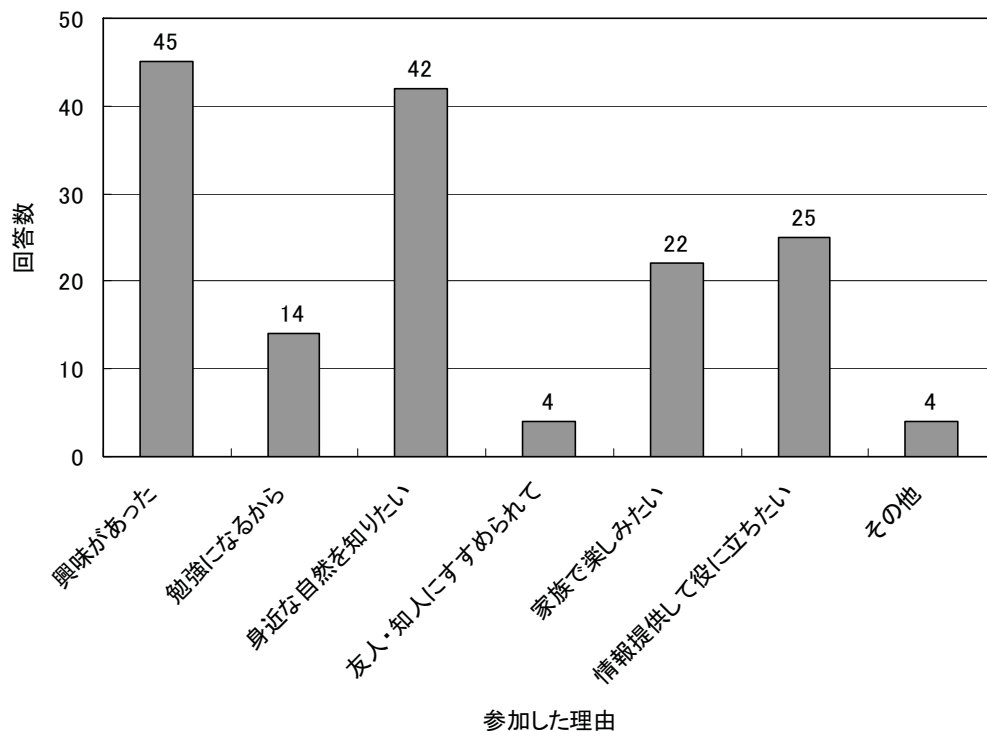


図 V-3-1 Q 1 のアンケート結果

Q2. 参加した理由は？（複数回答可）

「興味があった」が45件（70%）が最も多く、「身近な自然を知りたい」が42件（66%）もほぼ同数であった。その他、「情報提供して役に立ちたい」が25件、「家族で楽しみたい」が22件、「勉強になるから」が14件などと続いた。

もともと興味のある方が参加している傾向であり、さらに、情報提供や自らの勉強の場として捉えている方もいた。これらのことから、非常に意識の高い方々が多かったと考えられる。

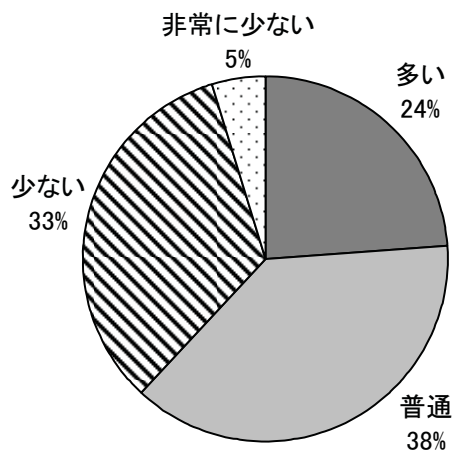


図V-3-2 Q2のアンケート結果

Q3. 対象となった生きものについて

「普通」が38%と最も多く、「少ない」が33%、「多い」が24%と続いた。なお、「非常に多い」との回答はなかった。

全体に、ちょうどよいか、やや少ないと感じられたと感じる。今回の対象種（群）は40種であったが、参加者の意欲が高いものと感じられた。また、やや難易度が高く発見することが難しい種が多かったために、他の種を対象にすることを求めた可能性もある。

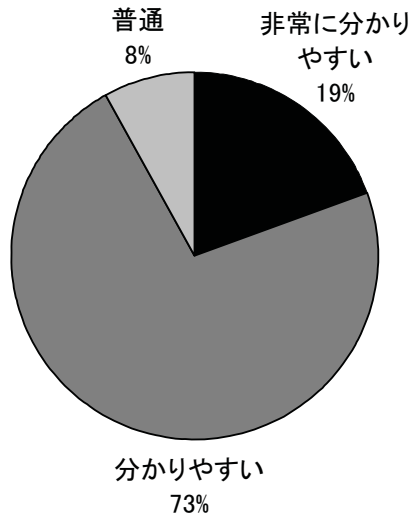


図V-3-3 Q3のアンケート結果

Q4. 生きものハンドブックについて

「分かりやすい」が73%と最も多く、「分かりやすい」が19%、「普通」が8%と続いた。なお、「分かりにくい」「非常に分かりにくい」との回答はなかった。

おおむね好評であったと考えられる。ただし、「非常に」ではなかったことから、個々の調査票の自由回答欄などを参考に、さらに改良を加える余地があるとも考えられる。

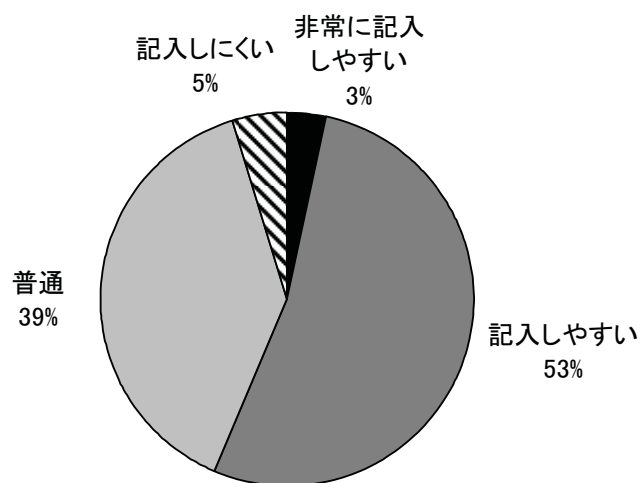


図V-3-4 Q4のアンケート結果

Q5. 調査用紙について

「記入しやすい」が53%と最も多く、ついで「普通」が39%とこれらで92%となっていた。「記入しにくい」は5%、「非常に記入しやすい」は3%であり、「非常に記入しにくい」との回答はなかった。

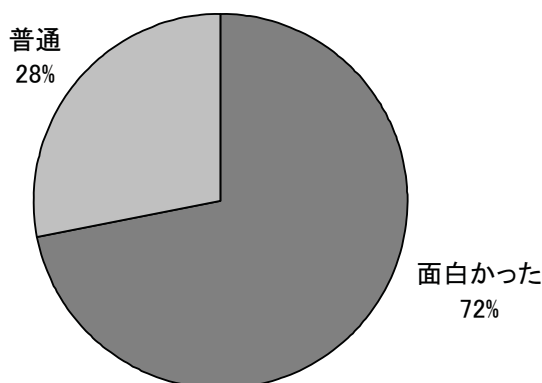
記入に関して、特に不具合は感じられていないと考えられる。しかし、自由回答欄での関連した意見としては「記録がどのくらい溜まったら送ってよいか分からなかった」「メールでも送れると便利」などがあつた。



図V-3-5 Q5のアンケート結果

Q 6. ニュースレターについて

「面白かった」が最も多く、73%であった。ついで「普通」が28%であり、「面白くなかった」との回答はなかった。



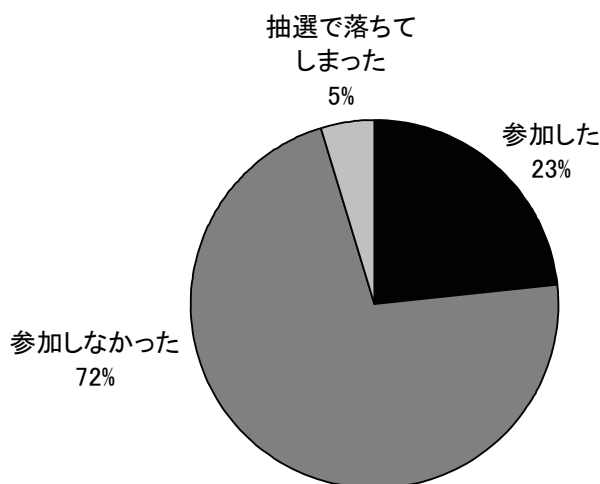
図V-3-6 Q6のアンケート結果

Q 7. 自然観察会について

「参加しなかった」が最も多く、72%であった。ついで「参加した」は23%、「抽選で落ちてしまった」は5%であった。

参加した、あるいは希望した方を合わせても28%であり、「生きものさがし」の参加者と、自然観察会の参加者とは必ずしも重なり合っている訳ではないことが把握された。

これは、事業参加者以外を取り込んだとも言える一方で、「生きものさがし」参加者への勉強の機会を提供するという意味では、十分に機能しなかった可能性がある。今後、事業と連動した自然観察会を実施するには、より内容に即したものを企画するなど、新たな方法を検討する必要があると考えられる。



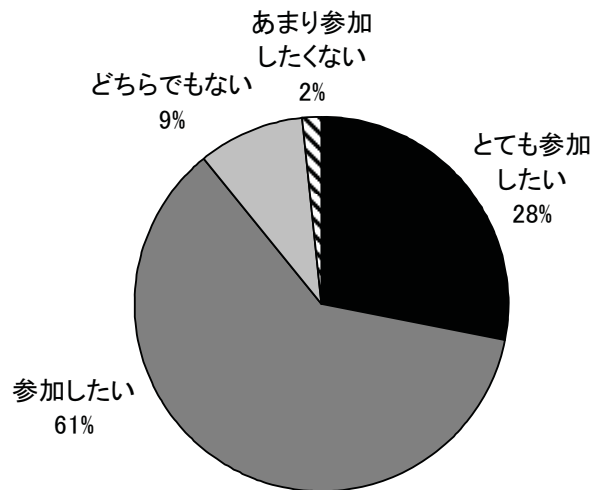
図V-3-7 Q7のアンケート結果

Q 8. 次回、「ねりまの生きものさがし」を行った場合、参加してみたいですか？

「参加したい」が 61%と最も多く、「とても参加したい」が 28%、「どちらでもない」が 9%、「あまり参加したくない」が 2%であった。

「参加したい」「とても参加したい」を合わせると、89%が次回の事業への参加意欲を示していた。

しかし、実際には単年度の事業となってしまう、この意欲に答えることができていない。自由回答欄でも事業継続への要望が多く書かれていることから、何らかの形で区民のニーズを受け止める形をとることが望ましい。



図V-3-8 Q8のアンケート結果

4. 考察および今後の展開

(1) 一般区民向けアンケート

1) 区民の環境への意識の啓発

調査票の提出がなかったものも含めて、チーム数は 313、登録者数は 959 名にのぼった。また、後述する小学校へのアンケートを含めると、2,000 人以上の区民が、何らかの形で本事業を知ったことになる。

潜在的な区民のニーズの顕在化(=掘り起こし)ができたといえる。また、このような参加者は、今後、類似の事業を行う際にも協力してもらえることも予想される。観察会や本事業の概要版(パンフレット)を活用することで、引き続き興味・関心を持っていただける工夫が望まれる。

2) 生物実態調査の補完

哺乳類のハクビシンやタヌキ、鳥類のアオバズクやカモ類(ミコアイサ、ヒドリガモ)、植物のネジバナなどは、生物実態調査で記録が少ない、あるいは記録のなかった種であった。これらの種は、夜間に行動する種や、一時的に飛来する種であり、労力の限られた生物実態調査では記録が困難な種である。

また、ヤモリやアブラコウモリなどについては、区内の広い地域から生息情報を得ることができた。特にヤモリは人家に生息しているため、生物実態調査が困難であり貴重な記録である。

本事業のように、生物実態調査と区民アンケートを併用することで、区内の自然環境の状況をより多角的に把握することができたと考えられる。

3) 対象種の選定

対象種全てについて記録を得られたことから、おおむね種の選定も問題なかったと考えられる。当初は、やや報告数が少ないかと思われたタマムシやアオバズクについて記録が得られたことも対象種を設定したことに対して評価ができる点と考えられる。また、昆虫類、鳥類、植物と様々な分類群からも報告が得られ、その偏りも少なかった。

対象種以外の記録も得られた。この中には、生物実態調査で確認できなかった記録(アオゲラの繁殖記録)なども含まれた。参加者への事後アンケートにもあったが、専門的知識・経験のある方にとっては、対象種を拡大することにも対応できると考えられ、その必要性や可能性があると考えられる。

4) 写真の有効性

本アンケート調査では、可能な範囲で写真の添付を依頼したところ、多くの調査員の方から提供していただいた。

その結果、貴重な種の証拠になった場合や、種の誤同定を修正できた場合など、有効に機能していた。また、「写真を撮る」という行為から、生きものへの興味・関心がさらに高まったことも予想される。

5) ニュースレターなどの有効性

本アンケート調査では、調査期の間にはニュースレターを発行し、調査の途中経過を報告を

するとともに、生きものに関するコラムや4コマ漫画などを設けることで、興味・関心を高め、継続的に調査への協力していただける工夫を行った。

その結果、ニュースレター送付直後に調査票の回収率が上がっていた。また、前述した期別対象種の報告件数でも、調査開始から次第に減少していく「右肩下がり」の傾向は見られなかった。

(2) 小学校向けアンケート

1) 児童への生きものへの意識の啓発およびフォローアップ

本アンケートでは、1,000人以上の児童の参加があり、調査対象種以外も含めて4,500件以上の情報が寄せられた。

「位置情報も含めた調査対象種」という有効回答数は、3割以下と少なかったものの、本アンケートにより児童の生きものへの興味・関心を高めたことは、自由回答欄などからも読み取ることができた。

今後は、児童の生きものへの興味・関心が高まっていることへのフォローアップが必要と考える。例えば、参加校に対しての報告会や観察会の実施なども検討すべきと考える。また、区内の小学校と連携として、引き続きの調査や、授業・クラブ活動などでの活用も検討すべきと考える。

2) 対象年齢(学年)と事前講習

今回は3～6年生までの子どもが参加したが、学年により報告内容が変わる傾向はみられなかった。このことは、年齢ではなく事前の講習などの内容により異なる可能性がある。

実施にあたっては、専門の講師派遣が必要な小学校もあった。当初は、教師用の講習会を実施することで効率化を図りたかったが、実際には直接の講師を望む声が多かった。当初の計画にはなかったものであるが、実施・協力を円滑に行うためには、講師の派遣も必要と考える。

第VI章 総合考察

1. 確認種および重要種・外来種

(1) 確認種

1) 各分類群の確認種数

今回の自然環境調査で確認した各分類群の種数一覧を表VI-1-1に示した。

表VI-1-1 自然環境調査で確認した各分類群の種数

分類群	種数	備考
植物	1,093	
昆虫類	727	不明種除く 暫定値
クモ類	182	
鳥類	99	
哺乳類	5	不明ネズミ類1種含む
爬虫類	13	
両生類	7	
陸産貝類	25	不明種除く 暫定値
合計	2,151	

2) 他の区との比較

区内を対象とした自然環境調査は、今回は初めてであるため、確認種数の変化についての考察はできない。しかし、ほぼ同時期に行われた東京23区にあるいくつかの自治体による自然環境調査との比較は可能である。

表VI-1-2 23区内の他の自然環境調査結果との比較

分類群	練馬区 自然環境調査 平成24年3月	北区 自然環境調査 平成17～20年度 ^{*1}	杉並区 自然環境調査 報告書(第5次) 平成20年3月	港区 生物現況調査 (第2次) 平成22年3月
植物 ^{*2}	1,093	701	887	637
鳥類	99	83	50	80
昆虫類	727	343	1,106	610
クモ類	182	18	138	114
哺乳類	5	4	7	3
爬虫類	13	10	15 ^{*3}	9
両生類	7	6	6	3
陸産貝類	25	—	—	16
	2,151	1,165	2,209	1,472

^{*1}「北区の環境」平成20年10月より

植物:平成17～18年度

鳥類:平成18～19年度

昆虫・その他:平成19～20年度

^{*2}亜種、変種を含む。杉並区は品種も含む。

^{*3}比較のため亜種を含めない種数に修正した。

①植物

練馬区内では 1,093 種を確認した。北区の 701 種、杉並区の 887 種、港区の 637 種のいずれよりも多い種数であった。但し、港区は自然教育園や文献調査を除いた現地調査の結果である。植栽種と自生種の種数を集計している杉並区自然環境調査（第 5 次）と比較すると、練馬区の植栽種 387 種、自生種 706 種に対して杉並区ではそれぞれ 303 種、584 種で、いずれも練馬区で種数が多くなった。種数は、亜種、変種を含み、杉並区の場合は品種も含む。

都立石神井公園、都立光が丘公園のような樹林、草地、水辺など多様な環境を持ち保護された区域もあり、かつ規模も大きな公園や憩いの森、農地、河川などがあることが、周辺の区に比べて種数が多い要因となっていると考えられる。

②昆虫類

練馬区内では 727 種を確認し、343 種の北区、610 種の港区と比べると多いが、1,106 種の杉並区よりは少なかった。

北区や港区と比較すると、種数が多かった。練馬区では、種名まで確定できたもののみカウントしているため、同定レベルをそろえると、その差はさらに広がる。このことは、区内の昆虫相の豊かさを示した数値と考えられる。

一方、隣接する杉並区では確認種が 1,000 種を越えていた。これは第 4 次調査後から継続的に調査を実施していることや、他の調査の記録を文献調査として含めているためである。しかし、このことは、練馬区でも調査を継続し、調査労力を増やすことで、さらに確認種が増える可能性を示唆している。

③クモ類

練馬区内では 182 種を確認し、18 種の北区、138 種の杉並区、114 種の港区のいずれよりも明らかに多い種数であった。

クモ類は、現在分類などについて発展中の分類群であり、専門の調査員も十分にはいない。また、北区の様に昆虫類の補足調査として行われる場合もある。今回、練馬区では調査地は限定したものの、クモ類専門の調査員により、一定の労力をかけて現地調査を行ったことで、このような結果になったと考えられる。

④鳥類

練馬区内では 99 種を確認し、83 種の北区、50 種の杉並区、80 種の港区のいずれよりも多い種数であった。

今回の練馬区の自然環境調査では、定期的な調査の他に、他の分類群の調査や、任意調査を積極的に行った。また、光が丘公園のバードサンクチュアリでの記録も含めたことから、このような結果になったと考えられる。

しかし、それらを勘案しても、23 区内での練馬区の鳥類相の豊かさを示した数値であると考えられる。

⑤哺乳類

練馬区内では 5 種を確認し、4 種の北区、3 種の港区よりも多く、7 種の杉並区よりは少なかった。

すでに 23 区内では哺乳類相は貧弱になっており、差異は見出しにくいと考えられる。

⑥爬虫類

練馬区内では13種を確認し、10種の北区、9種の港区と同等か多く、15種の杉並区よりは少なかった。

隣接する杉並区では善福寺池の外来カメ種やヘビ類の記録が多かった。区内でも現地調査では記録できなかったものの、文献ではこれらの外来カメ類が記録されており、実際には同様の種数が生息していると考えられる。

⑦両生類

練馬区内では7種を確認し、6種の北区、6種の杉並区、3種の港区と比較すると、同程度か、多い種数であった。

練馬区と同様に、杉並区、港区でも国内移入種が含まれており（北区：杉並区：ツチガエル、港区：トウキョウダルマガエル）、種数をそのまま両生類相の比較に用いることには注意が必要である。

⑧陸産貝類

練馬区内では25種を確認し、港区では16種、北区、杉並区では調査をしていなかった。

港区のように特別に土壌動物の調査を行ったわけではないが、練馬区では港区よりも多く確認された。今後、専門の調査員による現地調査を行うことで、さらに種数が増えることも予想され、23区内での練馬区の陸産貝類の多様性が示唆される。

(2) 重要種

1) 重要種の種数

各分類群の調査により把握された重要種（国RL・都RL掲載種）を表VI-1-3～4に示した。なお、ここでの「掲載種」には、「データなし」や「非分布」としての掲載も含めている。

国RL掲載種16種であり、植物8種、鳥類6種、昆虫類1種、クモ類1種であった。カテゴリ一別では、絶滅危惧Ⅱ類（VU）が6種（植物3種、鳥類3種）、準絶滅危惧（NT）が9種（植物5種、鳥類2種、昆虫類1種、クモ類1種）、情報不足が1種（鳥類1種）であった。

都RL掲載種は、146種であり、植物46種、鳥類40種、昆虫類40種、クモ類3種、哺乳類1種、爬虫類8種、両生類6種、陸産貝類2種であった（表VI-1-4）。

表VI-1-3 確認種のうち国RL掲載種に該当する種

分類群	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	準絶滅危惧 (NT)	情報不足 (DD)
植物	ミズキンバイ ヒメミクリ キンラン	マツバラン カワヂシャ カキツバタ ナガエミクリ タシロラン	
昆虫類		エサキアメンボ	
クモ類		キシノウエトタテグモ	
鳥類	サンバ ハヤブサ コアジサシ	オオタカ ハイタカ	オシドリ
合計	6	9	1

※哺乳類、爬虫類、両生類、陸産貝類は該当種なし

表VI-1-4 確認種のうち都RL掲載種に該当する種 (1/2)

分類群	絶滅 EX	絶滅危惧 I A類 CR	絶滅危惧 I B類 EN	絶滅危惧I類 CR+EN	絶滅危惧 II 類 VU
植物	ミズオトギリ ミゾハコベ ミズキンバイ フタバムグラ ミズハコベ	タチクラマゴケ ナツノハナワラビ ハリガネワラビ ハンゲショウ ヤマブキソウ ミツガシワ	ホソバナライシダ イカリソウ カキツバタ	—	アスカイノデ ハンノキ コウホネ ウマノスズクサ タンキリマメ ゴキヅル シロネ カタクリ ワニグチソウ キツネノカミソリ ショウブ コマツカサススキ ギンラン キンラン
昆虫類	—	オオアメンボ ウバタマムシ	キイトンボ アオヤンマ ヨツボシトンボ ヒメトラハナムグリ クロカナブン	オナガアゲハ	ハグロトンボ シオヤトンボ ミヤマアカネ ショウリヨウ バッタモドキ キンボシハネカクシ ヒラタクワガタ キスジトラカミキリ センノカミキリ オオミズアオ
クモ類	—	—	—	—	キシノウエ トタテグモ
鳥類	コサメビタキ サンコウチョウ	ササゴイ オオタカ ツミ ツルシギ アオバズク	オシドリ ミコアイサ ハイタカ ノスリ ハヤブサ チョウゲンボウ クサシギ コアジサシ アオゲラ	—	ダイサギ コサギ バン オオバン コチドリ イソシギ ヤマシギ カワセミ セグロセキレイ モズ トラツグミ オオヨシキリ ヤマガラ ベニマシコ
哺乳類	—	—	—	—	—
爬虫類	—	—	ニホンイシガメ	ニホンスッポン ニホントカゲ	ニホンヤモリ ニホンカナヘビ ヒバカリ
両生類	—	トウキョウ ダルマガエル シュレーゲル アオガエル	ニホンアマガエル ニホンアカガエル	—	—
陸産貝類	—	—	—	—	—
合計	7	15	19	3	41

表VI-1-4 確認種のうち都RL掲載種に該当する種 (2/2)

分類群	準絶滅危惧 NT	情報不足 DD	留意種	データなし	非分布	合計
植物	オノエヤナギ ニリンソウ ヘラオモダカ マコモ ナガエミクリ ヤガミスゲ アオガヤツリ ウキヤガラ	イワヒメワラビ クモノスンダ コモチンダ ハシゴシダ ヒメミクリ	—	マツバラ セイタカハリイ	コシダ ハリコウガイ ゼキショウ ヌマガヤ	46
昆虫類	オニヤンマ チョウトンボ マイコアカネ リスアカネ ヒグラシ シマアメンボ コハンミョウ ノギリクワガタ ヤマトタムシ ノギリカミキリ タケトラカミキリ	ヒゲシロスズ ヤチスズ タンボコオロギ キンヒバリ シブイロカヤクリ ツマグロバツタ エサキアメンボ ハッカハムシ ミドリシジミ イチモンジチョウ	ミズイロ オナガシジミ コムラサキ	—	—	40
クモ類	—	—	—	トゲグモ ゴマジロオニグモ	—	3
鳥類	カイツブリ トビ アカエリ ヒレアシシギ クロジ イカル	クイナ	スズガモ	—	サシバ ミソサザイ エナガ	40
哺乳類	—	—	アズマモグラ	—	—	1
爬虫類	アオダイショウ	クサガメ	—	—	—	8
両生類	アズマヒキガエル	—	—	ヤマアカガエル	—	6
陸産貝類	コオオベソ マイマイ類の一種	—	—	スナガイ	—	2
合計	26	17	4	6	6	146

2) 重要種の割合

各分類群の確認種数に対して、重要種の割合を表VI-1-5に示した。

表VI-1-5 確認種中の重要種の割合

分類群	確認種	重要種	割合(%)	備考
植物	1,093	48	4.4	自生種706種類に対しては6.8%
昆虫類	727	40	5.5	
クモ類	182	3	1.6	
鳥類	99	40	40.4	
哺乳類	5	1	20.0	
爬虫類	13	8	61.5	
両生類	7	6	85.7	
陸産貝類	25	2	8.0	
合計	2,151	148	6.9	

重要種の割合をみると、両生類が85.7%、爬虫類が61.5%と非常に高い割合になっている。ともに国内移入種が含まれるという問題があるものの、分類群全体として、生息状況が不安定であることが伺える。

ついで鳥類の40.4%が重要種であった。この中には、絶滅(EX)というカテゴリーになっている種が2種(コサメビタキ、サンコウチョウ)含まれているなど、比較的高いカテゴリーの種が多いが、多くが渡りの移動途中に立ち寄る種であり、実際の生息状況とは乖離があると考えられる。

植物については、確認種数が多いため、割合としては低いが、絶滅(EX)を8種、非分布を3種確認するなど、現地調査を行ったために自生が明らかになったことは特記すべきことである。

昆虫類については、確認種数が多いために、割合が過小評価になる恐れがある。絶対数では40種が重要種であり、その中に移動途中などの偶発的な確認もほとんどないと思われることから、重要種への注意が必要な分類群といえる。

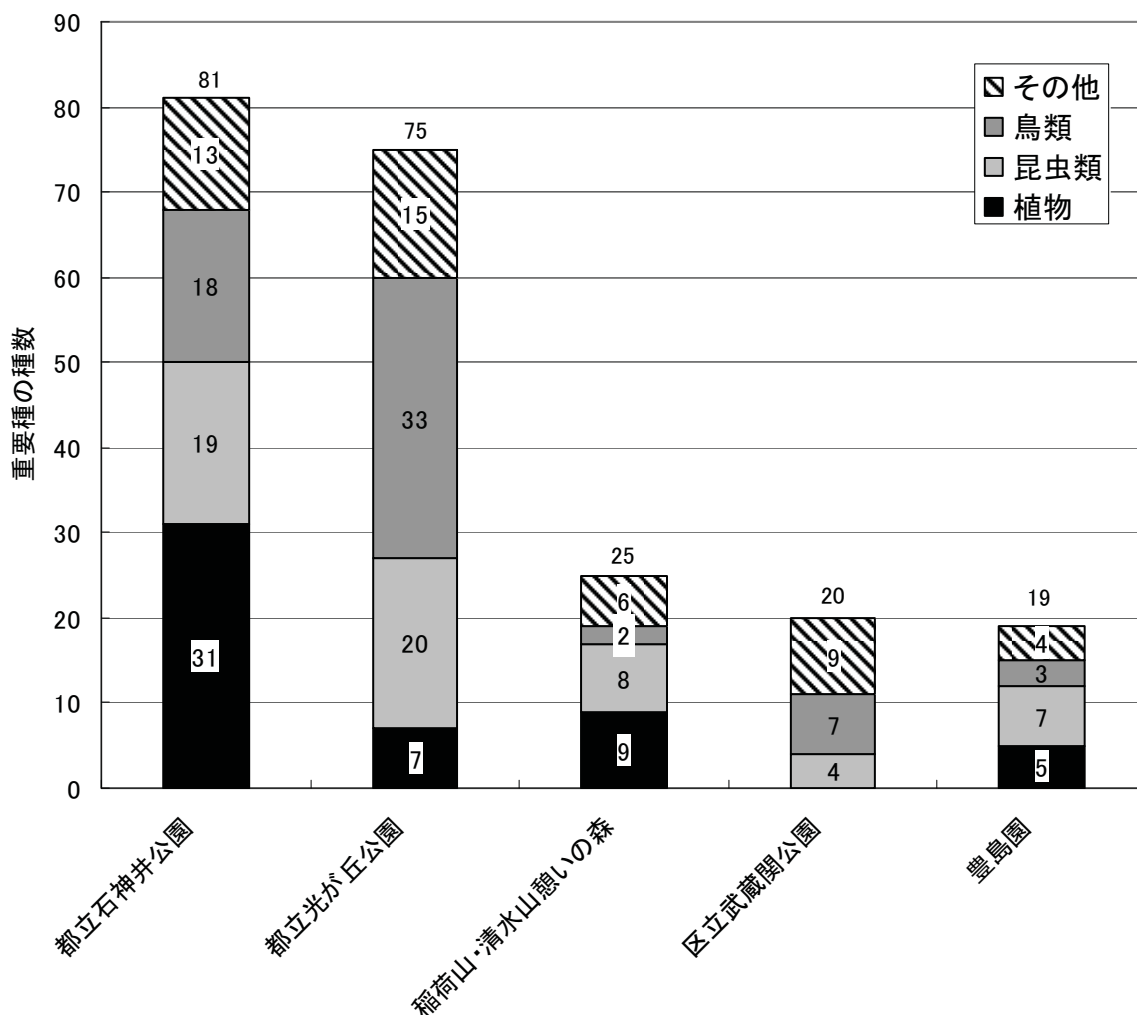
クモ類については、都RL掲載種がやや少ないこと、陸産貝類については、調査そのものが十分でないことから、ここでの評価が困難と考える。今後の調査などの情報も含めて判断すべきと考える。

3) 各調査地の重要種種数

各調査地における重要種の確認のべ種数を、図VI-1-1に示した。

都立石神井公園で81種、都立光が丘公園で75種と非常に多くの重要種を確認した。これらと比較するとやや少ないものの、稲荷山・清水山憩いの森で25種、区立武蔵関公園で20種、豊島園で19種と続いた。

都立光が丘公園や都立石神井公園が区内でも特に重要な場所であることは、これまでも定性的には示されているが、今回の調査で数値としても明らかになったといえる。また、それに準ずる3箇所も、区内では重要な場所として位置づけられると考えられる。



図VI-1-1 重要種の確認種数合計が上位5箇所の比較

(3) 外来種

各分類群の確認種から外来種と考えられる種を抽出した。これを表VI-1-6に示した。植物については、外来種の種数が多いため、特定外来生物以外は主な種と種数のみを記載した。植物の要注意外来生物、国外外来種、国内外来種は多数あるため、巻末の資料-3で把握できるようにした。

全体では、特定外来生物を7種、要注意外来生物を41種、確認した。

表VI-1-6 各分類群で確認した外来種の一覧

分類群	特定外来生物	要注意外来生物	その他の国外外来種	国内外来種と考えられる種※
植物	アレチウリ オオフサモ オオカワヂシャ オオキンケイギク ミズヒマワリ オオハンゴンソウ	エゾノギシギシ トウネズミモチ ハルジオン セイタカアワダチソウ ノハカタカラクサ など 36種	ヒマラヤスギ ヒメツルソバ ナガバギシギシ オランダミナグサ シュウカイドウ など 224種	イヌカタヒバ ソテツ スギ ソメイヨシノ アシタバ など 313種
昆虫類	—	アカボシゴマダラ	クロゴキブリ アオマツムシ プラタナスグンバイ アワダチソウグンバイ ヨコヅナサシガメ キマダラカメムシ コルリアトキリゴミムシ クモガタテントウ ラミーカミキリ ブタクサハムシ セイヨウミツバチ アメリカミズアブ スイセンハナアブ	スズムシ
クモ類	—	—	—	—
鳥類	—	—	ドバト ホンセイインコ インコ類の一種 コクチョウ	—
哺乳類	—	—	ハクビシン	—
爬虫類	—	ミシシッピチズガメ ニセチズガメ ミシシッピアカミミガメ ワニガメ	—	ミナミイシガメ
両生類	ウシガエル	—	—	ヤマアカガエル トウキョウダルマガエル シュレーゲルアオガエル
陸産貝類	—	—	トクサオカチョウジ コハクガイ チャコウラナメクジ ノハラナメクジ オナジマイマイ	アズキガイ
合計	7	41	247	319

※植物は栽培種も含めた。

2. 環境類型ごとのまとめ

第IV章では植物相、植生調査結果をもとに調査地選定時の環境区分（第III章参照）を再区分し、環境類型ごとにまとめた（表IV-1-13）。

本章ではさらに、環境類型とそこに生息・生育する動植物の特徴を把握するための情報整理を行った。

それぞれの環境類型の図（図VI-2-1～図VI-2-10）は調査地をもとに生息環境とそこに生息・生育する代表的な動植物をまとめたイメージ図である。

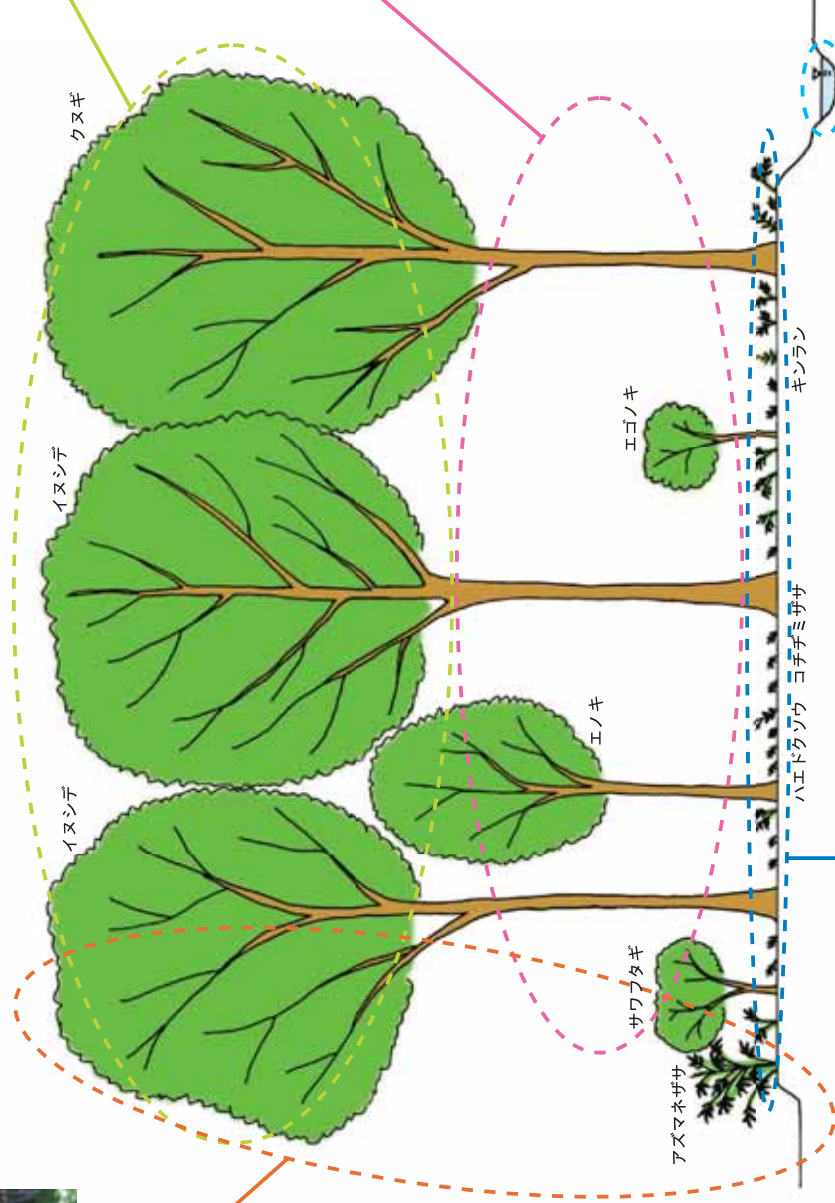
(1) 大規模樹林 (保護区型)

定期的に管理作業がされ、保護区域として立ち入り制限がされている場所が多い。管理の頻度により亜高木層、低木層があまり無い林床の明るい林から、これらの層が発達した比較的林床の暗い林までがある。林床は踏圧が低く植被率が高い。動植物相が豊かな樹林。



モデルとした場所

都立光が丘公園、都立石神井公園、稲荷山・清水山憩いの森、豊島園



【全体】 鳥類：オオタカ、ツミ、ヤマシギ、ツツドリ、アオゲラ、ルリビタキ、トラツグミ、サンコウチヨウ、エナガ



オオタカ



ツミ




アオゲラ

【林冠】

植物：イロハシデ、クスギ、エノキ

鳥類：エナガ

昆虫類：サトクダマキモドキ、ミズイロオナガシジミ



【林内】

植物：ヒサカキ、アオキ、エゴノキ、サウフタギ

昆虫類：マダラカマドウマ、サトクダマキモドキ、ウスグモスズ、ヤマトタムシ、サトキマダラヒカゲ

クモ類：サガオニグモグモ

その他：アオダイショウ




【湧水】

昆虫類：オニヤンマ、シマアメンボ

クモ類：アシナガグモ

オニヤンマ

シマアメンボ




【林縁や低木層】

昆虫類：ハヤシノウマオイ、セスジツユムシ、ゴマダラチヨウ、イチモンジチヨウ、コムシジ

クモ類：キシノウエトタテグモ

ハヤシノウマオイ

イチモンジチヨウ

キシノウエトタテグモの巣





【林床】

植物：ハエドクソウ、コチヂミザサ、アズマネザサ、キンラン


鳥類：ヤマシギ、トラツグミ

昆虫類：クラズミウマ、ヒメクサキリ

クモ類：キシノウエトタテグモ

その他：タヌキ、アオダイショウ、アズマヒキガエル、ナミコギセル

キンラン



図VI-2-1 大規模樹林 (保護区型) のイメージと各構造に特徴的な生物相

(2) 大規模樹林 (都市公園型)

人の利用が優先されている樹林で、植栽由来の樹木が多い。亜高木層、低木層があまり無い林床が明るい林。林床は踏圧が高く、草刈り頻度も高く、植被率が低い。動物物相は保護区域を設けている大規模樹林よりは貧弱になっている。



モデルとした場所

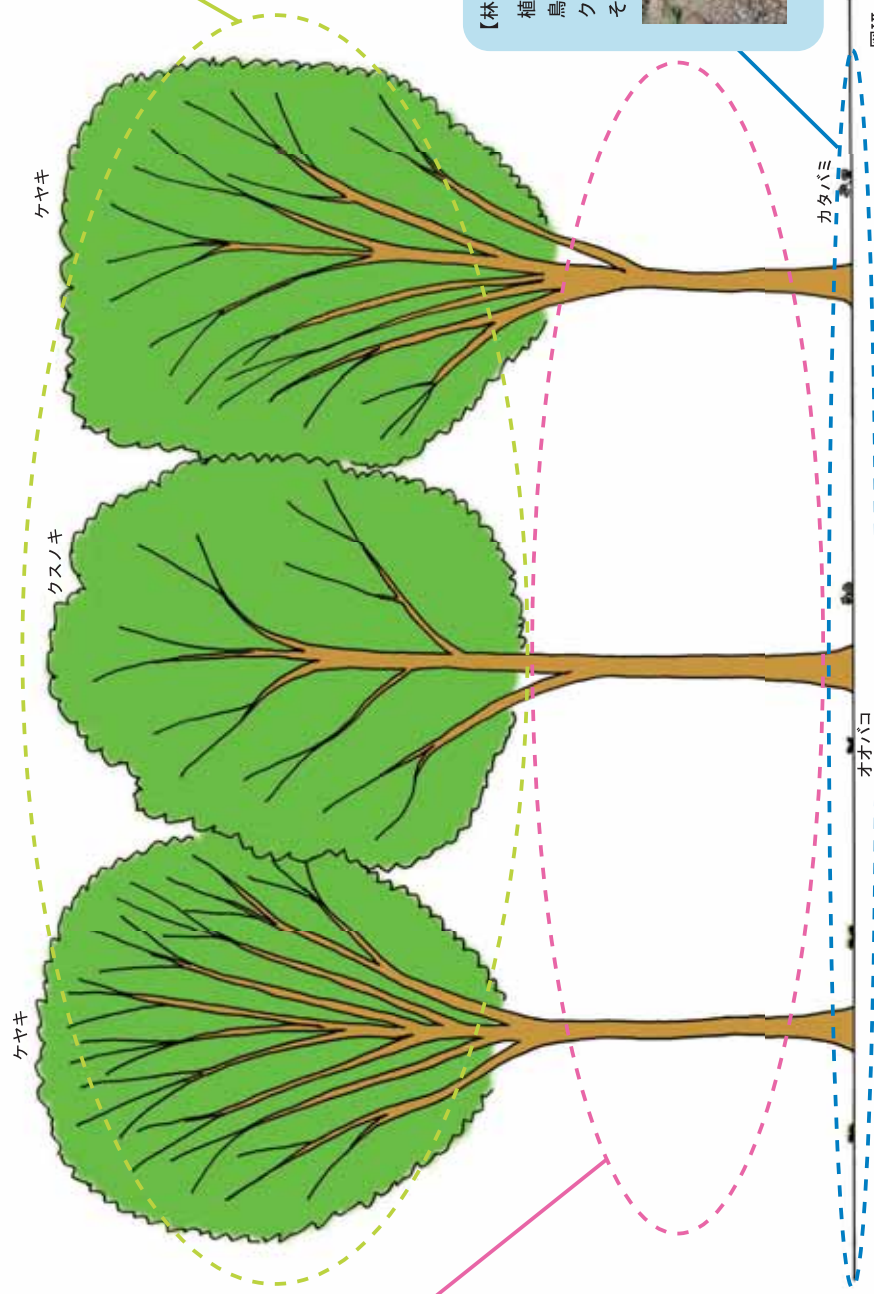
都立城北中央公園、都立大泉中央公園、
区立武蔵関公園、武蔵学園

【全体】 鳥類：ツミ、アオゲラ、コゲラ、ヒヨドリ、エナガ、シジュウカラ

【林冠】

植物：ケヤキ、クスノキ

昆虫類：アオマツムシ、ゴマダラチヨウ



【林内】

昆虫類：ウスグモスズ、カネタタキ、アブラゼミ

【林床】

植物：カタバミ、オオハコ

鳥類：キジバト

クモ類：ヨダンハエトリ

その他：スナガイ

図Ⅵ-2-2 大規模樹林 (都市公園型) のイメージと各構造に特徴的な生物相

(3) 小規模落葉広葉樹林

高木層にクスギ、コナラ、イヌシデなどが優占する。亜高木層、低木層があまり無い林床が明るい林。林床の踏圧は比較的低く、アズマネザサなどが生育している。



モデルとした場所

どんぐり山越いの森、区立高稲荷公園、東京カトリック神学院、八の釜越いの森

【全体】 鳥類：キジバト、コゲラ、ヒヨドリ、シジュウカラ、渡り途中の小鳥類（キビタキなど）



コゲラ



キビタキ

【林冠・林縁】

植物：イヌシデ、クスギ、コナラ、ミスギ
昆虫類：サトクダマキモドキ、コムシジ



サトクダマキモドキ

【林内】

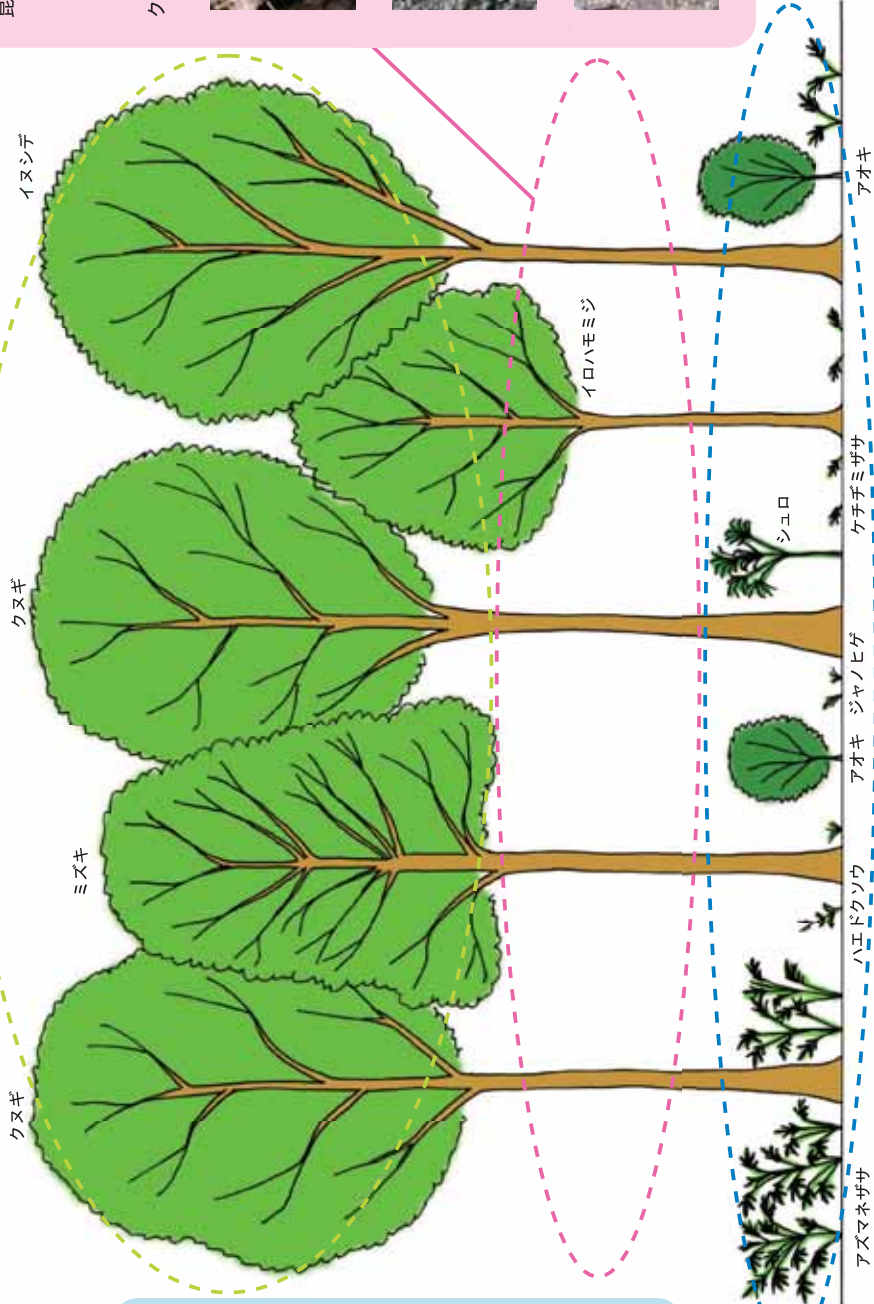
植物：イロハモミジ
昆虫類：アオマツムシ、カネタタキ、ノコギリクワガタ、カナブン、カブトムシ
クモ類：ギンメメッキゴモリグモ



カナブン

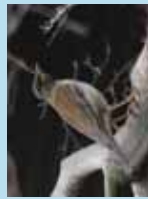


カブトムシ



【林床・低木層】

植物：アオキ、ハエドクソウ、ジャノヒゲ、ケチヂミザサ、アズマネザサ、シユロ
鳥類：シロハラ、ウグイス
昆虫類：ヒメジャノメ
その他：ニホンカナヘビ



シロハラ



ウグイス



ヒメジャノメ



ニホンカナヘビ

図VI-2-3 小規模落葉広葉樹林のイメージと各構造に特徴的な生物相

(4) 社寺林

ヒノキ、シラカシ等の植栽由来の林。高木層が常緑であるため、林床は暗く、被度が低い。シユロなどの鳥類が運んだ種子由来の植物が林床に生育している。

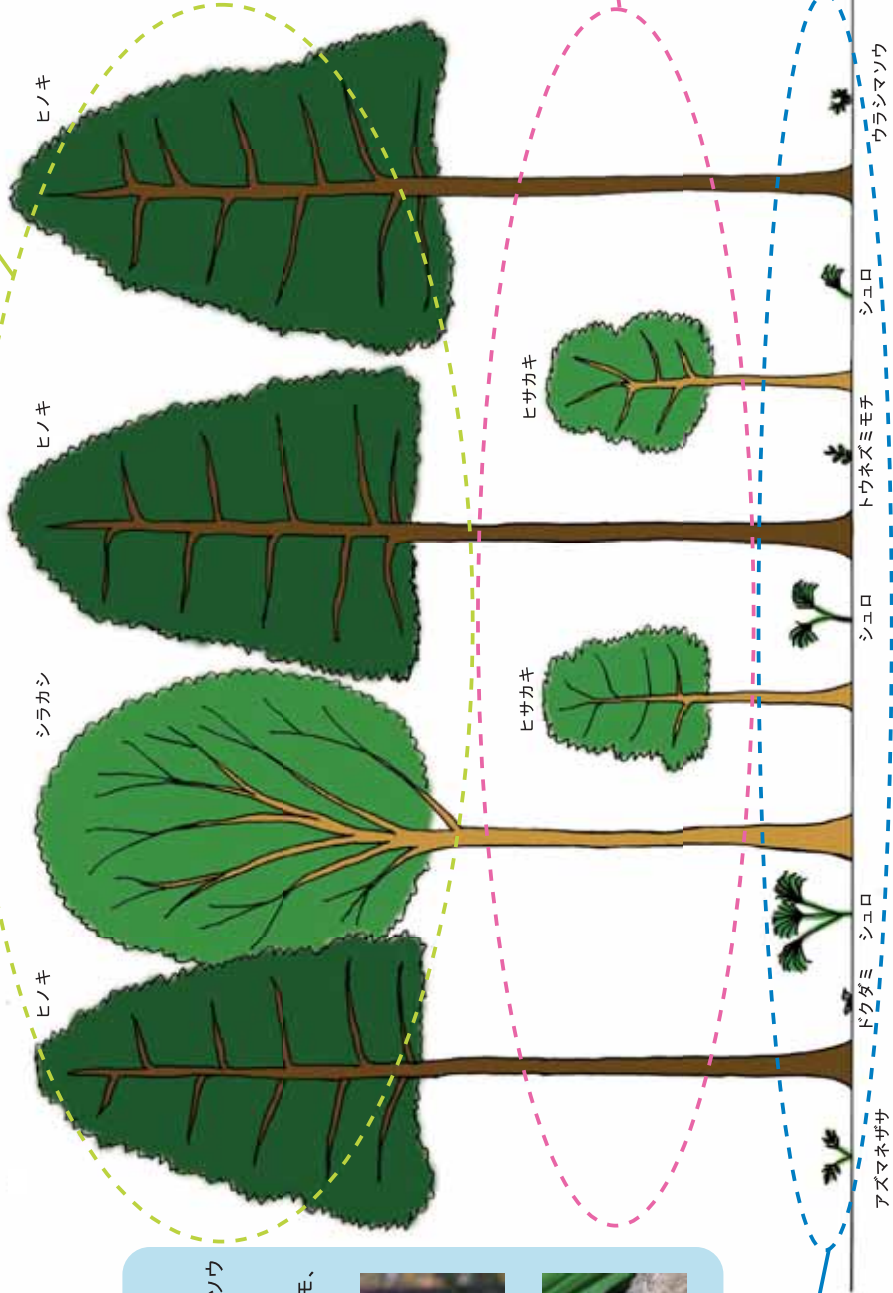


モデルとした場所

八幡神社、氷川神社、天祖若宮八幡宮、土支田八幡宮、廣徳寺

【林冠】

植物：ヒノキ、シラカシ
鳥類：ヒヨドリ、ムクドリ



【林内】

植物：ヒサカキ
昆虫類：ヒグラシ、クロアゲハ



クロアゲハ

ヒグラシ

【林床・低木層】

植物：ドクダミ、トウネズミモチ、アズマネザサ、シユロ、ウラシマソウ
鳥類：シロハラ
昆虫類：ヒメジャノメ
クモ類：ジョロウグモ、ギンメッキゴミグモ、その他：ニホントカゲ



ウラシマソウ



ギンメッキゴミグモ

ジョロウグモ

ニホントカゲ

図VI-2-4 社寺林のイメージと各構造に特徴的な生物相

(5) 屋敷林

敷地境界にケヤキが植えられており、ケヤキの木も多い。高木～亜高木層にシラカシ、亜高木層～低木層にヒサカキも生育している。木陰のある樹林地と玄関先などの明るい開けた環境が両方存在する。



モデルとした場所

U氏邸、N氏邸、MO氏邸、MU氏邸

【林内】

植物：シラカシ、エノキ、ケヤキ、ヒサカキ、カキノキ、シュロ
 鳥類：アオバズク、キビタギ、オオルリ、ワカケセンセイインコ
 昆虫類：ヒグラシ、ヤマトタマムシ、クロアゲハ



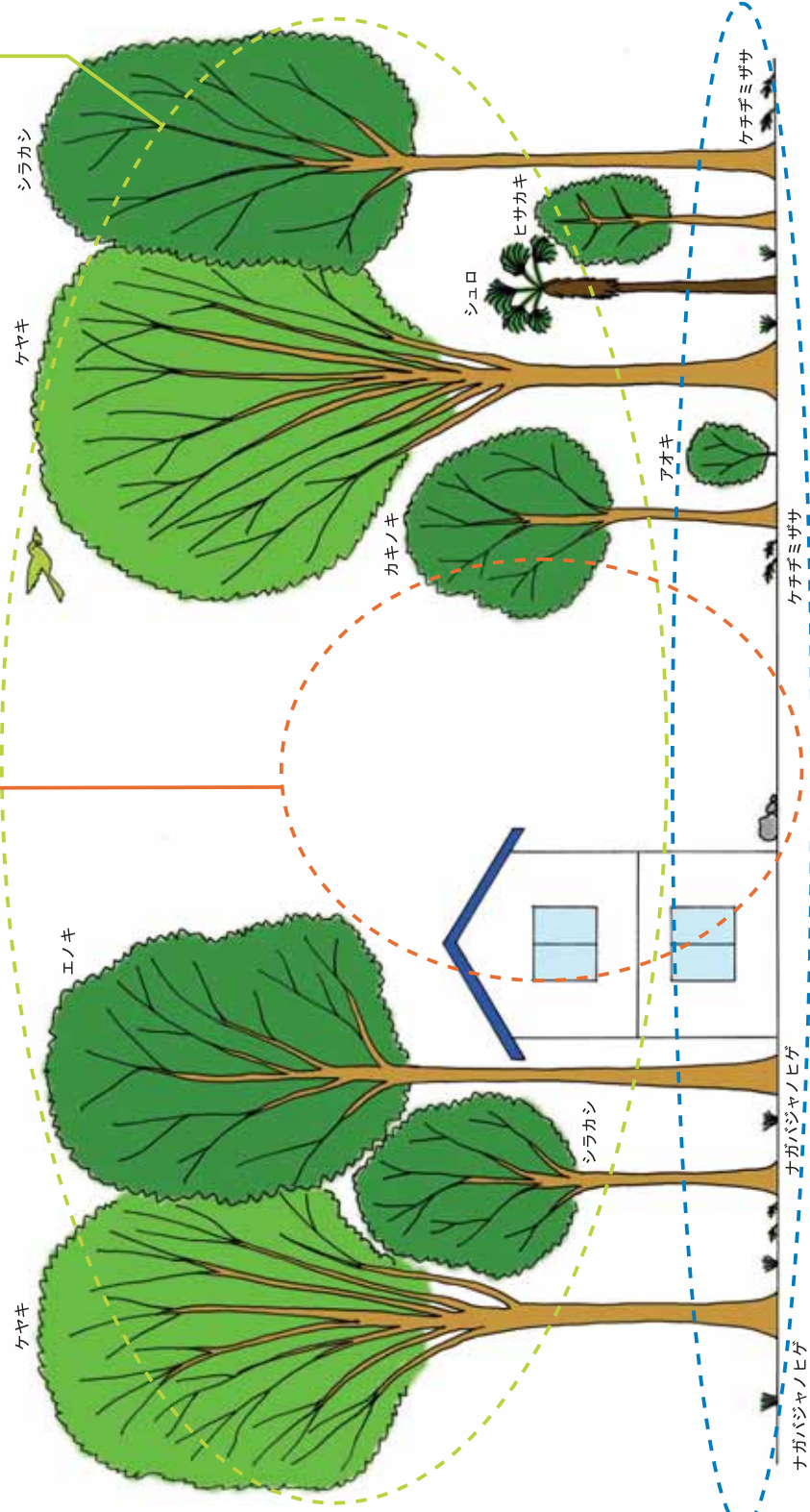
【住宅周辺】

クモ類：オニグモ
 その他：ニホントカゲ、ニホンヤモリ



【林床・低木層】

植物：アオキ、ナガバジャノヒゲ、ケチチミザサ
 鳥類：トラツグミ、シロハラ
 昆虫類：ヒメジャノメ
 クモ類：オニグモ
 その他：ニホントカゲ、ニホンヤモリ、ナミコギセル、ヒダリマキマイマイ



図VI-2-5 屋敷林のイメージと各構造に特徴的な生物相

(6) 草地

低葦から高葦の草地。草刈り頻度により、草丈が異なる。区内では公園などにある踏圧の高い低葦草地が多い。中葦から高葦の草地は区内では少なく、昆虫類をはじめ生きものの重要な生息地となっている。



モデルとした場所

都立光が丘公園昆虫原っぱ、
都立城北中央公園、小作原広場、
井頭こぶし憩いの森、区立びくくに公園

【中葦】

植物：カモジグサ、カゼクサ、アキノエノコログサ
昆虫類：ホシササキリ、ウスイロササキリ、ツユムシ、コオロギ類、オンブバッタ、シヨウリヨウバツタモドキ、トノサマバッタ、キアゲハ、モンキチヨウ
クモ類：ナガコガネグモ
その他：ニホンカナヘビ



ツユムシ



モンキチヨウ



ナガコガネグモ

【高葦】

植物：ヤブガラシ、エビヅル、ススキ
昆虫類：クビキリギス、ツチイナゴ
クモ類：ヤハズハエトリ



クビキリギス



ツチイナゴ

【全体】 鳥類：モズ、ホオジロ、カワラヒワ



モズ



ホオジロ



カワラヒワ

【上空】

鳥類：ツバメ
昆虫類：ウスバキトンボ
その他：アブラコウモリ



ツバメ



アブラコウモリ

【低葦】

植物：シロツメクサ、オオバコ、カゼクサ
鳥類：ハクセキレイ、ムクドリ
昆虫類：シバズ、マダラスズ、モンキチヨウ、ツバメシジミ、ベニシジミ



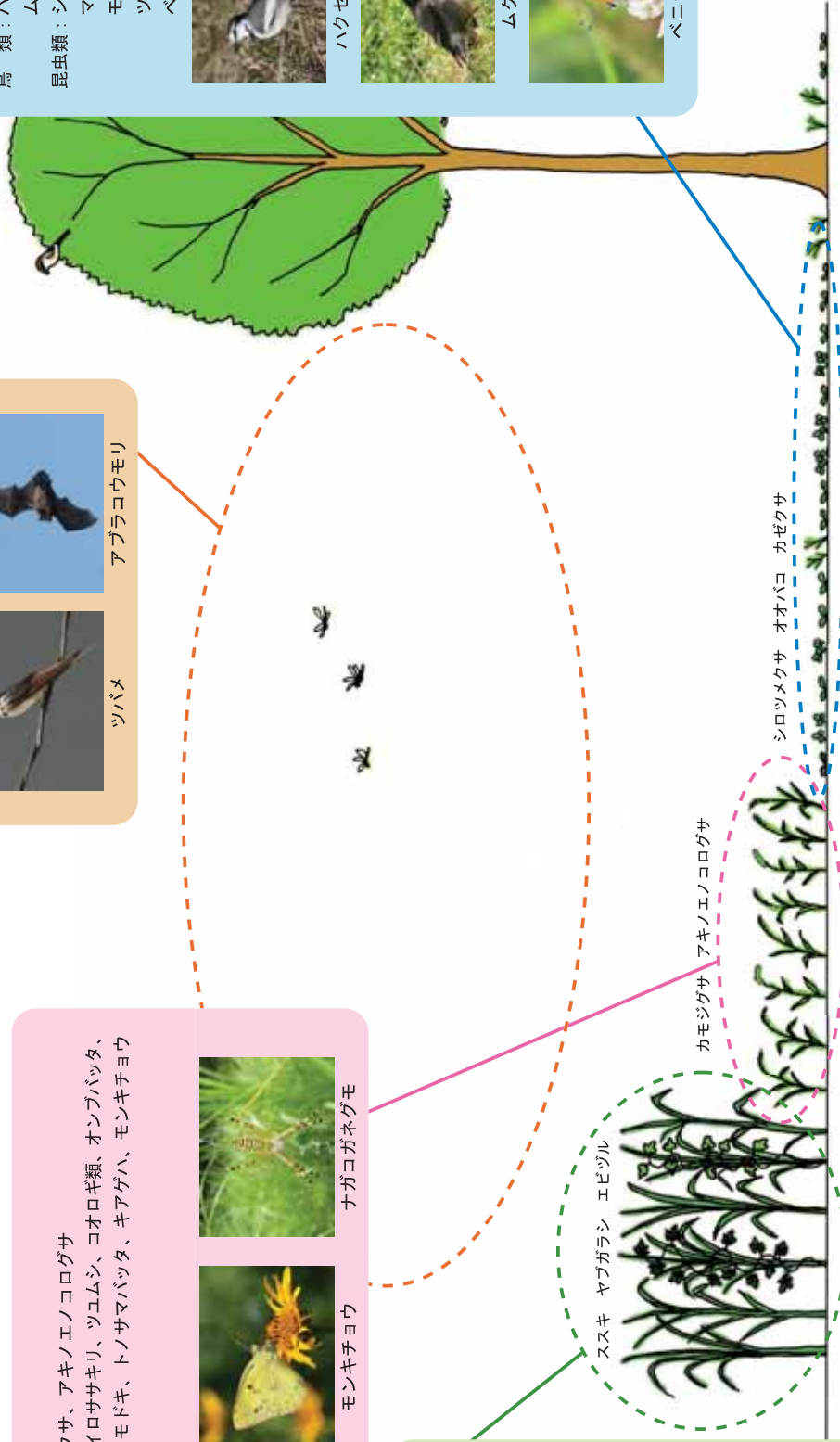
ハクセキレイ



ムクドリ



ベニシジミ



図VI-2-6 草地のイメージと各構造に特徴的な生物相

(7) 農地

植物は農作物が中心で植物の自生種は少ないが、植栽された作物や草花などの蜜や花粉などの蜜や花粉を求めて昆虫類が飛来する。日当たりのよい開けた環境と林の両方の両方を利用する生きものなどが集まる。



モデルとした場所

高松市民農園、石泉愛らんど、O氏畑

【草地】

植物：メヒシバ、アキノエノコログサ
 昆虫類：オオカマキリ、コオロギ類
 その他：ウツキコモリグモ



オオカマキリ



ウツキコモリグモ

【裸地】

昆虫類：ノミバツタ、トウキョウヒメハンミョウ



トウキョウヒメハンミョウ

【畑地】

植物：シソ、トマト、キバナコスモス、マリゴールド、ネギ、サトイモ (以上植栽)

スベリヒユ、コニシキソウ、ハキタメギク

鳥類：ハウセキレイ、ツグミ、ムクドリ
 昆虫類：キアゲハ、モンシロチョウ、ウラナミシジミ
 その他：ウスカワマイマイ



スベリヒユ



ウスカワマイマイ



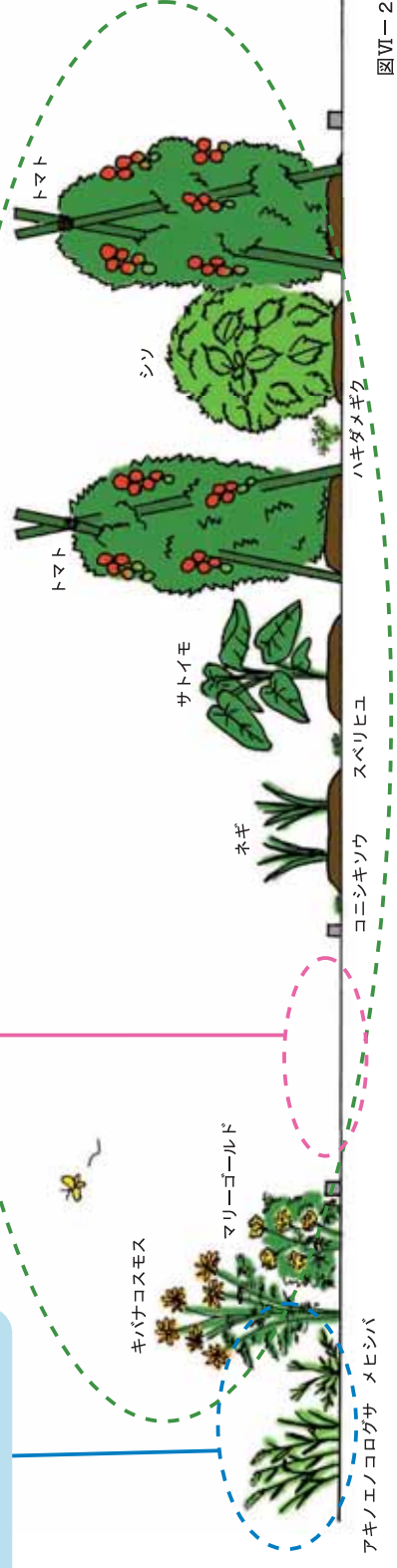
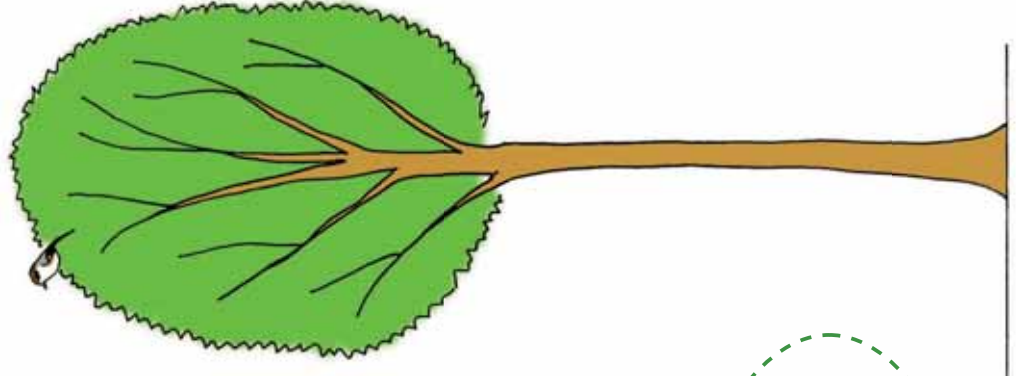
ツグミ

【周辺の樹林など】

鳥類：モズ
 昆虫類：アゲハチョウ類



モズ



図VI-2-7 農地のイメージと各構造に特徴的な生物相

(8) 水辺（止水域）

林縁から草地、湿生植物帯、抽水植物帯、抽水植物帯と、止水域をとりまくエコトーンが形成され、様々な生きものが利用している。



モデルとした場所

石神井公園石神井池・三宝寺池、
区立武蔵関公園富士見池、
都立光が丘公園BS

ハンノキ



【ヨシ原】
植物：ヨシ
鳥類：オオヨシキリ
オオヨシキリ

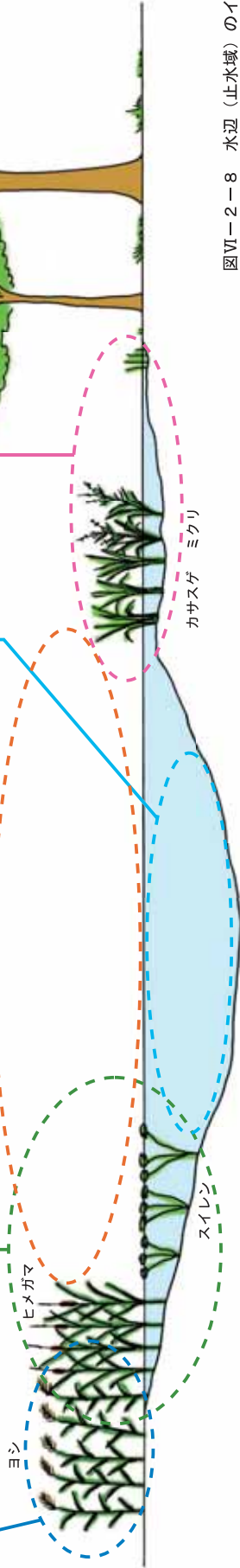
【開水面】
昆虫類：ゲンヤンマ、ウチワヤンマ、
オオヤマトンボ
ゲンヤンマ
ウチワヤンマ

【水面～水中】
鳥類：カイツブリ、カモ類、クイナ類、カワセミ
その他：クサガメ、ミシシippiaカミミガメ
カワセミ
クサガメ

【抽水植物帯～浮葉植物帯】
植物：スイレン、ヒメガマ
鳥類：カイツブリ、カモ類、クイナ類
昆虫類：チヨウトンボ
カイツブリ
チヨウトンボ

【湿地～浅瀬】
植物：ミクリ、カササゲ
鳥類：サギ類、シギ類
昆虫類：ヤチスズ、キンヒバリ、アメンボ類
その他：ヒバカリ、ウシガエル
ヤチスズ
ヒバカリ
ウシガエル
オオアメンボ

【樹林】
植物：オノエヤナギ、
ハンノキ
鳥類：カワウ、サギ類、
カワセミ
昆虫類：ミドリジジミ、
コムラサキ
オノエヤナギ
コムラサキ



図VI-2-8 水辺（止水域）のイメージと
各構造に特徴的な生物相

(9) 水辺 (流水域)

河川の淵から瀬、抽水植物帯、湿生植物帯、草地と幅は狭いがエコトーンを形成する環境。昆虫類や鳥類など、様々な生きものが利用する。



モデルとした場所

石神井川流域、白子川流域

【水辺周辺の空間】

鳥類：ツバメ、イフツバメ
その他：アブラコウモリ



ツバメ

イフツバメ

アブラコウモリ

【全体】

鳥類：コサギ、アオサギ、カルガモ、コガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、カワセミ、ハシボソガラス

その他：ミシシッピアカカミミガメ

コサギ

カルガモ

【草地】

植物：カナムグラ、オオイヌタデ、オオアレチノギク、ミズヒマワリ、ナガエミクリ

昆虫類：ハグロトンボ、ミヤマアカネ、イチモンジセセリ、アサギマダラ、ツマグロヒョウモン、ヒメアカタテハ



ハグロトンボ

アサギマダラ



ナガエミクリ

ミヤマアカネ

【河床】

鳥類：コチドリ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ



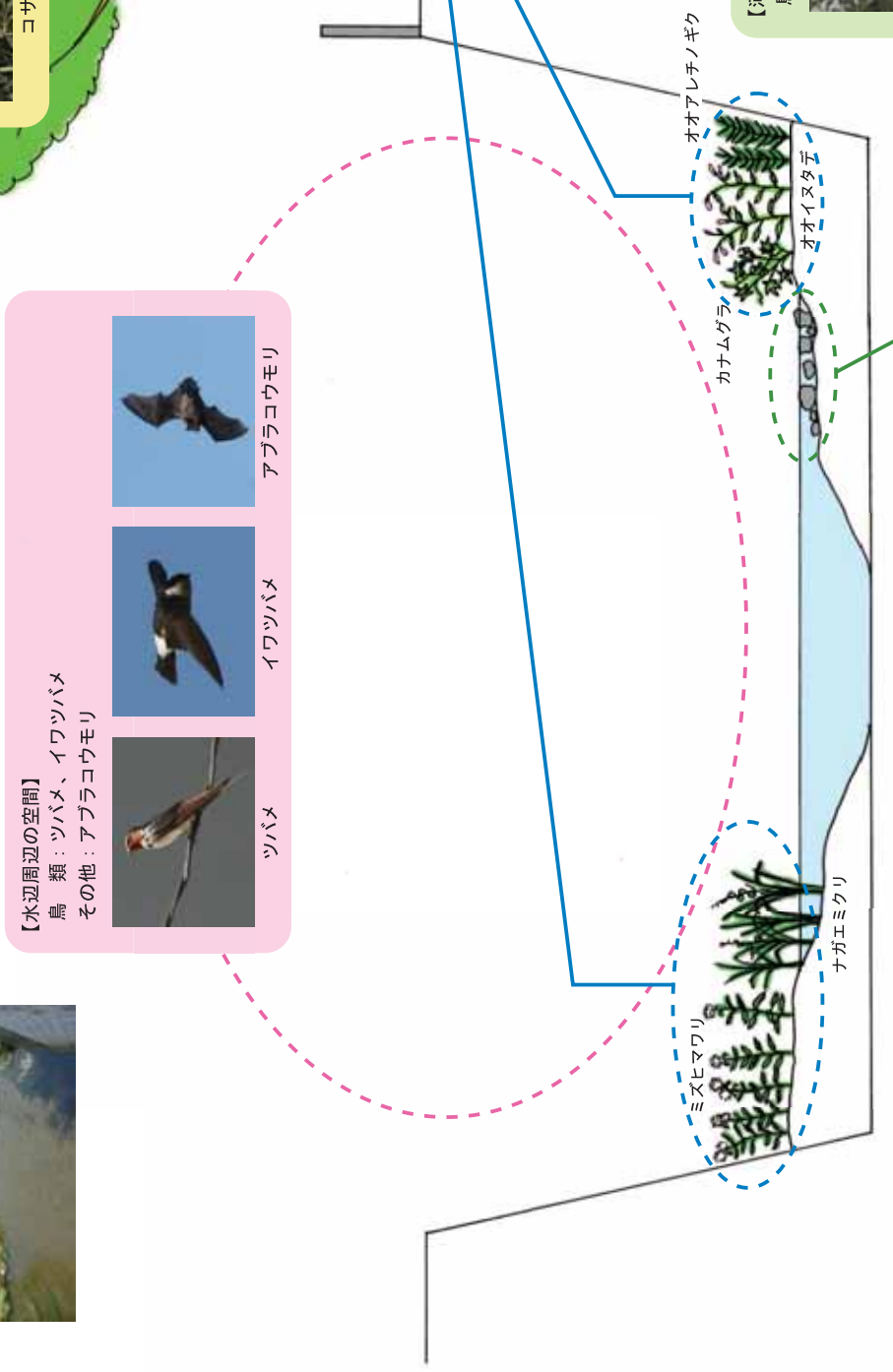
コチドリ



キセキレイ



セグロセキレイ



図VI-2-9 水辺 (流水域) のイメージと各構造に特徴的な生物相

(10) 市街地

市街が進んだ地域、緑化が進められている地域、緑が多く残る地域などがある。市街地に適応した生きものだけでなく、比較的緑が多いためにその環境を利用する生きものが見られる。



モデルとした場所

- 田柄川緑道ルート 城南住宅ルート
- 練馬駅周辺ルート 立野町ルート
- 土支田・谷原ルート

【庭】

- 植物：サザンカ、カナメモチ、ナツミカン
- 鳥類：ヒヨドリ、ウグイス、シジュウカラ、メジロ
- 昆虫類：カネタタキ、イチモンジセセリ、ナミアゲハ、ヤマトジジミ、ツマグロヒヨウモン



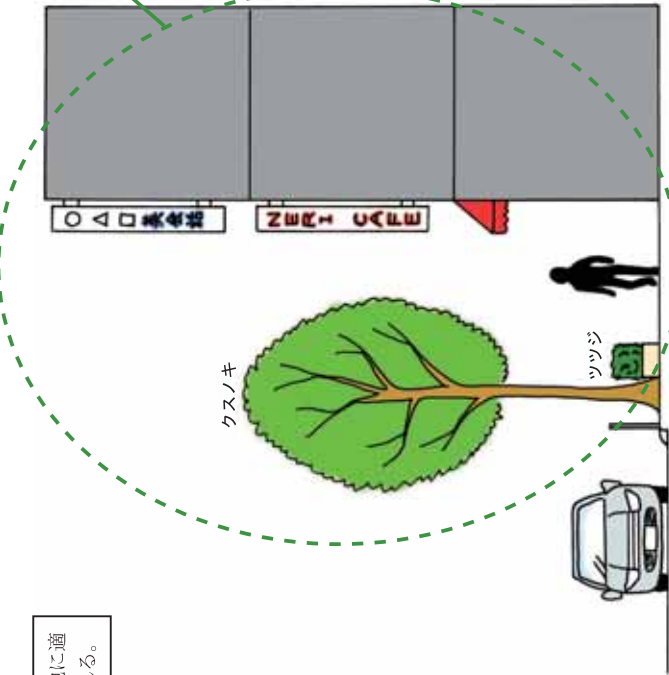
カネタタキ



ナミアゲハ



ヤマトジジミ



【歩道、建物周辺】

- 植物：クスノキ、ツメクサ、プラタナス、カタバミ、ツツジ
- 鳥類：ドバト、ツバメ、ハクセキレイ、ハシブトガラス
- 昆虫類：アオマツムシ、アオスジアゲハ
- クモ類：コクサグモ



カタバミ



ツバメ



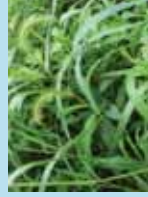
ハクセキレイ



アオマツムシ

【駐車場】

- 植物：メヒシバ、アキノエノコログサ、エノコログサ
- 鳥類：スズメ
- 昆虫類：エンマコオロギ、オンブバッタ



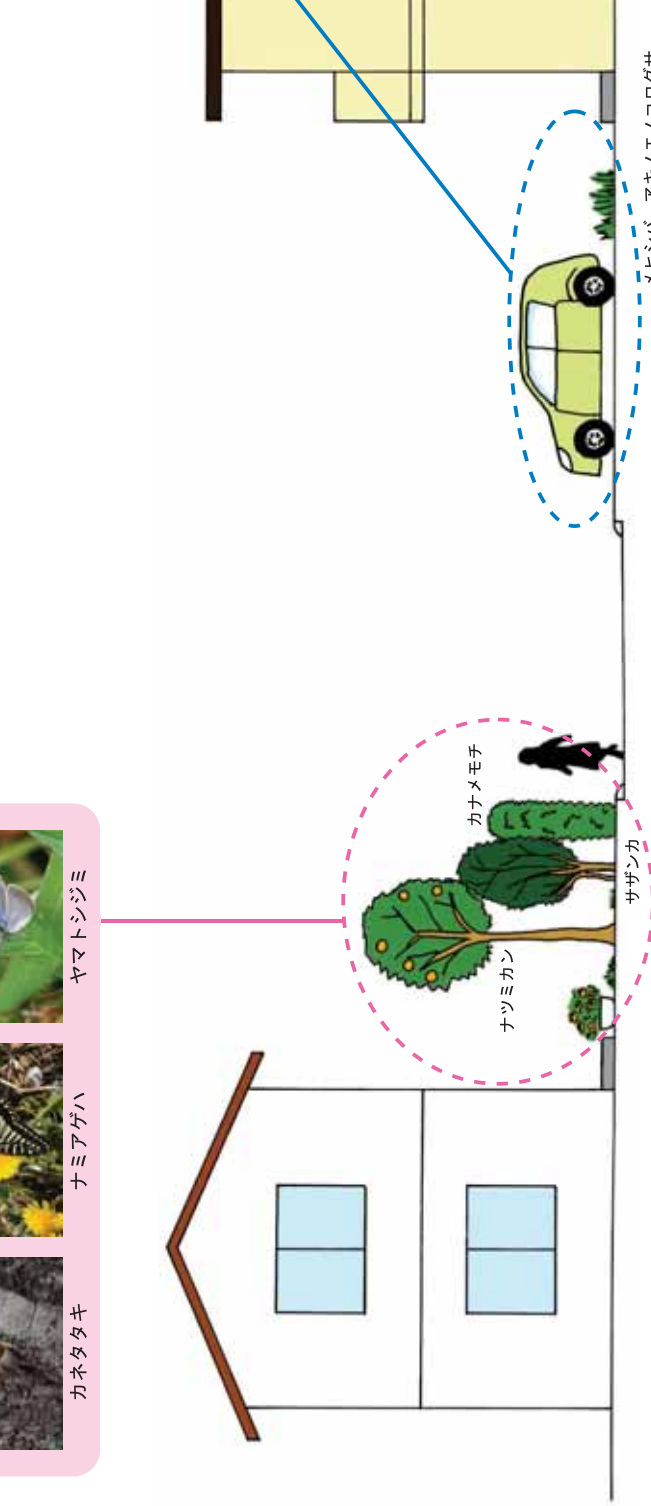
エンマコオロギ



スズメ



オンブバッタ



メヒシバ アキノエノコログサ

サザンカ

ナツミカン

カナメモチ

図VI-2-10 市街地のイメージと各構造に特徴的な生物相

第七章 調査結果からの提案

1. 注目したい種や地点の検討

(1) 注目したい種

本調査では、合計 2,100 種以上の動植物を確認した。この中には、環境省や東京都が定めるレッドリスト記載種や、特定外来生物などが含まれていた。これらの種については、各分類群で抽出・整理し、その生息状況などをまとめた。

しかし、確認種の中には、このような区分はされなくとも、区内では数の少ない種や、区内の代表的な自然環境と結びついた「地域のシンボル」ともいうべき種も含まれている。例えば、区民アンケート調査「ねりまの生きものさがし」を実施する際にキャラクターとして用いたタヌキ・モズ・タマムシは、平成 21 年度の検討委員会において、「練馬らしさ」を表現する種として選定したものである。これらの事例を参考にしながら、今後、区民の方に注目して欲しい種、あるいは「区の鳥」^{※75}や「区の虫」等の検討に繋げていくことが望ましい。その際には、専門家の意見はもとより、広く区民の方の意見を聞き、区民のコンセンサスを得ながら、作業していくことが望まれる。

(2) 調査地の利活用に向けて

区内には、都立石神井公園や都立光が丘公園といった大規模な緑地や、武蔵野の景観を残す屋敷林や雑木林、その周囲に広がる農地、石神井川や白子川という河川など、「練馬らしさ」を感じることができる、様々な場所が存在する。

これまで、このような場所についての生物情報は断片的なものが多かったが、今回の調査により、区内の主要な地点において、調査時期や手法なども揃えた動植物の生育・生息情報が得られたことになる。この情報により、各調査地をはじめ、区内の緑地などを評価する際に、これまで用いられてきた面積などの「量」的な視点に加えて、生物多様性という「質」的な視点で捉えることも可能となった。例えば、これまであまり評価がされにくかった草地環境についても、昆虫類などの重要な生息環境として、再評価することもできると考えられる。

また、この生物情報を元に、各調査地などで生物多様性などをテーマにした自然観察会や環境学習活動を行うことなども可能となり、様々な場面で活用されることが望まれる。

※75 区の鳥：東京 23 区内では、以下の 6 区で「区の鳥」を指定している。一方、「区の虫」を指定している区はない。

千代田区（はくちょう（コブハクチョウ））、品川区（ユリカモメ）、目黒区（シジュウカラ）、大田区（ウグイス）、世田谷区（オナガ）、板橋区（ハクセキレイ）

2. 各環境類型の管理・保全についての検討

(1) 基本的な考え方

本調査では、各調査地で把握された生育・生息する動植物の情報から、区内で代表的な環境類型を抽出し、その特徴をまとめた。この類型を元に、練馬区における自然環境の管理・保全指針を検討していくことも可能と考える。

その際には、重要種の保全や外来種への対応について、所有者・管理者と調整することや、区民の方とのコンセンサス作りなども必要になってくると考えられる。

(2) 環境類型ごとの管理・保全方針

1) 大規模樹林（保護区型）

定期的に樹木の剪定や下刈りがされており、昔ながらの里山の二次林（いわゆる雑木林）に近い樹林が多く含まれる。林内への立ち入りが制限されているため、林床は踏圧が低く、植被率が高い。キンランなどの定期的な管理のされた二次林に特徴的な重要種が見られる。一方で、管理頻度の低い落葉が多く堆積した樹林で重要種のタシロランが生育していた。

上記のような調査結果から、一律な管理ではなく、落ち葉を堆積させる場所を作るなど、部分的に変化を付けることが生物多様性を高めることに繋がると考えられる。また、この類型の樹林は規模が大きいため、規模の小さい樹林よりも樹林内の湿り気が保たれ、樹林生シダ類などが多く生育できる環境にもなっている。樹林の質に加えて規模を維持することも重要である。

2) 大規模樹林（都市公園型）

人の利用が優先されているため、定期的に樹木の剪定や下刈りがされ、林内は見通しよく管理されている。保護区型よりも下刈り頻度が高く、さらに踏圧が高いため、林床の植物は少ない。

林床の植物が少ないものの、区内では少ない植物が生育する林床もあるため、頻繁に草刈りを行うのは通路に限定するなど、林床の植生を把握した上での管理が望まれる。

3) 小規模落葉広葉樹林

定期的に樹木の剪定や下刈りがされており、昔ながらの里山の二次林（いわゆる雑木林）に近い樹林である。林内への立ち入りが制限されているため、林床は踏圧が比較的 low、植被率が高い場所が多い。

植物の重要種は見られないものの、カブトムシなど雑木林の昆虫類が見られるため、この生息環境を維持するために、引き続き定期的な管理をすることが望ましい。柵で立ち入り制限されているものの、過去の踏圧の影響などで締め固まり、土壌が堅いため林床の植物が少ない樹林もある。柵で囲った効果を出すには、柵内の土壌をほぐし、やわらかくするなど対策が望まれる。

4) 社寺林

境内の樹林であるため、定期的な剪定や下刈りが行われている。現在の管理を続け、維持していくことが望ましい。ウラシマソウなど社寺林に残る植物が見られるが、個体数が少ないため、保護も検討することが望ましい。立ち入り制限された樹林では、林床の植物が多く

生育しているため、引き続き立ち入り制限をし、定期的な草刈り続けることが望ましい。

5) 屋敷林

庭の一部であるため、定期的な剪定や下刈りが行われている。現在の管理を続け、維持していくことが望ましい。林床に要注意外来生物のノハカタカラクサが繁茂し始めている樹林があったが、外来種の繁茂が目立つ場合は選択的にその植物を除草した方がよい。

6) 草地

踏圧が高く、草丈が低い草地が多い。人の利用を優先した草地でも、都立光が丘公園の昆虫原っぱのように立ち入り制限や草刈り頻度を少なくする区域を設けることで、昆虫相の豊かな草地にすることができる。公園の一角や学校の校庭などに、都立光が丘公園 昆虫原っぱのような場所を増やし、生物多様性の高い草地を作っていくことも考えられる。新たに植物を植える必要がなく、草刈りを少なくすることで実現できるので、取り組みやすいと思われる。また、冬場は草本を刈り残す場所を作ることで、昆虫が越冬したり、草本類の果実をスズメなどの鳥類が食べたりすることができる。

7) 農地

農地は、日当たりのよい開けた環境であり、花の咲く植物を植えることで昆虫が蜜や花粉を求めて集まってくる。農地で耕作を続けることが、農地に集まる生きものたちの保全となる。

8) 水辺（止水域）

区内の止水域で規模の大きなものは、調査地とした都立光が丘公園バードサンクチュアリ、都立石神井公園石神井池および三宝寺池、区立武蔵関公園富士見池である。ヨシ、マコモ、スイレンなどの抽水植物および浮葉植物は、繁茂しすぎないように定期的に刈り取りを行うことが望ましい。池周辺の草地では、アレチウリ、ヤブガラシなど特定の植物のみが繁茂しないように定期的に草刈り、つる切りなどを行うことで、草地の植物の多様性は高まる。草地では冬場に草本を刈り残す場所を作ることで、昆虫が越冬したり、草本類の果実をスズメなどが食べたりすることができる。

9) 水辺（流水域）

区内の流水域である河川はコンクリート護岸されているが、川岸が草地になっている場所もあるため、草刈り頻度を下げることで、区内では少なくなった草地環境を維持することができる。草地環境を維持することで昆虫類を始め、多くの生物が利用できる環境を作り出すことができる。

河川では特定外来生物のアレチウリ、オオフサモ、オオカワヂシャ、ミズヒマワリを確認している。河川では、ミズキンバイ、カワヂシャ、ナガエミクリなどの重要種も多いため、これらを被圧しはじめている特定外来生物を選択的に除草するなど、対策することが望ましい。

10) 市街地

この類型の中には、練馬駅周辺のような緑の少ない地域、農地などの緑の残る地域、緑化

が進められている地域などが含まれる。市街地に適応した生きものだけでなく、市街地の中の緑地を利用する生きものも見られる。

そのため、市街地の中に現在残る緑地を維持する工夫をしていくことが望ましい。また、土の露出した路傍は区内ではほとんどなく、そのような場所に生育する草本も減少傾向にある。農地沿いや千川上水沿い、田柄川緑道など土の露出した路傍もできる限り残すことが望ましい。

(3) その他の管理・保全方針

1) 植栽する場合の注意点

第IV章で述べたとおり、練馬区内の植物は植栽されたものが多い。産地不明の在来種の植栽も多く、重要種とされる植物の植栽も多い。植栽する場合には地域の遺伝子を保護するために、なるべく近くの産地からとし、植栽記録を残していく方法が望ましい。

2) 埋土種子の利用

水辺（止水域）では、三宝寺池で埋土種子の発芽実験が行われている。樹林にも埋土種子は存在するため、樹林での実施も可能である。すでに、踏圧などによって土壌が締め固まり、かつて生育していた林床の植物が消失した場所で、現地の土壌をほぐすことで現地の埋土種子が発芽する可能性がある。また、現地の埋土種子が消失した場合でも、練馬区内の状態のよい林床の埋土種子を含んだ土壌を撒き出すことにより、林床の植物を再生させる手段のひとつとなる。この方法を用いる場合は、植栽の場合と同様、なるべく近くの樹林からあまり影響を与えない程度に土壌を採取し、採取場所と撒き出し日時・場所などの記録を残していくことが望ましい。さらに、目指す植物群落の状態を維持するための剪定、間伐、下刈りなどの定期的な管理も必要である。

3) 林縁環境の整備

練馬区内の樹林の多くは、マント群落^{※76}、ソデ群落^{※77}と呼ばれる林縁の緩衝帯となる植物帯が消失しており、林縁の植物群落が貧弱化している。マント群落、ソデ群落は、樹林内を乾燥化や直射日光などから樹林を保護する役目を持つ。また、マント群落、ソデ群落は日当たりが良く植物が繁茂するため、花粉や蜜も求めて集まる昆虫類や葉を食べる昆虫類をはじめ、それを捕食する昆虫、鳥類などの動物が多く利用する生物多様性の高い場所でもある。

具体的な対策としては、樹林の林縁の管理を緩め、マント群落、ソデ群落を残すモデル地区を設け、動植物のモニタリングをすることが望ましい。その際には、その土地の所有者や管理者、公園などの公の場では利用者や市民団体などとの協議・調整が課題のひとつとして挙げられる。

※76 マント群落：林の周囲や斜面を覆うように生育している、つる植物や低木を主とした群落。ソデ群落とともに、林内への風の吹き込み、日光の直射、土壌の流失などを防ぐ働きがある。

※77 ソデ群落：マント群落を縁取るように帯状に茂る草本からなる群落。マント群落とともに、林内への風の吹き込み、日光の直射、土壌の流失などを防ぐ働きがある。

3. 動植物の保全に関する取り組みとの関係

(1) エコロジカル・ネットワーク^{※78}の検討

今回の自然環境調査は、区内の「どこ」に「どのような」動植物が生育・生息しているかを把握するものであった。この結果をもとに、区内でも特に生育・生息する種や重要種が多い地点を、「コア」あるいは「重要地点」として抽出することができる。

一方、これまでの区の施策として、「みどりの実態調査」や「みどりの基本計画」などの緑地を対象とした調査や計画づくりが行われている。

この両者を合わせて検討することで、練馬区内のエコロジカル・ネットワークにつながる検討ができると考えられる。その際、具体的な生物情報をもとに検討するとともに、樹林地・草地・水辺等の自然環境の質の違いにより区分して考えることが重要となる。

また、ネットワークを考える際に重要な、個々の生育・生息地の規模の比較やつながり方の検討も必要となる。また、ネットワークにはあたらない市街地や住宅地などの部分についての検討も今後の課題となる。

(2) 生物多様性地域戦略の基礎情報としての役割

近年、「生物多様性地域戦略^{※79}」を策定する自治体が出てきている。この戦略づくりには、市民の参加や、その仕組みづくりが重要である。しかし、一方で、客観的な情報としての、動植物の生育・生息情報も不可欠である。

今回の自然環境調査は、その基礎情報となるものであり、今後、練馬区でこの種の戦略が検討される際には活用できると考えられる。

※78 エコロジカル・ネットワーク：

個々の生息地が、生物の移動が可能であるようにつながれた状態にある、生息地のネットワークを意味する。

※79 生物多様性地域戦略：

英語の“National Strategies and Action Plans (NBSAPs)”を日本語訳したもの。Strategyは、(ある目的・成果を遂げるための)計画・方法・方策・戦略を意味し、個別の施策／実行計画より広範で大局的な計画を表す言葉。NBSAPsは、Strategy(広範で大局的な計画)とAction Plans(実行計画)を組み合わせたもの。2011年7月現在、13の県、8の市町村で作成されており、現在作成を検討しているところも増えてきている。これは、2010年10月に愛知県名古屋市で開催された生物多様性条約第10回締約国会議が契機と言われている。

4. 自然環境調査の今後の展開に向けて

(1) 練馬区自然環境調査の目的の確認 ～地域の基礎情報としての位置づけ～

貴重な区内の自然環境を保護・保全していくには、その状況を科学的な視点で把握しておくことが重要である。また、その状況を定期的に追跡することも重要であり、希少種の減少や、外来種の増加などの変化を知ることができる。さらには、このような情報をもとに、区民の方へ自然環境の保全などについて、普及・啓発することが可能となる。

調査の頻度・間隔などについては、明確な基準はないが、近隣自治体などが行っている類似の調査を参考にすることが望ましい。

(2) 内容の検討

1) 専門調査

①調査対象地

本調査では、32箇所・7ルートで現地調査を行った。この対象地については、担当者による現地踏査を含めて検討を重ねた結果、区内の代表的な環境として抽出したものであり、今後、調査を継続する場合には、基本的に踏襲することが望ましい。

ただし、今回の調査結果などから、継続調査を行うことに十分な意味を見出せない場所や、より望ましい場所が設定できる場合には、変更も検討すべきと考える。

②対象種

今回、植物・植生、昆虫類、クモ類、鳥類、哺乳類、爬虫類、両生類、陸産貝類という分類群を対象に調査を行った。市区町村の規模で行う自然環境調査としては、網羅的に実施されたと考えられる。特にクモ類については、分類群自体の調査・研究が十分に進んでおらず、専門家も少ないなか、貴重な記録が多数得られた。一方、昆虫類については、種数が膨大であり、1回の調査では十分に把握できない分類群である。今後も継続調査を行うことで、確認種数は増えると予想される。

また、今回対象としなかった分類群として、菌類、地衣類、蘚苔類、水生生物、土壤動物などがある。今後は、類似の事例を参考にしながら、検討が必要になると考えられる。

③文献調査

本調査では、基本的に現地調査により生物情報を収集した。しかし、区内には自主的に生物調査を行い、整理・発表している団体もある。また、各種の文献の中には、区内の生物情報が記載されているものが見出せる。

これらを全て把握することは困難であるが、本調査の結果を時系列的に評価するためには、一定の収集・整理を行った上での比較を行うことに価値があると考えられる。

2) 区民アンケート調査について

①今後の事業

今回の調査により、区内全域を対象として分布が把握された種が多い。また、この事業に参加したことで、生きものに興味・関心を持った区民の方も多い。この成果を今後のまちづくりや教育関係に活かすためにも、事業を継続することが望まれる。

現在、世田谷区や越谷市などで継続的に実施していることから、これらの類似事例を参考

に、定期的に行うことが望ましい。

②対象種

今回の対象種は、「練馬らしさ」を念頭において選定されており、ツユクサ類で一部外来種を含む以外は、外来種は含めていない。このことで、参加者の方に、練馬区らしい生きものに興味・関心を持っていただくことができたと考えられるが、一方で外来種についての普及・啓発は十分に行えなかった。そこで、今後は、外来種についても対象として検討する余地を残したい。

また、報告された情報の中には誤認と思われる種も少なくなかった。例えば、ベニシジミとして報告されたものには、複数のチョウ類が含まれることが同封された写真から判断できた。したがって、生物実態調査の補足とすることも考慮し、写真の活用をより積極的に行うことが望まれる。そのためには、写真の添付を容易にするメールでの調査票の収集方法の検討や、参加者を対象とした写真撮影の講習会の様なものを行うことも検討すべきと考える。

さらに、参加者が少ないことへの対応として、あまり生きものを採したことのない方でも見つけやすい種が入っていてもよかったと思われる。専門家から見ると当たり前の結果であったとしても、参加者が記録を寄せやすいような工夫をとることも検討すべきと考える。

外来種の事例：

セイトカアワダチソウ、アカボシゴマダラ、ワカケホンセイインコ、ミシシippアカミミガメ
見つけやすい種の事例：

ヤブガラシ、ナズナ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシ、シオカラトンボ、スズメ、シジュウカラ

③学校との連携

今回は小学生も一般の参加者と同じ対象種を探すこととなった。しかし、これらの小学生については、現在ある学校ビオトープなどとの連動も検討すべきと考える。例えば、「ビオトープの生きもの調べ」のように対象種を、授業で扱うものや分かりやすいもの、知って欲しいものへの変更も考えられる。

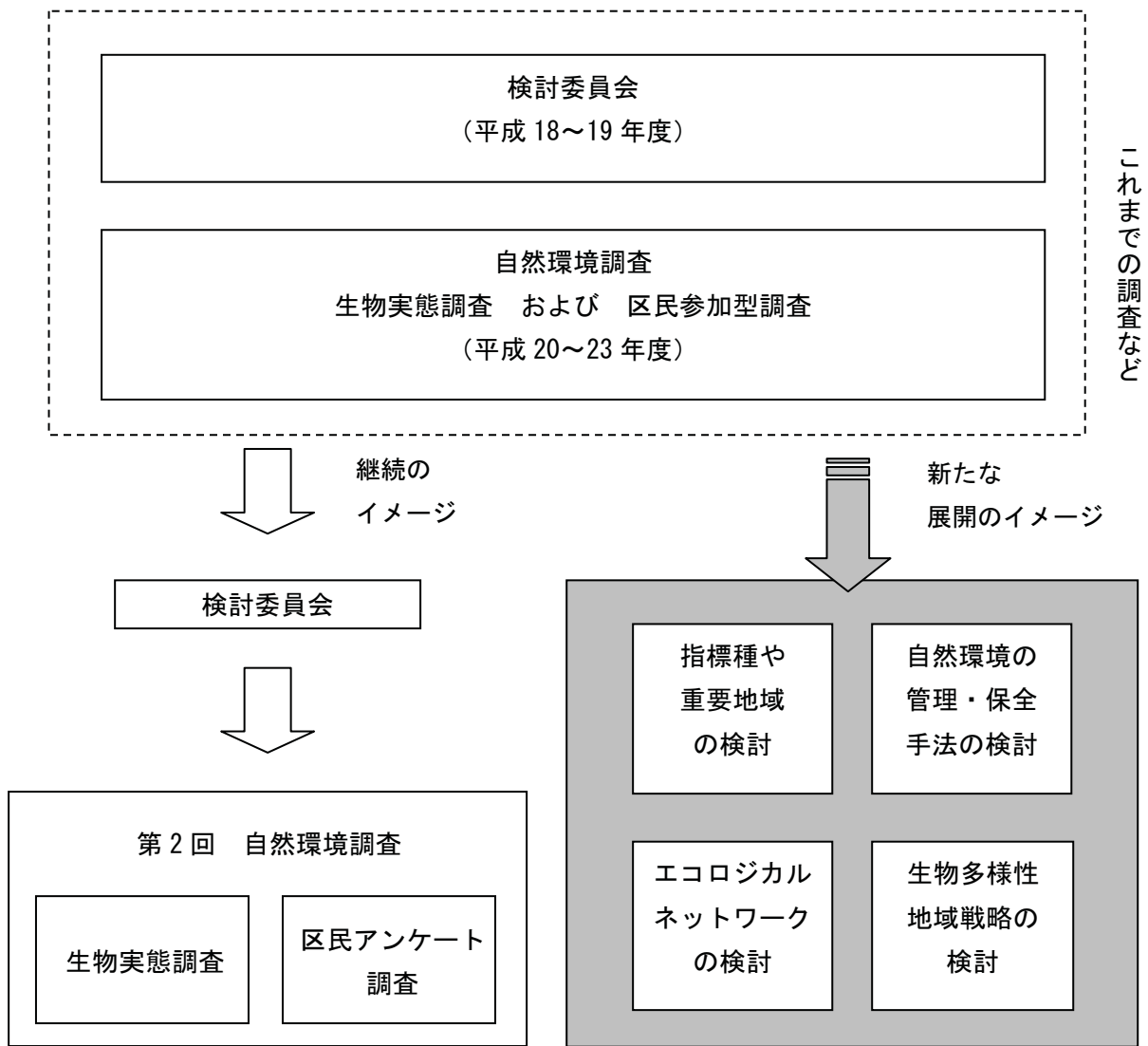
また、一般の参加者と同じ対象種・内容であれば、今後は中学生や高校生、さらには大学生の参加を促すことも可能と考えられる。

さらには、開発されにくい学校ビオトープなどを動植物の保全の場として位置づけることも可能であると考えられる。

④（仮称）区民調査員の検討

参加者の中には、精力的に調査票を提出し、本アンケートに大きな貢献をしていただいた方も見受けられた。これらの方は、調査能力も高く、区内の自然環境をモニタリングして行く上で、貴重な人材だと考えられる。

生物実態調査はもちろん、今回のような規模の区民アンケート調査を毎年実施することは、費用や労力の点から現実的とはいえない。しかし、このような人材との連携することで、情報収集の仕組みを作ることが可能になると考えられる。例えば、希少種や外来種などを観察した際に、情報を提供していただける「（仮称）区民調査員」のような制度も検討すべきと考える。



図Ⅶ－４－１ 練馬区自然環境調査の継続・展開イメージ

資料編

資料－1 練馬区自然環境調査検討会

【事前検討会】

年度	回数	実施日	場 所	検 討 内 容
18	第1回	H19.1.22	区役所本庁舎18階1801会議室	調査の目的、今後の進め方など
	第2回	H19.2.23	区役所東庁舎605会議室	過去の資料、関連法令、調査方法について
	第3回	H19.3.23	区役所東庁舎7階職員厚生室	調査方法、今後の進め方など
19	第1回	H19.5.29	区役所東庁舎7階職員厚生室	モニター調査、公募区民委員の選定、調査方法など
	第2回	H19.10.30	区役所東庁舎7階職員厚生室	規約の制定、調査の考え方、調査方法、調査時期など
	第3回	H19.11.29	区役所本庁舎18階1801会議室	代表的植生地の抽出方法、スケジュールについて
	第4回	H19.12.20	地下鉄成増駅～光が丘公園	現地実踏調査
	第5回	H20.1.28	区役所本庁舎18階1801会議室	調査場所、調査項目について
	第6回	H20.3.7	区役所本庁舎18階1801会議室	専門調査の時期、調査回数、ルート調査について

検討委員

	名前	所属
会 長	藤本 和典	シェアリングアース協会会長
副会長	佐藤 修	水研クリエイト(株) 代表取締役
検討委員	服部 仁美	(財)日本生態系協会
	金澤 伸行※	区民委員:(みどりの機構団体推薦)
	真下 弘※	区民委員(公募)
	熊谷 功※	区民委員(公募)
	木谷 勝	(財)練馬区都市整備公社 練馬まちづくりセンター 次長
	岩崎 哲也	(財)練馬区都市整備公社 練馬まちづくりセンター 専門研究員
	坂部 寿花	土木部 公園緑地課計画係長
	小林 直幸	環境清掃部環境政策課環境計画係長
	渡辺 浩	環境清掃部環境政策課環境学習主査
事務局	林 延江	環境清掃部環境保全課長
	大塚 昇	環境清掃部環境保全課環境第二係長
	長谷 伸一	環境清掃部環境保全課環境第二係主査
	横山 松栄	環境清掃部環境保全課環境第二係
	齋藤 茂	環境清掃部環境保全課環境第二係

※の3名の委員はH19年度第2回検討会から参加

【区民アンケート調査検討会】

年度	回数	実施日	場 所	検 討 内 容
21	第1回	H21.7.24	区役所東庁舎7階職員厚生室	会長、副会長の選任、規約について、今までの経緯説明
	第2回	H21.8.28	区役所本庁舎5階501会議室	事業の目的、方針、枠組み、選定種の検討など
	第3回	H21.9.25	区役所本庁舎5階501会議室	選定種の検討など
	第4回	H21.10.20	区役所本庁舎5階501会議室	選定種の検討、調査方法、その他の検討
	第5回	H21.11.24	区役所本庁舎19階1902会議室	調査事業タイトル、ハンドブック案、調査を盛り上げる方法などの検討、シンボルマーク選定
	第6回	H21.12.15	区役所本庁舎18階1801会議室	ハンドブック案、調査用紙案、調査を盛り上げる方法などの検討

検討委員

	名前	所属
学識 経験者	藤本 和典	シェアリングアース協会会長
	佐藤 修	水研クリエイト(株) 代表取締役
	佐藤 方博	NPO法人 生態工房事務局長
行政系 委員	眞瀬 敦子	練馬区立谷原小学校校長
	岩崎 哲也	(財)練馬区都市整備公社 練馬まちづくりセンター 専門研究員
区民 委員	金澤 伸行	石神井公園野鳥と自然の会会長 ねりまエコ・アドバイザー
	津久井 優子	稲荷山図書館非常勤臨時職員
	松岡 直子	自然環境ねりまくらぶ代表 ねりまエコ・アドバイザー
	村田 千尋	NPO法人 みどり環境ネットワーク! 事務局長
事務局	高橋 誠司	環境清掃部環境保全課長
	大塚 昇	環境清掃部環境保全課環境第二係長
	長谷 伸一	環境清掃部環境保全課環境第二係次席
	齋藤 茂	環境清掃部環境保全課環境第二係
	田中 絢子	環境清掃部環境保全課環境第二係
	中村 忠昌	(株)生態計画研究所 主任研究員
	竹島 佐絵子	(株)生態計画研究所 主任研究員

資料－２ 自然観察会・写真展

区内の自然環境へ興味・関心を持ってもらうとともに「ねりまの生きものさがし」の普及の目的のため、区民等を対象にした自然観察会、写真展を実施した。自然観察会は平成 21 年 10 月から「ねりまの生きものさがし」に先行して行い、同事業終了後も区民の環境学習のため、定期的実施した。写真展は、「ねりまの生きものさがし」開始時の平成 22 年 3 月に第 1 回目を実施し、春夏秋冬の各調査開始時と時期を合わせて実施した。

(1) 自然観察会

1) 広報

「ねりま区報」および区のホームページにより、実施日の約 1 ヶ月前に告知を行った。図書館などの人の集まる拠点にチラシの配布も行った。自然観察会の参加者には次回のチラシを配布し、参加を呼びかけた。「ねりまの生きものさがし」実施中は、同事業のハンドブック、ニュースレターでも告知を行った。

2) 応募方法

参加希望者は、担当部署に必要事項を記入し、往復はがきにより応募を行うこととした。参加決定者には、復信のはがきにより、集合場所、持ち物、服装などの確認事項を送付した。

3) 実施内容

観察会のテーマは季節に合わせたものとし、場所は自然観察がしやすく、人が集まりやすい都立公園を中心とした。観察対象の分野に詳しい講師を選定した。資料一表 1 に実施した自然観察会の一覧を示した。以下に主な観察会の実施状況写真を示した。



秋の生きもの観察会



冬の野鳥観察会



春の植物観察会



セミの羽化観察会



ナイトウォッチング



三宝寺池のカメ観察会

自然観察会実施状況

年度	タイトル	日時		講師	場所	備考	参加人数
平成21年度	秋の生きものの観察会 ～トンボやバッタを見つけよう！～	平成21年10月4日(日)	10:00～12:00	藤本 和典	光が丘公園		24
	秋の植物観察会 ～くつつく種や木の実を探そう！～	平成21年11月7日(土)	10:00～12:00	竹島 佐絵子	光が丘公園		24
	冬の生きものの観察会	平成21年12月6日(日)	10:00～12:00	中村 忠昌	大泉中央公園		27
	三宝寺池の水鳥観察会	平成22年1月16日(土)	10:00～12:00	藤本 和典	石神井公園		18
	冬の野鳥観察会	平成22年2月7日(日)	10:00～11:30	中村 忠昌	光が丘公園		37
	春のキックオフイベント 春の生きものの観察会 ～春を見つけに行こう！～	平成22年3月13日(土)	10:00～11:30	中村 忠昌 竹島 佐絵子	光が丘公園		35
平成22年度	春の植物観察会 ～春を彩る花たち～	平成22年4月10日(土)	10:00～11:30	竹島 佐絵子	立野公園		20
	初夏の生きものの観察会 ～初夏に見られる野鳥や昆虫を探そう！～	平成22年5月16日(日)	10:00～11:30	中村 忠昌	光が丘公園		32
	カメの観察会 ～水の中の生きものを観察しよう～	平成22年6月19日(土)	10:00～11:30	佐藤 方博	石神井公園	前日天候判断により中止	1※
	セミの羽化観察会	平成22年7月31日(土)	19:00～20:30	中村 忠昌 竹島 佐絵子	石神井公園		38
	ナイトウォッチング ～夜の公園で生きものを探そう～	平成22年8月22日(日)	18:30～20:00	中村 忠昌	光が丘公園		32
	バッタの観察会	平成22年9月23日(木・祝)	10:00～11:30	中村 忠昌	光が丘公園	前日天候判断により中止	—
	秋の木の実観察・クラフトづくり	平成22年11月6日(土)	10:00～12:00	竹島 佐絵子	光が丘公園、 花とみどりの相談所		16
	北国から渡ってくる野鳥の観察会	平成22年12月11日(土)	10:00～11:30	中村 忠昌	石神井公園		19
	冬の雑木林で生きものを探そう	平成23年2月20日(日)	10:00～11:30	中村 忠昌	光が丘公園		22
平成23年度	新緑の中で野鳥を探そう	平成23年5月14日(土)	9:30～11:00	中村 忠昌	光が丘公園		26
	三宝寺池のカメ観察会	平成23年6月19日(日)	10:00～11:30	佐藤 方博	石神井公園		33
	セミの羽化観察会	平成23年7月30日(土)	19:00～20:30	中村 忠昌 竹島 佐絵子	石神井公園	前日天候判断により中止	3※
	ナイトウォッチング ～夜の公園でコウモリを探そう～	平成23年8月21日(日)	18:30～20:00	中村 忠昌	光が丘公園	前日天候判断により中止	—
	秋の原っぱで生きものさがし	平成23年10月29日(土)	9:30～11:00	中村 忠昌	光が丘公園		32
	北国から渡ってくる野鳥の観察会	平成24年2月4日(土)	9:30～11:00	中村 忠昌	石神井公園		22
						合計	461

※スタッフ研修として実施

(2) 写真展

1) 広報

「ねりま区報」、練馬区ホームページにより、実施日の約1ヶ月前に告知を行った。「ねりまの生きものさがし」のニュースレターでも告知を行った。

2) 実施内容

「ねりまの生きものさがし」の春、夏、秋、冬の調査開始時期に合わせて、資料一表2のような日程で行った。場所は練馬区役所1階アトリウムと光が丘公園バードサンクチュアリ
の2箇所とした。写真は、「ねりまの生きものさがし」の対象種やその季節に見られる動植物を選定し、解説をつけて紹介をした。

写真展実施状況

タイトル	日時	場所
春の生きもの写真展	平成22年3月1日(月)～3月17日(水)	練馬区役所1階 アトリウム
	平成22年3月6日(土)～3月14日(日)	光が丘公園バードサンクチュアリ
夏の生きもの写真展	平成22年6月21日(月)～6月30日(水)	練馬区役所1階 アトリウム
	平成22年6月26日(土)～8月8日(日)	光が丘公園バードサンクチュアリ
秋の生きもの写真展	平成22年9月1日(水)～9月14日(火)	練馬区役所1階 アトリウム
	平成22年9月4日(土)～10月17日(日)	光が丘公園バードサンクチュアリ
冬の生きもの写真展	平成22年12月2日(木)～12月17日(金)	練馬区役所1階 アトリウム
	平成22年12月4日(土)～平成23年1月30日(日)	光が丘公園バードサンクチュアリ



写真展実施状況 (練馬区役所)



写真展実施状況
(光が丘公園バードサンクチュアリ)

資料-3 植物の確認種一覧 (1/15)

分類 (門・綱)	科名	種名	学名	I 北町・田柄エリア								II 豊玉・中村エリア								
				I (1)	I (6)	W (4)	I (2)	I (7)	I (3)	I (4)	I (5)	I (8)	II (1)	II (2)	II (3)	II (4)	II (5)			
				都立光が丘公園			都立城北中央公園	草	どんぐり山憩いの森	八幡神社	U氏邸	高松市民農園	武蔵学園	豊島園	区立高福荷公園	廣徳寺	区立高福荷公園	永川神社	N氏邸	
シダ植物門	マツバラン	マツバラン	<i>Psilotum nudum</i>																	
	イワヒバ	カタヒバ	<i>Selaginella involvens</i>																	
		イヌカタヒバ	<i>Selaginella moellendorffii</i>																	
		タチクラマゴケ	<i>Selaginella nipponica</i>																	
		クラマゴケ	<i>Selaginella remotifolia</i>																	
		コンテリクラマゴケ	<i>Selaginella uncinata</i>																	
	ミズニラ	ミズニラ	<i>Isoetes japonica</i>																	
	トクサ	スギナ	<i>Equisetum arvense</i>																	
		トクサ	<i>Equisetum hymale</i>																	
	ハナヤスリ	オオハナワラビ	<i>Botrychium japonicum</i>																	
		フユノハナワラビ	<i>Botrychium ternatum</i>																	
		ナツノハナワラビ	<i>Botrychium virginianum</i>																	
	ゼンマイ	ゼンマイ	<i>Osmunda japonica</i>																	
	ウラボシ	コシダ	<i>Dicranopteris linearis</i>																	
	フサシダ	カニクサ	<i>Lygodium japonicum</i>																	
	コバノイシカグマ	イヌシダ	<i>Dennstaedtia hirsuta</i>																	
		イワヒメワラビ	<i>Hypolepis punctata</i>																	
		フモトシダ	<i>Microlepia marginata</i>																	
	ワラビ		<i>Pteridium aquilinum</i> var. <i>latiusculum</i>																	
		ホウライシダ	<i>Adiantum capillus-veneris</i>																	
	タチシノブ		<i>Onychium japonicum</i>																	
		オオバノイノモトソウ	<i>Pteris cretica</i>																	
	イノモトソウ	イノモトソウ	<i>Pteris multifida</i>																	
		トラノオシダ	<i>Asplenium incisum</i>																	
	クモノスシダ		<i>Asplenium ruprechtii</i>																	
		コバノヒノキシダ	<i>Asplenium sarelii</i>																	
	シシガシラ	コモチシダ	<i>Woodwardia orientalis</i>																	
		リョウメンシダ	<i>Arachniodes standishii</i>																	
		ホソバナライシダ	<i>Arachniodes borealis</i>																	
		ナガバヤブソテツ	<i>Cyrtomium devexiscapulae</i>																	
		オニヤブソテツ	<i>Cyrtomium falcatum</i>																	
		ヤブソテツ	<i>Cyrtomium fortunei</i>																	
		ベニシダ	<i>Dryopteris erythrosora</i>																	
		クマワラビ	<i>Dryopteris lacera</i>																	
		アイノクマワラビ	<i>Dryopteris × mituii</i>																	
		オクマワラビ	<i>Dryopteris uniformis</i>																	
		オオイタチシダ	<i>Dryopteris varia</i> var. <i>hikonensis</i>																	
		ヤマイタチシダ	<i>Dryopteris varia</i> var. <i>setosa</i>																	
		アスカイノテ	<i>Polystichum fibrilloso-paleaceum</i>																	
		イノテ	<i>Polystichum polyblepharum</i>																	
		ヒメシダ	ホシシダ	<i>Cyclogramma acuminatus</i>																
	イヌケホシシダ		<i>Cyclosorus dentatus</i>																	
	ゲジゲジシダ		<i>Phegopteris decursivopinnata</i>																	
	ミゾシダ		<i>Stegogramma pozoi</i> ssp. <i>mollissima</i>																	
	ハシゴシダ		<i>Thelypteris glanduligera</i>																	
	ハリガネワラビ		<i>Thelypteris japonica</i>																	
	ヤウランシダ		<i>Thelypteris laxa</i>																	
	ヒメシダ		<i>Thelypteris palustris</i>																	
	ヒメワラビ		<i>Thelypteris torresiana</i> var. <i>calvata</i>																	
	ミドリヒメワラビ		<i>Thelypteris viridifrons</i>																	
	メシダ	イヌワラビ	<i>Athyrium niponicum</i>																	
		ヘビノネゴザ	<i>Athyrium yokoscense</i>																	
		ホソバシケンシダ	<i>Deparia conilii</i>																	
		シケンシダ	<i>Deparia japonica</i>																	
		クサソテツ	<i>Matteuccia struthiopteris</i>																	
		コウヤワラビ	<i>Onoclea sensibilis</i> var. <i>interrupta</i>																	
		ウラボシ	ノキシノブ	<i>Lepisorus thunbergianus</i>																
	サンショウモ	オオサンショウモ	<i>Salvinia molesta</i>																	
	種子植物門	裸子植物亜門	イチヨウ	<i>Ginkgo biloba</i>																
			ソテツ	<i>Cycas revoluta</i>																
			マツ	モミ	<i>Abies firma</i>															
				ウラボシモミ	<i>Abies homolepis</i>															
				ヒマラヤスギ	<i>Cedrus deodara</i>															
				カラマツ	<i>Larix kaempferi</i>															
				ドイツトウヒ	<i>Picea abies</i>															
				アカマツ	<i>Pinus densiflora</i>															
				チヨウセンゴヨウ	<i>Pinus koraiensis</i>															
				ダイオウシヨウ	<i>Pinus palustris</i>															
				ゴヨウマツ	<i>Pinus parviflora</i>															
				クロマツ	<i>Pinus thunbergii</i>															
			スギ	スギ	<i>Cryptomeria japonica</i>															
				コウヨウザン	<i>Cunninghamia lanceolata</i>															
				メタセコイア	<i>Metasequoia glyptostroboides</i>															
				コウヤマキ	<i>Sciadopitys verticillata</i>															
			ヒノキ	ラクウショウ	<i>Taxodium distichum</i>															
				ヒノキ	<i>Chamaecyparis obtusa</i>															
				サワラ	<i>Chamaecyparis pisifera</i>															

資料-3 植物の確認種一覧 (5/15)

分類 (門・綱)	科名	種名	学名	I 北町・田柄エリア										II 豊玉・中村エリア					
				I ①	I ⑥	W ④	I ②	I ⑦	I ③	I ④	I ⑤	I ⑧	II ①	II ②	II ③	II ④	II ⑤		
				都立光が丘公園			都立城北中央公園		どんぐり山憩いの森	八幡神社	U氏邸	高松市民農園	武蔵学園	豊島園	区立高稲荷公園	廣徳寺	区立高稲荷公園	氷川神社	N氏邸
種子植物門 被子植物亜門 双子葉植物綱 離弁花亜綱	マンサク	トキワマンサク	<i>Loropetalum chinense</i>																
		ベニバナトキワマンサク	<i>Loropetalum chinense</i> var. <i>rubra</i>																
		フウ	<i>Liquidambar formosana</i>																
		モミジバフウ	<i>Liquidambar styraciflua</i>																
	ベンケイソウ	エケベリア属の一種	<i>Echeveria</i> sp.																
		コモチマンネングサ	<i>Sedum bulbiferum</i>																
		オノマンネングサ	<i>Sedum lineare</i>																
		メキシコマンネングサ	<i>Sedum mexicanum</i>																
		オカタイトメ	<i>Sedum oryzifolium</i> var. <i>pumilum</i>																
		ツルマンネングサ	<i>Sedum sarmentosum</i>																
		ヨコハママンネングサ	<i>Sedum</i> sp.																
		コゴメマンネングサ	<i>Sedum uniflorum</i>																
	ユキノシタ	チダケサシ	<i>Astilbe microphylla</i>																
		ウツギ	<i>Deutzia crenata</i>																
		マルバウツギ	<i>Deutzia scabra</i>																
		タマアジサイ	<i>Hydrangea involucrata</i>																
		アジサイ	<i>Hydrangea macrophylla</i>																
		ヤマアジサイ	<i>Hydrangea macrophylla</i> var. <i>acuminata</i>																
		ノリウツギ	<i>Hydrangea paniculata</i>																
		ゴトウヅル	<i>Hydrangea petiolaris</i>																
		カシワバアジサイ	<i>Hydrangea quercifolia</i>																
		タコノアシ	<i>Penthorum chinense</i>																
		ヤグルマソウ	<i>Rodgersia podophylla</i>																
		ユキノシタ	<i>Saxifraga stolonifera</i>																
		イワガラミ	<i>Schizophragma hydrangeoides</i>																
		トベラ	トベラ	<i>Pittosporum tobira</i>															
			キンミズヒキ	<i>Agrimonia japonica</i>															
			クサボケ	<i>Chaenomeles japonica</i>															
			ボケ	<i>Chaenomeles speciosa</i>															
		バラ	カリン	<i>Chaenomeles sinensis</i>															
	ヘビイチゴ		<i>Duchesnea chrysantha</i>																
	ヤブヘビイチゴ		<i>Duchesnea indica</i>																
	ビロ		<i>Eriobotrya japonica</i>																
	ダイコンソウ		<i>Geum japonicum</i>																
	ヤマブキ		<i>Kerria japonica</i>																
	ヒメリンゴ		<i>Malus baccata</i> var. <i>mandshurica</i>																
	ハナカイドウ		<i>Malus halliana</i>																
	レッドロビン		<i>Photinia × fraseri</i>																
	カナメモチ		<i>Photinia glabra</i>																
	ミツバツチグサ		<i>Potentilla freyniana</i>																
	オヘビイチゴ		<i>Potentilla sundaica</i> var. <i>robusta</i>																
	カマツカ		<i>Pourthiaea villosa</i> var. <i>laevis</i>																
	アンズ		<i>Prunus americana</i>																
	イヌザクラ		<i>Prunus buergeriana</i>																
	カンヒザクラ		<i>Prunus campanulata</i>																
	ウワミズザクラ		<i>Prunus gravana</i>																
	ヤマザクラ		<i>Prunus jamasakura</i>																
	オオシマザクラ		<i>Prunus lannesiana</i> var. <i>speciosa</i>																
	ウメ		<i>Prunus mume</i>																
	ソメイヨシノ		<i>Prunus × yedoensis</i>																
	エドヒガン		<i>Prunus pendula</i> f. <i>ascendens</i>																
	モモ		<i>Prunus persica</i>																
	オオヤマザクラ		<i>Prunus sargentii</i>																
	ユスラウメ		<i>Prunus tomentosa</i>																
	バクチノキ		<i>Prunus zippeliana</i>																
	タチバナモドキ		<i>Pyracantha angustifolia</i>																
	トキワサンザシ		<i>Pyracantha coccinea</i>																
	ヒマラヤトキワサンザシ		<i>Pyracantha crenulata</i>																
	シャリンバイ		<i>Rhaphiolepis umbellata</i>																
	シロヤマブキ		<i>Rhodotypos scandens</i>																
	モッコウバラ		<i>Rosa banksiae</i>																
	サンショウバラ	<i>Rosa hirtula</i>																	
	セイヨウバラ	<i>Rosa hybrida</i>																	
	ノイバラ	<i>Rosa multiflora</i>																	
	テリハノイバラ	<i>Rosa wichuraiana</i>																	
	クマイチゴ	<i>Rubus crataegifolius</i>																	
	クサイチゴ	<i>Rubus hirsutus</i>																	
	ニガイチゴ	<i>Rubus microphyllus</i>																	
	モミジイチゴ	<i>Rubus palmatus</i> var. <i>coptophyllus</i>																	
	ナワシロイチゴ	<i>Rubus parvifolius</i>																	
	カジイチゴ	<i>Rubus trifidus</i>																	
	ワレモコウ	<i>Sanguisorba officinalis</i>																	
	ナナカマド	<i>Sorbus commixta</i>																	
	コデマリ	<i>Spiraea cantoniensis</i>																	
	シモツケ	<i>Spiraea japonica</i>																	
	シジミバナ	<i>Spiraea prunifolia</i>																	
	ユキヤナギ	<i>Spiraea thunbergii</i>																	

資料-3 植物の確認種一覧 (8/15)

分類 (門・綱)	科名	種名	学名	I 北町・田柄エリア										II 豊玉・中村エリア								
				I (1)		I (6)	W (4)	I (2)		I (7)	I (3)	I (4)	I (5)	I (8)	II (1)		II (2)	II (3)	II (4)	II (5)		
				都立光が丘公園		昆虫原っぱ	BS水辺	都立城北中央公園		草	どんぐり山際の森	八幡神社	U氏邸	高松市民農園	武蔵学園		豊島園	区立高稲荷公園	廣徳寺	区立高稲荷公園	水川神社	N氏邸
				自然保全ゾーン	BS樹林			BS草地	その他						理科棟脇樹林	その他	庭の湯周辺林					
種子植物門 被子植物亜門 双子葉植物綱 離弁花亜綱																						
ウリ	キサスウリ	<i>Trichosanthes kirilowii</i> var. <i>japonica</i>	●	●			●															
ミソハギ	サルスベリ	<i>Lagerstroemia indica</i>						●														
ミソハギ	ミソハギ	<i>Lythrum anceps</i>							●													
フトモモ	ユーカリノキ風の一つ	<i>Eucalyptus</i> sp.					●															
マキバブラシノキ	マキバブラシノキ	<i>Callistemon rigidus</i>														●						
ザクロ	ザクロ	<i>Punica granatum</i>																				
アカバナ	アカバナ	<i>Epilobium pyrricholophum</i>																●				
アカバナ	チョウジタデ	<i>Ludwigia epilobioides</i>																				
アカバナ	ミスキンバイ	<i>Ludwigia stipulacea</i>																				
アカバナ	メマツヨイグサ	<i>Oenothera biennis</i>							●													
アカバナ	コマツヨイグサ	<i>Oenothera laciniata</i>								●												
アカバナ	ユウゲシヨウ	<i>Oenothera rosea</i>									●		●									
アリノトウグサ	オオフサモ	<i>Myriophyllum aquaticum</i>																				
ミズキ	アオキ	<i>Aucuba japonica</i>	●	●				●		●	●	●		●	●	●	●	●	●	●		
ミズキ	ハナミズキ	<i>Benthamidia florida</i>						●	●			●		●	●	●	●	●	●	●		
ミズキ	ヤマボウシ	<i>Benthamidia japonica</i>						●						●								
ミズキ	ミズキ	<i>Cornus controversa</i>	●	●	●	●			●		●		●	●	●	●	●	●	●	●		
ミズキ	サンシュユ	<i>Cornus officinalis</i>																				
ウコギ	ハナイカダ	<i>Helwingia japonica</i>																				
ウコギ	オカウコギ	<i>Acanthopanax nipponicus</i>																				
ウコギ	ヤマウコギ	<i>Acanthopanax spinosus</i>																				
ウコギ	ウド	<i>Aralia cordata</i>																				
ウコギ	タラノキ	<i>Aralia elata</i>									●			●	●							
ウコギ	メダラ	<i>Aralia elata</i> var. <i>subinermis</i>												●	●							
ウコギ	カクレミノ	<i>Dendropanax trifidus</i>												●	●		●	●	●			
ウコギ	タカノツメ	<i>Evyodiopanax innovans</i>																				
ウコギ	ヤツデ	<i>Fatsia japonica</i>	●	●																●		
ウコギ	カナリーキツタ	<i>Hedera canariensis</i>														●				●		
ウコギ	セイヨウキツタ	<i>Hedera helix</i>																		●		
ウコギ	キツタ	<i>Hedera rhombea</i>	●	●						●	●	●		●	●	●	●	●	●	●		
ウコギ	トチバニンジン	<i>Panax japonicus</i>																				
ウコギ	アルボリコラ	<i>Schefflera arboricola</i> 'Hong Kong'																		●		
セリ	ノダケ	<i>Angelica decursiva</i>																				
セリ	アシタバ	<i>Angelica keiskei</i>										●								●		
セリ	ツボクサ	<i>Centella asiatica</i>																				
セリ	セントウソウ	<i>Chamaele decumbens</i>																				
セリ	ミツバ	<i>Cryptotaenia japonica</i>																				
セリ	ハナウド	<i>Heracleum nipponicum</i>																				
セリ	ノチドメ	<i>Hydrocotyle maritima</i>																				
セリ	オオチドメ	<i>Hydrocotyle ramiflora</i>																				
セリ	チドメメ	<i>Hydrocotyle sibthorpioides</i>	●	●																		
セリ	ウチワゼニクサ	<i>Hydrocotyle verticillata</i> var. <i>triradiata</i>																				
セリ	ヒメチドメ	<i>Hydrocotyle yabei</i>	●																			
セリ	セリ	<i>Oenanthe javanica</i>																		●		
セリ	ヤブニンジン	<i>Osmorhiza aristata</i>	●																			
セリ	ウマノミツバ	<i>Sanicula chinensis</i>																				
セリ	ヤブジラミ	<i>Torilis japonica</i>																				
セリ	オヤブジラミ	<i>Torilis scabra</i>																				
合弁花亜綱	リョウブ	<i>Clethra barbinervis</i>	●	●																		
合弁花亜綱	ツツジ	サラサドウダン																				
合弁花亜綱	ツツジ	<i>Enkianthus campanulatus</i>																				
合弁花亜綱	ツツジ	ベニドウダン																				
合弁花亜綱	ツツジ	<i>Enkianthus cernuus</i> f. <i>nipponicus</i>																				
合弁花亜綱	ツツジ	<i>Enkianthus perulatus</i>																				
合弁花亜綱	ツツジ	<i>Enkianthus subsessilis</i>																				
合弁花亜綱	ツツジ	エリカ																				
合弁花亜綱	ツツジ	アメリカシヤクナゲ																				
合弁花亜綱	ツツジ	<i>Kalmia latifolia</i>																				
合弁花亜綱	ツツジ	セイヨウイワナナンテン																				
合弁花亜綱	ツツジ	<i>Leucothoe catesbaei</i>																				
合弁花亜綱	ツツジ	アセビ	●																			
合弁花亜綱	ツツジ	<i>Pieris japonica</i>																				
合弁花亜綱	ツツジ	アズマシヤクナゲ																				
合弁花亜綱	ツツジ	<i>Rhododendron degranianum</i>																				
合弁花亜綱	ツツジ	<i>Rhododendron degranianum</i> ssp. <i>metternichii</i> var. <i>hondoense</i>																				
合弁花亜綱	ツツジ	ホンシヤクナゲ																				
合弁花亜綱	ツツジ	<i>Rhododendron dilatatum</i>																				
合弁花亜綱	ツツジ	セイヨウシヤクナゲ																				
合弁花亜綱	ツツジ	<i>Rhododendron hybridum</i>																				
合弁花亜綱	ツツジ	サツキ																				
合弁花亜綱	ツツジ	<i>Rhododendron indicum</i>	●	●																		
合弁花亜綱	ツツジ	レンゲツツジ																				
合弁花亜綱	ツツジ	<i>Rhododendron japonicum</i>																				
合弁花亜綱	ツツジ	モチツツジ																				
合弁花亜綱	ツツジ	<i>Rhododendron macrosepalum</i>																				
合弁花亜綱	ツツジ	リュウキュウツツジ																				
合弁花亜綱	ツツジ	<i>Rhododendron mucronatum</i>																				
合弁花亜綱	ツツジ	ギリシマツツジ																				
合弁花亜綱	ツツジ	<i>Rhododendron obtusum</i>																				
合弁花亜綱	ツツジ	ヤマツツジ																				
合弁花亜綱	ツツジ	<i>Rhododendron obtusum</i> var. <i>kaempferi</i>																				
合弁花亜綱	ツツジ	オオムラサキ	●	●																		
合弁花亜綱	ツツジ	<i>Rhododendron pulchrum</i>																				
合弁花亜綱	ツツジ	ブルーベリー																				
合弁花亜綱	ツツジ	<i>Vaccinium corymbosum</i>																				
合弁花亜綱	ツツジ	スノキ																				
合弁花亜綱	ツツジ	<i>Vaccinium smallii</i> var. <i>versicolor</i>																				
合弁花亜綱	ツツジ	マンリョウ	●	●																		
合弁花亜綱	ツツジ	<i>Ardisia crenata</i>																				
合弁花亜綱	ツツジ	ヤブコウジ	●	●																		
合弁花亜綱	ツツジ	<i>Ardisia japonica</i>																				
合弁花亜綱	ツツジ	オカタラノオ																				
合弁花亜綱	ツツジ	<i>Lysimachia clethroides</i>																				
合弁花亜綱	ツツジ	ヌマトラノオ																				
合弁花亜綱	ツツジ	<i>Lysimachia fortunei</i>																				
合弁花亜綱	ツツジ	コナスビ	●	●	●	●																
合弁花亜綱	ツツジ	<i>Lysimachia japonica</i> f. <i>subsessilis</i>																				

資料-3 植物の確認種一覧 (9/15)

分類 (門・綱)	科名	種名	学名	I 北町・田柄エリア											II 豊玉・中村エリア											
				I ①		I ⑥	W ④	I ②	I ⑦	I ③	I ④	I ⑤	I ⑥	II ①	II ②	II ③	II ④	II ⑤								
				都立光が丘公園		自然 保全 ゾーン	BS 樹 林	BS 草 地	その 他	昆虫 原 っ ぱ	BS 水 辺	都 民 の 森	その 他	草 地	ど ん ぐ り 山 越 い の 森		八 幡 神 社	U 氏 邸	高 松 市 民 農 園	武 蔵 学 園	豊 島 園	区 立 高 福 荷 公 園	廣 徳 寺	区 立 高 福 荷 公 園	氷 川 神 社	N 氏 邸
種子植物門 被子植物亜門 双子葉植物綱 合弁花亜綱	サクラソウ	クサレダマ	<i>Lysimachia vulgaris</i> var. <i>davurica</i>																							
		クリンソウ	<i>Primula japonica</i>																●							
		サクラソウ	<i>Primula sieboldii</i>					●																		
	カキノキ	カキノキ	<i>Diospyros kaki</i>						●										●						●	●
		マメガキ	<i>Diospyros lotus</i>																							
	エゴノキ	エゴノキ	<i>Styrax japonicus</i>	●	●			●					●						●	●	●		●			
		ハクウンボク	<i>Styrax obassia</i>							●									●				●			
	ハイノキ	サワフタギ	<i>Symplocos chinensis</i> f. <i>villosa</i>					●																		
		ハイノキ	<i>Symplocos myrtaea</i>																							
	モクセイ	ヒトツバタゴ	<i>Chionanthus retusus</i>					●																		
		チョウセンレンギョウ	<i>Forsythia koreana</i>	●				●											●							●
		レンギョウ	<i>Forsythia suspensa</i>																●							
		シナレンギョウ	<i>Forsythia viridissima</i>	●				●											●							●
		ハゴロモジャスミン	<i>Jasminum polyanthum</i>										●													
		ネズミモチ	<i>Ligustrum japonicum</i>	●	●			●					●					●		●		●		●	●	●
		トウネズミモチ	<i>Ligustrum lucidum</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		イボタノキ	<i>Ligustrum obtusifolium</i>					●											●	●	●	●	●	●	●	●
		オオバイボタ	<i>Ligustrum ovalifolium</i>																●							
		ホソバヒライギナンテン	<i>Mahonia fortunei</i>					●											●							
		ヒライギナンテン	<i>Mahonia japonica</i>		●			●					●						●	●						
		セイヨウヒライギナンテン	<i>Mahonia × media</i> 'Charity'																							
		オリーブ	<i>Olea europaea</i>																							
		ヒライギモクセイ	<i>Osmanthus fortunei</i>																●	●	●					
		キンモクセイ	<i>Osmanthus fragrans</i> var. <i>aurantiacus</i>	●				●					●	●					●	●		●	●	●	●	●
		ヒライギ	<i>Osmanthus heterophyllus</i>		●			●					●	●					●					●	●	●
		ムラサキハシドイ	<i>Syringa vulgaris</i>					●																		
	マチン	カロライナジャスミン	<i>Gelsemium sempervirens</i>																							
	ミツガシワ	ミツガシワ	<i>Menyanthes trifoliata</i>																							
		アサザ	<i>Nymphoides peltata</i>																							
	キョウチクトウ	チョウジソウ	<i>Amsonia elliptica</i>																							
		キョウチクトウ	<i>Nerium indicum</i>																							
		テイカズラ	<i>Trachelospermum asiaticum</i> f. <i>intermedium</i>			●		●												●						
		ツルニチニチソウ	<i>Vinca major</i>																	●						
		ヒメツルニチニチソウ	<i>Vinca minor</i>																							
	ガガイモ	ガガイモ	<i>Metaplexis japonica</i>	●	●	●		●																		
	アカネ	クヌタソウ	<i>Galium kinuta</i>					●																		
		ヤエムグラ	<i>Galium spurium</i> var. <i>echinospermon</i>	●	●	●	●	●				●							●			●				●
		ヨツバムグラ	<i>Galium trachyspermum</i> var. <i>trachyspermum</i>										●													
		クチナシ	<i>Gardenia jasminoides</i>					●					●	●					●	●			●	●	●	●
		コクチナシ	<i>Gardenia jasminoides</i> var. <i>radicans</i>										●	●												
		フタバムグラ	<i>Hedyotis diffusa</i>																							
		ハンカグサ	<i>Hedyotis lindleyana</i> var. <i>hirsuta</i>											●												
		ヘクソカズラ	<i>Paederia scandens</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		アカネ	<i>Rubia argyi</i>		●			●																		
		ハクチョウゲ	<i>Serissa japonica</i>					●					●													●
		ハナヤエムグラ	<i>Sherardia arvensis</i>																							
	ヒルガオ	コヒルガオ	<i>Calystegia hederacea</i>					●																		●
		ヒルガオ	<i>Calystegia japonica</i>	●				●		●									●		●					
		アオイゴケ属の一種	<i>Dichondra</i> sp.																							
		マルバルコウ	<i>Ipomoea coccinea</i>	●																						
		マメアサガオ	<i>Ipomoea lacunosa</i>																							
		マルバアサガオ	<i>Pharbitis hederacea</i>																							
		アサガオ	<i>Pharbitis nil</i>																							
	ムラサキ	ハナイバナ	<i>Bothriospermum tenellum</i>				●							●					●							●
		ヤマハシソウ	<i>Omphalodes japonica</i>																							
		ヒレハリソウ	<i>Symphytum officinale</i>																							
		キューリグサ	<i>Trigonotis peduncularis</i>				●	●	●				●						●	●	●	●	●	●	●	●
	クマツツラ	コムラサキ	<i>Callicarpa dichotoma</i>				●	●	●																	
		ムラサキシキブ	<i>Callicarpa japonica</i>	●	●		●						●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		カリガネソウ	<i>Carvopteris divaricata</i>																							
		ボタンクサギ	<i>Clerodendrum bungei</i>					●																		
		クサギ	<i>Clerodendrum trichotomum</i>	●	●	●							●	●	●				●							●
		イワダレソウ	<i>Lippia nodiflora</i>																							
		ヤナギハナガサ	<i>Verbena bonariensis</i>																							
	アワゴケ	アワゴケ	<i>Callitriche japonica</i>																							
		ミズハコベ	<i>Callitriche verna</i>																							
	シソ	キラソウ	<i>Ajuga decumbens</i>	●	●		●																			
		ジュウニヒトエ	<i>Ajuga nipponensis</i>																							
		クルマバナ	<i>Clinopodium chinense</i> var. <i>parviflorum</i>																							
		トウバナ	<i>Clinopodium gracile</i>		●														●	●						
		イヌトウバナ	<i>Clinopodium micranthum</i>																							
		ナギナタコウジュ	<i>Elysholtzia ciliata</i>	●	●		●																			
		ミストラノオ	<i>Eustellaris yatabeana</i>																							

資料-3 植物の確認種一覧 (10/15)

分類 (門・綱)	科名	種名	学名	I 北町・田柄エリア										II 豊玉・中村エリア											
				I (1)	I (6)	W (4)	I (2)	I (7)	I (3)	I (4)	I (5)	I (8)	II (1)	II (2)	II (3)	II (4)	II (5)								
																		都立光が丘公園	都立城北中央公園	どんぐり山憩いの森	八幡神社	高松市民農園	武蔵学園	豊島園	区立高稲荷公園
自然保全ゾーン	B S 樹林	B S 草地	その他	昆虫原っぱ	B S 水辺	都民の森	その他	草地	理科棟脇樹林	その他	庭の湯周辺林	石神井川沿い斜面林	その他	廣徳寺	区立高稲荷公園										
種子植物門 被子植物亜門 双子葉植物綱 合弁花亜綱	シン	カキドオシ	<i>Glechoma hederacea</i> var. <i>grandis</i>				●	●								●	●	●							
		シモバシラ	<i>Keiskea japonica</i>																						
		ホトケノザ	<i>Lamium amplexicaule</i>	●	●		●	●		●	●	●			●	●		●	●	●					
		オドリコソウ	<i>Lamium barbatum</i>																			●			
		ヒメオドリコソウ	<i>Lamium purpureum</i>					●			●					●		●	●						
		ラベンダー・デンタータ	<i>Lavandula dentata</i>																						
		メハジキ	<i>Leonurus japonicus</i>				●	●																	
		シロネ	<i>Lycopus lucidus</i>																						
		コシロネ	<i>Lycopus ramosissimus</i> var. <i>japonicus</i>																						
		ラショウモンカズラ	<i>Meehania urticifolia</i>																				●		
		セイヨウヤマハッカ	<i>Melissa officinalis</i>																						
		ハッカ	<i>Mentha arvensis</i> var. <i>piperascens</i>					●																	
		ヒメジソ	<i>Mosla dianthera</i>								●														
		イヌコウジュ	<i>Mosla punctulata</i>					●																	
		シソ	<i>Perilla frutescens</i> var. <i>crispa</i>						●						●					●			●		
		カクトラノオ	<i>Physostegia virginiana</i>						●																
		ヤマハッカ	<i>Rabdosia inflexa</i>																						
		ローズマリー	<i>Rosmarinus officinalis</i>																						
		アキノタムラソウ	<i>Salvia japonica</i>																						
		キバナアキギリ	<i>Salvia nipponica</i>																						
		ヒゴロモソウ	<i>Salvia splendens</i>																						
		オカタンナミソウ	<i>Scutellaria brachyspica</i>							●															
		コバノタツナミ	<i>Scutellaria indica</i> var. <i>parvifolia</i>							●										●		●			
		イヌゴマ	<i>Stachys riederi</i> var. <i>intermedia</i>																						
		ニガクサ	<i>Teucrium japonicum</i>																						
		ツルニガクサ	<i>Teucrium viscidum</i> var. <i>miquelianum</i>																						
				イブキヤコウソウ属の一種	<i>Thymus</i> sp.																				
		ナス		クコ	<i>Lycium chinense</i>					●															
				アメリカイヌホオズキ	<i>Solanum americanum</i>	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
				ワルナスビ	<i>Solanum carolinense</i>				●		●														
				ツルハナス	<i>Solanum jasminoides</i>																				
				トマト	<i>Solanum lycopersicum</i>																				
				ヒヨドリジョウゴ	<i>Solanum lycopersicum</i>	●	●	●				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
				イヌホオズキ	<i>Solanum nigrum</i>	●	●	●					●							●	●	●	●	●	
				オオイヌホオズキ	<i>Solanum nigrescens</i>																		●	●	
				たまサンゴ	<i>Solanum pseudo-capsicum</i>								●										●	●	
			フジウツギ		フサフジウツギ	<i>Buddleja davidii</i>					●														
			ゴマノハグサ		ツタバウンラン	<i>Cymbalaria muralis</i>																			
					マツバウンラン	<i>Linaria canadensis</i>																			
					ウリクサ	<i>Lindernia crustacea</i>									●	●	●								
					アメリカアゼナ	<i>Lindernia dubia</i>																			
					タケトアゼナ	<i>Lindernia dubia</i> var. <i>dubia</i>																			
				アゼナ	<i>Lindernia procumbens</i>																				
				ムラサキサギゴケ	<i>Mazus miquelii</i>					●	●	●	●						●						
				トキワハゼ	<i>Mazus pumilus</i>							●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
				ミゾホオズキ	<i>Mimulus nepalensis</i>																				
				ビロードモウズイカ	<i>Verbascum thapsus</i>																				
	オオカワヂシャ	<i>Veronica anagallis-aquatica</i>																							
	タチイヌフグリ	<i>Veronica arvensis</i>		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
	フラサバソウ	<i>Veronica hederifolia</i>		●	●																				
	ムシクサ	<i>Veronica peregrina</i>																							
	オオイヌフグリ	<i>Veronica persica</i>						●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
	カワヂシャ	<i>Veronica undulata</i>																							
ノウゼンカズラ		ノウゼンカズラ		<i>Campsis grandiflora</i>					●																
		アメリカノウゼンカズラ		<i>Campsis radicans</i>																					
キツネノマゴ		キリ		<i>Paulownia tomentosa</i>	●																	●			
		キツネノマゴ		<i>Justicia procumbens</i>					●	●	●	●				●	●								
		ハゲロソウ	<i>Peristrophe japonica</i> var. <i>subrotunda</i>					●																	
ハマウツボ		ヤナギバルイランソウ	<i>Ruellia brittoniana</i>																						
		ナンハンギセル	<i>Aeginetia indica</i>					●																	
タヌキモ		ヤセウツボ	<i>Orobanche minor</i>																						
		イヌタヌキモ	<i>Utricularia tenuicaulis</i>						●																
ハエドクソウ		ハエドクソウ	<i>Phryma leptostachya</i> ssp. <i>asiatica</i>																						
オオバコ		オオバコ	<i>Plantago asiatica</i>																						
		へらオオバコ	<i>Plantago lanceolata</i>					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				
		ツボミオオバコ	<i>Plantago virginica</i>					●																	
スイカズラ		ハナゾノツクバネウツギ	<i>Abelia × grandiflora</i>						●							●	●								
		ツクバネウツギ	<i>Abelia spathulata</i>													●	●								
		ヤマウグイスカグラ	<i>Lonicera gracilipes</i>																						
		ウグイスカグラ	<i>Lonicera gracilipes</i> var. <i>glabra</i>																			●			
		スイカズラ	<i>Lonicera japonica</i>	●	●	●								●	●	●	●	●	●	●	●	●			
		ツキヌキニンドウ	<i>Lonicera sempervirens</i>																						
		ニワトコ	<i>Sambucus racemosa</i> ssp. <i>sieboldiana</i>	●																		●			
	ガマズミ	<i>Viburnum dilatatum</i>	●																						

資料-3 植物の確認種一覧 (11/15)

分類 (門・綱)	科名	種名	学名	I 北町・田柄エリア								II 豊玉・中村エリア									
				I	I	W	I	I	I	I	I	II	II	II	II	II					
				(1)	(6)	(4)	(2)	(7)	(3)	(4)	(5)	(8)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)				
				都立光が丘公園			都立城北中央公園	どんぐり山憩いの森	八幡神社	U氏邸	高松市民農園	武蔵学園	豊島園	区立高稲荷公園	廣徳寺・区立高稲荷公園	水川神社	N氏邸				
自然保全ゾーン	B S 樹林	B S 草地	その他	昆虫原っぱ	B S 水辺	都民の森	その他	草地		理科棟脇樹林	その他	庭の湯周辺林	石神井川沿い斜面林	その他	廣徳寺	区立高稲荷公園					
種子植物門 被子植物亜門 双子葉植物綱 合弁花亜綱	スイカズラ	ハクサンボク	<i>Viburnum japonicum</i>																		
		サンゴジュ	<i>Viburnum odoratissimum</i> var. <i>awabuki</i>	●	●		●					●						●	●	●	
オトコヨウゾメ		<i>Viburnum phlebotrichum</i>															●				
ヤブデマリ		<i>Viburnum plicatum</i> var. <i>tomentosum</i>															●				
ハコネウツギ		<i>Weigela coraeensis</i>																			
ニシキウツギ		<i>Weigela decora</i>																			
タニウツギ		<i>Weigela hortensis</i>																●			
オミナエシ	オミナエシ	オミナエシ	<i>Patrinia scabiosaeifolia</i>																		
		オトコエシ	<i>Patrinia villosa</i>																		
キキョウ	キキョウ	ツリガネニンジン	<i>Adenophora triphylla</i> var. <i>japonica</i>																		
		ホタルブクロ	<i>Campanula punctata</i>																		
		ミゾカクシ	<i>Lobelia chinensis</i>																		
		サウギキョウ	<i>Lobelia sessilifolia</i>																		
		ヒナキキョウソウ	<i>Specularia biflora</i>							●											
キク	キク	キキョウソウ	<i>Specularia perfoliata</i>																		
		ノブキ	<i>Adenocaulon himalaicum</i>															●			
		ブタクサ	<i>Ambrosia artemisiifolia</i> var. <i>elatior</i>							●		●					●				
	キク	オオブタクサ	<i>Ambrosia trifida</i>																		
		ローマカミツレ	<i>Anthemis nobilis</i>																		
		ヨモギ	<i>Artemisia princeps</i>		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		シロヨメナ	<i>Aster ageratoides</i> ssp. <i>leiophyllus</i>																		
		ノコンギク	<i>Aster ageratoides</i> ssp. <i>ovatus</i>				●	●													
		シラヤマギク	<i>Aster scaber</i>																		
		ヒロハホウキギク	<i>Aster subulatus</i> var. <i>subulatus</i>															●			
		ホウキギク	<i>Aster subulatus</i> var. <i>obtusifolius</i>																		
		アメリカセンダングサ	<i>Bidens frondosa</i>					●													
		コセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i>						●												
		シロバナセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i> var. <i>minor</i>																		
		ヤブタバコ	<i>Carpesium abrotanoides</i>		●	●		●													
		ガンクビソウ	<i>Carpesium divaricatum</i>																		
		トキンソウ	<i>Centipeda minima</i>										●	●	●			●	●		●
		フランスギク	<i>Chrysanthemum leucanthemum</i>															●	●		
		オニアザミ	<i>Cirsium borealinipponense</i>																		
		ノアザミ	<i>Cirsium japonicum</i>																		
		トネアザミ	<i>Cirsium nipponicum</i> var. <i>incomptum</i>																		
		ノハラアザミ	<i>Cirsium oligophyllum</i>																		
		アメリカオニアザミ	<i>Cirsium vulgare</i>									●									
		アレチノギク	<i>Conyza bonariensis</i>									●									
		オオアレチノギク	<i>Conyza sumatrensis</i>									●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		オオキンケイギク	<i>Coreopsis lanceolata</i>									●									
		ハルシヤギク	<i>Coreopsis tinctoria</i>																●	●	●
		マメカミツレ	<i>Cotula australis</i>																		
		コスモス	<i>Cosmos bipinnatus</i>																		
		キバナコスモス	<i>Cosmos sulphureus</i>																		
		ベニバナポロギク	<i>Crassocephalum crepidioides</i>																●		
		アワコガネギク	<i>Dendranthema boreale</i>																		
		アメリカタカサブロウ	<i>Eclipta alba</i>																		
		ダンドボロギク	<i>Erechtites hieracifolia</i>																		
		ヒメムカシヨモギ	<i>Erigeron canadensis</i>																		
		ハルジオン	<i>Erigeron philadelphicus</i>																		
		ヒヨドリバナ	<i>Eupatorium chinense</i>																		
		ヨツバヒヨドリ	<i>Eupatorium chinense</i> ssp. <i>sachalinense</i>																		
		フジバカマ	<i>Eupatorium japonicum</i>																		
		マルバフジバカマ	<i>Eupatorium rugosum</i>																		
		ツワブキ	<i>Farfugium japonicum</i>																		
		ハキダメギク	<i>Galinsoga ciliata</i>																		
		ハハコグサ	<i>Gnaphalium affine</i>																		
		タチチコグサ	<i>Gnaphalium calviceps</i>																		
		チチコグサ	<i>Gnaphalium japonicum</i>																		
		チチコグサモドキ	<i>Gnaphalium pensylvanicum</i>																		
		ウスベニチチコグサ	<i>Gnaphalium purpureum</i>																		
		ウラジロチチコグサ	<i>Gnaphalium spicatum</i>																		
		ミスヒマワリ	<i>Gymnocoronis spilanthoides</i>																		
		クワイモ	<i>Helianthus tuberosus</i>																		
		キツネアザミ	<i>Hemistepta lyrata</i>																		
		ブタナ	<i>Hypochoeris radicata</i>																		
		オオデシバ	<i>Ixeris debilis</i>																		
		ニガナ	<i>Ixeris dentata</i>																		
		イワニガナ	<i>Ixeris stolonifera</i>																		
		ユウガク	<i>Kalimeris pinnatifida</i>																		
カントウヨメナ	<i>Kalimeris pseudo-vomena</i>																				
アキノノゲシ	<i>Lactuca indica</i> var. <i>indica</i>																				
ヨコエビ	<i>Lapsana apogonoides</i>																				
ヤブタバコ	<i>Lapsana humilis</i>																				

資料-3 植物の確認種一覽 (15/15)

分類 (門・綱)	科名	種名	学名	I 北町・田柄エリア											II 豊玉・中村エリア															
				I ①		I ⑥	W ④	I ②	I ⑦	I ③	I ④	I ⑤	I ⑧	II ①	II ②	II ③	II ④	II ⑤	II ①	II ②	II ③	II ④	II ⑤							
				都立光が丘公園			都立城北中央公園		どんぐり山憩いの森			八幡神社			高松市民農園		武蔵学園		豊島園		区立高稲荷公園		水川神社		N氏邸					
自然 保全 ゾーン	B S 樹林	B S 草地	その他	昆虫 原っぱ	B S 水辺	都民 の森	その他	草地				理科 棟脇 樹林	その他	庭の 湯周 辺林	石神 井川 沿い 斜面 林	その他	廣徳 寺	区立 高稲 荷公 園												
種子植物門 被子植物亜門 単子葉植物綱	カヤツリグサ	コジュズスゲ	<i>Carex parviflora</i> var. <i>macroglossa</i>																											
		ヤブスゲ	<i>Carex rochebrunii</i>													●														
		オオイトスゲ	<i>Carex sachalinensis</i> var. <i>alterniflora</i>																											
		タガネソウ	<i>Carex siderosticta</i>															●												
		アゼスゲ	<i>Carex thunbergii</i>				●																							
		ヤワラスゲ	<i>Carex transversa</i>																											
		モエギスゲ	<i>Carex tristachya</i>				●																							
		シュロガヤツリ	<i>Cyperus alternifolius</i>													●														
		チャガヤツリ	<i>Cyperus amuricus</i>																											
		ヒメクグ	<i>Cyperus brevifolius</i> var. <i>leiolepis</i>			●											●													
		タマガヤツリ	<i>Cyperus difformis</i>																											
		メリケンガヤツリ	<i>Cyperus eragrostis</i>																											
		アゼガヤツリ	<i>Cyperus globosus</i>			●																								
		コアゼガヤツリ	<i>Cyperus haspan</i>																											
		コゴメガヤツリ	<i>Cyperus iria</i>														●								●					
		カヤツリグサ	<i>Cyperus microiria</i>									●					●								●					
		アオガヤツリ	<i>Cyperus nipponicus</i>																											
カワラスガナ	<i>Cyperus sanguinolentus</i>																													
ミズガヤツリ	<i>Cyperus serotinus</i>				●																									
セイタカハリイ	<i>Eleocharis attenuata</i>					●																								
テンツキ	<i>Fimbristylis dichotoma</i>																													
ヤマイ	<i>Fimbristylis subbispicata</i>				●																									
コマツカサススキ	<i>Scirpus fuirenooides</i>																													
イヌホタルイ	<i>Scirpus juncoides</i> var. <i>obwianus</i>																													
フトイ	<i>Scirpus tabernaemontani</i>				●				●																					
カンガレイ	<i>Scirpus triangulatus</i>																													
サンクウイ	<i>Scirpus triqueter</i>				●				●																					
ウキヤガラ	<i>Scirpus yagara</i>																													
ショウガ ラン	ミョウガ	<i>Zingiber mioga</i>			●																					●				
	シラン	<i>Bletilla striata</i>											●	●																
	エビネ	<i>Calanthe discolor</i>																●												
	キエビネ	<i>Calanthe sieboldii</i>																					●							
	ギンラン	<i>Cephalanthera erecta</i>																												
	キンラン	<i>Cephalanthera falcata</i>				●																								
	サイハイラン	<i>Cremastra appendiculata</i>	●	●																										
	シュンラン	<i>Cymbidium goeringii</i>			●																		●			●				
	クマガイソウ	<i>Cyrtopodium japonicum</i>																												
タシロラン	<i>Epipogium roseum</i>	●																												
ネジバナ	<i>Spiranthes sinensis</i> var. <i>amoena</i>				●												●	●		●										
合計種数				215	198	171	403	170	66	117	201	84	172	194	133	127	160	259	266	139	212	323	87	177	219					
全確認種数				529											238					311		363				304		177		219

III 石神井・関町エリア											IV 大泉・土支田エリア											ルート							調査地外 追加種	備考	外来種	国RL (植栽、逸出は除外)	都RL (区部) (植栽、逸出は除外)	外来生物法 (特: 特定外来生物、注: 要注意外来生物)
III ①	W ①	W ②	III ②	W ③	III ③	III ④	III ⑤	III ⑥	IV ①	IV ②	IV ③	IV ④	IV ⑤	IV ⑥	IV ⑦	IV ⑧	IV ⑨	R ①	R ②	R ③	R ④	R ⑤	R ⑥	R ⑦										
都立石神井公園			区立武蔵関公園			東京カトリック神学院		天祖若宮八幡宮	MO氏邸	石泉愛らんど	都立大泉中央公園	稲荷山・清水山憩いの森	八の釜憩いの森	土支田八幡宮	MU氏邸	小作原広場	井頭こぶし憩いの森	区立びく公園	O氏畑	練馬駅周辺ルート	城南住宅ルート	田柄川緑道ルート	立野町ルート	土支田・谷原ルート	石神井川流域	白子川流域								
野鳥誘致林	石神井城址	水辺観察園	その他	石神井池	三宝寺池 (文献調査)	葦の島	その他	富士見池	雑木林	その他	野鳥の森	その他	稲荷山憩いの森	清水山憩いの森																				
		●	●																															
				●					●																									
	●	●										●																						
				●		●	●																											
		●						●			●														●									
					●																				●	●								
		●			●	●	●																	●	●			植栽 国外						
					●																													
									●		●								●	●		●	●	●	●	●		帰化 国外	注					
																			●	●		●	●	●	●	●				NT				
																●															-			
		○			●																									VU				
					●																													
					●																													
					●																													
		●	●					●	●			●	●		●									●	●	●	●			NT				
	●		●					●					●										●	●	●	●	●			植栽 国内				
			●																												植栽 国内			
		●	●																												植栽 国内			
			●							●		●																		VU	VU			
			●																															
			●																										植栽 国内					
											●													●							NT			

※園芸品種のみの確認は () を付けた。 ※※国RL および都RL 記載種のみ、植栽のものは○にして、自生のものと区別できるようにした。
 ※※※三宝寺池は文献調査によるデータ。現地調査データには網掛けをした。

資料－４ 代表的な植生の類型化

夏期にコドラート調査を行った樹林地および草地の調査地点の類型化を、表操作法により行った。樹林地と草地の表操作の結果（識別表）は次ページ以降に示した。

調査当初の類型化との比較のため、群落の区分結果を以下に整理した。優占種が落葉広葉樹でも常緑樹林に識別されるなど、種組成から見た群落類型と相観による群落名が異なる群落も見られた。また、優占種が異なっても種組成から見れば同じ類型に入る場合もあった。これらの情報は、全体の傾向を見る上で参考とした。

コドラート調査地点の植生の類型（樹林地および草地）

類型	エリア ¹⁾	原番号	調査地点名	相観による群落名	識別表からの類型 ²⁾
落葉樹優勢林	I	1	都立光が丘公園 自然保全ゾーン	エノキ群落	E: 落葉広葉樹林コナラ群落
		2	都立光が丘公園 BS 樹林	ムクノキ群落	C: 落葉広葉樹林ケヤキ群落
		4	都立城北中央公園 都民の森	クスノキ植栽林	B: 常緑広葉樹林クスノキ群落
		5	どんぐり山憩いの森	ムクノキ群落	C: 落葉広葉樹林ケヤキ群落
		13	武蔵学園 理科棟脇樹林	ミズキ群落	A: 常緑広葉樹林スタジイ群落
	II	14	豊島園 庭の湯周辺林	クスノキ植栽林	B: 常緑広葉樹林クスノキ群落
		15	豊島園 石神井川沿い斜面林	スタジイ群落	A: 常緑広葉樹林スタジイ群落
		18	区立高稲荷公園	イヌシデ群落	F: 落葉広葉樹林イヌシデ群落
	III	21	都立石神井公園 野鳥誘致林	コナラ群落	E: 落葉広葉樹林コナラ群落
		23	区立武蔵関公園 葦の島	メタセコイア植栽林	E: 落葉広葉樹林コナラ群落
		24	東京カトリック神学院 雑木林	クヌギ群落	F: 落葉広葉樹林イヌシデ群落
	IV	27	都立大泉中央公園 野鳥の森	オオシマザクラ植栽林	A: 常緑広葉樹林スタジイ群落
		28	稲荷山憩いの森	クヌギ群落	F: 落葉広葉樹林イヌシデ群落
29		清水山憩いの森①	イヌシデ群落	F: 落葉広葉樹林イヌシデ群落	
30		清水山憩いの森②	イヌシデ群落	F: 落葉広葉樹林イヌシデ群落	
31		八の釜憩いの森 コナラ林	コナラ群落	E: 落葉広葉樹林コナラ群落	
32		八の釜憩いの森 ケヤキ林	ケヤキ群落	E: 落葉広葉樹林コナラ群落	
優針葉樹	I	6	八幡神社	ヒノキ植栽林	G: 針葉樹植栽林
		19	氷川神社	シラカシ群落	D: 常緑広葉樹林シラカシ群落
	II	16	廣徳寺	ヒノキ植栽林	G: 針葉樹植栽林
		25	天祖若宮八幡宮	ヒノキ植栽林	G: 針葉樹植栽林
	III	22	都立石神井公園 石神井城址	ヒノキ植栽林	G: 針葉樹植栽林
33		土支田八幡宮	スギ植栽林	G: 針葉樹植栽林	
屋敷林	I	7	U氏邸	ムクノキ群落	C: 落葉広葉樹林ケヤキ群落
	II	20	N氏邸	ムクロジ植栽林	C: 落葉広葉樹林ケヤキ群落
	III	26	MO氏邸	シラカシ群落	D: 常緑広葉樹林シラカシ群落
	IV	35	MU氏邸 ケヤキ群落	ケヤキ群落	C: 落葉広葉樹林ケヤキ群落
竹林	II	17	廣徳寺 竹林	モウソウテク植栽林	H: モウソウテク植栽林
	IV	34	MU氏邸 竹林	モウソウテク植栽林	H: モウソウテク植栽林
草地	I	10	都立光が丘公園 昆虫原っぱ 低茎草地	カゼクサーオオバコ群落	K: 踏圧の高い低茎草地
		9	都立光が丘公園 昆虫原っぱ 中茎草地	カモジグサ群落	I: 中～高茎草地
		8	都立光が丘公園 昆虫原っぱ 高茎草地	ススキ群落	I: 中～高茎草地
		3	都立光が丘公園 BS 草地	オギ群落	I: 中～高茎草地
		11	都立城北中央公園 草地①	シバ群落	L: シバ草地(シバ)
		12	都立城北中央公園 草地②	カゼクサーオオバコ群落	K: 踏圧の高い低茎草地
	IV	37	小作原広場 低茎草地	オヒシバ群落	K: 踏圧の高い低茎草地
		36	小作原広場 中茎草地	カゼクサ群落	K: 踏圧の高い低茎草地
		38	井頭こぶし憩いの森 草地①	イヌビエ群落	J: 低～中茎草地
		39	井頭こぶし憩いの森 草地②	ヨモギ群落	J: 低～中茎草地
		40	区立びくに公園 グラウンド	ギョウギシバ群落	K: 踏圧の高い低茎草地
41	区立びくに公園 法面	シロツメクサ群落	K: 踏圧の高い低茎草地		

1) I 北町・田柄エリア II 豊玉・中村エリア III 石神井・関町エリア IV 大泉・土支田エリア

2) 常緑広葉樹林に網掛けをした。

草地の識別表

群落区分 原番号	I			J		K					L	出現回数	
	3	8	9	38	39	41	40	10	37	12	36		11
調査地番号	I(1)3	I(6)1	I(6)2	IV(7)1	IV(7)2	IV(9)	IV(8)	I(6)3	IV(6)2	I(7)2	IV(6)1	I(7)1	
方位(°)	N60W	N60E	N20E	-	-	-	-	N20E	-	-	-	-	
傾斜(°)	29	5	5	0	0	0	0	3	0	0	0	0	
K1 高さ(m)	1.8	2	0.5	0.45	0.25	0.4	0.5	0.3	0.2	0.3	0.6	0.3	
K1 植被率(%)	20	95	100	95	90	95	90	95	95	90	100	95	
K2 高さ(m)	0.4	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
K2 植被率(%)	95	50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
調査面積(m ²)	25	25	4	9	4	4	4	4	4	4	4	4	
調査年	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	
調査日	7.14	7.14	7.14	7.28	7.28	7.24	7.24	7.14	7.29	7.23	7.29	7.23	
出現種数	29	18	8	6	11	12	15	8	7	7	6	6	
種群													
1 ヤブガラシ	+	2・2	+	3
ヒナタイノコズチ	+	+	2
ノイバラ	+	+	2
ヤブマメ	+	+	2
キツネノマゴ	1・2	1・2	2
アキノエノコログサ	1・1	.	1・1	2
カモジグサ	+	.	5・4	2
スギナ	2・2	2・2	2
セイトカアワダチソウ	1・1	1・1	2
2 ハキダメギク	.	.	.	+	+	.	+	3
ハルジオン	+	.	.	+	2・2	3
3 クサイ	+	+	.	+	+	.	.	4
エゾノギシギシ	+	.	+	.	.	+	.	3
シマスズメノヒエ	2・2	.	.	1・1	.	1・1	.	3
ホソムギ	+	+	1・1	3
スズメノカタビラ	1・1	.	+	.	.	2
ギョウギシバ	1・1	2・2	2
コヌカグサ	+	2・2	2
4 シバ	5・4
セイヨウタンポポ	+	1
5 ヨモギ	+	1・1	.	.	3・3	.	+	4
ウシハコベ	.	1・1	.	.	+	2
コヒルガオ	.	+	.	.	1・1	2
6 イヌビエ	.	.	.	5・4	1・1	1・1	2・2	4
オヒシバ	.	.	.	1・1	.	.	.	+	4・4	+	.	.	4
7 カタバミ	+	.	.	.	1・1	.	.	.	+	.	+	.	4
ブタクサ	.	+	+	.	.	+	+	4
8 オオバコ	.	.	+	.	+	1・1	+	4・4	1・1	3・3	.	1・1	8
シロツメクサ	.	.	1・1	.	.	4・4	+	3・3	1・1	2・2	.	1・2	7
カゼクサ	.	.	1・1	2・2	.	3・3	4・4	+	5
メヒシバ	.	.	.	2・2	1・1	.	.	.	2・2	+	.	1・1	5

以下省略

以下に、識別表からの類型ごと植生の状況を示した。

(1) 常緑広葉樹林

常緑広葉樹林は、以下の3つのグループに分かれた。アルファベット記号は表操作の際に付けた記号である。落葉樹優勢林として選定した調査地の中にも常緑樹林が見られた。相観によると落葉広葉樹林である樹林、自然植生由来の常緑広葉樹林、植栽由来の常緑樹林が見られた。

A. スダジイ群落

- ・ 武蔵学園 理科棟脇樹林
- ・ 豊島園 石神井川沿い斜面林
- ・ 都立大泉中央公園 野鳥の森

武蔵学園 理科棟脇樹林、都立大泉中央公園 野鳥の森は相観による群落はそれぞれミズキ群落、オオシマザクラ植栽林で、落葉樹が優占していたが、構成種からスダジイ群落に区分された。スダジイは植栽起源である可能性がある。

豊島園 石神井川沿い斜面林は、利用しにくい斜面にあることから、伐採されずに残った樹林であると考えられる。スダジイ群落は関東地方では自然林を構成する樹林であり、この斜面林は自然植生が残存したものと考えられる。つまり、豊島園 石神井川沿い斜面林のみ位置づけが異なり、貴重な群落であると言える。ここでは、常緑樹林固有の種ではないが、重要種であるナツノハナワラビ、コシダ、ハシゴシダが確認されている。

B. クスノキ群落

- ・ 都立城北中央公園 都民の森
- ・ 豊島園 庭の湯周辺林

該当する調査地のどちらともクスノキ植栽林であった。

D. シラカシ群落

- ・ 氷川神社
- ・ MO邸

該当する調査地のどちらともシラカシが優占する群落であった。しかし、シラカシは多くの樹林に出現する種であるため、主な識別種としてはキンモクセイ、ウメ、ソメイヨシノが挙げられた。これらの種から、植栽起源の群落であることが分かる。

(2) 落葉広葉樹林

落葉広葉樹林は、3グループに分かれた。落葉樹優勢林、屋敷林の調査地で見られた。

C. ケヤキ群落

- ・ 都立光が丘公園 BS樹林
- ・ どんぐり山憩いの森
- ・ U邸
- ・ N邸
- ・ MU邸 ケヤキ群落

主に屋敷林で見られた。屋敷林は敷地境界を中心にケヤキが植栽されていることが多く、ケヤキの大木も多く見られた。ここに入らなかった屋敷林のMO氏邸でも敷地境界にケヤキが植栽されていた。屋敷林以外の該当する調査地はムクノキが優占していたが、構成種からケヤキ群落に区分された。

E. コナラ群落

- ・都立光が丘公園 自然保全ゾーン
- ・都立石神井公園 野鳥誘致林
- ・区立武蔵関公園 葦の島
- ・八の釜憩いの森 コナラ林
- ・八の釜憩いの森 ケヤキ林

コナラ群落、次項に示すイヌシデ群落は、人の利用により成立した二次林で、一般に武蔵野の雑木林と呼ばれている樹林である。落葉樹優勢林の調査地点の多くが二次林であった。

区立武蔵関公園 葦の島は、メタセコイア植栽林であるが、構成種からはコナラ群落に区分された。

F. イヌシデ群落

- ・区立高稲荷公園
- ・東京カトリック神学院 雑木林
- ・稲荷山憩いの森
- ・清水山憩いの森①
- ・清水山憩いの森②

コナラ群落と同様、人の利用により成立した二次林で、一般に武蔵野の雑木林と呼ばれている樹林である。落葉樹優勢林の調査地点の多くが二次林であった。

イヌシデ群落は、川沿いの北向き斜面林に位置しており、コナラ群落との構成種の違いは立地条件の違いによるものと考えられた。区立高稲荷公園と東京カトリック神学院は、石神井川沿い、稲荷山憩いの森と清水山憩いの森は、白子川沿いに位置している。これらは、川沿いの斜面の二次林が残存したものと考えられる。

(3) 針葉樹林

G. 針葉樹植栽林

- ・八幡神社
- ・廣徳寺
- ・天祖若宮八幡宮
- ・都立石神井公園 石神井城址
- ・土支田八幡宮

ヒノキまたはスギの植栽林が該当し、ほとんどの社寺林がこの区分となった。この区分に入らなかった氷川神社でもヒノキは植栽されている。

(4) モウソウチク植栽林

H. モウソウチク植栽林

- ・ 廣徳寺 竹林
- ・ MU氏邸 竹林

ある程度規模のあるモウソウチク植栽林として、上記の調査地点が挙げられた。

(5) 草地

草地は以下の4つのグループに分かれた。

I. 中茎～高茎草地

- ・ 都立光が丘公園 昆虫原っぱ 中茎草地※
- ・ 都立光が丘公園 昆虫原っぱ 高茎草地
- ・ 都立光が丘公園 BS草地

中～高茎草地は区内には少なく、調査地点とした都立光が丘公園昆虫原っぱまたはバードサンクチュアリ (BS) 草地は区内でも限られた草地となっている。

J. 低茎～中茎草地

- ・ 井頭こぶし憩いの森 草地①
- ・ 井頭こぶし憩いの森 草地②

井頭こぶし憩いの森は屋敷跡の庭木の一部が残された憩いの森であるが、その空き地部分の草地が区分された。ハキダメギク、ハルジオンが識別種となったが、優占するのは草地①がイヌビエ、草地②がヨモギであった。

K. 踏圧の高い低茎草地

- ・ 都立光が丘公園昆虫原っぱ 低茎草地
- ・ 都立城北中央公園 草地②
- ・ 小作原広場 低茎草地
- ・ 小作原広場 中茎草地
- ・ 区立びくに公園 グラウンド
- ・ 区立びくに公園 法面

調査地点の多くがこの群落に区分された。オオバコ、シロツメクサ、カゼクサなどの出現頻度が高いが、識別種としてはクサイ、シマスズメノヒエなどが挙げられた。人の利用が中心となる公園などにある草地であるため、草刈り頻度が高く低茎草地であり、踏圧が高いのが特徴である。

L. シバ草地

- ・ 都立城北中央公園 草地①

植栽されたシバが優占する群落であった。調査地点としては、1箇所であるが区内の公園などで多くみられる群落である。

資料-5 昆虫類の確認種一覧 (1/11)

目名	科名	種名	学名	調査地			重要種		外来種
				大規模緑地	小規模緑地	その他	国R L	都R L・区部	
トンボ	イトトンボ	クロイトトンボ	<i>Cercion calamarum calamarum</i>	●					
		キイトトンボ	<i>Ceriagrion melanurum</i>	●				EN	
		アジアイトトンボ	<i>Ischnura asiatica</i>	●					
		アオモンイトトンボ	<i>Ischnura senegalensis</i>	●					
	アオイトトンボ	アオイトトンボ	<i>Lestes sponsa</i>	●	●				
		オオアオイトトンボ	<i>Lestes temporalis</i>	●					
	モノサシトンボ	モノサシトンボ	<i>Copera annulata</i>	●					
	カワトンボ	ハグロトンボ	<i>Calopteryx atrata</i>	●	●			VU	
	オニヤンマ	オニヤンマ	<i>Anotogaster sieboldii</i>	●				NT	
	ヤンマ	アオヤンマ	<i>Aeschnophlebia longistigma</i>	●				EN	
		マルタンヤンマ	<i>Anaciaeschna martini</i>	●					
		クロスジギンヤンマ	<i>Anax nigrofasciatus nigrofasciatus</i>	●					
		ギンヤンマ	<i>Anax parthenope julius</i>	●	●				
	ヤブヤンマ	ヤブヤンマ	<i>Polycanthagyna melanictera</i>	●					
		サナエトンボ	ウチワヤンマ	<i>Sinictinogomphus clavatus</i>	●				
	エゾトンボ	オオヤマトンボ	<i>Epopthalmia elegans</i>	●					
	トンボ	ショウジョウトンボ	<i>Crocothemis servilia mariannae</i>	●					
		コフキトンボ	<i>Deiella phaon</i>	●					
		ヨツボシトンボ	<i>Libellula quadrimaculata asahinai</i>	●				EN	
		シオカラトンボ	<i>Orthetrum albistylum speciosum</i>	●	●				
		シオヤトンボ	<i>Orthetrum japonicum japonicum</i>	●				VU	
		オオシオカラトンボ	<i>Orthetrum triangulare melania</i>	●	●				
		ウスバキトンボ	<i>Pantala flavescens</i>	●	●				
		コシアキトンボ	<i>Pseudothemis zonata</i>	●	●				
		チョウトンボ	<i>Rhyothemis fuliginosa</i>	●				NT	
		コノシメトンボ	<i>Sympetrum baccha matutinum</i>	●	●				
		ナツアカネ	<i>Sympetrum darwinianum</i>	●	●				
		マユタテアカネ	<i>Sympetrum eroticum eroticum</i>	●					
		アキアカネ	<i>Sympetrum frequens</i>	●	●				
		ノシメトンボ	<i>Sympetrum infuscatum</i>	●	●				
		マイコアカネ	<i>Sympetrum kunkeli</i>	●	●			NT	
		ミヤマアカネ	<i>Sympetrum pedemontanum elatum</i>	●	●			VU	
		ネキトンボ	<i>Sympetrum speciosum speciosum</i>	●					
リスアカネ	<i>Sympetrum risi risi</i>	●	●			NT			
ゴキブリ	ゴキブリ	クロゴキブリ	<i>Periplaneta fuliginosa</i>	●					○
	チャバネゴキブリ	モリチャバネゴキブリ	<i>Blattella nipponica</i>	●					
カマキリ	カマキリ	ハラビロカマキリ	<i>Hierodula patellifera</i>	●	●				
		コカマキリ	<i>Statilia maculata</i>	●	●				
		オオカマキリ	<i>Tenodera aridifolia</i>	●	●				
シロアリ	ミゾガシラシロアリ	ヤマトシロアリ	<i>Reticulitermes speratus speratus</i>	●					
バッタ	カマドウマ	マダラカマドウマ	<i>Diastrammena japonica</i>	●					
		クラズミウマ	<i>Diastrammena asynamorus</i>	●					
	キリギリス	ヤブキリ	<i>Tettigonia orientalis</i>	●		●			
		ヒメギス	<i>Eobiana engelhardti</i>	●					
		ヒメクサキリ	<i>Ruspolia dubia</i>	●					
		シブイロカヤキリ	<i>Xestophys javanicus</i>	●				DD	
		クビキリギス	<i>Euconocephalus varius</i>	●	●				
		ホシササキリ	<i>Conocephalus maculatus</i>	●	●				
		ウスイロササキリ	<i>Conocephalus chinensis</i>	●	●				
		ササキリ	<i>Conocephalus melaenus</i>	●					
	ハヤシノウマオイ	<i>Hexacentrus hareyamai</i>	●						
	ツユムシ	ツユムシ	<i>Phaneroptera falcata</i>	●	●				
		セスジツユムシ	<i>Ducetia japonica</i>	●					
		ヒメクダマキモドキ	<i>Phaulula macilenta</i>	●					
		サトクダマキモドキ	<i>Holochlora japonica</i>	●	●				
	コオロギ	エンマコオロギ	<i>Teleogryllus emma</i>	●	●				
		タンボコオロギ	<i>Modicogryllus siamensis</i>	●				DD	
		モリオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus sylvestris</i>	●	●				
		ハラオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus campestris</i>	●					
	マツムシ	ツツレサセコオロギ	<i>Velarifictorus micado</i>	●	●				
		アオマツムシ	<i>Trujahia hibionis</i>	●	●				○
		スズムシ	<i>Helioimorpha japonica</i>	●					
		カンタン	<i>Oecanthus longicauda</i>	●					
ヒバリモドキ	ヒゲシロスズ	<i>Polionemobius flavoantennalis</i>	●				DD		
	シバズ	<i>Polionemobius mikado</i>	●	●					
	マダラスズ	<i>Dianemobius nigrofasciatus</i>	●	●					

資料-5 昆虫類の確認種一覧 (2/11)

目名	科名	種名	学名	調査地			重要種		外来種
				大規模緑地	小規模緑地	その他	国R L	都R L・区部	
バッタ	ヒバリモドキ	ヤチスズ	<i>Pteronemobius ohmachii</i>	●					DD
		キンヒバリ	<i>Natula matsurai</i>	●					DD
		ヤマトヒバリ	<i>Homoeoxipha obliterata</i>	●					
		クサヒバリ	<i>Svistella bifasciata</i>	●	●				
		ウスグモスズ	<i>Amusurgus genji</i>	●	●				
	カネタタキ	カネタタキ	<i>Ornebius kanetataki</i>	●	●				
	アリツカオオロギ	テラニシアリツカオオロギ	<i>Myrmecophilus teranishii</i>	●					
	ノミバッタ	ノミバッタ	<i>Xya japonica</i>	●	●				
	ヒシバッタ	トゲヒシバッタ	<i>Criotettix japonicus</i>	●					
		ハラヒシバッタ	<i>Tetrix japonica</i>	●	●				
	オンブバッタ	オンブバッタ	<i>Atractomorpha lata</i>	●	●				
	バッタ	ツチイナゴ	<i>Patanga japonica</i>	●					
		コバネイナゴ	<i>Oxya yezoensis</i>	●	●				
		ショウリヨウバッタ	<i>Acrida cinerea</i>	●	●				
		ショウリヨウバッタモドキ	<i>Gonista bicolor</i>	●					VU
ツマグロバッタ		<i>Mecostethus magister</i>	●					DD	
トノサマバッタ		<i>Locusta migratoria</i>	●	●					
クルマバッタモドキ		<i>Oedaeus infernalis</i>	●	●					
イボバッタ		<i>Trilophidia japonica</i>	●	●					
ナナフシ	ナナフシ	ナナフシモドキ	<i>Baculum irregulariterdentatum</i>	●	●				
ハサミムシ	ハサミムシ	ハマベハサミムシ	<i>Anisolabis (Anisolabis) maritima</i>	●					
		キアシハサミムシ	<i>Euborellia (Euborellia) plebeja</i>	●					
		ヒゲジロハサミムシ	<i>Gonolabis marginalis</i>	●	●				
	クロハサミムシ	ミジンハサミムシ	<i>Labia minor</i>	●					
カメムシ	ウンカ	ホソミドリウンカ	<i>Saccharosydne procerus</i>	●					
		テラウチウンカ	<i>Terauchiana singularis</i>	●					
		タケウンカ	<i>Epeurysa nawai</i>	●					
		コブウンカ	<i>Tropidocephala brunneipennis</i>	●					
	シマウンカ	シマウンカ	<i>Nisia nervosa</i>	●					
	ハネナガウンカ	アカハネナガウンカ	<i>Distrombus politus</i>	●					
	テングスケバ	テングスケバ	<i>Dictyophara patruelis</i>	●	●				
		ツマグロスケバ	<i>Orthopagus lunulifer</i>	●					
	ゲンバイウンカ	タテスジゲンバイウンカ	<i>Catullia vittata</i>	●					
		ミドリゲンバイウンカ	<i>Kallitaxila sinica</i>	●					
	アオハハゴロモ	アオハハゴロモ	<i>Geisha distinctissima</i>	●	●				
	ハゴロモ	スケバハゴロモ	<i>Euricania fascialis</i>	●	●				
		ベッコウハゴロモ	<i>Orosanga japonicus</i>	●	●				
		アミガサハゴロモ	<i>Pochazia albomaculata</i>	●	●				
	セミ	クマゼミ	<i>Cryptotympana facialis</i>	●	●				
		アブラゼミ	<i>Graptopsaltria nigrofuscata</i>	●	●				
		ツクツクボウシ	<i>Meimuna opalifera</i>	●	●				
		ミンミンゼミ	<i>Oncotympana maculaticollis</i>	●	●				
		ニイニゼミ	<i>Platypleura kaempferi</i>	●	●				
		ヒグラシ	<i>Tanna japonensis japonensis</i>	●	●				NT
	トゲアワフキムシ	ムネアカアワフキ	<i>Hindoloides bipunctatus</i>	●					
	アワフキムシ	シロオビアワフキ	<i>Aphrophora intermedia</i>	●					
		ハマベアワフキ	<i>Aphrophora maritima</i>	●					
	ミミズク	ミミズク	<i>Ledra auditura</i>	●					
		コミミズク	<i>Ledropsis discolor</i>	●					
	クロヒラタヨコバイ	クロヒラタヨコバイ	<i>Penthimia nitida</i>	●					
	オオヨコバイ	ツマグロオオヨコバイ	<i>Bothrogonia ferruginea</i>	●	●				
オオヨコバイ		<i>Cicadella viridis</i>	●						
マエジロオオヨコバイ		<i>Kolla atramentaria</i>	●						
ヒメヨコバイ	キウイヒメヨコバイ	<i>Alebrasca actinidiae</i>	●						
ヨコバイ	ベニスジトガリヨコバイ	<i>Stymphalus rubrolineatus</i>	●						
キジラミ	クワキジラミ	<i>Anomoneura mori</i>	●						
	ヤツデキジラミ	<i>Psylla fatsiae</i>	●	●					
アメンボ	シマアメンボ	<i>Metrocoris histrio</i>	●					NT	
	コセアカアメンボ	<i>Gerris (Macrogerris) gracilicornis</i>	●						
	ヤスマツアメンボ	<i>Gerris (Gerris) insularis</i>	●						
	ヒメアメンボ	<i>Gerris (Gerris) latiabdominis</i>	●						
	オオアメンボ	<i>Gerris (Aquarius) elongatus</i>	●					CR	
	アメンボ	<i>Gerris paludum</i>	●	●					
	エサキアメンボ	<i>Limnopus esakii</i>	●					NT DD	
カスミカメムシ	ナカグロカスミカメ	<i>Adelphocoris suturalis</i>	●						
	ズアカシダカスミカメ	<i>Monalocoris filicis</i>	●						

資料-5 昆虫類の確認種一覧 (3/11)

目名	科名	種名	学名	調査地			重要種		外来種
				大規模緑地	小規模緑地	その他	国R L	都R L・区部	
カメムシ	カスミカメムシ	グンバイカスミカメ	<i>Stethoconus japonicus</i>	●					
		アカヒゲホソミドリカスミカメムシ	<i>Trigonotylus ruficornis</i>	●					
	マキバサシガメ	ハネナガマキバサシガメ	<i>Nabis stenoferus</i>	●					
		アシブトマキバサシガメ	<i>Prostemma hilgendorffi</i>	●					
	グンバイムシ	ヤブガラシグンバイ	<i>Cysteochila chiniana</i>	●					
		ナシグンバイ	<i>Stephanitis nashi</i>	●					
		ツツジグンバイ	<i>Stephanitis pyrioides</i>	●	●				
		トサカグンバイ	<i>Stephanitis takeyai</i>	●					
		ヒメグンバイ	<i>Uhlirites debilis</i>	●					
		ブラタナスグンバイ	<i>Corythucha ciliata</i>	●	●				○
		アワダチソウグンバイ	<i>Corythucha marmorata</i>	●	●				○
	サンガメ	ヨコヅナサンガメ	<i>Agriosphodrus dohrni</i>	●	●				○
		シマサシガメ	<i>Sphedanolestes impressicollis</i>	●					
		ヤニサシガメ	<i>Velinus nodipes</i>	●					
		アカシマサシガメ	<i>Haematoloecha nigrorufa</i>	●					
	イトカメムシ	ヒメイトカメムシ	<i>Metacanthus pulchellus</i>	●	●				
		イトカメムシ	<i>Yemma exilis</i>	●	●				
	ナガカメムシ	ジュウジナガカメムシ	<i>Tropidothorax cruciger</i>	●					
		ヒメナガカメムシ	<i>Nysius plebejus</i>	●	●				
		ヒメコバネナガカメムシ	<i>Dimorphopterus bicoloripes</i>	●					
		コバネナガカメムシ	<i>Dimorphopterus pallipes</i>	●					
		ホソコバネナガカメムシ	<i>Macropes obnubilus</i>	●					
		ヒメオオメカメムシ	<i>Geocoris proteus</i>	●					
		オオメカメムシ	<i>Picoris varius</i>	●					
		ヒゲナガカメムシ	<i>Pachygrontha antennata</i>	●	●				
		ヨツボシヒョウタンナガカメムシ	<i>Paraecosmentus pallicornis</i>	●					
		オオモンシロナガカメムシ	<i>Metochus abbreviatus</i>	●	●				
		モンシロナガカメムシ	<i>Panaorus albomaculatus</i>	●	●				
		シロヘリナガカメムシ	<i>Panaorus japonicus</i>	●					
		コバネヒョウタンナガカメムシ	<i>Togo hemipterus</i>	●	●				
メダカナガカメムシ	メダカナガカメムシ	<i>Chauliops fallax</i>	●	●					
ホシカメムシ	クロホシカメムシ	<i>Pyrrhocoris sinuaticollis</i>	●						
オオホシカメムシ	オオホシカメムシ	<i>Physopelta gutta</i>	●	●					
	ヒメホシカメムシ	<i>Physopelta cincticollis</i>	●	●					
ホソヘリカメムシ	クモヘリカメムシ	<i>Leptocoris chinensis</i>	●						
	ホソヘリカメムシ	<i>Riptortus clavatus</i>	●	●					
ヘリカメムシ	ホゾズキカメムシ	<i>Acanthocoris sordidus</i>	●	●					
	オオクモヘリカメムシ	<i>Anacanthocoris stricicornis</i>	●						
	ホソハリカメムシ	<i>Cletus punctiger</i>	●	●					
	ハリカメムシ	<i>Cletus schmidtii</i>	●	●					
	ホシハラビロヘリカメムシ	<i>Homoeocerus unipunctatus</i>	●						
	ツマキヘリカメムシ	<i>Hygia (Hygia) opaca</i>	●						
	ミナトゲヘリカメムシ	<i>Paradasynus spinosus</i>	●						
	キバラヘリカメムシ	<i>Pinactus bicoloripes</i>	●						
ヒメヘリカメムシ	スカシヒメヘリカメムシ	<i>Liorhyssus hyalinus</i>	●						
	アカヒメヘリカメムシ	<i>Rhopalus maculatus</i>	●	●					
	ブチヒゲヘリカメムシ	<i>Stictopleurus punctatonevrosus</i>	●						
マルカメムシ	マルカメムシ	<i>Megacopta punctatissima</i>	●						
ツチカメムシ	ヨコヅナツチカメムシ	<i>Adrisa magna</i>	●						
	マルツチカメムシ	<i>Aethus nigrinus</i>	●						
	ヒメツヤツチカメムシ	<i>Chilocoris piceus</i>	●						
	ヒメツチカメムシ	<i>Fromundus pygmaeus</i>	●						
	ツチカメムシ	<i>Macroscytus japonensis</i>	●						
	ミツボシツチカメムシ	<i>Adomerus triguttulus</i>	●						
	キンカメムシ	アカスジキンカメムシ	<i>Poecilocoris lewisi</i>	●	●				
ノコギリカメムシ	ノコギリカメムシ	<i>Megymenum gracilicorne</i>	●						
カメムシ	アカスジカメムシ	<i>Graphosoma rubrolineatum</i>	●						
	オオクロカメムシ	<i>Scotinophara horvathi</i>	●						
	ヒメクロカメムシ	<i>Scotinophara scotti</i>	●						
	ウズラカメムシ	<i>Aelia fieberi</i>	●	●					
	ウシカメムシ	<i>Alcimocoris japonensis</i>	●						
	ブチヒゲカメムシ	<i>Dolycoris baccaalum</i>	●	●					
	キマダラカメムシ	<i>Erthesina fullo</i>	●	●				○	
	ナガメ	<i>Eurydema rugosa</i>	●	●					
	トゲシラホシカメムシ	<i>Eysarcoris aeneus</i>	●						
	ムラサキシラホシカメムシ	<i>Eysarcoris annamita</i>	●	●					

資料-5 昆虫類の確認種一覧 (4/11)

目名	科名	種名	学名	調査地			重要種		外来種	
				大規模緑地	小規模緑地	その他	国R L	都R L・区部		
カメムシ	カメムシ	クサギカメムシ	<i>Halyomorpha halys</i>	●	●					
		ミヤマカメムシ	<i>Hermolaus amurensis</i>	●						
		ナカボシカメムシ	<i>Menida musiva</i>	●						
		アオクサカメムシ	<i>Nezara antennata</i>	●						
		チャバネアオカメムシ	<i>Plautia crossota stali</i>	●	●					
		ツヤアオカメムシ	<i>Glaucias subpunctatus</i>	●						
	エビイロカメムシ	エビイロカメムシ	<i>Gonopsis affinis</i>	●						
	ツノカメムシ	セアカツノカメムシ	<i>Acanthosoma denticauda</i>	●	●					
		ヒメツノカメムシ	<i>Elasmucha putoni</i>		●					
		エサキモンキツノカメムシ	<i>Sastragala esakii</i>	●	●					
アミメカゲロウ	ラクダムシ	ラクダムシ	<i>Inocellia japonica</i>	●						
	ヒメカゲロウ	ホソバヒメカゲロウ	<i>Micromus linearis</i>	●						
	クサカゲロウ	ヤマトクサカゲロウ	<i>Chrysoperla nipponensis</i>	●						
		アミメクサカゲロウ	<i>Nacaura matsumurae</i>	●						
	ウスバカゲロウ	ホシウスバカゲロウ	<i>Glenuroides japonicus</i>	●						
	ウスバカゲロウ	<i>Hagenomyia micans</i>	●	●						
コウチュウ	ナガヒラタムシ	ナガヒラタムシ	<i>Tenomerga mucida</i>	●						
	ハンミョウ	トウキョウヒメハンミョウ	<i>Cicindela kaleea yedoensis</i>	●	●					
		コハンミョウ	<i>Cicindela specularis</i>	●	●				NT	
	オサムシ	アオオサムシ	<i>Carabus insulicola</i>	●	●					
		チビヒョウタンゴミムシ	<i>Dyschirius ordinatus</i>	●						
		メダカチビカワゴミムシ	<i>Asaphidion semilucidum</i>	●						
		オオゴミムシ	<i>Lesticus magnus</i>	●						
		セアカヒラタゴミムシ	<i>Dolichus halensis</i>	●						
		マルガタゴミムシ	<i>Amara chalcites</i>	●						
		ナガマルガタゴミムシ	<i>Amara macronota ovalipennis</i>	●						
		ヒメゴミムシ	<i>Anisodactylus tricuspis</i>	●						
		ヒメケゴモクムシ	<i>Harpalus jurecki</i>	●						
		アカアシマルガタゴモクムシ	<i>Harpalus tinctulus</i>	●						
		ミドリマメゴモクムシ	<i>Stenolophus difficilis</i>	●						
		イツホシマメゴモクムシ	<i>Stenolophus quinquepustulatus</i>	●						
		マルヒメゴモクムシ	<i>Bradycellus fimbriatus</i>	●						
		アトワアオゴミムシ	<i>Chlaenius virgulifer</i>	●						
		トゲアトキリゴミムシ	<i>Aephnidius adelioides</i>	●						
		ハギキノコゴミムシ	<i>Coptodera subapicalis</i>	●						
		ジュウジアトキリゴミムシ	<i>Lebia retrofasciata</i>	●						
	コルリアトキリゴミムシ	<i>Lebia viridis</i>	●						○	
	ミズギワアトキリゴミムシ	<i>Demetrias marginicollis</i>	●							
	ゲンゴロウ	チビゲンゴロウ	<i>Hydroglyphus japonicus</i>	●						
		ハイイロゲンゴロウ	<i>Eretes sticticus</i>	●						
	エンマムシ	コエンマムシ	<i>Margarinotus (Grammostethus) niponicus</i>	●						
	タマキノコムシ	セルタマキノコムシ	<i>Cyrtoplastus seriepunctatus</i>	●						
	シテムシ	オオヒラタシテムシ	<i>Eusilpha japonica</i>	●	●					
	ハネカクシ	アカニセセミゾハネカクシ	<i>Drusilla sparsa</i>	●						
		キンボシハネカクシ	<i>Ocybus weisei</i>	●						VU
		ヨコモトガリハネカクシ	<i>Medon submaculatus</i>	●						
		アオバアリアガタハネカクシ	<i>Paederus fuscipes</i>	●						
		クロヒメカワベハネカクシ	<i>Platystethus operosus</i>	●						
	マルハナノミ	キムネマルハナノミ	<i>Sacodes protecta</i>	●						
	クワガタムシ	コクワガタ	<i>Macroderas rectus rectus</i>	●	●					
		ノギリクワガタ	<i>Prosopocoilus inclinatus inclinatus</i>		●					NT
		ヒラタクワガタ	<i>Serrognathus platymelus pilifer</i>	●						VU
	センチコガネ	センチコガネ	<i>Geotrupes laevistriatus</i>	●	●					
	コガネムシ	ツヤエンマコガネ	<i>Onthophagus nitidus nitidus</i>	●						
		ナガチャコガネ	<i>Heptophylla picea picea</i>	●						
		クロコガネ	<i>Holotrichia kiotoensis</i>	●						
コフキコガネ		<i>Melolontha japonica</i>	●	●						
ピロウドコガネ		<i>Maladera japonica japonica</i>	●							
コイチャコガネ		<i>Adoretus tenuimaculatus</i>	●							
アオドウガネ		<i>Anomala albopilosa albopilosa</i>	●	●						
ドウガネブイブイ		<i>Anomala cuprea</i>	●	●						
ヤマトアオドウガネ		<i>Anomala japonica</i>	●							
ヒメコガネ		<i>Anomala rufocuprea</i>		●						
セマダラコガネ		<i>Blitopertha orientalis</i>	●	●						
マメコガネ		<i>Popillia japonica</i>	●	●						
ヒラタハナムグリ		ヒラタハナムグリ	<i>Nipponovalgus angusticollis angusticollis</i>	●						

資料-5 昆虫類の確認種一覧 (5/11)

目名	科名	種名	学名	調査地			重要種		外来種
				大規模緑地	小規模緑地	その他	国R L	都R L・区部	
コウチュウ	コガネムシ	ヒメトラハナムグリ	<i>Lasiotrichius succinctus</i>	●				EN	
		コアオハナムグリ	<i>Oxyctonia jucunda</i>	●	●				
		シロテンハナムグリ	<i>Protaetia orientalis submarumorea</i>	●	●				
		カナブン	<i>Rhomborrhina japonica</i>	●	●				
		クロカナブン	<i>Rhomborrhina polita</i>			●		EN	
	カブトムシ	<i>Trypoxylus dichotomus</i>	●	●					
	タマムシ	ウバタマムシ	<i>Chalcophora japonica japonica</i>	●				CR	
		ムツボシタマムシ	<i>Chrysobothris succedanea</i>	●					
		ヤマトタマムシ	<i>Chrysochroa fulgidissima fulgidissima</i>	●	●			NT	
		ヒシモンナガタマムシ	<i>Agrilus discalis</i>	●					
		クズノチビタマムシ	<i>Trachys auricollis</i>	●					
		コウゾチビタマムシ	<i>Trachys broussonetiae</i>	●					
		ドウイロチビタマムシ	<i>Trachys cupricolor</i>	●					
		ナミガタチビタマムシ	<i>Trachys griseofasciata</i>	●					
		マルガタチビタマムシ	<i>Trachys inedita</i>	●					
		ヤノナミガタチビタマムシ	<i>Trachys yanoi</i>	●					
	コメツキムシ	ヒゲコメツキ	<i>Pectocera fortunei</i>	●					
		マダラチビコメツキ	<i>Aeoloderma agnatum</i>	●					
		サビキコリ	<i>Agrypnus binodulus binodulus</i>	●					
トラフコメツキ		<i>Selatosomus onerosus</i>	●						
ヒゲトコメツキ	ナガヒゲトコメツキ	<i>Aulonothroscus longulus</i>	●						
カツオブシムシ	ヒメマルカツオブシムシ	<i>Anthrenus verbasci</i>	●	●					
ジョウカイモドキ	ツマキアオジョウカイモドキ	<i>Malachius prolongatus</i>	●						
ヒョウホンムシ	ケジロヒョウホンムシ	<i>Pinus senilis senilis</i>	●						
ケシキスイ	クロハナケシキスイ	<i>Carpophilus chalybeus</i>	●						
	カタベニデオキスイ	<i>Urophorus humeralis</i>	●						
	ナガコゲチャケシキスイ	<i>Amphicrossus lewisi</i>	●						
	ナミモンコケシキスイ	<i>Cryptarcha strigata</i>	●						
	ヨツボシケシキスイ	<i>Librodor japonicus</i>	●	●					
ホソヒラタムシ	ミツモンセマルヒラタムシ	<i>Psammocerus triguttatus</i>	●						
オオキノコムシ	カタモンオオキノコ	<i>Aulacochilus japonicus</i>		●					
	アカハバヒロオオキノコ	<i>Neotriplax lewisii</i>		●					
	ヒメオビオオキノコ	<i>Episcapha fortunei</i>		●					
テントウダマシ	ヨツボシテントウダマシ	<i>Ancylopus pictus asiaticus</i>	●						
テントウムシ	オシマヒメテントウ	<i>Nephus oshimensis</i>	●						
	アトホシヒメテントウ	<i>Nephus phosphorus</i>	●						
	コクロヒメテントウ	<i>Scymnus (Pulvis) posticalis</i>	●						
	ヒメアカホシテントウ	<i>Chilocorus kuwanae</i>	●						
	ヨツボシテントウ	<i>Phymatosternus lewisii</i>	●						
	カメノコテントウ	<i>Aiolocaria hexaspilota</i>	●						
	シロジュウシホシテントウ	<i>Calvia (Anisocadvia) quatuordecimguttata</i>	●						
	ムーアシロホシテントウ	<i>Calvia (Eocaria) muii</i>	●	●					
	ナナホシテントウ	<i>Coccinella septempunctata</i>	●	●					
	ナミテントウ	<i>Harmonia axyridis</i>	●	●					
	ジュウサンホシテントウ	<i>Hippodamia tredecimpunctata timberlakei</i>	●						
	キイロテントウ	<i>Illeis koebelei koebelei</i>	●	●					
	ダンダラテントウ	<i>Menochilus sexmaculatus</i>	●	●					
	ウスキホシテントウ	<i>Oenopia (Synharmonia) hirayamai</i>	●						
	ヒメカメノコテントウ	<i>Propylea japonica</i>	●						
	クモガタテントウ	<i>Psyllobora vigintimaculata</i>	●					○	
	トホシテントウ	<i>Epilachna admirabilis</i>	●	●					
オオニジュウヤホシテントウ	<i>Epilachna vigintioctomaculata</i>	●	●						
ヒメマキムシ	クロオビケシマキムシ	<i>Corticaria ornata</i>	●						
ホソカタムシ	ベニモンヒメヒラタホソカタムシ	<i>Synchita rufosignatus</i>	●						
コキノコムシ	ヒレルコキノコムシ	<i>Mycetophagus hillerianus</i>	●						
ナガクチキムシ	クロホソナガクチキ	<i>Phloeotrya rugicollis</i>	●						
カミキリモドキ	モモトカミキリモドキ	<i>Oedemeronia lucidicollis</i>	●						
	カトウカミキリモドキ	<i>Nacerdes (Xanthochroa) katoi</i>	●						
アリモドキ	アカホソアリモドキ	<i>Anthicus fugiens</i>	●						
	ホソクビアリモドキ	<i>Formicomus braminus coiffaiti</i>	●						
	ヨツボシホソアリモドキ	<i>Pseudoleptaleus valgipes</i>	●						
ゴミムシダマシ	ハムシダマシ	<i>Lagriia rufipennis</i>	●	●					
	ヒゲトゴミムシダマシ	<i>Luprops orientalis</i>	●						
	オオクチキムシ	<i>Allecula fuliginosa</i>	●						
	モンキゴミムシダマシ	<i>Diaperis lewisi lewisi</i>	●						
	エグリゴミムシダマシ	<i>Uloma marseuli marseuli</i>	●						

資料-5 昆虫類の確認種一覧 (6/11)

目名	科名	種名	学名	調査地			重要種		外来種
				大規模緑地	小規模緑地	その他	国R L	都R L・区部	
コウチュウ	ゴミムシダマシ	キマワリ	<i>Plesiophthalmus nigrocyaneus nigrocyaneus</i>	●	●				
		セスジナガキマワリ	<i>Strongylium cultellatum</i>	●					
	カミキリムシ	ノコギリカミキリ	<i>Prionus insularis insularis</i>		●			NT	
		キマダラカミキリ	<i>Aeolesthes chrysothrix chrysothrix</i>	●					
		タケトラカミキリ	<i>Chlorophorus annularis</i>			●		NT	
		フタオビミドリトラカミキリ	<i>Chlorophorus muscosus</i>	●					
		キスジトラカミキリ	<i>Cyrtoclytus caproides</i>	●				VU	
		ヒメクロトラカミキリ	<i>Rhaphuma diminuta</i>	●					
		カタシロゴマフカミキリ	<i>Mesosa (Perimesosa) hirsuta hirsuta</i>	●					
		ナガゴマフカミキリ	<i>Mesosa (Aphelocnemia) longipennis</i>	●					
		カノコサビカミキリ	<i>Apomecyna naevia naevia</i>	●					
		シナノクロフカミキリ	<i>Asaperda agapanthina agapanthina</i>	●					
		ヒシカミキリ	<i>Microlera ptinoides</i>	●					
		ニイジマチビカミキリ	<i>Egesina (Nijimaia) bifasciana bifasciana</i>	●					
		アトモンサビカミキリ	<i>Pterolophia (Pterolophia) granulata</i>	●					
		アトジロサビカミキリ	<i>Pterolophia (Pterolophia) zonata</i>	●					
		センノキカミキリ	<i>Acalolepta luxuriosa luxuriosa</i>	●				VU	
		ゴマダラカミキリ	<i>Anoplophora malasiaca</i>		●				
		キボシカミキリ	<i>Psacotheta hilaris hilaris</i>		●				
		クワカミキリ	<i>Apriona japonica</i>	●					
		シラオビゴマフケシカミキリ	<i>Exocentrus guttulatus</i>	●					
		ラミーカミキリ	<i>Paraglenea fortunei</i>	●					
キクスイカミキリ	<i>Phytoecia rufiventris</i>	●							
ハムシ	アズキマメゾウムシ	<i>Callosobruchus chinensis</i>	●	●					
	キベリクビボソハムシ	<i>Lema adamsii</i>	●						
	キバラリクビボソハムシ	<i>Lema concinnipennis</i>	●						
	アカクビボソハムシ	<i>Lema diversa</i>	●						
	キイロクビナガハムシ	<i>Lilioceris rugata</i>	●						
	ムナキルリハムシ	<i>Smaragdina semiaurantiaca</i>	●						
	タテスジキツツハムシ	<i>Cryptocephalus nigrofasciatus</i>	●						
	カシワツツハムシ	<i>Cryptocephalus scitulus</i>	●						
	クロボシツツハムシ	<i>Cryptocephalus signaticeps</i>	●						
	アオバナサルハムシ	<i>Basilepta fulvipes</i>	●						
	イモサルハムシ	<i>Colasposoma dauricum</i>	●						
	コフキサルハムシ	<i>Lypesthes ater</i>	●						
	ニホンケブカサルハムシ	<i>Lypesthes japonicus</i>	●						
	ヒメキバナサルハムシ	<i>Pagria signata</i>	●						
	ドウガネサルハムシ	<i>Scelodonta lewisii</i>	●						
	トビサルハムシ	<i>Trichochrysea japana</i>	●						
	ヨモギハムシ	<i>Chrysolina aurichalcea</i>	●						
	ハッカハムシ	<i>Chrysolina exanthematica</i>	●					DD	
	コガタリハムシ	<i>Gastrophysa atrocyanea</i>	●						
	トホシハムシ	<i>Gonioctena japonica</i>	●						
	ヤツボシハムシ	<i>Gonioctena nigroplagiata</i>	●						
	フジハムシ	<i>Gonioctena rubripennis</i>	●						
	ダイコンハムシ	<i>Phaedon brassicae</i>	●						
	ハンノキハムシ	<i>Agelastica coerulea</i>	●						
	ウリハムシモドキ	<i>Atrachya menetriesi</i>	●						
	ウリハムシ	<i>Aulacophora femoralis</i>	●						
	クロウリハムシ	<i>Aulacophora nigripennis</i>	●	●					
	クワハムシ	<i>Fleutiauxia armata</i>	●						
	イタドリハムシ	<i>Gallerucida bifasciata</i>		●					
	ホタルハムシ	<i>Monolepta dichroa</i>	●						
	アトボシハムシ	<i>Paridea angulicollis</i>	●						
	サンゴジュハムシ	<i>Pyrrhalta humeralis</i>	●						
	エノキハムシ	<i>Pyrrhalta tibialis</i>	●						
	アヤメツブノミハムシ	<i>Aphthona interstitialis</i>	●						
	テントウノミハムシ	<i>Argopistes bipagiatus</i>	●						
	オオアカマルノミハムシ	<i>Argopus clypeatus</i>	●						
	コマルノミハムシ	<i>Nonarthra tibialis</i>	●						
	チャバナツヤハムシ	<i>Phygasia fulvipennis</i>	●						
	クロトゲハムシ	<i>Hispellinus moerens</i>	●						
	イノコヅチカメノコハムシ	<i>Cassida japana</i>	●						
	カメノコハムシ	<i>Cassida nebulosa</i>	●						
	ヒメカメノコハムシ	<i>Cassida piperata</i>	●						
	イチモンジカメノコハムシ	<i>Thlaspida cribrata</i>	●						

資料-5 昆虫類の確認種一覧 (7/11)

目名	科名	種名	学名	調査地			重要種		外来種		
				大規模緑地	小規模緑地	その他	国R・L	都R・L・区部			
コウチュウ	ハムシ	ブタクサハムシ	<i>Ophraella communa</i>	●						○	
	ヒゲナガゾウムシ	カオジロヒゲナガゾウムシ	<i>Sphinctotropis laxus</i>	●							
	オトシブミ	ヒメクロオトシブミ	<i>Apoderus(Compsapoderus) erythrogaster</i>	●							
		カシルリオトシブミ	<i>Euops(Synaptops) splendidus</i>	●							
		クロケシツブチョッキリ	<i>Auletobius(Pseudomesauletes) uniformis</i>	●							
		ブドウハマキチョッキリ	<i>Aspidobyctiscus lacunipennis</i>	●							
		ファウストハマキチョッキリ	<i>Byctiscus fausti F</i>	●							
		クチナガチョッキリ	<i>Involvulus(Involvulus) plumbeus</i>	●							
		ハイイロチョッキリ	<i>Cyllorhynchites ursulus</i>	●							
	ゾウムシ	ツチイロヒゲボソゾウムシ	<i>Phyllobius(Diallobius) incomptus</i>	●							
		カシワクチフトゾウムシ	<i>Nothomylokerus griseus</i>	●							
		クロホシクチフトゾウムシ	<i>Lepidepistomodes nigromaculatus</i>	●							
		ツンブトクチフトゾウムシ	<i>Myllocerus nipponensis</i>	●							
		チビヒョウタンゾウムシ	<i>Myosides seriehispidus</i>	●							
		ヒレルクチフトゾウムシ	<i>Pseudoedaphrys hilleri</i>	●							
		ホソヒメカタゾウムシ	<i>Asphalmus japonicus</i>	●							
		スグリゾウムシ	<i>Pseudocneorhinus bifasciatus</i>	●	●						
		サビヒョウタンゾウムシ	<i>Scepticus griseus</i>	●							
		コフキゾウムシ	<i>Eugnathus distinctus</i>	●							
		ヤサイゾウムシ	<i>Listroderes costirostris</i>	●							○
		カツゾウムシ	<i>Lixus(Eulixus) impressiventris</i>	●							
		オジョアシナガゾウムシ	<i>Ornatalcides(Mesalcidodes) trifidus</i>	●							
		イネミズゾウムシ	<i>Lissorhoptrus oryzophilus</i>	●							
		カシワノミゾウムシ	<i>Orchestes(Orchestes) japonicus</i>	●							
		イチゴハナゾウムシ	<i>Anthonomus(Anthonomus) bisignifer</i>	●							
		ジュウジチビシギゾウムシ	<i>Archarius(Archarius) pictus</i>	●							
		ヤノシギゾウムシ	<i>Curculio yanoi</i>	●							
		サメハダヒメゾウムシ	<i>Nespilobaris nipponica</i>	●							
		マルメサルゾウムシ	<i>Phytobius quadricornis</i>	●							
	ツツジゲムネサルゾウムシ	<i>Mecysmoderes fulvus</i>	●								
	ダイコンサルゾウムシ	<i>Ceutorhynchus albosuturalis</i>	●								
	オサゾウムシ	トホシオサゾウムシ	<i>Aplotes roelofsi</i>	●							
		コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i>	●							
	ハチ	ミフシハバチ	ニホンチュウレンジ	<i>Arge nipponensis</i>	●						
			チュウレンジハチ	<i>Arge pagana</i>	●						
			ルリチュウレンジ	<i>Arge similis</i>	●	●					
		コンボウハバチ	ホシアシフトハバチ	<i>Agencimbex jucunda</i>	●						
			ハグロハバチ	<i>Allantus lucifer</i>	●						
		ハバチ	セグロカブラハバチ	<i>Athalia infumata</i>	●						
			ニホンカブラハバチ	<i>Athalia japonica</i>	●						
			ヒゲナガハバチ	<i>Lagidina platycerus</i>	●	●					
			チャイロハバチ	<i>Nesotaxonus flavescens</i>	●						
			シモツケマルハバチ	<i>Apareophora japonica</i>	●						
アシフトコバチ			キアシフトコバチ	<i>Brachymeria(Brachymeria) lasus</i>	●						
アリバチ			トゲムネアリバチ	<i>Squamulotilla ardescens</i>	●						
ツチバチ		アカスジツチバチ	<i>Scoria(Carinoscolia) fascinata</i>		●						
		キオビツチバチ	<i>Scolia(Discolia) oculata</i>	●							
		ヒメハラナガツチバチ	<i>Campsomeriella annulata</i>	●							
		キンケハラナガツチバチ	<i>Campsomeris prismatica</i>	●	●						
アリ		オオハリアリ	<i>Prachyponera chinensis</i>	●							
		テラニシリアゲアリ	<i>Crematogaster teranishii</i>	●							
		ハリフトシリアゲアリ	<i>Crematogaster matsumurai</i>	●							
		キイロシリアゲアリ	<i>Crematogaster osakensis</i>	●							
		ムネボソアリ	<i>Leptothrax congruus</i>	●							
		クロナガアリ	<i>Messor aciculatus</i>	●							
		ヒメアリ	<i>Monomorium intrudens</i>	●							
		キイロヒメアリ	<i>Monomorium triviale</i>	●							
		コツノアリ	<i>Oligomyrmex yamatonis</i>	●							
		ヒラタウロコアリ	<i>Pyramica canina</i>	●							
		アズマオオズアリ	<i>Pheidole fervida</i>	●							
		アミアリ	<i>Pristomyrmex pungens</i>	●							
		イガウロコアリ	<i>Smithistruma benten</i>	●							
		ウロコアリ	<i>Strumigenys lewisi</i>	●							
		トビイロシワアリ	<i>Tetramorium tsushimae</i>	●							
		トカラウロコアリ	<i>Pyramica membranifera</i>	●							
		ウメマツアリ	<i>Vollenhovia emeryi</i>	●							

資料-5 昆虫類の確認種一覧 (8/11)

目名	科名	種名	学名	調査地			重要種		外来種	
				大規模緑地	小規模緑地	その他	国R L	都R L・区部		
ハチ	アリ	ルリアリ	<i>Ocetellus glaber</i>	●						
		ヒラフシアリ	<i>Technomyrmex gibbosus</i>	●						
		クロオオアリ	<i>Camponotus japonicus</i>	●						
		ヒラズオオアリ	<i>Camponotus nipponicus</i>	●						
		イトウオオアリ	<i>Camponotus itoi</i>	●						
		ウメマツオオアリ	<i>Camponotus vitiosus</i>	●						
		ヨツボシオオアリ	<i>Camponotus quadrinotatus</i>	●						
		クロヤマアリ	<i>Formica japonica</i>	●						
		ハヤシクロヤマアリ	<i>Formica hayashi</i>	●						
		クロクサアリ	<i>Lasius fuliginosus</i>	●						
		トビイロケアリ	<i>Lasius japonicus</i>	●						
		アメイロアリ	<i>Paratrechina flavipes</i>	●						
	サクラアリ	<i>Paratrechina sakurae</i>	●							
	サムライアリ	<i>Polyergus samurai</i>	●							
	ベッコウバチ	オオモンクロベッコウ	<i>Anoplius samariensis</i>	●						
		オオシロフベッコウ	<i>Episyrion arrogans</i>	●						
	ドロバチ	オオフタオビドロバチ	<i>Anterhynchium flavomarginatum micado</i>	●						
		ミカドツクリバチ	<i>Eumenes micado</i>	●						
		ムモンツクリバチ	<i>Eumenes rubronotatus rubronotatus</i>	●						
		スズバチ	<i>Oreumenes decoratus</i>	●	●					
	スズメバチ	ムモンソアシナガバチ	<i>Parapolybia indica indica</i>	●						
		セグロアシナガバチ	<i>Polistes jadwigae jadwigae</i>	●						
		キボシアシナガバチ	<i>Polistes mandarinus</i>	●						
		キアシナガバチ	<i>Polistes rothneyi iwatai</i>	●						
		コアシナガバチ	<i>Polistes snelleni</i>	●	●					
		コガタスズメバチ	<i>Vespa analis insularis</i>	●	●					
		モンズズメバチ	<i>Vespa crabro flavofasciata</i>	●						
		オオスズメバチ	<i>Vespa mandarinia japonica</i>	●						
		キイロスズメバチ	<i>Vespa similima xanthoptera</i>	●						
		ヒメスズメバチ	<i>Vespa ducalis pulchra</i>	●						
		クロスズメバチ	<i>Vespula flaviceps lewisii</i>	●	●					
	アナバチ	セナガアナバチ	<i>Ampulex dissector</i>	●						
		コクロアナバチ	<i>Isodontia nigella</i>	●						
		クロアナバチ	<i>Sphex argentatus fumosus</i>	●	●					
		サトジガバチ	<i>Ammophila sabulosa nipponica</i>	●						
		ミカドジガバチ	<i>Hoplammophila aemulans</i>	●						
		シロスジギングチ	<i>Ectemnius iridifrons</i>	●						
		キシジツチスガリ	<i>Cerceris arenaria yanoi</i>		●					
		ニッポンツチスガリ	<i>Cerceris nipponensis</i>	●						
	コハナバチ	アカガネコハナバチ	<i>Halictus aerarius</i>	●						
		アオスジハナバチ	<i>Nomia punctulata</i>	●						
	ハキリバチ	オオハキリバチ	<i>Megachile (Chalicodoma) sculpturalis</i>	●						
		ヤトガリハナバチ	<i>Coelioxys (Boreocoelioxys) yanonis</i>	●						
		クズハキリバチ	<i>Megachile pseudomonticola</i>	●						
		ムナカタハキリバチ	<i>Megachile willughbiella munakatai</i>	●						
	コシブトハナバチ	ギンランキマダラハナバチ	<i>Nomada ginran</i>	●						
		ダイミョウキマダラハナバチ	<i>Nomada japonica</i>	●						
		ニッポンヒゲナガハナバチ	<i>Tetralonia nipponensis</i>	●						
		ルリモンハナバチ	<i>Thyreus decorus</i>	●						
		クマバチ	<i>Xylocopa appendiculata circumvolans</i>	●	●					
	ミツバチ	トラマルハナバチ	<i>Bombus diversus</i>	●						
		コマルハナバチ	<i>Bombus (Pyrobombus) ardens ardens</i>	●	●					
		ニホンミツバチ	<i>Apis cerana japonica</i>	●	●					
		セイヨウミツバチ	<i>Apis mellifera Y</i>	●					○	
	ハエ	ガガンボ	ベッコウガガンボ	<i>Ctenophora pictipennis fasciata</i>	●					
			エゾホソガガンボ	<i>Nephrotoma cornicina</i>	●					
			和名なし	<i>Nephrotoma flavonota</i>	●					
			キイロホソガガンボ	<i>Nephrotoma virgata</i>	●	●				
			マエキガガンボ	<i>Tipula (Indotipula) yamata</i>	●					
			ヤチガガンボ	<i>Tipula (Vestiplex) serricauda</i>	●					
			キリウジガガンボ	<i>Tipula (Yamatotipula) aino</i>	●					
			マドガガンボ	<i>Tipula nova</i>	●					
		ケバエ	ハグロケバエ	<i>Bibio tenebrosus</i>	●					
		ミズアブ	キアシホルリミズアブ	<i>Actina diadema</i>	●					
			ハラキンミズアブ	<i>Microchrysa flaviventris</i>	●					
			アメリカミズアブ	<i>Hermetia illucens</i>	●	●				○

資料-5 昆虫類の確認種一覧 (9/11)

目名	科名	種名	学名	調査地			重要種		外来種
				大規模緑地	小規模緑地	その他	国R L	都R L・区部	
ハエ	ミズアブ	ネグロミズアブ	<i>Craspedometopon frontale</i>	●					
	ツリアブ	ビロウドツリアブ	<i>Bombylius major</i>		●				
	ムシヒキアブ	アオメアブ	<i>Cophinopoda chinensis</i>	●	●				
		シオヤアブ	<i>Promachus yesonicus</i>	●	●				
		マギリケムシヒキ	<i>Neoitamus angusticornis</i>	●	●				
	アシナガバエ	マダラアシナガバエ	<i>Mesorhaga nebulosus</i>	●					
	ハナアブ	ホソヒメヒラタアブ	<i>Sphaerophoria macrogaster</i>	●					
		キタヒメヒラタアブ	<i>Sphaerophoria philanthus</i>	●					
		クロヒラタアブ	<i>Betasyrphus serarius</i>	●					
		ヘリヒラタアブ	<i>Didea alneti</i>	●					
		ヨコジマオオヒラタアブ	<i>Dideoidea lateralis</i>	●					
		ホソヒラタアブ	<i>Episyrphus balteatus</i>	●					
		ナミホシヒラタアブ	<i>Eupeodes (Eupeodes) bucculatus</i>	●					
		ツマグロコシボソハナアブ	<i>Allobaccha apicalis</i>	●					
		マダラコシボソハナアブ	<i>Baccha maculata</i>	●					
		キアシマヒラタアブ	<i>Paragus (Pandasyopthalmus) haemorrhous</i>	●					
		スズキフタモンハナアブ	<i>Ferdinandea cuprea</i>	●					
		クロベッコウハナアブ	<i>Volucella nigricans</i>	●					
		スイセンハナアブ	<i>Merodon equestris</i>	●					
		キゴシハナアブ	<i>Eristalinus (Lathyrrophthalmus) quinquestriatus</i>	●					
		シマハナアブ	<i>Eristalis (Eoseristalis) cerealis</i>	●					
		ナミハナアブ	<i>Eristalis (Eristalis) tenax</i>	●					
		キヒゲアシトハナアブ	<i>Helophilus (Helophilus) citricornis</i>	●					
		アシトハナアブ	<i>Helophilus (Helophilus) virgatus</i>	●	●				
		タカサゴハラフトハナアブ	<i>Mallota takasagensis</i>	●					
	シマアシトハナアブ	<i>Mesembrius flaviceps</i>	●						
	オオハナアブ	<i>Phytomia zonata</i>	●						
	ツヤホソバエ	ヒトテンツヤホソバエ	<i>Sepsis monostigma</i>	●					
		オスアカツヤホソバエ	<i>Sepsis thoracica</i>	●					
	フトモモホソバエ	クロフトモモホソバエ	<i>Texara compressa</i>	●					
	ミバエ	ミスジミバエ	<i>Bactrocera (Zeugodacus) scutellatus</i>	●					
		タンボボハマダラミバエ	<i>Hemilea infuscata</i>	●					
		イヌビウハマダラミバエ	<i>Acidiella diversa</i>	●					
		フチモンハマダラミバエ	<i>Magnimyioha fusca</i>	●					
		ハルササハマダラミバエ	<i>Paragastrozona japonica</i>	●					
		フトホヒゲハマダラミバエ	<i>Pogonangelus pachypogon</i>	●					
		ノゲシケブカミバエ	<i>Ensina sonchi</i>	●					
		ツマホシケブカミバエ	<i>Trupanea convergence</i>	●					
		ヒロクチバエ	ダイズコンリュウバエ	<i>Rivellia apicalis</i>	●				
	ヤチバエ	ヒゲナガヤチバエ	<i>Sepedon spegea</i>	●					
	ベッコウバエ	ベッコウバエ	<i>Dryomyza formosa</i>	●	●				
	フンバエ	ヒメフンバエ	<i>Scopeuma stercoraria</i>	●					
	イエバエ	カガハナゲバエ	<i>Dichaetomyia bibax</i>	●					
	クロバエ	オオクロバエ	<i>Calliphora nigribarbis</i>	●					
		キンバエ	<i>Lucilia caesar</i>	●					
		ミヤマキンバエ	<i>Lucilia papuensis</i>	●					
		ホログロオビキンバエ	<i>Chrysomya pinguis</i>	●					
ツマグロキンバエ		<i>Stomorphina obsoleta</i>	●	●					
ニクバエ	シリグロニクバエ	<i>Sarcophaga melanura</i>	●						
	ゲンロクニクバエ	<i>Sarcophaga albiceps</i>	●						
チョウ	マギリガ	クロハネシロヒゲナガ	<i>Nemophora albiantennella</i>	●					
		ホソオビヒゲナガ	<i>Nemophora aurifera</i>	●					
	ハマキガ	アトキハマキ	<i>Archips audax</i>	●					
		ビロードハマキ	<i>Cerace xanthocosma</i>	●					
	ミノガ	オオミノガ	<i>Eumeta japonica</i>	●					
	ヒロズコガ	マダラマルハヒロズコガ	<i>Gaphara conspersa</i>	●					
	スカシバガ	コスカシバ	<i>Synanthedon Hector</i>	●					
	ニセマイコガ	カキノヘタムシガ	<i>Stathmopoda masinissa</i>		●				
	マダラガ	ホタルガ	<i>Pidorus atratus</i>	●	●				
		タケノホソクロバ	<i>Artona martini</i>	●					
		ミノウスバ	<i>Pryeria sinica</i>	●					
	マドガ	マダラマドガ	<i>Rhodoneura vittula</i>	●					
	メイガ	シロツトガ	<i>Calamotropha paludella purella</i>	●					
		シロスジツトガ	<i>Crambus argyrophorus</i>	●					
		オオキノメイガ	<i>Botyodes principalis</i>	●					
		アカウスグロノメイガ	<i>Bradina angustalis pryeri</i>	●					

資料-5 昆虫類の確認種一覧 (10/11)

目名	科名	種名	学名	調査地			重要種		外来種
				大規模緑地	小規模緑地	その他	国R L	都R L・区部	
チョウ	メイガ	モンウスグロノメイガ	<i>Bradina geminalis</i>	●					
		コブノメイガ	<i>Cnaphalocrocis medinalis</i>	●					
		キアヤヒメノメイガ	<i>Diasemia accalis</i>	●					
		アヤナミノメイガ	<i>Eurrhparodes accessalis</i>	●					
		ツゲノメイガ	<i>Glyphodes perspectalis</i>	●					
		スカシノメイガ	<i>Glyphodes pryeri</i>	●					
		ヨツボシノメイガ	<i>Talanga quadrimaculalis</i>	●					
		シロマダラノメイガ	<i>Glyphodes sp</i>	●					
		モンキクロノメイガ	<i>Herpetogramma luctuosale zelleri</i>	●					
		マエキノメイガ	<i>Herpetogramma rudis</i>	●					
		シロオビノメイガ	<i>Spoladea recurvalis</i>	●	●				
		ミツテンノメイガ	<i>Mabra charonialis</i>	●					
		マメノメイガ	<i>Maruca vitrata</i>	●					
		ワタノメイガ	<i>Haritalodes derogatus</i>	●					
		フキノメイガ	<i>Ostrinia zaguliaevi</i>	●					
		ヨスジノメイガ	<i>Pagya quadrilineata</i>	●					
		マエアカスカシノメイガ	<i>Palpita nigropunctalis</i>	●					
		キムジノメイガ	<i>Prodasyncnemis inornata</i>	●					
	タテシマノメイガ	<i>Sclerocona acutella</i>	●						
	セセリチョウ	ダイミョウセセリ	<i>Daimio tethys</i>	●	●				
		チャバネセセリ	<i>Pelopidas mathias</i>	●	●				
		キマダラセセリ	<i>Potanthus flavus</i>	●	●				
		イチモンジセセリ	<i>Parnara guttata</i>	●	●				
	アゲハチョウ	ジャコウアゲハ	<i>Byasa alcinous</i>	●	●				
		アオスジアゲハ	<i>Graphium sarpedon</i>	●	●				
		カラスアゲハ	<i>Papilio bianor</i>	●	●				
		モンキアゲハ	<i>Papilio helenus</i>	●	●				
		キアゲハ	<i>Papilio machaon</i>	●	●				
		オナガアゲハ	<i>Papilio macilentus</i>	●					CR +EN
		ナガサキアゲハ	<i>Papilio memnon</i>	●	●				
		クロアゲハ	<i>Papilio protenor</i>	●	●				
		ナミアゲハ	<i>Papilio xuthus</i>	●	●				
	シロチョウ	ツマキチョウ	<i>Anthocharis scolymus</i>	●	●				
		モンキチョウ	<i>Colias erate</i>	●	●				
		キチョウ	<i>Eurema hecabe</i>	●	●				
		スジグロシロチョウ	<i>Pieris melete</i>	●	●				
		モンシロチョウ	<i>Pieris rapae</i>	●	●				
	シジミチョウ	ミズイロオナガシジミ	<i>Antigius attilia</i>	●					*
ルリシジミ		<i>Celastrina argiolus</i>	●	●					
ツバメシジミ		<i>Everes argiades</i>	●	●					
ウラナシジミ		<i>Lampides boeticus</i>	●	●					
ベニシジミ		<i>Lycaena phlaeas</i>	●	●					
ムラサキツバメ		<i>Narathura bazalus</i>	●	●					
ムラサキシジミ		<i>Narathura japonica</i>	●	●					
ミドリシジミ		<i>Neozephyrus japonicus</i>	●					DD	
ヤマトシジミ		<i>Zizeeria maha</i>	●	●					
ウラギンシジミ	<i>Curetis acuta</i>	●	●						
テングチョウ	テングチョウ	<i>Libythea celtis</i>	●						
マダラチョウ	アサギマダラ	<i>Parantica sita</i>	●	●					
タテハチョウ	コムラサキ	<i>Apatura metis</i>	●	●				*	
	ミドリヒョウモン	<i>Argynnis paphia</i>	●	●					
	ツマグロヒョウモン	<i>Argyreus hyperbius</i>	●	●					
	ヒメアカタテハ	<i>Cynthia cardui</i>	●	●					
	アカボシゴマダラ	<i>Hestina assimilis</i>	●	●					
	ゴマダラチョウ	<i>Hestina japonica</i>	●	●				注	
	ルリタテハ	<i>Kaniska canace</i>	●	●					
	イチモンジチョウ	<i>Ladoga camilla</i>	●					DD	
	コムシジ	<i>Neptis sappho</i>	●	●					
	キタテハ	<i>Polygonia c-aureum</i>	●	●					
	アカタテハ	<i>Vanessa indica</i>	●	●					
ジャノメチョウ	ヒカゲチョウ	<i>Lethe sicilicis</i>	●	●					
	クロコノマチョウ	<i>Melanitis phedima</i>	●	●					
	ヒメジャノメ	<i>Mycalesis gotama</i>	●	●					
	サトキマダラヒカゲ	<i>Neope goschkevitschii</i>	●	●					
カギバガ	ヤマトカギバ	<i>Nordstromia japonica</i>	●						
シャクガ	ナミスジコアオシャク	<i>Idiochlora ussuriaria</i>	●						

資料-5 昆虫類の確認種一覧 (11/11)

目名	科名	種名	学名	調査地			重要種		外来種	
				大規模緑地	小規模緑地	その他	国R L	都R L・区部		
チョウ	シャクガ	フトベニスジヒメシャク	<i>Timandra apicirosea</i>	●						
		ウスベニスジヒメシャク	<i>Timandra dichela</i>	●						
		ベニスジヒメシャク	<i>Timandra reompta prouti</i>	●						
		オオハガタナミシャク	<i>Ecliptopera umbrosaria umbrosaria</i>	●						
		アトスジグロナミシャク	<i>Epilobophora obscuraria</i>	●						
		ウスミドリナミシャク	<i>Episteira nigrilinearia nigrilinearia</i>	●						
		ネグロウスベニナミシャク	<i>Photoscotosia atrostrigata</i>	●						
		ユウマダラエダシャク	<i>Abraxas miranda miranda</i>	●						
		フタテンオエダシャク	<i>Chiasmia defixaria</i>	●						
		ウメエダシャク	<i>Cystidia couaggaria couaggaria</i>	●						
		ヒロオビトンボエダシャク	<i>Cystidia truncangulata</i>	●						
		オオトビスジエダシャク	<i>Ectropis excellens</i>	●						
		ウスバミスジエダシャク	<i>Hypomecis punctinalis confereuda</i>	●						
		ハミスジエダシャク	<i>Hypomecis roboraria displicens</i>	●						
		シャンハイオエダシャク	<i>Macaria shanghaiaria shanghaiaria</i>	●						
		マエキトビエダシャク	<i>Nothomiza formosa</i>	●						
		ウスキツバメエダシャク	<i>Ourapteryx nivea</i>	●						
		ウスアオエダシャク	<i>Parabapta clarissa</i>	●						
		ツマキウスキエダシャク	<i>Pareclipsis gracilis</i>	●						
		クロハグルマエダシャク	<i>Synegia esther</i>	●						
		ツバメガ	ギンツバメ	<i>Acropteris iphiata</i>	●					
		カイコガ	クワコ	<i>Bombyx mandarina</i>	●					
		ヤマユガ	オオミズアオ	<i>Actias artemis aliena</i>	●	●				VU
		スズメガ	ウンモンズズメ	<i>Callambulyx tatarinovii gabyae</i>	●					
			サザナミスズメ	<i>Dolbina tancrei</i>	●					
			クチバスズメ	<i>Marumba sperchius sperchius</i>	●					
			シモフリスズメ	<i>Psilogramma inretum</i>	●	●				
			オオスカシバ	<i>Cephonodes hylas hylas</i>	●	●				
			ホシヒメホウジャク	<i>Neogurelca himachala sangaica</i>			●			
			ホシホウジャク	<i>Macroglossum pyrhosticta</i>	●	●				
			キイロスズメ	<i>Theretra nessus</i>	●					
			コスズメ	<i>Theretra japonica</i>			●			
		セスジズズメ	<i>Theretra oldenlandiae oldenlandiae</i>		●					
		シャチホコガ	シャチホコガ	<i>Stauropus fagi persimilis</i>			●			
			ツマキシャチホコ	<i>Phalera assimilis</i>	●					
			モンクロシャチホコ	<i>Phalera flavescens</i>	●					
		ヒトリガ	キシタホソバ	<i>Eilema aegrota</i>		●				
ハガタキコケガ	<i>Mitochrista calamina</i>		●							
スジベニコケガ	<i>Barsine striata striata</i>		●	●						
キハラゴマダラヒトリ	<i>Spilosoma lubricipedum sangaicum</i>		●							
カノコガ	カノコガ	<i>Amata fortunei fortunei</i>	●							
ヤガ	リンゴケンモン	<i>Triaena intermedia</i>	●							
	ツメクサガ	<i>Heliothis maritima adaueta</i>	●							
	オオカブラヤガ	<i>Agrotis tokionis</i>	●							
	コキマエヤガ	<i>Albocosta triangularis</i>	●							
	オオシマカラスヨトウ	<i>Amphipyra monolitha surnia</i>	●							
	ネスジシラクモヨトウ	<i>Apamea hampsoni</i>	●							
	チャオビヨトウ	<i>Nipponyx segregata</i>	●							
	シロスジアオヨトウ	<i>Trachea atriplicis gnoma</i>	●							
	キノカワガ	<i>Blenina senex</i>	●							
	シマフコヤガ	<i>Corgatha nitens</i>	●							
	ヒメネジロコヤガ	<i>Maliattha signifera</i>	●							
	ウスシロフコヤガ	<i>Sugia stygia</i>	●							
	フタガリコヤガ	<i>Xanthodes transversus</i>	●							
	ウリキンウワバ	<i>Anadevidia peponis</i>	●							
	キクキンウワバ	<i>Thysanoplusia intermixta</i>	●							
	フクラスズメ	<i>Arcte coerula</i>	●							
	ナカジロシタバ	<i>Aedia leucomelas</i>		●						
	コシロシタバ	<i>Catocala actaea</i>	●							
	オオウンモンクチバ	<i>Mocis undata</i>	●							
	ナカグロクチバ	<i>Grammodes geometrica</i>			●					
	オオアカキリバ	<i>Anomis commoda</i>	●							
	リンゴツマキリアツバ	<i>Pangrapta obscurata</i>	●							
	ミツボシツマキリアツバ	<i>Pangrapta vasava</i>	●							
タイウンキンシアツバ	<i>Hypena trigonalis</i>	●								
ソトウスグロアツバ	<i>Hydrillodes lentalis</i>	●								
トラガ	トビイロトラガ	<i>Sarbanissa subflava</i>	●							
13	164	727	698	198	7	1	40	14		

資料－6 用語集

あ

亜種：多くの個体については同じ種と区別できるが、わずかな中間形によって連続するような場合に用いられる。

はっきりと分布地域が異なるような変種を亜種とすることもある。現在、植物分類学では亜種の定義は学者によって異なり、亜種を認めない立場もある。ssp. (subspecies) と記す。

逸出種：人間の飼育下または栽培下にある生物種が、逃げ出し野生化したもの。

陰樹：耐陰性が強く日陰や暗い林床でも生長できる樹木。

エコトーン：異なる環境が連続的に変化する場所を指し、移行帯または推移帯と訳される。海岸、川辺、湖岸などの水陸の境界や森林と草地の境界は典型的なエコトーンである。多様な生物の生息場所となっているため重要視されている。

エコロジカル・ネットワーク：個々の生息地が、生物の移動が可能であるようにつながれた状態にある、生息地のネットワークを意味する。

か

階層：群落を葉層の垂直的位置に着目して区分したもの。例えば森林では上から第一層目が高木のときは高木層といい、低くなるにつれて亜高木層、低木層、草本層、コケ層などという。

外来種：過去あるいは現在の自然分布域外に導入された種、亜種、それ以下の分類群であり、生存し、繁殖することができるあらゆる器官、配偶子、種子、卵、無性的繁殖子を含む（日本生態学会，2002）。

環境省レッドリスト：国内の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト。下記の環境省報道発表資料を参照した。

- ・平成 18 年 12 月 22 日 鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて
- ・平成 19 年 8 月 3 日 哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物 I 及び植物 II のレッドリストの見直しについて

間伐：利用する目的のある樹木の生長を促すために、樹木を間引く作業。

帰化種：意識的または無意識的に人為により移入された外来種が野生化した種。本報告書では、江戸時代末期から現代にかけて帰化したと考えられる新帰化種を対象としている。

区の鳥：東京 23 区内では、以下の 6 区で「区の鳥」を指定している。一方、「区の虫」を指定している区はない。
千代田区（はくちょう（コブハクチョウ））、品川区（ユリカモメ）、目黒区（シジュウカラ）、
大田区（ウグイス）、世田谷区（オナガ）、板橋区（ハクセキレイ）

群集：植物社会学的手法で、ある群落が、そこに強く結びつく特定の種群を持つことによって他から独立した単位と認められる場合、これを群集として定義づける。

群度：一定面積内の植物群落において、ある種の植物がかたまっ生活するか単独で生活するかを示す尺度。

群落：植生に単位性を持たせて呼ぶときに使う言葉。外から見た様子（相観）や種類組成などを単位の基準にする。

現存植生：現時点で、そこに実在している植生のこと。

高茎：茎の高さが高いこと。

国内外来種：国内起源で本来の自生地でない場所に、他の地域から人為的に意識的または無意識的に持ち込まれた種。

コドラート：方形区ともいう。植生などを調査するとき使用する調査区。基本的な形は正方形であるが、地形や群落の広がりに応じて長方形、円形、不定形が用いられる。

さ

在来種：その土地に、古来より自生している種。

里山：薪や炭を生産する薪炭林、堆肥をつくるための落葉落枝、草などを集めるための農用林など集落に隣接した人が生活のために利用する林のこと。周辺の集落、農地、ため池、採草地なども含む場合もある。

自生種：人の保護や影響を受けずに繁殖している種。野生種ともいう。

自然植生：過去から現在に至るまで、人間活動の影響を受けていない植生。

下刈り：利用する目的のある樹木の生長を促すために、生長を妨げる草本や低木を刈り払う作業。下草刈りともいうが、農林業では下刈りという。

湿生植物：湿地や湿原など湿った環境に生育する植物。

社寺林：神社や寺院の境内に、宗教的な意味から残されている林。

樹冠：樹木の枝や葉が茂っている部分のこと。なお森林では、枝葉の茂っている上部の層を林冠という。

常緑広葉樹林：一年中葉をつけた広葉樹で構成される樹林。

植栽種：植栽された種。

植生：ある場所に生育する植物の集団。

食草：食植性の昆虫が食べる植物。例えば、モンシロチョウはアブラナ科植物を食べるなど、特定の食草を持つ種がいる。

植被率：調査区の面積に対する、その調査区に生育する植物の垂直投影面積の割合。百分率で表す。被度のように種ごとでなく、階層ごとに表す。

植物社会学：植物群落または植生を研究する植物生態学の一分野。

植物相：ある地域に生育している植物の全種類。フロラ (flora) ともいう。

植分：種組成や群落構造がほぼ均質な群落のまとまりのことを指す。

水生植物：水中または水辺に生育し、植物体のすべてまたは大部分が水中にある大型の高等植物。湿地や湿原などに生育する湿生植物を含めることもある。

生物多様性地域戦略：英語の“National Strategies and Action Plans (NBSAPs)”を日本語訳したもの。

Strategy は、(ある目的・成果を遂げるための) 計画・方法・方策・戦略を意味し、個別の施策／実行計画より広範で大局的な計画を表す言葉。NBSAPs は、Strategy (広範で大局的な計画) と Action Plans (実行計画) を組み合わせたもの。2011年7月現在、13の県、8の市町村で作成されており、現在作成を検討しているところも増えてきている。これは、2010年10月に愛知県名古屋市中で開催された生物多様性条約第10回締約国会議が契機と言われている。

ゼフィルス：zephyrus。シジミチョウ科ミドリシジミ亜科ミドリシジミ族に含まれるチョウ類の総称。日本には25種が生息する。

遷移：ある群落は、他の群落に移り変わっていく過程。

潜在自然植生：人為的干渉が排除されたとき、現在の立地に成立すると推定される遷移の最も進んだ段階の植生。

絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律：

国内外の絶滅のおそれのある野生動植物を保護することにより、自然環境を保全し、現在及び将来の国民の健康で文化的な生活の確保に寄与することを目的とした法律。捕獲、譲渡等の規制、及び生息地等保護のための規制から保護増殖事業の実施まで多岐にわたる内容を含む。

ソデ群落：マント群落を縁取るように帯状に茂る草本からなる群落。マント群落とともに、林内への風の吹き込み、日光の直射、土壌の流失などを防ぐ働きがある。

た

代償植生：自然植生に人間の様々な影響が加わり、自然植生の代償として成立するようになった植生。

旅鳥：日本より北で繁殖し、日本より南で越冬する鳥。

暖温帯：温帯を二分したときに、亜熱帯に近い比較的暖かな気候帯のこと。もう一方は冷温帯という。

地表徘徊性昆虫類：オサムシ類やゴムシ類、アリ類などの主に地表を徘徊して生活する昆虫のこと。

抽水植物：根が水底に固着し、植物体の一部が水面を突き抜けて空気中に出る生活形をとる植物。

低茎：茎の高さが低いこと。

天然記念物：記念物とは文化財の種類のひとつで、動物、植物、地質・鉱物などの自然物に関する記念物を天然記念物という。

東京都レッドリスト：東京都内の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト。下記の資料を参照した。

「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～2010年版」東京都環境保全局。

動物相：ある地域に分布している動物の全種類。ファウナ（fauna）ともいう。

特定外来生物：外来生物（海外起源の外来種）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から指定される。生きているものに限られ、個体だけではなく、卵、種子、器官なども含まれる。

特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律：

特定外来生物の飼養、輸入等について必要な規制を行うとともに、野外等に存する特定外来生物の防除を行うこと等により、特定外来生物による生態系、人の生命若しくは身体又は農林水産業に係る被害を防止することを目的とした法律。

な

夏鳥：春に南の地域から渡って来て繁殖し、秋には南の地域に飛去する鳥で、日本には春から秋までいる。

二次林：自然林の伐採後や、風水害・山火事による破壊後に再生した森林。

は

パッチ状：斑状。まとまりのあるものが点在している状態。

バットディテクター：コウモリの超音波を可聴音（人間に聞こえる範囲の音）に変換する機械。

被度：調査区の面積に対する、その調査区に生育する植物の垂直投影面積の割合。百分率や被度階級などで表す。

品種：花の色の違いなどごく一部のみの違いがある個体を品種という。普通は独自の分布域をもたず、同じ種の他個体の中に混生していることもある。f. (forma) と記す。農業や園芸利用のためにつくられた栽培品種は、学名の後に ‘ ’（一重引用符）で囲って示す。

フィールドサイン法：調査対象地域を可能な限り詳細に踏査してフィールドサイン（糞や足跡、食痕、巣、爪痕、クマダナ、モグラ塚等の生息痕跡）を発見し、生息する動物種を確認する方法。

腐植：土壌中に含まれる有機物のこと。狭義には、植物遺体の分解過程で生ずるフルボ酸、腐植酸、フミン酸などからなる複雑な組成を持つ黒褐色の物質で土壌を肥沃にするといわれている。

腐生植物：光合成による有機物合成で自活することができず、菌類と共生することで有機物を得ている植物。菌類と共生して腐植などから栄養を得ていると考えられていたため、腐生とされたが、実際には腐植を分解する菌類以外の菌との共生も見られる。菌従属栄養植物。

冬鳥：春から夏にかけて北の地域で繁殖して、秋に日本に渡来して越冬し、春には北へ帰る鳥

浮葉植物：根が水底に固着し、水面に浮く葉（浮葉）を展開する生活形をとる植物。

文化財保護法：文化財の保存・活用と国民の文化的向上、世界文化の進歩に貢献することを目的とする法律。

ベイトトラップ：ベйтиッドピットホールトラップとも言う。糖蜜や腐肉等の誘引餌（ベイト）を入れたトラップ（プラスチックコップ等）を、口が地表面と同じになるように埋設して、落ち込んだ昆虫を採集する方法。

変種：種の基準標本との形態的差異があり、地理的に分布の異なる場合変種とする。植物で用い、種名または亜種名の次に var. (varietas) と記す。

ま

埋土種子：土中に埋もれている生きた種子のこと。

マント群落：林の周囲や斜面を覆うように生育している、つる植物や低木を主とした群落。ソデ群落とともに、林内への風の吹き込み、日光の直射、土壌の流失などを防ぐ働きがある。

実生：種子から発芽して生じた植物。

迷鳥：台風やほかの鳥の群れに入る等、何らかの事故で、本来の渡りのコースや分布域からはずれて渡来した鳥。

や

優占：ある群落で特に多く、その群落を量的に代表していること。

陽樹：よく日が当たる場所でないと生長できない樹木。

要注意外来生物：外来生物法に基づく飼養等の規制が課されるものではないが、これらの外来生物が生態系に悪影響を及ぼしうることから、利用に関わる個人や事業者等に対し、適切な取扱いについて理解と協力をお願いするもの。

ら

ラインセンサス法：あらかじめ設定しておいたセンサスルート上を歩いて、一定の範囲内に出現する鳥類を姿や鳴き声により識別して、種別個体数をカウントする方法。

落葉広葉樹林：夏期には広葉をつけ、冬には落葉する樹林のこと。夏緑広葉樹林。

留鳥：ある地域で1年中見られる鳥。

林床：森林内の地表面。

レッドデータブック：絶滅のおそれのある野生生物の種についてそれらの生息状況等を取りまとめたもの。国や都道府県でまとめられたものがある。

レッドリスト：絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト。国や都道府県でまとめられたものがある。

資料一 参考・引用文献等

【練馬区の自然の概要】

環境省：第6回・第7回自然環境保全基礎調査 植生調査情報提供ホームページ

<http://www.vegetation.jp/>

気象庁：気象統計情報. 過去の気象統計検索.

<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>

練馬区 (2007)：練馬区みどりの実態調査報告書，練馬区.

練馬区 (2008)：練馬区水辺ふれあい計画 2001-2010 (改定計画)，練馬区.

練馬区 (2011)：練馬区勢概要 平成23年度版 (2011年版)，練馬区.

練馬区：指定・登録文化財.

<http://www.city.nerima.tokyo.jp/annai/rekishiwoshiru/rekishibunkazai/bunkazai/>

【報告書全般】

環境省：外来生物法. <http://www.env.go.jp/nature/intro/index.html>

環境省：生物多様性情報システム. 絶滅危惧種情報. http://www.biodic.go.jp/rdb/rdb_f.html

環境省：種の保存法の解説. <http://www.env.go.jp/nature/yasei/hozonho/index.html>

環境省報道発表資料 (2006)：爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて.

環境省報道発表資料 (2007)：哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物 I 及び植物 II のレッドリストの見直しについて.

環境庁自然保護局野生生物課 (1993)：日本産野生生物目録 本邦産野生動植物の種の現状 脊椎動物編，財団法人自然環境研究センター.

環境庁自然保護局野生生物課 (1993)：日本産野生生物目録 本邦産野生動植物の種の現状 無脊椎動物編 I，財団法人自然環境研究センター.

環境庁自然保護局野生生物課 (1995)：日本産野生生物目録 本邦産野生動植物の種の現状 無脊椎動物編 II，財団法人自然環境研究センター.

東京都北区 (2008)：北区の環境，東京都北区.

自然環境アセスメント研究会 編著 (1995)：自然環境アセスメント技術マニュアル，財団法人自然環境研究センター.

杉並区環境清掃部環境課 (2008)：杉並区自然環境調査報告書 (第5次)，杉並区.

東京都環境局 (2010)：東京都の保護上重要な野生生物種 (本土部) ~東京都レッドリスト~ 2010年版.

日本生態学会編 (2002)：外来種ハンドブック，地人書館.

港区 (2010)：港区生物現況調査 (第2次) 報告書，港区.

【植物・植生】

石川茂雄 (1994)：原色日本植物種子写真図鑑，石川茂雄図鑑刊行委員会.

植村修二ほか (2010)：日本帰化植物写真図鑑 第2巻，全国農村教育協会.

岡山大学資源植物科学研究所 野生植物グループ：日本の帰化植物一覧表.

http://www.rib.okayama-u.ac.jp/wild/kika_table.htm

奥富清ほか (1987)：東京都の植生，東京都.

- 長田武正 (1976) : 原色日本帰化植物図鑑, 保育社.
- 長田武正 (1989) : 日本イネ科植物図譜, 平凡社.
- 角野康郎 (1994) : 日本水草図鑑, 文一総合出版.
- 神奈川県植物誌調査会編 (2001) : 神奈川県植物誌 2001, 神奈川県立生命の星・地球博物館.
- 環境庁自然保護局自然環境調査室編 (1988) : 植物目録 1987, 大蔵省印刷局.
- 北村四郎ほか (1957) : 原色日本植物図鑑 草本編 I, 保育社.
- 北村四郎ほか (1964) : 原色日本植物図鑑 草本編 III, 保育社.
- 北村四郎・村田源 (1961) : 原色日本植物図鑑 草本編 II, 保育社.
- 北村四郎・村田源 (1971) : 原色日本植物図鑑, 木本編 I, 保育社.
- 北村四郎・村田源 (1979) : 原色日本植物図鑑, 木本編 II, 保育社.
- 倉田悟・中池敏之 (1979~1997) : 日本のシダ植物図鑑 1~8, 東京大学出版会.
- 財団法人千葉県史料研究財団 (2003) : 千葉県の自然誌 別編 4 千葉県植物誌, 千葉県.
- 清水矩宏ほか (2001) : 日本帰化植物写真図鑑 第 1 巻, 全国農村教育協会.
- 鈴木基夫・横井政人ほか (1998) : 山溪カラー名鑑 園芸植物, 山と溪谷社.
- 高林成年・尾崎章ほか (1991) : 山溪カラー名鑑 観葉植物, 山と溪谷社.
- 東京都西部公園緑地事務所・株式会社愛植物設計事務所 (1988) : 石神井公園三宝寺池周辺
自然環境調査報告書, 東京都.
- 東京都東部公園緑地事務所・株式会社愛植物設計事務所 (2009) : 石神井公園三宝寺池植物
群落復元追跡調査報告書, 東京都.
- 東京都東部公園緑地事務所・株式会社愛植物設計事務所 (2010) : 石神井公園三宝寺池植物
群落復元追跡調査報告書, 東京都.
- 東京都東部公園緑地事務所・株式会社ピー・シー・イー (2011) : 石神井公園三宝寺池植物
群落復元追跡調査報告書, 東京都.
- 中西哲ほか (1983) : 日本の植生図鑑 < I > 森林, 保育社.
- 福嶋司 (2005) : 植生管理学, 朝倉書店.
- 宮脇昭ほか (1967) : 原色現代科学大事典 3 植物, 学研.
- 茂木透・石井英美ほか (2000~2001) : 山溪ハンディ図鑑 3~5 樹に咲く花, 山と溪谷社.
- 矢野悟道ほか (1983) : 日本の植生図鑑 < II > 人里・草原, 保育社.
- 吉川純幹 (1957) : 日本スゲ属植物図譜 第壹巻, 北陸の植物の会.
- 吉川純幹 (1958) : 日本スゲ属植物図譜 第貳巻, 北陸の植物の会.
- 吉川純幹 (1960) : 日本スゲ属植物図譜 第参巻, 北陸の植物の会.

【昆虫類】

- 友国雅章監修, 安永智秀ほか (1993) : 日本原色カメムシ図鑑, 全国農村教育協会.
- 日本直翅類学会編 (2006) : バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑, 北海道大学出版会.
- 西多摩昆虫同好会編 (1991) : 東京都のチョウ, けやき出版.
- 養父志乃夫 (1991) : 生きもののすむ環境づくり トンボ編, 環境緑化新聞社.

【クモ類】

- 新海栄一 (1998) : クモ類による環境の評価, KISHIDAIA, No.74, p.33-100.
- 杉並区, 須田孫七監修 (2006) : すぎなみの注目動植物 ~レッドデータブックの実現にむけて~, 杉並区環境清掃部環境課.

荏司康治郎 (2010) : 東京都石神井公園のクモ, KISHIDAIA, No.97, p.77-83.

谷川明男 (2012) : 日本産クモ類目録 ver. 2012R1.

<http://www.asahi-net.or.jp/~dp7a-tnkw/japan.pdf>

【鳥類】

植田睦之 (2005) : 住宅地で繁殖するツミ～都市近郊での分布の変化～, BIRDER, 第 19 巻, 第 6 号, p.26-29.

遠藤孝一・平野敏明・植田睦之 (1991) : 日本におけるツミの繁殖状況, Strix10, p.171-179.

高野伸二 (1990) : フィールドガイド日本の野鳥 増補版, 日本野鳥の会.

日本鳥学会 (2000) : 日本鳥類目録 改訂第 6 版, 日本鳥学会.

日本野鳥の会 (1978) : 鳥類繁殖地区調査, 環境庁.

【哺乳類】

熊谷さとし (2001) : 哺乳類観察ブック, 人類文化社.

【爬虫類】

片岡友美・佐藤方博・鈴木貫司 (2007) : 光が丘公園バードサンクチュアリにおける淡水性カメ類の生息状況, 生態工房年次報告書 2003, 59-68.

日本爬虫両棲類学会 標準和名選定委員会 (2003) : 日本産爬虫両生類の標準和名 (2002.10.6.), 爬虫両棲類学会報, 2003 (1) 55-60, 日本爬虫両棲類学会.

【両生類】

日本爬虫両棲類学会 標準和名選定委員会 (2003) : 日本産爬虫両生類の標準和名 (2002.10.6.), 爬虫両棲類学会報, 2003 (1) 55-60, 日本爬虫両棲類学会.

【陸産貝類】

東正雄 (1982) : 原色日本陸産貝類図鑑, 保育社.

上島励・長谷川和範・齋藤寛 (2000) : 皇居の陸産および淡水産貝類, 国立科学博物館専報, No. 35, 197-210, 国立科学博物館.

練馬区自然環境調査 報告書 （平成 24 年 3 月）

編集・発行：練馬区 環境まちづくり事業本部 環境部 みどり推進課

〒176-8501 練馬区豊玉北 6-12-1

電話：03-3993-1111（代表）

調査・協力：株式会社 生態計画研究所